

# 地域文化研究総論

## Introduction to the Studies of Regional Culture

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 担当教員 ○中川正、文化学科教員

**授業の概要** 文化学科における地域文化研究のあり方と、日本地域、アジア・オセアニア地域、ヨーロッパ・地中海地域、アメリカ地域の概要を学ぶ。

**学習の目的** 文化学科における地域文化研究とはどのようなものかを理解する。そして、日本地域、アジア・オセアニア地域、ヨーロッパ・地中海地域、アメリカ地域に関する概括的な知識を得る。

**学習の到達目標** 日本地域、アジア・オセアニア地域、ヨーロッパ・地中海地域、アメリカ地域に関する概括的な知識を得て、それをふまえて、自分が専門とする地域を選択す

る。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広い教養, 課題探求力

**成績評価方法と基準** 各地域から出題される試験の合計点(出席が前提となる)

**オフィスアワー** 開講時に連絡する

**その他** 1年生の皆さんが自分の所属する地域を選択するに当たって、一番大きな判断材料となるような講義です。また、地域分けの調整が必要な場合には、この授業の成績が判断基準の一つになります。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回：文化学科における地域文化研究の概要  
第2～4回：日本地域の地理・歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、および日本地域の概要  
第5～7回：アジア・オセアニア地域の地理・歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、およびアジア・オセアニア地域の概要  
第8～10回：ヨーロッパ・地中海地域の地理・

歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、およびヨーロッパ・地中海地域の概要  
第11～13回：アメリカ地域の地理・歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、およびアメリカ地域の概要  
第14回：美術史、科学史、図書館・情報学の概要。地域希望届けの配布  
第15回：総括、地域分けについての説明

# 文化学セミナー（言語科学）

## Seminar in Cultural Study (Linguistic Science)

学期 後期 開講時間 火1,2 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○服部範子（開講責任者）、綾野誠紀、澤田治、吉田悦子、井口靖

**授業の概要** 本セミナーでは、あまりにも身近過ぎる我々のことばが、実は不思議に満ち溢れていることについて、言語研究の諸分野の研究に基づいて紹介します。本セミナーを受講することにより、ことばの研究には、どのような課題があり、また、どのように研究を行うのか、その一端を知ることができま

す。幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** 【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「言語科学概論A」及び「言語科学概論B」の単位を取得していることが望ましい。

**学習の目的** ことばの科学的研究にはどのような課題があり、その課題にどのような方法で取り組んでいるのかに関して、基本的な知識を身につける。

**教科書** 各担当教員が準備する資料を用います。

**成績評価方法と基準** 5名の教員がそれぞれの授業の最後に小テストを実施するか、レポート課題を出します。各20点X5=100点で、60点以上を合格とします。

**学習の到達目標** ことばの科学的研究における課題と研究方法の基本を理解し、自ら課題を見つけ、その課題に取り組む方法を考えることができるようになる。

**オフィスアワー** 各担当者のオフィスアワーは授業時に指示があります。セミナー全体に関する質問は、代表（服部）が受け付けます（水曜10：30－11：30）。

**本学教育目標との関連** 感性、主体的学習力、

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回：導入、音声学における研究課題と研究方法1[服部範子]  
第2回：音声学における研究課題と研究方法2  
第3回：音声学における研究課題と研究方法3  
第4回：統語論における研究課題と研究方法1[綾野誠紀]  
第5回：統語論における研究課題と研究方法2  
第6回：統語論における研究課題と研究方法3  
第7回：意味論・語用論における研究課題と研究方法1[澤田治]  
第8回：意味論・語用論における研究課題と研究方法2

第9回：意味論・語用論における研究課題と研究方法3  
第10回：意味論・語用論における研究課題と研究方法4[吉田悦子]  
第11回：意味論・語用論における研究課題と研究方法5  
第12回：意味論・語用論における研究課題と研究方法6  
第13回：言語とコミュニケーションに関する研究課題と研究方法[井口靖]  
第14回：言語と情報に関する研究課題と研究方法  
第15回：まとめ

# 文化学セミナー（欧米文学）

## Seminar in Cultural Study (European & American Literature)

**学期** 後期 **開講時間** 月 9, 10 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2

**年次** **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 菅利恵、○野田明、山本寛、吉野由起

**授業の概要** イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスの文学を中心に題材を取り、欧米文学並びに文学研究方法の基礎について、多面的に修得する。

**学習の目的** 欧米文学・文化研究における概念や理論を理解し、各国の文化的・社会的背景を学習することによって、自分の研究を自立的に進めることができる。

**学習の到達目標** 欧米文学・文化研究における概念や理論を理解し、各国の文化的・社会的背景を学習することによって、自分の研究を自立的に進めることができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力,

討論・対話力, 実践外国語力

**受講要件** このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文学概論A～D」の中から最低2単位を取得していることが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** 「文学概論A～D」

**発展科目** それぞれの文学系の科目

**教科書** 初回の授業時に指示します。

**成績評価方法と基準** 授業への取組み40%、レポート60%

**オフィスアワー** 月曜15:00～16:00 人文学部 野田研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

〈欧米文学を精読する〉

文学テキストは通常の文章とは異なるという前提で、作品の細部を丁寧に読んだらどだけのが分かるかを実感、体感します。必要に応じて文学理論も参照しつつ、以下の作品について精読を試みます。

第1回～第4回：イントロダクション、ヘミングウェイの短篇：「インディアン・キャン

プ」「10人のインディアン」「父と子」（野田）

第5回～第8回：ワーズワースの詩（吉野）

第9回～第12回：サン・テグジュペリ『星の王子さま』（山本）

第13回～第15回：カフカの短篇：「掟の門」、「断食芸人」、「学会への報告」（菅）

# 文化学セミナー（中国語学・中国文学）

Seminar in Cultural Study (Chinese Language & Chinese Literature)

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 講義

担当教員 湯浅陽子（人文学部）、○福田和展（人文学部）、花尻奈緒子（人文学部特任講師）

**授業の概要** 中国の古典文学、中国の現代文学、東南アジアの華人文学、中国の言語・文字、東アジアの言語・文字について、3人の担当教員がリレー方式で講義する。

**学習の目的** 今後、中国や東アジア、東南アジアの言語や文学、またはその背景にある歴史や社会について専門的に学んでゆくための基礎知識を養う。

**学習の到達目標** 中国やアジアの文学・言語にまつわる様々な問題について認識し、考察の手段を身につける。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、「文学概論I～L」及び「言語科学概論C～D」の中から2単位以上を取得していることが望ましい。また、「中国の文学」或いは「中国の言語」等の集中講義の履修や中国語の学習が求められる。

**発展科目** 中国語の文学、中国の言語、中国語学演習、中国文学演習

**教科書** 授業で指示

**成績評価方法と基準** 出席回数、レポートで判断する。

**オフィスアワー** 月～金の授業、会議時間以外。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

花尻先生担当分

1. 中国近現代文学史と文学流派
2. 「侠」文化と文学
3. 中国語圏の映画 (1)
4. 中国語圏の映画 (2)
5. 台湾の文学

湯浅先生担当分

中国の古典詩の持つ性格について、その制作される場所、あるいは主要なテーマを切り口に考える。

- ①詩の作られる場 (1) 宴

- ②詩の作られる場 (2) 日常生活

- ③詩のテーマ (1) 自然物

- ④詩のテーマ (2) 時間

- ⑤詩のテーマ (3) 社会

福田先生担当分

- ①中国基礎知識

- ②中国の言語

- ③漢字と漢字の文化圏

- ④漢字文化と東アジアの文字文化1 (韓国、台湾)

- ⑤漢字文化と東アジアの文字文化2 (ベトナム、日本)

# 文化学セミナー（西洋史・東洋史・美術史）

Seminar in Cultural Study (Western History, Eastern History, Art History)

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村耕一、森脇由美子、酒井恵子、○藤田伸也（いずれも人文学部）

## 授業の概要

文化学科学学生が2年次後期に履修する文化学セミナーの一つ。

西洋史・東洋史・美術史の各分野において専門研究が始められるように、各分野の基礎知識や研究方法を学ぶ研究入門セミナー。

**学習の目的** 歴史学の一分野である西洋史学・東洋史学・美術史学のそれぞれにおける学問的基礎知識を修得し、研究方法を理解する。

**学習の到達目標** 西洋史・東洋史・美術史の各分野において、基礎知識を得て研究方法を学んだことにより、専門研究が始められるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション,

主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目（基礎）「歴史学概論A～F」から2単位と、文化学必修科目（発展）「比較史学」、「美術史A～D」、「美術理論A～B」から2単位程度を取得していることが望ましい。

**教科書** 適宜プリントを配布します。

**成績評価方法と基準** 各教員毎の評価を総合します。

**オフィスアワー** 各教員の担当授業科目シラバスで確認して下さい。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

4名の教員（西洋史2、東洋史1、美術史1）によるセミナーです。

初回に取りまとめ役の藤田がセミナー全体の説明を行い、次いで担当科目の美術史について話をします。その後は西洋史、東洋史の順です。

第1回 藤田 (1) セミナー全体の説明（進め方、評価方法）／美術史1 美術史とは

第2回 藤田 (2) 美術史2 絵の見方

第3回 野村 (1) 西洋史（ヨーロッパ史）1 × タヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第4回 野村 (2) 西洋史（ヨーロッパ史）2 × タヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第5回 野村 (3) 西洋史（ヨーロッパ史）3 ×

タヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第6回 野村 (4) 西洋史（ヨーロッパ史）4 × タヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第7回 森脇 (1) 西洋史（アメリカ史）1

第8回 森脇 (2) 西洋史（アメリカ史）2

第9回 森脇 (3) 西洋史（アメリカ史）3

第10回 森脇 (4) 西洋史（アメリカ史）4

第11回 酒井 (1) 東洋史1

第12回 酒井 (2) 東洋史2

第13回 酒井 (3) 東洋史3

第14回 酒井 (4) 東洋史4

第15回 藤田 (3) 美術史3／全体のまとめ

※授業の順番等が変更される場合もあります。初回の授業時に説明します。

# 文化学セミナー（東洋哲学・東洋思想）

## Seminar in Cultural Study (Oriental Philosophy & Oriental Thought)

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 演習

担当教員 〇片倉 望、遠山 敦、久間泰賢（人文学部文化学科）

**授業の概要** テキストの講読に基づいて、東洋の哲学・思想における基礎的な概念や考え方を理解するとともに、研究の進め方についてその基本を身につける。

**学習の目的** 東洋の思想とは何か、という問いに答えられるようになる。

**学習の到達目標** 東洋の学問を進めていく方法がわかるようになる。

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

**予め履修が望ましい科目** このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目「哲学概論A～B、倫理学概論A～D、比較思想、生命倫理論A～B」の中から4単位程度を取得することが望ましい。

**教科書** 適宜、プリントにて配布。

**成績評価方法と基準** 受講態度・質問への受け答え：50% レポート50%

**オフィスアワー** 講義終了後1時間程度

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

##### ◆中国思想研究法入門

第1回：中国古代の「自然」とは何か

第2回：停滞史観の嘘

第3回：翻訳語が作った幻想としての中国

第4回：追体験の歴史と思想

第5回：空間的歴史軸からみた思想

◆日本思想研究法入門～『歎異抄』を手がかりに～第6回：浄土教に関する基本的理解

第7回：『歎異抄』を読む①

第8回：『歎異抄』を読む②

第9回：『歎異抄』を読む③

第10回：『歎異抄』を読む④

##### ◆インド思想研究法入門

第11回：導入：インド哲学・仏教学の方法論（講義）

第12回：『般若心経』を読む（1）：仏教の基本概念（文献講読）

第13回：『般若心経』を読む（2）：「空」思想とは何か（文献講読）

第14回：『般若心経』を読む（3）：「悟り」は実在するのか（文献講読）

第15回：総括：仏教における言語と真理（討議を含む）

# 文化学セミナー（西洋哲学・西洋思想）

Seminar in Cultural Study (European Philosophy & European Thought)

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤康隆 (人文学部)

○田中綾乃 (人文学部)

薄井尚樹 (人文学部)

**授業の概要** 哲学で扱われる「幸福とは何か?」、「心とは何か?」、「自由とは何か?」、「美とは何か?」などのトピックは、そのままでは抽象的で、なかなか理解することが難しい。そんなときに使われるのが「思考実験 thought experiment」と呼ばれる方法である。思考実験では、ある状況を想像し、そこでどんな事態が生じるかを考えることで、理解しづらいトピックの実質を明らかにすることを目的とする。本授業では、さまざまな思考実験を考察しながら、哲学の基本問題についての理解を深める。

## 学習の目的

- ・西洋哲学の基礎知識を獲得する。
- ・論理的思考力、批判的思考力を向上させる。

## 学習の到達目標

- ・思考実験に関する基礎知識を得る。
- ・哲学的な思考法を身につける。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

各回の発表者が作成したレジュメをもとにして、参加者全員で討論を行う。詳細は初回の授業時に説明する。

第1回：イントロダクション

第2回：思考実験の概説

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** セミナーであるため、受講者同士の自発的な対話、討論が求められる。

**予め履修が望ましい科目** このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目「哲学概論A~B、倫理学概論A~D、比較思想、生命倫理論A~B」の中から4単位程度を取得することが望ましい。

**教科書** テキストは初回時に指示する。

**成績評価方法と基準** レジュメの質と授業中の積極的発言によって評価する。

**オフィスアワー** 水曜日12:00~13:00 思想資料室 (人文学部校舎三階)

第3回~第6回：倫理学における思考実験

第7回~第10回：心の哲学における思考実験

第11回~第14回：ひとのありかたに関わる思考実験

第15回 まとめ

# 文化学セミナー（文化資源学）

## Seminar in Cultural Study (Cultural-resources Study)

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2年次 授業の方法 講義

担当教員 ○小澤毅、山田雄司、塚本明、川口敦子、吉丸雄哉、坂堅太、村口進介

**授業の概要** 日本文化を通時的に考察する能力と、古文書・出土文字資料・金石文・古典籍・絵画資料などの文化的資料を扱える能力とを修得する。語学・文学と史学との垣根を越えて、さまざまな体裁の資料を横断し、それらを吟味する基礎的な力を養う。

**学習の目的** 今後学んでいくこととなる考古学・日本史・日本文学・日本語学の基本的技術を習得する。

**学習の到達目標** 考古学・日本史・日本文学・日本語学の資料の扱い方について習得する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術

**予め履修が望ましい科目** このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文学概論E～H」の中から最低限2単位、または「歴史学概論A～B、考古学・文化財学概論A～B」の中から最低限2単位を取得していることが望ましい。

**成績評価方法と基準** 期末試験100%。欠席4回以上は不可。

**オフィスアワー** 各教員に連絡のこと。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2・3回 小澤毅 考古学

第4・5回 山田雄司 日本中世史

第6・7回 塚本明 日本近世史

第8・9回 村口進介 中古文学

第10・11回 吉丸雄哉 近世文学

第12・13回 坂堅太 近代文学

第14・15回 川口敦子 日本語学



# 文化学セミナー（社会学・図書館情報学）

Seminar in Cultural Study (Sociology, Library and Information Science)

**学期** 後期 **開講時間** 月 9, 10 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2  
年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 江成幸、永谷健、○三根 慎二

**授業の概要** 社会学、社会運動論、国際社会学、図書館・情報学などの分野に関わるセミナーです。各分野でこれから専門的な研究が進められるように、基礎知識や研究手法について理解を深めます。3人の担当者がリレー方式で授業を行います。

**学習の目的** 社会学、社会運動論、国際社会学、図書館・情報学などの分野において、各自が専門的な研究に取り組むことができる。

**学習の到達目標** それぞれの分野が用いる基礎概念を習得するとともに、研究方法について理解を深める。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

ン力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「社会学概論A～B、比較社会学論、学術情報論A～B」の中から最低限4単位を取得していることが望ましい。またこのセミナーと並行して、社会学概論B、学術情報論Bを履修することが望ましい（ただし未履修の場合）。

**教科書** 各担当者が授業のなかで指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への取り組み、および、各担当者が課す課題をもとに総合的に評価する。詳細はガイダンスで告知する。

**オフィスアワー** 詳細はガイダンスで指示する。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 江成：国際社会学から地域を見る1

第3回 江成：国際社会学から地域を見る2

第4回 江成：国際社会学から地域を見る3

第5回 江成：国際社会学から地域を見る4

第6回 永谷：格差社会へのアプローチ1（近現代の日本社会に生起するいくつかの社会問題について解説）

第7回 永谷：格差社会へのアプローチ2（質的な研究方法と量的な研究方法について解説）

第8回 永谷：若年就労・家族形成に関するグループワーク

第9回 永谷：グループワークの成果報告

第10回 予備日

第11回 三根：図書館・情報学研究の代表的領域と研究アプローチ、グループワークの説明

第12回 三根：グループ発表1

第13回 三根：グループ発表2

第14回 三根：グループ発表3

第15回 試験

# 文化学セミナー（文化人類学・文化社会学）

## Seminar in Cultural Study (Cultural Anthropology and Cultural Sociology)

**学期** 後期 **開講時間** 月 9, 10 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2

**年次** **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** ○村上直樹（人文学部），立川陽仁（人文学部），深田淳太郎（人文学部）

**授業の概要** 世界各地域の民族と文化を、文化人類学及び文化社会学の視点から研究していくために必要な諸概念、諸理論を学ぶためのセミナーである。

**学習の目的** 文化人類学及び文化社会学における諸概念、諸理論を理解し、それらを用いて自分が選択したテーマに関する研究を進めることができる。

**学習の到達目標** 文化人類学及び文化社会学における諸概念、諸理論を理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力、論理的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文化人類学概論A～B、社会

学概論A～B、比較文化論、比較社会論」の中から最低限4単位を取得していることが望ましい。また、このセミナーと並行して、「文化人類学概論B、社会学概論B、比較文化論」の中から2単位を履修することが望ましい（ただし、未履修の場合）。

**教科書** 第1回目の授業の時に報告用の文献を指示する。

**成績評価方法と基準** 平常点、報告、レポートなど

**オフィスアワー** 火曜日の午後（くわしい時間帯については、開講時に指示する）

**その他** 第1回目の授業の時に、報告用の文献を指示し、各学生の報告日等を決めます。必ず第1回目から受講すること。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回：イントロダクション、セミナーの進め方の説明、報告分担の決定

第2～5回：文化変容、文化接触

第6～10回：異文化表象、観光、伝統の創造

第11～14回：行為の理解、他者理解、エスノメソドロジー

第15回：まとめ

\*これらのトピックにおける諸概念、諸理論を、各担当教員の講義と学生による報告を通して学んでいく。

\*なお、トピックについては、変更の可能性もある。

# 文化学セミナー（地理学）

Seminar in Cultural Study (Geography)

**学期** 後期 **開講時間** 火 1, 2 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle  
**担当教員** ○中川正・安食和宏・朴恵淑・森正人・北川眞也

**授業の概要** 文化と環境の地理学的アプローチを学ぶ。

**学習の目的** この授業を通して、学生は、文化と環境に対して、地理学的にアプローチできるようにする。

**学習の到達目標** 授業が終了した時点で、学生は、文化・社会現象に、地域的な視点、環境的な視点、景観的な視点から見る習慣を獲得することができる。また、それらの視点からパターンを発見し、要因を説明し、意味を解釈し、応用する習慣を獲得することができる。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術、課題探求力

**予め履修が望ましい科目** 2年次前期末まで

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

テーマは以下のとおりである。

第1回～3回 地理学の方法（中川）

第4回～6回 地理的観察法（安食）

第7回～9回 自然環境分析法（朴）

に、「地理学概論、環境学概論、地域環境論、文化環境論、自然環境論」の中から最低限2単位を取得していることが望ましい。

**発展科目** 日本の風土と地誌A～B、アジアオセアニアの風土と地誌A～D、ヨーロッパの風土と地誌A～B、アメリカの風土と地誌A～B

**教科書** 必要な資料は授業で配布する。

**成績評価方法と基準** 5つのテーマごとに課題が出され、その課題の総合点が、評価となる。地理学方法論20%、観察法20%、自然環境分析20%、地図の利用法20%、文字データ分析20%

**オフィスアワー** 毎週木16:30～17:30 場所 教養教育2号館307研究室

**その他** 課題の提出は出席を前提とする。

第10回～12回 地図分析法（森）

第13回～15回 文字データ分析法（北川）

それぞれの回で、講義、ワークショップ、授業内課題の提出を行う。

2012年度以降入学生用(文化)**言語科学概論A** Introduction to Language Science A  
2011年度以前入学生用(文化)**言語科学概論A** Introduction to Language Science A

**学期** 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 服部範子 (開講責任者)、綾野誠紀、

**授業の概要** 言語学の基礎を学ぶ。

**学習の目的** この講義では、言語学(ことばの「科学」)の基礎を学びます。言語学関連の講義・演習科目を受講するにあたって必要不可欠な基礎知識を、講義と練習問題を通して身につけることを目指します。

**学習の到達目標** 言語学関連の講義・演習科目を受講するために必要不可欠な基礎知識を身につけます。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

**発展科目** 英語学演習、言語科学演習

**教科書** 各担当教員が準備する資料を用います。

**成績評価方法と基準** 担当者別の筆記試験と授業への参加度を総合し、60%以上の得点で合格とします。

**オフィスアワー** 各講義担当者のオフィスアワーは授業時に指示があります。講義全体に関する質問は開講責任者(服部)が受け付けます(水曜10:30-11:30)。

### その他

言語学を学びたい学生諸君や、英語の教員免許の取得を希望する学生諸君、また、人文科学の諸分野との関わりで言語学の基礎を学びたいという学生諸君には必須の講義です。前後期を通しての履修を推奨。

言語学関連の講義・演習科目を履修する際には、本講義の履修が前提になります。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

講義スケジュール：

[前期]

第1回-6回：ことばの音について[服部範子]

第7回：服部担当分試験

第8回-13回：単語の構造について[綾野誠紀]

第14回：綾野担当分試験

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**言語科学概論B Introduction to Language Science B**  
2011年度以前入学生用(文化)**言語科学概論B Introduction to Language Science B**

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 吉田悦子、澤田治

**授業の概要** 言語学の基礎を学ぶ。とくに文法と意味の側面に注目して、ことばの働きを学ぶ。

**学習の目的** 文法的知識や文法構造について、文法用語や樹形図を利用して説明することができる。また、ことばの意味の役割や意味構造についての知識を得て、文法と意味との関連性に気づき、コミュニケーションのしくみを説明することができる。

**学習の到達目標** この講義では、言語学（ことばの「科学」）の基礎を学びます。言語学関連の講義・演習科目を受講するにあたって必要不可欠な基礎知識を、講義と練習問題を通して身につけることを目指します。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

講義スケジュール：

[後期]

第1回オリエンテーション

第2回～7回：文法と意味の構造について[澤田

### 教科書

[テキスト] 各担当教員が準備する資料を用いる。

[参考書] 各担当教員が講義時に指定する。

**成績評価方法と基準** 担当者別の筆記試験と授業への参加度を総合し、60%以上の得点で合格とします。

**オフィスアワー** 各講義担当者のオフィスアワーは授業時に指示があります。講義全体に関する質問は開講責任者（吉田）が受け付けます。（吉田：火曜3・4限）

### その他

言語学を学びたい学生諸君や、英語の教員免許の取得を希望する学生諸君、また、人文科学の諸分野との関わりで言語学の基礎を学びたいという学生諸君には必須の講義です。前後期を通しての履修を推奨。

言語学関連の講義・演習科目を履修する際には、本講義の履修が前提になります。

治]

第8回：澤田担当分復習テスト

第9回～14回：ことばの意味と使用について[吉田悦子]

第15回：吉田担当分復習テスト

2012年度以降入学生用(文化)**言語科学概論C**  
2011年度以前入学生用(文化)**言語科学概論C**

language science C  
language science C

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 福田 和展 (人文学部)

**授業の概要** 現代中国語の音声、文法、語彙、文字を科学的に分析する。 (中国語) 異文化理解Ⅰ 演習 (中国語)

**発展科目** 中国語関連科目

**学習の目的** 中国語学基礎知識の習得。

**教科書** プリントを使用。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 出席、授業態度、レポート等力などから総合的に判断。

**予め履修が望ましい科目** 異文化理解Ⅰ 基礎

**オフィスアワー** 月～金までの授業、会議時間以外。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

以下のテーマについて15回の授業を行う。

1 中国語とは

2 中国語音声学と音韻学

3 中国の文字

4 中国語の文法

5 日中語彙比較

# 2012年度以降入学生用(文化) **文学概論A**

Introduction to British and American Literature A

# 2011年度以前入学生用(文化) **英米文学概論A**

Introduction to British and American Literature A

**学期** 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 吉野 由起 (人文学部)

## 授業の概要

「イギリス文学史」

古英語で書かれたイギリス最古の叙事詩 Beowulf、中英語で書かれた「英詩の父」ChaucerによるThe Canterbury Talesに始まり、アーサー王伝説、Shakespeare、「長い18世紀」、ロマン派期、ヴィクトリア朝期を経てモダンズムへと至るイギリス文学史を20世紀初頭まで概観する。

様々な時代や書き手によって書かれた原典の抜粋に触れ、イギリス諸島における物語の系譜を概観し、英語の歴史も垣間見るとともに、作品にみられる多彩な発想、主題、修辞法等を観察する。

## 学習の目的

- (1)イギリス文学史を概観し、多様な時代・書き手によって書かれた作品原典に触れ、イギリス文学の通史的・体系的理解を深める。
- (2)個別の作品を読み、その特性を考え、論じる練習を重ねる。
- (3)作品を通して英語の歴史・イギリス文化史を垣間見る。

## 学習の到達目標

- (1)多様な時代・書き手によって書かれた作品に触れ、イギリス文学を通史的・体系的に捉えることができるようになる。
- (2)個別の作品を読み、作品について考え、問い・論点を発見し、論じることができるようになる。
- (3)作品を通して垣間見られる限りの、英語の歴史・イギリス文化史に関する初歩的知識を得る。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国

語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 「文学概論」「イギリス文学」「アメリカ文学」関連の科目、その他、地域・時代・ジャンルに関わらず「文学」、「英語」「イギリス」に関連のある諸科目

**発展科目** 「文学概論B」「イギリス文学」「アメリカ文学」関連の科目、その他、地域・時代・ジャンルに関わらず「文学」、「英語」「イギリス」に関連のある諸科目

**教科書** 授業で説明を行う。

## 成績評価方法と基準

授業時のディスカッションおよびリスpon ス・ペーパー 20%  
学期末のレポート 80%

**オフィスアワー** 月曜昼休み～5, 6限 (もしくはメールで来室日時を相談)

## その他

古今東西、多様な文化圏で、日夜多彩な物語が生み出され、読み継がれ続けています。物語を持たない文明は存在するのでしょうか。なぜ人間は物語を語り、聴き、読むことを必要とするのでしょうか。

言葉を持たない動物の世界にもルールやコミュニケーションは存在しているといわれますが、果たして彼らの世界に詩や物語は存在するのでしょうか？物語とは、人間特有の営為、根源的な欲求の一つといえるのでしょうか？

上記の問いを意識の片隅に置きつつ、多様な語り手・書き手による物語の片鱗に触れ、人間の想像と創造の営みの痕跡を、「イギリス文学」という限られたプリズムを通してではありませんが、辿りたいと思います。「古い」

時代に生まれた作品が時として燦然と放つ新鮮さ、「新しい」時代に書かれた作品の意外

な古めかしさ等、驚きと発見があるかもしれません。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 イントロダクション/古英語・叙事詩の時代：Beowulf  
第2回 中英語・ロマンスの時代：Chaucer, The Canterbury Tales  
第3回 伝説：King Arthur and Robin Hood  
第4回 ルネサンス期の詩と演劇：Edmund Spenser  
第5回 ルネサンス期の詩と演劇：Christopher Marlowe  
第6回 ルネサンス期の詩と演劇：William Shakespeare  
第7回 拡がる想像力：形而上詩の時代 Andrew Marvel/  
英語の「古典化」と新古典主義：Samuel JohnsonとAlexander Pope  
第8回 小説の誕生(I)：書簡体小説と旅物語

Clarissa/Robinson Crusoe/  
Gulliver's Travels  
第9回 小説の誕生(II)：浮世と脱線の文学  
Joseph Andrews/  
The Life and Opinions of Tristram Shandy  
第10回 ロマン派詩(I)：Wordsworth, Coleridge, Burns  
第11回 ロマン派詩(II)：Byron, Shelley, Keats  
第12回 小説の黄金時代(I)：歴史小説と慣習小説/風景・人物・日常の描写  
Scott and Austen  
第13回 小説の黄金時代(II)：ゴシック小説とその延長線 Frankenstein/The Brontes  
第14回 小説の黄金時代(III)：文豪Dickens  
第15回 伝統を壊す/言語表現の極限の追及：モダニズム T.S.Eliot, James Joyce



2012年度以降入学生用(文化)**文学概論B**  
2011年度以前入学生用(文化)**英米文学概論B**

An introduction to American Literature

Introduction to English and American Literature

**学期** 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

**選択** 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 井上 稔浩

**授業の概要** 植民地時代から20世紀までのアメリカ文学を概観する。

**学習の目的** アメリカの歴史を背景として、時代と共に発展してきたアメリカ文学作品に対する知識を得る。

**学習の到達目標** アメリカ社会の歴史の変移と、その中で発生してきた文学作品との関連について、具体的な作品の特徴から説明することができるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養

**予め履修が望ましい科目** 文学概論A

**教科書** 特に使用しない。

**成績評価方法と基準** レポート50%、期末試験50%

**オフィスアワー** 毎週月曜12:10~12:50 井上研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：イントロダクション  
第2回：ピューリタニズムの時代(1)文学意識  
第3回：ピューリタニズムの時代(2)反秩序の思想  
第4回：ピューリタニズムの時代(3)信仰への回帰  
第5回：ネオ・クラシズムの時代 理性主義の思想  
第6回：ロマンティズムの時代(1)新時代の小説  
第7回：ロマンティズムの時代(2)超絶主義者たちの文学

第8回：リアリズムの時代(1)歴史家たちと現実主義者たち  
第9回：リアリズムの時代(2)自然主義者たち  
第10回：リアリズムの時代(3)女流作家たち  
第11回：モダニズムの時代(1)失われた世代の文学  
第12回：モダニズムの時代(2)大恐慌時代の文学  
第13回：ポストモダニズムの時代(1)ポストモダニズムの意識  
第14回：ポストモダニズムの時代(2)反逆の意識  
第15回：まとめと期末試験

# 文学概論D

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅利恵

## 授業の概要

ヨーロッパの近代化について論じた文献のうち、文化研究に特に役立つと思われるものを3点取り上げる。授業では、講義や自由討論を通してそれぞれの内容を把握した上で、扱われたテーマについて学習し、近代化の重要な論点に対する理解を深める。文献とテーマは以下の通りである。

1. 文明と暴力～ノルベルト・エリアス『文明化の過程』
2. 公共性と表現の自由～ユルゲン・ハーバーマス『公共性の構造転換』
3. 技術の発展と表現～ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術』

**学習の目的** ヨーロッパの近代化においてどのような問題や生じ、それがわたしたちの社会とどう繋がっているのかを理解する。それ

によって様々な文化現象を論じるために有効な視座を得る。

**学習の到達目標** 近代文化を研究するための総合的な力を獲得する。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

## 発展科目

ドイツ文学論

ドイツの文学

**教科書** プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 平常点とレポートで評価する。

**オフィスアワー** 金曜日11:00～12:00

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

講義と参加者による討論や発表を組み合わせる授業を進める。

全体の流れは以下の通りである。(予定)

1. 導入
2. 文明化と暴力 (1) エリアス『文明化の過程』内容紹介
3. 文明化と暴力 (2) エリアス『文明化の過程』内容紹介、自由討論
4. 文明化と暴力 (3) 「文明批判」の系譜～ルソーの思想とその影響
5. 文明化と暴力 (4) 「文明批判」の系譜～ルソーの思想とその影響
6. 文明化と暴力 (5) 「文明批判」と歴史の現実～1900年前後のドイツ文化
7. 公共性と表現の自由 (1) ハーバーマス

『公共性の構造転換』時代背景

8. 公共性と表現の自由 (2) ハーバーマス『公共性の構造転換』内容把握、討論
9. 公共性と表現の自由 (3) カント『啓蒙とは何か』
10. 公共性と表現の自由 (4) 現代社会における公共性と表現の自由 討論
11. 技術発展と表現 (1) ベンヤミン『複製技術の時代の芸術』内容紹介
12. 技術発展と表現 (2) 社会変化と芸術の機能の変化
13. 技術発展と表現 (3) 「機械化」、「コピー」をテーマとする作品 1
14. 技術発展と表現 (4) 「機械化」、「コピー」をテーマとする作品 2
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化)

# 文学概論E

Introduction to Literature E

2011年度以前入学生用(文化)

# 日本文学概論A

Introduction to Japanese Literature A

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 村口 進介 (人文学部)

**授業の概要** 『源氏物語』の首巻である桐壺巻の読解を通じ、物語の世界観や光源氏をはじめとする人物造型の成り立ち、文学史的な位置づけなどについて講義を行う。

**学習の目的** 上記の内容を学習するとともに、諸本、校異、諸注釈、資／史料の扱いなど、古典文学を読解することに関わる諸問題についても講義を行い、独力で読むために最低限必要な知識や方法を理解する。

**学習の到達目標** 先人たちが積み重ねてきた「読み」の歴史をふまえ、自らの「読み」を切り開くために必要な基礎力を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力

**発展科目** 日本文学演習C、D

**教科書** 古典セレクション『源氏物語』① (小学館)

**成績評価方法と基準** 授業中の課題 (ミニレポートや小テスト) 50%、学期末レポート 50%

**オフィスアワー** 毎週火曜日の昼休み

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 イントロダクション

第2回 テキスト、諸本について

第3回 注釈史について

第4回 読解①桐壺帝と桐壺更衣

第5回 読解②若宮 (光源氏) 誕生

第6回 読解③一の皇子と右大臣家

第7回 読解④桐壺更衣の死去

第8回 読解⑤野分の段

第9回 読解⑥若宮の才知

第10回 読解⑦高麗人の観相

第11回 読解⑧若宮の臣籍降下

第12回 読解⑨藤壺入内

第13回 読解⑩光源氏の元服と結婚

第14回 読解⑪光源氏と藤壺

第15回 まとめ

### 授業の概要

『源氏物語』の匂宮、紅梅、竹河の三帖を取り上げる。これらは匂宮三帖といわれ、光源氏を主人公とする正編と彼の子孫たちを主人公とする宇治十帖を橋渡しする位置にあり、光源氏亡きあとの物語世界はいかにして可能かを模索する巻々と言える。

『源氏物語』における位置づけや意味など、匂宮三帖が誘発する諸問題について考察する。

**学習の目的** 上記の内容を学習するなかで、新たに物語世界を立ち上げ、展開してゆく「ことばの論理」やその仕組みを理解し、古典文学を読解するのに必要な知識や方法を学ぶ。

**学習の到達目標** 先人たちが積み重ねてきた「読み」の歴史をふまえ、自らの「読み」を切り開くために必要な基礎力を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力

**発展科目** 日本文学演習C、D

**教科書** 古典セレクション『源氏物語』⑫ (小学館)

**成績評価方法と基準** 授業中の課題(ミニレポートや小テスト) 50%、学期末レポート 50%

**オフィスアワー** 毎週火曜日の昼休み

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回 源氏物語について
- 第2回 研究史の整理
- 第3回 匂宮①光源氏没後の夕霧家
- 第4回 匂宮②薫登場
- 第5回 匂宮③匂宮と薫
- 第6回 匂宮④薫の厭世観
- 第7回 紅梅①紅梅大納言家

- 第8回 紅梅②姫宮の結婚
- 第9回 紅梅③姫宮と匂宮
- 第10回 竹河①故鬚黒太政大臣家
- 第11回 竹河②大君への求婚
- 第12回 竹河③玉鬘と薫
- 第13回 竹河④大君の結婚
- 第14回 竹河⑤玉鬘の嘆き
- 第15回 まとめ

# 文学概論I

Introduction to literature I

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業  
担当教員 花尻奈緒子

**授業の概要** 清末以降の中国近現代文学史における様々な運動・議論や文学潮流について理解し、併せてその時期に書かれた短篇作品を鑑賞する。これを通して中国近現代文学の歩みについての理解を深めると同時に、当時の問題意識について考察する。

**学習の目的** 中国近現代文学のあゆみを知り、文学史の背景にある議論と文学作品の考察を通して、単純な鑑賞に終わらない文学作品の読み方を身につける。

**学習の到達目標** 自身の興味に即した資料・文学作品の読み方ができるようになる。またネイティブ向けの中国語作品に触れることにより、より実践的な中国語読解の能力を獲得する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンスとイントロダクション  
第2～3回 清末通俗文学  
第4～5回 五四時期の文学  
第6～7回 十七年文学

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 実践外国語力

**受講要件** 中国語I基礎・演習abの単位を取得済みであるか、辞書を用いて中国語を読解可能なレベルの中国語能力があること。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Iおよび中国関連科目

**発展科目** 中国文学演習C・Dおよび中国関連科目

**教科書** 授業時に指示する。

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み50%、レポート50%

**オフィスアワー** 在室時は可

第8～9回 尋根文学  
第10～11回 先鋒文学  
第12～14回 新派武俠小説  
第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **哲学概論A**

2011年度以前入学生用(文化) **哲学概論A**  
**学期** 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次  
**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業  
**担当教員** 薄井 尚樹 (人文学部)

# Introduction to Philosophy A Introduction to Philosophy

## 授業の概要

「哲学」という学問があります。名前だけ聞くと、なにか難しそうなイメージがわいてきますが、実はそうでもありません。哲学の出発点はとても素朴な問いにあります。

私たちは本当にこの世界のことを知っているのだろうか。私たちはお互いに心があることを当たり前にも思っているけれど、実際のところ「心」ってどこにあるのだろうか。ひとを傷つけることはいけないことだと教わってきたけれど、その根拠はなんだろうか。私たちは他人を信頼すべきなのだろうか。科学はなぜ「正しい」のだろうか。...

この講義では、こういった日常的な疑問から出発して、哲学の主要なトピックを紹介していきます。

**学習の目的** 哲学がどのような学問であるのかを理解し、哲学の主要問題についての知識を得る。

## 学習の到達目標

1. 哲学という学問の見取り図を整理できる。
2. 哲学の基本問題を理解できる。
3. 問題を論理的に分析するための方法論を身につけることができる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：哲学とはなにか (1)
- 第3回：哲学とはなにか (2)
- 第4回：私たちは本当に「知っている」のか (1)
- 第5回：私たちは本当に「知っている」のか (2)
- 第6回：心を持つとはどういうことか (1)
- 第7回：心を持つとはどういうことか (2)
- 第8回：前半のまとめとコンセプトマップの作成
- 第9回：道徳的な判断はなににもとづいている

**本学教育目標との関連** 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力

**受講要件** 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

**予め履修が望ましい科目** 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

**発展科目** アメリカの思想、アメリカ思想演習

**教科書** レジュメを配布します。

**成績評価方法と基準** 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

### オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00

薄井研究室 (人文学部)

**その他** 講義は Pritchard, Duncan et al. *Philosophy for Everyone*. Routledge, 2013. をベースにしておこないます。ただし講義中に用いることはありませんし、受講者が読んでおく必要もありません。講義と配布するレジュメだけで完結します。

のか (1)

第10回：道徳的な判断はなににもとづいているのか (2)

第11回：私たちはひとの話を信じるべきなのか (1)

第12回：私たちはひとの話を信じるべきなのか (2)

第13回：科学の「正しさ」とはなにか (1)

第14回：科学の「正しさ」とはなにか (2)

第15回：後半のまとめとコンセプトマップの作成

※ただし受講者の関心や理解度に応じて予定を部分的に変更することがあります。

2011年度以前入学生用(文化)**倫理学概論B**  
2011年度以前入学生用(文化)**倫理学概論B**

An Introduction to Ethics B

An Introduction to Ethics B

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 久間 泰賢

**授業の概要** インドの法典文献を資料として、その生活倫理について学習する。

専門知識・技術, 論理的思考力

**学習の目的** インドの慣習法についての知見を深める。

**教科書** 資料を配付する。

**成績評価方法と基準** 期末レポート70%+平常点30%

**学習の到達目標** インド法典, インド思想の基本概念を習得する。

**オフィスアワー** 木曜5, 6限. 共通教育2号館2階の久間研究室にて。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 幅広い教養,

**その他** .

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

代表的な『マヌ法典』をはじめとするインド法典文献は、近現代インドにおいても強い影響力を及ぼしてきた慣習法である。そこには、階級制度、罪悪や贖罪の観念、女性についての考え方、バラモン（僧官）階級の生活の仕方など、現代人の生き方とも無縁ではない多様なトピックが存在する。この授業は、インドの慣習法における代表的なトピックを取り上げて紹介することで、そこに規定されている生活倫理についての知見を深めることを目的とする。

第1回 導入：インドの慣習法と倫理

第2～3回 法 (dharma) の概念について

第4回 インドの法典文献が成立するまで

第5～6回 浄・不浄思想とカースト制度

第7～8回 様々な生活モデル：世俗で暮らすこと、世俗を離れること

第9～10回 罪悪と贖罪

第11～12回 女性の社会的地位と結婚観

第13～14回 バラモンが生活に困ったらどうすればよいか

第15回 総括

2012年度以降入学生用(文化)**歴史学概論B**  
2011年度以前入学生用(文化)**歴史学概論B**

**General History**  
**General History**

**学期** 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 塚本 明 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 歴史学の特徴とその枠組みを理解する。

### 学習の目的

史学史についての基礎的な知識や歴史的なものの見方を身につける。  
現代社会における歴史学の役割を理解し、その活用について考える。

### 学習の到達目標

史学史についての基礎的な知識や歴史的なものの見方が身につけられるようになる。  
現代社会における歴史学の役割を理解し、その活用について考えられるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思

考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育の日本史関係科目など。

**発展科目** 日本の歴史、日本歴史演習、文化学セミナー (文化資源学)

**教科書** 授業中に随時指示する。

**成績評価方法と基準** 授業中に随時行うコメントカード30%、レポートまたは期末試験70%

**オフィスアワー** 木曜日15時～16時、塚本研究室。予めメール等で連絡すること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1、オリエンテーション (授業の進め方、単位認定の仕方など)
- 2、歴史的事実とは何か
- 3、歴史を現代に活かす方法 (企画書案の作り方)
- 4、歴史学の社会的役割① (歴史学は「役に立つ」のか)
- 5、歴史学の社会的役割② (戦争責任問題と歴史教育)
- 6、歴史学の社会的役割③ (文化財の保全と活

用)

- 7、歴史資料の調査法と体制
- 8～9、時代区分論Ⅰ～Ⅱ
- 10、歴史学のジャンルと範囲
- 11、公儀論と天皇・将軍
- 12、共同体と身分
- 13～15、企画書に基づく受講生の報告と討論①～③

\*受講生の理解度、関心の所在や要望に応じて、随時変更することがある。



2012年度以降入学生用(文化)**歴史学概論C**  
2011年度以前入学生用(文化)**歴史学概論C**

**Introduction to History C**  
**Introduction to History C**

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

**授業の概要** 歴史学とはどのような学問であるのか、東洋史、主に中国史について概説する。

考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**学習の目的**

東洋史研究の現状および問題点を他の学問領域と関連づけて説明できるようになる。

**教科書** 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

歴史的なものの見方、考え方を身につける。

**成績評価方法と基準** 小テスト2回30%、定期試験50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

**学習の到達目標** 東洋史研究の現状を説明できるようになる。

**オフィスアワー** 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(教養教育4号館5階)

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

第1回 歴史学とは

第2~4回 前近代中国の歴史学

第5~6回 時代区分

第7~10回 中国史の時代区分

第11~13回 歴史学の扱う分野

第14回 史料

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**考古学・文化財学概論A**  
Introduction to Archaeology and Cultural Properties A  
2011年度以前入学生用(文化)**考古学・文化財学概論A**  
Introduction to Archaeology and Cultural Properties A

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業  
**担当教員** 小澤 毅(人文学部)

**授業の概要** 考古学・文化財学の基礎について学習する。

**学習の目的** 考古学・文化財学の基礎や対象となる資料の特性を理解し、研究および公開・利用の方法を考える。

**学習の到達目標** 学芸員や発掘調査担当者として必要な考古学・文化財学に関する基礎的知識を修得する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

**予め履修が望ましい科目** 日本史をはじめとする歴史系の基礎的授業科目

**発展科目** 日本考古学特講A～G、日本考古学演習A・B、日本考古学実技演習A・B

**教科書** 泉拓良・上原真人編『考古学—その方法と現状—』放送大学教育振興会、2009年

**成績評価方法と基準** 試験60%、授業時の小テスト40%

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第3回 考古学・文化財学とは何か

第4回～第5回 発掘調査の歴史と実際

第6回～第8回 考古学があつかう年代

第9回～第11回 年代の理化学的測定法

第12回～第14回 層位学と年代

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**考古学・文化財学概論B**  
Introduction to Archaeology and Cultural Properties B  
2011年度以前入学生用(文化)**考古学・文化財学概論B**  
Introduction to Archaeology and Cultural Properties B

**学期** 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業  
**担当教員** 小澤 毅(人文学部)

**授業の概要** 考古学・文化財学の基礎について学習する。

する歴史系の基礎的授業科目

**学習の目的** 考古学・文化財学の基礎や対象となる資料の特性を理解し、研究および公開・利用の方法を考える。

**発展科目** 日本考古学特講A～G、日本考古学演習A・B、日本考古学実技演習A・B

**学習の到達目標** 学芸員や発掘調査担当者として必要な考古学・文化財学に関する基礎的知識を修得する。

**教科書** 泉拓良・上原真人編『考古学—その方法と現状—』放送大学教育振興会、2009年

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

**成績評価方法と基準** 試験60%、授業時の小テスト40%

**予め履修が望ましい科目** 日本史をはじめと

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

**その他** 人文科学系と自然科学系に分かれて授業を行うことがある。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

第1回～第3回 型式学と年代  
第4回～第5回 セリエーションとは何か  
第6回～第8回 遺物の機能をさぐる

第9回～第10回 使用痕分析と実験考古学  
第11回～第12回 民具と考古学  
第13回～第15回 考古学と分布

2012年度以降入学生用(文化)

# 社会学概論A

Sociology A

2011年度以前入学生用(文化)

# 社会学概論A

Sociology A

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部)

**授業の概要** 近現代の社会に立ち現れる様々な問題に関して、社会学という学問分野はどのような視点で研究を行い、また、どのような知見をもたらしてきたのか。この講義では、具体的な社会問題や日常的な話題（人間関係、家族、集団などに関わるもの）を取り上げながら、社会学の分析視角や社会学理論のなかでも著名なもの、独自のものについて概説する。

**学習の目的** 社会学の分析視角や社会学理論が持つユニークな特色、そして、それらが様々な社会問題を観察し分析するのに有効である点について理解を深める。

**学習の到達目標** 社会問題に関するいくつかの基本的なトピックを、社会的な視点や社

会学理論をもとに説明できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** とくになし。

**予め履修が望ましい科目** とくになし。

**発展科目** 日本の社会

**教科書** 授業の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 筆記試験50%、レポート50%、計100%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日16:20～17:00

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 社会的な視点とは？：個人を拘束する社会・文化
- 第2回 社会と個人の関係性
- 第3回 日常世界における「社会」の存在
- 第4回 役割と自己
- 第5回 交換と人間関係
- 第6回 家族の社会学
- 第7回 近代家族の成立と変容

- 第8回 ジェンダー論
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 組織と集団の社会学
- 第11回 組織集団と非組織集団
- 第12回 官僚制論とその展開
- 第13回 コンティンジェンシー理論
- 第14回 新しい組織論の展開
- 第15回 試験に向けた総括

2012年度以降入学生用(文化)

# 社会学概論B

Sociology B

2011年度以前入学生用(文化)

# 社会学概論B

Sociology B

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部)

**授業の概要** 近現代の社会に立ち現れる様々な問題に関して、社会学という学問分野はどのような視点で研究を行い、また、どのような知見をもたらしてきたのか。この講義では、具体的な社会問題や日常的な話題（とくにメディア・情報・地域・消費社会に関わるもの）を取り上げながら、社会学の分析視角や社会学理論のなかでも著名なものについて概説する。

**学習の目的** 社会学の分析視角や社会学理論が持つユニークな特色、そして、それらが様々な社会問題を観察し分析するのに有効である点について理解を深める。

**学習の到達目標** 社会問題に関するいくつかの基本的なトピックを、社会的な視点や社

会学理論をもとに説明できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** とくになし。

**予め履修が望ましい科目** とくになし。

**発展科目** 日本の社会

**教科書** 授業のなかで指示する。

**成績評価方法と基準** 筆記テスト50%、レポート50%、計100%。

**オフィスアワー** 月曜日16:30~17:30

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 第1回 社会変容と社会学の視点
- 第2回 情報メディアの変容と生活世界
- 第3回 1960年代までのメディア論
- 第4回 1970年代以降のメディア論
- 第5回 映像文化論とその行方
- 第6回 IT化の進展と組織内コミュニケーション
- 第7回 メディアの変遷と社会的性格

- 第8回 中間まとめ
- 第9回 地域を研究する社会学の視点
- 第10回 都市社会学の伝統的分析視角
- 第11回 郊外化とジェントリフィケーション
- 第12回 消費社会とメディア
- 第13回 消費文化論
- 第14回 消費記号論
- 第15回 試験に向けた総括

# 2012年度以降入学生用(文化)文化人類学概論A

General Topics of Cultural Anthropology A

2011年度以前入学生用(文化)文化人類学A

Cultural Anthropology A

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁 (人文学部)

**授業の概要** 文化人類学において生まれた諸理論について理解する。

**学習の目的** ・文化人類学で生まれた諸理論(方法論)の大筋を理解できる。

## 学習の到達目標

- ・文化人類学で生まれた諸理論の長所と問題点を理解できる。
- ・近代やグローバリズムに潜む問題点の理解に達することができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考え

る力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 共通教育の〈教養文化人類学〉、文化人類学(概論)のその他の枝番

**発展科目** 「〇〇の民族と文化」関連の講義と演習

**成績評価方法と基準** 授業時間内のレポートあるいは小テストを実施予定。出席はとらない。

**オフィスアワー** 木曜7限以後。ただし電気がついているときには基本的に来室できる。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

本講義では第1回のオリエンテーションの後、第2回目以後は、以下の理論について解説する。

- ・社会進化論
- ・文化伝播論
- ・機能主義
- ・構造機能主義
- ・心理人類学、パーソナリティ論

- ・新進化論
- ・象徴論
- ・マルクス主義
- ・構造主義
- ・世界システム、グローバリズム
- ・解釈人類学
- ・アクターズ・ネットワーク論

このうちいくつかのものは、2週にわたると思われる。

# 2012年度以降入学生用(文化)文化人類学概論B

General Topics of Cultural Anthropology B

## 2011年度以前入学生用(文化)文化人類学B

Cultural Anthropology B

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

\* 本講義は、共通教育の教養文化人類学の発展系と位置づけられる。

民族誌（フィールドワークの成果報告）をふまえ、各民族の文化のあり方を理解する。

### 学習の目的

・各民族が共有する生活習慣の理解が深められる。

・反対に、文化の個別性、多様性の理解にも近づける。

### 学習の到達目標

・一見して一枚岩的にみえる諸文化が実際には多様で、多層的であることが理解できる。

・（たとえば共通教育のレベルで）「正しい」とされたことが、実際には抱えているよ

うな、複雑な問題系を提起し、検討する。

**本学教育目標との関連** 感性、幅広い教養、専門知識・技術、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 共通教育の〈教養文化人類学〉、文化人類学A、文化人類学概論A

**発展科目** 「〇〇の民族と文化」的な講義、演習。

**成績評価方法と基準** 小テストとレポートで100%（予定）

**オフィスアワー** 木曜午後など、研究室に電気がついている時間。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 1) オリエンテーション
- 2-3) 文化の定義
- 4-5) 文化相対主義
- 6-7) PCと民族名称（政治的正しさ）
- 8-9) 伝統
- 10) 言説

11-12) 近代、グローバリズム

13) 生業、経済活動

14) 暗黙知、ワザ

15) 儀礼

\* 2-15回までの間に小テスト、授業時間内レポートが課される。

2012年度以降入学生用(文化)**地理学概論**  
2011年度以前入学生用(文化)**比較地域論**

Geography  
Geography

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 森正人

**授業の概要** 場所、風景、空間がどのように権力に巻き込まれながら構成されるのか、それをとらえるためにどのような理論的アプローチが可能か考える。

**学習の目的** 地理学の基本的な視点である場所、風景、空間と権力について理解する。

**学習の到達目標** 場所や風景、そして空間がどのように権力と関わっているのか、批判的にとらえることができ、それを文章化することができる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 指導力・協調性

**受講要件** とくになし。ただし授業に意欲を持って取り組むことができること。

**発展科目** 日本の風土と地誌A・B

**成績評価方法と基準** レポート2回 (50%)、事前学習と振り返り (50%)

**オフィスアワー** 毎週火曜日 12:00～13:00 (事前にアポイントを取ることに)

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

- 1 ガイダンス
- 2 社会統治の方法としてのディズニーランド
- 3 記号としての地理
- 4 空間のモダニティ
- 5 風景の誕生
- 6 国家と文化
- 7 視線と権力

- 8 オリエンタリズムと異文化へのまなざし
- 9 (ポスト) コロニアリズムと場所表象
- 10 場所とグローバル化
- 11 消費の空間
- 12 消費と文化
- 13 ハイブリッド空間
- 14 共に投げ込まれる空間のために
- 15 まとめ



# 環境学概論

Environmental Studies

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 2011年度以前入学生用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 朴 恵淑

## 授業の概要

・地域及び地球規模の環境問題、特に、地球温暖化、生物多様性、大気汚染、PM2.5、ゴミ問題などを中心とした、環境地理学の本質及び役割について学ぶ。

・持続可能な開発のための教育(ESD)について学ぶ。ESDには、環境教育、エネルギー教育、防災教育、生物多様性教育、気候変動(地球温暖化防止)教育、世界遺産や文化財などに関する教育、国際理解教育、その他(平和、人権、男女共同参画など)含まれる。

## 学習の目的

・地域及び地球規模の自然環境と人間活動との相互作用を探る。

・環境と人間との関係を探る環境地理学の本質及び役割について考える。

## 学習の到達目標

・教員となる意志を持つ学生を対象に行う授業なので、自然環境及び生活環境について知識を修得し、実践できる学生を育つ。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

『授業計画』

第1回 環境科学としての環境地理学の本質と役割(その1)

第2回 環境科学としての環境地理学の本質と役割(その2)

第3回 役立つ環境地理学

第4回 地球温暖化の科学的知見

第5回 地球温暖化の影響

第6回 地球温暖化の対策・国際的取り組み

第7回 アジアの環境問題(越境性大気汚染・酸

・ごみ問題や省エネ活動など身近な環境問題から取り組み、地球温暖化など地球規模の環境問題について考える力を育む。

・Think Globally! Act Locally! を実践できる人材を育成する。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

## 成績評価方法と基準

・出席率 20%

・レポート 60%

・発表(プレゼンテーション) 20%

**オフィスアワー** 月曜日から金曜日まで、授業及び出張以外の午前10時から午後10時までの時間は、朴研究室にていつでもOK。

性雨・黄砂・PM2.5)

第8回 アジアの環境問題(生物多様性)

第9回 アジアの国際環境協力

第10回 日本の4大公害(水俣病・イタイイタイ病・新潟水俣病・四日市ぜんそく)

第11回 持続可能な開発のための教育(ESD)

第12回 ユネスコスクール

第13回 ESD実践(その1)

第14回 ESD実践(その2)

第15回 総括

2012年度以降入学生用(文化)

# 言語科学論A

Language Science A

2011年度以前入学生用(文化)

# 言語コミュニケーション

Language Communication

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田 悦子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** ことばによるコミュニケーションのしくみを理解し、ことばが伝える意味の多様性について考察する。ことばの運用面にかかわる基本的な内容をとりあげ、言語学関係の発展科目や、英語学演習などの科目履修に向けての基礎を学習する。

## 学習の目的

ことばによるコミュニケーションの方法とその解釈について考察する力を養う。  
意味の多様性について言語的知識を深める。  
言語学の基本的な用語を用いて、英語と日本語を対照させて考える方法を学ぶ。

**学習の到達目標** ことばによって伝わる意味について、言語知識と言語運用の点から、適切な専門用語を用いて、説明することができる。ことばによるコミュニケーションのしくみを会話の原則に基づいて理解し、話し手の意図と聞き手の解釈における相互作用について、身近な用例を参考にしながら、分析したり、考察することができる。

**本学教育目標との関連** 共感, 主体的学習力,

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

講義スケジュール：

第1回：オリエンテーション

第2-4回：ことばの意味とは(語の意味、文の意味、発話の意味)

第5回-6回: 意味の構造 (辞書の意味から認知

課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** なし

**予め履修が望ましい科目** なし

**発展科目** 比較言語論, 言語科学概論, 英語学演習

### 教科書

教科書：

コースブック意味論 (第2版)

James R.Hurford (著), Brendan Heasley (著), Michael B.Smith (著)2014 (吉田悦子ほか訳)

ひつじ書房

**成績評価方法と基準** 宿題、授業への参加および発表50%。期末試験50%

**オフィスアワー** 火曜3-4

**その他** 授業はテキストの購入を前提として、テキストを基本とし、パワーポイントを要点的確認として使用します。

的意味へ)

第7-9回:対人的意味 (発話行為)

第10-12回:直接的な発話と間接的な発話

第13-14回:会話の原則と発話解釈

第15回:復習小テスト

2012年度以降入学生用(文化)  
2011年度以前入学生用(文化)

# 言語科学論B

## 比較言語論

## Language Science B Comparative Linguistics

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 PBL

担当教員 綾野誠紀

**授業の概要** 人間であれば誰でも持っている言語に関する知識とはいかなるものかについて、英語の日本語データ比較検討することにより明らかにする。そのことにより、ことばを科学する際の分析手法や議論の組み立て方を学ぶ。

**学習の目的** ことばを科学する際の分析手法や議論の組み立て方に関する知識を得る。

**学習の到達目標** ことばの分析方法と議論の組み立て方を学ぶことにより、論理的な思考方法を身につけることができる。

**受講要件** 特になし

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

日本語と英語のデータを中心に比較対照することにより、背景にある共通性について検討します。

第1回～3回 導入 (ヒトの言語の普遍的な特性について)

第4回～7回 日本語と英語の基本的な構造について

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 英語学演習、言語科学概論、言語科学演習

#### 教科書

[テキスト] 講義時に配布するより詳細なシラバスを参照のこと

[参考書] 講義時に配布するより詳細なシラバスを参照のこと

**成績評価方法と基準** 試験 80%、授業参加 20%

**オフィスアワー** 講義時に配布するより詳細なシラバスを参照のこと

第8回～11回 具体例な事象に基づく比較言語演習#1

第12回～15回 具体的な事象に基づく比較言語演習#2

なお、具体的な講義計画等については、初回の講義で配布する詳細なシラバスでお知らせします。

# 英米文学論

## British and American Literature

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

### 授業の概要

「英語圏児童文学比較研究: Alice's Adventures in Wonderland 『不思議の国のアリス』、The Adventures of Tom Sawyer 『トム・ソーヤーの冒険』、The Story Girl 『ストーリー・ガール』」

19世紀中葉から20世紀初頭にイギリス・アメリカ・カナダで書かれ、「日常/非日常」という主題の点で共通点があると思われる児童文学三作品を読解し、各作品の特質の観察を行うとともに、ジャンルとしての児童文学の特性の地域横断・比較文学的考察を試みる。

学期序盤では、英語圏児童文学に関する初歩的な内容の英語文献の読解を行い、基礎的な知識および着眼点の一端を修得する。続いて、下記の作品の抜粋を丁寧に読解し、諸問題を考察する:

- (1) Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』1865)
- (2) Mark Twain, The Adventures of Tom Sawyer (マーク・トウェイン『トム・ソーヤーの冒険』1876)
- (3) L.M.Montgomery, The Story Girl (ルーシー・モード・モンゴメリ『ストーリー・ガール』1911)

### 学習の目的

(1)19世紀中盤から20世紀初頭の英語で書かれ、「児童である読者」を対象に、同時代の文化・社会状況を投影した「日常」に加え、しばしば「現実には起こりえない出来事」も描いた作品原典、および関連する英語文献を読解し、考え論じる力を養う。

(2)「児童文学」という切り口から、19世紀中盤から20世紀初頭イギリス・アメリカ・カナダの文学・文化的状況の一端の理解を深める。

(3)上記を通じて、英語圏児童文学というジャンルを地域横断的に比較検証できるようになる。

### 学習の到達目標

(1)19世紀中盤から20世紀初頭の英語で書かれた作品原典および、児童文学に関する英語文献の読解に慣れ、作品を観察し論じることができるようになる。

(2)各作品の作者、作品が書かれた時代・地域・文化的背景に関する理解を深める。

(3)英語圏児童文学のジャンルとしての特質に関する初歩的な専門知識を習得する。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 「アメリカの文学」「イギリスの文学」関連諸科目を中心に、地域を問わず「文学」に関連する諸科目、「アメリカ」「カナダ」「イギリス」、「英語」に関連する諸科目

**発展科目** 「アメリカの文学」「イギリスの文学」関連諸科目を中心に、地域を問わず「文学」に関連する諸科目、「アメリカ」「カナダ」「イギリス」、「英語」に関連する諸科目

**教科書** 基本的にハンドアウトを配布します。学期末のレポートでは一作品を主な対象として選択することになるので、選択した作品に関しては、各自書店・図書館等で、原典もしくは翻訳を入手してください。詳細は授業で説明を行います。

### 成績評価方法と基準

授業における準備状況、リスポンス・ペーパー等 20%

学期末レポート 80%

**オフィスアワー** 木曜5, 6限 (吉野研究室)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

Week 1: イントロダクション

Week 2: 文献読解 History and Characteristics of Children's Literature (1)

Week 3: History and Characteristics of Children's Literature (2)

Week 4: History and Characteristics of Children's Literature (3)

Week 5: 作品研究I Alice's Adventures in Wonderland (1)

Week 6: Alice's Adventures in Wonderland (2)

Week 7: Alice's Adventures in Wonderland (3)

Week 8: Alice's Adventures in Wonderland (4)

Week 9: 作品研究II The Adventures of Tom Sawyer (1)

Week 10: The Adventures of Tom Sawyer (2)

Week 11: The Adventures of Tom Sawyer (3)

Week 12: 作品研究III The Story Girl (1)

Week 13: The Story Girl (2)

Week 14: The Story Girl (3)

Week 15: まとめ

# ドイツ文学論 B

German Cultural Studies B

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業  
担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

## 授業の概要

「1920年代のドイツ文学」をテーマにします。1920年代は、二つの世界大戦の挟まれた戦間期であり、さまざまな芸術的表現方法が発芽した「黄金の20年代」と呼ばれています。文学以外のジャンルにも触れながら、1920年代ドイツの芸術を次の観点から考察します。

- (1) 芸術と「通俗性」
- (2) 文学的パフォーマンスと身体
- (3) 文法と意味の否定

**学習の目的** 20世紀前半のドイツ文化について、基礎的な知識を身につけます。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

授業計画の詳細は、初回授業時に説明します。

第1～3回：1920年代のドイツ社会

第4～7回：芸術と「通俗性」（寄席、前衛美術、映画など）

**学習の到達目標** 20世紀前半のドイツ文化について、基礎的な知識を持っている。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力

**発展科目** 「ドイツの文学」「ドイツ文学論A」「文学概論C」「文学概論D」

**成績評価方法と基準** 授業への積極的参加 [20%]、レポート[80%]、計100%

**オフィスアワー** 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室（人文校舎2階）にて

第8～10回：文学的パフォーマンスと身体（文学宣言、文学的カバレット、裸体文化、舞踏など）

第11～15回：文法と意味の否定（表現主義とダダの文学、カフカなど）

2012年度以降入学生用(文化)**生命倫理論A**  
2011年度以前入学生用(文化)**生命倫理論A**

Bioethics A  
Bioethics A

**学期** 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 相澤 康隆 (人文学部)

**授業の概要** 生命倫理に関するいくつかの問題を概説する。具体的には、安楽死、妊娠中絶、臓器移植、医療資源の配分といったテーマを取り上げ、哲学者たちの考察を紹介する。

**学習の目的**

- ・生命倫理学の基礎知識を得る。
- ・生命倫理の諸問題に対するアプローチの仕方を学ぶ。

**学習の到達目標** 哲学者たちの見解を参考にしつつ、生命倫理の諸問題に対して自分の意見がもてるようになる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての

態度

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 期末試験(持ち込みなし)で評価する。

**オフィスアワー** 毎週月曜日13時~14時 相澤研究室(人文学部校舎3階)

**その他** 授業中の私語、スマホ等の使用、常習的遅刻、途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 生命倫理学の概説
- 第3回: 安楽死(1)
- 第4回: 安楽死(2)
- 第5回: 安楽死(3)
- 第6回: 安楽死(4)
- 第7回: 安楽死(5)
- 第8回: 人工妊娠中絶(1)

- 第9回: 人工妊娠中絶(2)
- 第10回: 人工妊娠中絶 (3)
- 第11回: 臓器移植(1)
- 第12回: 臓器移植 (2)
- 第13回: 医療資源の配分(1)
- 第14回: 医療資源の配分(2)
- 第15回: まとめ

\*順序や内容を一部変更する場合もある。

2012年度以降入学生用(文化)**生命倫理論B**  
2011年度以前入学生用(文化)**生命倫理論B**

Bioethics B  
Bioethics B

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

**授業の概要**

動物倫理について概説する。肉食、動物実験、ペット飼育、動物園といったテーマを取り上げながら、動物の権利をめぐる哲学者たちの論争を紹介する。

**学習の目的** 動物倫理についての基礎知識を得る。

**学習の到達目標** 動物倫理に関して自分の意見がもてるようになる。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 期末試験(持ち込みなし)で評価する。

**オフィスアワー** 毎週月曜日13時~14時 相澤研究室(人文学部校舎3階)

**その他** 授業中の私語、スマホ等の使用、常習的遅刻、途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 動物倫理の概要
- 第3回: 動物の道徳的地位(1)
- 第4回: 動物の道徳的地位(2)
- 第5回: 動物とはどんな存在か(1)
- 第6回: 動物とはどんな存在か(2)
- 第7回: 苦しみ、監禁、死による危害(1)
- 第8回: 苦しみ、監禁、死による危害(2)

- 第9回: 肉食(1)
  - 第10回: 肉食(2)
  - 第11回: ペット飼育と動物園(1)
  - 第12回: ペット飼育と動物園(2)
  - 第13回: 動物を用いた研究(1)
  - 第14回: 動物を用いた研究(2)
  - 第15回: まとめ
- \*順序や内容を一部変更する場合もある。



2012年度以降入学生用(文化)

# 美術史C

Art History C

2011年度以前入学生用(文化)

# 美術史C

Art History C

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 藤田伸也

## 授業の概要

美術史研究入門編として、絵画作品を中心に美術史について考察する。

前期は西洋の美術を対象とし、後期授業の美術史Dでは日本・東洋美術を扱う。

美術史とはどのような学問であるか、その研究対象は何か、など基本的な問題について説明する。

## 学習の目的

美術史について基本的知識を習得する。

西洋絵画の見方と代表的名品について理解する。

美術作品を通して文化を理解することを学ぶ。

## 学習の到達目標

西洋絵画史について体系的に理解する。

絵画の機能と価値について説明することができる。

文化における美術の重要性について説明できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 美術史D

**教科書** 特になし。

**成績評価方法と基準** 授業での発表・積極性など20%、テスト40%、レポート40%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00~14:30、火曜日10:30~12:30／藤田研究室（教養教育2号館2階）

## その他

機会があれば、展覧会の見学を休日に日帰り圏内で行う。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

美術史研究入門編として、西洋絵画作品を中心に美術史について考察する。はじめに美術史の起源について説明し、次いで美術史研究の諸相について学ぶ。作品の画像をできるだけ多く紹介する。

第1回 授業の概要（美術史とは）

第2回 美術史の起源

第3回 美術館と展覧会

第4回 権力と美術

第5回 パトロンとコレクター

第6回 真贋の問題

第7回 原始美術

第8回 宗教美術

第9回 肖像画

第10回 寓意画

第11回 静物画

第12回 風景画

第13回 抽象画

第14回 絵画を超えて

第15回 まとめ

第16回 試験

2011年度以前入学生用(文化)

# 美術史D

Art History D

2011年度以前入学生用(文化)

# 美術史D

Art History D

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 藤田伸也

## 授業の概要

美術史研究入門編として、絵画作品を中心に美術史について考察する。

前期授業の美術史Cは西洋の美術を対象としたが、この授業では日本美術を扱う。

美術史とはどのような学問であるか、その研究対象は何か、など基本的な問題について説明する。

## 学習の目的

美術史について基本的知識を習得する。

日本絵画の見方と代表的名品について理解する。

日本美術と中国・朝鮮の美術の関わりについて理解する。

美術作品を通して文化を理解することを学ぶ

## 学習の到達目標

日本絵画史について体系的に理解する。

絵画の機能と価値について説明することができる。

文化における美術の重要性について説明でき

るようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 美術史C

**成績評価方法と基準** 授業での発表・積極性など20%、テスト40%、レポート40%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00~14:30、火曜日10:30~12:30／藤田研究室（教養教育2号館2階）

## その他

機会があれば、展覧会の見学を休日に日帰り圏内で行う。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

美術史研究入門編として、日本絵画作品を中心に美術史について考察する。はじめに日本の美術史研究の歴史について説明し、次いで美術史研究の諸相について学ぶ。作品の画像をできるだけ多く紹介する。

第1回 授業の概要（美術史とは）

第2回 日本の美術史研究

第3回 日本の美術館と展覧会

第4回 宮廷と美術

第5回 将軍と美術

第6回 真贋の問題

第7回 原始美術

第8回 仏教絵画

第9回 神道絵画

第10回 肖像画

第11回 花鳥画

第12回 山水画

第13回 装飾画

第14回 絵画と工芸

第15回 まとめ

第16回 試験

2012年度以降入学生用(文化)

# 学術情報論A

Scholarly Information A

2011年度以前入学生用(文化)

# 学術情報論A

Scholarly Information A

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

**授業の概要** インターネットの急速な拡大およびウェブ技術の進展により、様々な学術情報がインターネット上、あるいは各種メディアによって検索できるようになった。本授業では、必要な学術情報を効率的かつ効果的に検索するための検索技術のほか、情報検索を取り巻く環境について、演習を交えながら総合的に学習する。

**学習の目的** 基本的な学術情報の特性の理解を基礎として、各種情報を検索するシステムの特徴・利用方法に関する知識および実践的なスキルを身に付ける

## 学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) 情報検索の概念を理解する。
- 2) 情報検索の基礎的技術を身につける。
- 3) 各種情報資源の特徴と検索方法を理解し、実際に必要とする情報を入手できるようになる。

- ・ 図書情報の検索
- ・ 雑誌記事情報の検索
- ・ 新聞記事情報の検索
- ・ インターネット上の情報源の検索

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1. ガイダンス
2. 情報検索の基礎
3. OPAC の検索 (単館目録・総合目録)
4. 書誌ユーティリティを利用した検索
5. 図書の検索
6. 雑誌の検索 その1 (書誌検索と所蔵検索)
7. 雑誌の検索 その2 (記事検索)
8. 雑誌の検索 その3 (電子ジャーナル)

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 情報サービス論・情報サービス演習

**教科書** 特にありません

### 成績評価方法と基準

以下の各項目を評価し、総合点で最終的な成績評価とします (合計が60%以上で合格)。

- 1) 出席
- 2) 授業内課題
- 3) 小レポート課題
- 4) 最終レポート課題

**オフィスアワー** 第1回目の授業で指示する。

**その他** 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

9. 雑誌の検索 その4 (電子ジャーナル (英語))
10. ディスカバリーサービス ※小レポート課題
11. 検索エンジン
12. 新聞の検索 ※小レポート課題
13. その他の情報源の検索 (辞書・百科事典など) ※小レポート課題
14. 授業内総合課題 (日本語)
15. 授業内総合課題 (検索問題の作成)

2012年度以降入学生用(文化)

# 学術情報論B

Scholarly Information B

2011年度以前入学生用(文化)

# 学術情報論B

Scholarly Information B

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

**授業の概要** 学術情報は、一般的な情報と異なる形で生産、流通、利用される特性を持っています。本講義では、研究者の科学研究活動が、学術情報の生産、流通、利用を通していかに実現するのかを検討します。学術コミュニケーションの電子化は、現在グローバルな現象として大きな関心を集めています。それは電子化が、これまでの学術コミュニケーションのあり方を根本から変容させる可能性があるからです。伝統的な学術コミュニケーションおよびその電子化がもたらす社会的変化を、国内外の最新の事例や関連研究とともに検討します。

## 学習の目的

本授業終了時に、以下の知識をそれぞれ関係づけながら体系的に理解することを目的とする。

- 1) 研究者の科学研究活動および利用行動
- 2) 学術コミュニケーションの特性
- 3) 学術情報メディア（学術雑誌および学術雑誌論文/電子ジャーナル/研究データ）の特性
- 4) 大学図書館の機能・役割

**学習の到達目標** 学術情報が持つ情報メディアとしての独自の特性を理解するとともに、その背景にある研究者の科学研究活動、大学図書館の役割、学術情報政策などの社会制度などもあわせて、体系的に理解することを期待します。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モ

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1. ガイダンス
2. 科学者集団と学術コミュニケーション
- 3-4. フォーマルコミュニケーションとインフォーマルコミュニケーション
5. 学術雑誌と大学図書館
6. 国際商業出版社と大学図書館
7. 科学論文の構造と形式

チバージョン、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 図書館・情報学概論A, 図書館・情報学概論B

**発展科目** 学術情報論演習

**教科書** 上田修一, 倉田敬子編著. 図書館情報学. 勁草書房, 2013.

## 成績評価方法と基準

成績は、以下の各項目を評価し、総合点を最終的な成績評価とします。

- 1) 授業内容に関する質問&コメント(5%+α)
- 2) 授業内容の理解確認小テスト(15%)
- 3) 小レポート課題(20%)
- 4) 期末試験 (60%)

**オフィスアワー** 第1回目の授業で指示する。

## その他

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

講義で使用したスライドや講義関連の連絡は全てMoodleで行う。受講生はオリエンテーションでの配布資料に基づいて必ず登録を行うこと。

本科目は、図書館司書科目の選択科目です。

8. 学術コミュニケーションの電子化の沿革
- 9-10. 電子ジャーナルの現状と利用実態
- 11-12. 電子ジャーナルの提供と図書館コンソーシアム
13. オープンアクセス運動の契機と実現手段
14. オープンアクセスと学術情報流通の今後
15. 科学と社会

2012年度以降入学生用(文化)**地域環境論A**  
2011年度以前入学生用(文化)**地域環境論A**

Regional Geography A  
Regional Geography A

学期 前期集中 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 谷口智雅 (非常勤講師)

**授業の概要** 地理学における地域の総合的理解では、自然現象と人文現象を個々に捕らえるのではなく、この兩者について総合的かつ相互関係を含めた地誌的アプローチが重要である。このため、本講義では、地域環境の地誌的アプローチについて学びます。

### 学習の目的

- 1.人々が生活する地域・風土・環境の基礎的な知識について学ぶ。
- 2.自然環境と人間活動の関わりについて学ぶ。
- 3.地誌を学ぶことによって、地域環境の総合的アプローチについて理解する。

### 学習の到達目標

- 1.地域・風土・環境についての概説ができる。
- 2.地域性・地域差を理解できる。
- 3.環境と人間活動の関わりを理解できる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回 授業ガンダインス
- 第2～4回 地理学の学問体系と地誌
- 第5～6回 静態地誌

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

**受講要件** 特になし

**教科書** 授業は特にテキストは使用せず、パワーポイント・DVDなどの画像・映像をプロジェクターからスクリーンに投影して講義を進めます。

**成績評価方法と基準** 試験を実施せず、レポートで評価する。授業内課題 (20%)、レポート (60%)、授業の取り組み姿勢 (20%)。

**オフィスアワー** 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業等に支障がない範囲で教室内にて対応します。

- 第7～8回 土地利用と自然環境
- 第11～12回 人間活動と自然環境
- 第13～14回 動態地誌
- 第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)

# 地域環境論B

Regional Geography B

2011年度以前入学生用(文化)

# 地域環境論B

Regional Geography B

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴

能動的要素を加えた授業

担当教員 谷口智雅 (非常勤講師)

## 授業の概要

地域環境の調査・研究の基本である地図に関する講義および実習を行う。前半はフィールドサーベイやその事前準備などで必要とする地形図に関する事項を中心に講義、作業を行う。後半は調査・研究データの処理法や解析・表現方法についての基礎的な知識や技術を身につける。

地域環境を理解するためのデータ解析には基礎知識や分析技術を得ることは当然であるが、分析に対する準備や心構えも大切である。このため、単に分析論に留まらず地域環境評価の手順についても講義する。

## 学習の目的

- 1.人々が生活する地域・風土・環境の発展的な知識について学ぶ。
- 2.自然環境と人間活動の関わりについて学ぶ。
- 3.地域環境の調査・研究方法を学ぶことによって、課題探求と解決能力を身につける。

## 学習の到達目標

- 1.地図を活用して地域・風土・環境の理解ができる。
- 2.統計資料および現地観察によって地域の特徴が理解できる。
- 3.環境と人間活動の関わりを理解できる。
- 4.地域環境学習（モデリング、観察学習、模倣学習）を実践できる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 はじめに
- 第2～4回 地図と地形図
- 第5～6回 人間活動と土地利用図
- 第7～8回 自然環境と環境地図

**本学教育目標との関連** 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 地域の総合的理解には多岐にわたる知識と柔軟な対応が必要である。このため、授業で取り扱う内容の幅広い分野での関連する項目について、各自授業時間外に復習・予習を行うこと。

**教科書** 授業は特にテキストは使用せず、パワーポイント・DVDなどの画像・映像をプロジェクターからスクリーンに投影して講義を進めます。

**成績評価方法と基準** 試験を実施せず、レポートおよびで発表等を含む授業の取り組み姿勢により総合的に評価する。レポート(60%)、授業の取り組み(40%)。

**オフィスアワー** 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業等に支障がない範囲で教室内にて対応します。

**その他** 授業内での作業および野外実習を予定しています。作業実施・実習参加が単位取得の条件にもなるので、注意して下さい。

第9～10回 地域統計と地域環境

第11～12回 地域環境理解のための統計処理

第13～14回 地域環境理解のためのフィールドワーク

第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) 2011年度以前入学生用(文化)

## 文化環境論A

## 文化環境論A

Cultural Geography A

Cultural Geography A

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 中川正

**授業の概要** 日常生活に潜む文化の法則を発見し、学問的アプローチを用いて説明・解釈し、結果をどのように応用できるかを考える方法を実践的に学ぶ。

### 学習の目的

日常的な現象の中から法則性を見出す感性を磨くことができる。

法則性の要因や意味を考えることができる。

発見した内容を応用する視点を身につけることができる。

### 学習の到達目標

本授業を受講することにより、学生は、日常生活から法則を発見する感受性、発見した現象を説明・解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、および、それを公開の場で発表し、議論するためのコミュニケーション力を身につけることができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 課題探求力, 討

論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 文化環境論B

**教科書** 教科書は授業で1500円で販売するので、事前購入はしないこと。法則研究プラザ編『法則探検に出かけよう』三重大学出版会、2007年。

**成績評価方法と基準** 毎回e-learningシステムムードルにアップする課題(50%)、法則発見のレポートおよびプレゼンテーション(50%)

**オフィスアワー** 毎週木16:30~17:30 場所 教養教育2号館307研究室

### その他

グループ作業があるので、無断欠席や遅刻は減点となる。

共通教育開放科目 (法則探検入門)

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

日常生活に潜む法則の発見、説明・解釈、応用の一連の作業を、小グループで行い、法則カフェと呼ばれる社会公開の場でプレゼンテーションを行う。

前期

1. 文化法則探検の方法 (1~3回)

2. 空間的・時間的・集団的パターンの発見 (4~6回)

3. 説明と解釈 (7~8回)

4. 応用 (9回)

5. グループ作業 (10~13回)

6. 発表 (14~15回)

2012年度以降入学生用(文化)**文化環境論D**  
2011年度以前入学生用(文化)**文化環境論D**

Cultural Geography D  
Cultural Geography D

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 北川 真也 (人文学部)

**授業の概要** 本授業では、時事的な諸問題を通して、現在のヨーロッパについて考察します。統合と拡張がすすんできたヨーロッパですが、昨今ではその危機について大いに語られてきました。しかしその一方で、新たな展望を示すような様々な社会的・政治的契機も生まれてきています。ヨーロッパには様々な地域間の差異もありますが、国民国家とは別種の空間を形成するEU/ヨーロッパは、現代世界の趨勢を把握する上で極めて重要な舞台でもあります。授業では、ヨーロッパの現状について論じる種々の論考の読解を通して、ヨーロッパ、さらには現代世界について理解を深めていきます。

**学習の目的** 目的は、現在のヨーロッパについての基礎的な知識を得ること、時事的諸問題を思考する上で不可欠となる一定の思考の鍵となる概念や様々な行為者のあいだの関係性(EU、国家、民衆など)に基づいて、時事的諸問題を自分で考察できるようになることです。

**学習の到達目標** 目標は、現在のヨーロッパについての基礎的な知識を得ること、時事的

諸問題を思考する上で不可欠となる一定の思考の鍵となる概念や様々な行為者のあいだの関係性(EU、国家、民衆など)に基づいて、時事的諸問題を考察して、それを適切に表現(口頭、議論、文章)できるようになることです。また、時事的諸問題をきっかけに、思考・研究することを身につけられるようになることも目的です。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力

**発展科目** ヨーロッパ・地中海の風土と地誌, ヨーロッパ・地中海地誌演習

**教科書** 特にありません、

**成績評価方法と基準** 授業での発言・感想・問いかけ 50点、レポート 50点

**オフィスアワー** 木曜日の12時~13時、研究室

**その他** 講義形式とはしていますが、授業ではあらかじめ論考を配布し、精読してきてもらうことも多々ありますし、またそれに基づいてグループワークをすることも考えています。

---

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回~第14回 ヨーロッパの時事的諸問題の考

察

第15回 おわりに



# 自然環境論A

## Physical (Natural) Environment A

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 2011年度以前入学生用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 朴 恵淑

### 授業の概要

・地域及び地球規模の環境問題、特に、地球温暖化、生物多様性、大気汚染、PM2.5などを中心として、環境地理学の本質及び役割について学ぶ。

・持続可能な開発のための教育(ESD)について学ぶ。ESDには、環境教育、エネルギー教育、防災教育、生物多様性教育、気候変動(地球温暖化防止)教育、世界遺産や文化財などに関する教育、国際理解教育、その他(平和、人権、男女共同参画など)が含まれる。

### 学習の目的

・地域及び地球規模の自然環境と人間との相互作用を探る。  
・環境と人間との関係を探る環境地理学の本質及び役割について考える。

### 学習の到達目標

・教員となる意志を持つ学生を対象に行う授業なので、自然環境に関する知識を修得し、実践力の高い学生を育つ。

・地球温暖化や生物多様性など、自然環境問題に対する問題解決に向けた方策を考える。

・Think Globally! Act Locally! を実践できる人材を育成する。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 成績評価方法と基準

- ・出席率 20%
- ・レポート 60%
- ・発表(プレゼンテーション) 20%

**オフィスアワー** 月曜日から金曜日まで、授業及び出張以外の午前10時から午後10時までの時間は、朴研究室にていつでもOK。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

『授業計画』

- 第1回 自然環境論基礎 (その1)
- 第2回 自然環境論基礎 (その2)
- 第3回 地球温暖化の科学的知見
- 第4回 地球温暖化の影響
- 第5回 地球温暖化の対策・国際的取り組み
- 第6回 生物多様性
- 第7回 アジアの環境問題 (越境性大気汚染・酸性雨・黄砂・PM2.5)

- 第8回 アジアの環境問題 (生物多様性)
- 第9回 アジアの国際環境協力
- 第10回 日本の4大公害 (水俣病・イタイイタイ病・新潟水俣病・四日市ぜんそく)
- 第11回 持続可能な開発のための教育(ESD)
- 第12回 ユネスコスクール
- 第13回 ESD実践 (その1)
- 第14回 ESD実践 (その2)
- 第15回 総括

# 比較思想

2012年度以降入学生用(文化)

2011年度以前入学生用(文化)

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 片倉 望 (人文学部)

# Comperative Philosophy Comperative Philosophy

**授業の概要** エジプトの『アニのパピルス』、旧約聖書、新約聖書の『ナグ・ハマディ写本』、涅槃系の仏典、『莊子』等を資料とし、世界の思想の根底にある人間観、死生観を概観し、その比較、考察を行う。

**学習の目的** 適当な概説書を、これまた適当にコピーしてネット上に展開されている根拠のない東西思想、東西宗教の解説のいい加減さを見破る。

**学習の到達目標** 資料からものを考えていく

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

世界の「四大思想」という言い方がある。四大文明から連想された言葉とも思われるが、そこでは、エジプト、メソポタミアは除かれていて、代わりにユダヤとギリシアが含まれている。そもそも、四大文明という呼称には、それ自体問題があり、エジプト、メソポタミアと他の二者との間には、ざっと2000年ものタイムラグがある。従って、ギリシア、ユダヤ、インド、中国の思想を並列に扱うという研究の立場は、ほぼ同時代にそれぞれの文明が排出した思想家、文献を考慮に入れるなら、それなりに納得できないものではない。とは言え、ギリシア、ユダヤの思想には、実はそれ以前に隆盛を極めたエジプトの思想が多くの影響を与えているのであり、また、ギリシア、ユダヤの思想が融合的に展開したものとしては、グノーシス派のキリスト教の思想がある。近年、エジプトの死生観を知る好個の資料として『アニのパピルス』が、また、グノーシス派の思想を知る資料としては、『ナグ・ハマディ写本』『ユダの福音書』等が出土し、既に多くの研究者の手によってその研究成果と本文の注釈、及び、全文の写真、翻訳等が上梓されている。そこで本講義では、これらの一次資料と研究成果と踏まえ、世界の四大思想の人間観、及び死生観を概観してみることにしたい。

力を身につける。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**教科書** 適宜、資料をプリントにて配付する。

**成績評価方法と基準** 授業態度40%、定期試験60%

**オフィスアワー** 講義終了後、一時間程度。

- 第一回 比較思想イントロ 四大文明と四大思想
- 第二回 エジプトの死生観・心身観 (1) ピラミッド・テキストとコフィン・テキスト
- 第三回 エジプトの死生観・心身観 (2) 『死者の書』とは何か
- 第四回 エジプトの死生観・心身観 (3) アニのパピルス
- 第五回 ユダヤの死生観・心身観 (1) 旧約『聖書』の文献学
- 第六回 ユダヤの死生観・心身観 (2) ノアの箱舟と「ギルガメッシュ叙事詩」
- 第七回 ユダヤの死生観・心身観 (3) 「出エジプト記」の真実
- 第八回 原始キリスト教の死生観・心身観 (1) 新約『聖書』の文献学
- 第九回 原始キリスト教の死生観・心身観 (2) 「ナグ・ハマディ写本」を資料として
- 第十回 原始キリスト教の死生観・心身観 (3) 「マグダラのマリア福音書」と「ユダの福音書」
- 第十一回 原始仏教の死生観・心身観 (1) 仏陀の生涯とその思想
- 第十二回 原始仏教の死生観・心身観 (2) 『サンユッタ・ニカーヤ』の悪魔と新約『聖書』の悪魔
- 第十三回 古代中国思想の死生観・心身観 (1) 儒家
- 第十四回 古代中国思想の死生観・心身観 (2)

道家『莊子』を中心として  
第十五回 四大思想の死生観と心身観とを通観

して

# 2012年度以降入学生用(文化)**比較社会論** **Sociology from Comparative Perspective** 2011年度以前入学生用(文化)**比較社会論** **Sociology from Comparative Perspective**

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

**授業の概要** グローバル化とともに移民現象が拡大し、多様化する傾向にある。この授業では、移民と受け入れ社会の関係を理解することを旨とする。

## 学習の目的

- ・日本・アジア地域と、欧米の事例を紹介しながら、エスニシティ、トランスナショナル、ディアスポラといった概念で移民現象を分析する。
- ・地域の国際化にともなう多文化共生のあり方、子どもの教育支援などについて、現状と課題を理解することができる。

## 学習の到達目標

- ・グローバル化によるヒトの移動に関する知識を深めるとともに、地域の国際化をめぐる課題への応用力を身につける。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 第1-2回 グローバル化と移民現象
- 第3-4回 移民とエスニシティ - 日本・アジア・欧米の事例 -
- 第5-7回 トランスナショナル現象・ディアスポラ現象

- ・多文化社会の現状および影響について、学生それぞれの専門分野と関連づけて分析することができる。

**本学教育目標との関連** 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

**教科書** 西原和久・樽本英樹編著『現代人の国際社会学・入門—トランスナショナルリズムという視点』有斐閣 (2016)

**成績評価方法と基準** 期末レポート70%、授業中のコメントカード等を通じた理解度・関心の深まり30%、計100%

**オフィスアワー** 木曜日7～8限。

**その他** 2014年度入学生より、2年次から履修できます。

- 第8-9回 日本への移民
- 第10-11回 グローバルな現象と地域の変化
- 第12-13回 外国出身の子どもへの学習・進学支援
- 第14-15回 地域における国際化への対応
- 第16回 期末レポート

2012年度以降入学生用(文化)

# 日本文化研究

Studies in Japanese Culture

2011年度以前入学生用(文化)

## 日本研究総論

Introduction to Japanese Studies

学期 前期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 授業の方法 講義

担当教員 日本地域所属教員 (○永谷 健 (人文学部))

**授業の概要** 日本の地域・文化についての研究入門

**学習の目的** 日本の地域・文化に関する各研究分野において、高度な専門研究が可能となるよう、基礎的な知識・技能を身につける。

**学習の到達目標** 日本の思想・歴史学・考古学・文学・言語学・地誌・社会学・民俗学などについて、基礎的な知識を得る。3年次以降の研究分野・研究テーマを考える手掛かりを得る。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

日本地域所属の教員が、統一テーマに即して、各研究分野の視点から講義を行う。教員によるリレー講義の前に、受講生には統一テーマに関するレポートを課す(5月初旬に提出)。レポートの執筆の仕方、注意事項については、授業中に説明する。カリキュラムの予定は以下の通り。

1～3: オリエンテーション、事前レポートの

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 必要に応じて各教員から指示する場合があります。

**成績評価方法と基準** レポート(5月初旬に提出) 30%、期末試験70%。なお、レポート未提出者と4回以上の欠席者は、受験資格を認めない。

#### 取り組み

4～6: 日本史・考古学

7～10: 日本語・日本文学

11: 社会学

12: 地誌学

13: 哲学思想

14: 総括

15: 質疑応答

(※上記予定は、変更する場合があります)

2012年度以降入学生用(文化)**日本の思想C**  
2011年度以前入学生用(文化)**日本の思想C**

Japanese Thought C  
Japanese Thought C

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 遠山敦 (人文学部)

**授業の概要** 日本近世に関わる代表的な文献を数点選定し、具体的な詞章に即しつつ、また関連する資料にも言及しながら、問題点について解説を加えてゆく。

**学習の目的** 武士が自らをどのような存在として考えていたか、その自覚の姿を『葉隠』等の基本的な文献に即して理解することができる。また近松や西鶴などの近世文芸に現れた倫理観について、主要な作品に即して基本的な理解を得ることができる。

**学習の到達目標** 武士の思想について、歴史的な変遷を踏まえた基本的な理解が得られる。また近松や西鶴の作品を通じて、近世の

文芸が持つ基本的な性格についての知識を得ることができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**教科書** 相良亨編『日本思想史入門』(ペリカン社)

**成績評価方法と基準** 期末筆記試験; 80%, 中間レポート; 20%

**オフィスアワー** 金曜日7~8限(その他応需)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. ガイダンス (第1回)
2. 武士の思想 (第2回~第8回)
  - a) 武士であることの自覚の変遷
  - b) 『葉隠』の武士道と儒教的士道論

3. 文芸に見られる近世的思惟の特徴 (第9回~第14回)
  - a) 西鶴諸作品に見られるこの世観
  - b) 近松作品に見られる情把握
4. まとめ (第15回)

2012年度以降入学生用(文化)

# 日本の思想D

Japanese Thought D

2011年度以前入学生用(文化)

# 日本の思想D

Japanese Thought D

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

**授業の概要** 日本近世に関する代表的な文献を数点選定し、具体的な詞章に即しつつ、また関連する資料にも言及しながら、問題点について解説を加えてゆく。

**学習の目的** 日本において儒学、とりわけ宋学がどのように受容され、展開していったか、またそこでは何が問われていたのかについて基本的な理解を得ることができる。また儒学に対抗して現れた国学について、基本的な問題意識を理解することができる。

**学習の到達目標** 日本近世儒学の展開や、国学の思想運動について、基本的な知識を得る

ことができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**教科書** 相良亨編『日本思想史入門』(ぺりかん社)

**成績評価方法と基準** 期末筆記試験; 80%、中間レポート; 20%

**オフィスアワー** 毎週金曜日7-8限(その他応需)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. ガイダンス (第1回)

2. 近世儒教の需要と展開

a) 朱子学の概要 (第2~3回)

b) 日本朱子学派における敬の重視 (第4回)

c) 日本の陽明学の特質 (第5回)

d) 古学派の展開①~伊藤仁斎~ (第6~8回)

e) 古学派の展開②~荻生徂徠~ (第9~10回)

3. 国学の展開

a) 前期国学 (第11回)

b) 本居宣長の国学 (第12~14回)

4. まとめ (第15回)

2011年度以前入学生用(文化) **日本の歴史A**

Japanese History A

2011年度以前入学生用(文化) **日本の歴史A**

Japanese History A

**学期** 前期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 山田 雄司 (人文学部)

**授業の概要** 日本歴史に登場したさまざまな怨霊を検討することにより、怨霊とはどのような存在だったか考察し、現代にまで伝えられてきた理由を解明する

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** これまでとは違った観点から日本の歴史に触れることで、さまざまな観点からものごとを考えることができるようになる。

**教科書** 山田雄司『怨霊とは何か』（中央公論新社、2014年）

**学習の到達目標** 高校までの日本史ではほとんど触れられることのなかった怨霊について認識を深めることにより、日本人とは何かという点について再考する。

**成績評価方法と基準** 小テスト20%、期末試験80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日14:40~16:10、場所山田研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス  
第2回 日本人の神観念  
第3回~5回 怨霊の成立

第6回~8回 平将門  
第9回~11回 菅原道真  
第12回~14回 崇徳院  
第15回 まとめ



2012年度以降入学生用(文化) **日本の歴史B**

Japanese History B

2011年度以前入学生用(文化) **日本の歴史B**

Japanese History B

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

**授業の概要** 日本の歴史上発生した「怪異」について、それはどのようなもので、国家や社会にいかなる影響を与えたのかを考察する。

**学習の目的** 朝廷・神社・寺院で発生した怪異について検討することにより、怪異が歴史上果たした役割について考察する。

**学習の到達目標** 高校までの日本史ではほとんど触れられることのなかった怪異について認識を深めることにより、日本人とは何かという点について再考する。史料読解力をつけ

る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 小テスト20%、期末試験80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日14:40~16:10、場所山田研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：怪異とは

第2~3回：朝廷での怪異

第4~5回：陵墓での怪異

第6回~8回：伊勢神宮での怪異

第9回：石清水八幡宮での怪異

第10回：春日大社・多武峯での怪異

第11回 多田院・水無瀬廟での怪異

第12回 その他神社・寺院での怪異

第13・14回 さまざまな怪異

第15回 不思議な現象

2012年度以降入学生用(文化)**日本の歴史F**

2011年度以前入学生用(文化)**日本の歴史F**

Japanese History

Japanese History

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 塚本明 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 三重県域に残る江戸時代の古文書(崩し字史料)のなかから、宗門人別帳や婚姻・養子入り時の史料など家族に関するものを取り上げ、それらを読み解くことで当時の家と村社会の特質を考える。

### 学習の目的

江戸時代の史料の読み方を習得する。  
江戸時代の家と社会の仕組みを理解する。  
三重県の歴史文化について知識を深める。

### 学習の到達目標

江戸時代の史料が読めるようになる。  
江戸時代の家と社会の仕組みが理解できるようになる。  
三重県の歴史文化について深い知識を持てるようになる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

予定している主な内容は以下の通り。ただし、受講生の理解・習熟度に応じて変更することがある。

- 1、オリエンテーション：授業の進め方＋問題の所在(「家族」研究の視点)
- 2、江戸時代の人別把握制度(宗門人別改帳の実態と課題)

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育の日本史など歴史学関連科目。

**発展科目** 日本歴史演習など。

**教科書** 授業中に随時指定。

**成績評価方法と基準** 授業中のコメントカード、史料読み40%、定期試験かレポート60%

**オフィスアワー** 授業終了後の昼休み及び木曜日4コマ目。教室、塚本研究室

**その他** ＊随時、史料の読み方についての小テストを行う。

3～4、宗門人別改帳による家族復元Ⅰ・Ⅱ

5～8、奥熊野における人別移動(高齢結婚、手続き前の事実婚、逃げ帰った母子、幼少の養子と離縁、など)

9～11、奥熊野の家族の諸相(家族の引越、出奔、老人の処遇、など)

12～15、事件記録より見る一女性の生涯

2012年度以降入学生用(文化)**日本の言語C**  
2011年度以前入学生用(文化)**日本の言語C**

Japanese Linguistics C  
Japanese Linguistics C

**学期** 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 川口 敦子 (人文学部)

**授業の概要** 上代から現代にいたるまでの日本語の研究史について学習する。

**学習の目的** 日本語研究に関する知識を得ることで、古代から現代にいたる日本語および日本語研究の歴史について理解を深めることができる。

### 学習の到達目標

日本語研究の歴史について、主要な事象や資料を挙げて、説明することができる。  
古代から現代までの核時代における日本語研究について、具体的な資料や事例と関連づけて説明することができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 日本の言語D

**教科書** 馬淵和夫・出雲朝子『国語学史』(笠間書院2007年)

**成績評価方法と基準** 期末試験 (80%) , 提出物や受講態度 (20%) で総合的に判断する。

**オフィスアワー** 随時。ただし必ず事前にメール等でアポイントを取ることを。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 1: ガイダンス
- 2: 国語学史の意義
- 3: 古語の意識から注釈語学へ (1)
- 4: 古語の意識から注釈語学へ (2)
- 5: 音韻研究 (1)
- 6: 音韻研究 (2)
- 7: 音韻研究 (3)
- 8: 音韻研究 (4)

- 9: 仮名遣研究 (1)
- 10: 仮名遣研究 (2)
- 11: 仮名遣研究 (3)
- 12: 仮名遣研究 (4)
- 13: 仮名遣研究 (5)
- 14: 国語音韻の研究
- 15: 国語アクセントの研究
- 16: 試験

2012年度以降入学生用(文化)**日本の言語D**

Japanese Linguistics D

2011年度以前入学生用(文化)**日本の言語D**

Japanese Linguistics D

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

**授業の概要** 上代から現代にいたるまでの日本語の研究史について学習する。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 日本語研究に関する知識を得ることで、古代から現代にいたる日本語および日本語研究の歴史について理解を深めることができる。

**予め履修が望ましい科目** 日本の言語C

**教科書** 馬淵和夫・出雲朝子『国語学史』(笠間書院2007年)

### 学習の到達目標

日本語研究の歴史について、主要な事象や資料を挙げて、説明することができる。

**成績評価方法と基準** 期末試験 (80%) , 提出物や受講態度 (20%) で総合的に判断する。

古代から現代までの核時代における日本語研究について、具体的な資料や事例と関連づけて説明することができる。

**オフィスアワー** 随時。ただし必ず事前にメール等でアポイントを取ることを。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

1: ガイダンス

2: 文法研究 (1) 歌学より文法研究へ

3: 文法研究 (2) 富士谷成章

4: 文法研究 (3) 富士谷成章の学問の流れ

5: 文法研究 (4) 本居宣長・本居学派

6: 文法研究 (5) 西洋文法学の渡来

7: 文法研究 (6) 明治以後の研究

8: 語意研究 (1)

9: 語意研究 (2) 中世の諸辞書

10: 語意研究 (3) 近世の諸辞書

11: 語意研究 (4) 近代の諸辞書

12: 方言研究 (1)

13: 方言研究 (2)

14: 外国人の日本語研究 (1)

15: 外国人の日本語研究 (2)

16: 試験

2012年度以降入学生用(文化) **日本の言語E**

Japanese Linguistics E

2011年度以前入学生用(文化) **日本の言語E**

Japanese Linguistics E

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 福沢 将樹 (愛知県立大学)

**授業の概要** 日本語の品詞と活用

識・技術, 論理的思考力

**学習の目的** 学校文法の考え方だけが唯一のものではないことを理解し、日常生活に見られる様々な語法にも注意と関心を持つこと。

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 日本の言語F

**学習の到達目標** 日本語学の基本的な専門用語と問題点を理解する。

**教科書** 特になし

**成績評価方法と基準** 試験 (100%)

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知

**オフィスアワー** なし

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1: イントロダクション

9: 活用3 文の成分と品詞・活用

2: 言語の単位

10: 品詞3 文の成分と品詞の諸問題

3: 音韻論と形態論

11: 節と文

4: 品詞1 単語の種類

12: 文の種類

5: 品詞2 単語の諸問題

13: 文章展開の型

6: 活用1 活用の種類と活用形

14: 品詞4 文章展開から見た品詞

7: 活用2 活用の諸問題

15: まとめ

8: 文の成分

16: 試験

2012年度以降入学生用(文化)**日本の言語F**  
2011年度以前入学生用(文化)**日本の言語F**

Japanese Linguistics F  
Japanese Linguistics F

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 福沢 将樹 (愛知県立大学)

**授業の概要** 日本語の語構成

識・技術, 論理的思考力

**学習の目的** 学校文法の考え方だけが唯一のものではないことを理解し、日常生活に見られる様々な語法にも注意と関心を持つこと。

**予め履修が望ましい科目** 日本の言語F

**発展科目** 特になし

**学習の到達目標** 日本語学の基本的な専門用語と問題点を理解する。

**教科書** 特になし

**成績評価方法と基準** 試験 (100%)

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知

**オフィスアワー** なし

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

1: イントロダクション

2: 語と単語

3: 多義語と同音異義語

4: 語構成1 単語と形態素

5: 語構成2 複合と派生

6: 語構成の諸問題1 ミスマッチ・句の包摂

7: 語構成の諸問題2 付属語と接語・形式語

8: 文法化形式1 副助詞・接続助詞

9: 文法化形式2 補助動詞

10: 文法化形式3 複合辞

11: 相互承接

12: 文と文章

13: 語と意味・意義

14: 再び語と単語、意味と意義

15: まとめ

16: 試験

**授業の概要** 日本の伝統的話芸と近世文学作品のうち口語的要素の大きい作品を学ぶ。

**学習の目的** 日本の伝統的話芸と近世文学作品のうち口語的要素の大きい作品にどのような種類があり、どのような特徴があるのかを学ぶ。

**学習の到達目標** 日本の伝統的話芸に関して、簡単な実演をまじえることで、その特性を体感する。近世文学作品のうち口語的要素の大きい作品について、実作を行うことで、その特性を学ぶ。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

**受講要件** 日本古典文法の知識を有することが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** 江戸時代史の授業。日本学(芸能関係)。

### 成績評価方法と基準

授業課題40%。

期末試験60%。授業の内容に即して、各伝統的話芸や文学作品の内容と特徴を答えてもらう。

**オフィスアワー** 火曜日の昼休み。長い時間が必要なものはメールにて相談のこと。木曜日の午後がたいてい空いている。

**その他** 前近代に作られた作品が多いので、現代の人権意識にそぐわない表現が出てくるのが珍しくない。また、遊里や性愛を描く場面がある。以上を了解したうえで受講のこと。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 一回 江戸時代文学の概説
- 二回 噺本
- 三回 談義本
- 三回 滑稽本
- 四回 近世前期の話芸 鹿野武左衛門・露五郎兵衛・米沢彦八
- 五回 落語中興の祖 烏亭馬馬
- 六回 江戸落語の流れ
- 七回 三遊亭円朝と人情噺
- 八回 上方落語の流れ
- 九回 江戸時代の講談 軍記と仏教講談

十回 明治以降の講談 講談本との関係

十一回 かたる・よむ・うたう・はなす

十二回 浪曲 広沢虎造の時代

十二回 万歳と漫才 放浪芸からエンタツ・アチャコへ

十三回 芸能としての口上茶番1

十四回 芸能としての口上茶番2

十五回 まとめ

授業内で文学作品を読んだり、芸能作品を実演してもらうことがある。

実演はその特徴がつかめる程度の短いものである。

2012年度以降入学生用(文化)

# 日本の文学I

Japanese literature I

2011年度以前入学生用(文化)

# 日本の文学I

Japanese literature I

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 坂 堅太 (人文学部)

**授業の概要** 昭和20年代の文学作品を読みながら、当時の社会状況との関係について考察する。

**学習の目的** 日本近代文学を研究するための基本的な知識を方法を修得する。

**学習の到達目標** 戦後日本についての理解を深める。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知

識・技術, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** テクストを適宜配布する。

**成績評価方法と基準** 授業への意欲30%、期末テスト70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する。

**オフィスアワー** 火曜日12~13時、場所：研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 第1回 イントロダクション（「第一の戦後」／「第二の戦後」について）①
- 第2回 イントロダクション（「第一の戦後」／「第二の戦後」について）②
- 第3回 敗戦国の情景①
- 第4回 敗戦国の情景②
- 第5回 戦後民主主義と戦争責任論①
- 第6回 戦後民主主義と戦争責任論②

- 第7回 戦後民主主義と戦争責任論③
- 第8回 戦後民主主義と戦争責任論④
- 第9回 「逆コース」への抵抗①
- 第10回 「逆コース」への抵抗②
- 第11回 「逆コース」への抵抗③
- 第12回 戦後国民文学論争の提起したもの①
- 第13回 戦後国民文学論争の提起したもの②
- 第14回 戦後国民文学論争の提起したもの③
- 第15回 まとめ



**授業の概要** 「サラリーマン」・「会社員」表象の歴史に着目し、そこに埋め込まれた日本社会の価値観とその変容を考察していく。

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 学習の目的

日本近代文学を研究するための基本的な知識を方法を修得する。

**教科書** 適宜プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 授業への意欲30%、期末テスト70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する。

**学習の到達目標** ある社会的表象がどのような力学の下で編成されていくかを理解する。

**オフィスアワー** 火曜日12~13時、場所: 研究室

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「サラリーマン」前史: 「俸給生活者」と「腰弁」
- 第3回 大正・昭和期の「サラリーマン」 (1): 日本最初の「サラリーマン」論とは
- 第4回 大正・昭和期の「サラリーマン」 (2): 「プチ・ブルジョワジイ」の苦悩
- 第5回 大正・昭和期の「サラリーマン」 (3): 小市民映画を見る (小津安二郎『生れてはみたけれど』)
- 第6回 大正・昭和期の「サラリーマン」 (4): 戦時体制下における産業戦士として
- 第7回 戦後・高度成長期の「サラリーマン」 (1): 源氏鶏太のサラリーマン小説

- 第8回 戦後・高度成長期の「サラリーマン」 (2): 「BG」の登場
- 第9回 戦後・高度成長期の「サラリーマン」 (3): 「社長シリーズ」と高度成長
- 第10回 戦後・高度成長期の「サラリーマン」 (4): 「平均的日本人像」へ
- 第11回 戦後・高度成長期の「サラリーマン」 (5): クレイジー映画の批評性
- 第12回 高度成長以後の「サラリーマン」 (1): 社会の歯車として
- 第13回 高度成長以後の「サラリーマン」 (2): バブルと「失われた十年」
- 第14回 高度成長以後の「サラリーマン」 (3): 「社畜」あるいは「勝ち組」
- 第15回 まとめ

**授業の概要** 歌舞伎・文楽・落語・講談・黄表紙・噺本・川柳を通して仮名手本忠臣蔵を学ぶ。

**学習の目的** 近世の様々な芸能や文学作品の特徴を仮名手本忠臣蔵にまつわる作品を通じて学ぶとともに、仮名手本忠臣蔵にこめられた日本の精神の探究を行う。

**学習の到達目標** 仮名手本忠臣蔵に親しむことで、日本の伝統芸能を観に行ったり、古典作品を読む習慣を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力

**受講要件** 日本古典文法の知識を有すること。漢文法の基礎知識を有すること。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育「演劇入門」

**教科書** 附属図書館の文楽『通し狂言 仮名手本忠臣蔵』は宿題として全話視聴を求める。ただし購入の必要はない。

**成績評価方法と基準** レポートと小テストで六割。期末レポートかテストで四割。レポートとは本を読んだり、DVDをみて、その感想をMoodleに記す宿題のこと。小テストは実際に読んだか、内容を問う。期末をレポートにするかテストにするかは、諸君の学習状況をみて判断する。

**オフィスアワー** 火曜日の昼休み。長い時間が必要な者には別に時間を設けるのでメールで相談のこと。木曜日の午後がたいてい空いている。

**その他** 江戸時代に書かれた小説のため、現代の人権意識にそぐわない表現が出てくることがある。また、遊里や性愛を描く場面がある。以上を了解したうえで受講のこと。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 一回 赤穂事件の史実
- 二回 大序
- 三回 三段目・四段目
- 四回 歌舞伎舞踊 道行旅路花婿
- 五回 文楽の語り
- 六回 五段目・六段目
- 七回 落語「中村仲蔵」と落語芝居噺

- 八回 七段目
- 九回 落語「七段目」
- 十回 八段目・九段目
- 十一回 十一段目 歌舞伎のタテ
- 十二回 外伝物の世界 講談と忠臣蔵
- 十三回 忠臣蔵黄表紙の世界
- 十四回 忠臣蔵と噺本
- 十五回 忠臣蔵と川柳

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本の社会A**

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本の社会A**

Japanese Society A  
Japanese Society A

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 永谷 健 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 近現代日本の職業社会や競争社会の変容に関して、社会学はどのような視点で研究を行い、また、どのような知見をもたらしてきたのかについて、身近なトピックをもとに検討する。さらに、近代以降の日本における産業社会や文化に関する理解を深める。

**学習の目的** 近現代日本の職業社会・競争社会が抱える諸問題を、社会学の視点から考察する。

**学習の到達目標** 近現代日本の職業社会・競争社会に内在する問題点はどのようなものかを、社会学の諸理論をもとに説明できるようになる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

授業内容

第1回 格差社会とは何か？〔第一部の概説〕

第2回 近代化と競争社会の到来

第3回 職業社会と階層（「社会的再生産論」を中心に）

第4回 現代の格差論議

第5回 中流幻想と格差の是正

第6回 若者層と職業：「ニート」論争〔第二部の概説〕

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** とくになし。

**予め履修が望ましい科目** とくになし。

**発展科目** 日本社会演習

**教科書** 授業の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 筆記テスト50%、レポート50%、計100%。

**オフィスアワー** 月曜日16：30～17：30

第7回 近代日本における「成功」の意味

第8回 競争社会に内在する矛盾

第9回 「トーナメント型移動」の功罪

第10回 中間まとめ

第11回 失敗の社会学1

第12回 失敗の社会学2

第13回 年功主義と成果主義〔第三部の概説〕

第14回 人材管理の諸戦略

第15回 人材管理に見る文化的特質

2012年度以降入学生用(文化)

# 日本の社会B

Japanese Society B

2011年度以前入学生用(文化)

# 日本の社会B

Japanese Society B

学期 後期 開講時間 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 現代日本における格差状況の歴史的な背景については、意外に知られていない。本講義では、近代以降の日本社会の変化を、歴史社会学の観点から検討する。とくに、階層社会の成立と変容のプロセスとはどのようなものか、また、そうしたプロセスに対して各時代の人々はいかに適応してきたのかについて、具体的なトピックや統計データをもとに考える。

**学習の目的** 現代日本の格差状況の歴史的な背景を、社会学理論や社会学の研究手法を用いて考察する。

**学習の到達目標** 近代以降の日本社会の変化を、社会的な視点で捉えることができるよ

うになる。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** とくになし。

**予め履修が望ましい科目** とくになし。

**発展科目** 日本社会演習

**教科書** なし。

**成績評価方法と基準** レポート50%、筆記試験50%、計100%。

**オフィスアワー** 火曜日12:00~13:00

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

授業内容

第1回 現代日本と二つの近代化

第2回 近代化と日本社会（産業化と西洋化の関連で）

第3回 近代化の推進力と宗教

第4回 近代化と若年層の野心（立身出世主義との関連で）

第5回 教育制度の整備と若年層の進路

第6回 冒険的企業家の輩出と階層社会

第7回 近代化と家族国家観1

第8回 近代化と家族国家観2

第9回 中間まとめ

第10回 メディアと近代日本1

第11回 メディアと近代日本2

第12回 時代の閉塞感と野心の行方

第13回 戦前の“超格差社会”とその行きづまり

第14回 戦後日本社会における富と文化の平準化

第15回 戦後中流社会の変容

# 2012年度以降入学生用(文化)日本の風土と地誌A

Geographical study on Japan A

## 2011年度以前入学生用(文化)日本の風土と地誌A

Geographical study on Japan A

学期 前期 開講時間 火 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 森正人

**授業の概要** 地域や空間への思考を実践/思考するとはどのようなことなのか。この授業は、日本における都市の状況を講義し、また現地に実際に足を運んで見聞きした後、受講生が自らの関心を持つ地域や都市を選び、それについて調べて発表を行う。

**学習の目的** 地誌を実地調査をととして記すための調査方法、視角を学ぶ

**学習の到達目標** 本講義を内容を通じて、人間と文化と自然と土地との関わりを学ぶ。またその調査の仕方を学ぶ。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力

**受講要件** 学外での授業を土曜日に行くことがある。これらに参加することができること。

**予め履修が望ましい科目** 地理学概論 (比較地域論)

**発展科目** 日本地誌演習。担当教員のゼミを選択する場合にはこの科目の取得が前提となっている。

**教科書** 中川正ほか『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ

**成績評価方法と基準** 事前学習 (40) 、調査報告およびレポート (60%)

### オフィスアワー

火曜日：12：00～13：00 (森研究室)

ただし事前にアポイントを取ること

**その他** 学外での巡検の交通費等は各自が負担する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1 ガイダンス

2～3 古い都市の形

4～5 松阪市巡検

6～7 門前町の形態

8～9 伊勢市巡検

10～11 近代都市

12-14 地誌を作成するための技法

15 授業のまとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本の風土と地誌B**

Geographical study on JapanB

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本の風土と地誌B**

Geographical study on JapanB

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義, 実習 **授業の特徴** PBL, Moodle

**担当教員** 森 正人

**授業の概要** 物質性、視覚性、地理的想像力との関係性を理解する

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力

**学習の目的** 近代以降の日本において、どのような視覚的イメージがどのような過程で生産されてきたのか、それが特定の場所のイメージとどのように結びついているのか理解する

**受講要件** 積極的に授業に臨むこと。

**予め履修が望ましい科目** 地理学概論

**発展科目** 日本地誌演習

**成績評価方法と基準** レポート50%、事前学習および振り返り50%

**学習の到達目標** 視覚イメージと場所のイメージとの関係性を検討する力を得る。

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00-13:00

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 1 ガイダンス
- 2 近代国民国家と地誌・地図編纂事業
- 3 国家を見せる
- 4 北の辺境を撮る
- 5 戦争と自己イメージ
- 6 松浦武四郎記念館での調査で代替
- 7 近代観光と視覚

- 8 戦後の観光と風景美
- 9 沖縄への想像力
- 10 各自で関宿の調査
- 11 都市への視線
- 12 視覚化される「西洋」と合理的生活
- 13 戦後日本のライフスタイル表象
- 14 身体空間への視線
- 15 公害と身体

## 2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学特講B**

Lecture on Japanese Archaeology B

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学特講B**

Lecture on Japanese Archaeology B

**学期** 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 清水 みぎ(非常勤講師)

**授業の概要** 長岡京の研究―遺跡と文字資料  
―

解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力,  
コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 日本古代の転換期である8世紀末  
の宮都を出土文字資料から考察する。

**教科書** 授業に必要な資料はプリントして配  
布する。

**学習の到達目標** 考古学はいかに出土文字資  
料と向き合うかを理解し、教育の場や博物館  
展示などに役立つ実力をつける。

**成績評価方法と基準** 授業への参加度20%、  
提出物20%、期末試験60%

**本学教育目標との関連** 共感, 主体的学習力,  
幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題

**オフィスアワー** 申し出があれば、別途日時  
を指定する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 奈良時代の園と交通

第3回 行基の院と文字瓦

第4～5回 長岡京遷都の論理

第6回 長岡京の造営過程

第7回 春宮坊木簡と二人の皇太子

第8回 古代の乗り物、輿の復元

第9回 東院(内裏)木簡の意義

第10回 東院～平安京遷都

第11回 厨の食器の食料供給

第12回 宮都と地方の墨書土器

第13回 文字資料と宮都の宅地配置

第14回 民衆と文字一告知札

第15回 まとめ

第16回 試験

# 日本考古学特講E

## Lecture on Japanese Archaeology E

**学期** 前期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **市民開放授業**  
**担当教員** 山中 章(非常勤講師)

**授業の概要** 日本古代の地方に所在した官衙遺跡に関する講義。

**学習の目的** 日本古代に地方にはどのような官衙が配置され、いかなる機能を発揮したのかについて、考古資料を中心に分析する。

**学習の到達目標** 日本古代国家による地方支配の実態を理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 前期・後期ともに受講すること。

**予め履修が望ましい科目** 他の日本考古学関係の講義を受講していることが望ましい。

**発展科目** 日本考古学特講A～G

**教科書** 授業に必要な資料はプリントして配布する。

**成績評価方法と基準** 毎回徴収するミニ感想文50%、試験50%

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回 ガイダンス①～日本古代の地方支配について～
- 第2回 ガイダンス②～五畿七道の概要～
- 第3回 律令制前の畿内～大化の改新詔と畿内～
- 第4回 律令期の畿内①～大和・河内の畿内的特性～
- 第5回 律令期の畿内②～摂津・山背の畿内的特性～
- 第6回 律令期の畿内③～和泉国・和泉監の特異な畿内制～

- 第7回 畿内の国府①～山背国府の変遷～
- 第8回 畿内の国府②～摂津国府の構造～
- 第9回 東海道の国府①～伊賀・伊勢国府～
- 第10回 東海道の国府②～参河・駿河国府～
- 第11回 東海道の国府③～武蔵・常陸国府～
- 第12回 東山道の国府①～近江・美濃国府～
- 第13回 東山道の国府②～上野・下野国府～
- 第14回 東山道の国府③～陸奥国府と多賀城～
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験



# 日本考古学特講F

## Lecture on Japanese Archaeology F

**学期** 後期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**  
**担当教員** 山中 章(非常勤講師)

**授業の概要** 日本古代の地方官衙について学習する。

**学習の目的** 日本古代地方官衙を理解する。

**学習の到達目標** 日本古代地方官衙の特性を理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 前期・後期ともに受講すること。

**予め履修が望ましい科目**

考古学・文化財学概論A・B

日本考古学特講A～G

**発展科目** 日本考古学特講A～G

**教科書** なし

**成績評価方法と基準** 日常レポート60%、レポート40%

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 ガイダンス①～日本古代の地方支配について～

第2回 ガイダンス②～北陸・山陰・山陽・南海・西海道の概要～

第3回 北陸道の国府～越前国府の変遷～

第4回 三関と東海・東山・北陸道①～鈴鹿関と「伊勢道」～

第5回 三関と東海・東山・北陸道②～不破関と「北国街道」～

第6回 三関と東海・東山・北陸道③～愛発関と「若狭道」～

第7回 山陽道の国府①～播磨・備後国府～

第8回 山陽道の国府②～周防・長門国府～

第9回 南海道の国府①～阿波国府と観音寺遺跡木簡～

第10回 南海道の国府②～伊予国府の変遷～

第11回 西海道と大宰府①～大宰府正庁の構造～

第12回 西海道と大宰府②～大宰府条坊と都市構造～

第13回 西海道の国府～豊前国府～

第14回 「島国」の国府～佐渡・隠岐・淡路・壱岐・対馬の国府～

第15回 まとめ

第16回 試験

**授業の概要** 『説経節』『古浄瑠璃』を読み、そこに現れた人間観や倫理観について理解を深める。

**学習の目的** 文章を精読する経験を通じて、日本思想史の諸概念やその意味内容を理解する能力を養成することができる。またテキストとの対峙の中から自らの現存の意味を問いかける姿勢を養うことができる。

**学習の到達目標** 説経節や古浄瑠璃に見られる独特の世界観や宗教的感性について、基本的な理解を得ることができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 荒木繁校注『説経節』東洋文庫

**成績評価方法と基準** 発表及び授業への参加度; 80%, 期末レポート; 20%

**オフィスアワー** 金曜日7~8限(その他応需)

**その他** 履修希望者が多数となった場合は、日本思想ゼミ生を優先し、他は履修制限を行う場合があります。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

説経節及び古浄瑠璃の読解を行う。

第1回: ガイダンス

第2回: 『山椒大夫』

第3回: 『かるかや』

第4回: 『信徳丸』

第5回: 『愛護若』

第6回: 『小栗判官』

第7回: 『信太妻』

第8回: 『浄瑠璃御前物語』

第9回: 『ほり江巻双紙』

第10回: 『阿弥陀の胸割』

第11回: 『牛王の姫』

第12回: 『公平甲論』

第13回: 『一心二河白道』

第14回: 『熊野之御本地』

第15回: 『百合若大臣』

授業は、毎時間リポーター1名を定め、その発表をめぐる出席者全員の討議を中心に進行する予定である。またリポーター以外にも課題(質問票の作成)を課す。

※参加者は、古典文に対する基礎的な読解力が求められるので、履修の際には留意すること。

2012年度以降入学生用(文化)**日本思想演習D** Seminar in Japanese Thought D  
2011年度以前入学生用(文化)**日本思想演習D** Seminar in Japanese Thought D  
学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 遠山敦 (人文学部)

**授業の概要** 室鳩巢の『駿台雑話』を読み、そこに現れた人間観や倫理観、世界観について理解を深める。

**学習の目的** 文章を精読する経験を通じて、日本思想史の諸概念やその意味内容を理解する能力を養成することができる。またテキストとの対峙の中から自らの現存の意味を問いかける姿勢を養うことができる。

**学習の到達目標** 近世日本の儒学思想について基本的な理解を得ることができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** コピー資料を配付する。

**成績評価方法と基準** 発表及び授業への参加度; 80%, 期末レポート; 20%

**オフィスアワー** 金曜日7~8限 (その他応需)

**その他** 履修希望者が多数となった場合は、日本思想ゼミ生を優先し、他は履修制限を行う場合があります。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

室鳩巢『駿台雑話』を取り上げ、その読解を行う。

第1回: ガイダンス

第2~4回: 宋学の概要

第5~15回: 『駿台雑話』を読む

授業は、毎時間リポーター1名を定め、その発

表をめぐる出席者全員の討議を中心に進行する予定である。またリポーター以外にも課題(質問票の作成)を課す。

なお、出席者には基礎的な古典文(古文、漢文)の読解力を求めるので、受講の際は注意すること。

2011年度以前入学生用(文化) **日本思想演習E** Seminar in Japanese Thought E  
2012年度以降入学生用(文化) **日本思想演習E** Seminar in Japanese Thought E

**学期** 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 人文学部文化学科所属学生に限る **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 遠山敦 (人文学部)

**授業の概要** 日本思想に関するテキストの読解を、発表形式で行う。

**学習の目的** 日本思想の領域で卒業論文を書くための基礎的な能力を養うことができる。

**学習の到達目標** 卒業論文作成に向け、テキストを読解していく力を深めることができる。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 発表50%、授業への参加度50%。

**オフィスアワー** 毎週金曜日7-8限

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

毎週一人のリポーターを定め、日本思想を学ぶ上での基礎的文献の読解を行う。

第1回；ガイダンス

第2～15回：文献の読解

\*日本思想領域で卒業論文を書く学生を主たる対象とするので、受講の際は注意すること。

2011年度以前入学生用(文化) **日本思想演習F** Seminar in Japanese Thought F  
2012年度以降入学生用(文化) **日本思想演習F** Seminar in Japanese Thought F

**学期** 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 人文学部文化学科所属学生に限る **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習  
**担当教員** 遠山 敦 (人文学部)

**授業の概要** 日本思想に関するテキストの読解を、発表形式で行う。

**学習の目的** 日本思想の領域で卒業論文を書くための基礎的な能力を養うことができる。

**学習の到達目標** 卒業論文作成に向け、テキストを読解していく力を深めることができる。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 発表50%、授業への参加度50%。

**オフィスアワー** 毎週金曜日7-8限

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

毎週一人のリポーターを定め、日本思想を学ぶ上での基礎的文献の読解を行う。

第1回；ガイダンス

第2～15回：文献の読解

\*日本思想領域で卒業論文を書く学生を主たる対象とするので、受講の際は注意すること。

2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史演習A**

Japanese History Seminar A

2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史演習A**

Japanese History Seminar A

**学期** 前期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 山田 雄司 (人文学部)

**授業の概要** 北野社家日記の精緻な読解を通して、中世の北野社の祭祀、神社組織と運営、朝廷・幕府との関係等を検討していく。

**発展科目** 日本歴史演習B

**教科書** 『北野社家日記』1～8 (続群書類従完成会、八木書店)

**学習の目的** 中世古文書・古記録の読み方、調べ方の基礎を学ぶ。

**成績評価方法と基準** 授業態度30%、発表70%、計100%。(合計が60%以上で合格)

**学習の到達目標** 日本中世史で卒業論文を書けるようになるための基礎的技術を習得する。

**オフィスアワー** 火曜日午後、場所山田研究室

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**その他** 前・後期通じて受講してください。授業で使用する論文・史料はこちらで用意します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：北野社についての解説  
第2回：資料の調べ方について

第3回：卒業論文関係論文読み  
第4回～第15回 『北野社家日記』輪読

2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史演習B**

Japanese History Seminar B

2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史演習B**

Japanese History Seminar B

**学期** 後期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 山田 雄司 (人文学部)

**授業の概要** 北野社家日記の精緻な読解を通して、中世の北野社の祭祀、神社組織と運営、朝廷・幕府との関係等を検討していく。

**学習の目的** 中世古文書・古記録の読み方、調べ方の基礎を学ぶ。

**学習の到達目標** 日本中世史で卒業論文を書けるようになるための基礎的技術を習得する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 社会人としての態度

**予め履修が望ましい科目** 日本歴史演習A

**教科書** 『北野社家日記』1～8 (続群書類従完成会、八木書店)

**成績評価方法と基準** 授業態度30%、発表70%、計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 火曜日午後 山田研究室

**その他** 前・後期通じて受講してください。授業で使用する論文・史料はこちらで用意します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：北野社について

第2回～第5回：『北野社家日記』輪読 書き下しについて

第6回～第9回：『北野社家日記』輪読 語句について

第10回～第15回：『北野社家日記』輪読 現代語訳

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史演習G**

Practice of Japanese history G

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史演習G**

Practice of Japanese history G

**学期** 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

**担当教員** 塚本明 (人文学部)

### 授業の概要

古文書史料を解説しながら、江戸時代の村社会が蒙った様々な災害とそれへの対応について、社会的背景やその影響等を含めて検討する。

関係する博物館や現地見学会、古文書の調査等を行う。文化財の活用の仕方を考える。

**学習の目的** 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得することで、歴史研究の基礎能力を身に付ける。自ら問題を発見し、解決する能力を養う。

**学習の到達目標** 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得し、歴史研究の基礎が身に付けられるようになる。自ら問題を発見し、解決できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批

判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** グループ単位での十分な準備を必要とする。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育日本史など。

**発展科目** 日本の歴史、他。

**教科書** 授業中に随時指定する。

**成績評価方法と基準** 授業中の報告70%、討論への参加30%

**オフィスアワー** 木曜日の昼休み、7・8時限

**その他** 原則として通年で受講すること。9月には熊野地方での古文書調査を予定している。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

1～15

\*史料(崩し字)読みと研究史との検討とを織り交ぜて行う。

\*熊野地方に残された古文書をテキストとし、崩し字の解説と共にその内容を理解して、簡潔な説明文を作る訓練をする。

\*江戸時代の紀伊半島において発生した、地震、風水害、火事、流行病など様々な災害に関する文書を検討素材とし、当時の社会の様相を読み解く。

\*報告準備や史料解説は、グループ毎で取り組む。



2012年度以降入学生用(文化)

# 日本歴史演習H

Practice of Japanese history H

2011年度以前入学生用(文化)

# 日本歴史演習H

Practice of Japanese history H

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 塚本明 (人文学部)

## 授業の概要

古文書史料を解説しながら、江戸時代の村社会が蒙った様々な災害とそれへの対応について、社会的背景やその影響等を含めて検討し、分析した成果をまとめ、報告する。関係する博物館や現地見学会、古文書の調査等を行う。文化財の活用の仕方を考える。

**学習の目的** 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得することで、歴史研究の基礎能力を身に付ける。自ら問題を発見し、解決し、表現する能力を養う。

**学習の到達目標** 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得し、歴史研究の基礎が身に付けられるようになる。自ら問題を発見し、解決、表現できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1~15

\*史料(崩し字)読みと研究史との検討とを織り交ぜて行う。

\*熊野地方に残された古文書をテキストとし、崩し字の解説と共にその内容を理解して、簡潔な説明文を作る訓練をする。

力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

前期開講の日本歴史演習Gの受講を前提とする(日本歴史演習Gを受講していない者は、事前に塚本まで連絡し、相談すること)。十分な準備を必要とする。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育日本史など。

**発展科目** 日本の歴史、他。

**教科書** 授業中に随時指定する。

**成績評価方法と基準** 授業中の報告70%、討論への参加30%

**オフィスアワー** 木曜日の昼休み、7・8時限

**その他** 3月に熊野地方での古文書調査を予定している。

\*江戸時代の紀伊半島において発生した、地震、風水害、火事、流行病など様々な災害に関する文書を検討素材とし、当時の社会の様相を読み解き、分析した内容をまとめ、報告する。  
\*報告準備や史料解読は、グループ毎で取り組む。

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史総合演習A**

Seminar of the Japanese History A

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史総合演習A**

Seminar of the Japanese History A

**学期** 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴**

能動的要素を加えた授業

**担当教員** 塚本 明(人文学部)

山田雄司(人文学部)

小澤 毅(人文学部)

**授業の概要** 卒業論文継続指導

**受講要件** 日本史・考古学専攻で卒業研究に取り組む者。

**学習の目的** 卒業論文作成のための方法と知識を学ぶ。

**予め履修が望ましい科目** 日本の歴史、考古学の関連授業

**学習の到達目標** 卒業論文作成のための方法と知識を習得する。

**成績評価方法と基準** 受講態度および発表内容100%

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受信能力

**オフィスアワー** 随時

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

考古学・日本史の基本問題を発表形式で学習する。

考古学・日本史で卒業論文を書く4年生を対象とする。

第1回：オリエンテーション、今後の予定の決定

第2～8回：各自1回目の報告

第9～15回：各自2回目の報告

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史総合演習B**

Seminar of the Japanese History B

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史総合演習B**

Seminar of the Japanese History B

**学期** 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴**

能動的要素を加えた授業

**担当教員** 塚本 明(人文学部)

山田雄司(人文学部)

小澤 毅(人文学部)

**授業の概要** 卒業論文継続指導

信力

**学習の目的** 卒業論文作成のための方法と知識を学ぶ。

**受講要件** 日本歴史総合演習Aを履修済であること。

**学習の到達目標** 卒業論文作成のための方法と知識を習得する。

**成績評価方法と基準** 受講態度および発表内容100%

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発

**オフィスアワー** 随時

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

考古学・日本史の基本問題を発表形式で学習する。

考古学・日本史で卒業論文を書く4年生を対象とする。

第1回：オリエンテーション、今後の予定の決定

第2～8回：各自1回目の報告

第9～15回：各自2回目の報告

2012年度以降入学生用(文化)**日本語学演習C**

Japanese Linguistics Seminar C

2011年度以前入学生用(文化)**日本語学演習C**

Japanese Linguistics Seminar C

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 川口 敦子 (人文学部)

**授業の概要** 中世日本語資料としてのキリシタン資料を読解し、その記述から、日本語の諸問題について考察する。

### 学習の目的

キリシタン資料を読解する力(ローマ字、中世の日本語文法、ヨーロッパ的語学観等)を身につける。中世日本語の諸問題について、多角的に考察することが出来る。質疑応答を含む研究発表に必要な資料作成の知識および基本的姿勢を身につける。

### 学習の到達目標

キリシタン資料のローマ字を漢字仮名交じり文に翻字することができる。

適切な辞書を用いて語句に適切な註釈を付けることができる。

テキスト本文から問題点をを探索してテーマを設定し、論理的な思考力によって解決することができる。

適切な発表資料を作成し、それに基づいた口

頭発表ができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 「日本の言語」、共通教育の「日本語学」のいずれか

**発展科目** 日本語学演習D

**教科書** 初回に受講生と相談の上、決定する。

**成績評価方法と基準** 発表内容と授業への貢献度(70%)と最終レポート(30%)で総合的に判断する。

**オフィスアワー** 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1: ガイダンス

2: キリシタン資料とは

3: 発表の取り組み方、資料の作り方

4~14: 発表

・資料の正確な読解

・問題発見

・考察、発表

15: まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**日本語学演習D**

Japanese Linguistics Seminar D

2011年度以前入学生用(文化)**日本語学演習D**

Japanese Linguistics Seminar D

**学期** 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 川口 敦子 (人文学部)

**授業の概要** 中世日本語資料としてのキリシタン資料を読解し、その記述から、日本語の諸問題について考察する。

### 学習の目的

キリシタン資料を読解する力(ローマ字、中世の日本語文法、ヨーロッパ的語学観等)を身につける。中世日本語の諸問題について、多角的に考察することが出来る。質疑応答を含む研究発表に必要な資料作成の知識および基本的姿勢を身につける。

### 学習の到達目標

キリシタン資料のローマ字を漢字仮名交じり文に翻字することができる。  
適切な辞書を用いて語句に適切な註釈を付けることができる。  
テキスト本文から問題点をを探索してテーマを設定し、論理的な思考力によって解決することができる。  
適切な発表資料を作成し、それに基づいた口

頭発表ができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 予め履修が望ましい科目

「日本の言語」、共通教育の「日本語学」のいずれか

「日本語学演習C」

**教科書** 初回に受講生と相談の上、決定する。

**成績評価方法と基準** 発表内容と授業への貢献度(70%)と最終レポート(30%)で総合的に判断する。

**オフィスアワー** 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 1: ガイダンス
- 2: キリシタン資料とは
- 3: 発表の取り組み方、資料の作り方
- 4~14: 発表

- ・資料の正確な読解
  - ・問題発見
  - ・考察、発表
- 15: まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**日本文学演習C** Seminar in Japanese Literature C  
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習C** Seminar in Japanese Literature C

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 村口 進介 (人文学部)

### 授業の概要

- ・『源氏物語』第二十三帖、初音巻を保坂本の影印で読む。
- ・担当範囲を分担し、受講者による発表を行う。

### 学習の目的

- ・翻刻、校異、諸注釈の整理など、読解に関する基本的な技術を身につける。
- ・なにを、どのように、どういった方法で調べたらよいか、といった調べものの基本的な技術を身につける。
- ・発表の技術を身につける。

**学習の到達目標** 諸資料を適切に扱い、独力で本文を読解することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** レジューメ作成のために、かなりの量の資料を収集し、読み込み、整理する必要がある。その作業を厭わず取り組めるもの。

**予め履修が望ましい科目** 文学概論E、F

### 教科書

プリントを配布する。  
『字典かな一写本をよむ楽しみ』(笠間影印叢刊刊行会) \*他のくずし字事典を有する者は購入の必要なし

**成績評価方法と基準** 演習での発表で70%。  
期末レポートで30%。

**オフィスアワー** 毎週火曜日の昼休み

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回 初音巻までの梗概
- 第2回 玉鬘十帖の研究史

第3~15回まで、範囲を分担して、校異、諸注釈の整理、現代語訳、考察を行う。

2012年度以降入学生用(文化)**日本文学演習D** Seminar in Japanese Literature D  
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習D** Seminar in Japanese Literature D

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 村口 進介 (人文学部)

### 授業の概要

- ・『源氏物語』第二十四帖、胡蝶巻を保坂本の影印で読む。
- ・担当範囲を分担し、受講者による発表を行う。

### 学習の目的

- ・翻刻、校異、諸注釈の整理など、読解に関する基本的な技術を身につける。
- ・なにを、どのように、どういった方法で調べたらよいか、といった調べものの基本的な技術を身につける。
- ・発表の技術を身につける。

**学習の到達目標** 諸資料を適切に扱い、独力で本文を読解することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** レジューメ作成のために、かなりの量の資料を収集し、読み込み、整理する必要がある。その作業を厭わず取り組めるもの。

**予め履修が望ましい科目** 文学概論E、F

### 教科書

プリントを配布する。  
『字典かな一写本をよむ楽しみ』（笠間影印叢刊刊行会）＊他のくずし字事典を有する者は購入の必要なし

**成績評価方法と基準** 演習での発表で70%。  
期末レポートで30%。

**オフィスアワー** 毎週火曜日の昼休み

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回 胡蝶巻までの梗概
- 第2回 玉鬘十帖の位置づけ

第3～15回まで、範囲を分担して、校異、諸注釈の整理、現代語訳、考察を行う。

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本文学演習E** Seminar in Japanese Literature E

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本文学演習E** Seminar in Japanese Literature E

**学期** 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 吉丸 雄哉 (人文学部)

**授業の概要** 静観房好阿による談義本『当世下手談義』を精読します。具体的には分担して、翻刻と注釈と現代語訳をしてもらいます。『当世下手談義』は岩波新日本古典文学大系81に収録されており、翻刻と注釈が存在します。翻刻はなるべく原文通りに翻刻しなおしてもらいます。注釈に関しては原拠となった資料を探してもらいます。

### 学習の目的

江戸時代の文学作品について、基礎的な語釈の技術、発表の技術を身につけます。

談義本という文学ジャンルの特性を学びます。

作品から江戸時代中期の歴史、文化、風俗、思想を学びます。

**学習の到達目標** 近世小説の特性を学び、翻刻や注釈や現代語訳のない作品の読解ができるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

1回 概説 (近世文学と談義本の特徴、授業の進め方、成績評価の方法など、資料配付)

2回 近世文学研究の方法について (基本参考書の紹介、資料の集め方など)

教養, 専門知識・技術

**受講要件** 日本古典文法の知識。

**予め履修が望ましい科目** 日本近世文学の講義、江戸時代史の授業。

#### 教科書

新日本古典文学大系81『田舎荘子 当世下手談義 当世穴さがし』(岩波書店、1990)を使います。

その他、影印を配布します。

**成績評価方法と基準** 演習での発表で七割。期末レポートで三割。

**オフィスアワー** 火曜日の昼休み。長い時間が必要なものはメールにて相談のこと。おおよそ、木曜日の午後が空いています。

**その他** 時代背景のため、差別的な表現が出てくることがある。また、遊里や性愛に関する表現があることを了解したうえで受講のこと。

3回 発表資料作成について (翻刻、注釈、現代語訳のやりかた)

4回から14回までは、学生分担による発表

15回 まとめ



2012年度以降入学生用(文化)**日本文学演習F** Seminar in Japanese Literature F  
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習F** Seminar in Japanese Literature F

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

**授業の概要** 戯作者山東京伝による滑稽絵本『絵兄弟』を精読します。具体的には分担して、翻刻と注釈と現代語訳をしてもらいます。岩波新日本古典文学大系82に翻刻と注釈が存在します。翻刻はなるべく原文通りに翻刻しなおしてもらいます。注釈に関しては原拠を探してもらいます。

### 学習の目的

江戸時代の文学作品について、基礎的な翻刻と語釈の技術、発表の技術を身につけます。江戸後期の歴史、文化、風俗、思想を学びます。絵画における「見立て」「やつし」の趣向と当時の絵の技法を学びます。

### 学習の到達目標

戯作本の特徴を学ぶ。  
江戸後期の絵本の特徴を学ぶ。  
翻刻・注釈のない本にそれらを施す技術を身につける。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

一回 概説 (近世文学の特徴、滑稽絵本とは)  
二回 近世文学研究の方法について (基本資料、参考文献とその探し方)  
三回 発表の技法について (発表資料の作り

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

**受講要件** 日本古典文法の知識。

**予め履修が望ましい科目** 日本近世文学の授業、江戸時代史の授業。

### 教科書

岩波新日本古典文学大系82『異素六帖 古今俄選 粹宇瑠璃 田舎芝居』(1998)。  
そのほか授業内で影印を配布します。

**成績評価方法と基準** 演習での発表で七割。期末レポートで三割。

**オフィスアワー** 火曜日の昼休み。長い時間が必要なものはメールにて相談のこと。おおよそ、木曜日の午後が空いています。

**その他** 時代背景のため、差別的な表現が出てくることもある。また、遊里や性愛に関する表現があることを了解したうえで受講のこと。

方、発表の進め方)

四回から一四回までは学生に分担して発表してもらいます。

一五回 まとめ

2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習K** The seminar of Japanese literature K  
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習K** The seminar of Japanese literature K  
学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 坂堅太

**授業の概要** 日本近現代文学に描かれた「仕事」の諸相を通じ、各時代における価値体系を考察する。

**学習の目的** 日本近代文学を研究するための基本的な手法と知識を修得する。

### 学習の到達目標

文学作品の読解を通じ、日本社会における「仕事」観の変容を理解する。  
日本近現代文学を研究するための基本的な知識と手法を習得する。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専

門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編『文学で考える“仕事”の百年』（双文社出版、2010年）

**成績評価方法と基準** レポート 40%、報告 40%、発言など授業への積極的な参加態度 20%

**オフィスアワー** 火曜日12～13時、場所：研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 イントロダクション（発表分担の決定、レジュメの作り方、文献収集法など）  
第2回 近代における「仕事」「労働」観について①  
第3回 近代における「仕事」「労働」観について②  
第4回 受講者による研究発表（泉鏡花「海城発電」）  
第5回 受講者による研究発表（樋口一葉「にごりえ」）  
第6回 受講者による研究発表（正宗白鳥「塵埃」）  
第7回 受講者による研究発表（葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」）

第8回 受講者による研究発表（浅原六朗「或る自殺階級者」）  
第9回 受講者による研究発表（井伏鱒二「遙拝隊長」）  
第10回 受講者による研究発表（庄野潤三「プールサイド小景」）  
第11回 受講者による研究発表（開高健「巨人と玩具」）  
第12回 受講者による研究発表（黒井千次「聖産業週間」）  
第13回 受講者による研究発表（津村記久子「ポトスライムの舟」）  
第14回 受講者による研究発表（柴崎友香「フルタイムライフ」）  
第15回 まとめ

2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習L** The seminar of Japanese literature L  
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習L** The seminar of Japanese literature L  
**学期** 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習  
**担当教員** 坂堅太

**授業の概要** 戦後文学の作品を輪読し、同時代状況との関係について考察する。

論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 日本近代文学を研究するための基本的な手法と知識を修得する。

**教科書** テキストを適宜配布する。

**学習の到達目標** 日本近現代文学を研究するための基本的な知識と手法を習得する。

**成績評価方法と基準** レポート 40%、報告 40%、発言など授業への積極的な参加態度 20%

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討

**オフィスアワー** 火曜日12~13時、場所: 研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 イントロダクション (発表分担の決定、レジュメの作り方、文献収集法など)  
第2回 戦後文学史の概説①

第3回 戦後文学史の概説②  
第4回~第14回 受講者による研究発表  
第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **日本社会演習C** Seminar on the Japanese Society C  
2011年度以前入学生用(文化) **日本社会演習C** Seminar on the Japanese Society C

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 永谷 健 (人文学部)

**授業の概要** 近代以降の日本社会が含む諸問題を社会学はいかに扱ってきたのか、そして、社会的に研究するとはどのようなことなのかについて理解を深めるため、基本文献や方法論に関するテキストを輪読する。扱うテーマは、日本の近代化・格差・社会階層・メディアにかかわるものとする。また、後半では、近現代日本に関するいくつかの設定テーマについてグループや個人でリサーチし、結果を報告する。

**学習の目的** 先行研究の読み込み、および、テーマ・方法をやや限定したリサーチを通じて、社会的な研究を行なうための前提となる学問的関心を高め、かつ、方法論についての理解を深める。

**学習の到達目標** 近現代日本の社会階層やメディアにかかわる諸問題についての幅広い知識を得るとともに、社会的な研究の方法論

について概要を知る。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 社会学概論A、社会学概論B、日本の社会A、日本の社会B

**教科書** 授業の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 発表、その要約の提出 (受講者数を考慮し、妥当な方法を授業内で指示する)、ディスカッションへの参加などにより、総合的に評価する。

**オフィスアワー** 火曜日12:00~13:00

**その他** 専門性が必要な授業なので、3年次以上の履修が望ましい。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 問題の提起、および、演習の形式に関する打ち合わせ

第2回~第6回 近現代の日本社会の諸問題にかかわる文献の講読

第7回~第11回 社会学の方法論にかかわる文献の講読

第12回~第14回 リサーチ結果の報告

第15回 総括

2012年度以降入学生用(文化)**日本社会演習D Seminar on the Japanese Society D**  
2011年度以前入学生用(文化)**日本社会演習D Seminar on the Japanese Society D**

**学期** 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 永谷 健 (人文学部)

**授業の概要** 近代以降の日本社会が含む諸問題を社会学はいかに扱ってきたのか、そして、社会的に研究するとはどのようなことなのかについて理解を深めるため、専門的な先行研究を読み込む。また、各自が定めた研究のテーマについて自由報告を行なう。扱うテーマは、日本の近代化・格差・社会階層・メディアにかかわるものとする。

**学習の目的** 先行研究の読み込み、および、独自のリサーチを通じて社会学的研究に関する理解を深めるとともに、本格的な研究のための準備を行なう。

**学習の到達目標** 近現代日本の社会的な問題領域に関する専門的な知識を得るとともに、各自が設定した社会的な研究にとって実施可能な方法論について理解を深める。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 問題の提起と進め方についての打ち合わせ  
第2回～第9回 近現代日本の諸問題に関する先

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 社会学概論A、社会学概論B、日本の社会A、日本の社会B

**教科書** 授業の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 発表、その要約の提出 (受講者数を勘案し、妥当な方法を授業内で指示する)、ディスカッションへの参加により総合的に評価する。

**オフィスアワー** 火曜日12:00～13:00

**その他** 卒業研究に直結する授業なので、3年次以上の履修が望ましい。

行研究の報告

第10回～第14回 各自の研究報告

第15回 総括

## 2012年度以降入学生用(文化) **日本地誌演習A**

Seminar for Geographical studies in Japan

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本地誌演習A Seminar for Geographical studies in Japan C**

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 森正人

**授業の概要** この授業では卒業論文執筆のための問題発見、解決能力を養う。関連文献の講読、発表を中心とする

**学習の目的** 文化、政治、経済とは何か、わたしたちの日常生活はどのような諸関係によって構成されているのか、書物や論文の読解を通して考える。

**学習の到達目標** 一定水準以上の卒業論文を仕上げる、あるいはそのための方法論と理論を十分に理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

**受講要件** 授業に意欲を持って取り組むこと

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

本演習では、眼前に広がるさまざまな文化現象にどのようにアプローチできるか、文献の精読を通して検討する。

3年生はどのように文化を理論的に捉えられるか、自分の関心を持つ文化現象に、どのよう

ができること。6月中旬に沖縄県に巡検を行うため、参加できること

**予め履修が望ましい科目** 人文学部「比較地域論」と「日本の風土と地誌A・B」をすでに履修済みであるか今年度に履修予定であることを、本科目履修の要件とする。

**教科書** 受講生と相談して決定する

**成績評価方法と基準** 出席状況・発表状況・議論への参加状況などを勘案して総合的に判断する。

**オフィスアワー** 毎週火曜日 12:00～13:00 (事前にアポイントを取る)

**その他** 前期と後期をセットで履修すること。どちらか一方だけの履修は認めない

な方法論が可能か理解する。4年生は、過去1年に養った文化現象への視覚を、どのように生かすことができるか卒業論文作成を通して展開する。

第1～15回 発表と討議

## 2012年度以降入学生用(文化) **日本地誌演習B**

Seminar for geographical study in Japan

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本地誌演習B** Seminar for geographical study in Japan D

**学期** 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **対象** 受講生は必ず日本地誌演習Aを受講すること **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** PBL, Moodle

**担当教員** 森 正人

**授業の概要** 文化、政治、経済とは何か、わたしたちの日常生活はどのような諸関係によって構成されているのか、書物や論文の読解を通して考える。

**学習の目的** 卒業論文執筆に向けた知識を得ることができる。

**学習の到達目標** 一定水準以上の卒業論文を仕上げる、あるいはそのための方法論と理論を十分に理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 社会人としての態度

**受講要件** 授業に意欲を持って取り組むことができること。日本地誌演習Cを必ず受講していること。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

本演習では、眼前に広がるさまざまな文化現象にどのようにアプローチできるか、文献の精読を通して検討する。

3年生はどのように文化を理論的に捉えられるか、自分の関心を持つ文化現象に、どのような方法論が可能か理解する。4年生は、過去1

**予め履修が望ましい科目** 「地理学概論」と「日本の風土と地誌A・B」はすでに履修済みであるか、今年度に履修予定であることを履修の要件とする。

#### 教科書

[参考書]

中川正・森正人・神田孝治 (2006) 『文化地理学ガイダンス』

**成績評価方法と基準** 出席状況・発表状況・議論への参加状況などを勘案して総合的に判断する。

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00～13:00 (事前にアポイントを取る)

**その他** 日本地誌演習Aと同時に履修すること。

年に養った文化現象への視覚を、どのように生かすことができるか卒論作成を通して展開する。

第1～15回 発表と討議

なお、本演習はアカデミックフェアと接続しており、卒論作成の学生は法則フェスタで発表することとする。

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学演習A**

Seminar in Japanese Archaeology A

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学演習A**

Seminar in Japanese Archaeology A

**学期** 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **対象** 原則として、考古学専攻生およびそれを志望する（検討中を含む）学生に限る。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 小澤 毅(人文学部)

**授業の概要** 日本考古学の基本的論文を読み、研究発表とそれをめぐる討論をおこなう。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

**学習の目的** 日本考古学に関する基本的な論文について、研究史上の位置づけや意義、残された課題などを考える。

**発展科目** 日本考古学特講A～G

**成績評価方法と基準** 受講態度60%、研究発表40%

**学習の到達目標** 研究史や研究の現状と考古学的分析法についての理解を深め、卒業論文を執筆できる学力と発表能力を身につける。

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 講読論文の紹介

第2回 講読論文と発表順序の決定

第3回～第5回 発表準備と質疑応答

第6回～第15回 研究発表



## 2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学演習B**

Seminar in Japanese Archaeology B

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学演習B**

Seminar in Japanese Archaeology B

**学期** 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **対象** 原則として、考古学専攻生およびそれを志望する(検討中を含む)学生に限る。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 小澤 毅(人文学部)

**授業の概要** 日本考古学の基本的論文を読み、研究発表とそれをめぐる討論をおこなう。

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

**学習の目的** 日本考古学に関する基本的な論文について、研究史上の位置づけや意義、残された課題などを考える。

**受講要件** 日本考古学演習Aを履修済みであること。

**発展科目** 日本考古学特講A～G

**学習の到達目標** 研究史や研究の現状と考古学的分析法についての理解を深め、卒業論文を執筆できる学力と発表能力を身につける。

**成績評価方法と基準** 受講態度60%、研究発表40%

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 講読論文の紹介

第2回 講読論文と発表順序の決定

第3回～第5回 発表準備と質疑応答

第6回～第15回 研究発表

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア文化研究**  
Studies in Asian and Oceanian Cultures  
2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア研究総論**  
Introduction to Asian and Oceanian Studies

**学期** 前期 **開講時間** 月9,10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** アジア・オセアニア地域の教員 (代表: 安食和宏)

**授業の概要** アジア・オセアニア地域についての入門的・総合的な科目として、思想・歴史・文学・言語・地誌・文化人類学・美術史などの各分野の教員が分担して講義する。授業では、担当教員が自分の専門分野を研究する際に読んでおくとい書籍を紹介すると同時に、当該分野の基礎知識や方法論などについても触れていく。

**学習の目的** アジア・オセアニア地域の研究を進めるための入門的知識を得る。

**学習の到達目標** アジア・オセアニア地域の研究を進めるための入門的知識を得る。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

アジア・オセアニア地域の担当教員が、専門とする研究分野の視点からアジア・オセアニア地域での研究について、リレー形式で概説する。2年次生が後期以降にアジア・オセアニア地域で、どのようなテーマに関して研究するのか、そのためにはどの教員を指導教員に

**本学教育目標との関連** 感性、主体的学習力、専門知識・技術、課題探求力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 必要に応じて、各教員から指示される。

**成績評価方法と基準** 出席とレポートの総合評価。レポートは、授業で紹介された各分野の書籍のうち2つを選んで「書評」を書く。

**オフィスアワー** 各教員の指定時間。

**その他** アジア・オセアニア地域の2年次の学生は必ず受講すること。

選ぶのがよいか、などを検討する際の参考となる。具体的な講義日程と講義概要は、初回講義の際にプリントを配布して説明する。

第1回 この講義についての諸説明

第2回～14回 各担当教員による講義

第15回 総括

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想C**

## 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想C**

学期 前期 開講時間 水1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次 授業の方法 講義

担当教員 久間泰賢

**授業の概要** アジア地域の思想と文化に広く影響を及ぼした仏教について学習する

コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 仏教思想の基本概念の習得

**教科書** 授業の中でコピーを配布する

**学習の到達目標** 初期仏教思想についての基礎知識の習得を目指す

**成績評価方法と基準** レポート70%+平常点30%

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、

**オフィスアワー** 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教室室（共通教育2号館2階）にて受け付ける。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

インドにおいて成立し、東アジア世界に大きな影響を及ぼした仏教とは本来どのような特質を有しているのか。東洋思想を学ぶ際に避けることのできない仏教についての基本的知識を獲得してもらうために、いくつかの根本概念を取り上げて、その思想史的な展開をたどりつつ概説する。前期は特に初期仏教の基本教理と、それらが部派仏教においてどのように展開したか、という点に焦点を当てる。授業では、「三法印（諸行無常・諸法無我・涅槃寂静）」「三宝（仏・法・僧）」「三蔵（経・律・論）」という基本的概念を軸に解

説を進める予定である。また、部派仏教における諸学説の展開については、特に「刹那滅論」と「仏身論」を中心に扱うこととした。

第1回 導入：三法印、三宝、三蔵について

第2～3回 三法印：諸行無常と刹那滅論

第4～5回 三法印：諸法無我と空性思想

第6～7回 三法印：涅槃寂静と仏身論

第8～9回 三宝：仏について

第10～11回 三宝：法について（仏説の分類法を中心に）

第12～13回 三宝：僧について

第14～15回 三蔵：経・律・論について

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想D**

## 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想D**

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 久間泰賢

**授業の概要** アジア地域の思想と文化に広く影響を及ぼした仏教について学習する

**学習の目的** 大乘仏教の根本的諸概念とその思想史的展開について概観する

**学習の到達目標** 仏教思想, 特に大乘の教理についての基礎知識の習得を目指す

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

インドにおいて成立し、東アジア世界に大きな影響を及ぼした仏教とは本来どのような特質を有しているのか。東洋思想を学ぶ際に避けることのできない仏教についての基本的知識を獲得してもらうために、いくつかの根本概念を取り上げて、その思想史的な展開をたどりつつ概説する。

後期は、前期の授業内容を踏まえ、大乘仏教の教理について概説を行う。また、以上の学説の説明をひととおり終えた後に、後期インド仏教において様々な仏教学説の総合化・体系化がどのように行われたのかという点についても、最新の研究を紹介しながら論ずる予定である。

初期仏教の教理に関する基礎的知識が必要と

コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** アジア・オセアニアの思想C (前期開講)

**教科書** 授業の中でコピーを配布する

**成績評価方法と基準** 期末レポート70% + 平常点30%

**オフィスアワー** 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教室室（共通教育2号館2階）」にて受け付ける。

なるため、前期・後期続けての受講が望ましい。

第1回 導入：「大乘」という概念

第2～3回 大乘仏教の起源：教理史的方法論について

第4～5回 大乘仏教の起源：教団史的方法論について

第6～7回 大乘仏教の起源：最近の研究動向

第8～9回 中観思想：言語と真理との関係

第10～11回 唯識思想：外界の実在性はどのように否定されるのか

第12～13回 密教思想：密教思想はなぜ優れているのか

第14～15回 総括：後期インド仏教における仏教学説の総合化について

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想G (前期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想G (前期2単位)**

**学期** 前期 **開講時間** 月 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 片倉望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 中国古代思想史の流れを理解し、いわゆる定説というものを疑う目を養う。

**学習の目的** 現代日本で使われている言葉が、いかにいい加減なものであるかを知り、現代社会の問題点を探る能力が身に付く。

**学習の到達目標** 近年の出土資料を分析し、神話と政治思想との接点を探る。

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力

## 教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 授業態度・講義中の質問40%、レポート60%

**オフィスアワー** 随時質問に応じる

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1998年、郭店楚墓より出土した竹簡『老子』を含む多くの古書が写真と共に発表され、先秦思想研究者の間に衝撃が走った。何故なら、一つには、それが1970年代に殆ど『老子』の原本に近いと思われる帛書『老子』を出土した馬王堆漢墓より遡ることさらに200年の戦国時代の墓からの出土文献だったからである。しかしながら、それ以上に重要な点は、共に出土した儒家系の文献にあり、それらの中には馬王堆漢墓から出土し、孟子若年時代の著作であることがほぼ明らかとなった帛書「五行篇」や、これまで漢代の著作ではないかと思われてきた『礼記』の幾つかの篇が含まれていた。これらの出土文献は、これまでの先秦思想史を塗り替える可能性を秘めたものであると言える。とりわけ、従来、儒家のアンチ・テーゼとして出発したものとして理解されてきた道家の思想が、実は、儒家の思想と極めて類似した性格を持つものであり、それ以上に、儒家独自のものと思われてきた礼楽の思想が、意外にも『老子』を起源としたものであることが明らかになりつつある。

さらにまた、2001年11月には、『上海博物館蔵戦国楚竹書(1)』が出版されたが、恐らくは盗掘によって上海の市場に流出したと思われるこの資料は、郭店楚墓竹簡と出入すると

ころが多く、双方の比較によって、さらなる研究の深化が期待される状況となった。

本講義ではこれらの出土文献とこれまでの先秦思想研究の成果を踏まえて、先秦における道家思想の意義と、儒家思想との関係を明らかにして行きたい。なお、中心として扱うテーマは先秦の本性論であり、出土文献のなかでは、「性情論」の思想的な位置づけを考察することが第一の目的となる。

第一回 「自然」とはなにか。その欺瞞性を暴く。

第二回 道家の「自然」(1) 『老子』(1)

第三回 道家の「自然」(1) 『老子』(2)

第四回 道家の「自然」(1) 『老子』(3)

第五回 道家の「自然」(2) 『莊子』(1)

第六回 道家の「自然」(2) 『莊子』(2)

第七回 道家の「自然」(2) 『莊子』(3)

第八回 道家の「自然」(2) 『莊子』(4)

第九回 道家の「自然」(3) 『列子』(1)

第十回 道家の「自然」(3) 『列子』(2)

第十一回 道家の「自然」(3) 『列子』(3)

第十二回 道家の「自然」(3) 『列子』(4)

第十三回 道家の「自然」(4) 『管子』(1)

第十四回 道家の「自然」(4) 『管子』(2)

第十五回 『淮南子』以前の道家の「自然」とは

は

学習課題(予習・復習)

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想H (後期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想H (後期2単位)**

**学期** 後期 **開講時間** 月3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 片倉望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 先秦から漢代に至るまでの文献に出現する「愛」概念の展開を考察する。

国語力

**学習の目的** 現代人の勝手な概念で古代を見ることがなくなる。

**教科書**

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

**学習の到達目標** 簡単に「愛は世界を救う」などと言えなくなる。

**成績評価方法と基準** 授業態度・講義内での質問40%、レポート60%

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 実践外

**オフィスアワー** 随時質問に応じる

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

我が国において「愛」という言葉は、ある時期からloveの翻訳語として採用されてきた。しかしながら、古代中国の文献に最初の使用例が確認される「愛」は、loveとは何の関わりも無い場所と時間との中で独自の展開を遂げてきた言葉であった。先秦に出生した「愛」は、漢代に思想的価値が付与され、やがてインドから流入した仏教の中で、新たな思想的意義づけがなされていく。本講義では、「愛」という概念が、六朝時代、仏教との接触によってその意味を大きく変質させるに至るまでの流れを慎重に検討して行く。

なお、「愛」の分析に当たっては、常に現代の「愛」の語とキャッチ・ボールをしながら、古代の「愛」について考察を加える、という手続きをとる。例えば、キャンペーンなどで、「愛は世界を救う」とある俳優が喚くとする。しかし、彼が言う「愛」とは何なのか。もし、男女の間に働く何らかの感情、もしくは行為を「愛」と呼ぶのであれば、なぜそれで世界が救われることになるのか。我々は、ともすれば言葉の持ついい加減なイ

メージに騙されて、勝手な「愛」観念をつくり、それにまた勝手な意味づけをする。そこまでは、まだ許せるとしても、それが時には政治的暴力や圧力ともなることを、「愛」の語の変遷を精査しながら考察して行く、というのが本講義の目的である。

第一回 「愛」とはなにか。その欺瞞性を暴く。

第二回 儒家の「愛」 『論語』

第三回 儒家の「愛」 『孟子』

第四回 儒家の「愛」 『荀子』

第五回 墨家の「愛」 『墨子』 兼愛上篇

第六回 墨家の「愛」 『墨子』 兼愛中篇

第七回 墨家の「愛」 『墨子』 兼愛下篇

第八回 『呂氏春秋』に見える「愛」

第九回 『莊子』に見える「愛」とその否定

第十回 発掘資料に見える「愛」

第十一回 仏教流入直前の「愛」 『論衡』 (1)

第十二回 仏教流入直前の「愛」 『論衡』 (2)

第十三回 史書における「愛」 (1) 『史記』

第十四回 史書における「愛」 (2) 『漢書』

第十五回 仏教流入以前の「愛」を通観して

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの歴史E**

History of Asia and Oceania E

## 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの歴史E** History of Asia and Oceania E

**学期** 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 酒井 恵子 (人文学部)

**授業の概要** 君主独裁制が成立し、身分制社会が解体した宋代とはいかなる時代であり、人々はどのように生活していたのであろうか。北宋と征服王朝遼の関係を概観したのち、科挙と関連づけて家族・女性について考察する。

**学習の目的** 史料や通説を当時の状況や執筆目的を理解したうえで批判的にみる能力を身につける。

**学習の到達目標** 時代の特徴を理解したうえで、北宋と遼の関係および北宋時代の家族・女性について説明することができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 幅広い

教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**教科書** 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 小テスト2回30%、レポート50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(教養教育4号館5階)

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1~2回 唐宋変革

第3~5回 北宋と遼

第6~8回 北宋時代の国家と社会

第9~11回 北宋時代の知識人

第12~14回 北宋時代の家族・女性

第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの歴史F**

History of Asia and Oceania F

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの歴史F** History of Asia and Oceania F

**学期** 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 酒井 恵子 (人文学部)

**授業の概要** 近年、北宋と南宋の違いが注目されている。南宋と金の関係を概観したのち、南宋時代の人々がどのように生活していたのかについて、北宋時代と比較しつつ考察する。

**学習の目的** 史料や通説を当時の状況や執筆目的を理解したうえで批判的にみる能力を身につける。

**学習の到達目標** 南宋と金の関係、および人々がどのように生活していたのかについて説明することができる。

**本学教育目標との関連** 感性、倫理観、幅広い

教養、専門知識・技術、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**教科書** 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 小テスト2回30%、レポート50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(教養教育4号館5階)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1~2回 北宋時代

第3~5回 南宋と金の関係

第6~8回 南宋時代の国家と社会

第9~11回 南宋時代の知識人

第12~14回 南宋時代の家族・女性

第15回 まとめ



# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの言語A**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの言語A**

学期 前期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 塚本 晃久 (非常勤講師)

**授業の概要** アジア・オセアニアの言語に関する概括的な知識の習得

識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** アジア・オセアニアの言語に関する概括的な知識の習得

**教科書** プリント配布

**学習の到達目標** アジア・オセアニアの言語に関する知識を深める

**成績評価方法と基準** レポート (80%) 授業への積極的参加 (20%)

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

**オフィスアワー** 授業の後に適宜応じる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

アジア・オセアニアを含む広大な地域には膨大な数の言語がひしめき合っている。多くの地域では、古くから行われてきた言語と新たに到来した言語が混ざり合うようにして分布している。そのために、アジア・オセアニアではいくつもの異なる系統の言語が話されているばかりでなく、今日では系統的な由来を確かめることができない言語も多く存在する。本講義では、アジア・オセアニアの言語の系統的分類、主な類型の特徴、文化との関

わりから興味深いと思われる現象、社会的情勢・使用状況等を紹介する。また、アジア・オセアニアの文字についても触れる。

第1～3回：世界の言語情勢

第4～5回：オーストラリア・ニューギニアの諸言語

第6回：東南アジアの島嶼部・太平洋諸島の諸言語

第7～11回：アジアの諸言語

第12～13回：アジア・オセアニアの文字

第14～15回：言語と文化

# 2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの言語B**

## 2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの言語B**

**学期** 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 塚本 晃久 (非常勤講師)

**授業の概要** アウストロネシア諸語の歴史と比較言語学の方法に関する知識の習得

識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** アウストロネシア諸語の歴史と比較言語学の方法に関する知識の習得

**教科書** プリント配布

**学習の到達目標** 言語史の再構方法を学ぶ(アウストロネシア諸語を例とする)

**成績評価方法と基準** レポート (80%) 授業への積極的参加 (20%)

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識

**オフィスアワー** 授業の後に適宜応じる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

アウストロネシア諸語は系統的にみて互いに関係のある言語の集まりで、いわゆる語族を形成する。この語族は世界でも最も大きな語族のひとつで、それに属する言語は1000前後あると言われ、地理的には北は台湾、南はニュージーランド、東はイースター（ラパヌイ）島（チリ領）、西はマダガスカルに至る広大な地域に分布している。本講義では、まず、言語の歴史研究の方法を学んでから、アウストロネシア諸語の歴史を取り扱った主な研究を検討し、これらの言語がどのように成立したかを学ぶ。その後、まだ十分に解明さ

れていない問題にも触れる。講義の前半で学ぶ歴史研究の方法はアウストロネシア諸語ばかりでなく、どのような言語の歴史研究にも適用することができる一般的なものである。

第1～5回：歴史言語学の方法

第6～8回：アウストロネシア諸語の歴史研究の始まり

第9～10回：Otto Dempwolffの研究

第11回：小川尚義とIsidore Dyenの研究

第12～13回：今日までのアウストロネシア諸語の研究のまとめ

第14～15回：今後の問題

# 2012年度以降入学生用(文化)**中国の言語A**

2011年度以前入学生用(文化)**中国の言語A**

Chinese Language A

Chinese Language A

**学期** 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 福田和展 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 中国語学の基礎的な事項を理解する。「普通話」の成立過程や中国の言語政策を見ることによって、言語や文字に投影される民族意識、或いは言語と国家の関係について理解する。

**学習の目的** ことばの背景にある中国の社会を理解する。ことばと国家の関係を理解する。

**学習の到達目標** ことばと国家、中国と日本について言葉という切り口から理解し、考える力を持つ。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力、専門知識・技術、実践外国語力、感じる力、考える力、

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

以下のことを中心に15回の講義を進める。

第1回～6回：漢中国の少数民族に対する言語政策

コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 共通教育中国語Ⅰを4単位履修済の学生。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育中国語Ⅰ 講読、中国語Ⅰ文法、中国語Ⅱ会話、中国語Ⅱ作文 異文化理解ⅠⅡ（中国語）の各科目

**発展科目** 中国語学演習AB

**教科書** 授業中に指示。

**成績評価方法と基準** 出席、授業態度、レポートで判断。

**オフィスアワー** 月～金の授業・会議時間以外。

字第7回～10回：第7回～9回中国の言語政策

第11回～15回：日本、韓国、ベトナムの言語政策と漢字・漢語

# 2012年度以降入学生用(文化)**中国の言語C**

## 2011年度以前入学生用(文化)**中国の言語C**

Chinese Language C

Chinese Language C

**学期** 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 曾若涵 (ソウ ジャクカン)

**授業の概要** 台湾の言語状況、特に中国語と台湾閩南語を焦点として紹介する。または大陸中国語と台湾中国語との差異、政治、文化、歴史、流行について言及する。なお、この授業では台湾で使用されている「注音符号」と繁体字で中国語を学び、台湾教育部押し広めている「台湾閩南語羅馬字ピンイン方案」で台湾方言を学ぶ。後期の授業は台湾と日本の関係も授業とする。

**学習の目的** 台湾や海外の華人社会で今も使用続けている繁体字で書かれた中国語に親しみ、台湾事情についていろいろの知識を得る。

**学習の到達目標** 「注音符号」・「繁体字」・「台湾閩南語羅馬字ピンイン」を基本的に読めること。中国語でコミュニケーション能力を上達すること。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思

考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 共通教育中国語Ⅰを4単位履修済みの学生。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育中国語Ⅰ 文法、中国語Ⅰ講読、中国語Ⅱ会話、中国語Ⅱ講読。

### 発展科目

中国の文学、中国語学演習、中国の言語B

**教科書** プリントにて配布する。

**成績評価方法と基準** 受講態度・毎回の質問・不定期宿題50%、小テスト20%、レポート30%。

**オフィスアワー** 随時質問に応じる。Emailで質問することも歓迎。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
- 第2回 台湾の言語と中国の言語、概要
- 第3回 注音符号：基本知識
- 第4回 注音符号：講読練習
- 第5回 台湾の言語政策：日治時期。台湾（閩南）語ピンイン（1）
- 第6回 台湾（閩南）語ピンイン（2）
- 第7回 台湾（閩南）語ピンイン（3）

- 第8回 台湾民謡。台湾（閩南）語ピンイン練習
- 第9回 小川尚義の言語学貢献
- 第10回 生活台湾（閩南）語会話（1）
- 第11回 生活台湾（閩南）語会話（2）
- 第12回 生活台湾（閩南）語会話（3）
- 第13回 台湾映画鑑賞、台湾語字幕討論（1）
- 第14回 台湾映画鑑賞、台湾語字幕討論（2）
- 第15回 まとめ
- 第16回 レポート提出

# 2012年度以降入学生用(文化)**中国の言語D**

## 2011年度以前入学生用(文化)**中国の言語D**

Chinese Language D

Chinese Language D

**学期** 後期 **開講時間** 火5,6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業  
**担当教員** 陳逸文 (チンイツブン)

**授業の概要** 前期授業の台湾の言語状況を基ついで、大陸中国語と台湾中国語との差異を除き、台湾方言をもっと深く学び、台湾と日本の関係をいくつかのテーマを利用して紹介する。

**学習の目的** 台湾や海外の華人社会で今も使用続けている繁体字で書かれた中国語に親しみ、台湾事情と日台関係についていろいろの知識を得る。

**学習の到達目標** 「注音符号」・「繁体字」・「台湾閩南語羅馬字ピンイン」を基本的に読めること。中国語でコミュニケーション能力を上達すること。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、

考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 共通教育中国語Ⅰを4単位履修済みの学生。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育中国語Ⅰ 文法、中国語Ⅰ講読、中国語Ⅱ会話、中国語Ⅱ講読。

**発展科目** 中国の文学、中国語学演習Ⅰ

**教科書** プリントにて配布する。

**成績評価方法と基準** 受講態度・毎回の質問・不定期宿題50%、小テスト20%、レポート30%。

**オフィスアワー** 随時質問に応じる。Emailで質問することも歓迎。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

閩南語ピンイン復習。

第2回 台湾博覧会：台湾歴史上最大の博覧会 (1)

第3回 台湾博覧会：台湾歴史上最大の博覧会 (2)

第4回 台湾語会話練習 (1)

第5回 銅像：どこにもある政治的意識 (1)

第6回 銅像：どこにもある政治的意識 (2)

第7回 台湾語会話練習 (2)

第8回 日治時期の修学旅行 (1)

第9回 日治時期の修学旅行 (2)

第10回 台湾語会話練習 (3)

第11回 日本に影響された台湾野球：KANO嘉農野球チーム (1)

第12回 日本に影響された台湾野球：KANO嘉農野球チーム (2)

第13回 台湾語会話練習 (4)

第14回 台湾語会話練習 (5)

第15回 まとめ

第16回 レポート提出

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの文学B**  
Literature in Asia and Oceania B

2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの文学B**  
Literature in Asia and Oceania B

**学期** 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 川口洋史

**授業の概要** タイの文学作品について学んでいく。いくつか作品を取り上げ、その和訳や抄訳を読みながら、古典文学から近代・現代の作品までを概観する。古典文学を通して伝統的な世界観や文化について理解を深めたのち、近現代の作品を読み解くことで19世紀から20世紀の歴史的变化をタイの人々がどのように受け止めたのかを考えていく。

**学習の目的** タイの文学を通して、タイの伝統的な世界観や文化について理解し、それが近現代においてどのように変化したのかを学習するのが目的である。それを通して、他のアジア・オセアニアの文学と比較する基礎をつくることを目指す。

**学習の到達目標** タイの文学について概要を説明できるようになる。また他のアジア・オセアニアの文学との比較ができるようになる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 イントロダクション  
第2回 『ブラ・ロー』とタイ族固有の文化1  
第3回 『ブラ・ロー』とタイ族固有の文化2  
第4回 『三界経』と伝統的世界観1  
第5回 『三界経』と伝統的世界観2  
第6回 『三界経』と伝統的世界観3  
第7回 『クンチャー・クンペン』と古典文学の新潮流1  
第8回 『クンチャー・クンペン』と古典文学の新潮流2  
第9回 『キッチンヌキット』と西洋近代との対峙1

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** なし。

**予め履修が望ましい科目**

なし。

**発展科目**

なし。

**教科書** 使用しない。

**成績評価方法と基準** 3回の小レポートと学期末のレポートによって評価する。

**オフィスアワー** 授業終了後に対応します。

第10回 『キッチンヌキット』と西洋近代との対峙2

第11回 シー・ブーラーパー 『結婚までの日々』と近代タイ1

第12回 シー・ブーラーパー 『結婚までの日々』と近代タイ2

第13回 現代タイ文学1 ナーイ・ピー 『誰のための医者』

第14回 現代タイ文学2 シーダオルアン 『黄衣の男』

第15回 現代タイ文学3 マクット 『ローヒームの詩』

2012年度以降入学生用(文化)**中国の文学A**  
2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学A**

Chinese Literature A  
Chinese Literature A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 人文学部 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** この授業では、先秦から西晋に及ぶ時期の詩文を主な資料として、その表現や内容の変化の過程をたどりつつ、各々の時代の文学作品の持つ特色について考える。

**学習の目的** 中国の古典詩文に親しむ。

**学習の到達目標** 先秦から魏晋を中心とした時期の中国の古典文化に対する理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** この授業は、国語科教員免許の漢

文学に該当する。

**発展科目** 中国の文学B 文学概論J 中国文学演習AB

**教科書** 必要に応じて授業中に資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 授業に対する積極的な態度30%、期末試験等70%

**オフィスアワー** 金曜日12:00～13:00 場所: 湯浅研究室 (教養教育4号館4階)

**その他** この科目は、教育学部の「漢文学講義I」として、教育学部の学生も履修します。開講は人文学部の日程に添って行います。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

- ① 先秦から魏晋の社会と文化について
- ②～④ 先秦の文学
- ⑤～⑧ 漢代の文学

- ⑨～⑪ 三国・魏の文学
- ⑫～⑮ 西晋の文学
- ⑯ 定期試験

2012年度以降入学生用(文化)**中国の文学B**  
2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学B**

**Chinese Literature B**  
**Chinese Literature B**

**学期** 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** この授業では、中国の南北朝期(317～589)の詩文を主な資料として、その表現と内容の変化の過程をたどり、その特質について考える。

**学習の目的** 中国の古典文学に親しむ。

**学習の到達目標** 中国の古典文化に対する理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** この授業は、国語科教員免許の漢文学に該当する。

**予め履修が望ましい科目** 中国の文学A 文学概論J

**発展科目** 中国文学演習AB

**教科書** 必要に応じて授業中に資料を配付する。

**成績評価方法と基準** 授業に対する積極的な態度30%、期末試験等70%。

**オフィスアワー** 金曜日12:00～13:00 場所: 湯浅研究室 (教養教育4号館4階)

**その他** この科目は、教育学部の「漢文学講義II」として、教育学部の学生も履修します。開講は人文学部の日程にそって行います。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

- ① 南北朝期の社会と文化について
- ②～④ 東晋の文学
- ⑤～⑦ 宋の文学

- ⑧～⑫ 南齊・梁の文学
- ⑬ 北朝の文学
- ⑭～⑮ 陳・隋の文学
- ⑯ 定期試験



2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学D**  
2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学D**

**Chinese Literature D**  
**Chinese Literature D**

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子

**授業の概要** 「モダン／ポストモダン」「民間文化」「脱政治」をキーワードとし、文化大革命以降の重要な論争・運動、文学作品に関わる作品・評論等を通して中国現代文学史の枠組について考察する。回によっては映像も使用する。

**学習の目的** 文化大革命以降の中国文学のあゆみをまず知識として把握し、イデオロギー／脱イデオロギーの文学・文学史との関わりを理解したうえで、自身の興味に関連して論じられるようになる。

**学習の到達目標** 文学関連の論文・資料および作品を通して、多角的視点から問題を認識・表現できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性,モチベーション,

幅広い教養,専門知識・技術,論理的思考力,実践外国語力

**受講要件** 中国語I基礎・演習abの単位を取得済みであるか、辞書を用いて中国語を読解可能なレベルの中国語能力があること。

**予め履修が望ましい科目** 文学概論および中国関連科目

**発展科目** 中国文学演習C・Dおよび中国関連科目

**教科書** 授業時に指示する。

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み50%、レポート50%

**オフィスアワー** 在室時は可

**授業計画・学習の内容**

**学習内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文化大革命
- 第3回 文革収束後の文学
- 第4回 尋根文学 1
- 第5回 尋根文学 2

- 第6回 文化熱と『河殤』
- 第7回 文学史叙述の变革
- 第8～10回 人文精神討論
- 第11～12回 民間文化再提起
- 第13～14回 香港・台湾文学と中国文学
- 第15回 まとめ

# 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの社会A**

Asian and Oceanian Societies A

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの社会A**

Asian and Oceanian Societies A

学期 前期 開講時間 水3,4 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 深田淳太郎

**授業の概要** 人間は一人では生きていけない。自らを取り巻く自然環境を利用し、周囲にいる人々と様々な形で関係し、いろいろなモノを交換し、助け合うことではじめて生きていくことが出来る。経済史家カール・ポランニーはこのような、人間が生きていくための周囲の環境との様々なやり取りを指して「実体的な経済」と呼んだ。本講義では、この「実体的な経済」という観点から、まずアジア・オセアニア地域のさまざまな社会を見ていく。

**学習の目的** アジア・オセアニア地域におけるいくつかの社会の事例を取り上げ、「実体的な経済」の観点から捉え直していく。当該地域における人々の多様な生のあり方について学ぶと同時に、より普遍的な意味で人間の社会がどのように成り立っているのかについて考える。もちろん「アジア・オセアニア地域におけるいくつかの社会」の中には、現代日本社会も含まれる。私たち自身の経済観念や行動を、いわゆる市場主義経済の原理を超えたより広い観点から捉え直す。

## 学習の到達目標

- ・アジア・オセアニアに暮らす多様な人々の生活について知る。
- ・われわれ自身の社会も含めて、人間の社会が「実体的な経済」の観点からはどのように捉えることができるのかについて考えることができる。
- ・市場主義経済を歴史的観点から捉え直し、「経済合理性」の多様性について考えることが出来る。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. イントロダクション
2. 二種類の交換経済Ⅰ：商品売買と贈り物の違い

**本学教育目標との関連** 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

2015年度の「アジア・オセアニアの社会E」と同内容の講義なので、同講義で単位を取得した者の受講は許可しません。後期のアジア・オセアニアの社会Bと合わせて受講することが望ましい

**予め履修が望ましい科目** 教養の文化人類学、文化人類学概論

### 発展科目

アジア・オセアニアの民族と文化A、B  
アジア・オセアニアの社会B  
アメリカの民族と文化A、B

### 教科書

特定の教科書は使用しません。  
参考文献は講義内で紹介します。

### 成績評価方法と基準

期末試験（あるいはレポート）60-70%  
コメントシート30-40%

### オフィスアワー

- ・火、水、木の昼休み～午後は研究室にいる可能性が高いです。
- ・その他の時間も研究室（教養教育2号館4階）に灯りがついていれば訪ねてきていただいて結構です。
- ・確実につかまえたいときは、事前にメールでアポイントをとってください。

3. 二種類の交換経済Ⅱ：商品売買と贈り物の共通点
4. 映像鑑賞：西太平洋の遠洋航海者「クラ交換」

5. 交換する生き物としての人間：助け合えというの命令
6. 社会を成立させる交換：レヴィ=ストロースの親族理論
7. 映像鑑賞：西ティモールの廃品回収
8. 社会に埋め込まれた経済：ポランニーによる交換の三類型
9. 伝統経済と市場経済の関係：グローバル化の中のローカル社会
10. お金で買えない価値はあるかⅠ：そもそも貨幣とは何か
11. お金で買えない価値はあるかⅡ：日本円と貝殻貨幣
12. 経済化される人間の身体Ⅰ：血を集めるもっとも効率的な方法とは
13. 経済化される人間の身体Ⅱ：臓器移植の経済学
14. 経済合理性を作り出す：汚職とインサイダー取引と市場経済
15. まとめ

# 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの社会B**

Asian and Oceanian Societies B

## 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの社会B**

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 深田淳太郎

**授業の概要** 私たちはお金なしに生きていくことはできない。様々なモノを売り買いするための道具であるということはもちろん、私たちの世界の価値観や秩序を形作っているのが貨幣であるとも言えよう。貨幣のような存在、すなわちさまざまなモノの取引を媒介し、価値の基準のような役割を果たすものは、あらゆる社会において存在しているが、しかしその形や制度は多様である。貨幣が違えば、取引の在り方や価値秩序の仕組みも当然異なってくる。本講義では、アジア・オセアニア地域のさまざまな社会における貨幣の多様な在り様を見ることを通して、貨幣について、あるいは貨幣と社会について考えていく。

**学習の目的** 貨幣については、哲学・経済学・社会学・・・その他あらゆる学問分野で議論が積み重ねられてきている。それらの古典的な議論を紹介した上で、文化人類学における貨幣についての議論を見ていく。社会を成り立たせる一つの基点となる貨幣の多様な在り方を知ること、そしてそれらがいかにかに成立しているのかのメカニズムについて考える。

### 学習の到達目標

- ・それぞれの社会の在り方によって、貨幣の意味や機能が変化していることが分かる。
- ・貨幣や貨幣が表しているとされる「価値」が、人工的・構築的なものであることを理解する。
- ・その上で、人工的であるにもかかわらず貨幣がリアリティを持つのはなぜかについて考えることが出来る。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学

### 授業計画・学習の内容

習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

2015年度の「アジア・オセアニアの社会F」と同内容の講義なので、同講義で単位を取得した者の受講は許可しません。

前期のアジア・オセアニアの社会Aと合わせて受講することが望ましい

また木曜1限のアジア・オセアニアの民族と文化Bと合わせて受講すると、人間とお金の関係がより良く分かります。

**予め履修が望ましい科目** 教養の文化人類学、文化人類学概論

### 発展科目

アジア・オセアニアの民族と文化A、B  
アジア・オセアニアの社会A  
アメリカの民族と文化A、B

### 教科書

特定の教科書は用いません。  
参考文献は授業中に紹介します。

### 成績評価方法と基準

期末試験（あるいはレポート）60-70%  
コメントシート30-40%

### オフィスアワー

- ・火、水、木の昼休み～午後は研究室にいる可能性が高いです。
- ・その他の時間も研究室（教養教育2号館4階）に灯りがついていれば訪ねてきていただいて結構です。
- ・確実につかまえたいときは、事前にメールでアポイントをとってください。

## 学習内容

1. イントロダクション
2. お金の起源についてのいくつかの仮説
3. マルクスの貨幣論について
4. ジンメルの貨幣論について
5. もう一つの貨幣としての原始貨幣の「発見」
6. 経済人類学における貨幣概念の相対化：ポランニーによる貨幣の定義
7. 近代貨幣は原始貨幣を駆逐するか：グローバリゼーションの中の原始貨幣
8. 貨幣の経済的意味と社会的意味：交換の長期／短期サイクル理論
9. 法定通貨と貝殻貨幣の共存Ⅰ：パプアニューギニアの貝殻貨幣の法定通貨化
10. 法定通貨と貝殻貨幣の共存Ⅱ：貝殻貨幣と市場経済はどう「馴染む」のか
11. 法定通貨と貝殻貨幣の共存Ⅲ：私たちの「市場」が成立しているメカニズムにおける「貨幣」の役割
12. ハイパーインフレにおける貨幣：ジンバブエクライシスの民族誌
13. オルタナティブな貨幣システムの模索Ⅰ：「エンデの遺言」
14. オルタナティブな貨幣システムの模索Ⅱ：南フランスにおける地域通貨運動
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌A**  
Regional Geography of Asia and Oceania A  
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌A**  
Regional Geography of Asia and Oceania A

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 安食 和宏

**授業の概要** 東南アジアの自然環境、農林漁業、環境問題などを学習して、東南アジアの村落の成り立ちと、そこで暮らす人々の生活実態を理解する。フィリピン・ベトナム・タイ・マレーシア・インドネシアなどを対象とする。また、東南アジアと日本との関わりについても考える。

**学習の目的** 東南アジア地域の特徴に関する地理学的な知識を身につける。そして、現実にもみられる諸問題とその解決策について論理的に説明することができる。

**学習の到達目標** 東南アジアの村落の現実を理解して、現代社会を批判的にとらえることができる。そして、「先進国・豊かな国」といわれる日本と、「途上国・貧しい国」とされる東南アジア諸国との国際協力のあり方を

考える。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術、論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 教科書は使わない。必要に応じて資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 小レポート (3割) と試験 (7割)

**オフィスアワー** 質問は随時受け付ける

**その他** この授業の内容は、2013年度・2014年度前期の「アジア・オセアニアの風土と地誌B」と重なる部分が多い。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 東南アジアの全体像  
第2回 発展途上国のとらえ方・・・理論的検討  
第3～4回 東南アジアの自然環境・・・地形・気候・植生の特色  
第5～9回 東南アジアの農業と農村生活・・・伝統的農業スタイル、農村生活の成り立ち、稲作の変化 (緑の革命)、農業の商業化 (ア

グリビジネス)、東南アジアと日本を結ぶモノ

第10～13回 東南アジア海岸部の林業・漁業と環境問題・・・マングローブ林の利用と破壊、エビ養殖の発展、マングローブの植林事業

第14～15回 東南アジア山地部の生活と環境問題・・・森林の利用と破壊、村落生活の変化

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌B**  
Regional Geography of Asia and Oceania B  
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌B**  
Regional Geography of Asia and Oceania B

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 安食 和宏

**授業の概要** 東南アジアの都市構造、都市の生活、商工業などを学習して、東南アジア地域の特徴とそこで暮らす人々の生活実態を理解する。フィリピン・ベトナム・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシアなどを対象とする。また、東南アジアと日本との関わりについても考える。

**学習の目的** 東南アジアの特徴に関する地理的な知識を身につける。そして、現実に見られる諸問題とその解決策について論理的に説明することができる。

**学習の到達目標** 東南アジアの現実を理解して、現代社会を批判的にとらえることができる。そして、「先進国・豊かな国」といわれ

る日本と、「途上国・貧しい国」とされる東南アジア諸国との国際協力のあり方を考える。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 教科書は用いない。必要に応じて資料を配付する。

**成績評価方法と基準** 小レポート（3割）と試験（7割）

**オフィスアワー** 質問は随時受け付ける。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 東南アジアの全体像  
第2～4回 東南アジアの工業発展・・・NIESとASEAN、工業発展、東南アジアと日本との関係  
第5～7回 東南アジアの都市の歴史・・・植民地以降の発展史、民族問題、都市の内部構造  
第8～9回 都市政策と都市計画・・・都市整備計画、ガーデンシティの形成（例として、シ

ンガポール）  
第10～12回 過剰都市化と都市問題・・・都市化、労働力移動、スラム問題、インフォーマルセクター（例として、フィリピンのマニラ、インドネシアのジャカルタ）  
第13～15回 グローバル化する大都市・・・都市中間層、小売業の発展、国際労働力移動（例として、マレーシアのクアラルンプル、タイのバンコク）

2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの民族と文化A**  
Ethnology of Asia and Oceania A  
2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの民族と文化A**  
Ethnology of Asia and Oceania A

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 深田淳太郎

**授業の概要** オセアニア地域研究についての入門講義。人間の移動、居住を拒む大海原「太平洋」は、いつ、どのように人類の歴史に登場してきたのか、また我々が現在生きているヨーロッパ中心の世界にいかに取り込まれてきたのかについて、特に「他者との接触」という点に注目して考える。

**学習の目的** オセアニア地域における人々の移動と接触について学ぶ。「原住民」である太平洋諸島民はどのようにして「絶海の孤島」にたどり着いたのか。また彼らは島によって異なる多様な環境にどのように対応して生活を築いていったのか。さらに、そこにヨーロッパ人がどのように訪れ、異なる文化の間での接触がいかなる状況を生み出したのか。具体的な事例を多く取り上げ、人間が「他者」をどのように眺め、また捉えようとするのかについて学ぶ。

### 学習の到達目標

- ・現在のオセアニア地域の歴史的な成り立ちを理解する
- ・民族が移動する中「他者」との接触が、それぞれの人々の生活にどのような影響を与えているのかを理解する。
- ・接触の局面における「文化」の変容や意味づけについて考えることが出来る。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

1. オリエンテーション
2. 海の世界オセアニアの概要
3. 人間は大洋をいかにして渡ったのか?:太平洋への人類拡散史
4. ヨーロッパ世界による太平洋の「発見」
5. 太平洋の西洋世界への編入: ハワイの歴史を事例に
6. 太平洋から見た西洋人: クック船長はなぜ死んだのか?

**本学教育目標との関連** 感性、共感、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 教養の文化人類学、文化人類学概説

### 発展科目

アジア・オセアニアの民族と文化B  
アジア・オセアニアの社会A、B  
アメリカの民族と文化A、B

### 教科書

特定の教科書は用いません。  
参考文献などは授業中紹介します  
参考書

### 成績評価方法と基準

期末試験（あるいはレポート）60-70%  
コメントシート（30-40%）

### オフィスアワー

- ・火、水、木の昼休み～午後は研究室にいる可能性が高いです。
- ・その他の時間も研究室（教養教育2号館4階）に灯りがついていれば訪ねてきていただいて結構です。
- ・確実につかまえたいときは、事前にメールでアポイントをとってください。

7. 太平洋文化と西洋文化の相互作用: 神話世界の中の西洋
8. グローバル経済の中のローカル社会Ⅰ: カーゴカルト
9. グローバル経済の中のローカル社会Ⅱ: キリスト教と太平洋
10. 観光産業とホンモノの文化Ⅰ: 南の島の楽園の創造
11. 観光産業とホンモノの文化Ⅱ: 人食い族とバンジージャンプ



12. 太平洋国家としての日本：南洋群島と日本の20世紀前半
13. 太平洋国家としての日本：小笠原諸島の歴史
14. 太平洋諸島の今日：マイクロ国家と経済
15. まとめ

2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの民族と文化B**  
Ethnology of Asia and Oceania B  
2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの民族と文化B**  
Ethnology of Asia and Oceania B

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 深田淳太郎

**授業の概要** 就職活動のESでは「あなたはどのような人間か?」ということを書き、企業にアピールすることが求められる。そのときに皆さんはきっと、意外と自分で自分のことを知らないと感じるだろう。しかし、この「自分の中に自分でも知らない部分がある」というような「人間の在り方」は必ずしも普遍的なものではない。「自分探し」という考え方が極めて現代的な現象だということはよく言われるが、さらに世界中のさまざまな社会を見てみれば、人間や「自分」について極めて多様な考え方があることが分かるだろう。その中で私たちが持っている「人間」についての考え方は、実は特殊なものであるということを知り、同時に多様な人間についての考え方があることを学んでもらいたい。

**学習の目的** アジア・オセアニア地域には実に多様な形で人間の生が営まれている。これは多様な人間が存在しているだけでなく、同時に多様な「人間観」が存在しているということでもある。本講義では、様々な地域における多様な人間観について知り、その上で私たち自身が持っている人間観について考えてみたい。

### 学習の到達目標

- ・アジア・オセアニア地域を含む世界には、多様な「人間」と「人間観」が存在していること理解できる。
- ・その上で自分自身がどのような「人間」観を持っているのかについて考えることがで

き、そのような「人間」のあり方を相対化することができる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 教養の文化人類学、文化人類学概論

### 発展科目

アジア・オセアニアの民族と文化A  
アジア・オセアニアの社会A、B←特にBは合わせて受講すると人間とお金のつながりがよく理解できるはず  
アメリカの民族と文化A、B

### 教科書

特定の教科書は用いません。  
参考文献は授業中に紹介します。

### 成績評価方法と基準

期末試験（またはレポート）60-70%  
コメントシート30-40%

### オフィスアワー

- ・火、水、木の昼休み～午後は研究室にいる可能性が高いです。
- ・その他の時間も研究室（教養教育2号館4階）に灯りがついていれば訪ねてきていただいて結構です。
- ・確実につかまえたいときは、事前にメールでアポイントをとってください。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1. イントロダクション
2. 「主体としての人間」の起源Ⅰ：役割社会から
3. 「主体としての人間」の起源Ⅱ：M・モースト&L・デュモン

4. 近世ヨーロッパにおける「世俗内個人」の誕生：啓蒙主義と宗教改革
5. 近現代日本における「本当のわたし」
6. 内面の「意志」の不在：フィリピン、イロングッド族における感情の在り様
7. 関係としての人間：ニューカレドニア、カ

ナク人社会における人間

8. 人間の境界：パプアニューギニア、アンガ  
ティーヤ社会における責任の分配
9. 「内面」の社会性：藤木のひきょうは直る  
ものか？
10. 主体的人間と役割的人間のあいだⅠ

11. 主体的人間と役割的人間のあいだⅡ
12. 主体的人間と役割的人間のあいだⅢ
13. ロボットの人格、動物の人格Ⅰ
14. ロボットの人格、動物の人格Ⅱ
15. 全体のまとめ

# 2012年度以降入学生用(文化)中国語会話A

Chinese Conversation A

## 2011年度以前入学生用(文化)中国語会話A

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 曾若涵 (ソウ ジャクカン)

**授業の概要** 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、中国や台湾・香港についての現代華人社会と文化を紹介し、自分の意見の発表を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。

**学習の目的** 中国語の簡体字と発音を覚えるとともに、文法を利用して一文を完全な話せるようになれる。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。

**学習の到達目標** 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるよになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級レベルを受かった者。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読、中国の言語ABCD

**発展科目** 中国語作文AB、中国の文学、中国語学演習Ⅰ、中国の言語ABCD、異文化理解Ⅱ(中国語)各授業

**教科書** テキストはプリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 1.練習問題と小テスト30%。2.質問と授業態度30%。3.期末テスト40%。

**オフィスアワー** 毎週水・木曜日の13:00~15:00 共通教育4号棟4階曾研究室(事前に予約すくこと)

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 我的愿望

第3回 我的家乡

第4回 日本与台湾

第5回 日本与中国

第6回 汉语骂人的艺术

第7回 中国語検定2級听力, 語汇练习

第8回 中国語検定2級阅读, 翻译练习

第9回 电影欣赏1 (理解力訓練、聞き取り練習)

第10回 电影欣赏2 (理解力訓練、感想書く練習)

第11回 环境保护议题

第12回 动物保护议题

第13回 中日饮食文化比较-夜市与屋台

第14回 中日饮食文化比较-日本料理与中华料理

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

# 2012年度以降入学生用(文化)**中国語会話B**

**Chinese Conversation B**

## 2011年度以前入学生用(文化)**中国語会話B**

**Chinese Conversation B**

**学期** 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **市民開放授業**

**担当教員** 陳逸文 (チンイツブン)

**授業の概要** 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、中国や台湾・香港についての現代華人社会と文化を紹介し、自分の意見の発表を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。

**学習の目的** 中国語の簡体字と発音を覚えるとともに、文法を利用して一文を完全な話せるようになれる。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。

**学習の到達目標** 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。なお、母語者の話すように、自然なスピードでコミュニケーションを目指します。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力,

実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級レベルを受かた者。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読、中国の言語ABCD、異文化理解Ⅱ(中国語)各授業

**発展科目** 中国語作文AB、中国の文学、中国語学演習Ⅰ、中国の言語ABCD

**教科書** テキストはプリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 1.練習問題と小テスト30%。2.質問と授業態度30%。3.期末テスト40%。

**オフィスアワー** 毎週水・木曜日の13:00～15:00 共通教育4号棟4階會研究室(事前に予約すること)

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
- 第2回 看图说故事1-绘本解读
- 第3回 看图说故事2-漫画解读
- 第4回 看图说故事3-海报解读
- 第5回 时事讨论1
- 第6回 时事讨论2
- 第7回 中国語検定2級听力, 語汇练习
- 第8回 中国語検定2級阅读, 翻译练习
- 第9回 电影欣赏1 (理解力訓練、聞き取り練習)

- 第10回 电影欣赏2 (理解力訓練、感想書く練習)
- 第11回 商业汉语1-商品推销
- 第12回 商业汉语2-求职汉语
- 第13回 商业汉语3-办公室用语
- 第14回 商业汉语4-经济新闻阅读
- 第15回 听力、阅读总复习
- 第16回 定期試験

# 2012年度以降入学生用(文化)**中国語作文A**

Chinese Composition A

## 2011年度以前入学生用(文化)**中国語作文A**

**学期** 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **市民開放授業**

**担当教員** 曾若涵 (ソウ ジャクカン)

**授業の概要** 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

**学習の目的** 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分の作文の中に利用される。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。翻訳の能力を上達する。

**学習の到達目標** 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるよになる。大量の翻訳練習。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
- 第2回 自我介绍或者自传 (写作练习1)
- 第3回 我的好朋友 (翻译练习1)
- 第4回 礼仪文化 (写作练习2)
- 第5回 我的家人 (翻译练习2)
- 第6回 上街购物与购物清单 (写作练习3)
- 第7回 议价, 金钱观 (翻译练习3)
- 第8回 中国語検定2級練習

習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級レベルを受かった者。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読 中国の言語ABDC

**発展科目** 中国語会話AB、中国の文学、中国語学演習Ⅰ 中国の言語ABCD

**教科書** プリントにて配布する。

**成績評価方法と基準** 1.練習問題と小テスト30%。2.質問と授業態度30%。3.期末テスト40%。

**オフィスアワー** 毎週水曜日13:00~15:00 共通教育4号棟4階曾研究室。Emailで質問することも歓迎。

第9回 电影欣赏1

第10回 电影欣赏2

第11回 长篇文章阅读与架构分析1

第12回 长篇文章阅读与架构分析2

第13回 长篇文章阅读与架构分析3

第14回 用餐习惯 (翻译练习4)

第15回 总复习

第16回 定期試験

第16回 定期試験

2012年度以降入学生用(文化)**中国語作文B**  
2011年度以前入学生用(文化)**中国語作文B**

**Chinese Composition B**

**学期** 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習  
**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **市民開放授業**  
**担当教員** 陳逸文 (チンイツブン)

**授業の概要** 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

**学習の目的** 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分の作文の中に利用される。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。翻訳の能力を上達する。

**学習の到達目標** 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。大量の翻訳練習。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学

**授業計画・学習の内容**

**学習内容**

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。  
第2回 饮茶文化 (写作练习1)  
第3回 性別平等 (翻译练习1)  
第4回 親子关系 (写作练习2)  
第5回 選挙文化 (翻译练习2)  
第6回 经济衰退 (写作练习3)  
第7回 空气污染 (翻译练习3)  
第8回 中国語検定2級練習

習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級レベルを受かった者。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読 中国の言語ABDC

**発展科目** 中国語会話AB、中国の文学、中国語学演習Ⅰ 中国の言語ABCD

**教科書** プリントにて配布する。

**成績評価方法と基準** 1.練習問題と小テスト30%。2.質問と授業態度30%。3.期末テスト40%。

**オフィスアワー** 毎週水曜日13:00~15:00 共通教育4号棟4階曾研究室。Emailで質問することも歓迎。

第9回 电影欣赏1  
第10回 电影欣赏2  
第11回 传统艺术 (写作练习4)  
第12回 致命传染病 (翻译练习4)  
第13回 宗教 (写作练习5)  
第14回 养生: 气功和瑜伽 (翻译练习5)  
第15回 总复习  
第16回 定期試験

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習A**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習A**

**学期** 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 久間泰賢

**授業の概要** インド文化の一側面である神話について、英語文献を通じて学習する

発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 関連文献を講読し、ヒンドゥー教の女神について考察する

**教科書**

授業の中でコピーを配布する

**学習の到達目標** インド神話についての基本的な知識の習得を目指す

**成績評価方法と基準** 平常点100%

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受

**オフィスアワー** 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教官室（共通教育2号館2階）にて受け付ける。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

インドの女神に関する文献を扱う。講読する文献としては、David Kinsley 著 Tantric Visions of the Divine Feminineなどを予定している。演習では毎回参加者全員の輪読形式によって英文を読み進めてゆく。また、重要な概念に

ついては、その都度担当者を決めてレポート発表してもらうこととする。

第1回 導入：インドの女神神話について

第2回～第14回 文献講読（輪読形式）

第15回 総括

※使用文献のコピーは初回に配布する。



# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習B**

## 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習B**

**学期** 後期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 久間泰賢

**授業の概要** インド文化の一側面である神話について、英語文献を通じて学習する

コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 関連文献を講読し、ヒンドゥー教の女神について考察する

**予め履修が望ましい科目** アジア・オセアニア思想演習A (前期開講)

**学習の到達目標** インド神話についての基本的な知識の習得を目指す

**教科書** 授業の中で配布する

**成績評価方法と基準** 平常点100%

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、

**オフィスアワー** 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教官室（共通教育2号館2階）にて受け付ける。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

インドの女神に関する文献を扱う。講読する文献としては、David Kinsley 著 Tantric Visions of the Divine Feminineなどを予定している。演習では毎回参加者全員の輪読形式によって英文を読み進めてゆく。また、重要な概念に

ついては、その都度担当者を決めてレポート発表してもらうこととする。

第1回 導入：インドの女神神話について

第2回～第14回 文献講読（輪読形式）

第15回 総括

※使用文献のコピーは初回に配布する。

# 2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習I**

## 2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習I**

**学期** 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義, 演習

**担当教員** 久間泰賢

**授業の概要** インド文化の基底をなす古典語, サンスクリット語を学習する

**学習の目的** サンスクリット語の文法を学び, 基礎的な文献の読解を行う

**学習の到達目標** サンスクリット語の基本的文献の読解を目指す

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受

発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** ゴンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』春秋社

**成績評価方法と基準** 期末試験100%

**オフィスアワー** 授業に関する詳細な質問等は, 「木曜日5～6限」の間に「久間教官室(共通教育2号館2階)」にて受け付ける。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

サンスクリット語(Sanskrit)はインドの古典語である。インド・ヨーロッパにおける諸言語の源流にあたるのみならず, アジア・オセアニアの文化に対しても甚大な影響力を及ぼしてきた。この授業では, J.Gondaによる平易な教科書を用いつつ, サンスクリット語文法の基本的理解を目指すとともに, 例文プリントを用いて, 読解力を養う。あわせて, サンスクリット語で用いられているデーヴァナガリー文字の読み書きができるようになることも目指す。サンスクリット語に対する体系的理解のためには, 前期・後期続けての受講が望ましい。

なお, 前年度サンスクリット文法を履修済みで, 引き続きサンスクリット語文献の講読を希望する者は, この講義を受講されたい。授業内容は初等文法の習得が中心となるが, 同時に文法既習者用のプリントを用意しつつ授業を進めていく予定である。

第1回～第2回 デーヴァナガリー文字の読み書き

第3回～第5回 音声変化の規則について

第6回～第15回 名詞・形容詞の曲用と動詞の活用

※練習問題のプリントを授業中に配布する。また, 適宜小テストを実施する。

# 2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習J**

## 2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習J**

**学期** 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義, 演習

**担当教員** 久間泰賢

**授業の概要** インド文化の基底をなす古典語, サンスクリット語を学習する

**学習の目的** サンスクリット語の文法を学び, 基礎的な文献の読解を行う

**学習の到達目標** サンスクリット語の基本的文献の読解を目指す。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** アジア・オセアニア思想演習I (前期開講)

**教科書** ゴンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』春秋社

**成績評価方法と基準** 期末試験100%

**オフィスアワー** 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教室室（共通教育2号館2階）にて受け付ける。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

サンスクリット語(Sanskrit)はインドの古典語である。インド・ヨーロッパにおける諸言語の源流にあたるのみならず、アジア・オセアニアの文化に対しても甚大な影響力を及ぼしてきた。この授業では、J.Gondaによる平易な教科書を用いつつ、サンスクリット語文法の基本的理解を目指すとともに、例文プリントを用いて、読解力を養う。あわせて、サンスクリット語で用いられているデーヴァナガリー文字の読み書きができるようになることも目指す。サンスクリット語に対する体系的理解のためには、前期・後期続けての受講が

望ましい。

なお、前年度サンスクリット文法を履修済みで、引き続きサンスクリット語文献の講読を希望する者は、この講義を受講されたい。授業内容は初等文法の習得が中心となるが、同時に文法既習者用のプリントを用意しつつ授業を進めていく予定である。

第1回～第2回 前期の授業内容の復習

第3回～第15回 名詞・形容詞の曲用と動詞の活用

※練習問題のプリントを授業中に配布する。  
また、適宜小テストを実施する。

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習G (前期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習G (前期2単位)**

**学期** 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 片倉望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** ある程度の漢文読解力を養う。

**学習の目的** 大学入試や教員採用試験に出る程度の漢文なら、片目で読めるようになる。

**学習の到達目標** 漢文に親しむ。

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 実践外国語力

**教科書**

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 授業態度・毎回の質問50%、レポート50%

**オフィスアワー** 随時質問に応じる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

古典漢文の代表的な文章を選び、毎回、初めの30分を使い、独力で訓読、解釈してもらい、残りの60分で演習形式の答え合わせと、思想的背景等の解説を行う。ただし、本演習では、あまり深い思索を進めるのではなく、幅広い漢文の知識を修得することを目的とするため、漢文の初心者でも参加することは可能である。

第一回 演習の進め方

第二回 故事成語 (1)

第三回 故事成語 (2)

第四回 故事成語 (3)

第五回 故事成語 (4)

第六回 故事成語 (5)

第七回 諸子の思想 (1)

第八回 諸子の思想 (2)

第九回 諸子の思想 (3)

第十回 正史の文章 (1)

第十一回 正史の文章 (2)

第十二回 正史の文章 (3)

第十三回 正史の文章 (4)

第十四回 正史の文章 (5)

第十五回 総括

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習H (後期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習H (後期2単位)**

**学期** 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 片倉望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 漢文を読むことを通して、正しい日本語を書く能力を身につける。 国語力

**学習の目的** ポキャブラリーが豊富になり、明治時代に書かれた本もスラスラ読めるようになる。

## 教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

**学習の到達目標** 漢文に親しむ。

**成績評価方法と基準** 授業態度・毎回の質問  
50%、レポート50%

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 実践外

**オフィスアワー** 随時質問に応じる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

古典漢文の代表的な文章を選び、毎回、初めの30分を使い、独力で訓読、解釈してもらい、残りの60分で演習形式の答え合わせと、思想的背景等の解説を行う。ただし、本演習では、あまり深い思索を進めるのではなく、幅広い漢文の知識を修得することを目的とするため、漢文の初心者でも参加することは可能である。

第一回 演習の進め方

第二回 故事成語 (1)

第三回 故事成語 (2)

第四回 故事成語 (3)

第五回 故事成語 (4)

第六回 故事成語 (5)

第七回 諸子の思想 (1)

第八回 諸子の思想 (2)

第九回 諸子の思想 (3)

第十回 正史の文章 (1)

第十一回 正史の文章 (2)

第十二回 正史の文章 (3)

第十三回 正史の文章 (4)

第十四回 正史の文章 (5)

第十五回 総括

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習K (前期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習K (前期2単位)**

**学期** 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 片倉望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 些か本格的に漢文を読み、中国  
古代思想を研究するための技術を養う。

**学習の目的** 些か本格的に漢文が読めるよう  
になる。

**学習の到達目標** 一つの文献を精読し、思想  
の再構成に必要な力を養う。

**本学教育目標との関連** 論理的思考力

## 教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 受講態度・毎回の質問  
50%、レポート50%

**オフィスアワー** 随時質問に応じる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

秦漢思想を理解する上で、極めて重要な意味を持『春秋繁露』『論衡』『淮南子』『史記』『漢書』『三国志』を、とりわけ、その思想的脈絡に注目して精読する。

尚、月に一度は思想関係の論文を一篇、題材として選び、様々な角度から分析を加え、合評、討議を行う予定である。

第一回 演習の進め方

第二回 『春秋繁露』精読 (1)

第三回 『春秋繁露』精読 (2)

第四回 『論衡』精読 (1)

第五回 『論衡』精読 (2)

第六回 『淮南子』精読 (1)

第七回 『淮南子』精読 (2)

第八回 『史記』精読 (1)

第九回 『史記』精読 (2)

第十回 『漢書』精読 (1)

第十一回 『漢書』精読 (2)

第十二回 『三国志』精読 (1)

第十三回 『三国志』精読 (2)

第十四回 『三国志』魏志 東夷伝 倭の項目 (通称『魏志倭人伝』) 精読

第十五回 総括

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習L (後期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習L (後期2単位)**

**学期** 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 片倉望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 中国古代の思想文献を、些か本格的に読解するための漢文力を養う。 国語力

**学習の目的** 些か本格的に漢文が読めるようになる。

## 教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

**学習の到達目標** 一つの文献を精読し、思想の再構成に必要な力を養う。

**成績評価方法と基準** 受講態度・毎回の質問 50%、レポート 50%

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 実践外

**オフィスアワー** 随時質問に応じる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

秦漢思想を理解する上で、その成立時期が明らかで、ただに極めて重要な意味を持つ『呂氏春秋』と『史記』を、とりわけ、その思想的脈絡に注目して精読する。また、後半は経書と読み方を伝授する。尚、月に一度は思想関係の論文を一篇、題材として選び、様々な角度から分析を加え、合評、討議を行う予定である。

第一回 演習の進め方

第二回 『呂氏春秋』精読 (1)

第三回 『呂氏春秋』精読 (2)

第四回 『呂氏春秋』精読 (3)

第五回 『呂氏春秋』精読 (4)

第六回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (1)

第七回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (2)

第八回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (3)

第九回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (4)

第十回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (5)

第十一回 『礼記注疏』精読 (1)

第十二回 『礼記注疏』精読 (2)

第十三回 『春秋左氏伝注疏』精読 (1)

第十四回 『春秋左氏伝注疏』精読 (2)

第十五回 総括

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア史演習E**  
Seminar in History of Asia and Oceania E  
2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア史演習E**  
Seminar in History of Asia and Oceania E

**学期** 前期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **履修の方法** 演習

**担当教員** 酒井 恵子 (人文学部)

**授業の概要** 前近代中国への理解を深めるために、正史列伝の講読を通じて漢文史料の読み方を学ぶ。

**学習の目的** 前近代中国の漢文史料を読解する技術を習得する。

**学習の到達目標** 前近代中国の漢文史料の大意を読み取れるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**教科書** 教科書は使用せず、講読史料は印刷して配布する。漢和辞典は必ず持参すること。

**成績評価方法と基準** 平常点(予習状況と史料読解度) 80%、レポート20%、計100%。  
(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(教養教育4号館5階)

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

第1回 ガイダンス

第2~14回 史料講読

第15回 まとめ



2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア史演習F**  
Seminar in History of Asia and Oceania F  
2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア史演習F**  
Seminar in History of Asia and Oceania F

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **履修の方法** 演習  
**担当教員** 酒井 恵子 (人文学部)

**授業の概要** 前近代中国への理解を深め、史料にもとづいた議論ができるようになるために、紀事本末の講読を通じて漢文史料の読解力を向上させる。

**学習の目的** 前近代中国について史料にもとづいた議論ができるようになるために、漢文史料を読解する技術を習得する。

**学習の到達目標** 前近代中国の漢文史料を正確に読解できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** アジア・オセアニア史演習E

**教科書** 教科書は使用せず、講読史料は印刷して配布する。漢和辞典は必ず持参すること。

**成績評価方法と基準** 平常点(予習状況と史料読解度) 80%、レポート20%、計100%。  
(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(教養教育4号館5階)

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容**  
第1回 ガイダンス

第2~14回 史料講読  
第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化)中国語学演習C

## 2011年度以前入学生用(文化)中国語学演習C

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習  
**担当教員** 福田和展 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 中国少数民族言語のひとつである「彝語」を中国語原書テキストを訳読しながら学ぶ。中国語の読解力を高めるとともに、中国語と彝語の比較を通して、言語学の知識を得、問題点の発見能力を養う。

**学習の目的** 中国語原書読解力のアップ。中国語と比較しつつ彝語を学ぶことで、言語学的分析力を身につける。

**学習の到達目標** 現代中国語と彝語の言語学的分析力を養う。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

中国語の長文読解に慣れ、同時に文法事項の総復習をする。また、言語学的な知識も同時に身につけるために、この授業では、現代中国語で書かれた、中国少数民族言語の涼山彝語入門テキストの読解を行う。

第1回～第5回：涼山彝語について。この言語を話す四川省涼山彝族自治州に住む彝族につ

**受講要件** 福田ゼミの学生は必修。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅰ文法2単位  
中国語Ⅰ講読2単位 中国語Ⅱ会話・講読各2単位

**発展科目** 中国語Ⅲ会話

**教科書** 授業中に随時指示。

**成績評価方法と基準** 発表、出席、その他で判断。

**オフィスアワー** 月～木 授業、会議時間以外。場所：共通教育4号館4階福田研究室

**その他** 旧カリキュラム「中国語学演習Ⅰ」は「中国語学演習A、B」の通年履修です。

いて紹介する文章を読む。

第6回～第15回：涼山彝語の文字と音声について書かれた論文や概説書を読み、文字と発音を学ぶ。

毎回担当者を決め、授業で発表する。日本語訳のみを発表するのではなく、記載されている内容や専門用語についても調べて発表する。詳細については、初回授業で説明する。

# 2012年度以降入学生用(文化)中国語学演習D

## 2011年度以前入学生用(文化)中国語学演習D

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 福田和展 (人文学部)

**授業の概要** 中国、台湾の言語、文字、言語政策に関する原書を読み進めながら、中国語の文法事項を整理し、同時に中国語の読解力をレベルアップする。また、授業で取り上げられたテーマについて調査し、問題点を確認する。

**学習の目的** 中国語学に関する知識だけでなく、言葉の背景にある中国や台湾の歴史、文化、社会について理解を深める。また、中国語学とそれに付随するテーマについて問題意識を持ち、それについて調査、発表をする能力を養う。

**学習の到達目標** 中国語学とそれに付随する知識を得る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 1 中華人民共和国の言語政策  
「普通話」の成立と漢字音注音の変遷
- 2 少数民族政策と言語政策  
中華人民共和国の少数民族言語政策 成果と問

力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語Ⅰ文法、講読4単位取得者、中国語検定試験4級取得者。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅰ文法、中国語Ⅰ講読

**発展科目** 中国語学演習EF、中国の言語BCD

**教科書** プリントを配布。

**成績評価方法と基準** おおよそ授業での発表60%、授業態度40%

**オフィスアワー** 月～金の授業、会議時間以外。

**その他** 福田ゼミの学生は必ず履修。

#### 題点

- 3 中華民国の言語政策  
遷台以前と遷台以降  
前期開講の「中国語学演習C」にひき続き上記3つのテーマについて、15回の授業を行う。

2012年度以降入学生用(文化)**中国文学演習A** Seminar in Chinese Literature A  
2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習A** Seminar in Chinese Literature A  
学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

主に唐代(618~907)の散文(古文)を題材として、中国古典学の基礎となる漢文資料を読解する練習をするなかで、中国の古典詩文に対する理解を深める。

授業では返り点などのない白文を使用し、現代中国語による音読と日本語による訓読、さらに現代日本語による訳を求める。

**学習の目的** 中国の古典詩文に対する理解を深める。

**学習の到達目標** 漢文を読みこなす力をつける。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総

合した力

**受講要件** この授業は国語科教員免許の漢文学に該当する。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅰ以上

**発展科目** 中国の文学A 中国の文学B 中国文学演習 B 文学概論J

**教科書** 必要に応じて授業中に資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 日常の授業での担当による。

**オフィスアワー** 金曜日 12:00~13:00 場所: 湯浅研究室 (教養教育4号館4階)

**その他** 2004年度以前入学生は、通年での履修となります。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 担当者を指名して唐代の散文を読む。

⑮ まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**中国文学演習B** Seminar in Chinese Literature B  
2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習B** Seminar in Chinese Literature B  
学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

おもに宋代(960~1279)の散文(古文)を題材として、中国古典学の基礎となる漢文資料を読解する練習をするなかで、中国の古典詩文に対する理解を深める。

授業では返り点などのない白文を使用し、現代中国語による音読と日本語による訓読、さらに現代日本語による訳を求める。

**学習の目的** 中国の古典詩文に対する理解を深める。

**学習の到達目標** 漢文を読みこなす力をつける。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じ

る力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** この授業は国語科教員免許の漢文学に該当する。

**予め履修が望ましい科目** 中国語Ⅰ以上 中国文学演習A

**発展科目** 中国の文学A 中国の文学B 文学概論J

**教科書** 必要に応じて授業中に資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 日常の授業での担当による。

**オフィスアワー** 金曜日 12:00~13:00 場所: 湯浅研究室 (教養教育4号館4階)

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 担当者を指名して宋代の散文を読む。

⑮ まとめ

2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習C**

Seminar Chinese Literature C

2012年度以降入学生用(文化)**中国文学演習C**

Seminar Chinese Literature C

**学期** 前期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 花尻奈緒子

**授業の概要** 主に中国語で書かれた中国近現代文学・文学史に関わる資料を精読し、回ごとの担当者が概要と問題点を発表する。資料は第一回で配布するものを使用するが、特に希望の資料がある場合はこれに限らない。

対話力, 実践外国語力

**受講要件** 中国語I基礎・演習abの単位を取得済みであるか、辞書を用いて中国語を読解可能なレベルの中国語能力があること。

**学習の目的** 自身の発表準備およびディスカッションを通して、中国語読解能力を高め、中国近現代文学への理解を深めること。

**予め履修が望ましい科目** 中国の文学C、Dおよび中国関連科目

**学習の到達目標** 中国語で書かれた論文を精読し、関連資料を探す作業を通して、文学研究の基礎的な方法を習得すること。

**発展科目** 中国の文学C、Dおよび中国関連科目

**教科書** 授業時に指示する。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み50%、発表50%

**オフィスアワー** 在室時は可

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス、受講者の能力確認

第2回 担当資料の説明およびデモンストレー

ション

第3回～第14回 担当者による発表および討論

第15回 総括討論

2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習D**

Seminar Chinese Literature D

2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習D**

Seminar Chinese Literature D

**学期** 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 花尻奈緒子

**授業の概要** 主に中国語で書かれた中国近現代文学・文学史に関わる資料を精読し、回ごとの担当者が概要と問題点を発表する。資料は第一回で配布するものを使用するが、特に希望の資料がある場合はこれに限らない。

対話力, 実践外国語力

**受講要件** 中国語I基礎・演習abの単位を取得済みであるか、辞書を用いて中国語を読解可能なレベルの中国語能力があること。

**学習の目的** 自身の発表準備およびディスカッションを通して、中国語読解能力を高め、中国近現代文学への理解を深めること。

**予め履修が望ましい科目** 中国の文学C、Dおよび中国関連科目

**発展科目** 中国の文学C、Dおよび中国関連科目

**学習の到達目標** 中国語で書かれた論文を精読し、関連資料を探す作業を通して、文学研究の基礎的な方法を習得すること。

**教科書** 授業時に指示する。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み50%、発表50%

**オフィスアワー** 在室時は可

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス、受講者の能力確認

第2回 担当資料の説明およびデモンストレー

ション

第3回～第14回 担当者による発表および討論

第15回 総括討論

2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習E**  
2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習E**

Seminar Chinese Literature E  
Seminar Chinese Literature E

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 荒井茂夫

**授業の概要** 中国現代文学、海外華文文学、日本の南洋文学、欧米の南洋文学などに関する作品を読み、また関連する事項を調べ、各自の意見を発表し討論する。

**学習の目的** 南洋即ち東南アジアの中国語、日本語欧米語の文学を読み、歴史や社会との関連を調べ、今日にアジアを考える。

**学習の到達目標** 東南アジアの多様な文学作品と歴史社会との関連を理解することによって、今日のアジアにおける日本の位置を理解し、将来を展望する思考力を持つ。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人とし

ての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語履修者が望ましいが、非履修者も可

**予め履修が望ましい科目** 中国の文学、中国の言語、中国語学

**発展科目** 中国の文学、中国の言語、中国語学

**教科書** [テキスト] 授業中に適宜指定する

**成績評価方法と基準** 授業態度、授業に取り組む姿勢50%、発表とレポート50%

**オフィスアワー**

基本的に毎日可  
研究室在室時は常に可

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 1、南洋文学の概念についての議論を紹介する。2、中国語の南洋文学、日本語の南洋文学、欧米言語の南洋文学。3、割り当て

と読み方及び調べ方の指導。4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13、担当者の発表と討論。14, 15、総括議論。



# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習C**

## 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習C**

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏

**授業の概要** 現代アジア（主に東南アジア）を対象として、この地域の地理的特徴（自然環境、産業、生活文化、地域問題など）を的確に把握し理解するためのアプローチの方法を学習する。また調べたことをレポートにまとめ上げる手順について学ぶ。

**学習の目的** 東南アジアと日本の関わりを色々な側面から理解する。テーマ設定からレポート作成までの手順を身につける。また、人前できちんと発表すること、他人の発表に関して討論することができるようになる。

**学習の到達目標** 東南アジアと日本の関わりについて、興味をもって考えられる。ある

テーマに関するレポートの作成方法を理解する。そして、発表と討論の経験を積む。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** アジア・オセアニアの風土と地誌

**成績評価方法と基準** 平常点（2割）と発表・討論内容（4割）とレポート（4割）の総合評価

**オフィスアワー** 質問は随時受け付ける

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

前期の演習では、「東南アジアと日本をつなぐモノ・ヒト」をテーマにする。東南アジアと日本を結びつける食べもの（例えばエビ、バナナ、キャットフード、パーム油など）、地下資源、工業製品、または人間（例えば留学生、観光客、労働者）、または情報（例えばマンガ、アニメ、ドラマ）などの中から受講生が1つ選んで、調べる。関連する文献を探

して授業で紹介する。また、具体的な資料収集も行う。そして、レポートにまとめるまでのプロセスを学ぶ。

第1回 全体的な説明

第2回～3回 参考文献や新聞記事の検索作業

第4回～13回 文献の内容紹介、質疑応答

第14回 レポートの書き方について

第15回 レポートの発表

# 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習D**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習D**

**学期** 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 安食 和宏

**授業の概要** 現代東南アジアを対象として、この地域の地理的特徴（自然環境、産業、生活文化、地域問題など）を的確に把握し理解するためのアプローチの方法を学習する。また調べたことをレポートにまとめ上げる手順について学ぶ。

**学習の目的** 東南アジアの実情を、統計データと文献から理解する。統計データをまとめて（図表化して）、その特徴を読み取ることができる。最終的には、レポートにまとめる。また、人前できちんと発表すること、他人の発表に関して討論することができるようになる。

**学習の到達目標** 東南アジアの特徴に関する統計データの扱い方、分析の方法を理解する。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

後期の演習のテーマは「統計書と文献で理解する東南アジア」。東南アジア諸国の公式統計資料を用いた作業を行い、その国の産業や人々の生活等に関するデータを読み解いて、学習する。そして、各自が、関連する文献を読んで内容を紹介する。最終的には、レポー

トをもとに要約して、レポートを作成することができる。そして、発表と討論の経験を積む。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** アジア・オセアニアの風土と地誌

**成績評価方法と基準** 平常点（2割）と発表・討論内容（4割）とレポート（4割）の総合評価

**オフィスアワー** 質問は随時受け付ける

トにまとめる。

第1回 全体的な説明

第2回～3回 パソコンの作業（図表の作成）

第4回～8回 作業結果の発表と質疑応答

第9回～14回 関連文献の紹介と質疑応答

第15回 レポートの発表

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習E**  
Practics of Regional Geography in Asia and Ocenia E  
2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習E**  
Practics of Regional Geography in Asia and Ocenia E

**学期** 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

**授業の方法** 演習

**担当教員** 朴 恵淑

### 授業の概要

前期は、①四日市・亀山市・伊勢市の活性化調査（アンケート調査、聞き取り調査）を行い、三重県の環境のあり方を探る。②大学キャンパス及び周辺地域の身近な環境問題について調べる。③環境先進大学として三重大学のあり方についてISO14001について理論的・実践的取組をはかる。

後期は、①これまでの調査結果のまとめレポート作成や成果発表を行う。②卒論のテーマの選定、文献検索や論文の書き方を学ぶ。

### 学習の目的

- ・三重県の自然と人間との関係を環境地理的に接近する方法を学習する。
- ・ISO14001の理論的、実践的取組による環境先進大学としての三重大学のあり方を探る。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

前期

第1-5回 地域の活性化・環境調査（アンケート調査、聞き取り調査）

第6-10回 大学キャンパス及び周辺地域の身近な環境問題（ゴミ問題）調査

第11-15回 ISO14001の理論的・実践的取組（三重大学）

思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** [教科書] 朴 恵淑・野中健一著、2003年、昭和堂

**成績評価方法と基準** 中間レポート(30%)及び最終レポート(50%)を主な評価の対象とし、出席率及び授業態度(20%)も考慮して総合評価する。

**オフィスアワー** 空いている時間はいつでも。

後期

第1-5回 前期の調査結果のまとめレポート作成や成果発表

第6-10回 卒論のテーマ選定、文献検索や論文の書き方

第11-15回 環境先進大学としての三重大学のあり方のまとめ・成果発表

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習F**  
Practics of Regional Geography in Asia and Ocenia F  
2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習F**  
Practics of Regional Geography in Asia and Ocenia F

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 演習

担当教員 朴 恵淑

### 授業の概要

前期は、①四日市・亀山市・伊勢市の活性化調査（アンケート調査、聞き取り調査）を行い、三重県の環境のあり方を探る。②大学キャンパス及び周辺地域の身近な環境問題について調べる。③環境先進大学として三重大学のあり方についてISO14001について理論的・実践的取組をはかる。

後期は、①これまでの調査結果のまとめレポート作成や成果発表を行う。②卒論のテーマの選定、文献検索や論文の書き方を学ぶ。

### 学習の目的

- ・三重県の自然と人間との関係を環境地理的に接近する方法を学習する。
- ・ISO14001の理論的、実践的取組による環境先進大学としての三重大学のあり方を探る。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

前期

第1-5回 地域の活性化・環境調査（アンケート調査、聞き取り調査）

第6-10回 大学キャンパス及び周辺地域の身近な環境問題（ゴミ問題）調査

第11-15回 ISO14001の理論的・実践的取組（三重大学）

思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** [教科書] 朴 恵淑・野中健一著、2003年、昭和堂

**成績評価方法と基準** 中間レポート(30%)及び最終レポート(50%)を主な評価の対象とし、出席率及び授業態度(20%)も考慮して総合評価する。

**オフィスアワー** 空いている時間はいつでも。

後期

第1-5回 前期の調査結果のまとめレポート作成や成果発表

第6-10回 卒論のテーマ選定、文献検索や論文の書き方

第11-15回 環境先進大学としての三重大学のあり方のまとめ・成果発表

# 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習C**

## 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習C**

**学期** 前期 **開講時間** 木, 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 深田淳太郎

**授業の概要** 本演習はアジア・オセアニア地域に関心を持つ学生を対象とする。この地域に関するものであれば基本なんでも構わないので、履修者それぞれが自ら「面白い」と思うものを見つけ出し、その対象について関連する文献を集め、あるいはフィールドワークなどを実施して調べ上げる。そしてその結果をまとめ、発表する。また自分の発表だけをすればよいのではなく、他の受講者の発表を聴いて、積極的にコメントすることも求められる。

### 学習の目的

アジア・オセアニア地域には極めて多様な人々の生活がある。私たちと似たような生活をしている人々もいれば（もちろん私たちもアジア・オセアニアの一員だ）、まったく異なった環境でびっくりするような生活スタイルを持つ人々もいる。これらの多様な人々、および人々が使っているモノ、やっているコトの中から、なにかひとつ「面白い」と思うものを見つけ、それについて調べ上げ、「深みにはまって」欲しい。

調べてみれば分かるが、驚くべきことに自分が「面白い」と思ったことは、必ず他の誰かが既に「面白い」と思って調べたことと関連している。それらの先行研究を紐解き、先人の踏み跡を辿ることによって、なぜ自分がそれを面白いと思ったのかを分析して欲しい。これはその事象について深く知るといふことと同時に、自分について改めて知り直すということにもつながるだろう。

### 学習の到達目標

- ・調査対象を選定し、その「面白さ」を他人に説明することができる。
- ・調査において、適切に文献を収集し、読み込むことができる。
- ・発表において、自分の考えていることを適

切な方法で他の受講者に伝えることができる。

- ・アジア・オセアニアについて、あるいはその中の特定の地域において起こっている何らかの事象について、理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

- 受講希望者は必ず一回目の授業に参加すること。●
- どうしても用事があることができないという場合は事前に連絡を入れること。●

**予め履修が望ましい科目** 教養の人類学、文化人類学概論

**発展科目** アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

**教科書** 特定の教科書は指定しない

### 成績評価方法と基準

- ・調査結果の発表が60%
- ・平常点、他の受講者の発表についての討論での発言など40%

### オフィスアワー

- ・火、水、木の昼休み～午後は研究室にいる可能性が高いです。
- ・その他の時間も研究室（教養教育2号館4階）に灯りがついていれば訪ねてきていただいて結構です。
- ・確実につかまえたいときは、事前にメールでアポイントをとってください。

## 授業計画・学習の内容

## 学習内容

1、導入：授業の進め方などについて説明

2-14、受講者による発表&討論

15、まとめ

# 2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習** D

## 2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習D**

**学期** 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 深田淳太郎

**授業の概要** 本演習はアジア・オセアニア地域に関心を持つ学生を対象とする。この地域に関するものであれば基本なんでも構わないので、履修者それぞれが自ら「面白い」と思うものを見つけ出し、その対象について関連する文献を集め、あるいはフィールドワークなどを実施して調べ上げる。そしてその結果をまとめ、発表する。また自分の発表だけをすればよいのではなく、他の受講者の発表を聴いて、積極的にコメントすることも求められる。

### 学習の目的

アジア・オセアニア地域には極めて多様な人々の生活がある。私たちと似たような生活をしている人々もいれば（もちろん私たちもアジア・オセアニアの一員だ）、まったく異なった環境でびっくりするような生活スタイルを持つ人々もいる。これらの多様な人々、および人々が使っているモノ、やっているコトの中から、なにかひとつ「面白い」と思うものを見つけ、それについて調べ上げ、「深みにはまって」欲しい。

調べてみれば分かるが、驚くべきことに自分が「面白い」と思ったことは、必ず他の誰かが既に「面白い」と思って調べたことと関連している。それらの先行研究を紐解き、先人の踏み跡を辿ることによって、なぜ自分がそれを面白いと思ったのかを分析して欲しい。これはその事象について深く知るといふことと同時に、自分について改めて知り直すということにもつながるだろう。

### 学習の到達目標

- ・調査対象を選定し、その「面白さ」を他人に説明することができる。
- ・調査において、適切に文献を収集し、読み込むことができる。
- ・発表において、自分の考えていることを適

切な方法で他の受講者に伝えることができる。

- ・アジア・オセアニアについて、あるいはその中の特定の地域において起こっている何らかの事象について、理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

- 受講希望者は必ず一回目の授業に参加すること。●
- どうしても用事があることができないという場合は事前に連絡を入れること。●

**予め履修が望ましい科目** 教養の人類学、文化人類学概論

**発展科目** アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

**教科書** 特定の教科書は指定しない

### 成績評価方法と基準

- ・調査結果の発表が60%
- ・平常点、他の受講者の発表についての討論での発言など40%

### オフィスアワー

- ・火、水、木の昼休み～午後は研究室にいる可能性が高いです。
- ・その他の時間も研究室（教養教育2号館4階）に灯りがついていれば訪ねてきていただいて結構です。
- ・確実につかまえたいときは、事前にメールでアポイントをとってください。

## 授業計画・学習の内容

## 学習内容

1、導入：授業の進め方などについて説明

2-14、受講者による発表&討論

15、まとめ



2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海文化研究**  
Studies in European & Mediterranean Cultures  
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海研究総論**  
Introduction to European & Mediterranean Studies

学期 前期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 授業の方法 講義

担当教員 ヨーロッパ・地中海地域所属の教員

### 授業の概要

ヨーロッパ・地中海文化研究入門  
それぞれの専門分野の観点からみたヨーロッパ・地中海地域の文化の特徴について学ぶ。

**学習の目的** ヨーロッパ・地中海地域という地域について認識を深め、自身の研究課題を見つける。

**学習の到達目標** 3年次以降の研究課題を見つける。

**本学教育目標との関連** 感性, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** ヨーロッパ・地中海地域の諸科目

**教科書** 特になし

**成績評価方法と基準** 平常点とレポート

**オフィスアワー**

開講時に指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

ヨーロッパ・地中海地域所属の教員がリレー方式でそれぞれの専門分野の観点から、ヨーロッパ・地中海地域の文化の特徴について講義を行う。

第1回～第15回：リレー講義

第1回目の初めに全体の流れについて説明する。

各講義の担当教員については、開講日に案内する。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 C**

European Philosophy C

## 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 C**

European Philosophy C

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

### 授業の概要

ヨーロッパ近代哲学における根本思想を考察することで、近代から現代に至るまでの思考法の基礎を学ぶことを目論見とする。

前期は、近代の西洋哲学史の理論を概観しながら、ヨーロッパの「近代」とは何かを考察する。

身近な問いから、哲学的なものの見方とは、どのような見方であるのかを学び、クリアに考える力をゼロから学ぶ。

### 学習の目的

西洋哲学における主要な主題を歴史的かつ体系的に基礎づける。

物事をじっくり考察するという哲学的思考法や哲学的態度を学ぶ。

先人たちの思想を考察することで、多角的なものの見方や価値観を養う。

**学習の到達目標** 近代の西洋哲学史の流れを理解するとともに、現代の諸問題と関連づけながら近代哲学を考察する。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思

考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

・哲学は「自分自身で考える」学問である。それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

・毎回の授業にレスポンス・ペーパーを配布、回収する。

・哲学ワークショップ（対話型授業）を採り入れる。

**予め履修が望ましい科目** 哲学・倫理学の科目

**発展科目** ヨーロッパ・地中海の思想 D、ヨーロッパ・地中海思想演習

### 教科書

岩崎武雄『西洋哲学史』（有斐閣）

その他、プリント配布。

**成績評価方法と基準** 授業時のレスポンスペーパー（レポート）の内容、平常点、試験などから総合的に評価する。

**オフィスアワー** 毎週木曜日12時～13時

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 近代とは何か？

第三回 ニュートンの世界観～魔術の世界から自然科学へ～

第四回 キリスト教文化とヨーロッパ

第五回 信仰と知

第六回 デカルトの哲学

第七回 ホッブスの哲学

第八回 スピノザの哲学

第九回 偶然と必然の問題

第十回 ライブニッツの哲学

第十一回 ロックの哲学

第十二回 バークリーの哲学

第十三回 ヒュームの哲学

第十四回 カントー大陸合理論とイギリス経験論の調整ー

第十五回 総括

ただし、受講生の関心や理解度に応じて授業を進めるので、

必ずしもスケジュール通りに進むとは限らない。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 D**

European Philosophy D

## 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 D**

European Philosophy D

**学期** 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 田中 綾乃 (人文学部)

### 授業の概要

ヨーロッパ近代哲学における根本思想を考察することで、近代から現代に至るまでの思考法の基礎を学ぶことを目論見とする。

後期は、<哲学と芸術>をテーマにしながら、西洋文化において発展した芸術と哲学の関係性に目を着目しながら、美しいとはどういうことなのか、また、芸術の可能性について考察する。

身近な問いから、哲学的なものの方の見方とは、どのような見方であるのかを学び、クリアに考える力をゼロから学ぶ。

### 学習の目的

西洋哲学における主要な主題を歴史的かつ体系的に基礎づける。

物事をじっくり考察するという哲学的思考法や哲学的態度を学ぶ。

先人たちの思想を考察することで、多角的なものの方の見方や価値観を養う。

### 学習の到達目標

18世紀のヨーロッパは、「芸術家」が明示的に誕生した世紀でもある。西洋哲学において「美」や「芸術」がどのような位置づけであったのかを学ぶと共に、カント哲学を中心に美学論の真髄に迫る。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

・哲学は「自分自身で考える」学問である。それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

・毎回の授業にレスポンス・ペーパーを配布、回収する。

・哲学ワークショップ(対話型授業)を採り入れる。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の思想C、哲学・倫理学の科目

**発展科目** ヨーロッパ・地中海思想演習

### 教科書

渡邊二郎『芸術の哲学』(ちくま学芸文庫)

佐々木健一『美学への招待』(中公新書)

**成績評価方法と基準** 授業時のレスポンスペーパー(レポート)の内容、平常点、試験などから総合的に評価する。

**オフィスアワー** 毎週木曜日12時～13時

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 <美>とは何か?

第三回 古代ギリシャと芸術

第四回 アリストテレス『詩学』

第五回 ミメシスとカタルシス

第六回 キリスト教文化と芸術

第七回 カントの美学

第八回 『判断力批判』の目的

第九回 「天才」とは何か?

第十回 想像力と創造力

第十一回 芸術家の誕生

第十二回 シラーの美学

第十三回 ニーチェの『悲劇の誕生』

第十四回 現代の芸術のゆくえ

第十五回 総括

ただし、受講生の関心や理解度に応じて授業を進めるので、

必ずしもスケジュール通りに進むとは限らない。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史A**

European History A

## 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史A**

European History A

**学期** 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 野村 耕一

**授業の概要** 第二次世界大戦終結後に行われた国際軍事裁判について検討する。

### 学習の目的

歴史学的な分析力を身につける。  
戦後処理の実相について、学術的な意味で正確に理解する。

### 学習の到達目標

歴史学的な分析力を感得する。  
戦後処理の実相について、無理解や誤解に基づく言説を批判的に評価する。

**本学教育目標との関連** 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

高等学校の教科としての日本史や世界史とは

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回以降 第二次世界大戦におけるドイツ及び日本の戦争犯罪を問うたニュルンベルク国際軍事裁判と極東国際軍事裁判について、専門文献を題材に分析する。  
指名したプレゼンテーション担当者による研

異なる、歴史学という学問に関心を抱いていること。

予習・復習を十分行うこと。

専門文献を読み込むための労力を惜しまないこと。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育及び人文学部の歴史学、社会学、政治学、法学などの諸科目。

### 教科書

テキストの候補は次の通りである。追加あるいは変更することもある。

芝健介『ニュルンベルク裁判』（岩波書店、2015年）

日暮吉延『東京裁判』（講談社現代新書、2008年）

**成績評価方法と基準** プレゼンテーション及びその準備状況5割、発言及びその準備状況5割

究発表と討論が授業の枢要である。

指定した文献については必ず入手すること。

各回のプレゼンテーション担当者は入念な準備の上、レジュメを作成して参加者に配布すること。

プレゼンテーション担当者以外も予習は必須である。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史B**

European History B

## 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史B**

European History B

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

**授業の概要** 「歴史」というものへの向き合い方について考える。

歴史学的思考について知的関心を持っていること。

**学習の目的** 歴史学的思考力を身につける。

予習・復習を十分に行うこと。  
専門的文献を読解する英語力。

**学習の到達目標** 歴史というものを論理的に把握する感覚を体得する。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育及び人文学部の歴史学、社会学、政治学、法学などの諸科目。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** 別途指示する。

### 受講要件

**成績評価方法と基準** プレゼンテーション及びその準備状況5割、発言及びその準備状況5割

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 ガイダンス

指定した文献については必ず入手すること。

第2回以降 歴史というものの有様や、それに対する向き合い方について、次に示す視点等を踏まえつつ、主に英語文献を題材に、共に考える。

毎回、1名以上を指名し、指定した事項についてプレゼンテーションを行ってもらおう。

各回のプレゼンテーション担当者は入念な準備の上、レジュメ等を作成して参加者に配布すること。

(1) 歴史の「善用」と「濫用」

予習と復習は必須である。

(2) イデオロギーと歴史

大学レベルの学習に見合った英和辞典を使用すること。

(3) 歴史をめぐるプロパガンダ

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史C**

European and Mediterranean History C

# 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史C**

European and Mediterranean History C

**学期** 後期 **開講時間** 水 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 岸本 廣大 (非常勤講師)

## 授業の概要

古代の地中海を舞台に広く活動したギリシア人の歴史について、先史時代からローマ時代までを対象に解説し、近年の研究成果とそこで提示された問題点を考える。

## 学習の目的

古代の地中海で活動したギリシア人の歴史について、近年の研究成果を踏まえた知見を習得し、その歴史的意義を理解することで、歴史学の問題を論理的・批判的に考えることができる。

## 学習の到達目標

古代の地中海で活動したギリシア人の歴史について、最新の研究成果を踏まえた知見を習得し、その歴史的意義を理解することで、古

代地中海におけるギリシア人の歴史に関する問題について論理的・批判的に考えることができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力

## 教科書

教科書は用いない。  
授業中にプリントを適宜配布する。

**成績評価方法と基準** 授業内の小レポート(約40%) + 期末筆記試験(約60%) = 合計100%

**オフィスアワー** 授業内容に関する質問は、授業の前後に随時受け付ける。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：ギリシア史概観：ギリシア通史および古代史の位置づけ
- 第3～4回：先史時代
  - ・エーゲ海文明 / ・ギリシア世界の「暗黒時代」
- 第5～8回：アルカイック期
  - ・ギリシア人の植民活動 / ・ポリス社会の成立 / ・ポリスとは何か? / ・アルカイック期のポリス

- 第9～11回：「古典期」
    - ・ペルシア戦争 / ・デロス同盟の発展とペロポネソス戦争 / ・前4世紀のギリシア世界
  - 第12～14回：ヘレニズム時代
    - ・マケドニア王国の興隆 / ・アレクサンドロス大王の東方遠征 / ・ヘレニズム諸王国
  - 第15回：ローマ支配下のギリシア世界
  - 第16回：期末筆記試験
- (なお以上の計画は、状況に応じて内容を変更する場合があります)

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の歴史D**  
European and Mediterranean History D  
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の歴史D**  
European and Mediterranean History D

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岸本 廣大 (非常勤講師)

**授業の概要** 古代ギリシアおよび地中海の歴史についての英書を講読し、それに関連する研究や史料について学ぶ。

### 学習の目的

古代ギリシアおよび地中海の歴史について、英語のテキストを読解し、内容を理解することができる。その上で、関連する研究や史料を踏まえて古代ギリシアおよび地中海の歴史について主体的に考えることができる。

### 学習の到達目標

古代ギリシアおよび地中海の歴史について、英語のテキストを読解し、内容を説明することができる。また、テキストで取り上げられる古代ギリシアおよび地中海の歴史に関する問題について、説明することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い

教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

**受講要件** 予習・復習を必ずしてこること。

**教科書** 講読に用いるテキスト及び資料はコピーを配布する。

**成績評価方法と基準** 毎回の予習状況とテキストの内容理解 (約50%) + 小レポート (約20%) + 期末レポート (約30%) = 合計100%

**オフィスアワー** 授業内容に関する質問は、授業の前後に随時受け付ける。

**その他** 初回の授業でテキストのコピーを配布するので、受講希望者は必ず出席してください。(基本的に、第2回以降の授業で再配布はしません。) また、授業には毎回英和辞典を持参してください。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

■第1回: ガイダンス

■第2~15回: 古代ギリシアおよび地中海の歴史についての英語のテキストを読み進め、そ

の内容および関連する研究や史料について学ぶ。

(なお進度については、受講生の状況により適宜調整する場合があります)

2012年度以降入学生用(文化)

# 英米の言語 A

English Language A

2011年度以前入学生用(文化)

# 英米の言語 A

English Language A

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

**授業の概要** 本授業では、英語の様々な言語現象を通して、言葉の「意味」について考える。具体的には、「定冠詞・不定冠詞」、「スコープ」、「モダリティ」、「量化詞」、「時制」、「アスペクト」等に焦点を当て、文の意味を解釈する際にはどのような概念やプロセスが関わっているのかという問題について考察する。また、授業では、日本語や他の言語との比較・対照も行い、より広い視野から英語の言語的特性について考える。

**学習の目的** 英語の様々な現象について言語学（意味論）の観点から考察し、言葉の意味解釈メカニズムについて学ぶ。

**学習の到達目標** 身近な言語現象を論理的に分析できるようになることを目指す。また、授業を通して、英語についての理解を深めることを目指す。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

Week 1: Introduction: what is meaning?

Week 2-Week 3: First order logic, predicates and arguments

Week 4-Week 5: Type theory and the lambda calculus

**本学教育目標との関連** 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 言語学、言語哲学関係の講義・演習

### 教科書

Kearns, Kate.2011.Semantics (second edition). Palgrave Macmillan.

関連文献等については、適宜授業中に指示する。

**成績評価方法と基準** 課題60%、期末レポート40%

**オフィスアワー** オフィスアワーの時間帯については、最初の授業で決める。

Week 6-Week 7: Modality

Week 8-Week 9: Natural language quantifiers

Week 10-Week 11: Definite descriptions

Week 12-Week 13: Indefinite descriptions, plurals, generic and mass NP

Week 14-Week 15: Tense and aspect



2012年度以降入学生用(文化)

# 英米の言語 B

English Language B

2011年度以前入学生用(文化)

# 英米の言語 B

English Language B

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

**授業の概要** 本授業では、英語の様々な現象を通して、語用論の基本的な考え方を学ぶ。具体的には、直示、前提、発話行為、推意といったコンテキストと関わった「意味」に焦点を当て、我々がどのようにして文の背後にある発話者の意図や前提を理解しているのかという問題を考察する。

**学習の目的** 英語の現象を通して、言語使用に関するメカニズムについて学ぶ。

**学習の到達目標** 身近な言語現象を語用論の理論を用いて分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情

報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 言語学、言語哲学関係の講義・演習

## 教科書

George Yule.1996.Pragmatics.Oxford: Oxford University Press.

関連文献等については、適宜授業中に指示する。

**成績評価方法と基準** 課題・発表：60% 期末レポート：40%

**オフィスアワー** オフィスアワーの時間帯に関しては、最初の授業で決める。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

Week 1: Introduction to pragmatics: definitions and background

Week 2-Week 3: Deixis and distance

Week 4-Week 5: Presupposition

Week 6-Week 7: Cooperation and conversa-

tional implicature

Week 8-Week 9: Conventional implicature

Week 10-Week 11: Speech act

Week 12-Week 13: Politeness and grammar

Week 14-Week 15: Dynamic semantics and the representation of discourse

# 2012年度以降入学生用(文化) **イギリスの文学C**

EnglishLiterature C

## 2011年度以前入学生用(文化) **イギリスの文学C**

EnglishLiterature C

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 赤岩隆

**授業の概要** イギリス文学から、劇作家ウィリアム・シェイクスピアの『オセロ』について論じる。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 翻訳を併用しながら、原書を通じて、できるだけ詳しく作品を読んでゆく。劇を成り立たせているものについて明らかにする。

**発展科目** イギリスの文学D

**教科書** Othello(Oxford World's Classics)(Penguin Books)

**学習の到達目標** 近代以前の世界がどのようなものであったか、シェイクスピアを足掛かりに理解できるようになる。

**成績評価方法と基準** 平常点40% レポート等60%

**オフィスアワー** 金曜日12:00-13:00

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回：授業の紹介

第2回：導入 (1)

第3回：導入 (2)

第4回：導入 (3)

第5回

～第14回：作品精読

第15回：まとめ

\*導入においては、時代背景等について特に詳しく解説するとともに、全体の問題提起を行う。

\*作品の精読においては、提起された問題を中心に、作品を読み解いてゆく。

2012年度以降入学生用(文化)**イギリスの文学D**

English Literature D

2011年度以前入学生用(文化)**イギリスの文学D**

English Literature D

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 赤岩隆

**授業の概要** イギリス文学から、劇作家ウィリアム・シェイクスピアの『ヴェニスの商人』について論じる

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 翻訳を併用しながら、原書を通じて、できるだけ詳しく作品を読んでゆく。劇を成り立たせているものについて明らかにする。

**予め履修が望ましい科目** イギリスの文学C

**教科書** The Merchant of Venice(Oxford World's Classics)(Penguin Books)

**学習の到達目標** 近代以前の世界がどのようなものであったか、シェイクスピアを足掛かりに理解できるようになる。

**成績評価方法と基準** 平常点40% レポート等60%

**オフィスアワー** 金曜日12:00-13:00

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：授業の紹介

第2回：導入 (1)

第3回：導入 (2)

第4回：導入 (3)

第5回

～第14回：作品精読

第15回：まとめ

\*導入においては、時代背景等について特に詳しく解説するとともに、全体の問題提起を行う。

\*作品の精読においては、提起された問題を中心に、作品を読み解いてゆく。

# 2012年度以降入学生用(文化)ドイツの言語A

German Language A

## 2011年度以前入学生用(文化)ドイツの言語A

German Language A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 市民開放授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** ドイツ語で書かれた言語学入門のテキストを読みながら、言語、言語学に関する基本的知識を習得します。平行してさまざまなドイツ語や日本語の具体的な現象を紹介し、それを観察することにより、実践的な分析力を身につけることを目指します。ここで学ぶ言語に対する見方は単なる言語学にとどまらずさまざまな分野でのものの見方に役立つことでしょう。

**学習の目的** 自らドイツ語の言語現象をとらえ、そのメカニズムを説明できるようになるために、ドイツ語の言語学に関する文章を読み、その内容を理解し、基本的な言語学の概念について説明できるようになることを目的とする。

### 学習の到達目標

平易なドイツ語の言語学に関する文章を読み、正しく日本語に翻訳することができるようになる。

言語学の用語について説明できるようになる。

言語学の基本的な概念を実際の例に当てはめて分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

**受講要件** 毎回少しずつテキストを読んでもらいますので、基礎的なドイツ語の文法の知識が必要です。中級程度の文法は解説しません。

### 予め履修が望ましい科目

言語学、英語学関係の科目をあらかじめ履修しているか、平行して履修することをお勧めします。

あらかじめ言語学の知識は必要ありませんが、言語に興味のある人を歓迎します。

**発展科目** ドイツの言語B、ドイツ語学演習

**教科書** Harro Gross: Einführung in die Germanistische Linguistik.indicium verlag. (入手方法については授業で指示します。)

**成績評価方法と基準** 期末試験60% (持ち込み可)、授業中の翻訳20%、確認テスト(Moodle上)20%、計100% (合計60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎機構長室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 授業の紹介、言語学・ドイツ語学について

第2回～第3回 言語とは何か

第4回～第5回 コミュニケーションと言語

第6回～第7回 言語と記号

第8回～第10回 音声学

第11回～第13回 音韻論

第14回～第15回 形態論

第16回 テスト (受講者の理解度を見ながら進めますので、上記進度は変更することがあります。)

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツの言語B**

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツの言語B**

German Language B

German Language B

**学期** 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle **市民開放授業**

**担当教員** 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** ドイツ語で書かれた言語学入門のテキストを読みながら、言語、言語学に関する基本的知識を習得します。平行してさまざまなドイツ語や日本語の具体的な現象を紹介し、それを観察することにより、実践的な分析力を身につけることを目指します。ここで学ぶ言語に対する見方は単なる言語学にとどまらずさまざまな分野でのものの見方に役立つことでしょう。

**学習の目的** 自らドイツ語の言語現象をとらえ、そのメカニズムを説明できるようになるために、ドイツ語の言語学に関する文章を読み、その内容を理解し、基本的な言語学の概念について説明できるようになることを目的とする。

### 学習の到達目標

平易なドイツ語の言語学に関する文章を読み、正しく日本語に翻訳することができるようになる。

言語学の用語について説明できるようになる。

言語学の基本的な概念を実際の例に当てはめて分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 言語学、記号論、音声学・音韻論、形態論の概説 (ドイツ語Aの復習)

第2回～第5回 統語論

第6回～第10回 意味論

識・技術, 論理的思考力

**受講要件** ドイツの言語AまたはCを受講済であること。または、それに相当する言語学の基礎的な知識があること。毎回少しずつテキストを読んでもらいますので、基礎的なドイツ語の文法の知識は必要です。中級程度の文法は解説します。

### 予め履修が望ましい科目

言語学、英語学関係の科目をあらかじめ履修しているか、平行して履修することをお勧めします。

あらかじめ言語学の知識は必要ありませんが、言語に興味のある人を歓迎します。

**発展科目** ドイツ語学演習

**教科書** Harro Gross: Einführung in die Germanistische Linguistik.indicium verlag. (入手方法については授業で指示します。)

**成績評価方法と基準** 期末試験60% (持ち込み可)、授業中の翻訳20%、確認テスト(Moodle上)20%、計100% (合計60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎機構長室

第11回～第15回 語用論

第16回 テスト (受講者の理解度を見ながら進めますので、上記進度は変更することがあります。)

# 2012年度以降入学生用(文化)**ドイツの文学 F**

## 2011年度以前入学生用(文化)**ドイツの文学 F**

German Literature F

German Literature F

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択必修

授業の方法 講義

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

「モンタージュとコラージュ」をテーマにします。モンタージュとコラージュは、20世紀前半のヨーロッパにおいて、文学・美術・映画・写真などのさまざまな芸術ジャンルで活用された表現技法です。1933年(ナチ政権誕生時)までのドイツ文学を中心にして、文学以外のジャンルにも触れながら、モンタージュとコラージュの特性について、次の観点から考察します。

- (1) モンタージュ技法誕生の社会学的前提
- (2) モンタージュ技法の前史(19世紀)
- (3) 20世紀のモンタージュとコラージュ(文学、美術、映画)
- (4) モンタージュと引用

### 学習の目的

20世紀前半のヨーロッパ文化について、基礎的な知識を身につけます。

「切断すること」と「組み合わせること」に

よる表現の特性について、理解できるようになります。

### 学習の到達目標

20世紀前半のヨーロッパ文化について、基礎的な知識を持っている。

「切断すること」と「組み合わせること」による表現の特性について、自分の意見を述べることができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 批判的思考力

**発展科目** 「ドイツ文学論」「ドイツ文学概論」

**成績評価方法と基準** 授業への積極的参加 [30%]、レポート[70%]、計100%

**オフィスアワー** 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室(人文校舎2階)にて

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

以下は授業予定です。詳細は初回授業時に説明します。

第1回: 導入(モンタージュとコラージュの定義)

第2回: モンタージュ技法誕生の社会学的前提

第3~5回: モンタージュ技法の前史(19世紀)

第6回: モンタージュと引用

第7~15回: 20世紀のモンタージュとコラージュ(文学、美術、映画)

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツの文学G**

German Literature G

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツの文学G**

German Literature G

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 菅 利恵 (人文学部)

**授業の概要** 「人間」をキーワードに、近代ドイツ文学のさまざまなテキストを紹介する。

通して、文学作品について論じる基本的な作法を取得する。

**学習の目的** 18世紀後半から20世紀初頭のドイツ文学について基本的な知識を獲得する。さまざまな文学作品と親しみながら、近代市民社会に内在する諸問題について考察を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力

**教科書** プリント配布

**学習の到達目標** 近代ドイツ語圏の文学作品に親しむとともに、近代化の諸問題について知見を得る。また自由討論やレポート作成を

**成績評価方法と基準** 平常点とレポートによる。

**オフィスアワー** 金曜日11:00~12:00

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

講義形式を基本とし、余裕があれば参加者による発表の場も設けたい。課題図書全員が読んだうえでグループ討論する「読書会」の時間を複数回設ける。

講義のおおまかな流れ(予定)は以下の通りである。

1. 「人間」とは何か～  
近代化と新しい「人間」
- 2～3. 普遍的存在としての人間像  
レッシング/ゲーテ
- 4～6. 「女」をめぐるファンタジー

H.v.クライスト/A.v.アルニム

7. 「人間」と「人種」

19世紀における人種主義の展開

8～9. 「動物」をめぐるファンタジー

19世紀における科学の発展

「動物」を主人公にしたさまざまな作品

10～13. 「人間」からの脱落、脱出

F.カフカ/Th.マン

14～15. 近代的「人間」を超えて

M. ヌスバウムの社会契約論批判とD.ハーヴェイのコスモポリタニズム批判

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツの文学 H**

German Literature H

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツの文学 H**

German Literature H

**学期** 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択必修

**授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 鶴田 涼子

**授業の概要** ドイツ語圏の民間伝承・童話・文学作品を紹介する中で、作品の語り口を比較検討しながら、人物の内面の描かれ方を分析します。

### 学習の目的

異なる時間、あらゆる文化圏に生きた人々の心性を、民間伝承と文学の世界から感じ取ることを目標とします。

文芸理論や文学作品の解釈を通して、ものごとを複眼的な視点から検討する力を養います。

**学習の到達目標** 文化的背景や時代等を考慮

して、文学作品を多角的に見ることができ、自身の考えを述べるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 授業への積極的な参加と課題発表50%+レポート50%により、総合的に評価します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 はじめに グリム兄弟と『子どもと家庭のためのメルヒェン集』

第2～3回 ヘルダーとグリム兄弟、ドイツの伝説、伝承文学と創作文学

第4～5回 伝承文学研究、文芸理論、グリム・メルヒェンを読む

第6～7回 メルヒェンの比較検討、夢とメルヒェン

第8～9回 伝承文学の構造をみる、メルヒェンの類別

第10～13回 作品に親しむ「ねずの木」等

第14回 ドイツ語圏の文化 自然観と宗教観などを例として

第15回 多面的な視野の紹介、まとめ

ドイツ語圏の文化・文学について、民俗学、歴史学、社会学、精神分析学などの観点から考察する機会を作ります。



2012年度以降入学生用(文化)**フランスの言語 C**

**French Language C**

2011年度以前入学生用(文化)**フランスの言語 C**

**French Language C**

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山本 寛

### 授業の概要

異文化理解Ⅰ基礎フランス語（以前の共通教育フランス語Ⅰ文法）から中級文法へ向かっての橋渡しとなる授業です。1年次に学んだことの復習と発展、新たな文法事項の学習が内容です。

授業は講義（説明）とそれに関連する練習問題で構成されます。

**学習の目的** 話し言葉と書き言葉で日常的に用いられる文法一般を学びます。仏検3級から2級にかけてのレベルの文法の概要を学ぶことができます。

**学習の到達目標** 受講者の能力と努力によって到達度は大きく異なるので一概に言えませんが、仏検3級から2級にかけて必要なフランス語文法の基本的な知識が得られます。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

受講者の知識と能力に応じて内容と進度を定めますので、予め詳細は決定しませんが、第1回から第14回までを用いて、1年次の異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）aおよびbで学んだことの復習と発展に加え、以下の事項について学ぶ予定にしています：identification,

**本学教育目標との関連** 幅広い教養、専門知識・技術、実践外国語力

**受講要件** フランス語Ⅰ文法と講読または異文化理解Ⅰ基礎と演習を履修した学生、ないしは仏検4級程度の実力がある学生のみ履修可

**予め履修が望ましい科目** 受講要件参照のこと

**発展科目** フランスの言語 D

**教科書** 第1回授業で説明します

**成績評価方法と基準** 平常点60%、期末テスト40%、計100%

**オフィスアワー** 毎週月・火・木昼休み、メールは随時。

pronoms possessifs, place de l'adjectif, quantité, y et en, place des pronoms compléments, pronoms complément et négation, pronom relatif "duquel", pronoms et adjectifs interrogatifs, etc.

第15回目はそれまでの授業のまとめです。

2012年度以降入学生用(文化)**フランスの言語 D**

**French Language D**

2011年度以前入学生用(文化)**フランスの言語 D**

**French Language D**

**学期** 後期 **開講時間** 月 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義, 演習

**担当教員** 山本 寛

### 授業の概要

異文化理解Ⅰ基礎フランス語（以前の共通教育フランス語Ⅰ文法）から中級文法へ向かっての橋渡しとなる授業です。1年次に学んだことの復習と発展、新たな文法事項の学習が内容です。

授業は講義（説明）とそれに関連する練習問題で構成されます。

**学習の目的** 話し言葉と書き言葉で日常的に用いられる文法一般を学びます。仏検3級から2級にかけてのレベルの文法の概要を学ぶことができます。

**学習の到達目標** 受講者の能力と努力によって到達度は大きく異なるので一概に言えませんが、仏検3級から2級にかけて必要なフラン

ス語文法の基本的な知識が得られます。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力

**受講要件** 前期にフランスの言語Cを履修済みであること。その他の場合は相談に応じます。

**予め履修が望ましい科目** 受講要件参照のこと

**教科書** 第1回授業で説明します

**成績評価方法と基準** 平常点60%、期末テスト40%、計100%

**オフィスアワー** 毎週月・火・木昼休み、メールは随時。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

受講者の知識と能力に応じて内容と進度を定めますので、予め詳細は決定しませんが、第1回から第14回までを用いて、1年次の異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）aおよびbで学んだことの復習と発展に加え、以下の事項に

ついて学ぶ予定にしています：discours indirect, expressions de la négation, constructions infinitives, passé composé et pronoms compléments, plus-que-parfait, conditionnel, subjonctif, etc.

第15回目はそれまでの授業のまとめです。

**授業の概要** 文学の概念を拡げて映画のシナリオ(会話部分)の抜粋を読みます。語彙と文法の面から内容を理解した後、該当する場面を見て、実際にどのように話されているか学びます。『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』(邦題『アメリー』)を扱います。本授業はテキストを学んでから音声と画面に入りますので、扱う映画は異なりますが、逆の方向で映画にアプローチする「フランス文学演習C」(受講要件に注意)と同時に履修すると、知識と実践のより深い学習が可能になります。

**学習の目的** 話し言葉を中心に文法と語彙の知識を深めます。日常的な会話における発音の聞き取りを初歩的な音声学の知識もまじえて学びます。フランス人の心情の機微に触れます。

**学習の到達目標** 受講者のレベルによって到達度は異なるので一概に言えませんが、文の

構造、動詞の時制と法、語彙などを分析的に理解しながら、フランス語のニュアンスを味わう力と聞き取る力を伸ばします。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** フランス語Ⅰ文法と講読または異文化理解Ⅰ基礎と演習を履修した学生、ないしは仏検4級程度の実力がある学生のみ履修可

**予め履修が望ましい科目** 受講要件を参照のこと

**発展科目** フランスの文学 D

**教科書** プリントを配ります。

**成績評価方法と基準** 平常点60%、期末試験40%、合計100%

**オフィスアワー** 授業期間中の月火木昼休み、メールは随時

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第15回

映画『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』の50分目頃から80分目頃までのシナリオの会話部分の抜粋を、語彙・文法に関して説明

します。発音と聞き取りの実力を増すためにフランス語の音韻の初歩的な指導もします。抜粋部分の選択と進度は開講後に受講生の実力を考慮して設定し、進歩に応じて調整します。

2012年度以降入学生用(文化)

## フランスの文学 D

French Literature D

2011年度以前入学生用(文化)

## フランスの文学 D

French Literature D

学期 後期 開講時間 月 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 山本 寛

**授業の概要** 文学の概念を拡げて映画のシナリオ(会話部分)の抜粋を読みます。語彙と文法の面から内容を理解した後、該当する場面を見て、実際にどのように話されているか学びます。『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』(邦題『アメリー』)を扱います。

**学習の目的** 話し言葉を中心に文法と語彙の知識を深めます。日常的な会話における発音の聞き取りを初歩的な音声学の知識もまじえて学びます。フランス人の心情の機微に触れます。

**学習の到達目標** 受講者のレベルによって到達度は異なるので一概に言えませんが、文の構造、動詞の時制と法、語彙などを分析的に理解しながら、フランス語のニュアンスを味わう力と聞き取る力を伸ばします。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回～第15回

映画『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』の80分目頃から終わりまでのシナリオの会話部分の抜粋を、語彙・文法に関して説明しま

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** フランス語Ⅰ文法と講読または異文化理解Ⅰ基礎と演習を履修した学生、ないしは仏検4級程度の実力がある学生のみ履修可

**予め履修が望ましい科目** 受講要件を参照のこと

**教科書** プリントを配ります。

**成績評価方法と基準** 平常点60%、期末試験40%、合計100%

**オフィスアワー** 授業期間中の月火木昼休み、メールは随時

す。発音と聞き取りの実力を増すためにフランス語の音韻の初歩的な指導もします。抜粋部分の選択と進度は開講後に受講生の実力を考慮して設定し、進歩に応じて調整します。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会A**

European and Mediterranean Society

# 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会A**

European and Mediterranean Society

**学期** 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 村上直樹 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 西欧の近・現代社会を階層論、家族論、身体論の観点から検討する。

シオン力を総合した力

**学習の目的** 受講学生が、西欧の近・現代社会に関して、階層論、家族論、身体論の観点から、自分の見解を展開できるようにする。

**受講要件** ヨーロッパ社会に関する強い関心を持っていること。

**学習の到達目標** 受講学生が、西欧の近・現代社会における階層構造、家族構造、ボディ・ポリティックスの概要を理解できるようにする。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

**発展科目** ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

**教科書** 教科書は特に定めない。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

**成績評価方法と基準** レポートと筆記試験

**オフィスアワー** オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第4回：階層と社会移動

第5回～第10回：西ヨーロッパの家族

第11回～第14回：ヨーロッパ近代社会における〈身体〉

第15回：まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会B**

European and Mediterranean Society

# 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会B**

European and Mediterranean Society

**学期** 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 村上直樹 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 西ヨーロッパ近代社会の形成過程並びに変容過程を様々な観点から検討する。

**学習の目的** 受講学生が、西ヨーロッパ近代社会の形成過程並びに変容過程に関して、自分の見解を展開できるようにする。

**学習の到達目標** 受講学生が、西ヨーロッパ近代社会の形成過程並びに変容過程に関する広範で基本的な知識を習得できるようにする。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

ション力を総合した力

**受講要件** ヨーロッパ社会に関する強い関心を持っていること。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の社会A、ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

**発展科目** ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

**教科書** 教科書は特に定めない。

**成績評価方法と基準** レポートと筆記試験

**オフィスアワー** オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第4回：西ヨーロッパにおける近代社会・近代的人間の形成  
第5回～第8回：非西欧世界との関係

第9回～第12回：地域・民族運動  
第13回～第14回：西ヨーロッパの脱呪術化  
第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の風土と地誌A**  
European and Mediterranean Geography A  
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の風土と地誌A**  
European and Mediterranean Geography A

**学期** 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 北川 真也 (人文学部)

**授業の概要** 地中海地域に着目しながら、現代のヨーロッパを移動という観点から考察します。特に、昨今の移民研究の理論的知見を参照しながら、ヨーロッパ空間が「移民」や「難民」と呼ばれる人びととどのような関係を築いてきたのか、あるいはかれらによって変容させられてきたのかを考えます。

**学習の目的** 目的は、現代の移民・難民をめぐる様々な社会的・政治的・文化的・経済的現象について知識を得るのみならず、人文地理学的観点や移動研究・境界研究の理論を用いて学習することで、ヨーロッパならびに地中海地域に対するより複合的なまなざしを獲得することです。

**学習の到達目標** 授業で得られた地中海ならびにヨーロッパについての知識、さらには移民研究の諸理論を十分に理解するのみならず、ヨーロッパ・地中海地域に対する自身のまなざしがどのように変化したのかを的確に

文章化できることです。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**予め履修が望ましい科目** 文化環境論D、ヨーロッパ・地中海地誌演習

**発展科目** 文化環境論D、ヨーロッパ・地中海地誌演習

**教科書** 特になし。

**成績評価方法と基準** レポート50点×2回＝100点

**オフィスアワー** 木曜日 12時から13時 研究室

**その他** 授業中に、必ず自分なりのメモを自由に作成してください。それが前提となります。また文献の読書も、積極的に行ってもらいたいと思っています。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回～第3回 地中海、ヨーロッパ

第4回～第6回 シェンゲン空間、境界

第7回～第8回 移民、難民、戦争

第9回～第10回 イスラーム、ヨーロッパ、移民

第11回～第12回 郊外、都市、移民

第13回～第14回 移民、運動、多文化的、シティズンシップ

第15回 おわりに

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の風土と地誌B**  
European and Mediterranean Geography B  
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の風土と地誌B**  
European and Mediterranean Geography B

**学期** 後期 **開講時間** 火5,6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 北川 眞也 (人文学部)

**授業の概要** 地中海地域に着目しながら、現代のヨーロッパをコロニアルまたポストコロニアルという観点から考察します。特に、昨今のポストコロニアル研究の理論的知見を参照しながら、ヨーロッパ空間がかつての(旧)植民地と(旧)被植民者たちとどのような関係を築いてきたのか、あるいはかれらによって変容させられてきたのかを考えます。

**学習の目的** 目的は、植民地主義にかかわる社会的・政治的・文化的・経済的現象について知識を得るのみならず、人文地理学的観点やポストコロニアル研究の理論を用いて学習することで、ヨーロッパならびに地中海地域に対するより複合的なまなざしを獲得することです。

**学習の到達目標** 授業で得られた地中海地域ならびにヨーロッパについての知識、さらにはポストコロニアル研究の諸理論を十分に理解するのみならず、ヨーロッパ・地中海地域

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 はじめに
- 第2回～第3回 地中海からみるヨーロッパ
- 第4回～第5回 サイド、パレスチナ／イスラエル、ヨーロッパ
- 第6回～第7回 地理的理想力、オリエンタリズム、エジプト
- 第8回～第9回 ネグリチユード、クレオール、

に対する自身のまなざしがどのように変化したのかを的確に文章化できることです。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**予め履修が望ましい科目** 文化環境論D、ヨーロッパ・地中海地誌演習

**発展科目** 文化環境論D、ヨーロッパ・地中海地誌演習

**教科書** 必要に応じてプリントを配布します。

**成績評価方法と基準** レポート50点×2回＝100点

**オフィスアワー** 木曜日12時から13時 研究室

**その他** 授業中は、必ず自分なりのメモを自由に作成してください。それが前提となります。また関連文献の読書も、積極的に行ってもらいたいと思っています。

- ヨーロッパ
- 第10回～第11回 ファノン、アルジェリア、ヨーロッパ
- 第12回～第13回 ヨーロッパ、新植民地主義、ポストコロニアル資本主義
- 第14回 ポストコロニアル・ヨーロッパ、戦争、暴力の地理
- 第15回 おわりに



2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化A**  
European and Mediterranean Ethnos and Culture  
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化A**  
European and Mediterranean Ethnos and Culture

**学期** 前期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 村上直樹 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 日本ではいまだ馴染みのうすい西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する理解を深めることが本講義の目的である。

**学習の目的** 受講学生が、西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、西ヨーロッパの文化に関する自分の見解を展開できるようにする。

**学習の到達目標** 受講学生が、西ヨーロッパにおける「祝祭」、「民話」、「夢解釈の文化史」、「奇蹟に対する信仰」についての基本的な知識を習得できるようにする。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力,

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する強い関心を持っていること。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の社会A、B

**発展科目** ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

**教科書** 教科書は特に定めない。

**成績評価方法と基準** レポートと筆記試験

**オフィスアワー** オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第5回：カーニヴァル  
第6回～第9回：民話

第10回～第12回：王と奇蹟  
第13回～第14回：夢解釈の文化史  
第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化B**  
European and Mediterranean Ethnos and Culture  
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化B**  
European and Mediterranean Ethnos and Culture

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 村上直樹 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 日本ではいまだ馴染みのうすい西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する理解を深めることが本講義の目的である。

**学習の目的** 受講学生が、西ヨーロッパの民衆文化、民俗文化に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、西ヨーロッパの文化に関する自分の見解を展開できるようにする。

**学習の到達目標** 受講学生が、西ヨーロッパにおける「民間信仰」、「聖人・聖母信仰」、「ケルト文化」についての基本的な知識を習得できるようにする。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力,

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する強い関心を持っていること。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、ヨーロッパ・地中海の社会A、B

**発展科目** ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

**教科書** 教科書は特に定めない。

**成績評価方法と基準** レポートと筆記試験

**オフィスアワー** オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第6回：西欧の民間信仰  
第7回～第12回：ケルト

第13回～第14回：聖母の出現  
第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**  
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**

**学期** 前期 **開講時間** 月 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** インドウ・ジュネジャ

**授業の概要** The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

**学習の目的** English Communication for Practical Purposes

**学習の到達目標** The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

**本学教育目標との関連** 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

**発展科目** 英語会話上級A・B

**教科書** No text book. The teacher will provide the necessary materials.

**成績評価方法と基準** Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

**その他** Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** Giving Opinions and the Reasons for the Opinions, Music, Personality Traits, Money Matters, Talking about Personal Experiences and Discussing Future Plans and Pos-

sibilities. Some handouts on current topics will also be provided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**  
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**

**学期** 前期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** インドウ・ジュネジャ

**授業の概要** The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

**学習の目的** English Communication for Practical Purposes

**学習の到達目標** The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

**本学教育目標との関連** 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

**発展科目** 英語会話上級A・B

**教科書** No text book. The teacher will provide the necessary materials.

**成績評価方法と基準** Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

**その他** Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** Giving Opinions and the Reasons for the Opinions, Music, Personality Traits, Money Matters, Talking about Personal Experiences and Discussing Future Plans and Pos-

sibilities. Some handouts on current topics will also be provided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化)

## 英語会話中級B

Intermediate English Conversation B

2011年度以前入学生用(文化)

## 英語会話中級B

Intermediate English Conversation B

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 インドウ・ジュネジャ

**授業の概要** The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

**学習の目的** English Communication for Practical Purposes

**学習の到達目標** The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

**本学教育目標との関連** 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

**発展科目** 英語会話上級A・B

**教科書** No text book. The teacher will provide the necessary materials.

**成績評価方法と基準** Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

**その他** Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** Fashion, Family, Culture, Jobs, Shopping, Environment and so on. Some handouts on current topics will also be pro-

vided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化)

## 英語会話中級B

Intermediate English Conversation B

2011年度以前入学生用(文化)

## 英語会話中級B

Intermediate English Conversation B

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 インドウ・ジュネジャ

**授業の概要** The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

**学習の目的** English Communication for Practical Purposes

**学習の到達目標** The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

**本学教育目標との関連** 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

**発展科目** 英語会話上級A・B

**教科書** No text book. The teacher will provide the necessary materials.

**成績評価方法と基準** Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

**その他** Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** Fashion, Family, Culture, Jobs, Shopping, Environment and so on. Some handouts on current topics will also be pro-

vided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化) **英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**  
2011年度以前入学生用(文化) **英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

**学習の目的** Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English over a broad range of topics.

**学習の到達目標** Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力

**教科書** Real Talk 2 by Lida Baker and Judith Tanka (2007)

**成績評価方法と基準** Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction are in English. Students are expected to use English in class, even with each other.

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

Session 1: Orientation

Session 2: Life transitions

Session 3: Moving to a new city

Session 4: Culture shock

Session 5: Language learning habits

Session 6: Studying abroad

Session 7: English language trends

Session 8: Money management

Session 9: Lending money

Session 10: Current trends in finances

Session 11: Memories

Session 12: Arguments in English

Session 13: Memorization strategies

Session 14: Mnemonics

Session 15: Course Review

2012年度以降入学生用(文化) **英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**  
2011年度以前入学生用(文化) **英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

**学習の目的** Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English over a broad range of topics.

**学習の到達目標** Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力

**教科書** Real Talk 2 by Lida Baker and Judith Tanka (2007)

**成績評価方法と基準** Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction are in English. Students are expected to use English in class, even with each other.

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

Session 1: Orientation

Session 2: Life transitions

Session 3: Moving to a new city

Session 4: Culture shock

Session 5: Language learning habits

Session 6: Studying abroad

Session 7: English language trends

Session 8: Money management

Session 9: Lending money

Session 10: Current trends in finances

Session 11: Memories

Session 12: Arguments in English

Session 13: Memorization strategies

Session 14: Mnemonics

Session 15: Course Review



2012年度以降入学生用(文化)**英語会話上級B** **Advanced English Conversation B**  
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話上級B** **Advanced English Conversation B**

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

**学習の目的** Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English, over a broad range of topics.

**学習の到達目標** Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** Real Talk 2 by Lida Baker and Judith Tanka (2007)

**成績評価方法と基準** Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction are in English. Students are expected to use English in class, even with each other.

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

Session 1: Orientation

Sessions 2-4: Body trends

Sessions 5-7: Discoveries

Sessions 8-11: Law

Sessions 12-15: Movies

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話上級B** **Advanced English Conversation B**  
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話上級B** **Advanced English Conversation B**

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

**学習の目的** Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English, over a broad range of topics.

**学習の到達目標** Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

Session 1: Orientation

Sessions 2-4: Body trends

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力

**教科書** Real Talk 2 by Lida Baker and Judith Tanka (2007)

**成績評価方法と基準** Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction are in English. Students are expected to use English in class, even with each other.

Sessions 5-7: Discoveries

Sessions 8-11: Law

Sessions 12-15: Movies

2012年度以降入学生用(文化)

# 英作文中級A

Intermediate English Composition A

2011年度以前入学生用(文化)

# 英作文中級A

Intermediate English Composition A

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

**学習の目的** This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

**学習の到達目標** Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas into a composition.

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** Longman Academic Writing Series 4 (Fifth Edition) by Alice Ashima and Ann Hogue (2014)

**成績評価方法と基準** Evaluation is by class preparation, in-class participation, and final compositions.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction are conducted in English.

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Paragraph structure

Session 3: Topic sentences

Session 4: Supporting sentences

Session 5: Concluding sentences

Session 6: Editing and revising paragraphs

Session 7: Using and citing outside sources

Session 8: Quotations

Session 9: Paraphrasing

Session 10: Summary

Session 11: Complex sentences

Session 12: Introduction to essay writing

Session 13: Body paragraphs

Session 14: Introductory and concluding paragraphs

Session 15: Editing and revising essays

2012年度以降入学生用(文化)**英作文中級A** Intermediate English Composition A  
2011年度以前入学生用(文化)**英作文中級A** Intermediate English Composition A  
学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

**学習の目的** This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

**学習の到達目標** Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas into a composition.

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** Longman Academic Writing Series 4 (Fifth Edition) by Alice Oshima and Ann Hogue (2014)

**成績評価方法と基準** Evaluation is by class preparation, in-class participation, and final compositions.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction are conducted in English.

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

Session 1: Orientation

Session 2: Paragraph structure

Session 3: Topic sentences

Session 4: Supporting sentences

Session 5: Concluding sentences

Session 6: Editing and revising paragraphs

Session 7: Using and citing outside sources

Session 8: Quotations

Session 9: Paraphrasing

Session 10: Summary

Session 11: Complex sentences

Session 12: Introduction to essay writing

Session 13: Body paragraphs

Session 14: Introductory and concluding paragraphs

Session 15: Editing and revising essays

2012年度以降入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B  
2011年度以前入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

**学習の目的** This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

**学習の到達目標** Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas

into a composition.

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 情報受  
発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** Longman Academic Writing Series 4  
(Fifth Edition) by Alice Oshima and Ann Hogue

**成績評価方法と基準** Evaluation is by class  
preparation, in-class participation, and final  
compositions.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruc-  
tion are conducted in English.

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

Session 1: Orientation  
Session 2: Paragraph and essay structure  
overview  
Session 3: Producing valid arguments  
Session 4: Introduction to argumentative es-  
say  
Session 5: Rebutting opposing points  
Session 6: Using statistical evidence  
Session 7: Editing argumentative essays  
Session 8: Introduction to cause and effect es-

say  
Session 9: Evaluating arguments  
Session 10: Evaluating outside sources  
Session 11: Editing cause and effect essays  
Session 12: Introduction to compare and con-  
trast essay  
Session 13: Complex sentences  
Session 14: Effective arguments and persua-  
sion techniques  
Session 15: Editing compare and contrast es-  
says

2012年度以降入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B  
2011年度以前入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

**学習の目的** This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

**学習の到達目標** Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas into a composition.

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 情報受  
発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** Longman Academic Writing Series 4 (Fifth Edition) by Alice Oshima and Ann Hogue (2014)

**成績評価方法と基準** Evaluation is by class preparation, in-class participation, and final compositions.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction are conducted in English.

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

Session 1: Orientation  
Session 2: Paragraph and essay structure overview  
Session 3: Producing valid arguments  
Session 4: Introduction to argumentative essay  
Session 5: Rebutting opposing points  
Session 6: Using statistical evidence  
Session 7: Editing argumentative essays  
Session 8: Introduction to cause and effect es-

say  
Session 9: Evaluating arguments  
Session 10: Evaluating outside sources  
Session 11: Editing cause and effect essays  
Session 12: Introduction to compare and contrast essay  
Session 13: Complex sentences  
Session 14: Effective arguments and persuasion techniques  
Session 15: Editing compare and contrast essays

2012年度以降入学生用(文化)  
2011年度以前入学生用(文化)

# 英作文上級A

## 英作文上級A

Advanced English Conversation A

Advanced English Conversation A

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ジョン・ダイクス

**授業の概要** This is an advanced level course focused on the process of writing, and on the linguistic skills needed to describe, to narrate, to persuade and to explain things in writing. Written English differs from the spoken language - it is not spontaneous and needs to be edited, reviewed, revised, and reconsidered.

**学習の到達目標** Students will get lots of practice in composing thoughts into comprehensible English in different types of writing; formal and informal, descriptive and narrative and also in peer editing, reviewing and creating a final composition from a first draft.

**本学教育目標との関連** 情報受発信力, 実践外国語力

**受講要件** Composing written work is largely

a solitary occupation so students will need to have a mature, responsible attitude and be capable of working alone and completing assigned work on time and in an acceptable form.

### 教科書

Words In Motion by David Olsher. Oxford University Press.

ISBN 978 0 19 434452 4

**成績評価方法と基準** Final grades will depend on students' work in class and on final versions of their compositions. Regular attendance is essential!

**その他** THIS COURSE IS ENTIRELY IN ENGLISH! Students will need to work together and should communicate using only English.

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 1 Introduction and orientation.
- 2 What is a paragraph?
- 3 Process writing. Pre-writing.
- 4 Brainstorming. Lists. Notes. Idea maps.
- 5 First draft – Introducing Yourself
- 6 Peer editing. Reviewing.
- 7 Common writing errors and problems. Final draft.
- 8 Interim review. Discussion of first writing project.

- 9 Write an autobiographical paragraph. Peer edit and review for improvements.
- 10 First draft – Describing a real place at a real time.
- 11 Peer editing of first draft and review.
- 12 More common problems. Final draft.
- 13 Write a story - narrative plus descriptive writing
- 14 Peer editing and reviewing.
- 15 Final class. Final draft.

2012年度以降入学生用(文化)  
2011年度以前入学生用(文化)

# 英作文上級B

## 英作文上級B

Advanced English Conversation B

Advanced English Conversation B

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ジョン・ダイクス

**授業の概要** This is an advanced level course focused on the process of writing, and on the linguistic skills needed to describe, to narrate, to persuade and to explain things in writing. Written English differs from the spoken language - it is not spontaneous and needs to be edited, reviewed, revised, and reconsidered.

**学習の到達目標** Students will get lots of practice in composing thoughts into comprehensible English in different types of writing; formal and informal, descriptive and narrative and also in peer editing, reviewing and creating a final composition from a first draft.

**本学教育目標との関連** 実践外国語力

**受講要件** Composing written work is largely a solitary occupation so students will need to

have a mature, responsible attitude and be capable of working alone and completing assigned work on time and in an acceptable form.

### 教科書

Words In Motion by David Olsher. Oxford University Press.

ISBN 978 0 19 434452 4

**成績評価方法と基準** Final grades will depend on students' work in class and on final versions of their compositions. Regular attendance is essential!

**その他** THIS COURSE IS ENTIRELY IN ENGLISH! Students will need to work together and should communicate using only English.

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 1 Introduction and orientation.
- 2 What is a paragraph?
- 3 Process writing. Pre-writing.
- 4 Brainstorming. Lists. Notes. Idea maps.
- 5 First draft - Letter to a Friend; 3 different types of writing used together.
- 6 Peer editing. Reviewing.
- 7 Common writing errors and problems. Final draft.
- 8 Interim review. Discussion of first writing

project.

- 9 Multiple paragraphs; writing a tourist brochure for a place you know.
- 10 First draft - A tourist brochure using idea maps to compose the writing
- 11 Peer editing of first draft and review.
- 12 More common problems. Final draft.
- 13 Write a movie review - expressing opinions with reasons.
- 14 Peer editing and reviewing.
- 15 Final class. Final draft.



# 2012年度以降入学生用(文化)ドイツ語会話 A

German Conversation A

## 2011年度以前入学生用(文化)ドイツ語会話 A

German Conversation A

学期 前期 開講時間 水 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

選/必 選択必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

**授業の概要** 基本的な文法を習得することにより、自分のことを表現できるようにします。

い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 聞くことや話すことを中心にした練習を行い、ドイツ語で簡単な会話ができるようになる。併せて、ドイツ事情について学ぶ。

**受講要件** この授業を履修できるのは、ドイツ語会話を初めて学習する学生です。

**発展科目** 「ドイツ語会話B」

**学習の到達目標** ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を習得し、平易な日常的コミュニケーションができる。

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点60%、課題40%

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広い

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回: アルファベットと発音 (1)
- 第2回: アルファベットと発音 (2)
- 第3回: 人と知り合う (自己紹介する) (1)
- 第4回: 人と知り合う (自己紹介する) (2)
- 第5回: 趣味
- 第6回: 好きなこと、嫌いなこと
- 第7回: ドイツ人と日本人の余暇活動 (1)
- 第8回: ドイツ人と日本人の余暇活動 (2)

- 第9回: 家族 (1)
- 第10回: 家族 (2)
- 第11回: 職業
- 第12回: 町で (店、買い物) (1)
- 第13回: 町で (店、買い物) (2)
- 第14回: 食事 (一日の食事) (1)
- 第15回: 食事 (一日の食事) (2)
- 第16回: 復習

# 2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語会話B**

## 2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語会話B**

**German Conversation B**

**German Conversation B**

**学期** 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**選** 選択必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

**授業の概要** 基本的な文法を習得することにより、自分のことを表現できるようにします。

**学習の目的** 聞くことや話すことを中心とした練習によって、ドイツ語で簡単な会話ができるようになる。併せて、ドイツ事情について知識を得る。

**学習の到達目標** ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を固めることにより、平易な日常のコミュニケーションができるようになる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** この授業を履修できるのは、人文学部科目「ドイツ語会話A」、あるいは教養教育科目「異文化理解I応用(ドイツ語)a」「異文化理解I演習(ドイツ語B)a」「異文化理解I演習(ドイツ語A)a」を履修済みの学生です。

**予め履修が望ましい科目** 人文学部科目「ドイツ語会話A」、または教養教育科目「異文化理解I応用(ドイツ語)a」

**発展科目** 「ドイツ語会話C」「ドイツ語会話D」「ドイツ語会話E」「ドイツ語会話F」

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点60%、課題40%

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回：時間

第2回：一日の生活 (1)

第3回：一日の生活 (2)

第4回：一週間の予定 (1)

第5回：一週間の予定 (2)

第6回：持ち物(品物と感想、買い物) (1)

第7回：持ち物(品物と感想、買い物) (2)

第8回：休日の計画 (1)

第9回：休日の計画 (2)

第10回：ドイツで人気のある休暇先

第11回：週末の後 (1)

第12回：週末の後 (2)

第13回：過去のできごと

第14回：経験を話す

第15回：メールを書く

第16回：復習

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語会話 C**  
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語会話 C**

German Conversation C

German Conversation C

学期 前期 開講時間 水 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

選/必 選択必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

**授業の概要** ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を確かなものにし、さらに運用力を伸ばす。

ン力を総合した力

**受講要件** この授業を履修できるのは、ドイツ語会話をすでに1年間学習した学生だけです。

**学習の目的** ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させる。

**予め履修が望ましい科目** 「ドイツ語会話A」「ドイツ語会話B」

**学習の到達目標** ドイツ語で日常的コミュニケーションができ、さらに簡単な学問的テーマについて話せる。

**発展科目** 「ドイツ語会話D」

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション

**教科書** プリント使用

**成績評価方法と基準** 平常点60%、課題40%

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回: レストランで (注文する・支払う) (1)

第2回: レストランで (注文する・支払う) (2)

第3回: ドイツの食べ物

第4回: ホテルで (ホテルを探す・比較する・予約する) (1)

第5回: ホテルで (ホテルを探す・比較する・予約する) (2)

第6回: ヨーロッパでの休暇

第7回: 街で (道を尋ねる) (1)

第8回: 街で (道を尋ねる) (2)

第9回: 旅行と交通 (駅で・観光場所について話す) (1)

第10回: 旅行と交通 (駅で・観光場所について話す) (2)

第11回: ミュンヘンでの一日

第12回: 天気 (1)

第13回: 天気 (2)

第14回: ドイツの四季と休暇地

第15回: 健康と体の手入れ (1)

第16回: 健康と体の手入れ (2)

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語会話 D**  
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語会話 D**

German Conversation D

German Conversation D

学期 後期 開講時間 水 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

選~~必~~ 選択必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

**授業の概要** ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を確かなものにし、さらに運用力を伸ばします。

**学習の目的** ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させる。

**学習の到達目標** ドイツ語で日常的なコミュニケーションができ、簡単な学問的テーマについて話せる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** この授業を履修できるのは、ドイツ語会話をすでに1年間学習した学生だけです。

**予め履修が望ましい科目** 「ドイツ語会話A」「ドイツ語会話B」「ドイツ語会話C」

**発展科目** 「ドイツ語作文A」「ドイツ語作文B」

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点60%、課題40%

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 第1回：贈り物と招待 (1)
- 第2回：贈り物と招待 (2)
- 第3回：ドイツのお誕生日
- 第4回：色と衣服 (1)
- 第5回：色と衣服 (2)
- 第6回：ドイツの学校制度
- 第7回：履歴と職業 (1)
- 第8回：履歴と職業 (2)

- 第9回：ゴミと環境 (1)
- 第10回：ゴミと環境 (2)
- 第11回：もし...だったら (1)
- 第12回：もし...だったら (2)
- 第13回：禁止と規則 (1)
- 第14回：禁止と規則 (2)
- 第15回：祝祭と祝日 (1)
- 第16回：祝祭と祝日 (2)

2012年度以降入学生用(文化)

# ドイツ語作文 A

German Writing A

2011年度以前入学生用(文化)

# ドイツ語作文 A

German Writing A

**学期** 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択必修

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

**授業の概要** ドイツ語の文章を書き、読むことにより、ドイツ語の基本的な文法、よく使われる表現のアクティブな習得を目指します。

い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** すでに習得した文法知識を用いて、幅広く高度な作文能力を養う。

**受講要件** この授業を履修できるのは、ドイツ語をすでに2年以上学習した学生だけです。

**学習の到達目標** 文法的な間違いがないだけではなく、自然なドイツ語を書く能力がある。

**発展科目** 「ドイツ語作文B」

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点50%、課題50%

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：導入 (E.O.Plauen: Vater und Sohn - Bildergeschichten.)

第2～4回：作文1

第5～7回：作文2

第8～10回：作文3

第11～13回：作文4

第14～15回：作文5

2012年度以降入学生用(文化)

# ドイツ語作文 B

German Writing B

2011年度以前入学生用(文化)

# ドイツ語作文 B

German Writing B

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択必修

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミハエラ (非常勤講師)

**授業の概要** ドイツやオーストリアで公的に認定されているドイツ語能力試験の作文課題を使って練習します。それによって、ドイツ語の基本的な文法、よく使われる表現のアクティブな習得を目指します。

**学習の目的** すでに習得した文法知識を用いて、幅広く高度な作文能力を身につける。

**学習の到達目標** 文法的な間違いがないだけでなく、自然なドイツ語を書く能力を持っている。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：導入（ドイツやオーストリアのドイツ語能力試験）

第2回～4回：私的な手紙やメール

第5回～7回：オフィシャルな手紙やメール

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広い教養, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** この授業を履修できるのは、ドイツ語をすでに2年以上学習した学生だけです。

**予め履修が望ましい科目** 「ドイツ語作文A」

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点50%、課題50%

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

第8回～10回：エッセイ

第11回～13回：報告文

第14回～15回：関心のあるテーマについて小論を書く

2012年度以降入学生用(文化) **フランス語会話 C**

**French Conversation C**

2011年度以前入学生用(文化) **フランス語会話 C**

**French Conversation C**

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 年次に関して「受講要件」を参照してください **年次**

**学部(学士課程)**: 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** ダメモ ジャン・フランソワ

**授業の概要** ビデオ教材を用いつつ、ネイティブスピーカーの指導のもとにフランス語会話の練習を行う

または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

**学習の目的** フランス語によるコミュニケーション能力の向上

**予め履修が望ましい科目** 受講要件参照のこと

**学習の到達目標** 具体的な到達レベルは、各受講者が受講開始時にすでに修得してある知識や能力などによって異なります

**発展科目** フランス語会話 D

**本学教育目標との関連** 共感, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** プリントを用います

**成績評価方法と基準** 平常点 (授業への積極的な参加が求められる) 100%

**受講要件** フランス語 II 講読と会話 (現在の異文化理解 II 総合と演習) を履修した学生、

**オフィスアワー**

授業の前後

急ぎの場合は山本覚 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

受講生のレベル等に応じて適宜変更されま

07-08回 意見を伝える、褒めることと批判すること

01-02回 対人関係と情報の交換

09-10回 意見を伝える、好悪の感情

03-04回 対人関係と様々な挨拶

11-12回 計画を立てる、承諾と拒否

05-06回 情報を求める、空間の表現、感情の表現

13-14回 提案する、理由を述べる、賛否を表明する

15-16回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**フランス語会話 D**

**French Conversation D**

2011年度以前入学生用(文化)**フランス語会話 D**

**French Conversation D**

**学期** 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 年次に関して「受講要件」を参照してください **年次**

**学部**(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** ダメム ジャン・フランソワ

**授業の概要** ビデオ教材を用いつつ、ネイティブスピーカーの指導のもとにフランス語会話の練習を行う

学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

**学習の目的** フランス語によるコミュニケーション能力の向上

**予め履修が望ましい科目** 受講要件参照のこと

**学習の到達目標** 具体的な到達レベルは、各受講者が受講開始時にすでに修得してある知識や能力などによって異なります

**教科書** プリントを用います

**成績評価方法と基準** 平常点（授業への積極的な参加が求められる）100%

**本学教育目標との関連** 共感, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**オフィスアワー**

授業の前後

急ぎの場合は山本覚 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

**受講要件** 「フランス語会話 C」を履修した

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

受講生のレベル等に応じて適宜変更されます。

01-02回 人を招く、招かれる

03-04回 批判と非難、謝罪

05-06回 人を手伝う、助言を求める

07-08回 意図や希望を伝える

09-10回 手伝いを頼む

11-12回 思い出、過去を語る

13-16回 後期および1年間のまとめ



2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海思想演習 C**  
Seminar in European Philosophy C  
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海思想演習 C**  
Seminar in European Philosophy C

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 田中 綾乃

**授業の概要** 近代哲学の金字塔と言われるカント哲学を理解するために、カントの著作をじっくりと精読する。前期は、カントの「倫理学」を中心にしてテキスト読解を行う予定である。

**学習の目的** 難解だと言われるカントのテキストに対峙することで、テキストを深く読み込む読解力、物事を論理的に考える思考力、自分の考えを他者に伝えるためのコミュニケーション能力、そして、何より自分自身で考え抜くという哲学の基本的な態度を身につけることを目標とする。

**学習の到達目標** カントのオリジナルテキストを読解する。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件**

演習であるので、受講者同士の自発的な対話、討論が求められる。

後期科目「ヨーロッパ・地中海思想演習D」を受講すること。

**予め履修が望ましい科目** 哲学・倫理学科目

**教科書**

カント『純粹理性批判』(岩波文庫)

カント『道徳形而上学の基礎づけ』(岩波文庫)

その他、随時、指示する。

**成績評価方法と基準** ゼミ発表、授業への積極的参加、レポートなどから総合的に評価する。

**オフィスアワー** 毎週木曜日12時～13時

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

第一回 イントロダクション

第二回 各回の担当者の決定、基礎的文献の紹介など

第三回目以降は、担当者の発表形式によっ

て、ディスカッションを進める。

担当者は、担当箇所のレジュメを作成し、発表を行う。

それを踏まえて、参加者全員が議論、討論を行う。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海思想演習 D**  
Seminar in European Philosophy D  
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海思想演習 D**  
Seminar in European Philosophy D

学期 後期 開講時間 木5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 田中 綾乃

**授業の概要** 近代哲学の金字塔と言われるカント哲学を理解するために、カントの著作をじっくりと精読する。後期は、カントが神の存在や魂の不死、自由についてどう捉えていたのか、カントの世界観を明らかにする。

**学習の目的** 難解だと言われるカントのテキストに対峙することで、テキストを深く読み込む読解力、物事を論理的に考える思考力、自分の考えを他者に伝えるためのコミュニケーション能力、そして、何より自分自身で考え抜くという哲学の基本的な態度を身につけることを目標とする。

**学習の到達目標** カントのオリジナルテキストを読解して、その思想体系を明らかにする。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コ

ミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

演習であるので、受講者同士の自発的な対話、討論が求められる。

前期科目「ヨーロッパ・地中海思想演習C」を受講すること。

**予め履修が望ましい科目** 哲学・倫理学科目

### 教科書

カント『純粋理性批判』(岩波文庫)

カント『道徳形而上学の基礎づけ』(岩波文庫)

カント『判断力批判』(岩波文庫)

その他、随時、指示する。

**成績評価方法と基準** ゼミ発表、授業への積極的参加、レポートなどから総合的に評価する。

**オフィスアワー** 毎週木曜日12時～13時

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 各回の担当者の決定、基礎的文献の紹介など

第三回目以降は、担当者の発表形式によっ

て、ディスカッションを進める。

担当者は、担当箇所のレジュメを作成し、発表を行う。

それを踏まえて、参加者全員が議論、討論を行う。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海倫理思想演習A**

Seminar in European Ethics A

## 2011年度以前入学生用(文化) **生命倫理論演習A**

Seminar in Bioethics A

**学期** 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 相澤 康隆 (人文学部)

**授業の概要** アリストテレスの『政治学』に関する英語論文を読む。

論・対話力, 社会人としての態度

### 学習の目的

- ・アリストテレスの政治思想および倫理思想の基礎知識を身につける。
- ・英文読解力を向上させる。

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** プリントを配布する。

**学習の到達目標** 古代ギリシアの政治思想と倫理思想に関する知識を得る。

**成績評価方法と基準** 平常点 (発表の内容と授業への貢献度) で評価する。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討

**オフィスアワー** 毎週金曜日の7・8限 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回: ガイダンス (成績評価の説明と各回の担当者の決定)

第2回～第14回: 担当者が作成したレジュメを用いて全員で討論する。

第15回: まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海倫理思想演習B**

Seminar in European Ethics B

## 2011年度以前入学生用(文化) **生命倫理論演習B**

Seminar in Bioethics B

**学期** 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 相澤 康隆 (人文学部)

**授業の概要** アリストテレスの『政治学』に関する英語論文を読む。

論・対話力, 社会人としての態度

### 学習の目的

- ・アリストテレスの政治思想および倫理思想の基礎知識を身につける。
- ・英文読解力を向上させる。

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** プリントを配布する。

**学習の到達目標** 古代ギリシアの政治思想と倫理思想に関する知識を得る。

**成績評価方法と基準** 平常点 (発表の内容と授業への貢献度) で評価する。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討

**オフィスアワー** 毎週金曜日の7・8限 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回: ガイダンス (成績評価の説明と各回の担当者の決定)

第2回～第14回: 担当者が作成したレジュメを用いて全員で討論する。

第15回: まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習C**

Seminar on European History C

# 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習C**

Seminar on European History C

**学期** 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 野村 耕一

## **授業の概要**

歴史学の研究に際しては、史料の読解などの技術的な事柄や、史実を分析するための様々な理論を習得しておくことは大切であるが、その背景あるいは根底にある歴史観や歴史意識といったことについて認識しておくことも不可欠である。

本演習では、歴史というものにどう向き合うのかということ、碩学の思想に触れつつ共に考えたい。

**学習の目的** 歴史学の背景には、歴史観や歴史意識というものがあるいは伏在していることを認識する。

## **学習の到達目標**

専門的な文献を正確に読解する。

収集した情報を的確に整理し、聞き手が理解できるようにプレゼンテーションする。

## **授業計画・学習の内容**

---

### **学習内容**

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 研究発表とディスカッション  
研究発表担当者と司会者を各回毎に指名する。

**本学教育目標との関連** 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 予習と復習を十分に行うこと。

**予め履修が望ましい科目** 人文学部及び教養教育における歴史学関係の諸科目

**教科書** 別途指示する。

**成績評価方法と基準** プレゼンテーション及びその準備状況6割、発言及びその準備状況4割。

**その他** 担当教員の3年次指導学生は必ず本演習を受講して下さい。

30-40分程度の研究発表後、司会者を進行役としてディスカッションを行う。

欧州及び日本における歴史思想などについて、いくつかの文献を題材に、共に考える。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習D**

Seminar on European History D

# 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習D**

Seminar on European History D

**学期** 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 野村 耕一

## 授業の概要

歴史学の研究に際しては、史料の読解などの技術的な事柄や、史実を分析するための様々な理論を習得しておくことは大切であるが、その背景あるいは根底にある歴史観や歴史意識といったことについて認識しておくことも不可欠である。

本演習では、歴史というものにどう向き合うのかということ、碩学の思想に触れつつ共に考えたい。

**学習の目的** 歴史学の背景には、歴史観や歴史意識というものがあるいは伏在していることを認識する。

## 学習の到達目標

専門的な文献を正確に読解する。  
収集した情報を的確に整理し、聞き手が理解できるようにプレゼンテーションする。

**本学教育目標との関連** 感性、倫理観、主体的

学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

## 受講要件

予習と復習を十分に行うこと。  
原則として本年度前期に開講のヨーロッパ・地中海史演習Cを履修済であること。

**予め履修が望ましい科目** 人文学部及び教養教育における歴史学関係の諸科目

**教科書** 別途指示する。

**成績評価方法と基準** プレゼンテーション及びその準備状況6割、発言及びその準備状況4割。

**その他** 担当教員の3年次指導学生は必ず本演習を受講して下さい。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 ガイダンス  
第2回～第15回 研究発表とディスカッション  
研究発表担当者と司会者を各回毎に指名する。

30-40分程度の研究発表後、司会者を進行役としてディスカッションを行う。

欧州及び日本における歴史思想などについて、いくつかの文献を題材に、共に考える。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習E**

Seminar on European History E

# 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習E**

Seminar on European History E

**学期** 前期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **対象** 担当教員の4年次指導学生は必修である。3年次指導学生は特別に許可した者に限り受講を認める。指導学生に限り受講可。 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 野村耕一

**授業の概要** 本演習は担当教員の指導学生が、文献・史料収集、レポート作成、研究発表等を通じて研究テーマを固め、その作業をヨーロッパ史に関する論文作成へと結実させることを目指す。

**学習の目的** 各自の研究テーマを論文の作成へと結実させる。

## 学習の到達目標

研究テーマについての調査力を身につける。  
文献・史料を正確に読解する。  
高いプレゼンテーション能力を習得する。  
論理的な文章を書く力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力

**受講要件** 担当教員の指導学生のみ受講可。担当教員の4年次指導学生においては必修科目です。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の歴史など歴史学関係の諸科目

**教科書** 演習のなかで指示する。

**成績評価方法と基準** 研究発表とレポートを総合して評価する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. 研究テーマ及び参考文献リストに関するレ

ポートの提出

2. 研究報告 (各自2回程度)

# 2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習F**

Seminar on European History F

# 2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習F**

Seminar on European History F

**学期** 後期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **対象** 担当教員の4年次指導学生は必修である。3年次指導学生は、特別に許可した者に限り受講を認める。指導学生に限り受講可。 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 野村耕一

**授業の概要** 本演習は担当教員の指導学生が、文献・史料収集、レポート作成、研究発表等を通じて研究テーマを固め、その作業をヨーロッパ史に関する論文作成へと結実させることを目指す。

**学習の目的** 各自の研究テーマを論文の作成へと結実させる。

## 学習の到達目標

研究テーマについての調査力を身につける。  
文献・史料を正確に読解する。  
高いプレゼンテーション能力を習得する。  
論理的な文章を書く力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

**受講要件** 担当教員の指導学生のみ受講可。担当教員の4年次指導学生においては必修科目です。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の歴史など歴史学関係の諸科目

**教科書** 演習のなかで指示する。

**成績評価方法と基準** 研究発表とレポートを総合して評価する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. 研究中間報告
2. 論文題目の確定

3. 研究最終報告
4. 論文草稿の提出



2012年度以降入学生用(文化)

## 英語学演習C

Seminar on English Linguistics C

2011年度以前入学生用(文化)

## 英語学演習C

Seminar on English Linguistics C

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

**授業の概要** ヒトの子どもは特別な訓練なしに誰でも母語を身につけることができますが、それはなぜでしょうか? 生成文法理論と呼ばれる言語理論は、「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と仮定しています。この授業では、生成文法理論の基本的仮説を解説するとともに、幼児による英語・日本語の獲得からこのような仕組みの存在を支持する様々な証拠を取り上げ、議論していきます。科学とは何か、科学の方法論とはどのようなものか、言語研究と言語教育はどのように関わりうるか、などのトピックも取り上げます。言語学に関する予備知識は必要ありません。演習ですので、積極的な発言を求めます。

### 学習の目的

[1] 言語獲得に関する主要な仮説についての知識を得る。

[2] 「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と考える根拠、およびその証拠に関する知識を得る。

[3] 言語獲得研究と、ヒトの「こころ・脳」に関する研究がどのように結びついているかを理解できるようになる。

### 学習の到達目標

[1] 言語の獲得に関するどのような事実が、「ヒトには遺伝により生まれつき与えられて

いる言語獲得のための仕組みが存在する」という仮説を支持するのかを理解できるようになる。

[2] 言語獲得研究で行われる心理実験の簡単なデザインを、自分で作り上げることができるようになる。

[3] 言語学が何を旨とする学問分野であるのかが理解できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** できる限り前期・後期あわせて受講してください。

### 予め履修が望ましい科目

文化学セミナー (言語科学)

言語科学概論A・B

**発展科目** 他の「英語学演習」「言語科学演習」

**教科書** 杉崎 鉦司 『はじめての言語獲得一普遍文法に基づくアプローチ』 岩波書店

### 成績評価方法と基準

(1) Discussion課題 50%

(2) 学期末試験 50%

計100% (合計が60%以上の場合、単位が与えられます。)

**オフィスアワー** 毎週月曜日・火曜日 12:10~12:50 杉崎研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第01回 言語学の目標と主要な研究課題

第02回 言語学と言語教育との関係について

第03回 言語獲得とそれを支える生得的な仕組み

第04回 UG原理の早期発現[01]: 文の階層性

第05回 UG原理の早期発現[02]: 構造依存性

第06回 UG原理の早期発現[03]: 移動に対する

制約

第07回 UG原理の早期発現[04]: Wh疑問文に対する制約

第08回 UG原理の早期発現[05]: 「なぜ」に対する制約

第09回 UG原理の早期発現[06]: スルーシングに対する制約

第10回 UG原理の早期発現[07]: 縮約に対する

制約

第11回 UG原理の早期発現[08]：照応形に対する構造的制約

第12回 UG原理の早期発現[09]：代名詞に対する構造的制約 (1)

第13回 UG原理の早期発現[10]：代名詞に対する構造的制約 (2)

第14回 言語の進化に関する基本的仮説

第15回 UGと言語獲得：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**英語学演習D**

2011年度以前入学生用(文化)**英語学演習D**

Seminar on English Linguistics D

Seminar on English Linguistics D

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

**授業の概要** 世界の言語は、一見大きく異なっているように見えますが、詳細に調べていくと、その異なり方にも一定の「決まり」があることが分かります。例えば、世界の言語はneedに相当する他動詞やhaveに相当する他動詞を持つか否かにおいて異なりますが、needに相当する他動詞を持つ言語は必ずhaveに相当する他動詞も持っています。生成文法理論と呼ばれる言語理論は、「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と仮定し、その仕組みの中に、言語がどのように異なりうるかを定めた制約が含まれていると主張します。この演習では、言語の可能な異なり方を定めた生得的制約が存在するという仮説についてわかりやすく解説し、さらに、幼児による英語・日本語の獲得から様々な証拠を取り上げ、仮説の妥当性について議論します。演習ですので、積極的な発言を求めます。

### 学習の目的

- [1] 言語の異なり方に関する主要なパターンについての知識を得る。
- [2] 「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と考える根拠、およびそれに対する言語の異なり方からの証拠に関する知識を得る。
- [3] 言語獲得研究の方法が理解できるようになる。

### 学習の到達目標

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 第01回 言語獲得の科学的研究：その基本的考え方
- 第02回 言語の異なり方を司る生得的な仕組み：パラメータ
- 第03回 パラメータと言語獲得[01]：空主語現象
- 第04回 パラメータと言語獲得[02]：Medial-Wh

[1] 日本語と英語がどのような違いを持ち、どのような共通性を持つのかに関する知識を得る。

[2] 言語の異なり方に関する規則性から、言語獲得に対する予測を導くことができるようになる。

[3] 与えられた幼児発話データを分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** できる限り前期・後期あわせて受講してください。

### 予め履修が望ましい科目

文化学セミナー (言語科学)

言語科学概論A・B

**発展科目** 他の「英語学演習」「言語科学演習」

**教科書** 杉崎 鉦司 『はじめての言語獲得一普遍文法に基づくアプローチ』 岩波書店

### 成績評価方法と基準

(1) Discussion課題 50%

(2) 学期末試験 50%

計100% (合計が60%以上の場合、単位が与えられます。)

**オフィスアワー** 毎週月曜日・火曜日 12:10～12:50 杉崎研究室

#### 疑問文

- 第05回 パラメータと言語獲得[03]：関係詞節
- 第06回 パラメータと言語獲得[04]：名詞複合
- 第07回 パラメータと言語獲得[05]：前置詞残留 (1) (前置詞埋め込み構文との関係)
- 第08回 パラメータと言語獲得[06]：前置詞残留 (2) (swiping現象との関係)
- 第09回 パラメータと言語獲得[07]：前置詞残

留 (3) (フランス語獲得からの検討)

第10回 パラメータと言語獲得[08]: 項省略(1)

(目的語・主語の省略)

第11回 パラメータと言語獲得[09]: 項省略(2)

(動詞句削除との比較)

第12回 パラメータと言語獲得[10]: 英語の”or”と日本語の「か」

第13回 パラメータと言語獲得[11]: 他動詞HAVEとNEED

第14回 パラメータのデフォルト値に関する言語獲得からの検討

第15回 普遍文法(UG)に基づく母語獲得研究のこれまでとこれから

**授業の概要** 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方について学ぶ

科学概論、言語科学演習

**学習の目的** 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方が分かるようになる。

### 教科書

[テキスト] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

**学習の到達目標** 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方を修得する。

[参考書] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

**受講要件** 言語科学概論を受講済みか、本演習と同時に受講すること。

**成績評価方法と基準** レポート80%、授業での発言及び発表20%

**予め履修が望ましい科目** 受講用件参照のこと

**オフィスアワー** 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

**発展科目** 他の英語学演習の授業の他、言語

**その他** 特になし

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

この演習で取り扱う内容は以下の通りです。特に明示的に教えられることなく、人間であれば4-5歳までには母語を獲得します。このことから、人間には言語を獲得することができる能力が生まれつき備わっているのではないかという仮説が生み出されました。生得的な言語知識を前提とした文法のモデルを紹介

し、それに基づくと日本語や英語の言語データがいかに分析できるのか、また分析への証拠についても取り上げます。演習ですので、受講者との議論に基づいて進めていきます。具体的に取り扱うトピックについては、授業でより詳細なシラバスを配布します。

2012年度以降入学生用(文化)  
2011年度以前入学生用(文化)

# 英語学演習 F

## 英語学演習 F

Seminar in English Linguistics F

Seminar in English Linguistics F

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習  
担当教員 綾野 誠紀

**授業の概要** 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方について学ぶ

科学概論、言語科学演習

**学習の目的** 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方が分かるようになる。

### 教科書

[テキスト] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

**学習の到達目標** 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方を修得する。

[参考書] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

**受講要件** 言語科学概論を受講済みか、本演習と同時に受講すること。

**成績評価方法と基準** レポート80%、授業での発言及び発表20%

**予め履修が望ましい科目** 受講用件参照のこと

**オフィスアワー** 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

**発展科目** 他の英語学演習の授業の他、言語

**その他** 特になし

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

この演習で取り扱う内容は以下の通りです。特に明示的に教えられることなく、人間であれば4-5歳までには母語を獲得します。このことから、人間には言語を獲得することができる能力が生まれつき備わっているのではないかという仮説が生み出されました。生得的な言語知識を前提とした文法のモデルを紹介

し、それに基づくと日本語や英語の言語データがいかに分析できるのか、また分析への証拠についても取り上げます。演習ですので、受講者との議論に基づいて進めていきます。具体的に取り扱うトピックについては、授業でより詳細なシラバスを配布します。

2012年度以降入学生用(文化)

# 英語学演習G

English Seminar G

2011年度以前入学生用(文化)

# 英語学演習G

English Seminar G

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

**授業の概要** 意味論、語用論、談話分析、認知言語学の分野における意味と文法、発話解釈の問題を議論する。

**学習の目的** 文法と意味の関係について、発話による言語データを利用して説明したり、分析する方法を学ぶことができる。

### 学習の到達目標

人間のことばの意味とコミュニケーションのしくみについて理解する方法を学ぶことができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 言語科学概論B

**予め履修が望ましい科目** 言語科学概論B、比較言語論、言語コミュニケーション論

**教科書** なし

### 成績評価方法と基準

授業参加・発表 50%

moodleによる課題提出 25%

まとめの課題提出 25%

**オフィスアワー** 原則として火曜日3・4限(個別に相談応)

### その他

前後期とも、具体例の分析や自然発話データを利用して、言語研究の方法について学びます。

英語で書かれた言語学のテキスト、および演習用テキストを中心に利用します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

講義スケジュール：

[前期]第1回：オリエンテーション

第2回：Theory, Data and Analysis

第3-5回：Dependency Relations

第 6 - 8 回：Noun Phrases and Non-configurationality

第9-11回:Constructions

第12-14回：Grammaticality

第15回：復習テスト

2012年度以降入学生用(文化)

# 英語学演習H

English Seminar H

2011年度以前入学生用(文化)

# 英語学演習H

English Seminar H

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

**授業の概要** 意味論、語用論、談話分析、認知言語学の分野における意味と文法、発話解釈の問題を議論する。

## 学習の目的

人間のことばの意味とコミュニケーションのしくみについて理解する方法を学ぶことができる。

## 学習の到達目標

人間のことばの意味とコミュニケーションのしくみについて概観し、説明するための基本的方法を学び、さまざまな言語現象を事例にしてそこに働いていることばの伝達や解釈のしかたを説明することができる。

## 本学教育目標との関連

主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力,

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 言語科学概論B

**予め履修が望ましい科目** 言語科学概論B、比較言語論、言語コミュニケーション論

**教科書** なし

## 成績評価方法と基準

授業参加・発表50%  
PPTによる研究課題の発表 25%  
研究課題ペーパーの提出 25%

**オフィスアワー** 原則として火曜日3・4限(個別に相談応)

**その他** 参考書については、授業内容に応じて必要な章や演習問題をプリントで配布します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

講義スケジュール：

[後期]

第1-3回：Usage-based model

第4-6回：Grammar and Semantics: The 'get' passive

第7-9回：Grammar and Semantics: 'wh'

word

第10-12回：Grammar and Semantics: Parts of Speech

第13-14回：Grammar and Semantics: Thematic Roles

第15回：発表会・research paper の書き方について



2012年度以降入学生用(文化)

## 英語学演習 0

Seminar in English Linguistics 0

2011年度以前入学生用(文化)

## 英語学演習 0

Seminar in English Linguistics 0

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

**授業の概要** 英語および日本語の母語話者が無意識のうちにもっている音声に関する言語知識を明らかにする。

**学習の目的** 言語音声の記述・分析方法を身につけ、日常使っている話しことばに対する意識を高め、自ら音声現象を科学的に分析できるようにすることを目指す。分析手段の一つとして、ソフトウェア(Praat)による音響音声学的分析の基礎を身につける。

**学習の到達目標** 英語の音声特徴について調音の仕組みが理解できるようになり、かつ聴覚印象を補う基本的な音響学的分析ができるようになる。理論だけでなく英語の発音・リスニングについても自信がもてるようになる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

この演習では現代英語の音声面を扱います。授業では音声学の理論のほかに、発音・リスニングの練習、そして音声分析ソフトウェアPraatを用いた音声分析も行います。日本語音声との比較も交え、英語の分節音の特徴と強勢(音の強弱)、リズム、イントネーション(音調)といった音声の韻律的特徴について学びます。

[演習で取り扱う主な項目]

言語音声の構成要素(調音音声学からの視

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** 言語科学概論Aを履修済み、もしくは平行して履修していることが望ましい。

**教科書** 服部範子『入門英語音声学』研究社出版, 2012年。

**成績評価方法と基準** 授業時の発表(40%)、レポート(40%)、試験(20%)。合計60%以上で合格。

**オフィスアワー** オフィスアワー: 水曜日 10:30~11:30

点、音響音声学からの視点)、音節とモーラ、リズム、言葉と音楽の接点

前年度までに英語音声学の基本的概念を習得し、音声分析ソフトウェアの使用方法も習得している学生は、別途、発展的な課題に取り組み、音声現象について自ら観察・記述・分析する道筋を体験してもらいます。また、音声・音韻をテーマに卒論を書く学生は、定期的に授業において進捗状況を報告することが求められます。

2012年度以降入学生用(文化)

## 英語学演習 P

Seminar in English Linguistics P

2011年度以前入学生用(文化)

## 英語学演習 P

Seminar in English Linguistics P

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

**授業の概要** 英語および日本語の母語話者が無意識のうちにもっている音声に関する言語知識を明らかにする。

**学習の目的** 言語音声の記述・分析方法を身につけ、日常使っている話しことばに対する意識を高め、自ら音声現象を科学的に分析できるようにすることを目指す。分析手段の一つとして、ソフトウェアPraatによる音響音声学的分析の基礎を身につける。

**学習の到達目標** 英語の音声特徴について調音の仕組みが理解できるようになり、かつ聴覚印象を補う基本的な音響学的分析ができるようになる。理論だけでなく英語の発音・リスニングについても自信がもてるようになる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

この演習では現代英語の音声面を扱います。授業では音声学の理論のほかに、発音・リスニングの練習、そして音声分析ソフトウェアを用いた音声の分析も行います。日本語音声との比較も交え、英語の分節音の特徴と強勢(音の強弱)、リズム、イントネーション(音調)といった音声の韻律的特徴について学びます。

[演習で取り扱う主な項目]

言語音声の構成要素(調音音声学からの視

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** 言語科学概論Aを履修済み、もしくは平行して履修していることが望ましい。

**教科書** 服部範子『入門英語音声学』研究社出版, 2012年。

**成績評価方法と基準** 授業時の発表(40%)、レポート(40%)、試験(20%)。合計60%以上で合格。

**オフィスアワー** オフィスアワー: 水曜日 10:30~11:30

点、音響音声学からの視点)、音節とモーラ、リズム、言葉と音楽の接点

前年度までに英語音声学の基本的概念を習得し、音声分析ソフトウェアの使用方法も習得している学生は、別途、発展的な課題に取り組み、音声現象について自ら観察・記述・分析する道筋を体験してもらいます。また、音声・音韻をテーマに卒論を書く学生は、定期的に授業において進捗状況を報告することが求められます。

# イギリス文学演習A

Seminar in English Literature A

**学期** 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業  
**担当教員** 赤岩隆

**授業の概要** ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』を読む

決力, 批判的思考力

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**学習の目的** イギリス児童文学のうち、もつとも優秀と認められる作品を分析し、その成り立ちと工夫を知る

**発展科目** 特になし

**教科書** 適宜指導

**学習の到達目標** 児童文学の方法の全体像を知る

**成績評価方法と基準** 平常点40%、試験またはレポート60%

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

**オフィスアワー** 金曜12時~13時

**その他** 特になし

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. 全体の説明
2. 導入

3. 課題の提示
- 4~調査
15. まとめ

## 2012年度以降入学生用(文化) **イギリス文学演習B**

Seminar on British Literature B

## 2011年度以前入学生用(文化) **イギリス文学演習B**

Seminar on British Literature B

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

### 授業の概要

原典講読: 「文豪ディケンズ」

19世紀イギリスの文豪ディケンズ(Charles Dickens)の小説Great Expectations (『大いなる遺産』)を読む。

### 学習の目的

- (1)イギリス文学史上、屈指のストーリー・テラーといわれ、現代英語の語彙にも多大な影響を与えたとされるCharles Dickensの作品原典を読解し、その特質を考察する。
- (2)19世紀英語で書かれた文学作品原典の読解に慣れ、物語の発想・主題・構成・修辞法等の特徴の分析の練習を行う。
- (3)作品を読み考察する上で助けとなる、専門的な辞典・関連文献等に関する基礎的な知識を得、実際に使用する練習を行う。
- (4)Dickensの作品の背景であり、主題でもある、ヴィクトリア朝期イギリス文化・社会の諸問題に関する理解を深める。
- (5)上記を通してイギリス文学研究の基本的手法、着眼点を修得する。

### 学習の到達目標

- (1)19世紀英語で書かれたDickensによる作品原典の読解練習を積む。
- (2)作品に関して問いを発見し、問いに基づき考え、論じることができるようになる。
- (3)作品を読み考察する上で助けとなる、専門的な辞典・関連文献等に関する知識を得る。
- (4)作家Dickensとその作品、ヴィクトリア朝期イギリス文化・社会に関する理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 「文学概論」「イギリス文学」、その他、欧米をはじめとする各地域「文学」関連の諸科目、「英語」「イギリス」に関連のある諸科目

**発展科目** 「文学概論」「イギリス文学」、その他、欧米をはじめとする各地域「文学」関連の諸科目、「英語」「イギリス」に関連のある諸科目

### 教科書

Dickens, Charles. Great Expectations. Oxford World's Classics. Oxford: Oxford UP, 2008.  
チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』

### 成績評価方法と基準

授業時のプレゼンテーション、ディスカッション等 30%  
学期末レポート 70%

**オフィスアワー** 木曜5, 6限、吉野研究室

### その他

19世紀、英国が空前の繁栄を迎えつつ斜陽の兆しも見え隠れする中で、絢爛豪華かつ陰翳に富んだヴィクトリア朝文化・文芸が展開しました。

同時代に生き、イギリス文学を代表する作家の一人とされる文豪Dickensの作品のなかで、『大いなる遺産』はDickensが本領を発揮し、その独創性が凝縮した作品といわれています。

出版当初、初版を手にした読者たちも手に汗を握ったであろう同作品では、主人公である貧しい少年ピップが成長し、浮世に翻弄されつつ、立身出世を遂げる過程で運命的な出会いがあり、そして宿命的な判断の誤りを犯します。同作品において、Dickensは何を(どのような主題・テーマを)物語にしているか? 等、様々な角度から考察したいと思います。

### 授業計画・学習の内容

## 学習内容

授業序盤の5週間では、原典を読む練習を時間を掛け丁寧にを行い、ディケンズの文体に慣れるとともに、独特の言い回しやテンポ、提示された主題、作品の各種設定、物語の後の展開の布石となるモチーフ・伏線等を観察していきます。

学期中盤で、2回程度、作品に関する批評・論文等の二次資料を読む回を設けます。

6週目以降は、翻訳を併用しつつ、一回の授業で扱う範囲を広げます。授業の冒頭で担当の学生に、指定範囲のあらすじ・論点等について短いプレゼンテーションを行ってもらった後に、原典から特に重要な場面に該当する箇所を数ページ輪読し、最後の15分程度で全員で議論を行います。

Week 1: イントロダクション

(1)授業のスケジュールの相談、進め方等の説

明 (2)作家Dickensとその作品

(3)ヴィクトリア朝期のイギリス文化と社会 (4) 教養小説 ('bildungsroman')一定義、代表作と特徴

Week 2: Vol.I Chapter I

Week 3: Chapter II

Week 4: Chapter III

Week 5: Chapter IV

Week 6: Chapter V-X

Week 7: 二次資料講読

Week 8: Chapter XI-XV

Week 9: Chapter XVI-Vol.II Chapter III

Week 10: Chapter IV-IX

Week 11: Chapter X-XV

Week 12: 二次資料講読

Week 13: Chapter XVI-XX

Week 14: Chapter XXI-Vol.III Chapter IV

Week 15: Chapter XVI-XX、まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語学演習A** Seminar in German Language A  
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語学演習A** Seminar in German Language A

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** ドイツ語の意味に関する入門書を読みながら、ドイツ語と日本語のさまざまな意味に関する実際の現象を考察し、議論します。

**学習の目的** 意味論の基本的考え方と用語を理解し、実際の意味的現象を説明できる。

**学習の到達目標** 意味論の基本的な考え方と用語を理解し、説明できる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** ドイツ語の基本的な読解能力が必

要です。

**予め履修が望ましい科目** 「ドイツ語の言語」をあらかじめ履修しているか、平行して履修すること。他の言語学・英語学関係の授業をあらかじめ履修しているか、平行して履修することをお勧めします。

**教科書** Loebner, Sebastian(2015) Semantik. Eine Einfuehrung.2.Aufl.Walter de Gruyter. (入手方法については授業で指示します)

**成績評価方法と基準** レポート70%, 授業での翻訳30%

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎教養教育機構室

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

- 第1回 言語学について
- 第2～3回 意味のレベル
- 第4～5回 文の意味構造
- 第6回 意味論の位置づけ
- 第7回 意味と概念

- 第8～9回 記述の意味論
- 第10～11回 意味と社会的作用
- 第12～13回 意味と主観性
- 第14回 暗示の意味
- 第15回 意味の次元とレベル

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語学演習B** Seminar in German Language B  
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語学演習B** Seminar in German Language B

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** ドイツ語の意味に関する入門書を読みながら、ドイツ語と日本語のさまざまな意味(特に認知意味論)に関する実際の現象を考察し、議論します。

**学習の目的** 認知意味論の基本的考え方と用語を理解し、実際の意味的現象を説明できる。

**学習の到達目標** 認知意味論の基本的な考え方と用語を理解し、説明できる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** ドイツ語の基本的な読解能力が必

要です。

**予め履修が望ましい科目** 「ドイツ語の言語」をあらかじめ履修しているか、平行して履修すること。「ドイツ語学演習A」をあらかじめ履修していること。また、他の言語学・英語学関係の授業をあらかじめ履修しているか、平行して履修することをお勧めします。

**教科書** Loebner, Sebastian(2015) Semantik. Eine Einfuehrung.2.Aufl.Walter de Gruyter. (入手方法については授業で指示します)

**成績評価方法と基準** レポート70%, 授業での翻訳30%

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎教養教育機構室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 言語学と意味論

第2回 カテゴリーと概念

第3～5回 プロトタイプ理論

第6～8回 カテゴリー構造

第9～11回 意味とプロトタイプ理論

第12～14回 意味的知識

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ文学演習 B Seminar in German Literature B**  
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ文学演習 B Seminar in German Literature B**

**学期** 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** フランツ・カフカの短編を読みます。

判的思考力, 討論・対話力

**学習の目的** カフカの短編と寓話的な文体に親しむ。

**発展科目** 「ドイツの文学 F」

**学習の到達目標** カフカの短編について、根拠のある解釈ができる。

**教科書** プリント使用

**成績評価方法と基準** 授業への積極的参加 [50%]、レポートと筆記試験[50%]、計100%

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 批

**オフィスアワー** 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

フランツ・カフカの短編を精読します。

授業では、毎回の担当者の発表箇所を中心に、受講生全員で議論します。



2012年度以降入学生用(文化) **ドイツ文学演習 C** Seminar in German Literature C  
2011年度以前入学生用(文化) **ドイツ文学演習 C** Seminar in German Literature C

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** フランツ・カフカの短編を読みます。

判的思考力, 討論・対話力

**学習の目的** カフカの短編と寓話的な文体に親しむ。

**発展科目** 「ドイツの文学」

**学習の到達目標** カフカの短編について、根拠のある解釈ができる。

**教科書** プリント使用

**成績評価方法と基準** 授業への積極的参加 [50%]、レポートと筆記試験[50%]、計100%

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 批

**オフィスアワー** 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

フランツ・カフカの短編を精読します。

授業では、毎回の担当者の発表箇所を中心に、受講生全員で議論します。

2012年度以降入学生用(文化) **ドイツ文学演習D Seminar on German Literature D**  
2011年度以前入学生用(文化) **ドイツの文学演習D Seminar on German Literature D**

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵 (人文学部)

**授業の概要** さまざまなドイツ語の歌曲を用いてドイツ語を学習する。シューベルトの歌曲やモーツァルトのオペラの歌詞を読解し、ドイツ語の読解能力を高めるとともに、楽曲の成立背景や文化的背景などについても学ぶ。文法事項も適宜復習する。

**学習の目的** 読解練習や歌曲のリスニング、発音練習を通して、実践的なドイツ語能力を高める。

**学習の到達目標** ドイツの歌曲について知見を得るとともに、ドイツ語の読解力を身につける。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

モーツァルトとシューベルトの歌曲を中心に、様々なドイツ語歌曲の歌詞を読解するとともに、発音練習やリスニングを行う。歌曲の成立事情や時代背景についても学ぶ。毎回

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**受講要件** 共通教育の異文化理解(ドイツ語) Iを修得していること。もしくは同程度のドイツ語力があること。

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点で評価する。

**オフィスアワー** 金曜日 11:00~12:00

予習が必要である。文法練習や、テーマにそくした発表課題もある。

1. ドイツの歌曲について(導入)
- 2~15 読解演習

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ文学演習E Seminar on German Literature E**  
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ文学演習E Seminar on German Literature E**

**学期** 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 菅 利恵 (人文学部)

### 授業の概要

- ・各人の研究について発表、討論を行う。
- ・文化研究に役立つと思われる文献を読み、発表、討論を行う。

**学習の目的** 発表と討論を通して、文化研究の手法を学び、卒業執筆に向けて各人の問題意識を明確にする。

**学習の到達目標** 卒業論文の作成に必要な問

題意識と知識を獲得する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** プリント配布。

**成績評価方法と基準** 授業への積極的な取り組みを評価する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

卒業論文執筆のためのゼミを行う。

毎回参加者による発表や文献紹介を行い、その後全員で討論する。

討論を通して、各自が自分のテーマを見つけ、テーマについての考察を深める。

1～5 文献紹介

6～15 発表、討論

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ文学演習 F Seminar on German Literature F**  
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ文学演習 F Seminar on German Literature F**

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 鶴田 涼子

**授業の概要** グリム兄弟が編纂した書物や彼らが執筆した論考を紹介し、グリム伝説集序文、グリム・メルヒェン集序文を比較検討しながら精読します。

### 学習の目的

作品の特徴について、自分自身の意見を述べるができる。

初級文法を定着させ、中級程度のテキストを読む力を養う。

### 学習の到達目標

作家や文学作品についての知識を得て、特徴や背景、独自の解釈を自らの言葉で述べるができる。

文学作品や作品に関する文章をドイツ語で読み、内容を理解し、親しむことができる。

**本学教育目標との関連** 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 初級程度のドイツ語の知識を持っていること。

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 授業への積極的な取り組み、課題発表50%+筆記試験50%により、総合的に評価します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 オリエンテーション 文法練習 著作等紹介

第2~8回 グリム伝説集序文

第9~15回 グリム・メルヒェン集序文

関連する文献も参照しながら、民間伝承とい

うジャンルについての考察を深めます。

毎回、翻訳と解釈を行い、話し合う機会を設けます。

文法の練習問題にも取り組む予定です。

受講生の関心に合わせて取り扱う作品や順序を変更することもあります。

# 2012年度以降入学生用(文化) **ドイツ文学演習 G**

## 2011年度以前入学生用(文化) **ドイツ文学演習 G**

学期 前期 開講時間 金 7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 宇和川 雄

**授業の概要** この授業では、20世紀ドイツの批評家ヴァルター・ベンヤミンが1930年代に編んだ手紙のアンソロジー『ドイツの人々』(1935)を読む。テーマは、〈手紙で読むドイツ文学史〉。ヨーロッパにおける書簡集および書簡体小説の歴史は古い。だが手紙を書くことが一般に広まったのは18世紀以降のことである。ドイツもまたその例外ではなく、「手紙の世紀」とも呼ばれる18世紀以降、ドイツ語圏でもおびただしい数の手紙が書かれてきた。ベンヤミンは1930年代(ナチスドイツが成立した時代)にそれらの古い手紙を編集し、一冊の本にまとめた。そのなかにはグリム兄弟やゲーテ、ヘルダーリンやニーチェの手紙が収められている。なぜベンヤミンは当時すでに時代遅れになりつつあった「手紙」という形式に注目したのか。そしてこの本に秘められた政治的な意図とは何か。この授業ではベンヤミンの『ドイツの人々』を手がかりに、「手紙」というメディアを通してドイツ文学史の深層を読み直す。

**学習の目的** 「手紙」の歴史を古代から現代までたどり、18世紀以降のドイツ文学史を

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

取り上げる予定のテーマは以下の通り(ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある)。

第1回 導入

「手紙」というメディアから読み直す。

**学習の到達目標** ベンヤミンの『ドイツの人々』を読むことを通じて、18世紀～20世紀のドイツ語圏の作家・思想家の作品に関する知識と関心を深めるとともに、「手紙」を歴史的な文脈のなかで読み解く視点を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 初級ドイツ語の知識があることが望ましいが、ドイツ語の知識がなくても受講できるように配慮する。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育「異文化理解Ⅰ基礎(ドイツ語A)」および「異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語A)」

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 授業中の演習課題(50%)および期末レポート(50%)で評価する。

第2～3回 手紙の歴史——古代から近代まで  
第4～9回 手紙で読むドイツ文学史——ベンヤミンの『ドイツの人々』を中心に  
第10～14回 手紙で編む文学史(実践編)  
第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **ドイツ文学演習 H**

## 2011年度以前入学生用(文化) **ドイツ文学演習 H**

**学期** 後期 **開講時間** 金 7,8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習  
**担当教員** 宇和川雄

**授業の概要** 翻訳とは何か。それはたんにある言語を別の言語に置き換えるだけの作業なのか、それともそれ以上のものなのか。あるいは別の言い方をすれば、翻訳者とは言語のたんなる「仲介者」なのか、それとも言語のあらたな「創造者」なのか。この授業ではドイツ語と日本語の境を超えて作品を発表している多和田葉子のエッセイ集『エクソフォニー——母語の外に出る旅』(2003)を手がかりに、翻訳という営みに内在する創造性について考える。明治以降、日本では少なからぬ数の作家が、作家であると同時に優れた翻訳者でもあった。鴉外や漱石はもちろん、吉田健一や倉橋由美子、また池澤夏樹や村上春樹もそうである。翻訳は日本語という言語の垣根をどのように押し広げてきたのか。演習では多和田葉子の『エクソフォニー』をはじめとするさまざまな翻訳論および翻訳作品を読みながら、「翻訳とは何か」という問いについて考えていきたい。

**学習の目的** 「翻訳」という観点から、ドイツ語と日本語、ドイツ文学と日本文学に関する

知識と関心を深める。

**学習の到達目標** 古今東西のさまざまな翻訳論と翻訳作品を読むことを通じて、ドイツ語と日本語、さらには言語文化一般への理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 初級ドイツ語の知識があることが望ましいが、ドイツ語の知識がなくても受講できるように配慮する。

**予め履修が望ましい科目** 教養教育「異文化理解Ⅰ基礎(ドイツ語A)」および「異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語A)」

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 授業中の演習課題(50%)および期末レポート(50%)で評価する。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

取り上げる予定のテーマは以下の通り(ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある)。

第1回 導入——翻訳とは何か? 古典新訳について

第2回 良い翻訳と悪い翻訳?

第3回 四方田彦彦の翻訳論——翻訳の政治学

第4回 ヴァルター・ベンヤミンの翻訳論——翻

訳は言語を拡張する

第5回 吉田健一、村上春樹の翻訳論——外国語のような日本語

第6~9回 「母語の外へ出る旅」について考える——多和田葉子『エクソフォニー』を手がかりに

第10~14回 翻訳論実践編——ドイツ語と日本語のあいだで

第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) フランス語学演習 C

Practice in French Language C

## 2011年度以前入学生用(文化) フランス語学演習 C

Practice in French Language C

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ダメモ ジャン・フランソワ

**授業の概要** 基本的な文法と語彙を用いた会話の基礎から始めて、実践的な語学力を養成します。同日午前の「フランスの言語C」で扱った文法項目を取り入れ、その実践・応用としての性格も持ちます。ただし、「フランスの言語C」との同時履修は必ずしも必要ではありません。

**学習の目的** 聞いて相手を理解する力、話して自分を表現する力の向上を目指します

**学習の到達目標** 具体的な到達目標は受講者一人一人がすでに修得している知識と能力などによって異なるので一概には言えませんが、部分的には仏検準2級程度の会話を目標とします。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考え

る力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 異文化理解Ⅱ（フランス語）総合と演習（または以前のフランス語Ⅱ講読と会話）を履修した学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

**予め履修が望ましい科目** 受講要件参照のこと

**発展科目** フランス語学演習D

**教科書** プリントを配布します

**成績評価方法と基準** 平常点（授業への積極的な参加が求められる）100%

**オフィスアワー**

授業の前後

急ぎの場合は山本寛 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回から第16回（定期試験期間）までを用い、以下のトピックに関しての会話を扱います。また、同日午前の「フランスの言語C」で扱われた文法項目の発展・応用も含めます（同時履修は必須ではありません）。進める速さと内容は受講者に合わせて調節します。初対面の人と部屋の様子について話す

果物について話す

サンドイッチについて話す

住んでいる場所について話す

料理のための買い物について話す

風邪と体調について話す

図書館で

服を買う

誕生日パーティー

# 2012年度以降入学生用(文化) フランス語学演習 D

Practice in French Language D

## 2011年度以前入学生用(文化) フランス語学演習 D

Practice in French Language D

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ダメモ ジャン・フランソワ

**授業の概要** 基本的な文法と語彙を用いた会話の基礎から始めて、実践的な語学力を養成します。同日午前の「フランスの言語D」で扱った文法項目を取り入れ、その実践・応用としての性格も持ちます。ただし、「フランスの言語D」との同時履修は必ずしも必要ではありません。

**学習の目的** 聞いて相手を理解する力、話して自分を表現する力の向上を目指します

**学習の到達目標** 具体的な到達目標は受講者一人一人がすでに修得している知識と能力などによって異なるので一概には言えませんが、部分的には仏検準2級程度の会話を目標とします。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専

門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 前期に「フランス語学演習C」を履修した学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

**予め履修が望ましい科目** 受講要件参照のこと

**教科書** プリントを配布します

**成績評価方法と基準** 平常点（授業への積極的な参加が求められる）100%

### オフィスアワー

授業の前後

急ぎの場合は山本覚 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回から第16回（定期試験期間）までを用い、以下のトピックに関しての会話を扱います。また、同日午前の「フランスの言語D」で扱われた文法項目の発展・応用も含めます（同時履修は必須ではありません）。進める速さと内容は受講者に合わせて調節します。旅行について話す  
郵便を送る

映画について話す

思い出について話す

美術館について話す

落し物について相談する

将来の仕事の夢について話す

引っ越しについて話す

家に呼ばれて

日本に来ることを勧める



## 2012年度以降入学生用(文化) **フランス文学演習C**

Seminar in French Literature C

## 2011年度以前入学生用(文化) **フランス文学演習C**

Seminar in French Literature C

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 グットマンティエリー

### 授業の概要

フランス映画を観ながら聴解能力を向上させ、口語的表現を身に付けます。

本授業は映画の聴解からテキストの再現を行いますので、扱う映画は異なりますが、逆の方向で映画にアプローチする「フランスの文学C」と同時に履修すると、知識と実践両面からのより深い学習が可能になります。

**学習の目的** 話し言葉を中心に聞き取り、発音、表現能力の向上を目指します。また、フランス人の心情の機微に触れます。

**学習の到達目標** フランスの映画等を字幕なしである程度理解できるようになること。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 専門知識・技術, 情報受発信力, 実践

外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** フランス語Ⅱを履修した学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

**予め履修が望ましい科目** 異文化理解Ⅱ総合(フランス語)、異文化理解Ⅱ演習(フランス語)

**教科書** なし

**成績評価方法と基準** 平常点(授業への積極的な参加が求められる)60%、フランス語聴解能力等のテスト40%、計100%

**オフィスアワー** 大体毎日研究室に来ています(人文学部校舎3階)

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

[授業計画]

映画「Le Grand Bleu(グラン・ブルー)」(リュック・ベッソン監督)を扱います。

毎回、単語リストを参考にしながら映画の一場面を聞き取る訓練(字幕なし)と発音練習をし、そのあとで受講者自身による場面の再現を試みます。最終回は各場面の復習です。

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海社会演習A**  
Seminar on European and Mediterranean Society  
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海社会演習A**  
Seminar on European and Mediterranean Society

**学期** 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 村上直樹 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 近代化以前から現代にかけて、西ヨーロッパにおける家族のあり方はどのように変化してきたのかを、日本の場合と比較しつつ考察する。

**学習の目的** 受講学生が、西ヨーロッパにおける家族社会史に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、現代の西ヨーロッパの家族と日本の家族についての自分の見解を展開できるようにする。また、数多くの文献(本、論文等)から情報を抽出し、それをもとに議論を展開する能力を身につけることができるようにする。

**学習の到達目標** 受講学生が、西ヨーロッパにおける家族社会史に関する基本的な知識を習得できるようにする。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：導入

第2回～第8回：西ヨーロッパにおける家族の変遷

第9回～第12回：日本における家族の変遷

### 受講要件

全回出席すること。

積極的に発言する学生の受講を前提としています。

### 予め履修が望ましい科目

ヨーロッパ・地中海の社会A、B

ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

**教科書** 使用する文献に関しては、開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 演習への参加度、報告内容、レポート(論文形式)

**オフィスアワー** オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

### その他

全回出席が原則

受講生は3年生を想定しています。

第13回～第14回：西ヨーロッパと日本の比較

第15回：まとめ

\*くわしい内容・スケジュール等に関しては開講時に説明する。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海社会演習B**  
Seminar on European and Mediterranean Society  
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海社会演習B**  
Seminar on European and Mediterranean Society

**学期** 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 村上直樹 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

西ヨーロッパ宗教社会史に関する基本的文献を読む。

西ヨーロッパの移民労働者問題に関する基本的文献を読む。

論文の作成の仕方の基礎を学ぶ。

### 学習の目的

受講学生が、西ヨーロッパ宗教社会史及び西ヨーロッパの移民労働者問題に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、西ヨーロッパ宗教社会史及び西ヨーロッパの移民労働者問題に関する自分の見解を展開できるようにする。

また、論文の作成の仕方の基礎を身につけ、実際に学術的な論文を書けるようにする。

**学習の到達目標** 受講学生が、西ヨーロッパ宗教社会史及び西ヨーロッパの移民労働者問題に関する基本的な知識を習得する。また、論文の作成の仕方の基礎を身につける。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対

話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

全回出席すること。

積極的に発言する学生の受講を前提としています。

### 予め履修が望ましい科目

ヨーロッパ・地中海社会演習A (必ず履修しておくこと)

ヨーロッパ・地中海の社会A、B

ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

**教科書** 使用する文献に関しては、開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 演習への参加度、報告内容、レポート(論文形式)

**オフィスアワー** オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

### その他

全回出席が原則

受講生は3年生を想定しています。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：導入

第2回～第7回：西ヨーロッパ宗教社会史

第8回～第12回：西ヨーロッパの移民労働者問

題

第13回～第15回：論文の作成の仕方

\*くわしい内容・スケジュール等に関しては開講時に説明する。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海地誌演習C**  
Seminar in European and Mediterranean Geography C  
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海地誌演習C**  
Seminar in European and Mediterranean Geography C

**学期** 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 北川 真也 (人文学部)

**授業の概要** 卒業論文を作成するために、ヨーロッパに関する様々なトピックを学び、自らの研究課題を設定すること。またその課題に取り組み解決するための、理論・方法論を学習すること。

**学習の目的** 一定水準の卒論を仕上げるために、ヨーロッパの空間・場所・景観・境界について学習し、それを文章、発表、議論などを通じて的確に表現すること。

**学習の到達目標** 3年生は、主に文献読解、そのプレゼンテーションや小レポート作成などを行うことで、卒論作成の手順を学習すること。その手順をふまえて、4年生は卒業論文の作成に取り組むこと。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

3年生 卒論作成入門

4年生 卒論作成実践

授業は基本的に受講生による発表と討議に基づきます。

前半は、受講生自身が選んだ文献についての

**本学教育目標との関連** モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性

**受講要件** 前後期(ヨーロッパ・地中海地誌演習CとD)をセットで履修することが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の風土と地誌

**教科書** 特になし。

**成績評価方法と基準** 授業での発表40点 課題・議論への参加40点 小レポートの作成20点

**オフィスアワー** 木曜日 12時から13時 研究室

発表が中心となります。

後半は、共通の文献を読解していくことで、自身の問題意識を深めると同時に、卒論作成に必要な理論・方法論について学習します。

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海地誌演習D**  
Seminar in European and Mediterranean Geography D  
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海地誌演習D**  
Seminar in European and Mediterranean Geography D

**学期** 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 北川 真也 (人文学部)

**授業の概要** 卒業論文を作成するために、ヨーロッパに関する自らの研究課題を設定すること。またその課題に取り組み解決するための、理論・方法論を学習すること。

**学習の目的** 一定水準の卒論を仕上げるために、ヨーロッパの空間・場所・景観・境界について学習し、それを文章、発表、議論などを通じて的確に表現すること。

**学習の到達目標** 3年生は、主に資料収集・分析、そのプレゼンテーションや小レポート作成などを行うことで、卒論作成の手順を学習すること。その手順をふまえて、4年生は卒業論文を作成すること。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

3年生 卒論作成入門

4年生 卒論作成実践

授業は基本的に受講生による発表と討議に基づきます。

前半は、共通の文献を読解していくことで、

的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性

**受講要件** 前後期(ヨーロッパ・地中海地誌演習CとD)をセットで履修することが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** ヨーロッパ・地中海の風土と地誌

**教科書** 特にありません。

**成績評価方法と基準** 授業での発表40点 課題・議論への参加40点 小レポートの作成20点

**オフィスアワー** 木曜日 12時から13時 研究室

自身の問題意識を深めると同時に、卒論作成に必要な理論・方法論について学習します。

後半は、受講生自身が選んだ文献、あるいはすすめている研究についての発表が中心となります。

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文化研究** Studies in American Culture  
2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ研究総論** Introduction to American Studies

学期 前期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 アメリカ研究所属の教員

**授業の概要** 本講義では、アメリカについて、文学、社会学、地理学、文化人類学、言語学、哲学等の様々な分野から考える。2016年度は、「他者」というテーマで、アメリカについて様々な分野・視点から考察する。

**学習の目的** ある特定のテーマについて様々な視点・分野から考察することで、学際的な視点を身につける。

**学習の到達目標** アメリカ研究を専門として行なううえで基本的な考え方や姿勢を学ぶことができ、また、本学でアメリカ研究を行なううえでの教員・文献のリソースに習熟することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力、

考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** アメリカ研究に属する2年生および3年次編入生の必修科目である。

**発展科目** アメリカ研究にかかわる専門科目、3年次以降は演習を履修のこと。

**教科書** なし。

**成績評価方法と基準** 10名の教員がそれぞれの授業の最後に、小テストを実施するか、レポート課題を出す。各10点×10人=100点で、評価とする。

**オフィスアワー** 各教員が授業の最初に知らせる。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 導入 カリキュラム代表  
第2回 野田 (敬称略)  
第3回 中川  
第4回 澤田  
第5回 江成  
第6回 井上 前編  
第7回 井上 前編  
第8回 森脇 前編

第9回 森脇 後編  
第10回 薄井 前編  
第11回 薄井 後編  
第12回 立川  
第13回 小田  
第14回 吉田 前編  
第15回 吉田 後編  
第16回 (予備)

2012年度以降入学生用(文化)

# アメリカの思想C

American Philosophy C

2011年度以前入学生用(文化)

# アメリカの思想C

American Philosophy C

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

**授業の概要** 私たちは日々、さまざまなことに怒ったり、悲しんだり、喜んだりしています。「感情」のない暮らしは考えられないほど、それは私たちの生活にとって中心的なものです。でもこの「感情」は、実際のところ、私たちのありかたについてなにを教えてくださいませんか。それは私たちの生活のなかで、どのような位置を占めているのでしょうか。本講義では、哲学が「感情」をどのようなものとして捉えてきたのかを紹介します。

**学習の目的** 1. 「感情」をめぐる哲学的な議論を理解する

## 学習の到達目標

1. あるトピックについての論争を考察することで、相手の主張を批判的に吟味できる。
2. 多様な哲学的立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：感情とはなにか (1)
- 第3回：感情とはなにか (2)
- 第4回：感情とはなにか (3)
- 第5回：感情と判断 (1)
- 第6回：感情と判断 (2)
- 第7回：感情と判断 (3)
- 第8回：コンセプトマップの作成

3. コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

**予め履修が望ましい科目** 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

**発展科目** アメリカ思想演習

**教科書** レジユメを配布します。

**成績評価方法と基準** 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

### オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00  
薄井研究室 (人文学部)

第9回：感情の理論 (1)

第10回：感情の理論 (2)

第11回：感情の理論 (3)

第12回：感情と道徳 (1)

第13回：感情と道徳 (2)

第14回：コンセプトマップの作成

第15回：講義全体のまとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの思想D**

American Philosophy D

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの思想D**

American Philosophy D

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

**授業の概要** 本講義では、道徳にまつわる人間の心理的側面を主題とする「道徳心理学」と呼ばれる分野を扱います。そこで扱われるトピックは広範囲にわたりますが、本講義ではそのなかでもとりわけ (1) 「性格」は本当に存在するのか (2) 道徳的な不一致とは実際にはなにをあらわしているのか、という問いに焦点を当てて、そこでの議論が哲学の営みにどのような意味をもたらすのかを考察します。

**学習の目的** 1.道徳心理学の基本問題を理解する

### 学習の到達目標

- 1.あるトピックについての論争を考察することで、相手の主張を批判的に吟味できる。
- 2.多様な立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。

3.コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

**予め履修が望ましい科目** 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

**発展科目** アメリカ思想演習

**教科書** レジュメを配布します。

**成績評価方法と基準** 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

### オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00

薄井研究室 (人文学部)

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回：道徳心理学と哲学の関係 (1)
- 第2回：道徳心理学と哲学の関係 (2)
- 第3回：「性格」は本当にあるのか (1)
- 第4回：「性格」は本当にあるのか (2)
- 第5回：「性格」は本当にあるのか (3)
- 第6回：「性格」は本当にあるのか (4)
- 第7回：「性格」は本当にあるのか (5)
- 第8回：コンセプトマップの作成

- 第9回：不一致をめぐる問題 (1)
- 第10回：不一致をめぐる問題 (2)
- 第11回：不一致をめぐる問題 (3)
- 第12回：不一致をめぐる問題 (4)
- 第13回：不一致をめぐる問題 (5)
- 第14回：コンセプトマップの作成
- 第15回：講義全体のまとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。



2012年度以降入学生用(文化)**アメリカの歴史C**

Amerikan History C

2011年度以前入学生用(文化)**アメリカの歴史C**

Amerikan History C

**学期** 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 森脇由美子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 現代社会においてアメリカと日本は深いかわりを持っており、われわれにとってアメリカを理解することは国際社会で生きる上できわめて重要である。アメリカ社会の本質を理解するには、現在だけでなく過去への理解が不可欠となる。本講義では、アメリカ史研究における課題と現状について学んでいく。先住民の世界から19世紀半ばまでを取り上げ、アメリカ社会の歴史的発展の過程を理解していく。

**学習の目的** 南北戦争より以前のアメリカの歩んだ課程をたどる中で、アメリカ社会の特性を歴史的に理解できるようになる。過去の人々の価値観や行動への洞察力を養い、アメリカのみならず、近現代社会全般への批判的な考察力を持つことができる。

**学習の到達目標** 19世紀半ばまでのアメリカ史の基礎的知識を獲得し、アメリカ社会に根ざす基本的理念の形成とその変化について学び、アメリカ社会の特徴を歴史的に理解でき

ようになる。歴史的思考を身に着けることによって、社会のさまざまな現象を、皮相的な事柄だけでなく、社会内部に潜んだ問題から捉え、自分自身で考察していくことができるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** アメリカの歴史D アメリカ史演習A～H

**教科書** 和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』〈ミネルヴァ書房、2014年〉

**成績評価方法と基準** 平常点(40%)と期末テスト(60%)。

**オフィスアワー** 木14:40～15:40

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

テキスト『大学で学ぶアメリカ史』を利用して、アメリカ史に対する基礎的知識を学び、アメリカ社会の現在と過去への洞察力を深める。前期は南北戦争以前について取り上げる。

授業は以下のように進める。

1. 授業内容の説明
2. アメリカの基礎知識
3. アメリカの基礎知識
4. 先住民の世界①

5. 先住民の世界②
6. 植民地時代①
7. 植民地時代②
8. 独立革命①
9. 独立革命②
10. 新共和国の建設①
11. 新共和国の建設②
12. 領土拡大と市場革命①
13. 領土拡大と市場革命②
14. デイスカッション
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**アメリカの歴史D**

**American History D**

2011年度以前入学生用(文化)**アメリカの歴史D**

**American History D**

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 現代社会においてアメリカと日本は深いかわりを持っており、われわれにとってアメリカを理解することは国際社会で生きる上できわめて重要である。アメリカ社会の本質を理解するには、現在だけでなく過去への理解が不可欠となる。本講義では、アメリカ史研究における課題と現状について学んでいく。南北戦争から現代までを取り上げ、アメリカ社会の歴史的発展の過程を理解していく。

**学習の目的** 南北戦争より以降現代までのアメリカの歩んだ課程をたどる中で、アメリカ社会の特性を歴史的に理解できるようになる。過去の人々の価値観や行動への洞察力を養い、アメリカのみならず、近現代社会全般への批判的な考察力を持つことができる。

**学習の到達目標** 19世紀半ばまでのアメリカ史の基礎的知識を獲得し、アメリカ社会に根ざす基本的理念の形成とその変化について学

び、アメリカ社会の特徴を歴史的に理解できるようになる。歴史的思考を身に着けることによって、社会のさまざまな現象を、皮相的な事柄だけでなく、社会内部に潜んだ問題から捉え、自分自身で考察していくことができるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、専門知識・技術、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** アメリカの歴史C

**発展科目** アメリカ史演習A～H

**教科書** 和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

**成績評価方法と基準** 平常点（40%）と期末試験（60%）。

**オフィスアワー** 木曜日14:40～15:40

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

テキスト『大学で学ぶアメリカ史』を利用し、アメリカ史に対する基礎的知識を学び、アメリカ社会の現在と過去への洞察力を深める。後期は南北戦争以降現代までについて取り上げる。

授業は以下のように進める。

1. 授業内容の説明
2. アメリカの基礎知識①
3. アメリカの基礎知識②
4. 南北戦争と「再建時代」①
5. 南北戦争と「再建時代」②
6. 金ぴか時代から革新主義へ①
7. 金ぴか時代から革新主義へ②
8. 第一次世界大戦と黄金の1920年代①
9. 第一次世界大戦と黄金の1920年代②
10. ニューディールと第二次世界大戦①
11. ニューディールと第二次世界大戦②
12. 第二次世界大戦後から1970年代までの内政と社会①
13. 第二次世界大戦後から1970年代までの内政と社会②
14. ディスカッション
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**アメリカの文学E**  
2011年度以前入学生用(文化)**アメリカの文学E**

**American Literature E**  
**American Literature E**

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野田 明

### 授業の概要

アメリカ短篇小説研究

19世紀後半の短篇、マーク・トウェインとヘンリー・ジェイムズの作品を精読し、それぞれの作品の特徴、小説の技巧について考えます。

**学習の目的** 作品のテーマや文体について、他の作品との比較の中で、正確に記述することができる。作品に関する批評を踏まえて、テキストについて自らの論を展開することができる。

**学習の到達目標** 作品のテーマ、特徴を簡潔に述べるができる。主要部分について、辞書を用いて訳すことができる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第4回：作品講読 マーク・トウェイン I

第5回～第7回：作品講読 マーク・トウェイン II

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** 文学概論A～B (同時履修も可)

**発展科目** アメリカ文学演習

**教科書** 別途掲示します。

**成績評価方法と基準** 授業中の発表40%、期末試験60%

**オフィスアワー** 月曜15:00～16:00 人文学部3階野田研究室

第8回～第10回：作品講読 ヘンリー・ジェイムズ I

第11回～第13回：作品講読 ヘンリー・ジェイムズ II

第14回～第16回：まとめ、試験

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの文学F**

American Literature F

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの文学F**

American Literature F

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野田 明

### 授業の概要

アメリカ短篇小説研究

20世紀を代表する作家、William Faulkner (1897-1962) の短篇を精読し、それぞれの作品の特徴、小説の技巧について考えます。

**学習の目的** 作品のテーマや文体について、他の作品との比較の中で、正確に記述することができる。作品に関する批評を踏まえて、テキストについて自らの論を展開することができる。

**学習の到達目標** 作品のテーマ、特徴を簡潔に述べるができる。主要部分について、辞書を用いて訳すことができる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第5回：作品講読Ⅰ A Rose for Emily

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** 文学概論A～B (同時履修も可)

**発展科目** アメリカ文学演習

**教科書** 別途掲示します。

**成績評価方法と基準** 授業中の発表40%、期末試験60%

**オフィスアワー** 月曜15:00～16:00 人文学部3階野田研究室

第6回～第9回：作品講読Ⅱ That Evening Sun

第10回～第13回：作品講読Ⅲ Red Leaves

第14回～第16回：まとめ、試験

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの社会A** Lecture on American Society A  
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの社会A** Lecture on American Society A

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 江成幸 (人文学部文化学科)

**授業の概要** アメリカの現状と変化をトピック別に検討し、アメリカ社会の構造と人々の価値観について理解を深める。

・日米関係が密接な時代において、アメリカの社会意識を学ぶことにより、豊かな人的交流の基礎にする。

**学習の目的**

- ・アメリカにおける世論の動向について、背景を含めて理解することができる。
- ・アメリカ社会の成立のプロセスと、現在の社会的特徴や価値観との関連について認識を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力

**発展科目**

アメリカの社会B  
アメリカ地域研究に関する他の講義、演習

**学習の到達目標**

- ・アメリカ合衆国における人々の生活、および社会関係を理解する。
- ・アメリカの社会制度についての基本的知識を身につける。

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 期末レポート90%、授業での質問・コメント等10%、計100%

**オフィスアワー** 月曜日7・8限。江成研究室。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

[第1-4回 アメリカの社会構造] 政府、政党、利益団体、市民団体について日本と比較する。

[第5-8回 アメリカの階層構造] 経済格差の問題を平等主義、競争原理など価値観と関連づけて論じる。

[第9-12回 アメリカの世論] マスメディアが注目する国政選挙、外交問題、災害、犯罪などを通して、世論とその背景を考える。

[第13-15回 アメリカのライフスタイル] 消費行動、健康管理などのトピックを扱う。

[第16回 期末レポート課題]

2012年度以降入学生用(文化)**アメリカの社会B** Lecture on American Society B  
2011年度以前入学生用(文化)**アメリカの社会B** Lecture on American Society B

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

アメリカ合衆国の現状と変化を検討し、とりわけ多民族・多文化社会の側面に注目する。移民史の概観、文化的特徴、適応プロセス、差別・格差の是正策などについて論じる。

学期の後半は、学生のグループワークによるテーマ学習を行う。学期末に、教育学部との合同授業でその成果を発表する予定である。

### 学習の目的

- ・アメリカ合衆国について、人々の生活および社会関係の側面から理解する。
- ・多民族社会アメリカの歴史的背景と現状について知識を得る。
- ・日米関係が密接な時代において、アメリカ社会で重視される価値観や人々の意識を学ぶことにより、豊かな人的交流の基礎にする。

### 学習の到達目標

- ・文化比較の観点から、主体的に探求したいテーマを見だし、アメリカの特徴をとらえ

る。

- ・日本社会とも共通するグローバルな課題を発見し、異文化間の交流の手がかりとする。
- また、今後に必要な政策、社会的活動への関心を深める。

**本学教育目標との関連** 共感, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** アメリカの社会A

**発展科目** アメリカ地域に関する他の講義、演習

**成績評価方法と基準** テーマ学習による期末レポート70%、授業への参加・コメント30%、計100%

**オフィスアワー** 月曜日7・8限。江成研究室。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- [第1-3回 移民政策と移民史]
- [第4-5回 エスニック・マイノリティの差別と是正策]
- [第6回 アメリカ社会の多様性と今後]
- [第7-8回 アメリカ文化に関するテーマ学習の

方法]

[第9-10回 テーマ学習の内容検討および構成]

[第11-13回 グループ学習による発表の準備]

[第14-15回 研究発表]

[第16回 テーマ学習の成果提出]

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌A**

Geography of America A

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌A**

Geography of America A

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 中川 正(人文学部)

**授業の概要** 本講義はアメリカ研究の入門として、アメリカにおける自然的基盤、および歴史地理を概説する。

**学習の目的** アメリカの全体像を理解し、アメリカが超大国へと発展していく過程を歴史地理学的に概説する。

**学習の到達目標** 学生は、アメリカの全体像を把握し、アメリカの歴史地理の概略を理解し、研究テーマの候補を考えることができるようになる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 幅広い教養, 課題探求力, 討論・対話力

**受講要件** 前後期(アメリカの風土と地誌AとB)を合わせて履修すると、より深く学ぶこと

ができる。

**予め履修が望ましい科目** 地理学関係・アメリカ研究関係の科目

**発展科目** アメリカ地誌演習

**教科書** [テキスト] 指定しない。毎回授業で資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 毎回授業の冒頭で行う小テストですべての評価を行う。

**オフィスアワー** 毎週木16:30~17:30 場所 教養教育2号館307研究室

**その他** 毎回授業の冒頭で行う小テストで評価を行うので、遅刻をしないよう注意すること。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第一回 ガイダンス・概要説明、アメリカ合衆国とはどんな国?

第二回 アメリカ合衆国の地域

第三回 アメリカ合衆国の自然(地形)

第四回 アメリカ合衆国の自然(気候)

第五回 アメリカ合衆国の自然(植生・土壌)

第六回 アメリカ合衆国の歴史地理(初期のアメリカ人)

第七回 アメリカ合衆国の歴史地理(新大陸の発見と探検)

第八回 アメリカ合衆国の歴史地理(植民地時代)

第九回 アメリカ合衆国の歴史地理(独立後)

第十回 アメリカ合衆国の歴史地理(南北戦争後)

第十一回 アメリカ合衆国の歴史地理(世紀転換期)

第十二回 アメリカ合衆国の歴史地理(二つの大戦間)

第十三回 アメリカ合衆国の歴史地理(第二次世界大戦後)

第十四回 アメリカ合衆国の歴史地理(1960年以降)

第十五回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌B**

Geography of America B

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌B**

Geography of America B

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 中川 正 (人文学部)

**授業の概要** アメリカ研究を行うためのプロセスを、政治、経済、文化など具体的な課題を卒業論文にまで結びつけ事例をもとに実践的に学習する。

**学習の目的** アメリカの政治的、経済的、文化的なトピックから具体的な疑問を喚起し、学問の課題として設定して、自ら研究できる能力を獲得する。

**学習の到達目標** アメリカの政治的、経済的、文化的なトピックから具体的な疑問を持ち、課題を設定して、文献やその他の情報を探索し、研究を行う基礎的な技法を獲得することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

**受講要件** 前後期(アメリカの風土と地誌AとB)をセットで履修すると理解の深化につながり望ましいが、履修にあたる必須条件ではない。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回: 授業の概要説明

第2回: アメリカ合衆国の研究法

第3~5回: 政治的トピックの研究法

**予め履修が望ましい科目** 地理学関係・アメリカ研究関係の授業

**発展科目** アメリカ地誌演習

**教科書** [テキスト] 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 毎回Moodleに課題を提出する。すべてその合計点で評価する。出席を前提とするので、欠席をした場合には、課題を提出しても点数とはならないことを原則とする。

**オフィスアワー** 毎週木16:30~17:30 場所 教養教育2号館307研究室

**その他** 毎回ムードルに課題を提出することとなり、その合計点が成績となる。ただし、出席が前提なので、欠席をする場合には、原則として課題は採点対象とはならない。リーディング資料もムードルに掲載するので、各自ダウンロードして学ぶことが必要となる。受業生からの積極的な質問・意見を期待する。

第6~8回: 経済的トピックの研究法

第9~11回: 宗教的トピックの研究法

第12~14回: 文化的トピックの研究法

第15回: まとめ



# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化A**

Americas' peoples and cultures A

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化A** Americas' peoples and cultures A

学期 前期 開講時間 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 立川陽仁 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 南北アメリカが多民族国家になった背景としての歴史と現状を理解する。

**学習の目的** 南北アメリカの民族の概況を歴史的に理解する。

## 学習の到達目標

- ・ラテンアメリカ、アメリカ合衆国、カナダという3つの地域ごとに、民族の歴史と現状が違う点、および共通する点を理解する。
- ・上記の相違点および共通点の理由である植民地主義について理解を深めることができる。
- ・民族集団が一枚岩的ではなく、じつは内実が複雑な構成になっていることを理解する。
- ・文化と呼ばれるものの不安定さ、操作性を理解する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

講義は

- 1) ラテンアメリカ
- 2) カナダ

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** とくになし。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育の〈教養文化人類学〉、専門科目の〈文化人類学〉のいずれか。

**発展科目** アメリカの民族と文化演習 (A～D)

**成績評価方法と基準** 授業時間内に小テストないしレポートを課す予定。

**オフィスアワー** 木曜7時から8時限以後。他の時間も電気がついていれば基本的に構いません。

3) アメリカ (各5回程度)

の順に、歴史と現代の民族状況、文化について概説。

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化B**

Americas' peoples and cultures B

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化B** Americas' peoples and cultures B

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 北米の先住民の歴史、現代の生活を文献と講師のフィールドワークの成果から包括的に理解する。フィールドワークの成果を使用するので、北西海岸（カナダ太平洋沿岸）の先住民が中心となる。

**学習の目的** 北米の先住民の歴史と現代の生活の概要を知ることができる。

### 学習の到達目標

北米の先住民が直面している困難と、それに対する先住民のたくましい対応が理解できる。

メディアで語られることと「真実」とが必ずしも一致しないこと、また、メディアで語られた「嘘」がときに「真実」に組み替えられてしまう現状を地域に関係なく理解できる。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 専門知

識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** とくになし。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育の〈教養文化人類学〉、〈アメリカの民族と文化A〉

**発展科目** アメリカの民族と文化演習 (A～D)

**教科書** とくになし。

**成績評価方法と基準** 期末のテストをおこなうか、レポート（授業時間内）を課す予定。出席はとらない。

**オフィスアワー** 木曜日の7限以後、および研究室に電気がついている時間。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回のオリエンテーションの後、第2回以後はだいたい以下の内容を概説していきます。

- ・北米における先住民族集団の分布
- ・先住民族集団の名称について
- ・先住民の歴史\*
- ・伝統的な物質文化（何を食べて、何を着て、どこに住むのか）\*

- ・伝統的なポトラッチ
  - ・現代のポトラッチ
  - ・戦略的本質主義
  - ・先住民の現代の日常生活\*
  - ・先住民の現代の経済活動（どう現金を稼ぐのか）\*
  - ・近代化、グローバリズムと先住民\*
- \*印のものは、2時間かかる予定。

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ思想演習C**

Seminar in American Philosophy C

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ思想演習C**

Seminar in American Philosophy C

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 薄井 尚樹 (人文学部)

**授業の概要** この演習は「心の哲学」を主題とします。そこで扱われる問いは、心とはそもそもなにかという根源的な問いから、他者を理解するとはどういうことか、自由意志は本当に存在するのか、心がなにかを「あらわす」とはどういうことか、というように多岐にわたります。授業のなかでどのような問いを扱うかをみなさんと議論しながら、それに適したテキストを読んでいきます。

**学習の目的** 1.テキストの読解を通じて心の哲学の主要問題についての知識を獲得し、また質疑応答において相手と適切に議論できるようになる。

### 学習の到達目標

- 1.学術的なテキストを読解する能力を身につける。
- 2.質疑応答をこなすことで、批判に適切に応答する能力を養う。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回の授業では、授業の進めかたを説明したうえで、みなさんに担当してもらう順番を決めます。第2回の授業では、授業の見取り図として、心の哲学の主要トピックを簡単に説明します。第3回から第14回までは、担当者に課題テキストの内容について説明してもらい、みなさんに質疑応答をしてもらいます。第15

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 演習は受講する皆さんで作るものですから、授業への主体的な参加が求められます。考えたこと、疑問に思ったことは、積極的に発言していくようにしましょう。

**予め履修が望ましい科目** 予備知識は必要ありません。

**教科書** 第1回・第2回の授業で受講者のみなさんと相談したうえで決定します。

**成績評価方法と基準** 授業への貢献度50%、  
期末レポート50%

#### オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00  
薄井研究室 (人文学部)

回では、レポートの課題について説明し、授業を通じた質問を受け付けます。

第1回：イントロダクション

第2回：授業の見取り図

第3回~第14回：心の哲学における諸問題

第15回：まとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ思想演習D**

Seminar in American Philosophy D

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ思想演習D**

Seminar in American Philosophy D

**学期** 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 薄井 尚樹 (人文学部)

**授業の概要** 文章を適切に要約するスキル、相手の議論を批判的に検討するスキル、自身の考えを論理的に説明するスキル...これらはどれも、みなさんが社会に出たときにとても大事になるものです。本演習では、哲学という「ツール」を用いながら、これらのスキルの向上を目指します。あわせて論文を執筆するにあたっての約束事についても学びます。

**学習の目的** 1.自身の主張を論理的に説明し、質疑応答において相手と適切に議論できるようになる。

### 学習の到達目標

- 1.論文を執筆する能力を身につける。
- 2.質疑応答をこなすことで、批判に適切に応答する能力を養う。
- 3.自分の主張を論理的に説明する能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回の授業では、授業の進めかたを説明したうえで、みなさんに担当してもらい順番を決めます。第2回以降の授業では、論文を執筆するうえでの約束事を学びながら、最終的に論文をひとつ書いてもらいます。

思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 演習は受講する皆さんで作るものですから、授業への主体的な参加が求められます。考えたこと、疑問に思ったことは、積極的に発言していくようにしましょう。

**予め履修が望ましい科目** 予備知識は必要ありません。

**教科書** 第1回・第2回の授業で受講者の皆さんと相談したうえで決定します。

**成績評価方法と基準** 授業への貢献度50%、期末レポート50%

#### オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00

薄井研究室 (人文学部)

第1回: イントロダクション

第2回~第15回: 論文の執筆方法の学習・担当者による発表

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ史演習C**

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ史演習C**

**American History Seminar C**

**American History Seminar C**

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

**授業の概要** アメリカ史の研究方法を学ぶ。授業の中では、英語文献を使用する。

**学習の目的** アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を獲得する。

**学習の到達目標** 援護文献を読んで内容を理解できる語学力を身につける。アメリカ史に関する文献の読解を通して、アメリカの歴史的な歩みを学び、当時の人々の考え方や行動、文化や社会の多様性を理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目**

アメリカ史演習D

アメリカ史演習E～H

**教科書** 授業中にプリントで配布する。

**成績評価方法と基準** 平常点およびレポート。

**オフィスアワー** 木曜日14:40～15:40

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を身につけることも目的とする。毎回必ず十分に予習することが求められる。

この授業で使用するテキストは、Frederick M. Binder、David M.Reimers 編の We Loved: Essays and Document in American Social History, (Fifth Edition), Vol.1, 2 を用いる(適宜プリントで配布)。この本は、アメリカ社会史における主要なトピックスを取り上げた叙述と関係史

料から構成されている。歴史文書に触れながらアメリカ社会がたどってきた歴史を学ぶ。

なお、授業は基本的に輪読方式で行うが、テキストの内容と関連するテーマについて、受講者が報告およびディスカッションもおこなう、アメリカ史への理解をさらに深める。具体的には、以下の通りに進める。

1. はじめに (テキストの紹介・学習方法の説明)

2～6 テキストの輪読

7 中間報告

7～14 テキストの輪読

15 最終報告とまとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ史演習D** American History Seminar D  
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ史演習D** American History Seminar d

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次,4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

**授業の概要** アメリカ史の研究方法を学ぶ。授業の中では、英語文献を使用する。

**学習の目的** アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を獲得する。

**学習の到達目標** 援護文献を読んで内容を理解できる語学力を身につける。あまり家臣に関する文献の読解を通して、アメリカの歴史的な歩みを知り、当時の人々の考え方や行動、文化や社会の多様性を知る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** アメリカ史演習E～H

**教科書** 授業中にプリントで配布する。

**成績評価方法と基準** 平常点による。

**オフィスアワー** 木曜日14:20～15:20

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を身につけることも目的とする。毎回必ず十分に予習することが求められる。

この授業で使用するテキストは、Frederick M. Binder、David M.Reimers 編の We Loved: Essays and Document in American Social History, (Fifth Edition), Vol.1, 2 を用いる(適宜プリントで配布)。この本は、アメリカ社会史における

主要なトピックスを取り上げた叙述と関係史料から構成されている。歴史文書に触れながらアメリカ社会がたどってきた歴史を学ぶ。

なお、授業は基本的に輪読方式で行うが、テキストの内容と関連するテーマについて、受講者が報告およびディスカッションもおこない、アメリカ史への理解をさらに深める。具体的には、以下の通りに進める。

1. テキストの紹介・学習方法の説明
- 2～6 テキストの輪読
- 7 中間報告
- 7～14 テキストの輪読
- 15 最終報告とまとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ史演習G** American History Seminar G  
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ史演習G** American History Seminar G

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

**授業の概要** アメリカ史研究の諸問題

討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** アメリカ史の研究における課題と方法を学び、論文作成の方法を習得する。

**受講要件** 特になし。

**学習の到達目標** アメリカ史研究の基本的課題を学び、自らの問題関心から課題を発展させていく能力を養う。課題の発見をもとに自学する力、学んだことを整理して発表する力、さらにディスカッションを通して柔軟に思考する力を身につける。

**発展科目**

アメリカ史演習F

**教科書** 授業中に指示する。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力,

**成績評価方法と基準** 平常点およびレポート。

**オフィスアワー** 木曜日14:40~15:40

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

アメリカ史の諸問題に対する研究方法を、様々な課題を取り上げながら習得する。授業では受講生が自らの関心を抱くテーマに関連する素材を毎回交代で取り上げ、報告と討論を通して理解を深めていく。4年生については、卒業論文のテーマの設定や史料・文献収集、問題点の絞込みなど、卒業論文作成に向けて各自途中経過を数回報告してもらい、論文完成へとつなげていく。卒論執筆の学生は

必修のこと。

授業は以下のように進める。

- 1 授業方法についての説明
- 2~6 学生の報告
- 7 文献調査の方法について
- 8~12 学生の報告
- 13 卒業論文の作成方法について
- 14 まとめと今後の課題
- 15 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ史演習H** American History Seminar H  
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ史演習H** American History Seminar H

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

**授業の概要** アメリカ史研究の諸問題

討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** アメリカ史の研究における課題と方法を学び、論文作成の方法を習得する。

**受講要件** 特になし。

**学習の到達目標** アメリカ史研究の基本的課題を学び、自らの問題関心から課題を発展させていく能力を養う。課題の発見をもとに自学する力、学んだことを整理して発表する力、さらにディスカッションを通して柔軟に思考する力を身につける。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** アメリカ史演習G

**教科書** 授業中に指示する。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力,

**成績評価方法と基準** 平常点およびレポート。

**オフィスアワー** 木曜日14:40~15:40

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

アメリカ史の諸問題に対する研究方法を、具体的な課題を取り上げながら習得する。授業では受講生が自らの関心を抱くテーマに関連する素材を毎回交代で取り上げ、報告と討論を通してアメリカ史研究への理解を深めていく。4年生については、卒業論文のテーマの設定や史料・文献収集、問題点の絞込みなど、卒業論文作成に向けて各自途中経過を数回報告してもらい、論文完成へとつなげていく。

アメリカ史で卒業論文を執筆する予定の学生は必ず履修すること。

授業階下のように進める。

1 授業方法の説明

2~6 学生の報告

7 論文執筆の方法について

8~12 学生の報告

13~14 アメリカ史研究の方法について

15 まとめ



# 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習A**

Seminar in American Literature A

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習A**

Seminar in American Literature A

**学期** 前期 **開講時間** 水 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 小田敦子 (教養教育機構)

**授業の概要** Flannery O'Connorの短編を読み、その特質について考えるとともに、小説の技法、アメリカ南部の文化への考察を深める。

**学習の目的** 長い文章を追っていきける英語力をつける。小説の技法を知ること、人の意識の動きへの洞察を深める。アメリカ南部の空気や生活を読み取り、それに対する作家の批判精神、南部文学の「ゴシック小説」への傾向について理解する。

**学習の到達目標** 少なくとも論理的に、長い文章を読むことができる。小説の構成要素を

理解する。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

**発展科目** 英米文学の講義、演習

**教科書** Flannery O'Connor, (タイトル) A Good Man Is Hard to Find and Other Stories

**成績評価方法と基準** 授業への取り組み50%、学期末レポート50%

**オフィスアワー** 月曜日12:15~12:45

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 フラナリー・オコナー概説

第2回~第6回 "A Good Man Is Hard to Find" 講

読

第7回~第15回 "The Life You Save May Be Your

Own" 講読

# 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習B**

Seminar in American Literature B

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習B**

Seminar in American Literature B

**学期** 後期 **開講時間** 水 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 小田敦子 (教養教育機構)

**授業の概要** Flannery O'Connorの短編を読み、その特質について考えるとともに、小説の技法、アメリカ南部の文化への考察を深める。

**学習の目的** 長い文章を追っていきける英語力をつける。小説の技法を知ること、人の意識の動きへの洞察を深める。アメリカ南部の空気や生活を読み取り、それに対する作家の批判精神、南部文学の「ゴシック小説」への傾向について理解する。

**学習の到達目標** 少なくとも論理的に、長い文章を読むことができる。小説の構成要素を

理解する。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

**発展科目** 英米文学の講義、演習

**教科書** Flannery O'Connor, (タイトル) A Good Man Is Hard to Find and Other Stories

**成績評価方法と基準** 授業への取り組み50%、学期末レポート50%

**オフィスアワー** 月曜日12:15~12:45

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 フラナリー・オコナー概説

第2回~第7回 "Good Country People" 講読

第8回~第15回 "Everything That Rises Must Converge" 講読

2012年度以降入学生用(文化)**アメリカ文学演習C**

**American Literature C**

2011年度以前入学生用(文化)**アメリカ文学演習C**

**American Literature C**

**学期** 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

**選/必** 選択必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 井上 稔浩 (人文学部)

**授業の概要** Sherwood Andersonの小説について研究する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** Sherwood Andersonの短編小説の特長を知る。

**教科書** Sherwood Anderson, Winesburg, Ohio

**学習の到達目標** Sherwood Andersonの作品に関する批評論文等を参考にしながら彼の短編小説を読解し、作品内容と作品が書かれた時代の特質との関連を理解することを目標とする。

**成績評価方法と基準** レポート60%、授業中課題発表40%

**オフィスアワー** 毎週月曜12:01~12:50

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 講義のオリエンテーション、Sherwood Andersonと南部概説

第2回 各作品の精読と論考

第3回 各作品の精読と論考

第4回 各作品の精読と論考

第5回 各作品の精読と論考

第6回 各作品の精読と論考

第7回 各作品の精読と論考

第8回 各作品の精読と論考

第9回 各作品の精読と論考

第10回 各作品の精読と論考

第11回 各作品の精読と論考

第12回 各作品の精読と論考

第13回 各作品の精読と論考

第14回 各作品の精読と論考

第15回 各作品の精読と論考

2012年度以降入学生用(文化)

# アメリカ文学演習D

American Literature d

2011年度以前入学生用(文化)

# アメリカ文学演習D

American Literature D

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選択/必修 選択必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井上 稔浩 (人文学部)

**授業の概要** Sherwood Andersonの小説について研究する。

**学習の目的** Sherwood Andersonの小説の特長を知る。

**学習の到達目標** Sherwood Andersonの作品に関する批評論文等を参考にしながら彼の短編小説を読解し、作品内容と作品が書かれた時代の特質との関連を理解することを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** Sherwood Anderson, Winesburg, Ohio

**成績評価方法と基準** レポート60%、授業中課題発表40%

**オフィスアワー** 毎週月曜12:10~12:50

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 講義のオリエンテーション、Sherwood Andersonと南部概説

第2回 各作品の精読と論考

第3回 各作品の精読と論考

第4回 各作品の精読と論考

第5回 各作品の精読と論考

第6回 各作品の精読と論考

第7回 各作品の精読と論考

第8回 各作品の精読と論考

第9回 各作品の精読と論考

第10回 各作品の精読と論考

第11回 各作品の精読と論考

第12回 各作品の精読と論考

第13回 各作品の精読と論考

第14回 各作品の精読と論考

第15回 各作品の精読と論考

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ社会演習C**

Seminar on American Society C

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ社会演習C**

Seminar on American Society C

**学期** 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 江成 幸 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 北米社会に関するテーマを社会階層、人種・エスニシティ、ジェンダーなど社会的な切り口から分析する。

### 学習の目的

アメリカ研究を中心とする卒業論文の準備を進める。

学生が卒業論文の研究テーマについて発表し、授業での質疑を通じて構成力、分析力を身につけることを目指す。

研究テーマに関する社会学分野の論文および時事英語に親しむ。

### 学習の到達目標

アメリカ社会に関する日本語文献の講読、レジュメの作成、報告のしかたなどを身につける。

卒業論文のテーマや内容について情報収集し、分析する力をつける。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

学期を通じて、アメリカ社会に関する文献購読を行う。日本語および時事英語のテキストを用い、北米諸国の社会構造を理解する。

これと平行して、学生が卒論テーマに関わるレジュメ作成および中間報告を行い、全員で討論する。

アメリカ研究に役立つ英語知識を確認できる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** アメリカ研究の選択必修科目

**発展科目** アメリカ社会演習D, A, B

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 出席、研究報告、議論への参加、期末レポートにより、総合的に行う。

**オフィスアワー** 木曜日7～8限。

〔第1回〕 授業の進め方とテキスト紹介

〔第2～4回〕 テキストの講読

〔第5～10回〕 テキスト講読、4年生の中間報告、討論

〔第11回～15回〕 テキスト講読、3年生の中間報告、討論

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ社会演習D**

Seminar on American Society D

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ社会演習D**

Seminar on American Society D

**学期** 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 江成 幸 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 北米社会に関するテーマを社会階層、人種・エスニシティ、ジェンダーなど社会的な切り口から分析する。

的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力

**学習の目的** 学生が卒業論文の研究テーマについて発表し、授業での質疑を通じて構成力、分析力を身につけることを目指す。

### **予め履修が望ましい科目**

アメリカ研究の地域必修科目  
アメリカ社会演習A

### **学習の到達目標**

アメリカ社会に関する文献の講読、レジュメの作成、報告のしかたなどを身につける。  
また、卒業論文のテーマについて情報収集し、分析する力をつける。

**発展科目** アメリカ社会演習A, B

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 出席、研究報告、議論への参加、期末レポートにより、総合的に行う。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体

**オフィスアワー** 木曜日7~8限。

## **授業計画・学習の内容**

---

### **学習内容**

学期を通じて、日本語文献ないし時英語を和訳し、北米諸国の社会構造を理解する。  
これと平行して、学生が卒論テーマに関わるレジュメ作成および中間報告を行い、全員で

討論する。

〔第1~2回〕 授業の進め方、テキスト講読

〔第3~14回〕 テキスト講読、卒論の中間報告、討論

〔第15回〕 4年生の卒論要旨報告

# 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ地誌演習A**

Seminar of American Geography A

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ地誌演習A**

Seminar of American Geography A

**学期** 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** PBL, Moodle

**担当教員** 中川 正

**授業の概要** アメリカの現代的課題に関するトピックを取り上げ、PBL形式で、政治、経済、社会、宗教などの基礎知識を学習するとともに、自ら卒論のための研究課題を設定し、研究する素養を身につける。

**学習の目的** 学生は、自らのアメリカ地域に関する関心を、社会科学的手法を用いてオリジナルな研究にするきっかけをつかむことができる。

### 学習の到達目標

この授業を履修することにより、学生は以下のことができるようになる。

- ①アメリカの現代的課題を通して、アメリカ社会の仕組みを自ら学習することができる。
- ②政治、経済、社会、宗教など、アメリカの基本的な知識を獲得することができる。
- ③グループで課題を設定し、解決することができる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～3回 課題の発見
- 第4回～5回 課題のためのデータ収集

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 課題探求力, 討論・対話力

**受講要件** 前後期 (アメリカ地誌演習AとB) をセットで履修することがのぞましい。

**予め履修が望ましい科目** アメリカの風土と地誌、文化環境論

**発展科目** 文化環境論

**教科書** 『大学生のためのレポート作成ハンドブック』三重大学共通教育センター

**成績評価方法と基準** 毎回のムードル投稿 40点  
グループ発表成果 30点  
各自の学習課題評価 30点

**オフィスアワー** 毎週木16:30～17:30 場所 教養教育2号館307研究室

**その他** 小グループのグループワークをするので、無断欠席や遅刻はしないように。

第6回～10回 課題のための分析

第11回～13回 批判的検討とレポート作成

第14回～15回 課題のプレゼンテーションとリフレクション

## 2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ地誌演習B**

Seminar of American Geography B

## 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ地誌演習D**

Seminar of American Geography B

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 中川 正

**授業の概要** 各自卒業論文につながるテーマを発見し、途中経過を報告しながら、卒業論文の基礎調査を行う。

**学習の目的** 学生は、自らのアメリカ地域に関する関心を、社会科学的手法を用いてオリジナルな研究にするきっかけをつかむことができる。

### 学習の到達目標

卒業論文につながる課題を発見することができる。

課題に基づいたデータを収集することができるようになる。

データに基づいて説明や解釈をすることができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

**受講要件** 前後期 (アメリカ地誌演習AとB) をセットで履修することが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** アメリカの風土と地誌、文化環境論

**発展科目** 文化環境論

**教科書** 特になし。必要な資料を授業内で配付する。

**成績評価方法と基準** 小課題30%、研究過程のディスカッション40%、最終レポート30%

**オフィスアワー** 毎週木16:30～17:30 場所 教養教育2号館307研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 卒業論文の作成法

第2回 問題の発見とデータ収集法

第3回～第14回 学生による発表とディスカッション

第15回 卒業論文構想発表と振り返り



2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習C**  
Seminar of Americas' peoples and cultures C  
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習C**  
Seminar of Americas' peoples and cultures C

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 履修の方法 演習

担当教員 立川 陽仁 (人文学部)

**授業の概要** 何かしらアメリカ(南北アメリカ)に関係するトピックを選び、文献調査をもとに発表をおこなう。原則各人が期間中に1回発表をおこない、他の学生の発表時には質問やコメントをだす。

**学習の目的** ・よりいっそう深いアメリカの社会的な事情をケーススタディから理解できる。

**学習の到達目標**

- ・ケーススタディによる特定テーマの探求が可能になる。
- ・発表およびディスカッション能力がつく。

**本学教育目標との関連** 共感, 主体的学習力,

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

南北アメリカの民族の現在の文化現象に関する指定文献の内容を発表してもらう。内容の理解、および後期のプレゼンに向けてのスキル向上がおもな目的。文献はゼミの最初の時間に紹介。

専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** アメリカの民族と文化、アメリカの歴史、アメリカの社会など。

**成績評価方法と基準** 受講者数によって回数は変わるかもしれないが、基本的に半期1回のプレゼンテーションで評価。

**オフィスアワー** 木曜7限以後、あるいは研究室に電気がついている時間。

教員として私はほとんど口を挟まないつもりなので、受講者諸君による活発な議論を求める。

第1回：オリエンテーションと発表日程きめ

第2～15回：各自の発表

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習D**  
Seminar of Americas' peoples and cultures D  
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習D**  
Seminar of Americas' peoples and cultures D

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位数 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 履修の方法 演習  
担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

**授業の概要** アメリカに関することについて自分自身で調べ、また発表すること。原則半期に1回。

**学習の目的** アメリカに関する社会的な現象に関してケーススタディを通して深い理解に達する。

#### 学習の到達目標

- ・アメリカの民族、文化に関連するなにかしらのテーマに関する深い理解に達する。
- ・またプレゼンをする能力、ディベートをする能力を開発する。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発

信力, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 「アメリカの民族と文化」の講義はもちろん、アメリカの歴史、アメリカの社会など。

**成績評価方法と基準** 半期1回の発表、および発表担当でない日には、発表者に対する質問かコメントをすること。

**オフィスアワー** 研究室に電気がついている時間。とくに木曜午後。

**その他** アメリカに関連していれば、テーマは自由なので、できるだけ好きなことを発表テーマに選んでほしい。

#### 授業計画・学習の内容

---

##### 学習内容

履修者に発表の順番をわりあて、毎回1人に発表をしてもらう。  
発表の担当者以外は、発表後に発表者に対し

て質問かコメントをしてもらう。

- 第1回：オリエンテーションと発表者の日程きめ
- 第2～15回：各自の発表

2012年度以降入学生用(文化)**言語科学演習 A**

2011年度以前入学生用(文化)**言語科学演習 A**

Language Science Seminar A

Language Science Seminar A

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治

**授業の概要** 本演習では、極性表現 (polarity sensitive items) の形式、意味、機能について考察する。具体的には、否定極性項目 (negative polarity items)、肯定極性項目 (positive polarity items)、否定一致表現 (negative concord items) 等の様々な極性表現の構造的、意味的特性に焦点を当て、(i) それらはどのような環境で現れ得るのか、(ii) 極性表現の多様性はどのように理論的に分析することができるのか、(iii) 極性表現の語用論的特性、談話レベルでの役割とは何か、といった問題について、統語論、意味論、語用論の観点から考察する。

**学習の目的** 様々な言語現象について詳しく観察し、意味解釈に関する原理や法則性・体系性を理解する。

**学習の到達目標** 身近な言語現象を言語理論

を使って分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 言語学、英語学関係の科目を履修しておくことが望ましい。

**教科書** 教科書は使用しません。

**成績評価方法と基準**

授業参加、発表、課題：60%

期末レポート:40%

**オフィスアワー** オフィスアワーの時間帯に關しては、最初の授業で決める。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

Week 1: Introduction

Week 2-4: Negative polarity items

Week 5-7: Positive polarity items

Week 8-10: Minimizers and degree words

Week 11-13: Polarity and discourse structure

Week 14-15: Expressives and polarity sensitivity

Week 15: Presentations

2012年度以降入学生用(文化) **言語科学演習 B**

2011年度以前入学生用(文化) **言語科学演習 B**

Language Science Seminar B

Language Science Seminar B

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治

### 授業の概要

本演習では、「前提」(presupposition)と「慣習的推意」(conventional implicature)と呼ばれる否命題的な意味の性質について考察する。具体的には、(i) 前提と慣習的推意の間の類似点・相違点とは何か、(ii) それらの意味・機能はどのように分析することができるのか、(iii) それらの投射的振る舞い(埋め込み環境での解釈)は、どのように理論的に説明することができるのか、(iv) 前提、慣習推意意味の中には、どのような意味的多様性があるのか、といった問題について形式意味論、語用論、および言語哲学の観点から考察する。

**学習の目的** 様々な言語現象を基に、言葉の意味解釈に関する原理や法則性・体系性を理解する。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

Week 1: Introduction (kinds of meaning)

Week 2-4: Presuppositions (case studies)

Week 5-7: Conventional implicatures (case studies)

Week 8-11: Current theories of presupposi-

**学習の到達目標** 身近な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 言語学関係の科目を履修しておくことが望ましい。

**教科書** 教科書は使用しません。

**成績評価方法と基準** 授業参加・発表60%、レポート40%

**オフィスアワー** オフィスアワーの時間帯に関しては最初の授業で決めます。

tions and conventional implicatures

Week 12-13: Projective behaviors of presuppositions and conventional implicatures

Week 14: Varieties of not-at-issue content

Week 15: Presentations

# 2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習A**

Seminar A in Art History

## 2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習A**

Seminar A in Art History

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

### 授業の概要

東山魁夷著『風景との対話』を読み、画家の目を通して日本美術を考える。

昭和を代表する日本画家、東山魁夷(1908～99)は戦後間もない頃に描いた「残照」や「道」によって風景画の新機軸を打ち出し、1970年代には唐招提寺の障壁画を制作してその名声は最高潮に達した。彼は文章家としても一流で、優れた随筆を残している。なかでも『風景との対話』は、川端康成が「一風景画家の半生の回想、心の遍歴、作品の自解」、「すぐれた美の本」と評した好著である。

### 学習の目的

美術を通して日本文化の多様性を知る。

歴史・文学・思想と日本絵画との関わりを理解するようにする。

作品の制作背景と作家の内面を知り、美術の精神性を感じ取ろうとする鑑賞態度を身につける。

### 学習の到達目標

昭和の風景画の主題と表現を理解し、作品の正確な知識を得る。

日本の社会・文化における絵画および美術の

価値について説明できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

可能であれば展覧会の見学を行う。

その際交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

**予め履修が望ましい科目** 美術理論A・B、美術史A～D

**発展科目** 後期開講の美術理論・美術史演習B

**教科書** 『風景との対話』(新潮選書) 東山魁夷著、新潮社、1967年、1620円

**成績評価方法と基準** 発表および関心・積極性60%、レポート40%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30/藤田研究室(教養教育2号館2階)

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

テキストについて川端康成は「東山氏は東と西(東洋、日本と西洋)、北と南(北欧と南欧、あるいは日本の北と南)とを、体験と教養とで生き、文学、音楽も理解以上の愛着が深い、その広さはこの『風景との対話』にも、豊かさ確かさの落ちつきとなっている。」とも述べている。文章は平易だが内容は単純ではなく、筆者の考えを十分に理解するためにはきちんとした予習が必要となる。

[授業計画]

第1回 授業の概要、美術史研究入門

第2回 東山魁夷の生涯と作品(1)

第3回 同(2)

第4回 テキスト講読(1)

第5回 テキスト講読(2)

第6回 テキスト講読(3)

第7回 テキスト講読(4)

第8回 テキスト講読(5)

第9回 テキスト講読(6)

第10回 テキスト講読(7)

第11回 テキスト講読(8)

第12回 テキスト講読(9)

第13回 テキスト講読(10)

第14回 テキスト講読(11) 【レポート提出】

第15回 東山魁夷の画業 レポート返却とまとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習B**

Seminar B in Art History

## 2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習B**

Seminar B in Art History

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

### 授業の概要

風景画と山水画について考察する。

風景を主題とする絵画を西洋では風景画といい、東洋では山水画と呼んできた。代表的な作品を取り上げて検討し、それぞれの絵画の歴史と表現内容について考えていく。

大阪・京都・奈良・名古屋など近隣に所在する美術館博物館の見学も行う。

### 学習の目的

美術を通して日本・東洋の伝統文化の基礎知識を得る。

文学・思想と絵画との関わりを理解するようになる。

美術史の研究方法を学び、美術作品を理解し鑑賞する態度を身につける。

### 学習の到達目標

絵画の主題を総合的に理解し、正確な知識を得る。

西洋と日本・東洋の絵画の相違について説明できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学

習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

土・日・休日に日帰りで行う見学に参加可能なこと。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

### 予め履修が望ましい科目

前期開講の美術理論・美術史演習A

美術理論A・B、美術史A～D

教科書 適宜資料を配布する。

成績評価方法と基準 発表および関心・積極性60%、レポート40%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（教養教育2号館2階）

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

西洋の風景画と東洋の山水画について、文献と作品から学ぶ。

まず、ケネス・クラーク『風景画論』を読んで、西洋の風景画について基礎知識を得る。

次いで、中国の唐宋時代の画論から山水画とは何かを考察する。

その後、受講者は作品を選んで順次発表する。

[授業計画]

第1回 風景画と山水画

第2回 『風景画論』講読 (1)

第3回 『風景画論』講読 (2)

第4回 『風景画論』講読 (3)

第5回 中国の山水画論講読 (1)

第6回 中国の山水画論講読 (2)

第7回 日本の山水画論講読 (3)

第8回 学生発表 (1)

第9回 学生発表 (2)

第10回 学生発表 (3)

第11回 学生発表 (4)

第12回 学生発表 (5)

第13回 学生発表 (6)

第14回 学生発表 (7)

第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習E**

Seminar E in Art History

## 2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習E**

Seminar E in Art History

**学期** 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 藤田伸也

### 授業の概要

美術史を専攻し卒論を書く3・4年生のための演習である。

卒論を書くために必要な知識と技術を学習する。受講生は各自の興味に応じてテーマや作品を選び、順次発表する。

### 学習の目的

美術史専攻で卒論を書く基本的能力を習得する。

テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、卒業論文作成のために必要な能力を得る。

### 学習の到達目標

美術史研究の方法と専門的知識を得る。

研究テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、論文作成のために必要な能力と知識を自分のものとする。

**本学教育目標との関連** 感性、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論

理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 美術史で卒論を書く学生。

**予め履修が望ましい科目** 美術史、美術理論、美術理論・美術史演習C・D

**発展科目** 美術理論・美術史演習F

**教科書** 適宜資料を配付する。

**成績評価方法と基準** 発表と積極性70%、レポート30%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（教養教育2号館2階）

**その他** 見学の際の交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

美術史を専門として卒論を書くために必要な技術、すなわち文章表現法、論文の書き方、デジタルカメラによる図版の複写方法、パソコンの実践的使用法などを学ぶ。

卒論を念頭に置いて各自が選んだテーマを、演習A～Dより専門的かつ総合的に調査研究し発表する。

また美術館の展覧会や古社寺の見学を適宜行う。

2泊3日程度の見学旅行も実施し、美術作品を

実際に見ることの重要性について理解を深める。

[授業計画]

第1回 授業の概要

第2～4回 デジカメ、スキャナ、PCの使い方とプレゼンテーション

第5～6回 文章表現入門としゃべり方

第7～8回 論文の書き方

第9～14回 学生発表

第15回 まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習F**

Seminar F in Art History

## 2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習F**

Seminar F in Art History

**学期** 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 藤田伸也

### **授業の概要**

美術史を専攻し卒論を書く3・4年生のための演習である。

卒論を書くために必要な知識と技術を学習する。受講生は各自の興味に応じてテーマや作品を選び、順次発表する。

### **学習の目的**

美術史専攻で卒論を書く基本的能力を習得する。

テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、卒業論文作成のために必要な能力を得る。

### **学習の到達目標**

美術史研究の方法と専門的知識を得る。

研究テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、論文作成のために必要な能力と知識を自分のものとする。

**本学教育目標との関連** 感性、モチベーション、

主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、情報受信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 美術史で卒論を書く学生。

**予め履修が望ましい科目** 美術史、美術理論、美術理論・美術史演習

**教科書** 適宜資料を配付する。

**成績評価方法と基準** 発表と積極性70%、レポート30%

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（教養教育2号館2階）

**その他** 見学の際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

## **授業計画・学習の内容**

---

### **学習内容**

前期の演習Eに引き続いて、美術史を専門として卒論を書くために必要な技術、すなわち文章表現法、論文の書き方、デジタルカメラによる図版の複写方法、パソコンの実践的使用法などを学ぶ。

卒論を念頭に置いて各自が選んだテーマを、演習A～Dより専門的かつ総合的に調査研究し発表する。

また美術館の展覧会や古社寺の見学を適宜行い、美術作品を実際に見ることの重要性につ

いて理解を深める。

[授業計画]

第1回 授業の概要

第2～3回 デジカメ、スキャナ、PCの使い方（発展）

第4回 プレゼンテーション・しゃべり方（発展）

第5～6回 文章表現・論文の書き方（発展）

第7～14回 学生発表

第15回 まとめ



# 2012年度以降入学生用(文化) **学術情報論演習A** Scholarly Information Seminar A

## 2011年度以前入学生用(文化) **学術情報論演習A** Scholarly Information Seminar A

**学期** 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 三根 慎二(人文学部)

**授業の概要** 図書館および図書館を取り巻くさまざまな環境について、関連文献の調査と収集、文献の読み方、まとめ方の指導を通じて、理解を深める。

### 学習の目的

図書館・情報学に関連するテーマについて

- 1) 自ら調査テーマを決定
- 2) それについての網羅的な文献探索および文献の批判的な読み
- 3) 調査の計画・実施・分析
- 4) 論理的な文章の執筆
- 5) プレゼンテーション能力を修得できるようにする

**学習の到達目標** 図書館・情報学に関連する課題の発見から検討、まとめという一連の過程を通して、図書館・情報学研究の方法・アプローチを学ぶ。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観,モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-15回

・各回で担当者を決め、事前に指定した文献の報告を行う。

知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 後期科目：学術情報論演習Dと併せて受講可能なもののみが受講すること。

**教科書** 授業で指示する

**成績評価方法と基準** 出席を前提として、授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する

**オフィスアワー** 第1回目の授業で指示する

#### その他

本授業は、図書館情報学ゼミに所属している学生を対象として実施します。

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、必ず出席すること。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

# 2012年度以降入学生用(文化) **学術情報論演習B** Scholarly Information Seminar B

# 2011年度以前入学生用(文化) **学術情報論演習B** Scholarly Information Seminar B

**学期** 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 三根 慎二(人文学部)

**授業の概要** 前期の授業内容を継続するかたちで設定した図書館・情報学分野の調査テーマについて、調査と収集、分析の方法、まとめ方（発表およびレポート）の指導を通じて、理解を深めるとともに、研究・調査法を理解する。

## 学習の目的

図書館・情報学に関連するテーマについて

- 1) 自ら調査テーマを決定
- 2) それについての網羅的な文献探索および文献の批判的な読み
- 3) 調査の計画・実施・分析
- 4) 学術的および論理的文章の執筆
- 5) プレゼンテーション能力を修得できるようにする

**学習の到達目標** 図書館・情報学に関連する課題の発見から検討、まとめという一連の過程をとおして、図書館情報学研究の方法を学ぶ。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 前期科目の学術情報論演習Aを受講していることが必要です。図書館情報学研究室の所属学生であることを前提として授業を行います。

**教科書** 授業で指示する

**成績評価方法と基準** 出席を前提として、授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する

**オフィスアワー** 第1回目の授業で指示する

**その他** 第1回目のオリエンテーションにおいて、授業内容および進め方などについて説明するので、履修を希望する者は必ず出席すること。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-15回

・グループごとにテーマを設定し、文献調査をはじめ、情報の収集、分析等を行い、報告する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、問題点、課題等を検討する。

・教員の指導のもと、関連文献、情報の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

・改めて報告を行うとともに、ゼミ論文集にまとめる。

2012年度以降入学生用(文化)

## 科学史・科学論A

Science Studies

2011年度以前入学生用(文化)

## 科学史・科学論A

Science Studies

**学期** 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **対象** 欠席しなければ他学部の学生も歓迎 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次 **授業の方法** 講義, 演習

**担当教員** 小川眞里子 (非常勤講師)

### 授業の概要

科学と社会のインターフェースを考えるというテーマのもと、2016年は前期後期でヴィクトリア時代の衛生学と医学史を講義するので通年で受講するのが望ましい。後期の授業については科学史科学論Bで記載する。

前期の主眼はまずはヴィクトリア時代に対する全般的理解を促すような講義を行う。若くして即位したヴィクトリア女王、ピール首相、ディズレーリ首相、グラッドストーン首相など、ヴィクトリア時代の社会史にも踏み込む。その上で19世紀を舞台に飲料水と下水道の問題を考える。19世紀は西欧世界がコレラに見舞われた時代で、その病気の原因を探る探求と衛生工学上のイノベーションを結び合わせて、これまでとは違った新しい見方を学び応用する。大枠としては19世紀西洋史の一部を成すものである。

### 学習の目的

イギリスのヴィクトリア時代について全般的な知識をもつ。想像力を補うために、映像の視聴も採り入れる。

今日も病原菌の脅威はさまざまな形で私たちを脅かしている。病気の予防や衛生について正しい知識を身につける。病気の原因を考えると、過去の人々の試行錯誤を知り、論理的な推論の方法を身につける。

**学習の到達目標** 病気の社会史という分野について学ぶ。前期はメガシティ・ロンドン

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回 前期の授業内容について説明を行う。大まかな世界史的知識を確認する。

第2回 ヴィクトリア時代について理解を深める。ヴィクトリア女王の誕生、戴冠式、首相、政治制度など

第3回 救貧法、新救貧法について理解するとともに、ヴィクトリア時代の社会について理解

中心に、テムズ河をめぐる衛生政策、環境問題について考える。医学の発展が、基本的にまずは様々な法律の制定によって成し遂げられてきたことを理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

#### 予め履修が望ましい科目

19世紀のイギリス史についてある程度の予備知識、あるいは関心があることが望ましい。近年のさまざまな流行病について、新聞やテレビを通して一般的な知識を得るようにしてほしい。

**教科書** 小川眞里子『病原菌と国家』名大出版会 2016年2月に沿って講義を組み立てる予定であるが、重要な部分についてはプリントを配布したり、PPTスライドを貼り付けたものを配布する。

**成績評価方法と基準** 授業に積極的に取り組む態度。前期後期とも、学年末以外にも、小さいレポートの提出を課す。

**オフィスアワー** 金曜日15:00から16:00あるいは水曜日15:00から16:00。あらかじめメールでアポイントメントをとってくださるようお願いしたい。

する。

第4回 ヴィクトリア時代の農業、穀物法。

第5回 第1回ロンドン万国博覧会とともに当時の科学技術についても知る。明治維新以前に渡英した日本人。

第6回 テムズ河の状態、衛生施策の必要性、コレラの流行および社会的影響。大臭気事件。

第7回 ドイツの有機化学者リービヒとイギリス

との関係。屎尿利用。

第8回 衛生施策に尽力した化学者、リービヒ、プレイフェア、グレアム、ホフマン、ハサル、フランクランド。

第9回 今日におけるリサイクルの状況。リンの循環、2次水の利用など。前半の小括。

第10回 クリミア戦争、ナイティンゲール。セント・トーマス病院、王立ヴィクトリア病院など。

第11回 国家医学、枢密院、地方自治庁など19世紀イギリスの行政組織。

第12回 医師法、中央国家評議会。自由放任との絡みに見られるヴィクトリア的妥協。

第13回 遮蔽式下水道の建設。ヴィクトリア時代を代表する土木工事。エンバンクメントの建設。

第14回 ヴィクトリア時代の衛生学

第15回 ヴィクトリア時代の衛生学まとめ

■**学期** 後期 ■**開講時間** 金 3, 4 ■**単位** 2 ■**対象** 欠席しなければ他学部の学生も歓迎 ■**年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次 ■**授業の方法** 講義

■**担当教員** 小川眞里子 (非常勤講師)

### 授業の概要

科学と社会のインターフェースを考えるとというテーマのもと、前期のヴィクトリア時代の衛生学と医学史の講義の後半部分を成すものである。

後期の主眼は、医学や生物学の歴史に少しウエイトが移る。そのためにも、科学史科学論Aを受講して時代的背景を履修しておくことが望ましい。

後期は2つの大きなテーマを土台に組み立てられている。1つは、パストゥール革命のイギリスでの受容であり、もう1つは、コレラとスエズ運河を巡る政治的攻防である。

この授業を通して、伝染病の克服に向けた人類の努力を知り、また科学と言えども社会的な関わりが極めて濃厚であることを理解する。

### 学習の目的

まず、基本的な歴史的知識を持ってほしい。

人文系の学生にも、科学的知識は重要であり、また科学や技術の健全な発展のためには、人文系の学問の関与が重要であることを知ってもらいたい。

今日もさまざまな感染症の脅威は、一度事が起こればかなり深刻なものである。授業で扱う19世紀とは比べ物にならぬスピードで世界は動いている。アフリカのエボラ出血熱も今日の交通事情からすればけっして遠い話ではない。そうした認識を培い、安全に十分配慮するようになってほしい。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回 前期の講義を踏まえ、後期の授業内容にして説明をおこなう。

第2回 フランスのパストゥールについて一般的な知識の修得とともに彼の自然発生説の検討を学ぶ。

第3回 パストゥール革命の科学的意義を理

### 学習の到達目標

病気の社会史の後半は、文化史より科学史にウエイトが置かれるが、今日の日々楽しい科学的発展に関心が持てるようになること。

感染症の脅威を知り、それに備えることのできる知識をもつこと。

**本学教育目標との関連** 心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、情報発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特にありません。

**予め履修が望ましい科目** 科学史科学論Aを履修していることが望ましい。

**教科書** 小川眞里子『病原菌と国家』名大出版会 2016年2月に沿って講義を組み立てる予定であるが、重要な部分についてはプリントを配布したり、PPTスライドを貼り付けたものを配布する。

### 成績評価方法と基準

授業に積極的に取り組む態度。成績の基礎は毎回の授業出席であり、蓄積されたりフレクション・レポートの量と質を重視する。

年末から1月半ばにかけて小レポートを別途課す予定である。

**オフィスアワー** 金曜日14:00から15:00 あるいは水曜日14:00から15:00。あらかじめメールでアポイントメントをとって下さるようお願いしたい。

解し、イギリスでの需要のされかたを見ていく。

第4回 19世紀の西洋女性の恐怖であった産褥熱について、ゼンメルワイスの仕事を通して理解する。

第5回 家畜の疫病について理解を深める。

第6回 接触感染、細菌とウィルス、動物実験な

ど、新しい生理学の時代を理解する。

第7回 ジョゼフ・リスターの仕事

第8回 バードンサンダーソンと生体解剖

第9回 バスチャンと自然発生

第10回 病原菌の進化と病気の進化

第11回 ロンドン国際医学大会について

第12回 スエズ運河の建設の経緯や運河建設による世界の変化について。DVDの視聴。

第13回 コレラとスエズ運河 (1)

第14回 コレラとスエズ運河 (2)

第15回 後期のまとめ

2012年度以降入学生用(文化)**現代社会論A**  
2011年度以前入学生用(文化)**現代社会論A**

**Current Issues in Sociology A**  
**Current Issues in Sociology A**

**学期** 前期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **対象** 法律経済学科の学生も履修できる **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業  
**担当教員** 江成 幸 (人文学部文化学科)

**授業の概要**

社会学の最近の動向を紹介し、注目されている概念やテーマについて概説する。  
社会学質的・量的データを扱う際の研究方法について解説する。

**学習の目的** 社会学理論、社会学の方法論、現代的なテーマを扱う社会学の分野について知識を得る。

**学習の到達目標** 現代社会における諸問題を社会的に理解、分析することを通して、問題解決に向けた思考力を養う。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 論理的思考力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 現代社会論B

**成績評価方法と基準** 期末レポート70%、授業中のコメントカード等を通じた理解度・関心の深まり30%、計100%。

**オフィスアワー** 木曜日7～8限。江成研究室。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

- 第1-2回 社会学と現代社会
- 第3-4回 近代化と個人
- 第5-6回 帰属意識と社会集団
- 第7-8回 価値観の多様化

- 第9-11回 社会集団と国家の関係
- 第12-13回 グローバル化による社会の変化
- 第14-15回 マイノリティと社会運動
- 第16回 期末レポート

# 2012年度以降入学生用(文化)生涯学習概論

## 2011年度以前入学生用(文化)生涯学習概論

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 畔柳 和枝(非常勤講師)

**授業の概要** 生涯学習の基本的な知識を理解したうえで、国内外の実践事例や生涯学習における現代的課題について学びながら、学習を通じた個人の生き方や社会との関わり方について理解を深める

**学習の目的** 生涯学習を通じて、個人の生き方や地域社会の課題、国際化の中での交流等に問題意識を広げながら、個性や能力を生かしながら人生を送るための学びを理解する

**学習の到達目標** 生涯学習の概要、生涯学習を行う上で必要となる学習方法の習得についての理解を深めながら、生涯にわたる学習を自ら実践していくための力量形成を図ることを目標とする

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学

習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 2年生以上

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 毎回配布するプリントをテキストとして使用する

**成績評価方法と基準** 小テストと授業内課題により、総合的に評価する

**オフィスアワー** 授業前後の時間に対応する

**その他** 新聞をじっくり読む習慣を身につけ、社会的関心を持つように心がけてほしい。また社会教育施設の見学、実践への参加を強く推奨する

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

##### 1.生涯学習とは何か

生涯学習の定義、主な学習活動、生涯学習が必要とされた社会的背景について学ぶ

##### 2. 生涯学習を支える理念

生涯学習の理念となった生涯教育論について学ぶ

##### 3. 生涯学習社会の形成

生涯学習の歴史的背景について学ぶ

##### 4~7. 国内外における生涯学習活動の現状

国内外における学習活動を学ぶ

##### 8~9.施設を利用した学習

1. 図書館—「情報」からの学習

2. 博物館—「もの」からの学習

10~12. 現代社会と生涯学習

1. 女性と生涯学習

女性の生涯学習支援について考える

2. 国際社会と生涯学習

異文化交流を通じた生涯学習活動について考える

3. 生涯学習と自己実現

自己を深める生涯学習実践について考える

13. 私と生涯学習

授業内課題を作成する

14. 生涯学習の展望と課題

15. 総括

3. 生涯学習と自己実現

自己を深める生涯学習実践について考える

V. 私と生涯学習

授業内課題を作成する

VI. 生涯学習の展望と課題

VII. 総括



## 2012年度以降入学生用(文化) **図書館・情報学概論A**

Introduction to Library and Information Science A

## 2011年度以前入学生用(文化) **図書館情報学概論A**

Introduction to Library and Information Science A

**学期** 前期 **開講時間** 火, 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 三根 慎二 (人文学部)

**授業の概要** 現代社会における図書館の意義とその役割を確認し、高度情報化社会における生涯学習の視点から、さまざまな課題等について考究する。

**学習の目的** 実際に社会において機能している各種の図書館に係わる諸事象を、多角的・原理的に考察することを通じて、実学としての図書館・情報学の基礎を学ぶ。

**学習の到達目標** 総合的な視点から、図書館の役割と機能について検討し、高度情報化社会といわれる現代の生涯学習社会において、図書館の持つ意義・目的・使命について概括的な理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 大学図書館以外に、公共図書館等その他の図書館での多角的な利用体験を有すること。

### 授業計画・学習の内容

**学習内容** 扱うトピックは、1) オリエンテーション①, 2) 図書館の社会的意義②~⑥, 3) 図書館の歴史⑦~⑧, 4) 図書館に関する法律と行政⑨, 5) 館種別図書館と利用者二

**予め履修が望ましい科目** 生涯学習概論

**発展科目** 図書館制度・経営論

**教科書** 上田修一, 倉田敬子編著. 図書館情報学 勁草書房. 2013.

**成績評価方法と基準** 講義内容に対するコメント・質問, 授業内小レポート, 期末試験により、総合的に評価する。

**オフィスアワー** 特に決まった時間は設けていないが、希望する場合は随時対応するので、事前連絡をすること。

### その他

この科目は、司書科目全体の導入となる科目であるため、原則2年生のうちに履修することが望ましい。

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は必ず出席すること。

講義で使用したスライドや講義関連の連絡は全てMoodleで行う。受講生はオリエンテーションでの配布資料に基づいて必ず登録を行うこと。

ズ⑩~⑫, 6) 図書館職員の役割と資格⑬, 7) 図書館学、図書館・情報学⑭, 8) まとめ⑮です。各トピックを複数回にわたって行います。詳細は、Moodleを確認してください。

## 2012年度以降入学生用(文化) **図書館・情報学概論B**

Introduction to Library and Information Science B

## 2011年度以前入学生用(文化) **図書館情報学概論B**

Introduction to Library and Information Science B

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** Moodle

**担当教員** 三根 慎二 (人文学部)

**授業の概要** 図書館が扱う情報メディアの種類と特性に始まり、それらがどのように社会において出版され流通しているのか、さらに図書館におけるコレクション構築と資料選択の概念やプロセスについて概説する。特に、近年進展の著しい電子化の影響を大きく受けている大学図書館における図書館資料の特性やコレクション構築について説明する。

**学習の目的** 図書館が扱う代表的な情報メディアの特性、それらの情報メディアの図書館内での扱われ方および社会における生産と流通について知り、理解することができるようになることを目的とする

**学習の到達目標** 図書館は利用者に情報を提供するサービス機関であるが、そこで扱う情報メディアは、図書館サービスの核となる重要な要素の1つである。本授業では、図書館資料について、その1)種類と特徴、2)生産と流通、3)図書館における資料選択・収集、コレクション構築、提供、保存にいたるまでを総合的に学習する。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門

知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 図書館・情報学概論A

**教科書** 上田修一, 倉田敬子編著. 図書館情報学. 勁草書房. 2013.

**成績評価方法と基準** ①講義内容に対する質問・コメント (10%) , ②授業中に課す課題 (30%) , ③期末試験 (60%) で評価します

**オフィスアワー** 第1回目の授業で指示する。

### その他

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

講義で使用したスライドや講義関連の連絡は全てMoodleで行う。受講生はオリエンテーションでの配布資料に基づいて必ず登録を行うこと。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

ガイダンス

I.

図書

電子書籍

雑誌一般・新聞

学術雑誌・電子ジャーナル

その他のメディア

II.

出版流通制度 (流通経路)

出版流通制度 (再販制・委託販売制)

III.

図書館の資料収集と受入れ

図書館の選書理論

公共図書館における選書と蔵書構築

大学図書館における選書と蔵書構築

分担収集・分担保存

図書館の自由

まとめ

# 2012年度以降入学生用(文化)情報サービス論

## Introduction to Information Services

### 2011年度以前入学生用(文化)文献調査法A

学期 前期 開講時間 火 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 長澤 多代

**授業の概要** 知識基盤社会, 生涯学習社会の到来により, 人々が情報を主体的に活用しながら, それぞれの立場での生活の充実を図ることがますます重視されるようになった。図書館では, 利用者が, 情報に効果的にアクセスしたり, 活用したりするのを支援する情報サービスを提供している。この授業科目では, 基本的な情報サービスについて学習することにより, 図書館員として効果的な情報サービスを設計し運用するための基礎的な知識と考え方を習得する。

**学習の目的** 図書館における情報サービスの意義を明らかにし, レファレンスサービス, 情報検索サービス等のサービス方法, 参考図書・データベース等の情報源, 図書館利用教育, 発信型情報サービス等の新しいサービスについて理解を深める。

#### 学習の到達目標

・図書館が提供する情報サービスの全体像を簡潔に説明することができる。

・情報サービスに関する基本的な用語や概念を説明することができる。  
・基本的な情報サービスについて, 意義, 経緯と現状, 具体例について説明することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度

**教科書** 竹之内禎『情報サービス論』学文社, 2013, 122p. (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望, 4)

**成績評価方法と基準** 個人課題(各回の学習内容の振り返りと調査, 調査課題), グループ課題(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00~13:30(学期中)

**その他** 詳しい授業計画, 成績評価の方法については, 第1回の授業時に説明する。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 1.情報社会と図書館の情報サービス: 説明: 授業科目の概要(授業計画, 授業の内容, 課題, 成績評価の方法)  
講義: 社会の情報化, 情報サービスの意義と定義
- 2.レファレンス・サービスⅠ: 講義: レファレンス・サービスの概要
- 3.レファレンス・サービスⅡ: 講義: レファレンス・サービス
- 4.情報行動: 講義: 情報行動
- 5.情報リテラシー教育Ⅰ: 講義: 情報リテラシーの定義と指針, 情報利用プロセス
- 6.情報リテラシー教育Ⅱ: 講義: 情報リテラシー教育の内容と方法
- 7.情報リテラシー教育Ⅲ: 講義: 情報リテラ

- シー教育の設計, 実施, 評価
- 8.情報リテラシー教育Ⅳ: 講義: ブレイン・ストーミングの種類と方法  
演習: ブレイン・ストーミング
- 9.情報リテラシー教育Ⅴ: 講義: レポートの骨組み  
演習: レポートの骨組みの作成
- 10.情報リテラシー教育Ⅵ: 講義: 発表の準備と手順
- 11.情報サービスのための情報源: 講義・演習: ゲスト・スピーカー
- 12.発信型情報サービス: 講義: 発信型情報サービスの種類と方法
- 13.情報探索・利用環境の整備: 講義: ラーニングコモンズ
- 14.情報専門職としての図書館員: 講義: 図書

館員に求められる資質  
講義：新しい図書館員像

15.総括: 講義：情報サービス論の総括

# 2012年度以降入学生用(文化)情報サービス演習

Practice for Information Services

## 2011年度以前入学生用(文化)文献調査法B

Practice for Library Materials

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二 (人文学部)

**授業の概要** 本授業では、情報サービス論で学んだ情報サービスを提供するうえで必要な文献探索法について、演習を通じて総合的に学習する。特に、レファレンス・ブックを中心とした情報源について解説し、その使い方を習得する。

**学習の目的** 情報サービス論で学んだ知識をもとに、各情報源を利用しながら、情報サービスを提供する上で必要な知識と実践のスキルを身につけることを目的とする。

### 学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) さまざまな情報要求に適したレファレンス・ブックを選択し、そのなかから必要な情報を探索するための方法を身につける。
- 2) レファレンス・ブック以外の情報源について、その特徴や使い方などについて理解を深める。
- 3) 情報探索プロセスについて理解する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 1.オリエンテーション
- 2.レファレンスサービスとは
- 3.レファレンス・ブックとは
- 4.探索戦略と質問の分析
- 5.言語・文字に関する情報を探索する
- 6.事物・事象に関する情報を探索する
- 7.歴史・日時に関する情報を探索する

**本学教育目標との関連** 感性、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 情報サービス論を履修済みであること

**予め履修が望ましい科目** 情報サービス論, 図書館・情報学概論AとB, 学術情報論A

**教科書** 特に指定しない

**成績評価方法と基準** 出席および毎回の授業中に行う課題の達成状況などにより、総合的に評価する。

**オフィスアワー** 初回授業で指示する

**その他** 本授業は図書館司書科目の必修授業だが、隔年授業であるので注意すること。

- 8.統計情報を探索する
- 9.地理・地名に関する情報を探索する
- 10.人物・団体に関する情報を探索する1
- 11.人物・団体に関する情報を探索する2
- 12.図書情報を探索する1
- 13.図書情報を探索する2
- 14.新聞・雑誌に関する情報を探索する1
- 15.新聞・雑誌に関する情報を探索する2

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本語と日本社会A**

Japanese Language and Society A

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本語と日本社会A**

Japanese Language and Society A

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 早野香代(人文学部文化学科)

**授業の概要** 日本の社会や文化、また日本人の思考や行動様式を理解するための教材を読み、討論し、考えを書き、発表する活動を行う。

技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 留学生が学習・研究活動に必要な日本語の4技能(読む・聞く・書く・話す)を駆使して、総合的に日本語運用能力を高める。また、その過程で、日本の社会や文化、日本人の行動様式に対する理解を深める。

### 受講要件

留学生を対象とする。

「日本語コミュニケーションA」との同時受講はできない。

**学習の到達目標** 留学生が大学生活や日本社会で日本語での自己表現を実現し、また、日本社会や文化に対する造詣を深め、さらには、日本人との意見交換や相互理解を深めることができる。

### 教科書

[テキスト] なし

**成績評価方法と基準** 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）で評価。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

日本の言語、社会、文化、習慣などに関する記事、解説、レポートなどを読み、討論、作

文、発表などを行う。また、必要に応じて、情報収集やアンケート調査なども行う。  
全15回

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本語と日本社会B**

Japanese Language and Society B

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本語と日本社会B**

Japanese Language and Society B

**学期** 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 早野香代(人文学部文化学科)

**授業の概要** 日本の社会や文化、また日本人の思考や行動様式を理解するための教材を読み、討論し、考えを書き、発表する活動を行う。

技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 留学生が学習・研究活動に必要な日本語の4技能(読む・聞く・書く・話す)を駆使して、総合的に日本語運用能力を高める。また、その過程で、日本の社会や文化、日本人の行動様式に対する理解を深める。

### 受講要件

留学生を対象とする。

「日本語コミュニケーションB」との同時受講はできない。

**学習の到達目標** 留学生が大学生活や日本社会で日本語での自己表現を実現し、また、日本社会や文化に対する造詣を深め、さらには、日本人との意見交換や相互理解を深めることができる。

### 教科書

[テキスト] なし

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・

**成績評価方法と基準** 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）で評価。

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

日本の言語、社会、文化、習慣などに関する記事、解説、レポートなどを読み、討論、作

文、発表などを行う。また、必要に応じて、情報収集やアンケート調査なども行う。  
全15回

# 2012年度以降入学生用(文化) **日本語コミュニケーションA**

Japanese Communication A

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本語コミュニケーションA** Japanese Communication A

**学期** 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 早野香代 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 毎回異なるテーマに沿って、日本語を総体的に捉え、インタラクティブに留学生と日本人学生が協働で学ぶ。授業では、ペア・ワークやグループワーク、ディスカッション、プロジェクトワークなど多様な活動を行う。

**学習の目的** 日本語表現とその背景にある文化を留学生と日本人学生の協働で学び、日本語運用能力を高めるとともに、日本の社会・文化における知識を広げ、異文化間の相互理解を深める。

**学習の到達目標** 学習・研究活動を行うための日本語能力や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化間での気づきや問題を発見し、理解または解決することができる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

テキスト、新聞、雑誌などを教材にして、日本語表現とその背景にある文化を学ぶ。また、目的に応じた文章を書き分けることができる文章表現力を磨く。

全15回

<日本語表現と文化>

- ・日本人の表現の特色
- ・言語表現における心構え

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

#### 受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会A」との同時受講はできない。

**教科書** [テキスト] なし

#### 成績評価方法と基準

授業態度30%、課題70%、計100% (合計60%以上で合格) で評価。

なお、課題にはレポートを含む。

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問等は自由。

- ・言語行動と非言語行動
- ・待遇表現
- <文章表現>
- ・日本語の表記
- ・手紙・メールを書く
- ・説明文を書く
- ・報告文を書く
- ・意見文を書く
- ・レポートを書く



# 2012年度以降入学生用(文化) **日本語コミュニケーションB**

Japanese Communication B

## 2011年度以前入学生用(文化) **日本語コミュニケーションB Japanese Communication B**

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 早野香代 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 毎回異なるテーマに沿って、日本語を総体的に捉え、インタラクティブに留学生と日本人学生が協働で学ぶ。授業では、ペア・ワークやグループワーク、ディスカッション、プロジェクトワークなど多様な活動を行う。

**学習の目的** 日本語表現とその背景にある文化を留学生と日本人学生の協働で学び、日本語運用能力を高めるとともに、日本の社会・文化における知識を広げ、異文化間の相互理解を深める。

**学習の到達目標** 学習・研究活動を行うための日本語能力や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化間での気づきや問題を発見し、理解または解決することができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション

シオン, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会B」との同時受講はできない。

### 教科書

[テキスト] なし

### 成績評価方法と基準

授業態度30%、課題70%、計100% (合計60%以上で合格) で評価。

なお、課題にはレポートを含む。

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問等は自由。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

日本の様々な場面での具体的なコミュニケーションを取り上げ、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を通じて、表現力の向上を目指す。

全15回

- ・敬語表現
- ・依頼の表現
- ・勧めの表現
- ・断りの表現
- ・感謝の表現
- ・謝罪の表現

# 海外中国語文化研修

## Chinese Culture Program Abroad

**学期** 前期集中 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 福田和展

**授業の概要** 夏休み中の約2週間、台湾にある国立高雄師範大学語文教育センターにおいて、現代中国語と台湾文化の研修を行う。この堅守に先立って、参加者は学内で行われる4回の事前研修と帰国後に行われる1回の事後研修に参加する。現地では、教室での授業だけでなく、多くの見学旅行を実施し、この見学先について。レポートをまとめる。国立高雄師範大学語文教育センターの授業では、学生の中国語レベルによってクラス分けを行い、履修学生のレベルに応じた授業を行う。

### 学習の目的

- 1より高い中国語能力を獲得する。
- 2現地での生活、経験を通し、台湾の社会や人を理解する。
- 3台湾と日本の関係史、中国と台湾の歴史、社会を知る。

### 学習の到達目標

- 1中国語検定各級合格
- 2台湾社会の理解
- 2大陸中国との差異を実感する

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思

考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 1年生：異文化理解Ⅰ基礎、演習履修中の者。2年生：中国語Ⅰ履修済みのもの、中国語Ⅱ履修中の者。3年生：中国語Ⅱ、Ⅲ履修中か履修済みの者。

**予め履修が望ましい科目** 上記「受講要件」参照。

**発展科目** 異文化理解Ⅱ、異文化理解Ⅲの各科目

**教科書** 授業中に指定。

**成績評価方法と基準** 3回の事前研修と事後研修(1回)の出席と課題提出。現地での授業出席、生活態度など絵尾総合的に勘案して単位認定。また、帰国後11月の中国語検定試験の各級(参加者のレベルによって、取得すべき級は異なる)の取得。詳細は説明会にて。

**オフィスアワー** 共通教育4号館4回福田研究室。要メールでの事前連絡。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

説明会(5月中旬ごろ)

- 1回 事前研修 (台湾の基礎知識)
- 2回 事前研修 (研究計画立案指導)

3回 事前研修 (現地調査のテーマ発表)

4回~29回 国立高雄師範大学での語学研修と現地調査

30回 事後研修 (現地研修での調査報告会)

# 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義（海外中国語文化研修）**

Chinese Culture Program Abroad

# 2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義（海外中国語文化研修）**

Chinese Culture Program Abroad

**学期** 前期集中 **単位** 2 **対象** 2年次以上の学生はこの科目で履修申告をすること。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 福田和展

**授業の概要** 夏休み中の約2週間、台湾にある国立高雄師範大学語文教育センターにおいて、現代中国語と台湾文化の研修を行う。この堅守に先立って、参加者は学内で行われる4回の事前研修と帰国後に行われる1回の事後研修に参加する。現地では、教室での授業だけでなく、多くの見学旅行を実施し、この見学先について、レポートをまとめる。国立高雄師範大学語文教育センターの授業では、学生の中国語レベルによってクラス分けを行い、履修学生のレベルに応じた授業を行う。2年次以上の学生はこの科目を申告すること。

## 学習の目的

- 1より高い中国語能力を獲得する。
- 2現地での生活、経験を通し、台湾の社会や人を理解する。
- 3台湾と日本の関係史、中国と台湾の歴史、社会を知る。

## 学習の到達目標

- 1中国語検定各級合格
- 2台湾社会の理解
- 2大陸中国との差異を実感する

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 説明会 (5月中旬ごろ)
- 1回 事前研修 (台湾の基礎知識)
  - 2回 事前研修 (研究計画立案指導)

シオン, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 1年生: 異文化理解Ⅰ基礎、演習履修中の者。2年生: 中国語Ⅰ履修済みのもの、中国語Ⅱ履修中の者。3年生: 中国語Ⅱ、Ⅲ履修中か履修済みの者。

**予め履修が望ましい科目** 上記「受講用件」参照。

**発展科目** 異文化理解Ⅱ、異文化理解Ⅲの各科目

**教科書** 授業中に指定。

**成績評価方法と基準** 3回の事前研修と事後研修(1回)の出席と課題提出。現地での授業出席、生活態度など絵尾総合的に勘案して単位認定。また、帰国後11月の中国語検定試験の各級(参加者のレベルによって、取得すべき級は異なる)の取得。詳細は説明会にて。

**オフィスアワー** 共通教育4号館4回福田研究室。要メールでの事前連絡。

- 3回 事前研修 (現地調査のテーマ発表)
- 4回~29回 国立高雄師範大学での語学研修と現地調査
- 30回 事後研修 (現地研修での調査報告会)

# 海外ドイツ語文化研修 B

## German Culture Program Abroad B

**学期** 後期集中 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業  
**担当教員** 菅 利恵

### 授業の概要

ドイツ中部にあるエアランゲン大学において、4週間の語学・文化研修を実施します。ドイツ語授業は平日の午前中に3時間行われます。平日の午後や週末は、参加学生の調査テーマにあわせてさまざまな施設を見学したり、あるいは近郊都市へ日帰り遠足に出かけます。宿泊は一人ずつ別の家庭でホームステイします。三重大学で行われる事前研修では、文献講読や発表によって、各自の調査テーマに関する知見を深めます。事後研修では、調査結果について発表し、レポートにまとめます。

### 学習の目的

ドイツ文化のトピックについて問題意識を深め、現地調査に基づいてレポートをまとめる。ドイツ語でのコミュニケーション能力を向上させる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

1回目 事前研修 (ホームステイ先で使える会話練習)  
2~4回目 事前研修 (現地調査テーマの発表、調査計画立案指導)  
5~28回目 エアランゲン・ニュルンベルク大学

### 学習の到達目標

ドイツ文化のトピックに関して、報告できる。それぞれの語学レベルにおける修了試験に合格する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

### 受講要件

後期授業の受講登録をするだけでなく、募集に参加申し込みをして、面接試験に合格すること。(参加申し込みの時期等については掲示を見ること。)  
参加時点で、ドイツ語の学習歴が最低1年間あること。

### 成績評価方法と基準

 筆記試験とレポート

**オフィスアワー** 金曜日11時~12時 菅研究室にて

**その他** 参加申し込みの時期等については掲示する。

での語学研修(能力別クラス)と現地調査  
29~30回目 事後研修(現地研修での調査結果報告・レポート指導)  
平日の午後や週末には、参加学生のテーマに基づく社会見学や遠足等を行う予定です。  
宿泊はホームステイです。

2012年度以降入学生用(文化)**特殊講義「海外ドイツ語文化研修」B**  
German Culture Program Abroad B  
2011年度以前入学生用(文化)**特殊講義「海外ドイツ語文化研修」B**  
German Culture Program Abroad B

**学期** 後期集中 **開講時間** 木 5,6 **単位** 2 **対象** 面接試験に合格した学生のみ **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業  
**担当教員** 菅 利恵

### 授業の概要

ドイツ中部にあるエアランゲン大学において、4週間の語学・文化研修を実施します。ドイツ語授業は平日の午前中に3時間行われます。平日の午後や週末は、参加学生の調査テーマにあわせてさまざまな施設を見学したり、あるいは近郊都市へ日帰り遠足に出かけます。宿泊は一人ずつ別の家庭でホームステイします。三重大学で行われる事前研修では、文献講読や発表によって、各自の調査テーマに関する知見を深めます。事後研修では、調査結果について発表し、レポートにまとめます。

### 学習の目的

ドイツ文化のトピックについて問題意識を深め、現地調査に基づいてレポートをまとめる。ドイツ語でのコミュニケーション能力を向上させる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

1回目 事前研修 (ホームステイ先で使える会話練習)  
2~4回目 事前研修 (現地調査テーマの発表、調査計画立案指導)  
5~28回目 エアランゲン・ニュルンベルク大学

### 学習の到達目標

ドイツ文化のトピックに関して、報告できる。それぞれの語学レベルにおける修了試験に合格する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

### 受講要件

後期授業の受講登録をするだけでなく、募集に参加申し込みをして、面接試験に合格すること。(参加申し込みの時期等については掲示を見ること。) 参加時点で、ドイツ語の学習歴が最低1年間あること。

### 成績評価方法と基準

 筆記試験とレポート

**オフィスアワー** 金曜日11時~12時 菅研究室にて

**その他** 参加申し込みの時期等については掲示する。

での語学研修(能力別クラス)と現地調査  
29~30回目 事後研修(現地研修での調査結果報告・レポート指導)  
平日の午後や週末には、参加学生のテーマに基づく社会見学や遠足等を行う予定です。宿泊はホームステイです。

# 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義「ドイツにおける移民問題と過去の克服」**

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義「ドイツにおける移民問題と過去の克服」**

**学期** 前期集中 **単位** 2 **対象** 4月に説明会を開催し、5月に参加学生を募集します。ドイツ語能力は問いません。前期集中講義として実施します。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 大河内 朋子 (人文学部)

## 授業の概要

ドイツにおける移民問題と過去の記憶の継承をテーマとして取り上げます。

移民問題は、現在のドイツがかかえる大きな問題の一つです。トルコ系移民の問題を中心に、共生に向けた取り組みを学びます。

また、ナチ時代のユダヤ人迫害・絶滅政策について、その背景と現在における克服への取り組み状況、負の記憶の継承について学びます。

## 学習の目的

トルコ系移民を中心に、ドイツにおける移民問題の概要を把握します。

ナチ時代におけるユダヤ人迫害・絶滅政策の背景と、現在における人種差別克服への取り組み状況、負の記憶の継承について学びます。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

#### 事前研修

(1) 移民（とりわけトルコ系移民）問題の歴史と現状を理解する。

(2) ナチのユダヤ人政策と、人種差別克服に向けた社会教育的取り組みの現状を理解する。

ドイツでのフィールドスタディー（9月下旬）

(1) 移民に関する資料館の訪問と講演、イスラム教のモスクや州政府の移民センターの訪問と講義、幼児・初等学校での取り組みの視察、ポーfum大学学生との意見交換などによ

## 学習の到達目標

ドイツにおける移民問題の概要を説明できる。

ナチ時代における反ユダヤ人政策の背景と、負の記憶の継承への取り組みを説明できる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 討論・対話力

**成績評価方法と基準** 平常点（発表）とレポート

**オフィスアワー** 月曜または火曜のお昼休み、大河内研究室（人文学部2階）

**その他** ドイツの移民問題や歴史を理解するために、特殊講義「ドイツ学入門」（前期木9・10限）の履修を勧めます。

り、ドイツにおける移民問題の複雑さを理解する。

(2) ユダヤ民族に対する被害の場（ラーヴェンスブリュック強制収容所跡）およびユダヤ人を匿ったドイツの人々に関する資料館（「静かな英集」博物館）でのセミナーやワークショップなどに参加することで、ドイツにおける人種差別克服への社会教育的な取り組み状況を理解する。

#### 事後研修

(1) レポートの提出と発表

# 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義「教職ブラッシュアップ講座」**

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義「教職ブラッシュアップ講座」**

**学期** 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

**担当教員** 大河内 朋子、吉丸 雄哉、文化学科長

## 授業の概要

中学校や高校の教諭にとって、教室で教科を上手に教えることが仕事のすべてではありません。クラブ活動の指導、生徒や保護者との面談、学校運営など、教員の仕事はとても幅広いのです。また生徒や同僚とうまくコミュニケーションできないと、さまざまな困難が生じることもあります。肝心の授業に関しても、口ごもった聞き取りにくい話し方をしていると、生徒が授業内容を理解できません。そこでこの授業では、よりよい教員を育てるために3つのことを行います。

(1) 教職についての卒業生や中学・高校の元校長から、教育現場の実際について話を聞きます。

(2) 生徒や同僚とどのようにコミュニケーションを取れば良いのかについて、カウンセラーから学びます。

(3) どのように声を出せば聞き取りやすいか、どのように朗読すれば分かりやすいか、について、舞台俳優から訓練を受けます。

この授業は、対人関係や発声の仕方、地域と学校の関係などを扱いますので、公務員や民間企業への就職を希望している学生にとって

も有益です。

## 学習の目的

- (1) 教育現場の実際について知識を得る。
- (2) 生徒や同僚などとうまくコミュニケーションするための技法を習得する。
- (3) 聞き取りやすい発声や朗読ができるようになる。

## 学習の到達目標

- (1) 教育現場の実際について、ある程度の知識を持っている。
- (2) 生徒や同僚などとうまくコミュニケーションをとるためのコツをつかんでいる
- (3) 聞き取りやすい発声や朗読をするために、自分で訓練できるようになっている。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 平常点50%、レポート50%

**その他** 教職課程以外の学生も履修できません。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

8月29日(月)

第1~4回 高校・中学現場の実際を知る

第5回 ディスカッション

8月30日(火)

第6~9回 コミュニケーション力をつける

第10回 ディスカッション

8月31日(水)

第11~14回 声の出し方や朗読の仕方を練習する

第15回 ディスカッション

# 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義（日本立体造形史）**

Art History (History of Japanese Three-Dimensional Art)

# 2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義（日本立体造形史）**

Art History (History of Japanese Three-Dimensional Art)

**学期** 後期 **開講時間** 火, 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**担当教員** 毛利 伊知郎

**授業の概要** 仏教彫刻を中心とした従来の日本彫刻史研究の在り方を再検討し、これまで等閑視されてきた前近代の造形作品をも視野に入れた立体造形史の可能性を探る。

**学習の目的** 日本は明治時代以降、西洋をモデルとして近代化を進めてきた。美術史も例外ではなく、西洋的な価値観を規範として日本美術史が語られてきた。しかし、そのために美術史から除外されてきた作品が数多く存在する。本講義では、そうした作品を紹介しつつ、従来の日本彫刻史の問題点を検証することを通じて、日本近代化の功罪についての理解を深める。

**学習の到達目標** 古代以来わが国でつくられてきた様々な立体造形作品についての知識を得ることを通じて、それらの中に「美術」とみなされたものとそうでないものがあることを認識し、美術とそうでないとされたものの境界、相違、そうした認識に含まれる問題点、価値観の多様性について主体的に考えられるようになることを目指す。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、批判的思考力、情報受発信力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 美術、美術史、文化史等に関心のある者。

**教科書** 特になし。

**成績評価方法と基準** 美術館等見学レポート（期末）50%、課題小レポート（期間中に随時）50%

**オフィスアワー** 授業終了時など適宜。担当窓口教員は藤田伸也（教養教育2号館2階）

**その他** 授業中に近隣で開かれている展覧会情報などを伝えるので、積極的に展覧会に足を運ぶことを心掛けてほしい。また、授業を別の日の美術館見学に振り替える場合がある。見学に要する交通費、観覧料は自費となる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 ガイダンス（講義の進め方、評価方法など）
- 第2回 前近代立体造形作品の諸相①
- 第3回 前近代立体造形作品の諸相②
- 第4回 前近代立体造形作品の諸相③
- 第5回 明治時代における「美術」の成立①
- 第6回 明治時代における「美術」の成立②
- 第7回 「彫刻家」の誕生①

第8回 「彫刻家」の誕生②

第9回 近現代彫刻家たちと前近代①

第10回 近現代彫刻家たちと前近代②

第11回 近現代彫刻家たちと前近代③

第12回 近現代彫刻家たちと前近代④

第13回 近代の中の前近代①

第14回 近代の中の前近代②

第15回 まとめ



# 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義「東南アジア社会の植民地時代と近代化」**

**The Colonialism and the Modernization of Southeast Asian Societies**

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義「東南アジア社会の植民地時代と近代化」**

**The Colonialism and the Modernization of Southeast Asian Societies**

**学期** 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 石井眞夫(非常勤講師)

**授業の概要** 植民地時代の19世紀半以降、アジア・オセアニア諸社会は急速に変貌し、社会の在り方や宗教信仰など価値観から日常生活の在り方にいたるまで大きく変化した。中でも豊かな自然と天然資源に恵まれたマレーシア領ボルネオは、東南アジア社会の中でももっとも近代化に成功し繁栄を享受しつつある地域と見られている。二十世紀初頭まで首狩族と海賊が跋扈する未開地と考えられていたボルネオは、植民地時代の政策により開発と都市化、貨幣経済の浸透が進み、また一方で国家と民族意識や地域性・地域政治など現代社会固有の諸課題もかかえている。急速な社会変化とともに、キリスト教の浸透によって人々の世界観・価値意識も大きく変化してきた。この講義では、人類社会にとって近代とは何か、人類生活は何がどのように変化したか、近代化は東南アジア諸社会は何をもたらしたか、近代固有の価値意識とは何なのかといった諸問題を主にマレーシア領ボルネオ民族誌の事例を通じて考えてゆく。

**学習の目的** アジア・オセアニア諸社会は植民地時代以降大きく変貌したが、この変化は20世紀以降の経済発展を通じての繁栄であり、ひとことで言えば「近代化」である。この講義ではボルネオ社会の変貌を通じ、古くからのボルネオ社会、同時にアジア社会の原像を理解し、その中で「近代」とは何だったのか、植民地時代を通じて形成された「民族」とは何か、都市化と都市の機能とは

何か、キリスト教布教が果たした役割とは何だったか、人々の価値意識はどのように変化し今日の社会を形成するにいたったか、などの諸点についての理解を深めることを目的としている。

**学習の到達目標** ボルネオ民族誌の理解を通じて、古くからのアジア社会の特質を理解し、これと対照しながら現代社会の特質について考え理解を深める。また、マレーシアという多民族国家の実情を理解するとともに、今日にいたる現代社会の形成について植民地支配やキリスト教布教がどのような意義を持っていたか、そしてその結果としての「近代化」とは何か、人類生活にとって近代化とは何だったのか、といった諸問題について理解を深め、考察する基本知識と洞察力を習得する。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、専門知識・技術、課題探求力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 文化人類学、アジア・オセアニアの社会など

**発展科目** アジア・オセアニアの民族と文化演習、アメリカの民族と文化演習など

**教科書** 教科書は使用しない。

**成績評価方法と基準** 平常の提出物による成績 35%、期末試験65%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

講義は以下のように進める予定

- 1.はじめに：東南アジア社会とボルネオの伝統文化
- 2.東南アジア諸社会の植民地化—英領マラヤ

と蘭領インドネシア

- 3.冒険野郎の海賊退治—ボルネオの植民地化
- 4.ブルック王朝サラワクの拡大と“首狩族”
- 5.“首狩族”の馴化とサラワク諸民族の形成
- 6.近代化に向かうボルネオ—“伝統文化”と近代

の相克

7.サラワクの諸民族とその文化

8.植民地開発と移民—ボルネオ開発と華人移民社会

9.ボルネオの石油資源と日本軍の占領—太平洋戦争と東南アジア社会の形成

10.サバ・サラワクの近代化・発展とカリマンタン

11.植民地政府の宗教政策とキリスト教

12.イスラム国家の成立とキリスト教会の発展

13.東南アジア国家形成と近代化—マラヤ連邦とインドネシア

14.近代化の中の“伝統文化”—“世俗化”と信仰の世界

15.まとめ：人類社会と近代化を再考する

## 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義 (翻訳論)**

**Special Lecture (Translation Theory)**

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義(翻訳論)**

**Special Lecture (Translation Theory)**

**学期** 前期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** カバラ・トーマス

**授業の概要** The course introduces the theories and practice of translation. Students will practice translating from Japanese to English while learning about the translation theories that guide professional translators.

**学習の目的** This course will provide an understanding of translation as an everyday practice as well as the theories that are the basis for translation studies.

**学習の到達目標** Students will learn practical translation skills as well as the major theories of translation studies. Students will also learn how to think critically about translation as well as intercultural communication in general.

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** This class will cover both theory and practice. The class will cover the practical skills and tools (such as CAT tools) used in translation today. It will also cover the main theories of translation, including equivalence

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** The Routledge Course in Japanese Translation by Yoko Hasegawa (Excerpts)

**成績評価方法と基準** Assessment will be based on in-class participation, translation assignments, and a translation project.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction will be in English.

as well as functional theories. Finally, the class will introduce concepts in new forms of translation, such as audiovisual translation, localization, and collaborative translation.

# 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義 (メディア論)**

**Special Lecture (Media Studies)**

## 2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義(メディア論)**

**Special Lecture (Media Studies)**

**学期** 後期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習  
**担当教員** カバラ・トーマス

**授業の概要** The course introduces the key concepts in film and media studies.

思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**学習の目的** The purpose of this course is to provide a fundamental understanding of how film style and film form combine to create coherent audio/visual narratives.

**教科書** Extracts from Film Art by David Bordwell and Kristen Thompson.

**学習の到達目標** Students will develop the skills necessary to analyze and think critically about film and other visual media.

**成績評価方法と基準** Assessment will be based on in-class participation, class preparation, and a final paper.

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All readings and classroom instruction will be in English.

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** Topics to be covered include the elements of film style (mise-en-scene, editing, cinematography, and sound) and film form

(narrative, stylistic structure, genre, and modes of production).

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義「ジェンダー学入門」**  
**Introduction to Gender Studies.Key theories, approaches and research methods.**  
2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義「ジェンダー学入門」**  
**Introduction to Gender Studies.Key theories, approaches and research methods.**

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 ディークマン ダニエル

**授業の概要** In the course we discuss key theories and approaches in current gender studies. The seminar focusses on paradigmatic shifts in observation of sex and gender and on central questions in research. Amongst others we will develop a topological framework, we will have a look on central concepts and methodologies of gender studies and on political implications. What is 'gender' and what is 'sex'? What is the body? What is desire? How are gender, sex and language interwoven? How are our images of gender and sex framed

by social conditions and historical developments? Amongst others we will discuss texts by Judith Butler, Iris M. Young and Thomas Laqueur. The course will be held in English language.

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

**成績評価方法と基準** 授業中に説明します。

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

1. Get to know each other, elicit expectancies; Introduction in gender studies
2. No more gender? No more sex? Central terms in gender studies
3. The history of our bodies (1). Thomas Laqueur and his approach of historical anthropology
4. The history of our bodies (2). Anne Fausto-Sterling's 'Sexing the body'
5. Masculine domination and symbolic power in the works of Pierre Bourdieu
6. Becoming a boy - becoming a girl. Psychological approaches in gender studies
7. Doing gender. Gender as an act of perfor-

- mance
8. Bodies that matter. Judith Butler's concept of heteronormativity
9. Throwing like a girl. Body experiences in patriarchal societies
10. Masculinities. Connell and the pluralization of the man.
11. Gender and the question of (ab)normality
12. The construction of intersexuality
13. Intersectionality. How gender is interwoven with other categories (e.g. race and class) (1)
14. Intersectionality. How gender is interwoven with other categories (e.g. race and class) (2)
15. Group presentation

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義「ドイツ学入門」** Introduction to German Studies

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義「ドイツ学入門」** Introduction to German Studies

**学期** 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** ディークマン ダニエル

**授業の概要** In the course we want to use cultural studies' approach to find answers to the question: What is German and what is Germany? We want to discuss different topics in this field which are associated with "German culture". Besides language and history we focus on current social and political debates in Germany and how they are framed by broader dis-

courses. The course will be held in English language.

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

**成績評価方法と基準** 授業中に説明します。

**オフィスアワー** 授業中に案内します。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

1. Get to know each other, elicit expectancies; Introduction in German studies
2. What are we talking about when we talk about 'culture'?
3. Histories of German language: An introduction
4. Upon standard German and hip hop slang: An introduction to sociolinguistics and varieties
5. History of an imagined German nation
6. Literature and art as imagined frames of German culture

7. Political institutions in Germany
8. Germany in the European union
9. Germany and the holocaust
10. Political education and citizenship education after the Shoa
11. Current debates: Migration and diversity
12. Current debates: The Uprising of nationalist's movements
13. Current debates: German colonisation and post-colonialism in Germany
14. Current debates: Gentrification and the discussions about urban spaces
15. Group presentation

## 2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義 (就職支援講座)**

### 2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義 (就職支援講座)**

**学期** 後期 **開講時間** 水 5, 6, 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業

**担当教員** 代表 豊福裕二 (人文学部)

**授業の概要** 就職活動に直接必要な情報に加えて、自らのライフプランを考えていくために必要となる知識の習得を目指す。

**学習の目的** 就職活動を始める前に役立つ情報に接し、就職後に必要な知識を得る。

**学習の到達目標** 現代の産業構造や企業・会社の位置関係を理解し、あわせて必要最低限の法律や経済、および社会的知識を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性,モチベーション,幅広い教養,専門知識・技術,情報受発信力,討論・対話力,社会人としての態度,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** なし

**予め履修が望ましい科目** なし

**発展科目** 特に指定しない(法律経済学科の関連科目)

**教科書** 講義中に指示

**成績評価方法と基準** 出席(40%)、レポート(20%×3回)

**オフィスアワー** 講義担当教員の専門科目のオフィスアワーの時間帯

**その他** 時間割・時限は水曜日5～8限であるが、変則開講(第2、第5水曜日には講義なし)であり、講義内・掲示等で開講スケジュールを案内するので、開講日・時限に注意すること。本講義はすべてのコース、すべてのプログラムに属します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

学習内容

講義は隔週開講2コマ連続を予定している。

開講スケジュールについては第1回講義日に提示する。また第1回開講日については掲示にて案内する。

民間企業だけでなく公務員志望者も履修することが望ましい。

第1回 科目のねらいと就職活動の状況&キャリア形成について

第2回 現代社会総論・現代日本の企業社会および地域社会の概況

第3回 現代社会と私たちの進路・卒業生からみた現代社会

第4回 企業社会の現状と人事政策

第5回 企業とは何か・労働とは何か・卒業生からみた現代社会

第6回 企業研究その1

第7回 企業研究その2

第8回 企業研究その3

第9回 企業研究その4

第10回 現代企業社会と法

第11回 会社の犯罪と企業内の犯罪

第12回 企業社会の現状と福利厚生制度

第13回 男女共同参画社会・働く女性の現状(結婚子育て)

第14回 2017年春の就職戦線と経済動向分析・現4年生からのメッセージ

第15回 本講義のまとめ・現4年生からのメッセージ

# 特殊講義「地域から考える」 consideration from a local viewpoint

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○豊福裕二（人文学部），ほか法律経済学科・文化学科教員

**授業の概要** 三重県および東海圏を中心に、地域の抱える社会的諸課題や地域固有の文化について知るとともに、それらを理解する上で不可欠な学問的視点について学ぶ。

**学習の目的** 実際に地域で活躍しておられる社会人の方々の、地域をフィールドに研究している教員の話聞き、地域の抱える社会的諸課題や地域固有の文化について知るとともに、それらを理解する上で学問的視点の大切さを理解する。また、社会人による講義を通じて、将来の進路に関する問題意識を持つ。

**学習の到達目標** 地域の抱える社会的諸課題や地域固有の文化についての知識を得ると

ともに、専門科目を学ぶ上で問題意識を持つことができるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 特に用いない。

**成績評価方法と基準** 出席 40%、レポート 60%、計100%。

**オフィスアワー** 毎週金曜日10:30～12:00、場所：豊福研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

本講義は、三重県および東海圏で活躍されている社会人の方々の講義（講演）と、地域をフィールドに研究している教員の講義によって構成される。担当者が毎回変わるリレー講義形式となる。

予定している各回のテーマは以下のとおりである。ただし、社会人の都合により、講義の順番および内容は入れ替わる可能性がある。

第1回：イントロダクション

第2回：地域資源を活かしたまちづくり

第3回：地域政策の立案と取組み

第4回：地域と共に生きる企業

第5回：地域分析から政策を考える

第6回：農村地域の活性化を考える

第7回：地方議会の役割を考える

第8回：三重県のこども・若者支援を考える

第9回：地域の防災体制を考える

第10回：伊勢志摩サミットについて考える

第11回：消費者問題について考える

第12回：東紀州の歴史を学ぶ

第13回：伊賀の忍者と忍者研究について

第14回：三重県の人と文学について

第15回：多文化共生について考える



# 基礎総合科目A（法政コース）

Introduction of Law and Politics

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 人文学部法律経済学科法政コース教員

**授業の概要** 法律経済学科に所属する各教員が、それぞれ担当する専門科目講義の内容に関係するテーマについて講義する。

**学習の目的** 現代社会には解決を迫られている様々な問題が存在する。社会科学がこれらの問題にどう取り組むかを学び、法律経済学科の中で法学や政治学について学ぶことの意味を考える。

**学習の到達目標** 社会科学、とりわけ、政治学と法学に関する基礎知識を学ぶ。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 各担当教員から、授業中に指示す

る。

**成績評価方法と基準** 次の方法で総合的に評価する。1：出席。2：定期試験（統治および生活法の2つのグループから各1つの講義に関する問題をあらかじめ提示する予定）。なお、定期試験の評価は講義担当教員が行う。

## オフィスアワー

代表：伊藤睦（後期火曜3-4時限）

その他の教員についてはその指定する時間帯。

## その他

この授業は、法律経済学科の必修科目である。

基礎総合B（現代経済コース）とともに、1年次後期に必ず履修すること。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 詳細は最初の講義時に説明する。

# 基礎総合科目B（現代経済コース）

## General Introductory Studies B (Modern Economics Course)

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次

選択 必修 授業の方法 講義

担当教員 現代経済コース教員

**授業の概要** 現代経済コースに所属する教員が、それぞれの専門分野から経済社会の諸問題について解説します。

**学習の目的** 経済学、経営学分野にどのような研究課題があるのかを知り、今後の専門科目を履修する上で必要な学習意欲や問題意識を高めることが目的です。

**学習の到達目標** 受講者が法律経済学科で経済学や経営学を専攻する意義を再認識し、具体的にどのような科目を学ぶべきか探求できるようになることが到達目標です。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養

**予め履修が望ましい科目** 特にありません。  
(同時期に開講される専門必須科目である近代経済学や経営学総論を受講することは望ましいと思います。)

**発展科目** 経済学・経営学に関する全科目

**教科書** ありません。

**成績評価方法と基準**

試験と出席とを総合して評価します。

・試験2回(60%):

第1回目の試験では第2回～第7回の講義で出されたテーマから、並びに第2回目の試験では第9回～第15回の講義で出されたテーマからそれぞれ1ずつ選び解答します。毎回、講義の最後に各教員が試験問題を示します。

・出席(40%):

毎回の講義で出席カードに講義に関するコメントを書いて提出します。

**オフィスアワー** 各回の講義内容については、各担当教員（「授業内容」を参照）に質問をして下さい。

**その他** この講義は、これからの専門科目講義のガイダンスとしての意味を持ちますので、是非今期に単位を取得して下さい。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

講義予定は次の通り:

第1回 ガイダンス (嶋)

第2回 マネーゲームのからくり (野崎哲哉)

第3回 地域貿易協定 (落合隆)

第4回 日本のものづくり (豊福裕二)

第5回 経済理論で考える価格 (川地啓介)

第6回 地域経済の発展と環境 (朝日幸代)

第7回 行動経済学 (嶋恵一)

第8回 第1回試験 (2-7回の講義を対象)

第9回 社会保障と国民生活 (石塚哲朗)

第10回 貿易自由化と食料農業問題 (森久綱)

第11回 経済学と私たちの社会認識 (深井英喜)

第12回 経済の発展とは何か (堀内義隆)

第13回 問題としての多国籍企業 (森原康仁)

第14回 地域ブランドのマーケティング (後藤基)

第15回 経営学入門 (青木雅生)

第2回試験 (9-15回の講義を対象)

ただし、各講義タイトルは変更になることがあります。

# 憲法

## Constitution (general provision, human rights)

学期 後期 開講時間 月 3, 4; 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 内野 広大

### 授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本講義では、憲法上の権利論及び憲法総論の領域において、このようにして創造されていく憲法の姿を見つめていくことにしたい。具体的には、まず、丸刈り法の事案を手がかりとして、①憲法上の権利をどのようにして実現していくのか——いわゆる憲法訴訟——について概説したうえで、②憲法上の権利の種類、内容及び限界——憲法上の権利論——について説明していく。次に、以上の検討が深まることにより生じる問題を念頭に置きながら、憲法上の原理、とりわけ「法の支配」について考察を深めていく。

**学習の目的** 憲法上の権利の用い方を習得し、憲法を自己に引き付けて考える姿勢を涵養する。

### 学習の到達目標

- ① 憲法上の権利の種類・内容・限界及び憲法訴訟論の骨格を知る。
- ② 憲法上の権利論の争点において、通説・判

例がどのような立場に立つものであるのかを理解する。

③ 憲法上の権利論の領域において、基本的知識を身につけるとともに、初歩的な法的(憲法的)思考力を身につける。

④ 「評論家」としてではなく「当事者」として憲法に関わる姿勢を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、専門知識・技術、論理的思考力、討論・対話力

**予め履修が望ましい科目** 共通教育科目の日本国憲法

**教科書** 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2006年)

**成績評価方法と基準** 期末試験100%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00~14:30を指定しますが、講義後に直接質問いただいても結構ですし、オフィスアワー以外の時間帯にもメールで予約のうえ研究室に来室し質問くださっても結構です。

**その他** 講義レジュメに予習課題を明示するようにしますので、予習課題を考えてから講義に臨むようにしてください。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回 はじめに——憲法上の権利論・憲法総論を学ぶにあたって

第1部 憲法上の権利論

① 憲法訴訟の基本 概ね次の順序で憲法訴訟を俯瞰する。

第2回 付随的違憲審査制の基本

第3~第4回 憲法的思考の基本と憲法訴訟

② 個別の権利 概ね次の順序で各権利の内容・限界及び違憲審査基準を説明する。

第5~第7回 思想・良心の自由

第8~第10回 信教の自由

第11回 政教分離原則

第12~第16回 表現(言論・出版)の自由

第17回 問題演習

第18~第20回 経済活動の自由

第21~第22回 幸福追求権

第23回 プライバシー権

第24回 人身の自由

③ 意義と通則 憲法上の権利を享有する主体、憲法上の権利の名宛人等につき説明する。

第25~第27回 「憲法上の権利」通則

第2部 憲法総論

第28~第30回 憲法総論

# 憲法演習

Constitutional Law

学期 通年 開講時間 金 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 内野 広大

## 授業の概要

人々の間にあって他者を活かすと同時に自らを活かす存在としてはたらくためには、ほんとうの意味で「自己を知る」ことが不可欠です。そのためには何よりもまず、自らの足跡を丹念に辿り、無意識の裡に染みついた価値観を見つめ、自らの立脚地を絶えず省みていくほかはないと考えています。

そしてそのためには、常に具体的現実の中にある矛盾に身を置くことが必要になりますが、憲法判例はその導き手としての役割を果たすものであるといえます。それというのも、憲法判例は、人の抱えざるをえない矛盾が最も顕在化してしまう個人及び国家の根源に関わる問題に対して、回答を提示しようと努めるものだからです。参加者は、憲法判例との対話を重ね、他の参加者との意見交換を経ることにより、自らが実は矛盾の内に身を置いていたことに気づき、自らの立脚地の姿にも関心を向けるようになるのではないでしょう。

本演習は、このような理由により、憲法判例を考察の素材とし、その一つ一つについて以下のような順序で検討を加えていきます。

① 私人側弁護士あるいは国側弁護士（検察官）の立場に立って、事件の具体的な事実を目を凝らし、当事者の思いをくみ取って、その思いに言葉でかたちを与え、お互いに意見交換を行う。

② 裁判官が提示した判例・学説を使って、各々の立場から説得力のある法的主張を組み立てる。

③ ②を報告レジュメにまとめ報告する。裁判官は当事者側の主張を聴いた上で判決文を作成する。

演習形式は参加人数にもよりますが、憲法判例ごとに、国会議員、私人側弁護士、国側弁護士、裁判官等のグループを結成し、議論を深めていきます。

**学習の目的** 憲法判例の検討を通じて自己の

主張を論理的に組み立てる基礎力を養成する。

## 学習の到達目標

① 講義で教示される抽象的な知識が、具体的な実例の中でどのように働いているのかを実感することができる。

② 憲法と、それ以外の法分野の法とが訴訟の中でどのように結び合っているのかを知ることができる。

③ 具体的実例の中で、どのようにして憲法判例が紡ぎだされていくのか、そのメカニズムを知ることができる。

④ 具体的実例との対話を通じて、自らの立脚地の姿を見つめ直すことができる。

**本学教育目標との関連** 共感、倫理観、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、討論・対話力、指導力・協調性

## 受講要件

① 中学生でも一読してすぐわかるような明晰な文章を書くための作法をあらかじめ身につけてください。木山泰嗣『弁護士が書いた究極の文章術』（法学書院、2009年）という本を参考にされるとよいと思います。

② あなたが興味関心をもった事柄について、なぜ興味関心をもったのかを自分との対話を通じて発見してください。

**予め履修が望ましい科目** 人文学部で開講されている憲法関連以外の科目

**教科書** 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）

**成績評価方法と基準** 報告内容とゼミに対する積極的な取り組み具合に基づき評価します。

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00～14:30を指定しますが、柔軟に対処いたします。指定時間外は予約をいただければ確実に応対できます。

**授業計画・学習の内容**

## 学習内容

一年を通じた流れとしては、前期に「憲法上の権利」に関する憲法判例を検討し、後期に「統治機構」に関する憲法判例を検討する予定です。また、前期には『学生論集』執筆のための検討会を実施し、後期には卒業論文のテーマについての報告会も実施する予定です。重要な最高裁判例を5つほど指定しますが、参加者の問題関心等を踏まえ、開講直前に判例を指定する予定です。

○ 前期——憲法上の権利に関する最高裁判例の検討

第1回～第8回 最高裁判例①

第9回～第13回 最高裁判例②

第14回～第15回 学生論集の準備

○ 後期——統治機構に関する最高裁判例の検討

第1回～第6回 学生論集

第7回～第12回 最高裁判例③

第13回～第15回 卒業論文報告会

# 憲法制度論

Constitution (Government)

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 担当教員 内野 広大

## 授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本講義では、統治機構論及び憲法の基礎理論の領域において、このようにして創造されていく憲法を見つめていくことにしたい。具体的には、まず、①丸刈り法の事案を手がかりとして、国家の国民支配作用及び各作用の担い手である各統治部門について説明し、それに引き続いて②国家の大権行使に関わる事案を手がかりとして、国家の総合的政策形成作用について検討していく。次に、憲法上の原理、とりわけ民主権及び権力分立について概説する。

**学習の目的** 憲法が定めた統治機構をどのようにして動かしていくのか、その方法を習得し、憲法を自己に引き付けて考える姿勢を涵養する。

## 学習の到達目標

- ① 統治機構論の骨格を知るとともに、憲法の基礎理論のあらましを知る。
- ② 統治機構論上の争点において、通説・判例

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 はじめに——憲法制度論を学ぶにあたって

#### 第1部 統治機構

第2回～第10回 国民支配作用

各作用 (立法・行政・司法) の意味を簡潔に説明したのち、各統治部門 (国会・内閣・裁判所・有権者団) の性格、権能、構成等を検討する。

がどのような立場に立つものであるのかを理解する。

③ 統治機構論の領域において、基本的知識を身につけるとともに、基本的な法的 (憲法的) 思考力を身につける。

④ 「評論家」としてではなく「当事者」として憲法に関わる姿勢を身につける。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力

**予め履修が望ましい科目** 共通教育科目の日本国憲法

**教科書** 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2006年)

**成績評価方法と基準** 期末試験100%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00～14:30を指定しますが、講義後に直接質問いただいても結構ですし、オフィスアワー以外の時間帯にもメールで予約のうえ研究室に入室し質問くださっても結構です。

**その他** 各講義前になるべく予習課題を提示するようにしますので、課題を考えた上で講義を受講するようにしてください。

第11回～第13回 総合的政策形成作用

国権の最高機関性についての議論、執政権論及び天皇の権能論についての議論を手がかりとして、政治部門間の関係を検討し、それに続いて、統治行為論を手がかりとして、政治部門と法原理部門との関係を検討する。

#### 第2部 基礎理論

第14回～第15回 憲法上の原理

# 政治学原論

modern politics

学期 前期 開講時間 火1,2;木7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程):2年次,3年次,4年次 授業の方法 講義

担当教員 岩本美砂子

**授業の概要** 現代政治が営まれる場としての制度やその具体的な担い手について講義する。さらに現代政治の抱える諸問題についても扱う。なお本講義は公務員試験の「政治学」の内容をカバーする。

**学習の目的** 複雑で多様な現代政治について、多様な角度から分析を行い、正確な知識を獲得するとともに、それを動す諸原理を掴むことによって、現代政治についての体系的な理解へと到達する。

**学習の到達目標** 現代政治の実際を理解するにとどまらず、それを批判的に見つめ、そこに内在している問題に対して自覚的に関わっていくため見識の素地を作る。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、情報

受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 教養科目の政治学

**発展科目** 行政学、政治過程論、政治思想史、現代政治理論、国際関係論、西洋政治外交史、政治社会学、政治学特論（女性と政治）

**教科書** プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 中間試験と期末試験（持ち込み不可）の総計で評価します。比率はそれぞれが50%。形式は記述式。

**オフィスアワー** 前期：火曜3～4限

**その他** 新聞の購読を勧める。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1)オリエンテーション、現代政治とは何か
- 2)民主主義
- 3)有権者
- 4)選挙・投票行動
- 5)選挙Ⅱ
- 6)利益団体、NPO
- 7)福祉国家
- 8)、9)政党Ⅰ、Ⅱ
- 10) 政党制
- 11)議会
- 12)、13)議員・政治家Ⅰ、Ⅱ
- 14) 15)首相・内閣・大統領

- 16) 中間試験
- 17)公務員・官僚
- 18)行政改革
- 19) メディア
- 20)、21) 国際関係Ⅰ、Ⅱ
- 22)、23)政策過程
- 24) 司法
- 25) 地方政治
- 26) 多様な参加・熟議民主主義
- 27)環境政治
- 28)ナショナリズム
- 29) 30) ジェンダーと政治Ⅰ、Ⅱ
- 31) 試験

# 政治学特論

## Women and Politics

学期 後期 開講時間 木7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 岩本美砂子 (人文学部法律経済学科)

### 授業の概要

欧米民主主義国における「女性と政治的代表」をめぐる討論を紹介し、女性の政治的代表的拡大にとって女性政策機構の果たす役割を検討する。Research Network on Gender Politics and the Stateグループの業績の一端に触れる。

### 学習の目的

「女性と政治」が、現代政治学のテーマの一つであることを理解し、比較政治学の一般的知識も獲得する。

**学習の到達目標** 現代政治を、ジェンダーの観点から批判的に観察する力をつける。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考え

る力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 政治学関連の科目を履修しておくことが望ましい。とくに政治学原論を履修し、政治学の一般的知識があることが好ましい。

### 教科書

Joni Lovenduski ed., "State Feminism and Political Representation", Cambridge, 2005  
毎回日本語版のプリントを配布するので、バインダーを用意すること

**成績評価方法と基準** レポート2回70%、出席30%

**オフィスアワー** 木曜3~4限

**その他** 新聞・テレビ・雑誌・ネットなどを通じ、政治現象に接することが必須である。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- ①オリエンテーション Research Network on Gender Politics and the Stateについて
- ②スウェーデン
- ③フィンランド
- ④ドイツ
- ⑤UK
- ⑥USA
- ⑦比較の枠組みについて (序章)

- ⑧オランダ
- ⑨オーストリア
- ⑩ベルギー
- ⑪フランス
- ⑫スペイン
- ⑬イタリア
- ⑭比較の成果 (結論)
- ⑮日本 (岩本による)



# 国際法総論

Public International Law

学期 前期 開講時間 木 7, 8, 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 坂本一也

**授業の概要** グローバル化が進み、ますます複雑化する国際社会において、国家間の関係が円滑に進むためには国家が従うべき規則（国際法）が重要な意義を持つようになってきています。そうした国際法がどういった性質や特徴を持ち、どういった役割を果たしているのかを理解すれば、現在の様々なニュースで取り上げられる国際問題を法的な視点から考えることができるようになります。そこで、この授業では、国際法に関する基本的知識を理解するとともに、現代の国際関係において国際法が果たす役割について考えることにします。また、授業を通して、法的な視点から国際問題を考える基礎的な能力を養ってもらいたいと思っています。

**学習の目的** 国際法に関する基本的知識を獲得し、具体的な国際問題について法的な視点から考える能力を涵養すること。

**学習の到達目標** 国際法の性質や特徴を踏まえて、国際法に関わる基本的な知識を習得すること。国際問題を法的な視点から考えるための論理的な思考方法を身に着けること。授業で習得した知識や能力等を用いて、自己の

見解を提示できること。

**本学教育目標との関連** 共感, モチベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**発展科目** 「国際法各論」「国際組織法」「国際関係論」

## 教科書

教科書は特に指定しません。

国際条約集（いずれの出版社のものでも構いません）は持参してください。

**成績評価方法と基準** 筆記試験（定期試験50%）、レポート（25%）、コメントシート（25%）で評価します。

**オフィスアワー** 授業終了後またはメール(kazs@gifu-u.ac.jp)で受け付けます。

**その他** 授業中への質疑応答に積極的に関わってください。また、新聞などの国際面に目を通して、現代の国際問題に関心を持ってください。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 講義ガイダンス（授業の進め方、国際法とはどのような法か）
- 第2回 国際法の歴史的展開
- 第3回 国際社会の構造と国際法の特徴①
- 第4回 国際社会の構造と国際法の特徴②
- 第5回 国際法の法源（国際慣習法を中心に）
- 第6回 条約法①
- 第7回 条約法②
- 第8回 国際法と国内法の関係
- 第9回 国際法における主体
- 第10回 国家の成立から消滅まで（国家の構成要件と国家承認）
- 第11回 国家承継・国家の基本的権利義務①（主権平等原則・国内問題不干涉原則）

- 第12回 国家の基本的権利義務②（国家免除）
- 第13回 外交・領事関係法
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 国家領域とその機能（領域主権）
- 第16回 国家領域の取得権原
- 第17回 海の国際法①
- 第18回 海の国際法②
- 第19回 国際化地域と空の国際法
- 第20回 国家責任①
- 第21回 国家責任②
- 第22回 国際法上の個人の地位（国籍・外国人・難民）
- 第23回 国際人権法
- 第24回 紛争の平和的解決
- 第25回 国際司法裁判

第26回 戦争・武力行使の違法化（武力不行使原則）

第27回 自衛権と国連における集団安全保障

第28回 国際人道法①

第29回 国際人道法②

第30回 総まとめ

# 国際組織法

## Law of International Organization

学期 前期 開講時間 火 5, 6; 木 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 洪恵子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** まず、国際組織と国際法との関係や国際組織と国家の法的関係の基本を理解する。次に今日最大の普遍的国際組織である国際連合(国連)を取り上げて、その国際社会における意義を考える。さらに国家間の紛争を法的に解決するための国際組織である国際裁判所についても検討する。このような検討を通じて、国際社会における国際組織の意義を考える。

**学習の目的** 現代の国際社会に対する理解を深め、国際組織法に関する専門的な知識を身につける。

**学習の到達目標** 国際組織の法的特徴を理解することによって、その機能を把握し、緊密化する国際社会における国際組織の意義を明らかにする。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度

**受講要件** 特になし。

**発展科目** 国際法総論・国際法各論・国際関係論

**教科書**

[テキスト]

特に指定しないが、学習に必要な文献については授業で適宜紹介する。

なお、授業にはかならず条約集(出版社は問わない)を持参すること。

**成績評価方法と基準** 筆記試験(中間テストおよび定期試験の2回を予定)(リアクション・ペーパーなどで加点することもある。)

**オフィスアワー** 火曜日午後14:40~16:10

**その他** 受講者は国際法総論や国際法各論の履修をすることが望ましい。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回から第3回 国際組織法とは何か-国際法と国際組織

第4回から第6回 国際組織と国家の法関係(加盟、代表権、特権免除、表決手続など)

第7回から第8回 国際社会の組織化(1)

第9回から第11回 国際社会の組織化(2)

第12回から第13回 国連の目的(国際の平和と安全の維持)

第14回から第15回 国連の目的(人民の自決権)

第16回から第18回 国連の目的(国際的な人権保障)

第19回から第23回 国連の現代的課題

第24回から第26回 国際裁判制度: 概論

第27回から第30回 国際裁判制度: 国際司法裁判所を中心に

# 国際組織法演習

## Seminar on Law of International Organization

学期 通年 開講時間 木 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 洪恵子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 国境を越えて展開される国際組織の諸活動の法的特点を学ぶ

**学習の目的** 国際組織法(国際法)の専門的知識を学ぶのみならず、演習における議論を通じて法的思考様式を身につける。また報告の準備や実際の報告を通じて、専門的情報をいかにして収集・整理するか、他の人に何かを説得力を持って説明するためには何が必要かを学ぶことになる。

**学習の到達目標** 国際紛争と法の接点を発見する能力が高まり、国際紛争の解決に対する国際法および国際組織の意義について深い理解が得られる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じ

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

各自関心のあるテーマを決めて、グループないし個人で報告を行ってもらう。

る力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 国際組織法を2年次または3年次に同時に履修すること。

**予め履修が望ましい科目** 国際法総論、国際法各論、国際関係論(あらかじめでなくて、同時履修でも可)

#### 教科書

授業の際は、国際条約集を持参して下さい。個別資料や文献は開講時に指示します。国際条約集はいずれの出版社のものでも可。

**成績評価方法と基準** 出席および授業態度(報告の内容を含む)

**オフィスアワー** 火曜日14:40~16:10

**その他** 国際組織法または国際法総論をすでに履修していることが望ましい。

報告者以外の演習参加者は、報告について積極的に質問・意見を述べてもらう。

# 国際法各論

## Contemporary Issues of Public International Law

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 洪 恵子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 国際法各論では、近年の国際社会で重要性を増している国際刑事法について講義する。受講生はあらかじめ（または同時に）国際法総論や国際組織法を受講していることが望ましい。

**学習の目的** 国際刑事法の基本概念、基本原則、主たる制度について知識を得る。

**学習の到達目標** 国際法の理論的枠組みを理解し、具体的問題に関する法的論点を発見する思考様式を身につける。国家間の法的協力の必要性や武力紛争における法の重要性を理解する。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 国際法総論・国際組織法・憲法を履修しておくこと（ないし同時履修）が望ましい。

**発展科目** 国際法総論、国際組織法、国際関係論

**教科書** 授業には条約集（いずれの出版社でも可）を必ず持参すること。

**成績評価方法と基準** 成績評価は筆記試験、リアクションペーパーなどで総合的に判断されるが、目安として筆記試験が約80%、その他が約20%である。

**オフィスアワー** 洪 恵子：火曜日14:40-16:10

**その他** できるだけ最新の国際情勢を交えて講義を行う。そのためにシラバスにあるスケジュールを若干変更する場合もある。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回：イントロダクション（授業の概要・目的・進め方）

第2回：国際法から見た国内法：国家管轄権とは何か

第3回：刑事分野における国際協力（1）基本的枠組み

第4回：刑事分野における国際協力（2）犯罪人引渡制度

第5回：刑事分野における国際協力（3）国際捜査共助

第6回：国際法上の犯罪（1）テロリズム

第7回：国際法上の犯罪（2）海賊

第8回：武力紛争と国際法：jus ad bellumとjus in belloの区別の重要性

第9回：国際人道法（1）主たる法源

第11回：国際人道法（2）基本原則

第12回：国際人道法（3）履行確保

第13回：国際刑事裁判（1）

第14回：国際刑事裁判（2）

第15回：まとめ

第16回：定期試験

# 日本政治史

History of japan politics

学期 後期 開講時間 水 7, 8, 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 萩原 淳

**授業の概要** 本講義は、近現代日本の政治・外交を国際体制・国内体制・政治家のリーダーシップに焦点を当て、通史的に分析する

**学習の目的** 日本の近現代史の基礎的な歴史的知識を身に付け、歴史的視点から、現在の政治・外交の分析する思考力を養うこと

**学習の到達目標** 参考文献及び、講義中に挙げる文献に目を通しながら受講することが望ましい

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 政治学原論、国際関係論

**発展科目** 政治思想史

**教科書** 指定しない

**成績評価方法と基準** 学期末の試験によって成績を評価する

**オフィスアワー**

質問などは、講義の前後およびメールによって受け付ける

(連絡窓口教員 古瀬啓之)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1部 幕末・明治初期の日本

1. 幕藩体制と幕末の日本をめぐる国際環境
2. 「西洋の衝撃」と維新政権の成立
3. 維新政権の政治指導と中央集権体制の確立
4. 自由民権運動
5. 明治憲法の制定

第2部 明治憲法体制の確立と日清・日露戦争

1. 条約改正交渉
2. 初期議会の攻防
3. 日清戦争と議会政治の定着
4. 日露戦争と日韓併合
5. 桂園体制の展開

第3部 大正期日本の政治構造

1. 大正政変と政党勢力の伸長
2. 第一次世界大戦の政治的影響
3. ワシントン体制と政党政治の形成
4. 満州事変の衝撃と軍部の台頭
5. 日中戦争から日米戦争へ
6. 日米戦争と敗戦

第4部 戦後日本の国際体制と自民党政治

1. 占領と講和
2. 55年体制の形成と安保改定
3. 自民党政治の構造
4. 中国・韓国との国交正常化
4. 冷戦の終焉と55年体制の崩壊
5. 近隣国との歴史認識問題

# 行政学

Public Administration

学期 前期 開講時間 火 5, 6; 木 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 樹神成 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 日本の政治行政の制度とくに、議院内閣制（大統領制）、行政官僚制、議会、利益集団を軸に考える。

**学習の目的** 日本の政治行政の制度は、外国のそれを継受したものであるが、現代では、その意味を振り返ることなく、民主主義国の制度の一例として捉えることが多くなっている。この講義では、今一度、近現代日本の経験そのものの意味を、歴史の視点、また比較の視点から考える。

**学習の到達目標** 日本の政治行政の制度につ

いて、複眼的視点、つまり、対先進国、また対非先進国との対比で捉える眼を養う。

**予め履修が望ましい科目** 政治学、行政学、憲法、行政法、地方自治論

## 教科書

[テキスト] 講義の時に指示する。

[参考書] 講義のときに紹介する。

**成績評価方法と基準** 試験による

**オフィスアワー** 火曜日12時から13時

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 1.社会主義の崩壊とハイブリッド（異種混合）の政治レジーム
- 2.大統領制－アメリカ
- 3.議院内閣制－イギリス
- 4.立憲君主制と官僚制・地方自治－ドイツと日本
- 5.大統領の独裁－ワイマールの経験
- 6.議会主義と半大統領制－フランス

- 7.半大統領制と国家元首－現代ロシア
- 8.戦前日本の政官関係－超然内閣と官僚制
- 9.戦後日本の政官関係－議院内閣制と政党政治
- 10.現代日本の政官関係－政治主導と官邸主導
- 11.政治制度と政治レジーム
- 12.官僚制と政治レジーム
- 13.社会集団と政治レジーム
- 14.現代異種混合体制
- 15.近現代日本の経験の意味

# 行政学演習

## Seminar of Public Administration

**学期** 通年 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 4 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 3年次  
**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業  
**担当教員** 樹神成 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 現代日本の国と地方自治体について検討する。制度面 (法定受託事務・地方交付税・係争処理等)、政治面 (国土計画・地域振興等)、政策面 (道州制・定住自立権構想・コンパクトシティ等) に分けて、検討する。

**学習の目的** 現代社会の課題に挑戦する積極性を備える。

**学習の到達目標** 国と地方自治体の関係を制度面、政治面、政策面等、多面的に検討でき

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

ステップ1 制度面、政治面、政策面のそれぞれについて、教員作成の基本論点について、基本文献・新書程度の本を読み、それぞれが、上記のそれぞれについて課題をもつようにする。

る視野をもつことで、地方自治体による地域課題の解決方向を自ら考えるようになる。

**予め履修が望ましい科目** 行政学

**教科書** 適宜、指示する。具体的なテーマについては協議して決める。

**成績評価方法と基準** 出席・発表・発言・討論

**オフィスアワー** 木曜日7・8限

ステップ2 上記のそれぞれについての課題に関して、資料等収集し、報告し、発表する。この場合、問題点がどこにあるかを明確にする。  
ステップ3 報告者が自分で設定したテーマについて、資料等を収集し発表する。



# 政策過程論

Political Process

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 樹神成 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地方自治制度の変化を素材に、政策過程について理解する

憲法、行政法、地方自治論

**学習の目的** 現代社会について、専門的知識に基づいて論理的に考え、総合的に判断できる。

## 教科書

[テキスト]

[参考書] 講義のときに紹介する。

**学習の到達目標** 政治と行政を見る目を養う

**成績評価方法と基準** 試験による

**予め履修が望ましい科目** 政治学、行政学、

**オフィスアワー** 木曜日の7・8限。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 1.地方自治制度の継受と定着・発展・変容
- 2.地方自治制度の形成 - イギリス
- 3.地方自治制度の形成 - アメリカ
- 4.明治維新と地方政治・地方制度
- 5.立憲君主制と地方自治
- 6.戦前の日本の地方自治
- 7.第一次地方分権改革への課題設定
- 8.第一次地方分権改革の立案過程

- 9.第一次地方分権改革の決定過程
- 10.市町村合併、三位一体改革
- 11.第二次分権改革の課題設定
- 12.第二次分権改革の立案過程
- 13.第二次地方分計画の決定過程・民主党「地域主権改革」
- 14.安部政権の目指す地方自治
- 15.まとめ

# 政治思想史

History of Political Thought

学期 前期 開講時間 火7,8;水3,4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程):2年次,3年次,4年次 授業の方法 講義

担当教員 麻野雅子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 授業では、古代ギリシアから近代に至る西洋政治思想史において、どのような問題をめぐってどのような思想が展開してきたのかを説明します。

**学習の目的** 西洋政治思想史の基本的な知識を得ることが学習の目的です。

**学習の到達目標** 西洋政治思想史の基本的な知識を得ることによって、現代の政治制度や法制度の思想的背景とともに、それらの制度の設立根拠や意義などについての理解を深めてもらうことが学習の到達目標です。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論

理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特にありません。

**予め履修が望ましい科目** 特にありません。

**発展科目** 現代政治理論、法哲学。

**教科書** 教科書は指定しません。

**成績評価方法と基準** 2回の試験で評価します。成績の内訳は、それぞれの試験50%ずつです。

**オフィスアワー** 火曜日12:00～13:00、場所は人文学部棟麻野研究室です。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

以下のように、年代順に講義を進めていきます。

1. 政治思想史講義概略の説明等、ヨーロッパ古代の政治思想史
- 2～3. ヨーロッパ古代の政治思想
4. ヘレニズム時代の政治思想
- 5～6. ヨーロッパ中世の政治思想（キリスト教の思想）
- 7～8. ルネッサンスの政治思想
- 9～11. 宗教改革の政治思想・宗教戦争の政治思想
- 12～16. 社会契約論の政治思想（ホッブズ・

ロックの思想）

17～19. フランス革命をめぐり政治思想（ルソーの思想他）

20～23. 功利主義と自由主義の政治思想（ベンサム・ミルの思想他）

24. 試験

25～26. ドイツ観念論の政治思想（カント・ヘーゲルの思想他）

27～28. 社会主義の政治思想（マルクスの思想他）

29～30. ファシズムの政治思想（シュミットの思想他）

# 政治思想史演習

History of Political Thought

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野雅子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** まず政治理論・政治思想の諸テーマ(正義・自由・平等・権力・公共性・民主主義など)をとりあげたテキストを講読することからはじめます。テキストを講読し、議論をするなかで、現代の政治理論や政治思想が、現代社会をどのように捉え、どのような視点から問題を掘り下げているのかを、受講生に理解してもらいます。その過程で、受講生の関心が広がれば、政治思想の古典を読んでいくこともあります。

**学習の目的** 政治理論・政治思想に関する文献を読み、基本的な知識を身につけることが学習の目的です。また文献の内容を適切に紹介できる能力をも身につけられるようにします。

**学習の到達目標** 政治理論・政治思想の基本的な知識を得たうえで、政治理論や政治思想が何を問題しているかを理解し、現代社会で起こっている具体的な政治問題を自分なりの視点から分析できるようになることが学習の到達目標です。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 演習の形態は、受講生の一人ないし複数の者が、報告者として、レジュメを作り内容について説明をしたあと、全員で報告内容について討議するというオーソドックスなものです。後期は、受講生と相談のうえ、古

受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特にありません。

**予め履修が望ましい科目** 必ずというわけではありませんが、2年生前期に政治思想史、後期に現代政治理論を受講していることが望ましいです。

**発展科目** 特にありません。

**教科書** サンデル『これからの「正義」の話をしてしよう』(早川書房)、川崎修・杉田敦(編)『現代政治理論』(有斐閣)、小川仁志『はじめての政治哲学』(講談社現代新書)、森政稔『変貌する民主主義』(ちくま新書)ほかを予定していますが、受講生と相談の上、変更することもあります。

**成績評価方法と基準** 適切な報告をしているか、積極的に発言や提案をしているかなど、文献の理解度や報告の的確さの程度、演習への積極性や貢献度によって評価します(100%)。

**オフィスアワー** 火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟麻野研究室です。

典的な政治思想の文献を読むか、引き続き、現代政治理論に関する文献を読むかを、決めます。また演習の最後には、受講生自らがテーマを選定して、そのテーマに関して勉強・研究し、報告する機会を設けます。

# 現代政治理論

## Contemporary Political Theory

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 高 東柱 (非常勤講師)

**授業の概要** この現代政治理論講義では、現代政治への理解を深めるために、各政治制度及び官と民、国と国との関係について説明します。

**学習の目的** 現代の政治を、政治制度の観点から考察することが学習の目的です。

### 学習の到達目標

1. 政治制度を理解することができる。
2. 政治制度をもとに、具体的な政治現象のメカニズムを理解することができる。
3. 具体的な制現象について理解した上で、自らの見解を持って、自分の言葉で説明できる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力、

コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特にありません。

### 教科書

北山俊哉・真淵勝・久米郁男 (2009) 『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣  
建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 (2008) 『比較政治制度論』有斐閣

**成績評価方法と基準** 2回の試験で評価します。成績の内訳は、それぞれの試験50%ずつとします。

**オフィスアワー** オフィスアワーは、講義前後の休憩時間になります。ただし、事前にメールなどでアポイントメントを取るようお願いします。メールアドレスは、講義の初めに指示します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

以下のテーマに沿って、講義を進めていきます。

1. イントロダクション：講義の内容と進行について
2. 制度論と因果的推論
3. 選挙制度①
4. 選挙制度②：『選挙』（2006、DVD）を視聴
5. 政党制度

6. 議会制度
7. 執政制度
8. 中間試験
9. 官僚制
10. 司法制度・中央銀行制度
11. 地方自治制度
12. 政策過程
13. 官と民の関係
14. 国境を越える政治
15. 総まとめ

# 行政法総論

Administrative Law

学期 後期 開講時間 火3,4; 金5,6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 日本国憲法に基づいて、行政権はどのように位置づけられているのか。行政が果たすべき役割、その国民主権に基づく民主主義的な行政統制のありかた、その権限行使に対する統制のあり方について、先人たちが作りあげてきた理論体系を一瞥しつつ、今後の未来志向的な「行政法というものの考え方」をともに考える。

**学習の目的** 行政法総論の体系を学ぶことで、国家権力に対する民主主義的統制とその権限濫用統制の法理について、その歴史的形成過程とその現段階における理論の姿を概観する。そのことを通じて、「国家」とは何か、社会に生きる私たちとどのような関係にあるのか、私たちは将来にわたってどのような国家・政府像を描き、主体者としてどのようにかかわっていくべきなのかを考える機会とする。

**学習の到達目標** 国家・行政とは、国民（人民）が憲法制定を通じて創り出したものである。そこでは、国民は、主権者として創出した法律を通じて、国家権力にそのなすべき役割の遂行を命じる。そこでは、国家は、あくまでも国民の幸福の追求に資するものでなければならず、国家がその道を大小なりとも踏み外したときには、何らかのかたちで立法上または司法上、その暴走が統制されなければならない。そこでは、法律の制定を通じて行政に対する権限配分と、権利保護過程を通じ

た救済システムが問題となる。その全体像を把握することによって、国民・住民と国家権力の関係の適切なあり方について考えることができ、さらにその統制法理をみずから創造的に考えることができるようになる。そのことを通じて、将来の主権者としての資質を身につけることができる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** [テキスト] 紙野健二・市橋克哉編 『資料現代行政法〔第3版〕』（法律文化社、2008年）

**成績評価方法と基準** 中間レポートおよび期末レポートによって評価する。

**オフィスアワー** 第1回目の授業時に情報提供する。

**その他** 特になし。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

現代における国民生活と行政、および法の関係は、大きく変動しつつある。なかでも国レベルで重要な行政法規の制定・改正が相次ぐ一方で、地方自治体におけるさまざまとりくみも相次いでいる。そこでは、これまで政府が実施してきた活動を民間組織に委ねる傾向も指摘される。その一方で、裁判においても、行政の活動を通じて実現される国民の人

権または権利をめぐる次々と重要な判決例が出されている。そしてこれらの展開は、都市開発、環境、社会保障、教育など、あらゆる分野におよんでいる。

それでは、国民は、なにを意図して〈行政〉などというものをつくり出したのであろうか。また、そこで法律を通じて担わせられる行政上の責務とは、国民がほんとうに意図したとおり果たされているのであろうか。果

たされていないとしたら、どのようにして是正されるのであろうか。

本講義では、これらの答えを自分たちなりに見いだそうと、あえて果敢にとりくむものである。とりわけ、行政情報や不服審査などに関連して、新しい制度が年々誕生するなかで、かかるツールも駆使しつつ、国民・住民の権利実現のために行政は何ができるのか、何をすべきであるのかなどを、ともに考える機会としたい。

〔授業計画〕

- (1/2) 行政と行政法の意義
- (3/4) 行政法の基本原理—法治主義
- (5/6) 行政権限の委任—組織法関係
- (7/8) 行政活動の法体系—その作用、特殊性、および法関係
- (9/10) 行政活動の法体系—その手続的側面と行政過程
- (11/12) 民主主義的的局面における法治主義

(その1 行政計画)

(13/14) 民主主義的的局面における法治主義

(その2 行政立法)

(15/16) 民主主義的的局面における法治主義

(その3 情報公開)

(17/18) 権限行使局面における法治主義

(その1 行政行為①権限行使)

(19/20) 権限行使局面における法治主義

(その2 行政行為②効力)

(21/22) 権限行使局面における法治主義

(その4 行政契約)

(23/24) 権限行使局面における法治主義

(その5 行政指導)

(25/26) 権限行使局面における法治主義

(その3 権限行使の前提としての情報収集)

(27/28) 権限行使局面における法治主義

(その6 義務履行確保と強制)

(29/30) レポート解説、まとめ、行政法各論・行政救済法への道筋

# 行政法演習

Administrative Law

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

## 授業の概要

昨年度は、津市内における地域格差の原因とその解決方法について、交通と産業を素材にみんなで考察した。そのなかで、法的論点も検討した。また、市町村合併によるさまざまな影響も検討した。その成果が、学生論集掲載論文である。

しかしながら、検討する素材は、地域格差に限定されない。その前には福島第一原発の事故をきっかけに、エネルギー供給とそこで果たす政府の役割を検討した。

それぞれ、ゼミ生が主体的に報告課題を企画し、自主的に分担し、そして集团的に検討を進めることを目標としている。

そのことを通じて、現代社会に生きる主権者としてのものの見方をみんなでつくっていく。

**学習の目的** 国民生活において行政の果たす役割について考える方法を、実践的に身につける

## 学習の到達目標

- ・国民生活と人権、法、そして行政の関係について理解する。
- ・時代の変化とともに変容する法と行政が担う課題を発見し、認識する。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

役所というものは、何をするとところだろうか。われわれの日常とどのように関係しているのだろうか。

日頃気にすることのない〈行政〉は、実はわれわれの日常生活を下から支えるものでありつつも、国民・住民のあいだの利害調整に際しては強大な権力をともなうものでもある。それでは、行政とは、そもそも何をするためにつくりだされたものであろうか。その担う役務とは、どのようにして形成し、どのように展開しているのであろうか。それらはいかなる範囲で権限行使されるのであろうか。

・現代の国家・行政の変容が提起する法的課題について考え、現代行政を見る眼を養う。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** 新聞、雑誌、ネットニュース、書店などはこまめにチェックしてほしい。

**成績評価方法と基準** 毎回の出席、報告および発言などの平常点を総合して評価する。とくにレジュメのできばえには評価の重点を置く。

**オフィスアワー** 第1回目のゼミの際に情報提供します。

**その他** 特になし

このゼミは、このような行政が担う役務とそのあり方について、できるだけわれわれの身のまわりの事象から出発し、そしてあれこれと議論しながら問題点をみずから見つけ出し、そして学問的高みにいたろうとする場所である。

たとえばこの間、救急車のたらい回し事件に端を発して地域における救急医療のあり方、タクシーという公共交通機関のあり方、そして福島第一原子力発電所事故を踏まえて今後のエネルギー供給のあり方などを、それぞれ法的問題点がどのように関連するのかなどをはじめとして、議論した。

これらの諸論点には、かならずしも学会レベルでも十分に検討されていないものもある。しかし、これらの作業を通じて、社会生活を営むうえでも、問題発見から解決の道筋の模索、そして解決策の発見という一連の作業方法を、自分なりに身につけることにもつなが

るものとする。

これらのプロセスを踏まえて導き出された検討の過程や結果をまとめあげたものが、参加者にとってかけがえのない学生生活の記念品となることを期待したい。



# 法律経済学科専用 行政法各論

Administrative Law – Police, Environment, Education, and Others

## 法律経済学科専用 行政法各論

Administrative Law – Police, Environment, Education, and Others

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 〈行政〉とはどのような経緯で生成し、そしてどのように発展してきたのであろうか。そしてその行政活動を規律する法とその原則とは、行政の生成・発展を必然化せしめた経済的社会的諸条件のもとで、どのように発展してきたのであろうか。本講義では、その生成、発展、そして転換の過程を、警察行政、防災行政、環境行政、教育行政、社会保障行政など、いわゆる〈行政領域〉と呼ばれる各分野ごとの法原則およびその展開過程を通じて、社会科学的に分析する。

**学習の目的** 国や自治体が行っている行政活動は、さまざまな分野に分かれているように思われる。しかし、それは資本主義の発展にともなって激化した矛盾に対する国家的な対策が講じられるなかで発展してきたという側面をもつ。そこにどのような共通性・法則性があるのか、あるいはどのような個性があるのか。その法的特点を読み解く。

**学習の到達目標** 行政各分野における法的統

制のあり方について、みずからの力で社会科学的に認識し、それをもとにして発展的に問題解決の糸口を見つけていることができる

**本学教育目標との関連** 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**成績評価方法と基準** 中間レポートおよび期末レポートによって評価する。

**オフィスアワー** 第1回目の授業時に情報提供する。

**その他** 特になし。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

国民や住民が実現しようとする人権や権利と、その手段としての国家権力の行使のあり方との関係について考える。

行政法総論で学んだ行政行為、行政契約、行政契約などの行為の形式とは、必ずしも行政が活動するに際して、一律的に用いられるものではないはずである。むしろそれらは、資本主義の展開過程においてその矛盾の解決に迫られた国家が、さまざまな手段を駆使して形成するなかで歴史的に形成されてきたものである。そすなわち、交通秩序の維持などを目的とした警察行政と教育や社会保障とが、同じ行政行為または行政処分という概念を用いつつも、まったく同じ制度設計であるはずはないのである。さらには行政領域によって

は、いたずらに行政権限の行使を要請するのではなく、むしろその領域における条理に適切なかたちで、現場における裁量が要請されるようなものもある。

本講義では、かかる行政行為、行政契約、行政指導など行政法総論で学んださまざまな共通概念で語られる行政手段が、資本主義社会およびそれを前提とした国家において、それぞれの分野でいかなる歴史的發展を遂げ、いかなる紛争や問題解決をしてきたのか、それぞれの個別の領域からスポットを当てる。そのことを通じて、よりリアルな国民の人権保障と行政の法的統制の方法を模索する。

さしあたり、行政組織、警察行政、リスク管理行政、地域空間整備行政、教育行政、社会保障行政などの分野をピックアップしつつ、

そこで出されてきた行政課題とそれを乗り越えるために設計された法制度とを検討したい。

〔講義計画〕それぞれの項目を1回または2回の講義で行う

第1回 行政活動の形成的形成過程と行政法の展開

第2回 警察行政

第3回 資本・社会関係——環境問題と環境衛生行政

第4回 資本・賃労働関係——労働災害と労働安

全衛生行政

第5回 国家装置を用いた対立構造の解消形態としての社会保障制度

第6回 環境衛生行政

第7回 教育行政——「国家からの自由」と国家活動の相克

第8回 行政手段の調達に関する行政活動

第9回 公務を担う労働と基本的人権制限の合理的範囲

第10回 まとめ——現代資本主義国家と行政、そして行政法学

# 地方自治論

Theory of Local Government

学期 前期 開講時間 月 3, 4; 木 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地方自治の基本的しくみを学び、地域社会におけるそのはたらきを考察する。

**学習の目的** 地方自治の法原理と制度を理解した上で、分権型社会において自治体が果たすべき役割を主体的に考えてみる。

## 学習の到達目標

- ・地方自治の法としくみを体系的に理解し、系統立てて説明できるようになる。
- ・自治体と住民との現実的・具体的なかわりに即しながら、地方自治の重要性や地方分権の意義を評価できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

地方自治の法としくみは、大きな変動期の最中にある。これらが最終的にどういう形で決着するかはまだ予測ができないが、地方自治の行方は、まちづくり、地域福祉、環境保全といった地域の具体的・現実的な課題として、私たちの日々の生活にも直接かかわってくることになる。そのため、地方自治・地方分権をめぐる近年の動向や今後の展望を、これからの地域に生きる自分自身の関心事として注意深く見守ってもらいたい。

以上を踏まえつつ、本講義では、地方自治の法としくみを学んでいくこととする。

〔授業計画〕

【前半部：地方自治の法としくみ】

前半部の講義では、私たち自身が地方自治の今後をきちんと見据え、更には、地方自治のあるべき姿を主体的に考える上で不可欠となる知識や技術の修得をめざしていく。

ここでは、おおむね次の項目について取り扱う予定である。

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 自学自習用のテキストとして、人見剛＝須藤陽子編著『ホーンブック地方自治法〔第3版〕』（北樹出版、2015年）を掲げておく。

**成績評価方法と基準** 筆記試験をもとに評価する。

### オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

**その他** 講義に際して、レジュメ（「講義案」）等を配付し、それに沿って講義を進める。

1. 地方自治の基礎理論
2. 「地方公共団体」と「自治体」
3. 自治体の事務
4. 自治体の立法
5. 自治体の組織
6. 自治体における住民参政・住民参加
7. 地方自治法制の課題

【後半部：地方自治・地方分権の諸課題】

後半部の講義では、地方自治の法としくみが、現実の地域社会ではいかなる機能を果たしているか、そして、私たち住民の生活とはどのように関わっているかを学んでいく。

ここでは、おおむね次の項目について取り扱う予定である。

1. 地方自治と財政
2. 市町村合併と道州制
3. まちづくりの法と地方自治行政
4. 地域福祉の法と地方自治行政
5. 情報公開・住民参加の法と地方自治行政
6. 地方自治・地方分権の諸課題

# 地方自治論演習

## Seminar in Theory of Local Government

学期 通年 開講時間 月9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地方自治のなかで起きている具体的な問題と、その解決のため自治体が講じる政策の分析・検討を通して、地方自治の法としくみへの理解を深めていく。

**学習の目的** 自治体(法)政策に関する研究を通じて、「地方自治と法」の理論と実際を検討し、地方自治論の研究上の視点を確立することをめざす。

### 学習の到達目標

- ・地方自治の法としくみについての理解を前提に、自治体(法)政策をめぐる諸論点の検討においてそれを応用できるようになる。
- ・地方自治のあるべき姿を主体的に考え、自らの見解を論理的に述べられるようになる。
- ・演習における議論に積極的に参加する。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 適時紹介する。

**成績評価方法と基準** 演習にのぞむ姿勢を評価する。

### オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

**その他** 演習時間は延長が予想されるので、この点を念頭に置いてほしい。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

2016年度の本演習では、自治体が直面する現代的な課題と、それに対応するための政策を題材として、地方自治のあるべき姿を検討する。

保育所、幼稚園、小中学校の運営、図書館や公民館といった公の施設の設置や運営、ごみの収集とその処理、上下水道などの施設建設や維持管理、道路や公園の整備、警察や消防の活動など、私たちの日常生活に密接にかかわる仕事の多くは、住民に最も身近なところに位置する自治体の活動を通じて行われている。このため、私たちの生活の場である現実の地域社会で、どのような問題が起きているのかを知り、よりよい解決に向けていかなる対応策が必要なのかを考えると、地方自治の法としくみについての理解が不可欠となる。

そこで、本年度の演習では、地方自治の諸課題と政策に関する研究を通して、地方自治

の法としくみを学び進めていくことにする。すなわち、各回のゼミでは、環境、ごみ、景観、まちづくり、福祉、防災、水といった地方自治のなかで起きている具体的な問題を分析することに重点を置くこととするが、それらを題材とした綿密な報告と活発な議論を通して、最終的には、自治体の政策形成・政策実現がどのようにして行われるか、それは地域社会に生きる私たちの生活とどのような関わりを有しているか、更には、自治体と住民の関係は実際にはどのようなになっているか、といったことへの理解をより確かなものにしていく。私たちの日々の暮らしに密接にかかわる問題を、自分たちで調べ、考えていく中で、地方自治の法としくみに関する現状と課題を的確にとらえていきたい。

演習の進め方は、報告者グループによる報告をもとに全員で議論する形式をとる。とりあげる題材は、参加者の関心や問題意識に沿って決めていきたい。

# 地方自治特論

## Special Theories of Local Government

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業  
担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地方自治に関する裁判例の検討を通して、「地方自治と法」の具体的・現実的な問題を考察する。

**学習の目的** 裁判例についての正確な読解と正確な分析を通じて、「地方自治と法」に関する理解を深める。また、そこで提起されている憲法・行政法・地方自治法といった公法學上の重要論点を検討して理解を得る。

### 学習の到達目標

- ・裁判例について、判決の主文や理由はもちろんのこと、事実関係や紛争当事者の主張にも目を配りながら、精緻に読み解けるようになる。
- ・地方自治行政をめぐる生じうる法的な紛争・問題について、憲法・行政法・地方自治法の視点から、総合的に検討できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 受講要件

「学習内容」の欄に示すように、本講義で

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

一般に、学部専門科目における法学分野の各講義では、基礎的な法理論や法制度を修得することが中心的課題となる。したがって、裁判例の検討については、それに充てられる時間は限られたものとなり、基礎的な法理論・法制度を理解するのに必要な部分に限って、断片的に取り扱われるのにとどまることが少なくない。これに対して、本講義では、各回につき一つの裁判例をとりあげて、判旨だけでなく、事実関係や紛争当事者の主張についても丹念に精読し、それとの関係で法的な

は、予習を前提とした双方向的な授業を試みる予定であるので、受講各位においては、各回につき設定される課題についての予習と、授業への主体的な参加が不可欠なものとなる。受講希望者はこの点を念頭に置いて授業にのぞんでほしい。

「地方自治と法」についての生きた知識、裁判例を読み解く技能、あるいは公法を学ぶ上での基礎を得たいと考えている人など、意欲的な受講者の参加をぜひとも期待したい。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

#### 教科書

- ・裁判例については、原文を印刷して配布する。
- ・六法を必携のこと。
- ・課題に取り組む上で有益となる文献等は、開講時に紹介する。

**成績評価方法と基準** 課題の提出状況(50%)および授業への参加態度(50%)をもとに評価する。

#### オフィスアワー

月曜日13:00～14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

判断のあり方を理解することに努めたい。具体的な事件の詳細な分析を通じて、「地方自治と法」の現実的ななかかわり合いを考察し、自治体行政のあるべき姿や今後の対応を検討すること、それが本講義の一つのねらいである。

そこで、本講義では、地方自治に関する裁判例を教材に学んでいくこととするが、広い意味での地方自治に関する諸判例の争点は、地方自治法上の論点に限られず、憲法および行政法上の論点もまた密接あるいは複雑に絡み合いながら、具体的・現実的な紛争として生

じている。更に、それらの紛争の多くは、まちづくり、環境保護、教育など、私たちの身近なところで展開される、さまざまな自治体行政活動に関連して提起されている。このため、地方自治に関する裁判例を理解する上では、以上のことを踏まえた総合的な考察が必要とされることとなる。自分の身のまわりでも生じる法的紛争という生きた素材を用いて、地方自治法はもちろん、憲法および行政法を含めた公法を学ぶに際しての基本的な視

角を形成すること、それが本講義のもう一つのねらいである。

具体的な講義運営の方法については、履修登録者の総数に配慮し、また、受講者とも相談した上で決定することとするが、一方的に講義する方法ではなく、各回ごとに設定される課題についての受講者による予習を前提として、演習的な要素を適宜とり入れた双方向的な授業を試みたいと考えている。

# 国際関係論

International Relations

学期 後期 開講時間 月 5, 6; 木 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 古瀬啓之 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 現代の国際関係における諸問題(安全保障、グローバル化等)とその歴史的背景を考察する。

**学習の目的** 国際的な諸問題の歴史的背景や構造的な問題を複眼的な視点から見られるようになる。

**学習の到達目標** 現代の国際関係を理解する上での枠組みを知り、現在の国際問題に対する判断力を高める。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, モチ

ベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 国際法総論、国際組織法、政治学原論、日本政治史

**成績評価方法と基準** 中間テスト50点+期末テスト50点=100点満点

**オフィスアワー** 木曜日の授業後

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2～3回 国際政治の概念

第4～6回 第一次世界大戦の衝撃

第7～10回 第一次世界大戦後の国際秩序の形成と崩壊

第11～13回 第二次世界大戦後の国際秩序

第14～18回 冷戦

第19～25回 冷戦後ーグローバル化

第26～30回 国際関係の理論ー「現実主義」と「理想主義」

# 国際関係論演習

International Relations Seminar

学期 通年 開講時間 木9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 古瀬 啓之

**授業の概要** 現代の国際関係の歴史的、構造的背景を知る。戦争と平和、紛争解決、環境問題などを中心に考察する。

**学習の目的** 国際政治史の文献講読を行い、自分の興味のあるテーマを見つけ、自分の力で調べ、それについて自らの見解を他のゼミ生の前で示す。これにより、自分の考えを根拠に基づいて他者につたえる能力が身に付く。

**学習の到達目標** 自らの関心に基づく学習と、その成果の発表、そして議論を通して、国際関係における諸問題を複眼的に見ることができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 専門知識・技術,

論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 国際関係論、西洋政治外交史、政治学原論、日本政治史、政治思想史

**発展科目** 国際法総論、国際組織法、国際法各論、行政学

**教科書** 演習の初回の話し合いにより決める。

**成績評価方法と基準** 個人発表50% + 議論への参加の態度50%、計100%

**オフィスアワー** ゼミ終了後

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 第一回 文献決定、発表担当者決定、第二回～三〇回 担当者による発表、それ

に基づく議論



# 特殊講義【アジア政治論Ⅰ】

Special Lecture Asian Politics1

学期 前期集中 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 外山 文子 (非常勤講師)

**授業の概要** 東南アジアの民主化の状況について、各国の実態を学ぶことより理解する。本講義では、タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、ベトナム等を取り上げる。

**学習の目的** 東南アジア各国の政治体制、政治的課題について基本的な知識を習得する。

**学習の到達目標** 講義で学んだ知識をもとに、先進国とは異なる、アジアにおける民主化の条件、特徴、今後の課題等について理解する。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 国際関係論

**教科書**

片山裕・大西裕(編)『アジアの政治経済・入門 新版』有斐閣ブックス、2010年  
清水一史・横山豪志・田村慶子(編著)『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年

**成績評価方法と基準** 出席50%、筆記試験50%

**オフィスアワー** 授業後

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 アジア民主化の状況について(概説)  
第2回 政治体制の変動に関する分析枠組み  
第3回～第4回 タイ  
第5回～第6回 インドネシア  
第7回～第8回 マレーシア

第9回 シンガポール  
第10回 ミャンマー  
第11回 ベトナム  
第12回～第13回 東南アジア諸国を結ぶ横軸  
第14回 ASEAN  
第15回 総合討論

# 特殊講義 [政治社会学Ⅰ]

Political sociology

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

**授業の概要** まず、講義全体の前提として、人間の社会的行為、社会関係についての原理的考察を試みる。これに基づき、の日本の政治社会に関する古典的文献にも親しみながら、日本社会の構造的特質とその変動のダイナミズム等のテーマにとりくむ。具体的事例として、自民党長期政権時代から今日に至る政治変動と、昭和ファシズムの時期をとりあげたい。

**学習の目的** 人文社会科学の原理的なレベルから考え、日本の政治・行政の構造的特質、動態の特質を把握していく。原理的なレベルから考えることにより、マクロな社会現象から身近な人間関係まで、自分なりに分析する手がかりを得られるようにしたい。

## 学習の到達目標

- 1、人間の社会的行為を把握する視点、方法について一定の理解を得る。
- 2、1に基づき、日本の政治、社会の安定期のメカニズムについて一定の理解を得る。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1、社会的行為とはなにか
- 2、社会的行為と言葉
- 3、「甘え」の構造
- 4、「母性社会」としての日本
- 5、集団主義
- 6、自民党の利益政治と「五五年体制」
- 7、集団主義のパラドクス
- 8、集団主義とタテ社会

- 3、1に基づき、日本の政治、社会の変動期のメカニズムについて一定の理解を得る。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特にないが、講義のテーマに関心をもっていることが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** 全学共通教育「政治学」(岡田担当)

**発展科目** 後期の政治社会学Ⅱ

**教科書** 教科書は使用しない。

**成績評価方法と基準** 評価は、基本的に期末試験により決定する(90%)。出席点を加味する(10%)。

**オフィスアワー** 非常勤講師なので質問等は授業の前後にお願いします。

- 9、日本官僚制のパラドクス
- 10、日本社会の変動のダイナミズム
- 11、「超国家主義」のダイナミズム
- 12、「超国家主義」の「抑圧委譲」と「下剋上」
- 13、1990年代以降の日本政治のダイナミズム
- 14、日本政治の変動のパターンとその変容
- 15、まとめ

# 特殊講義 [政治社会学Ⅱ]

Political sociology

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

**授業の概要** 人間の社会的行為、社会関係の本質についての原理的考察を深めながら、宗教改革、絶対王政、主権国家の成立、産業資本主義等、近代の諸制度の成立と展開、さらに現代社会の行方についての展望を試みる。この中で、社会科学の古典的文献にも親しんでいく。

**学習の目的** 近現代の社会と個人の成立と構造的性質についての原理解理解を試み、マクロな社会現象から身近な人間関係まで、自分なりに分析する手がかりを得たい。またこの中で、社会科学の古典的文献のいくつかの基本的論点、基本的概念を知り、それらの今日の意義を再確認していきたい。

## 学習の到達目標

- 1、人間の社会的行為を把握する視点、方法について一定の理解を得る。
- 2、1に基づき、近代社会の成立と展開、その性質について基礎的理解を得る。
- 3、1に基づき、今日の社会の危機の諸相と、

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 1、西欧における近代の成立
- 2、社会的行為と言葉
- 3、近代における「合理化」
- 4、プロテスタンティズムとピエタートの抑圧
- 5、宗教改革と絶対王政
- 6、国際的システムの中の主権国家
- 7、宗教改革と資本主義
- 8、カルヴァンの「予定説」
- 9、市民革命と近代社会の諸様相
- 10、労働の疎外
- 11、ケインズ主義的経済政策と福祉国家
- 12、戦後日本政治のパラドクス
- 13、モダンの展開とセルフ・アイデンティティ
- 14、モダンとポスト・モダン
- 15、まとめ

それをのり越えていく展望について、考えていく。

**本学教育目標との関連** 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特にないが、講義のテーマに関心をもっていることが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** 全学共通教育「政治学」（岡田担当）、前期の「政治社会学Ⅰ」。

**教科書** 教科書は使用しない。

**成績評価方法と基準** 基本的に期末試験により決定する（90%）。出席点を加味する（10%）。

**オフィスアワー** 非常勤講師なので質問等は授業の前後にお願いします。

# 特殊講義（英語） 国際社会と法 Law in International Community

**学期** 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 洪 恵子 (人文学部)

## 授業の概要

この授業は英語で行われる。国際法のなかでも、特に武力の規制に関するルールを学ぶ。講義とセミナー形式の双方を取り入れる。

This class will be conducted in English. We study the important topics of International Law (regarding 'use of force'). The style of the class will be a combination of lectures and seminars.

## 学習の目的

This course aims to provide the students with the opportunity to learn

International Law in English. The style of the class will be a combination of lectures and seminars. In the seminars, the students are expected to prepare and to give a presentation to the class. In this way, it is expected that it would develop students' proficiency in English

## 学習の到達目標

Hopefully by the end of the semester, the students will be able to understand the basic concepts regarding the use of force in international law and to express his/her ideas in English.

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

**受講要件** It would be preferable that the participating students have already taken some classes pertaining to International Law, however, this is not a requirement. I welcome any students who are interested in international community and law.

**予め履修が望ましい科目** 国際組織法総論、国際法各論、国際組織法

**教科書** The reading materials will be provided in the class.

## 成績評価方法と基準

Grades will be based on Participation in classroom discussions and Presentations to the class.

**オフィスアワー** Tuesday 14:40-16:10

**その他** この講義は国際法に関する英語の講義です。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. Introduction
2. Basic concepts of International Law: Subjects of International Law (1)
3. Subjects of International Law (2): Legal criteria of Statehood
4. Use of Force in International Law (1): Historical Development

5. Use of Force in International Law (2): Use of Force under UN Charter
6. Use of Force in International Law (3): Exceptions to the Prohibition on Use of Force
- 7-15: Students' presentations on new doctrines or state practice regarding use of force, followed by the discussions with other participants

# 民法総則

学期 後期 開講時間 月 7, 8; 水 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 上井長十

**授業の概要** 民法は、人の日常生活関係を規律する私法の要である。本講義では、民法全体の概説および民法の第一編総則（第一条～第一七四条の二）を扱う。市民間の生活関係は、財産・取引関係と身分（家族・相続）関係とに大別できるが、民法総則は、主に前者の關係に共通する基本原則を定めている。すなわち、それは「権利の主体」、「権利の客体」、「権利関係の変動の原因・結果」である。日常生活における権利義務関係をめぐる基本原則を理解することが本講義の目的である。

**学習の目的** 民法典の構造把握、および、民法総則編で定める規定の基本的知識を理解する。

**学習の到達目標** 民法総則における基本的な諸概念および諸原理を理解し、条文解釈の意義および方法を習得する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 発展科目

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

以下の項目を講義する。

1. 民法の全体像
2. 民法の基本原則
3. 権利の主体（人・法人等）
4. 権利の客体（物）
5. 法律行為
6. 意思表示
7. 代理
8. 期間、時効

具体的には、以下のような諸項目を扱う予定である。

- 1 導入、民法とは

法律科目全般

### 教科書

[テキスト] 未定

[参考書]

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）

平野裕之『民法総則』（日本評論社）

我妻栄『新訂民法総則』（岩波書店）

内田貴『民法Ⅰ』（東京大学出版会）

山本敬三『民法講義1総則』（有斐閣）

佐久間毅『民法の基礎1総則』（有斐閣）

川井健『民法概論1民法総則』（有斐閣）

石田穰『民法総則』（悠々社）

四宮=能見『民法総則』（弘文堂）

など、

**成績評価方法と基準** 成績評価は、定期試験によりおこなう。

### オフィスアワー

月曜日 16:30～18:00

火曜日 10:00～18:00

水曜日 10:00～16:00

（ただし、上井の講義時間帯は除く）

**その他** 六法（判例付きが望ましい）は必ず持参するように。

2 民法の指導原理、私権の意義・種類、私権行使の一般原則

3 自然人—その1（権利能力）

4 自然人—その1（住所、失踪宣告）

5 権利の客体（物）

6 法律行為総論（法律行為の意義）

7 法律行為総論（公序良俗等）

8 意思表示1（意思の欠缺：心裡留保、虚偽表示、94条2項類推適用）

9 意思表示2（瑕疵ある意思表示：詐欺、強迫）

10 自然人—その2（意思能力、行為能力：制限能力者保護）

- 11 無効と取消
- 12 代理1 総論
- 13 代理2 (代理権：代理権の範囲、代理人の義務)
- 14 代理3 (代理行為：顕名、代理行為の瑕疵)
- 15 代理4 (無権代理、表見代理)
- 16 条件・期限
- 17 期間
- 18 時効1 時効総論
- 19 時効2 消滅時効
- 20 時効3 取得時効
- 21 法人 (法人の意義・種類・本質)
- 22 法人 (法人の設立, 権利能力なき社団・財団, 法人格否認の法理)
- 23 法人 (法人の能力、法人の機関・公示・監督・解散)

# 民法A演習

seminar(civil law A)

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 上井長十

**授業の概要** 民法財産法に関する事例問題の検討および裁判例分析を行う。

**学習の目的** 講義で習得した民法の知識をもとに、実際に生じている民事紛争の解決策を導く。

**学習の到達目標** 判例等を用いた事例研究を通じ、民法の基本的理解を深め、法的思考力の養成を目指す。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

ション力を総合した力

## 教科書

『民法判例百選Ⅰ（総則・物権）第五版』  
（別冊ジュリスト有斐閣）、

『民法判例百選Ⅱ（債権）第五版』（別冊ジュリスト有斐閣）、

その他

**成績評価方法と基準** 評価は、報告およびゼミに対する取り組み姿勢により評価する。

**その他** ゼミには必ず六法（コンパクトなものでよい）を持参すること。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

判例報告、および事例問題をゼミ員各自またはグループに割り振り、レポーターの報告を基に、ゼミ員全員で議論し検討する。

扱う対象は、民法財産法全般（総則、物権、

債権）にわたる。

ゼミ員の報告、議論が中心となる。したがって、レポーター以外の諸君も各自予習は欠かせぬよう心がけてもらいたい。

# 債権総論

obligations

学期 前期 開講時間 火 5, 6; 水 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 6年次 授業の方法 講義  
担当教員 上井長十

**授業の概要** 債権関係から生じる法的諸問題の把握と理解

**学習の目的** 契約や不法行為から生じる権利、義務の構造を理解し、そこから生じる諸問題について理解する。

**学習の到達目標** 債権編が定める諸制度を理解し、条文の解釈をめぐる裁判例および学説の議論状況を習得する。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**発展科目** 債権各論、物権法、金融論、商法関係（会社法、商取引、商行為、保険法）、労働法関係、民事執行法、倒産法、等。

**教科書**

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

民法第3編債権第一章総則（399条から520条）および、第二章契約第一節総則（521条から548条）を扱う。本講義は、契約及び不法行為から生じる債権・債務の通則的内容を検討対象とする。具体的項目は、以下の通りである。

1. 債権とは（債権の目的：特定物債権、種類物債権、利息債権、等）
2. 契約関係の構築（契約交渉における義務、申込と承諾）
3. 契約内容の実現（履行の強制、同時履行の抗弁権など）
4. 契約の解除、危険負担

〔テキスト〕 未定

〔参考書〕

『民法判例百選Ⅱ（第五版新法対応補正版）』

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

川井健『民法概論3 債権総論』『民法概論4 債権各論』

水本浩『債権総論』『契約法』（有斐閣）

山本敬三『契約法』（有斐閣）

我妻栄『債権総論』（岩波書店）

など

**成績評価方法と基準** 定期試験による

### オフィスアワー

火曜日 11:00～18:00

水曜日 10:00～16:00

**その他** 六法（判例付きが望ましい）は講義時に必ず持参すること。

5. 契約違反に対する救済（債務不履行責任、債務不履行と不法行為の競合問題）
  6. 責任財産の保全（債権者代位権、債権者取消権）
  7. 多数の者による債務負担行為（不可分債務、連帯債務、保証、等）
  8. 金銭債権の譲渡
  9. 金銭債権の消滅方法（弁済、相殺、更改、等）
- 講義スケジュール：  
講義前半は、取引関係の交渉から取引内容の実現に至までの諸問題を中心に講義を行う。  
講義後半は、契約違反に対する救済や金銭債権回収に関する諸問題を扱う。



# 物権法

property law

学期 後期 開講時間 火 1, 2, 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 上井長十

**授業の概要** 民法の物権編（物権、担保物権）に関する諸問題の考察

**発展科目** 民法総則、債権総論、債権各論、民事訴訟法、破産法、民事執行法、金融論

**学習の目的** 物の支配関係から生じる法的諸問題の把握と解決法の理解、および、金融担保制度に関する法的諸問題の把握と理解

**教科書** [テキスト] 未定

**成績評価方法と基準** 定期試験による

**学習の到達目標** 物権関係をとおした民法の条文解釈の習得、および、金融担保制度の理解

**オフィスアワー**

月曜日16:30～18:00

火曜日10:00～18:00

水曜日10:00～16:00

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**その他** 六法を持参すること（コンパクトサイズのものでよいが、判例付きであるものが望ましい）

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

以下のような項目を予定している。前半は、所有権を中心とした物権の移転に関わる法的論点の考察が中心となる。後半は、抵当権、質権、譲渡担保を中心とした金融担保制度の考察が中心となる。

1. 物権とは
2. 物権的請求権
3. 物権変動序論
4. 物権変動—民法176条の意思
5. 物権変動—不動産の権利移転：民法177条の対抗要件
6. 物権変動—動産の権利移転：民法178条の即時取得
7. 所有権
8. 共有
9. 建物区分所有
10. 地上権、地役権、永小作権、入会権

11. 占有
12. 物的担保制度
13. 抵当権の意義
14. 抵当権の効力—総論
15. 抵当権の効力—物上代位
16. 抵当権と不動産利用関係
17. 抵当不動産の第三取得者
18. 抵当権の処分
19. 共同抵当
20. 根抵当
21. 抵当権の実行
22. 質権
23. 譲渡担保
24. 所有権留保、代理受領
25. 留置権
26. 先取特権
27. まとめ

# 債権各論

obligations, contract, tort law

学期 前期集中 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 白石 友行

**授業の概要** この授業は、民法の講学上「債権各論」と呼ばれている部分のうち、契約各論、事務管理、不当利得、不法行為を対象とする（契約総論の部分は、「債権総論」の授業で扱われる）。とりわけ、契約と不法行為が本授業の中心となる。契約、不法行為は、日常生活や取引活動と密接に関わる法制度であるから、この授業では、豊富な具体例、判例や裁判例、取引実務などを素材として、契約や不法行為に関する法的規律が現実の社会においてどのような意味を持っているのかを確認する。また、契約、不法行為は、民法のみならず、私法の根幹に関わる法領域であると同時に、市民社会の基本的な仕組みを構成する部分であるから、これらの基礎にある理念、原理、思想等から説き起こすことになる。なお、この授業は、民法あるいは法学についての知識が全くないことを前提に進める。また、この授業と前期集中講義期間に開講される債権総論は、通常の「総論」「各論」とは異なるので、どちらの授業を先に受講しても問題はない。

**学習の目的** 契約、不法行為の基本原則、基礎理論を体系的に理解する。日常生活や取引活動の中で起こる様々な事実や紛争の中から法的問題を抽出する能力を身に付ける。契約、不法行為に関する法的ルールを使いこなす能力を身に付ける。契約、不法行為についての見方、それらの法的規律のあり方を問う能力を養う。民法の中で市民社会の基本的な仕組みがどのように形成されているのかを理解する。

**学習の到達目標** 契約、不法行為についての

基本的な考え方を説明することができる。事実を詳細かつ正確に検討し、そこから、法的に意味のある事実を抽出することができる。習得した知識を用いて、法的問題へとアプローチすることができる。契約や不法行為の制度のあり方について、一定の見方を表明することができる。自らの考えを自らの言葉で表現することができる。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 物権法、債権総論、家族法、会社法、商法総則、商取引法、労働法

**教科書** 配布する資料に基づいて講義する。

**成績評価方法と基準** 理解を確認するための小テスト及び平常点40%、期末試験または期末レポート60%

**オフィスアワー** 質問・相談などがあれば、授業の前またはメールで受け付けるので、納得いかないこと、分からないこと、どこが分からないか分からない状況、授業に対する意見など、些細なことでも構わないので、遠慮なく質問して下さい。

**その他** 小型のものでよいので、授業には必ず六法を持参すること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 ガイダンス、序論、契約総論

第2回 売買①

第3回 売買②

第4回 売買③

第5回 売買④

第6回 贈与

第7回 消費貸借

第8回 使用貸借、賃貸借①

第9回 賃貸借②

- 第10回 賃貸借③
- 第11回 賃貸借④
- 第12回 賃貸借⑤、役務提供契約総論
- 第13回 請負①
- 第14回 請負②
- 第15回 委任、事務管理
- 第16回 寄託、和解
- 第17回 中間のまとめ
- 第18回 組合
- 第19回 典型契約論、不法行為①総論
- 第20回 不法行為②要件1
- 第21回 不法行為③要件2
- 第22回 不法行為④要件3
- 第23回 不法行為④要件4
- 第24回 不法行為⑤効果1
- 第25回 不法行為⑥効果2
- 第26回 不法行為⑦効果3、人に関する責任1
- 第27回 不法行為⑧人に関する責任1、物に関する責任
- 第28回 不法行為⑨共同不法行為
- 第29回 不当利得①総論、要件
- 第30回 不当利得②効果、特殊な不当利得

# 家族法

Family Law

学期 後期 開講時間 月 1, 2; 水 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 稲垣 朋子

**授業の概要** 民法典の中の親族・相続法（第4編、第5編）を扱い、法律が身近な家族というものに、いかに結びついているのかを知る。また、少子・高齢化、晩婚・未婚化、生殖補助医療技術の発展など、民法制定時には想定されていなかった問題が家族法にどのように反映されているかを学ぶ。あわせて、時事トピックスには新聞記事・資料等で適宜ふれる。

**学習の目的** 家族法の学説・判例の基礎に対する理解を深めることが第一の目標である。そのうえで、家族に関わる問題について法的思考力をもって自ら解決法を考える力を身につける。

**学習の到達目標** 親族法、相続法のそれぞれについて、基本事項を説明することができる。事案を見て、何が法的に問題となっているかを指摘し、それに関する自らの意見を述

べることができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 民法関連科目

## 教科書

高橋朋子＝床谷文雄＝棚村政行『民法7 親族・相続[第4版]』（有斐閣、2014年）

松川正毅『民法 親族・相続[第4版]』（有斐閣、2014年）

初回の授業で説明する。

**成績評価方法と基準** 中間試験50%、期末試験50%

**オフィスアワー** 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 家族法の基本原理

第3～5回 婚約、婚姻、内縁

第6～7回 離婚

第8～9回 実親子関係

第10～11回 養親子関係

第12～13回 親権、未成年後見

第14～15回 成年後見

第16回 扶養

第17回 相続法の基本体系

第18～19回 相続人と相続分

第20～22回 相続の効力

第23～24回 遺産分割

第25回 相続の承認・放棄

第26～27回 遺言

第28回 遺贈

第29～30回 遺留分

# 家族法演習

Family Law (Seminar)

学期 通年 開講時間 木 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

**授業の概要** 家族法に関して判例研究を行ったり、特定のテーマを掘り下げ、報告・議論を行う。

## 学習の目的

家族法の諸論点・課題について、先行研究を踏まえたうえで各自問題意識を持って考察することにより、法的思考力を高める。

## 学習の到達目標

家族法の諸論点に関する様々な立場・考え方を説明することができる。そして、その問題解決のためには何が必要とされるかについて、意見を述べたり、議論をすることができる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

詳細については演習第1回目のガイダンスで説明する。

前期は、家族法や民法全般の基礎知識の定着に重点を置く。重要なテーマや判例について報告者に調査・報告してもらい、その後、全

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 家族法、その他民法関連科目

**教科書** 初回の授業で紹介する。

**成績評価方法と基準** 出席状況、報告内容、議論への参加を総合的に評価する。

**オフィスアワー** 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

員で予備知識を確認し、問題を整理しながら討論を行う。

後期は、各受講生の興味・関心に沿って各回のテーマを決定し、報告を行う形式をとる予定である。

# 刑法総論

Criminal Law 1

学期 前期 開講時間 火3, 4; 金 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle  
担当教員 田中 亜紀子

## 授業の概要

刑法とは犯罪と刑罰を定めた法律である。

刑法総論では、刑法の基礎知識ならびに基本的な考え方を身に付けることを目標とし、各犯罪や刑罰に共通する通則を定めた総則部分を学ぶ。講義では必要に応じて適宜判例、時事問題を取り上げる。

**学習の目的** 刑法の基本原則ならびに犯罪論に関する基礎知識を修得すること、さらには現代社会における犯罪現象に対する分析力ならびに法的思考能力を身につけることができるようになること。

**学習の到達目標** 刑法の基本原則ならびに犯罪論に関する基礎知識を得ること。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 法学概論、日本国憲法

**発展科目** 刑法各論、刑事訴訟法、刑事政策、少年法等

## 教科書

『刑法判例百選Ⅰ 総論 [第7版]』山口厚・佐伯仁志編・有斐閣・2014年  
六法全書

## 成績評価方法と基準

中間試験40%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)  
任意レポートの提出により10%の加点あり。

**オフィスアワー** 毎週火曜日14:40-16:10 人文校舎4階 田中研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1.刑法について
- 2.刑法の歴史
- 3.刑罰について
- 4.刑法の基本原則
- 5.犯罪論・刑法理論
- 6.構成要件（行為論、構成要件、不作為、因果関係、故意、錯誤、過失）

- 7.違法性（違法性論、正当防衛、緊急避難、被害者の同意、安楽死・尊厳死）
- 8.責任論（責任主義、責任能力、原因において自由な行為）
- 9.未遂犯（未遂犯・中止犯・不能犯）
- 10.共犯
- 11.罪数と量刑

# 刑法演習

## Criminal Law 1 (Practice)

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 田中亜紀子

### 授業の概要

刑法の学習に際しては、条文の内容を正確に理解するとともに、刑法が制定された背景ならびその内容を理解することが重要である。また、刑法の内容を理解するためには、判例分析などを通じて、現実が発生した事件に対して刑法がどのように適用されたかを検討することが必要である。さらに、刑法をより深く理解するためには、刑法の基本知識を習得することは勿論、現時点における刑法の問題点、そして変化し続ける社会の動向と関連して刑事法領域で注目されている諸問題（犯罪の国際化、犯罪被害者、少年事件、虐待問題やDVに関する諸法など）について知識を習得することも必要である。

以上の必要性から当演習では、刑法の基本知識を習得するとともに、刑法の現状ならびに問題点の検討を行う。

**学習の目的** 刑事法領域の近年の動向について理解を深めるとともに、特に自分が興味を持ったテーマについて調査し、発表を行うことを通じて主体的な研究力をつける。

**学習の到達目標** 刑事法領域の近年の動向について、基本的な知識に基づいて議論ができるようになる。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

詳細は最初の授業時に、参加者の希望を踏まえた上で決定するが、全体としては以下の通りである。

1:オリエンテーション

2:刑事法分野から選んだテーマについてグルー

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 裁判傍聴、シンポジウム・講演会などの刑事司法関係イベントへの参加が可能であること。

**予め履修が望ましい科目** 日本国憲法、刑法総論

**発展科目** 刑法各論、刑事訴訟法、少年法、刑事政策

**教科書** 授業中に適宜紹介する。

**成績評価方法と基準** 出席・報告・発言など、授業への参加状況により評価を行う。

**オフィスアワー** 火曜日 14:40-16:10、研究室（訪問に際しては予めメールで予定を問い合わせること）

**その他** 特になし

プ報告

3:『学生論集』テーマならびに分担決定

4:『学生論集』中間報告、最終報告および原稿執筆

5:模擬裁判シナリオ執筆

6:卒業論文に向けた個別研究

# 刑事訴訟法

criminal procedure and evidence

学期 前期 開講時間 火 7, 8; 金 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義 担当教員 伊藤 睦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 刑事訴訟の基本理念を踏まえながら、刑事事件における捜査・裁判手続全体の流れを概観し、その現状と問題点につき個別具体的に検討する

**学習の目的** 刑事訴訟における人権の意味を理解する。また、報道等で得られる情報についても、鵜呑みにするのではなく、きちんと科学的に検証し、犯罪現象とそれを取り巻く司法の現状について正しく認識することができるようになる。

## 学習の到達目標

刑事裁判に関する基本的知識を得る。

犯罪報道等で得られる情報につき、法律的な観点から疑問を持つことができるようになる

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

憲法が厳格に定める刑事人権規定の趣旨に照らし合わせながら、刑事手続の全体につき概観し、憲法の理念に合わないと考えられる捜査・裁判上の問題点につき個別に検討を加えていく。

各回の授業内容はおよそ下記のとおりである。

第1回 刑事訴訟の基本原則

第2回 捜査の端緒

第3回 おとり捜査

第4～7回 逮捕・勾留

第8～10回 被疑者取調と黙秘権

第11回 任意同行と取調

る。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 刑法総論、刑法各論

**発展科目** 刑事政策、少年法

**教科書** 教科書は特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 中間テスト50%、期末試験50%の計100%

**オフィスアワー** 毎週金曜日5～6限、人文学部4階伊藤研究室（前期のみ）

第12回 捜索・押収

第13～14回 強制採尿と盗聴

第15回 弁護人の援助を受ける権利

第16回 中間テスト

第17～18回 公訴の提起と市民的コントロール

第19～20回 審判の対象

第21回 証拠法の基本原則

第22回 科学的証拠

第23回 違法収集証拠排除法則

第24回 自白

第25～26回 伝聞法則

第27～28回 共犯者の自白

第29～30回 公判前整理手続と証拠開示



# 刑事訴訟法演習

## Seminar on Criminal Procedure and Criminal Justice

学期 通年 開講時間 火9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤 睦 (人文学部社会科学科)

**授業の概要** 刑事訴訟法の基本原則を理解し、その原則に照らして本来到達すべき手続の在り方とはどのようなものか、それに対して刑事訴訟の現状がどのような問題を孕んでいるかを把握した上で、自分なりの解決策を探求してもらいたい

**学習の目的** 刑事訴訟の現状と基本原則を正しく理解する。刑事手続に関わる様々な問題に関して主体的に考え、法的な知識を用いながら自らの意見を表明する力を身につける。

**学習の到達目標** 刑事裁判と冤罪事件についての正しい知識を得る。模擬裁判、冤罪事件の現地調査・報告会等を通じて、刑事裁判の資料を読み解く力と、そこで得た知識を情報として発信する力が身につく。また、他人と協働する力、コミュニケーション力も身につく。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

前半

冤罪事件現地調査の事前準備及び実施

模擬裁判シナリオ作成

裁判傍聴、検察庁見学、刑務所見学、少年院見学等

刑事司法の現状と問題点について実践的に学ぶ

後半

他大学との合同ゼミ（前半の勉強の成果報告

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 刑法総論、刑法各論

**発展科目** 刑事訴訟法、刑事政策、少年法

**教科書** 特に指定しない

**成績評価方法と基準** 報告の内容と議論への参加状況により評価します。

#### オフィスアワー

(前期) 毎週金曜日5～6時限目

(後期) 毎週火曜日3～4時限目

人文学部棟4階伊藤研究室

を兼ねる)

個別報告

刑事裁判をめぐる課題について、様々な角度から検討を加える。

なお、個別報告では、各自の関心に合わせて、刑事訴訟法上の論点に限らず、少年法、刑事政策上の論点（犯罪被害者、触法精神障害者、死刑問題）や犯罪報道等に関するものなどの中から、自由にテーマを選択して頂きます。

# 刑事政策

Criminal Justice

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 伊藤 睦 (人文学部社会科学科)

**授業の概要** 犯罪・非行現象に対して、従来の国家がどのような対応をとってきたかを概観し、その対応の有効性や問題点について検討する。最近の立法・改革動向についても分析する。

## 学習の目的

犯罪・非行現象やデータを科学的に分析し、その動向を正しく認識する力が身につく。犯罪者の処遇を取り巻く現状について正しく理解し、犯罪・非行を防ぐための国家の対策が正しい方向性を持つものなのかどうか、自ら検討することができるようになる。

## 学習の到達目標

犯罪統計の意味が理解できるようになる。  
犯罪者の処遇に関する基本的知識を獲得する。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

この授業では、次のような順序で話を進める。各テーマにつき1~3回の授業時間を割り当てる。

- 1 刑事政策とは
- 2 犯罪統計の読み解き方

犯罪者の処遇をめぐる議論の意味を理解し、報道等の内容を批判的に検討できるようになる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法

**発展科目** 少年法

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 学期末の筆記試験による。

**オフィスアワー** 火曜日3~4時限(後期のみ)。人文学部棟4階伊藤研究室。

- 3 死刑制度
- 4 刑務所の現状と課題
- 5 社会内処遇の現状と課題
- 6 近年の犯罪対策のあり方と立法動向
- 7 犯罪被害者をめぐる諸問題
- 8 犯罪報道

# 会社法

Corporate Law

学期 後期 開講時間 火7, 8; 金3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業  
担当教員 名島利喜

**授業の概要** 会社に関する法規制および条文の解釈についての判例・学説の状況について概説を行なう。

**学習の目的** 会社の組織と行動に関する基本ルールについて学び、現代経済社会を構造的に理解できるようになる。

**学習の到達目標** 会社制度の存在と活動に法的枠組みを提供している会社法の全体像について知り、その基本的な骨格と機能を理解できるようになる。

**本学教育目標との関連** 共感, 専門知識・技術,

社会人としての態度

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 民法総則、商法総則

**発展科目** 商取引法

**教科書** 最新版の六法（小型のものでよい）

**成績評価方法と基準** 中間の小テスト40%、期末試験60%、計100%。

**オフィスアワー** 毎週火曜日16:20~17:20、場所 名島研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

講義：

第1回 ガイダンス 第17回 会社の機関  
第2回 会社制度の意義 第18回 株主総会①  
第3回 会社の概念 第19回 株主総会②  
第4回 会社の種類 第20回 業務執行機関  
第5回 会社の能力 第21回 取締役  
第6回 持分会社 第22回 取締役会  
第7回 株式会社の意義・特質 第23回 代表取締役

第8回 株式会社の設立① 第24回 会計参与  
第9回 株式会社設立② 第25回 監査役  
第10回 株式① 第26回 委員会設置会社  
第11回 株式② 第27回 役員等の損害賠償責任  
第12回 株式③ 第28回 会社の計算  
第13回 株式④ 第29回 組織変更・組織再編行為  
第14回 株式⑤ 第30回 後半のまとめ  
第15回 前半のまとめ 第31回 期末試験  
第16回 中間の小テスト

# 会社法演習

Corporate Law Seminar

**学期** 通年 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 4 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 3年次

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

**担当教員** 名島利喜

**授業の概要** 企業に関する「事件」を素材にして、その事件を法律的に分析する。

**学習の目的** 企業をとり巻く法について知り、現代経済社会における法の仕組みと働きを理解できるようになる。

**学習の到達目標** 現実に社会に存在する企業の法律問題について、企業法という観点からアプローチできるようになる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 会社法を履修済であることが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** 会社法

**発展科目** 商法総則 商取引法

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 出席60%、報告20%、質疑応答20%、計100%。

**オフィスアワー** 毎週金曜日 16:20～17:20、場所 名島研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

演習：  
第1回 ガイダンス

第2回～6回 企業法の概説  
第7回～第30回 報告・質疑応答

# 商取引法

Law of Commercial Transaction

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 名島 利喜 (人文学部法律経済学科)

## 授業の概要

商法上の法規制の存在・内容を正確に理解できるようにする。

まず、商取引の全般に適用される商法の規定について説明する。そのうえで、代表的な商取引について個別具体的に説明していく。

**学習の目的** 民法の取引に関する基本ルールでは不十分なし不適切な事項について、商法がどのように規律しているかを知ることができる。

**学習の到達目標** 法的側面だけでなく、ビジネスの生きた姿が見えるようにする。

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 民法総則、債権総論

**発展科目** 商法総則、会社法

## 教科書

教科書：落合誠一ほか『商法Ⅰ―総則・商行為〔第5版〕』（有斐閣、2013年）

参考書：講義の進行に応じて適宜指示する。

**成績評価方法と基準** 小テスト40%、期末試験70%、計100%。

**オフィスアワー** 毎週火曜日16：20～17：20、場所名島研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業取引と商行為
- 第3回 商行為総則
- 第4回 契約の効力・担保
- 第5回 商事売買取引
- 第6回 消費者売買
- 第7回 運送取引
- 第8回 運送取扱取引

- 第9回 倉庫取引
- 第10回 場屋取引
- 第11回 金融取引
- 第12回 証券取引
- 第13回 保険取引
- 第14回 カードによる取引
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

# 法哲学

Legal Philosophy

学期 後期 開講時間 月 5, 6; 木 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle  
担当教員 高橋秀治 (人文学部)

**授業の概要** 法律にはなぜ従わなければならないのだろうか。古来、この問題に対してはさまざまな解答が寄せられてきた。授業ではそれらを、それぞれの時代背景とともに振り返りながら、法律についての理論の展開を辿る。

**学習の目的** 法の存在および拘束力について、法思想および現代の法理論の観点から理解を深めることができる。

**学習の到達目標** 歴史上の代表的な論者の法に関する考え方を学び、理解することができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 法政コースの諸科目

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回～第3回 法哲学とは何か

第4回～第5回 法の拘束力についての予備的考察

第6回～第9回 古代ギリシア・ローマ時代の自然法理論

第10回～第13回 キリスト教的自然法理論

**発展科目** 法哲学特論、法思想史

**教科書** 深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2015年）、森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）、長谷部恭男『法とは何か——法思想史入門【増補新版】』（河出ブックス、2015年）、瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）、亀本洋『法哲学』（成文堂、2011年）、井上達夫編『現代法哲学講義』（信山社、2009年）、小林公『法哲学』（木鐸社、2009年）、青井秀夫『法理学概説』（有斐閣、2007年）などの中から適宜指示する。

**成績評価方法と基準** 各回のmoodleへの書き込み30%、テスト70%

**オフィスアワー** 毎週月曜日 10:30～11:30、高橋研究室

第14回～第17回 社会契約論～近代自然法思想

第18回～第22回 近代の法理論

第23回～第26回 法実証主義

第27回～第29回 法理論としての法解釈学

第30回 まとめ

ただし、内容は暫定的なものであり、変更することがあり得る。

# 法哲学演習

Seminar on Legal Philosophy

学期 通年 開講時間 月 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

**授業の概要** 演習では、法哲学のテキストなどでしばしば取り上げられる問題について、法哲学的に検討・考察する。具体的な問題としては、古典的な法思想史上の諸理論ということでは、法概念論、法と道徳、自然法理論、正義などがある。また最近のトピック的な問題としては、たとえば、生命倫理関係に関する法的問題から、小さな政府論、ナショナルリズム、など、幅広く考えることができる。

**学習の目的** 自らの価値観やものの見方を相対化し、その中で新たな社会や生の可能性を探ることができる。

**学習の到達目標** 法哲学についての基本的な文献の講読や、参加者同士の議論を通じて、法哲学の諸問題の検討を行い、法哲学についての基本的な理解を得ることができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じ

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

前期は、代表的な法哲学のテキストを一冊ないし何冊かそれぞれ分担を決めて輪読し、それをめぐって、参会者の中で議論する。そしてそれによって、法哲学的に扱われる諸問題

る力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 法哲学

**発展科目** 法哲学特論、法思想史

**教科書** 深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2015年）、森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）、長谷部恭男『法とは何か——法思想史入門【増補新版】』（河出ブックス、2015年）、瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）、亀本洋『法哲学』（成文堂、2011年）、井上達夫編『現代法哲学講義』（信山社、2009年）、小林公『法哲学』（木鐸社、2009年）、青井秀夫『法理学概説』（有斐閣、2007年）などの中から、相談して決める。

**成績評価方法と基準** 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

**オフィスアワー** 毎週月曜日10:30~11:30、高橋研究室

についてある程度の認識を共有する。

後期は、前期の演習を通じて関心を持った問題やその他の関心から考察してみたい問題を各自が個別に発表し、さらにそれらをめぐって、参加者との間で質疑応答を行う。

# 法思想史

## History of Legal Thought

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

**授業の概要** 正義についての思想史上著名な理論からの引用を読み、その内容を理解した上で、今日のいくつか論争や課題に対して、正義論の観点からの考察を試みる。

**学習の目的** 正義について、古典的な見解から現代の議論までを理解することができる。

**学習の到達目標** 現代正義論で展開されている主な理論や考え方に触れて、今日の社会の平等や正義、格差といった諸問題について理解を深めることができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

**予め履修が望ましい科目** 法哲学、憲法、民法、刑法、など法律系諸科目

**発展科目** 法哲学特論

**教科書** 授業で使用する文献資料は事前に配付するほか、moodleにも掲載する。

**成績評価方法と基準** テスト70%。moodleへの書き込み30%。さらに、授業への参加を加味することもある。

**オフィスアワー** 毎週月曜日 10:30～11:30、高橋研究室

**その他** 受講を考えている人は、第一回目の授業に必ず参加してください。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回 ソクラテスの正義論

第3回 プラトンの正義論

第4回 アリストテレスの正義論

第5回 ローマ時代の正義論

第6回 アウグスティヌスの正義論

第7回 トマス・アクィナスの正義論

第8回 トマス・ホブズの正義論

第9回 ジョン・ロックの正義論

第10回 功利主義における正義論

第11回 リベラリズムにおける正義論

第12回 共同体主義・リバタリアニズム

第13回 現代的課題と正義論その1

第14回 現代的課題と正義論その2

第15回 現代的課題と正義論その3

ただし、内容は暫定的なものであり、変更することがあり得る。



# 民事訴訟法

Civil Procedure

学期 後期 開講時間 金 5, 6, 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義 担当教員 田中 誠人

## 授業の概要

私人の社会生活における権利・義務関係は、民法・商法などのいわゆる実体法によって規律されている。そして、そのような権利・義務関係が全うされない場合には、民事紛争が生ずることとなる。

民事紛争は、私人間の紛争であることから、当事者同士の話し合いによって解決できるものではあるが、解決が見出せない場合には、自力救済（紛争解決のための実力行使）を禁じられた当事者の救済のため、あるいは未解決紛争の堆積もたらさずであろう社会的混乱の回避のためと、その目的には諸説あるが、ともかく、国家がその解決を引き受けることが必要となる。民事訴訟法は、そのような、国家による紛争解決の手続を定めた法律（手続法）であり、実体法上の権利を実現するにあたって、我々の社会生活と間接的に深く関わるものである。

本講義は、この民事訴訟法を概説するものであり、講義は手続の流れに沿って行う。

**学習の目的** 民事訴訟法とはどのような法律なのかを中心として、民事紛争がどのような

手続により解決へと導かれるのかを理解する。

**学習の到達目標** 大学で法学教育を受けたと言える法律知識獲得の一環として、社会生活の中で紛争が生じた場合に応じたような対応がありうるか、どのような流れで紛争が解決されるかについて学習する。

**受講要件** 講義を聴く意欲が高く、私語をしないこと。

**予め履修が望ましい科目** 民法・商法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが民事訴訟（法）なので、これらの科目を予め、もしくは並行して履修することが望ましい。

**発展科目** 民事執行法・倒産法・その他、民事系科目

**教科書** レジュメを配布する

**成績評価方法と基準** 試験による（100%）

**オフィスアワー** 非常勤のため講義の前夜

**その他** ※六法を携行すること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

序回ガイダンス・授業方針

第1回民事訴訟法とその周辺

第2回民事訴訟制度の目的と理念

第3回民事訴訟手続のアウトライン

第4回受訴裁判所

第5回訴え

第6・7回当事者

第8・9回訴訟物

第10～12回訴訟の審理

第13回弁論主義

第14回訴訟行為

第15～17回証拠

第18・19回判決効

第20回当事者による訴訟の終了

第21回複数請求訴訟

第22～24回多数当事者訴訟

第25回上訴・再審

第26回略式訴訟手続

※レジュメの項目が1回に収まらない回もあり、テストの予告解説なども含め、全30回を予定している。

# 倒産法

Bankruptcy Law

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 田中 誠人

## 授業の概要

企業や個人が経済的破綻に至った場合、債権者間の公平の確保、債務者の再起の容易化、および経済社会の損失の防止を目的として、倒産処理制度が設けられ、企業倒産や消費者破産の激増という社会的背景の中で、より重要度を増している。

本講義は、この倒産法制度の基本となる破産法を中心として、民事再生法、および会社更生法について概説するものである。

**学習の目的** 倒産法（破産法・会社更生法・民事再生法）とはどのような法律なのかを中心として、債務超過に陥った会社あるいは個人の再生、および債務整理・清算がどのような手続により行われるのかを理解する。

**学習の到達目標** 倒産処理の過程を学ぶことで、民事実体法、および民事手続法の構造につき、より深く理解する。

**受講要件** 講義を聴く意欲が高く、私語をし

ないこと。

## 予め履修が望ましい科目

社会において生じた民事紛争や、その他、民事的な問題ををどのように解決へと導くのか、というのが民事手続法における共通の視点なので、民法や商法といった実体法についても基本的な知識を持っていることが望ましい。

また、民事訴訟手続についても基礎的な理解が必要であるため、3・4年次を対象とする民事訴訟法の講義も履修済であることが望ましい。

**発展科目** 民事系科目

**教科書** レジュメを配布する。

**成績評価方法と基準** 試験による（100%）

**オフィスアワー** 非常勤のため講義前後

**その他** ※六法を携行すること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

序回 ガイダンス・授業方針

第1回 倒産処理制度の概要

第2回 法的整理と私的整理

第3回 法的倒産処理ADRとしての特定調停手続

第4回 破産手続①

第5回 破産手続②

第6回 破産手続③

第7回 破産手続④

第8回 民事再生法総論・企業の再生手続

第9回 再生手続②

第10回 小規模個人再生・給与所得者再生・住宅資金貸付債権に関する特則

第11回 会社更生法①

第12回 会社更生法②

第13回 会社更生法③

※レジュメの項目が1回に収まらない回もあり、テストの予告解説なども含め、全15回を予定している。

# 現代裁判論

Society and Judicial System

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 法律経済学科専用 授業の方法 講義

担当教員 内田典夫（弁護士：非常勤講師）、出口崇（弁護士：非常勤講師）、飯田聡（弁護士：非常勤講師）、森一恵（弁護士：非常勤講師）

**授業の概要** 民事裁判、刑事裁判を中心に、現実に行われている裁判の運用状況を理解し、法律とのギャップや課題を考える。

**学習の目的** 民事裁判、刑事裁判を中心に、現実に行われている裁判の運用状況を理解し、法律とのギャップや課題を考える。

**学習の到達目標** 民事裁判、刑事裁判の手続きを理解することにより、将来、裁判に抵抗感を抱かず、法的紛争に巻き込まれた場合、早期に解決できる能力・感覚を身につける。

**本学教育目標との関連** 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コ

ミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 憲法、民法の各科目

**発展科目** 民事訴訟法、刑事訴訟法

**教科書** レジュメを配付する。

**成績評価方法と基準** 期末試験100%

**その他** 例年、刑事裁判の傍聴や三重刑務所の見学を企画している。実施は例年とおり水曜日の午後を予定している。

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 刑事裁判に対しては、保釈金や量刑の相場などを紹介するとともに、逮捕から判決に至るまでの実務的問題を人権保障の観点から考察する。民事裁判に対しては、司法研修所や実務で重視されている要件事実論や、訴状や答弁書の作成、立証方法、損害・

慰謝料の基準などを紹介するとともに、紛争解決としての機能を果たしているか否かの観点から課題を考察する。その後、人事訴訟調停、支払督促、少額訴訟、労働訴訟、行政訴訟、知的財産権訴訟などの特殊な裁判手続きを扱う予定である。

# 労働組合法

Labor Union Law

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤本 真理

**授業の概要** 労働組合と使用者、労働組合と労働組合員の関係について、法はどのような規制と保護をおこなっているのか、歴史的な背景や理由を踏まえつつ、正確に理解する

**学習の目的** 集团的労使関係に関する基礎知識を修得し、労働契約、その法規整（前期開講科目「労働基準法」の内容）との連関を理解する

**学習の到達目標** 労働組合・労働協約が労働条件設定その他労働者の利益保護において果たす役割を理解し、実際に生じうる問題に対し法的解決方法を導く能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力、専門知

識・技術、論理的思考力、問題解決力

**受講要件** 特に要件は課しません。

**予め履修が望ましい科目** 憲法、債権総論、労働基準法

**教科書** 水町勇一郎著『労働法（第5版）』（有斐閣）

**成績評価方法と基準** 小テスト30%、期末試験70%で評価します。

**オフィスアワー** 第1回の講義で指示します。

**その他** 六法は労働組合法が抄でしか掲載されていないものは、授業・自宅での復習に差し支えますので注意してください。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 第1回 オリエンテーション、労使関係の実態
- 第2回 不当労働行為とは何か
- 第3回 不当労働行為の救済制度
- 第4回 労働組合の組織と運営
- 第5回 組織変動
- 第6回 団体交渉と団交拒否
- 第7回 小テスト

第8回 テスト解説

第9回 労働協約

第10回 組合活動

第11回 争議行為

第12回 不当労働行為：不利益取扱い（1）

第13回 不当労働行為：不利益取扱い（2）

第14回 不当労働行為：支配介入

第15回 問題演習

# 労働法演習

Labour Law Seminar

学期 通年 開講時間 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 藤本 真理

**授業の概要** 雇用市場、均等待遇、労働条件設定など、今日の労働環境に関する諸問題について、報告とディスカッションを通じて、法の視点から検討を行う。具体的テーマは受講者の希望や関心に応じて、適宜設定する。

**学習の到達目標** 労働法全体を見渡すと同時に、自分が選んだ／直面した問題について、論理的に考え解決方法を導く能力を身に付ける

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 特にありません

**予め履修が望ましい科目** 民法総則、債権総論・各論、憲法

**教科書** 統一の教科書はありません。資料配布のほか、報告内容等に応じて、各人に適宜指示。

**成績評価方法と基準** 出席40%、報告内容40%、ディスカッションへの参加度20%

**オフィスアワー** 事前にアポイントを取って来室してください

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 オリエンテーション、報告テーマ・報告順の決定（書評を予定）

第2回 教員による報告のデモンストレーション

第3回～第10回 受講者による報告とディスカッション

第11回～第15回 論文集の準備

第16回 報告テーマの決定、学術論文の調べ方・まとめ方

第17回～30回 受講者による報告とディスカッション

# 特殊講義[保険法]

Insurance Law

学期 前期集中 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 松谷 秀祐

**授業の概要** 保険法（平成20年法律第56号）における諸規定、および関連する重要判例、さらには表には必ずしも表れないが、それらの根底に存する保険法上、私法上の基礎理論について、具体的な事例を用いて、講義を行う。

**学習の目的** 自分（たち）が保険制度によって守られている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに保険に関する問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を養うことを目標とする。

**学習の到達目標** 保険制度に関して基本的な法的知識と法的思考力を身に付けること。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総

合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 民法総則・物権法・債権総論・債権各論・商法総則・商取引法を履修済みであるか並行履修中であることが望ましい。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 竹濱修『保険法入門（日経文庫）』（2009年・日本経済新聞出版社）

**成績評価方法と基準** 課題レポート（20点）、筆記試験（80点）によって評価する。なお、履修者数によっては、授業への参加状況・受講態度（単なる出席率ではなく、授業中およびその前後の発言・質問の回数および内容等）も考慮する。

**オフィスアワー** 非常勤講師のため、講義の前後のみとなる。開講時期以外において質問等がある場合には、人文教員の名島が窓口となる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

【第1回】 保険とは何か、保険法の構造、保険法を学ぶ意味

【第2回】 保険の仕組みと登場人物

【第3回】 保険と似て非なる諸制度－貯蓄・自家保険・賭博

【第4回】 保険の貯蓄的性格－養老保険・終身保険

【第5回】 保険法の適用範囲①－共済契約

【第6回】 保険法の適用範囲②－傷害疾病保険契約の特殊性

【第7回】 営利保険と相互保険

【第8回】 保険募集

【第9回】 保険約款

【第10回】 損害保険契約各論①：責任保険

【第11回】 損害保険契約各論②：保険担保

【第12回】 生命保険契約各論①：告知義務

【第13回】 生命保険契約各論②：保険金受取人の変更

【第14回】 全体の復習①

【第15回】 全体の復習②

【第16回】 最終試験

# 特殊講義〔子どもと法〕

Children and the Law

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 稲垣 朋子

**授業の概要** 家族に関わる法律・法政策には、夫婦の問題、親子の問題、高齢者扶養・介護の問題など様々な問題があるが、本講義では、そのなかでも特に子どもと法、子の権利擁護に焦点を当てる。必要に応じて外国の法政策との比較も交えつつ講義する。また、授業中に数回、関連する映像資料を用いて理解を深める。

**学習の目的** 既存の法制度を子どもの権利の観点から見つめ直し、現状をふまえて問題点・課題を学ぶ。さらに、今後求められる法政策的対応や支援のあり方を検討する。

**学習の到達目標** 子どもに関わる法律問題を子の保護の側面からも理解し、説明する。そ

のうえで、他の様々な角度も含めて問題を総合的に検討し、自らの見解を述べるができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 家族法

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 中間試験50%、期末試験50%

**オフィスアワー** 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2～3回 離婚後の親権行使・面会交流

第4～5回 養育費

第6～7回 児童虐待

第8～9回 赤ちゃんポスト

第10～11回 養子・里親制度

第12～13回 生殖補助医療と子の出自を知る権利

第14回 学校事故

第15回 総括

# 特殊講義 労働基準法I

Labor contract and Labor Standard LawI

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤本 真理

**授業の概要** 労働基準法を中核とする、求職中の労働者と企業、企業と従業員の間を規律する法律について、その背景にある理念や法律上の制度を理解する

## 学習の目的

- ・ 個別的労働契約関係の領域について、歴史や制定経緯を知り、基本的な制度や判例法理を理解する
- ・ それを通じて、具体的問題の解決方法を考える力を身につける

## 学習の到達目標

- ・ 労働条件の引下げや解雇など、現実の雇用関係上発生する問題を自分で解決する能力を身につける
- ・ 雇用をめぐる社会問題について、情報を分析し自分なりの結論を導く能力を身につける

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

労働基準法IIとの連続での講義計画（全30回）は以下ようになります。

- 1 オリエンテーション、労働法の構造
- 2 労働市場と法
- 3 雇用における差別
- 4 労働法の当事者
- 5 労働契約上の権利義務
- 6 就業規則
- 7 問題演習
- 8 採用内定と試用期間
- 9 昇級・昇進・降格・配転
- 10 出向・転籍
- 11 企業組織の変動と労働関係
- 12 企業秩序（職場規律）と懲戒
- 13 雇用関係の終了（1）
- 14 雇用関係の終了（2）

**本学教育目標との関連** 主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、問題解決力

**受講要件** 木曜5-6時限の「特殊講義 労働基準法II」とセットで履修してください。

**予め履修が望ましい科目** 民法総則、債権総論、債権各論

**教科書** 水町勇一郎著『労働法（第5版）』（有斐閣）

**成績評価方法と基準** 小テスト30%、期末試験70%で評価します。

**オフィスアワー** 第1回の講義日に連絡します。

**その他** 六法は、労働基準法が抄でしか掲載されていないものでは授業・自宅での復習に差し支えますので注意してください。

- 15 小テスト
- 16 テスト解説
- 17 賃金（1）
- 18 賃金（2）
- 19 労働時間（1）
- 20 労働時間（2）
- 21 休暇・休業（1）
- 22 休暇・休業（2）
- 23 問題演習
- 24 安全衛生
- 25 労働災害・通勤災害
- 26 パートタイム・有期契約
- 27 労働者派遣
- 28 問題演習
- 29 雇用形態と社会保障
- 30 個別的労働紛争処理制度



# 特殊講義 労働基準法II

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤本真理

**授業の概要** 労働基準法を中核とする、求職中の労働者と企業、企業と従業員の間を規律する法律について、その背景にある理念や法律上の制度を理解する

## 学習の目的

- ・ 個別的労働契約関係の領域について、歴史や制定経緯を知り、基本的な制度や判例法理を理解する
- ・ それを通じて、具体的な問題の解決方法を考える力を身につける

## 学習の到達目標

- ・ 労働条件の引下げや解雇など、現実の雇用関係上発生する問題を自分で解決する能力を身につける

- ・ 雇用をめぐる社会問題について、情報を分析し自分なりの結論を導く能力を身につける

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力

**受講要件** 「特殊講義 労働基準法I」とセットで履修すること

**教科書** 水町勇一郎『労働法（第5版）』（有斐閣）

**成績評価方法と基準** 小テスト30%、定期テスト70%で評価します。

**オフィスアワー** 第1回講義時に連絡します

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

労働基準法Iとの連続での講義計画（全30回）は以下ようになります。

- 1 オリエンテーション、労働法の構造
- 2 労働市場と法
- 3 雇用における差別
- 4 労働法の当事者
- 5 労働契約上の権利義務
- 6 就業規則
- 7 問題演習
- 8 採用内定と試用期間
- 9 昇級・昇進・降格・配転
- 10 出向・転籍
- 11 企業組織の変動と労働関係
- 12 企業秩序（職場規律）と懲戒
- 13 雇用関係の終了（1）
- 14 雇用関係の終了（2）

- 15 小テスト
- 16 テスト解説
- 17 賃金（1）
- 18 賃金（2）
- 19 労働時間（1）
- 20 労働時間（2）
- 21 休暇・休業（1）
- 22 休暇・休業（2）
- 23 問題演習
- 24 安全衛生
- 25 労働災害・通勤災害
- 26 パートタイム・有期契約
- 27 労働者派遣
- 28 問題演習
- 29 雇用形態と社会保障
- 30 個別的労働紛争処理制度

# 経営学総論

Management

学期 後期 開講時間 火 1, 2; 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 青木 雅生 (人文学部)

**授業の概要** 企業とは何か、マネジメントとはどのようなものかということについての基礎知識を学び考える。

**学習の目的** 日本経済を支えている会社のおかれている状況を理解するためには、会社というものの全体像をつかみ、その仕組みや運営・働きを知ることが必要である。それゆえ、企業・管理・戦略に関する基礎的知識や理論的枠組みを習得することが本講義の目的である。

## 学習の到達目標

第一に、企業（会社）についての基本的な概念や制度などについて理解すること。

第二に、それらを通じて現代の企業像が鮮明に活写できるかについて、受講生各自が工夫する力を獲得すること。

第三に、そうして得られた企業像を通して、各自が社会認識を深めること。

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的

思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 受講要件

特になし。  
ただし、新聞の産業や経済の欄を日頃から読んでいることを勧める。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 経営史、多国籍企業論、マーケティング論、中小企業論、経営管理論、人的資源管理論

**教科書** レジュメを配付する予定

## 成績評価方法と基準

レポート60% 試験30% 出席10%

講義内容の理解

自分なりの問題意識に基づく課題設定と論理展開（参考文献などの活用を含む）

**オフィスアワー** 木曜日13:00～14:30

**その他** 週2回開講されている。両方とも受講すること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 イントロダクション

第2回～第3回 企業と会社―会社とはどのようなものか―

第4回～第7回 株式会社の仕組みと運営

第8回～第10回 企業の成長と拡大

第11回～第16回 企業間関係の形成と変化

第17回 企業経営の事例

第18回～第23回 企業をマネジメントする

第24回～第28回 企業の直面する課題

第29回 企業と地域経済

第30回 21世紀における企業経営

# 経営学総論演習

Seminar in Management

学期 通年 開講時間 火7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 青木 雅生 (人文学部)

**授業の概要** 企業が直面している問題を発見し、解決策を提示できるようになる。

**学習の目的** 21世紀における企業経営の課題をテーマに、企業の問題を発見し、解決策を提示することを目指すとともに、企業を通じて社会の問題について考える視角をもつ。企業が社会に果たす役割を踏まえ、企業を通じて社会がよりよくなることをゼミでは考えていきたい。

**学習の到達目標** 企業が直面している問題を発見し、解決策を提示できるようになることを目指す。そのために①経営学の基礎を身につける②現実の企業に関する事実や知識を豊富に知る③問題発見と解決策提示の力を磨き、総合的に人間力を上げることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モ

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

3年次前期では、経営学に関する共通文献の報告・討論を通じて基礎的知識の習得の機会とする。また共同論文のためのテーマを選定し、具体的な研究対象となる企業について調査し、インターネットや諸文献から情報を収集・分析し、発表・討論を通じて、問題解決へと近づけるよう研究に取り組む。そうした理論研究と事例研究を通じて問題について考

ちべーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 法律経済学科のゼミ決定手続きによる

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論、経営史

**教科書** 演習時に指定する

**成績評価方法と基準** 演習への出席・報告・発表・討論・論文の内容をもとに総合的に評価する

**オフィスアワー** 研究室に在室中であれば随時対応する

え抜く姿勢や研究方法の確立を目指す。

3年次後期には、共同の研究論文の執筆を行う。研究テーマを詳細に検討するため夏期休暇中に課題に取り組んでもらう予定である。インターカレッジのゼミナール大会へ参加し、そこでの討論を通じて研究を深めていく。さらに、より具体的な専門的関心を深め、個人の研究テーマを決め、卒業論文へとつなげていく。

**授業の概要** 経営史の対象領域は一般（世界、各国）経営史、産業経営史、個別企業経営史などに分かれるが、本講義ではこの中でも中心をなす一国経営史、とりわけ日本経営史について、所有と統治システム、生産システム、企業の経営戦略と組織、企業と政府の関係の4つに焦点をあてて、その基本的形成・展開過程とその特質を学ぶ。また、それらを踏まえた上で現代的な特徴についても学ぶ。

**学習の目的** 日本の企業経営がどのように歴史的に形成されてきたのか学ぶことによって、現代の日本の企業経営の特徴と課題を理解する力を養う。

### 学習の到達目標

日本の経営史に関して、所有と統治システム、生産システム、企業の経営戦略と組織、企業と政府の関係の4つの観点から、日本企業の特徴を形成展開の過程を踏まえて論理を展開できるようになる。

それらについて21世紀の日本の企業のあり方について、自分の見解を示すことができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人と

しての態度

### 受講要件

特になし。

ただし、日本の明治維新以降の近代史をあらかじめ復習しておくことと理解が進むので、奨励する。

また、新聞の産業や経済の欄を日ごろから読んでいることを勧める。

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論

**発展科目** 多国籍企業論、マーケティング論、中小企業論、日本経済史、産業経済論総論、金融論、日本経済論

**教科書** 橋本輝彦『新版 現代日本の経営 その歴史的考察』文理閣2003年

### 成績評価方法と基準

レポート100%

講義内容の理解

自分なりの問題意識に基づく課題設定と論理展開（参考文献などの活用を含む）

**オフィスアワー** 木曜日13:00~14:30

**その他** 2007年度以前入学生については「特殊講義 [経営史]」として開講します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 イントロダクション

第2回~第5回 日本企業の所有と統治システム

第6回~第8回 日本的生産システムの形成

第9回~第11回 日本企業の経営戦略と組織

第12回~第14回 企業と政府の関係

第15回 現代の日本の企業経営の特徴と課題

# 法律経済学科専用 人的資源管理論

## 法律経済学科専用 特殊講義 人的資源管理論

Human Resource Management  
Human Resource Management

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 玉井 信吾 (非常勤講師)

### 授業の概要

人的資源管理論は、企業の労働力を、他の経営資源と同じく価値を創造する資源であるという見方に基づく人材マネジメントの理論である。大学生諸君が卒業し、社会人としてよりよく生きるためには、様々な働き方と働く環境を充分に知る必要がある。

人それぞれに個性があるように、現実の社会(働く環境)も多様である。今ある自分の状況を確認し、どのように自分の人生やキャリアを切り拓いていくのか、など本講義では、現代日本企業での「働く環境」「働き方」を決定づけている人的資源管理について、具体的な事例を交えながら解説し、働く者の視点から現実の社会に柔軟に対応していける考え方を身に付けることを目指す。

**学習の目的** 人的資源管理の理論とその実態について学ぶことを通して、人的資源管理の理論の内容・考え方、その理論の下で展開される人事管理諸制度の実態について学び基礎知識を獲得することにある。

**学習の到達目標** 講義を通して、就職活動時の企業選別の眼や企業組織における人の雇用

において留意すべき点を理解する力を養ってもらうこと。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 社会人としての態度

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論などの経営学系科目。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 期末試験70% 映像教材視聴レポート20% 質問感想カード10%

### オフィスアワー

特に設けないので、質問などは講義時間の前後に教室にて担当教員に直接問い合わせたい。

世話人教員：青木雅生

**その他** 2012年度以前入学生については「特殊講義〔人的資源管理論〕」として開講します。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- (1) ガイダンス
- (2) 人的資源管理の理念・構造・展開
- (3) 日本への人的資源管理の導入
- (4) 雇用管理
- (5) キャリア開発
- (6) 賃金管理
- (7) 人事考課
- (8) 労働時間管理
- (9) 福利厚生
- (10) 非正規雇用
- (11) ワーク・ライフ・バランス
- (12) 高齢者雇用
- (13) 外国人雇用
- (14) 労使関係と労働組合
- (15) まとめ

**授業の概要** マネジメント論が成立してから、既に1世紀以上が経過しているが、組織において目的を達成するための方法を説くものとしての本質は変わっていない。現代の組織社会におけるの焦点は、企業をはじめ行政、病院、学校、及びNPOなど様々な組織におけるマネジメントであるといえる。本講義では、マネジメント論における (1) 人間観の変遷、(2) ワーク・モチベーション、及び (3) リーダーシップなどのテーマを中心に、基礎的な理論の説明と共に、様々な組織における実際の具体例を紹介する。

**学習の目的** 組織体の運営の共通内容となるマネジメント論を理解するため、その前提となる基礎的な考え方の習得を目指す。

#### 学習の到達目標

- (1) マネジメントの前提となる人間観の変遷から、マネジメント論の展開を説明することが出来る。
- (2) マネジメントの対象であるヒト（従業員）のモチベーションに関する様々な欲求理論を説明することができる。
- (3) 組織のリーダーをリーダーシップ理論から理解し、様々な経営環境にどのようなリー

ダーシップのスタイルが効果的なのかを説明することが出来る。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論などの経営学系科目

**発展科目** 人的資源管理論、経営組織論など

**教科書** 講義教室での配布レジュメを主に使用するので、教科書は特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 期末試験70% 映像教材視聴レポート20% 質問感想カード10%

#### オフィスアワー

特に設けないので、質問などは講義時間の後に教室にて担当教員に直接問い合わせたい。  
世話人教員：青木雅生

**その他** 2007年度以前入学生については「特殊講義〔経営管理論〕」として開講します。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- (1) ガイダンス
- (2) 科学的管理法とフォード・システム
- (3) 官僚制とマネジメント
- (4) 人間関係論①
- (5) 人間関係論②
- (6) モティベーション論①
- (7) モティベーション論②
- (8) リーダーシップ論①
- (9) リーダーシップ論②
- (10) C. I. バーナードの管理論・組織論①
- (11) C. I. バーナードの管理論・組織論②
- (12) H. A. サイモンの意思決定論
- (13) 組織文化論
- (14) 日本の経営とその変遷
- (15) まとめ

Moodle

担当教員 森原 康仁 (人文学部)

**授業の概要** 経営戦略とは企業の基本的な長期目的を決定し、これらの諸目的を遂行するために必要な行動様式を採用し、諸資源を割り当てることである。本講義ではまず経営戦略論が生まれた背景について解説する。そのうえで主として1970年代以降の主要な経営戦略学説を全社戦略と競争戦略(事業戦略)に分けて解説する。さいごに、経営戦略論のもつ実践性を理解するために戦略計画学派と創発戦略学派の対立を振り返る。

**学習の目的** 経営戦略論を、目的、概要、理論の実践性という3つの角度から学ぶことで、企業経営をみる目を養う。

**学習の到達目標** 経営戦略を確立する思考プロセスを習得し、理論の現実適用性(実践性)を認識する。

**本学教育目標との関連** 感性、主体的学習力、

課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 予め履修が望ましい科目

以下の科目の履修をしている／することが望ましい。

経営学総論、経営史、人的資源管理論、中小企業論、マーケティング論、サプライチェーン・マネジメント、産業経済論総論

**教科書** とくに指定しない。

**成績評価方法と基準** 定期試験。

**オフィスアワー** 随時。メールで予約すること。

**その他** この科目は、2012年度以前入学生には「特殊講義 経営戦略論」として開講されません。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第3回 経営戦略とはなにか

第4回～第6回 全社戦略と多角化戦略

第7回～第8回 ポジショニングアプローチにも

とづく競争戦略

第9回～第10回 RBVにもとづく競争戦略

第11回～第12回 組織学習と競争戦略

第13回～第14回 戦略策定とプランナーの役割

第15回 まとめ

# 多国籍企業論

Multinational Corporation

学期 後期 開講時間 月 5, 6; 木 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 森原 康仁 (人文学部)

**授業の概要** 多国籍企業は主として戦後に発展した比較的新しい現象である。この講義では、前半部で、戦後における企業多国籍化の発展過程を具体的に学ぶ。講義の後半部では、多国籍企業理論を3つの観点——①戦前の理論、②ハイマー以降の多国籍企業理論の本格的発展、③現代多国籍企業の諸理論、から検討する。

**学習の目的** 多国籍企業の発展過程を理論と現実の観点から学ぶことで、グローバル化を具体的に理解する力を養う。

**学習の到達目標** 戦後多国籍企業について、その生成と発展の過程、国際経営の現実および世界秩序との関係で理解し、多国籍企業理論の発展史によってそれをあとづけることができるようになる。以上を通じて、グローバルゼーションに対する自らの見解を示すことができる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回～第6回 多国籍企業の生成と発展
- 第7回～第11回 多国籍企業の経営戦略と組織
- 第12回～第14回 多国籍企業と世界秩序
- 第15回～第16回 戦前の国際生産に関する諸理

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 予め履修が望ましい科目

関連して以下の科目を履修している／することが望ましい。

経営戦略論、国際経済論、経営学総論、マーケティング論、サプライチェーン・マネジメント、国際金融論

**教科書** グラツィア・イエットギリエス [2012] 『多国籍企業と国際生産——概念・理論・影響』井上博監訳、同文館。

**成績評価方法と基準** 定期試験で評価する。

**オフィスアワー** 随時。メールで予約すること。

**その他** 週2回開講されている。どちらも受講すること。

### 論

- 第17回～第23回 多国籍企業の基本理論
- 第24回～第27回 現代の多国籍企業理論
- 第28回～第30回 多国籍企業とグローバルゼーション



# 多国籍企業論演習

学期 通年 開講時間 木9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 森原康仁

**授業の概要** 企業の多国籍展開などの経済グローバル化をはじめ、グローバル化の多様な形態を考えるのが本演習の目的である。

**学習の目的** グローバリゼーションの現実のなかから調査・研究テーマを設定し、その分析に必要な調査・研究方法を構築したうえで、みずからの調査・研究結果をわかりやすく報告できるようになる。

**学習の到達目標** グローバリゼーションの現実のなかから調査・研究テーマを設定し、その分析に必要な調査・研究方法を構築したうえで、みずからの調査・研究結果をわかりやすく報告できるようになる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

前期は、多国籍企業論をはじめグローバル化にかんする入門的なテキストを輪読し、この問題について調査・研究するためのアプローチを学ぶ。

後期は、各自ないし共同でテーマを設定し、レポートないし論文を発表する。年明け以降

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 多国籍企業論

**教科書** とくに指定しない。

**成績評価方法と基準** 演習への出席と報告や討論への取り組みによって総合的に評価する。

**オフィスアワー** 随時。メールで予約すること。

は、各自の卒業論文のテーマを設定し、その進捗を報告する場とする。

なお、正規のゼミの時間以外に、ゼミ内のメンバーのコミュニケーションを図る場を設ける。他大学の関連ゼミナールとの交流も図る。

# 経済原論

## Political Economics

学期 前期 開講時間 月 7, 8; 金 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 深井 英喜 (人文学部)

**授業の概要** 経済学の基礎理論を学ぶことで、経済学の考え方の基礎を修得する。

**学習の目的** 現在資本主義社会の基本構造の理解。

### 学習の到達目標

本講義での目標は、経済学の基本的な考え方に慣れるとともに、資本主義社会を構成する基本構造を理解することにある。社会現象や政策を経済理論的に考えることで、自分自身の社会認識を見直したり、それを構築していく力を高めていく。

**受講要件** 特になし

### 予め履修が望ましい科目

この講義が経済学と経営学の学習を進める際の基盤科目であるため、予め履修の必要な科目はない。  
むしろ、経済学や経営学に進むことを考えている学生は、必ず履修すること。

**発展科目** 経済学・経営学・行政に関連する諸科目

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

この講義では、マルクスやケインズを経て発展してきたラディカル派の経済理論を講義する。したがって、公務員試験などに出題される近代経済学の問題にたいして、“テクニカルな側面”では対応しない。しかし、“経済学的な考え方”という点では、近代経済学と同じである。

この講義の重点は、経済学の問題を解くテクニカルな部分ではなく、経済学の考え方の修得し、そして経済学の考え方をういて社会・経済現象を捉える試みにある。

この講義で最終的に考えようとしている課題は、次の3点である。

**教科書** 基本的にはレジュメを配布して講義を進める。

### 成績評価方法と基準

中間で行う小テストないしはレポート(30%)と、最終試験(70%)によって評価する。

中間の小テストないしはレポートの課し方は、初回の講義で詳しく解説する。

成績は、講義の受講態度なども含めて、総合的に評価する。

**オフィスアワー** 初回講義でアナウンスする。基本的に開校日の午後は可能な限り対応する。

### その他

理論経済学の科目は、文科系科目の中で特に厳密な論理体系を持っている。講義は、トピックス的な講義の並列で進むのではなく、回を追うごとに次第に内容が深まっていく積み上げ式で進んでいく。そのため、途中で行き詰るとその後が付いて行けなくなる。オフィスアワー等を充実させているので、それらを利用して講義に取り組むように。

①現在の資本制経済社会は歴史的にどのような特徴をもった経済社会であるのか。

②資本制経済社会が維持・再生産される経済メカニズムはいかなるものであるのか。

③資本制経済(市場メカニズム)の限界はどこにあるのか。

(講義で取り上げられる項目)

1. 市場とはなにか 2. 資本とは何か 3. 価格・賃金・利潤の決定

4. 所得分配 5. 資本蓄積と所得分配 6. 技術変化と労働過程

7. 労働市場 8. 金融市場 9. 所得と雇用の決定

10. 景気循環

# 経済原論演習

## Seminar in political economics

学期 通年 開講時間 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 深井 英喜 (人文学部)

### 授業の概要

この講義では、講義で学んだ知識をより深めて実際に使えるようになることを目標にして、少人数での輪読や議論そして論文執筆を通じた学習を行う。

最終的には、卒業研究の指導まで行う。

### 学習の目的

この演習が目的とするところは、次の3点である。

- ・理論経済学の基礎をしっかりと習得することを目指す。
- ・理論経済学の考え方を使って現代資本主義社会の諸現象や諸問題について考える、応用力を高める。
- ・“論理的思考”や“コミュニケーション力”といった力を高めることを目指す。

### 学習の到達目標

この演習の1つ目の目的は、理論経済学の基礎をしっかりと習得することにある。とは言っても、経済学のテキストにある経済モデルを単にわかった気になったのでは応用力はつかない。この演習では、経済モデルが前提にし

ている社会の特徴を考察してこれを検討することで、その理論がどのような特徴を持つとともに限界を持っているかを理解することを目標にする。

また、この演習では合宿なども行い、ゼミ生間の議論を行ってもらおう。その中で、社会に出る際に必要な諸力(“how to”ではなく、論理的思考やコミュニケーション力)とは何かを自分なりに考えて、その力を高めていくことを目標にする。

**受講要件** 積極的に演習の活動に参加すること

**予め履修が望ましい科目** 経済原論ないしは近代経済学を事前に履修していることが望ましい

**教科書** 輪読形式が中心になるが、テキストについては参加者との相談の上で決めていく。

**成績評価方法と基準** 授業参加度100%

**オフィスアワー** 私が研究室にいれば、いつでもよい。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

#### ● 夏semester

理論経済学のテキストの輪読を中心に進め、経済学の基礎的な考え方の習得と定着を目指す。

また、『学生論集』やインゼミ(日本学生経済ゼミナール)に向けてゼミ共通のテーマを設定し、ゼミ内研究会を行っていく。具体的には、テーマに関する著書や論文を探し、そ

の内容をゼミ内に紹介していってもらう。

#### ● 冬semester

『学生論集』やインゼミで設定したテーマに即して、専門書の輪読を中心に進める。夏semesterで学んだ経済理論の知識を具体的な問題にあてはめて用いることで、理論経済学がもつ意味をより具体的に理解する契機になるとともに、論理的思考の力を高めることを目標にする。

# 法律経済学科専用 **マーケティング論**

法律経済学科専用 **マーケティング論**

**Marketing  
Marketing**

**学期** 後期 **開講時間** 火 3, 4; 水 3, 4 **単位** 4 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

**担当教員** 後藤 基 (人文学部)

**授業の概要** 授業の概要: マーケティング理論や手法を基礎から学びながら、企業の市場環境への適応行動の分析をとおして、市場優位のマーケティング戦略を考える。ここでは主に、マーケティング論を構成する基礎である4P(製品戦略、価格戦略、立地戦略、プロモーション戦略)を中心に講義する。この科目は、法律経済学科における経営の専門的知識を養うことにつながり、現代企業経営の課題とその解決を見据え、実社会において積極的に臨み指導性を発揮する人材となるための科目である。

## 学習の目的

この科目を習得することにより

- ・マーケティングの基礎的な概念と理論・技法を理解できる。
- ・マーケティング理論・技法を通して、現代経営、社会の諸問題を考える力を養える。
- ・現代社会、企業等の諸問題を解決する力を身につけることができる。
- ・企業行動をマーケティング理論によって現状を把握し、問題点を発見し、問題解決の意思決定ができる。

## 学習の到達目標

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～3回 マーケティングの概念
- 第4回～5回 マーケティングプロセス
- 第6回～7回 製品戦略とマーケティング・ミックス
- 第8回～9回 新製品開発
- 第10回～11回 価格戦略
- 第12回～13回 流通戦略
- 第14回～15回 プロモーション戦略

マーケティング論を構成する基礎である4P(製品戦略、価格戦略、立地戦略、プロモーション戦略)をとおして、マーケティング論を理解することができる。

マーケティング理論によって、企業行動を理解するとともに、現状を把握し、問題点を発見し、問題解決の意思決定ができる力を養うことができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 新聞の経済や産業の欄を日頃から読み、企業行動に注目すること

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論

**発展科目** サプライチェーン・マネジメント

**成績評価方法と基準** 期末試験(70%)とレポート(30%)

**オフィスアワー** メールをいただければ対応します。

**その他** 2007年度以前入学生については「マーケティング」として開講。

第16回～17回 需要戦略

第18回～19回 マーケティング環境分析、消費者行動

第20回～21回 成長戦略

第22回～23回 ブランド戦略

第24回～25回 顧客満足度

第26回～27回 国際マーケティング

第28回～29回 エリアマーケティング

第30回 まとめ

# マーケティング論演習

Seminar in Marketing

**学期** 通年 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 4 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 3年次  
**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業  
**担当教員** 後藤 基 (人文学部)

**授業の概要** マーケティングの基礎理論を通して、現代社会、企業経営を考える

## 学習の目的

演習によって

- ・マーケティングの基礎的な概念と理論・技法を理解できる。
- ・マーケティング理論・技法を通して、現代経営、社会の諸問題を考える力を養える。
- ・現代社会、企業等の諸問題を解決する力を身につけることができる。
- ・企業行動をマーケティング理論によって現状を把握し、問題点を発見し、問題解決の意思決定ができる。

## 学習の到達目標

- ①マーケティングの基礎的な概念と理論・技法を理解できます。
- ②マーケティング理論・技法を通して、現代経営、社会の諸問題を考える力が身につきます。
- ③現代社会、企業等の諸問題を解決する力が身につきます。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

本演習では、3点の目標に基づいて、以下の構成で進めます。

- ①マーケティングの基礎的な概念と理論・技法を理解します。  
基礎的理論の理解のために、教科書をもとに精読します
- ②マーケティング理論・技法を通して、現代経営、社会の諸問題を考える力を身につけま

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 法律経済学科の演習決定手續による

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論、マーケティング論、

**発展科目** SCM、経営管理論、会計学、ベンチャービジネス論

### 教科書

F.コトラー「マーケティング・マネジメント」

その他、演習時に随時指定します

**成績評価方法と基準** 演習への出席、報告、討論への参加などを通じて、総合的に評価します

**オフィスアワー** 研究室在室時はいつでも可能です

- す。  
経営分野全体に強くなるため、時事問題を取り上げ議論します
- ③現代社会、企業等の諸問題を解決する力を身につけます。  
全国経済系ゼミナールに参加するため、協働論文の作成と討論準備を行います  
個人研究テーマを決定し、卒業論文作成の準備を行います

# サプライチェーン・マネジメント

Supply Chain Management

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 基 (人文学部)

## 授業の概要

サプライチェーン・マネジメント (SCM) とは、原材料の調達から最終消費者に販売するまでの物流を1つの大きな供給の連鎖と捉えて管理することであり、その中心はロジスティクスであると言われています。そこで、本講義では、やがてロジスティクス・マネジメントを導くことになる物流管理について学び、ロジスティクスについて考察した上で、SCMについて、その契機は何かということを念頭に置きながら検討します。

## 学習の目的

- ・ 物流についての基礎的な概念と理論を理解する。
- ・ ロジスティクスについての基礎的な概念と理論を理解する。
- ・ SCMについての基礎的な概念と理論を理解する。
- ・ SCMの契機を検討することで、経済・経営に関する現代的な問題を把握する。

## 学習の到達目標

まず、やがてロジスティクス・マネジメントを導くことになる物流管理について理解します。次に、SCMの中心となるロジスティクス・マネジメントについて理解します。そして、SCMについての理解を深めます。今なぜSCMなのかということを理解し、企業

の経営戦略が新しいフェーズに入っていることを把握することが、本講義の到達目標です。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 受講要件

新聞や雑誌、経済的な特集番組などから、講義内容に関連する情報を積極的に収集して下さい。

## 予め履修が望ましい科目

マーケティング論、経営学総論

## 教科書

レジュメを配布して講義を行うため特に指定しませんが、下記参考書を適宜活用します。

## 成績評価方法と基準

期末試験60%、レポート40%

## オフィスアワー

授業の前後に質問を受け付けます。

## その他

本講義は現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

2005～2007年度入学生については「特殊講義 [サプライチェーン・マネジメント]」として開講します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 SCMとは何か
- 第2回 物流という経営機能
- 第3回 物流管理と物流システム
- 第4回 マーケティング戦略と物流政策
- 第5回 物流機能の拡大
- 第6回 物流管理とロジスティクス
- 第7回 ロジスティクス・ネットワーク

- 第8回 ロジスティクス・マネジメントの概念
- 第9回 ロジスティクス・マネジメントの基本
- 第10回 ロジスティクス・マネジメントの展開
- 第11回 ロジスティクスとSCM
- 第12回 SCMの実際
- 第13回 SCMの進展
- 第14回 延期・投機の原理と製販統合
- 第15回 まとめ

# 中小企業論

Small Business

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 岩坂 和幸 (非常勤講師)

**授業の概要** ①中小企業基本法(1963年)、改正中小企業基本法(1999年)、小規模企業基本法(2014年)など法体系の理解を通して日本経済における中小企業の役割と課題を理解した上で、②『中小企業白書』『小規模企業白書』の最新版を通して、中小企業の現状と課題を学ぶ。③経済発展や経済構造の変化と中小企業の関係や、生産分業システム(下請制)と中小企業や産業集積と中小企業関係、中小企業金融、ベンチャー企業などについて学んでもらう。

**学習の目的** 日本経済の屋台骨である中小企業がものづくり分野や小売の分野ではたしている役割と課題とはどのようなものか、また経済のグローバル化と生産分業(下請制)の変化、1980年代半ば以降顕著となった新規開業数より休業・廃業数が増加したことによる中小企業の減少と起業や「革新的」ベンチャーの育成の現状と実態と課題などについて理解してもらおう。

**学習の到達目標** 地域のものづくりや地産地消といった循環型社会、地域文化などにおいて中小企業が果たす役割について興味を持ってもらい、起業・創業や中小企業の育成・支援などに直接・間接に関わる仕事に関心を

持って頂くこと。

**本学教育目標との関連** 感性, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

**受講要件** 経営学の基礎的理解を必要とするため経営学総論は出来るだけ受講して下さい。

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論

**発展科目** 特になし

**教科書** レジュメ・資料を配布して講義を行うので教科書は特に指定しないが、2016年度版『中小企業白書』と『小規模企業白書』は経済産業省のHPからダウンロードしておいてもらいたい。

**成績評価方法と基準** レポート 30%、試験 70%

**オフィスアワー**

本務校ではないため、講義終了後か、またはメールで問い合わせ下さい。

メールアドレス: iwasaki@gifu-keizai.ac.jp  
メールには、要件の欄に氏名と(三重大学)の大学名を必ず記載して下さい。

世話役教員: 青木雅生

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1. 講義紹介、『中小企業基本法』(1963年)の制定と新『中小企業基本法』(1999年)の理念と中小企業政策の柱について
2. 『小規模企業基本法』(2014年)の概要と意義
3. 中小企業の現状と課題①～『2016年度版中小企業白書』～
4. 中小企業の現状と課題②～『2016年度版中小企業白書』～
5. 中小企業の現状と課題③～『2016年度版小規模企業白書』～
6. 経済発展と中小企業①第1部戦前～高度成

長期～

7. 経済発展と中小企業②第2部オイル・ショック以降～現在
8. 経済構造の変化と中小企業
9. 中小企業と生産分業システム(下請制):ピラミッド型分業構造、山脈型分業構造
10. 中小企業と金融
11. グローバル化と中小企業
12. ベンチャー企業 (ベンチャー企業の定義、ベンチャー企業の種類、ベンチャー・ブームについて)
13. ベンチャー支援の制度的環境と育成の仕組み

14. ベンチャー・キャピタルと支援インフラ ムと中小企業～コンビニ・ビジネスを中心に
15. 小売業におけるフランチャイズ・システ



# 日本経済史

Economic History of Japan

学期 前期 開講時間 火7, 8; 金3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 堀内義隆

**授業の概要** 現在の日本社会を理解するために必要な歴史的知識を、経済的側面から学ぶ。日本経済の歩んできた道を通史的に概説すると同時に、特に重要と思われるテーマについては詳しく説明し、歴史的な思考力を鍛えるための素材を提供する。

**学習の目的** 現在の日本経済の構造が歴史的に形成されたものであることを具体的事象とともに理解し、個々の事象のタイムスケール（何が変化し、何が変化しないか）を見極めようとする態度を身につける。

**学習の到達目標** 日本経済の歴史に関する基

本的な知識を習得することを第一の到達目標とし、歴史的な知識を背景として現状分析をおこなう態度を身につけることを第二の到達目標とする。

**発展科目** 近現代アジア経済史

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 授業中の提出物50%、レポートまたは試験50%、計100%

**オフィスアワー** 金曜日13:00～14:00、人文学部棟5階堀内研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

通史の概説については以下のような構成で進める。

1. 古代・中世の日本経済
2. 近世社会の形成と発展
3. 近世社会の衰退
4. 開港の経済的影響
5. 明治維新と経済近代化政策
6. 日本の産業革命
7. 第一次世界大戦と日本経済

8. 戦間期の日本経済

9. 昭和恐慌の経済的影響

10. 戦時期の統制経済

11. 戦後改革と経済復興

12. 高度経済成長

13. 安定成長

14. 経済バブルと平成不況

このほかに適宜、重要テーマについて取り上げて解説する。

# 日本経済史演習

Seminar in Economic History of Japan

学期 通年 開講時間 木7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 堀内義隆

**授業の概要** 日本(場合によってはアジア・世界)経済の発展過程を学ぶことを通じて、日本社会が抱えている諸問題を知り、長期的観点からその解決の道を探る。

**学習の目的** 歴史的思考とは、時間軸に沿って社会現象の因果的連関を捉えつつ、現象同士の共時的・構造的関連性を見つけ出す認識方法である。この授業では、歴史あるいは社会現象は、単なる事実の羅列ではなく、学生が自らの問題関心に即して再構成することによって初めて「使える」ものになるということを学ぶ。

## 学習の到達目標

(1) 日本と世界の過去200年間の経済発展に

ついて知ること。

(2) 社会科学における歴史的思考法を身につけること。

(3) これからの日本社会を生き抜く方法を考えること。

**受講要件** 法律経済学科の専門演習決定手続きによる。

**教科書** 受講生と相談のうえで決定する。

**成績評価方法と基準** 出席を前提としたうえで、発表・討論への参加・レポートなど演習への参加態度を総合的に評価する。

**オフィスアワー** 随時対応する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

前期は、共同体(コミュニティ)に関する文献を輪読し、ゼミでの議論をふまえてレポートを作成し、学習成果の定着を図る。また、特定のテーマを設定して集団研究を行い、ゼ

ミで報告する。

後期は、前期の学習をふまえつつ、一層深めながら、集団研究の成果をゼミ論文としてまとめる。

# 近現代アジア経済史

Modern and Current Economic History of Asia

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 堀内義隆

**授業の概要** 現在のアジア経済を理解するためには、東アジア経済の資本主義化の歴史に関する理解が不可欠である。この授業では、西洋起源の資本主義的な世界システムがアジアに拡大・浸透してくる中で、東アジアの各国・地域がその衝撃にどのように対応してきたか、そしてそれによって東アジアにどのような経済構造が形成されてきたかを学ぶ。

**学習の目的** 近代から現代に続く東アジア経済の歴史を深く理解することを通じて、今後のアジアにおける日本の経済的役割について考える力を身につける。

**学習の到達目標** 東アジアの諸国家・地域の経済発展が資本主義の拡大・発展を主軸として相互に関連しながら進んできたこと、さら

に、日本がその構成要素として重大な役割を果たしてきたことを理解する。

**教科書** 初回の授業で指示する。

**成績評価方法と基準** 授業での提出物50%、レポートまたは期末試験50%、計100%

**オフィスアワー** 金曜日13:00~14:00、人文学部棟5階堀内研究室

## その他

本講義は、現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

2008年度以前入学生については「特殊講義 [近現代アジア経済史]」として開講しません。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

以下のような3部構成で、基本的には時系列に沿って、東アジア経済の資本主義化の過程を説明してゆく。

1. 近代ヨーロッパとアジアの接触：東アジア

の伝統経済と近代資本主義の受容

2. 戦前日本とアジアの経済関係：日本帝国の拡大と東アジアの資本主義的発展

3. 戦後アジアの経済成長：資本主義のグローバル化とアジアの工業化

# 金融論

## Monetary and Financial Economics

学期 前期 開講時間 火 3, 4; 金 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選必 選択 授業の方法 講義  
担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

**授業の概要** ☆講義では毎回新聞記事や視聴覚教材等を用いて問題意識の形成や現実感覚の豊富化を重視し、質問カードを用いることで理解が深まるようにしたい。

**学習の目的** 経済・金融の知識が深まり、日々生起する経済的事象のイメージが瞬時にわくとともに、今後の課題が考えられるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 現代経済社会を理解する上で不可欠な金融に関する基礎的知識の習得を目的とし、加えて今後の日本経済の方向性と金融のあるべき姿についても考えていく。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

☆講義の流れは以下の通り。  
4月のテーマ：現代の金融のしくみを理解する！  
第1回～第2回 講義紹介およびガイダンス  
第3回～第4回 わが国金融システムの概観～金融の基礎知識の習得～  
第5回～第6回 銀行および証券の機能と役割について  
第7回～第8回 貨幣および金融の歴史について  
5月のテーマ：日本経済の発展と金融の役割を理解する！  
第9回～第11回 戦後金融制度の確立と高度経済成長における金融の役割  
第12回～第13回 低成長下およびバブル経済下の日本経済と金融の役割  
第14回～第15回 バブル経済崩壊と平成不況下

**受講要件** 特になし

#### 予め履修が望ましい科目

特になし  
なお、特殊講義〔社会経済論〕を同時履修していることが望ましい。

**発展科目** 証券経済論

**教科書** なし（プリントを配布）

**成績評価方法と基準** 期末テスト（40%）、レポート（30%）、毎回の講義での意見カード等（30%）で総合的に評価。

**オフィスアワー** 火曜日、金曜日の昼休み。

**その他** 今年度は講義への出席を特に重視したい。

の日本経済と金融の役割  
6月のテーマ：現代の金融問題について強くなる！  
第16回～第17回 バブル崩壊後の金融機関の経営破綻  
第18回～第19回 不良債権問題と金融再生のあり方  
第20回～第21回 現代日本の金融政策  
第22回～第24回 金融システム改革（日本版ビッグバン）と金融再編  
7月のテーマ：金融のあるべき姿を考える！  
第25回～第27回 現代の世界金融危機・アベノミクス  
第27回～第30回 金融のあるべき姿および年間講義のまとめ  
第31回 テスト

# 金融論演習

## Seminar in Monetary and Financial Economics

学期 通年 開講時間 金7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

**授業の概要** 金融、経済の基本的理解を得られるようにする。

**学習の目的** 経済・金融に関する理解が深まるとともに、今後の課題を自ら考えられるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 現実の経済の大まかな動きがわかるようになることを第一の目標とします。第二に経済の中でも若干分かりにくい金融知識の習得を目標とし、第3に今後の社会で必要とされる経済に対する考え方を身につけることを目標とします。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

本演習では、上記に掲げた3つの目標を達成するために以下のような構成で進めます。

まず第1部として経済・金融の基礎的な理解が得られる文献を精読します。これは前期に集中的に行う予定であり、具体的には3冊程度の入門的文献にチャレンジします。

(⇒上記の第2目標の達成)

次に第2部として現実の経済・時事問題に強くなるために、毎回1つのテーマを決め、みんなで議論します。具体的には、その週に起こった経済社会に関する出来事について、担当者が新聞記事等を活用し、その内容・背景等を具体的に報告します。その際、演習参加者も各自で調べてきて、その問題をみんなで議論します。

力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 法律経済学科のゼミ決定手続きによる。

**予め履修が望ましい科目** 金融論、特殊講義〔社会経済論〕

**発展科目** 証券経済論

**教科書** 演習時に指定します

**成績評価方法と基準** 演習への出席、報告、討論への参加など通じて総合的に評価します。

**オフィスアワー** 研究室在室時はいつでもOK。

⇒ (上記の第1目標の達成)

なお、重要な経済問題については、ディベートを取り入れるなど今後の経済社会で必要とされる経済に対する考え方を身に付けられるよう工夫します。

⇒ (上記の第3目標の達成)

また、後期には全国の経済系ゼミナールの討論会へ出席するために共同論文を作成し、討論の準備を行います。さらに、具体的な専門への興味関心が深まってくる時期に個人の研究テーマを決め、卒業論文への準備を進めていきます。なお、こうした取り組みは就職活動の際にも具体的な研究テーマを自信をもって語れることに繋がるとともに、上記3つの目標の達成とも合致するものであることを理解していただきたいと思います。

# 証券経済論

Economics of Capital Market

学期 後期 開講時間 金 5,6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

**授業の概要** ◇講義では毎回新聞記事や視聴覚教材等を用いて問題意識の形成や現実感覚の豊富化を重視し、質問カードを用いることで理解が深まるようにしたい。

**学習の目的** 現代経済社会において、証券市場で生起している経済的事象についてイメージできるようにすることを目的とする。

**学習の到達目標** 現代経済社会において証券の果たすべき役割は大きくなっている。本講義では証券に関する基礎的知識の習得を目的としたい。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

◇講義の流れは以下の通り。

10月のテーマ：現代の証券の仕組みを理解する！

第1回 講義紹介・ガイダンス

第2回～第4回 証券についての基礎知識

11月のテーマ：証券の歴史を理解する！

第5回～第6回 株式について

第7回～第8回 公社債について

第9回～第10回 証券の歴史および日本経済の発

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 金融論、特殊講義〔社会経済論〕

**発展科目** 特になし

**教科書** なし（プリントを配布）

**成績評価方法と基準** テスト（40%）、レポート（30%）、毎回の講義での意見カード等（30%）で評価。

**オフィスアワー** 金曜日の昼休み（※ただし研究室に在室時はいつでもOK）

**その他** 現代の証券問題を理解するためには基礎的知識が重要であるため、毎回の講義に出席していただきたい。なお、金融論を履修していることが望ましい。

展と証券の役割について

12月のテーマ：現代の証券に関する問題を考察する！

第11回 バブル崩壊後の証券会社経営問題

第12回 日本版ビッグバンと証券市場改革

第13回 現代の証券市場をめぐる諸問題

1月のテーマ：今後の証券のあり方を考える！

第14回～第15回 今後の世界および日本の経済の方向性と証券のあるべき姿

第16回 テスト

# 日本経済論

Japanese Economy

学期 前期 開講時間 火5,6;木5,6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程):2年次,3年次,4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業  
担当教員 森久綱 (人文学部)

**授業の概要** 現在の日本経済をとりまく諸問題について、日本経済発展のプロセスと関連させながら理解を図ることを目的とする。講義の前半では1980年代以降のグローバリゼーションとの関連で発現した諸問題をとりあげ、昨今発現している諸問題の経済的背景について解説を行う。後半では、人類の生物としての生存に不可欠な農業・食料問題をとりあげ、世界的な食糧生産条件の悪化と中進国経済の台頭にもなう食料需要増大という状況のもとでの日本における食料生産・流通・消費のあり方について、日本経済発展のプロセスと関連させながら考察を行う。

**学習の目的** 履修者の問題・関心が日本経済においてどのような位置にあるのかを理解し、相互関係から考察を行うための基礎的知識を得る。

識を得る。

**学習の到達目標** 日本経済に発現している諸問題と背景の理解及び批判的検討を行うための知識や理論的枠組の習得。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力,論理的思考力,批判的思考力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

**教科書** なし(プリント配布)

**成績評価方法と基準** レポート又は小テスト30%期末テスト70%

**オフィスアワー** オフィスアワーについては講義内で提示する(場所:人文学部専門校舎5F518研究室)

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

巨額の財政赤字、産業の空洞化、地域経済の疲弊、資源枯渇にもなう資源価格の上昇等、現在の日本経済が直面する問題は複雑かつ多岐にわたっている。これら諸問題については、研究者のみならず、政財界からも様々な見解が示されており、日夜、新聞・ニュース報道等を通じて私たちに伝えられている。しかしながら、それらの多くは紙面や放送時間等の様々な制約、あるいは発言者の立場等から表層的・一面的になることが多い。本講義では、そうした表層的・一面的理解にとどまることなく、日本経済発展のプロセスについての整理・検討を通じて、現在の日本経済が直面している諸問題についての理解を図りたい。

第1回

ガイダンス

第2-6回

現在の日本経済を取り巻く諸問題について

一日本経済にながら起こっているのか 新聞記事にみる社会経済問題の所在一

第7-14回

日本経済の展開とグローバリゼーション  
貿易自由化の論理 リカードの比較生産費説再考

バブル経済とグローバリゼーション

GATT, WTO, FTA/EPA, TPPまでのプロセスと日本経済

第15回

講義の整理

第16-19回

農産物輸出国における生産条件の変化

輸入依存の陰で何が起きているのか 一 資源枯渇と貧困問題

第20~29回

農業部門における生産と流通の変化

食糧自給率40%はいかにして生み出されたのか 一 生産, 流通, 消費システムの視点から

第30回

講義の整理

第31回

試験

# 日本経済論演習

Seminar in Japanese Economy

学期 通年 開講時間 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習, 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 森久綱 (人文学部)

**授業の概要** 持続可能な経済発展において如何なる課題が存在しているのか。「食料・農業」及び「資源循環・環境保全」の観点から日本経済発展の枠組みを再考することで、この問題への接近を図ることを目的とする。また、知識及び理論的枠組の習得のため、論文等の解説・検討だけでなく、テーマに応じてフィールドワークを実施する。

**学習の目的** 持続可能な経済システムのあり方についての基礎的理解及び批判的考察力の習得

**学習の到達目標** 現代日本経済における問題の発見、批判的検討を行うための知識や理論的枠組みの修得

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

基本的にテーマは学生の関心に基づいて決定するが、下記のテーマを予定している。また、決定したテーマについて前後期ともそれぞれ15回の報告・討論を行う(企業訪問・工場見学を実施する場合は報告・討論と代替する)。

#### 1. 日本経済と環境問題を考える

京都議定書の締結・発行、容器・包装、食品、家電、自動車etcに関するリサイクル法の制定・施行に代表されるように、国内外を問わず環境に関しての様々な法制度が整備されつつある。これらは、最近における環境問題の顕在化を背景としており、従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした経済発展」の枠組みから、「物質循環に基づく持続可能な経済発展の枠組み」への転換を迫るものである。そこで、「物質循環に基づく持

続可能な経済発展の枠組み」とは何か、日本における経済発展の枠組みのそれへの転換において何が問題となるのか等について考えていきたい。

**受講要件** 本演習のテーマに関心を持っていること

**予め履修が望ましい科目** 日本経済論, 日本経済論特論

**教科書** 学生の問題意識や関心にあわせて選択したい。ゼミ開始時期に希望調査を行ったうえで決定する。

**成績評価方法と基準** ゼミナールでの報告、質疑、討論の内容で評価する

**オフィスアワー** 毎週木曜日演習終了後、人文学部専門校舎5F518研究室

続可能な経済発展の枠組み」とは何か、日本における経済発展の枠組みのそれへの転換において何が問題となるのか等について考えていきたい。

#### 2. 日本経済と食料・農業問題を考える

日本の食料自給率は、先進諸国において最低の水準にある。政府は2010年までに45%へと引き上げることを目標として諸政策を実施してきたが、事態が好転することなく今日に至っている。中国等における経済発展にともなう食料需要増大、途上国における人口爆発と飢餓の拡大、地球温暖化による生態系の変化等の要因によって、今後、食料・農業を巡る問題はますます深刻化するものと考えられる。そこで、日本の食料自給率が低下してきた要因、この低さには如何なる問題があるのかということに関して、日本経済発展の論理と関連させながら考えていきたい。



# 日本経済論特論

## Contemporary Economy of Japan

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 森久綱 (人文学部)

**授業の概要** 持続可能な経済発展における課題とは何かについての理解を深めるために、「資源循環・環境保全」の側面から、現在直面する諸問題についての解説を行う。

**学習の目的** 「持続可能な経済システムとは何か」について基礎的な知識を得るとともに、批判的な考察力を得る。

**学習の到達目標** 日本において構築されつつある資源循環システムにおける課題の理解及び批判的検討を行うための知識や理論的枠組の習得。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

大量生産・大量消費・大量廃棄に支えられた日本の経済成長システムは、世界的な資源枯渇と環境悪化にともない、その限界に達している。これは日本経済に限定される問題ではないが、本講義では、この問題を解決する一つの方途として日本において進められている資源リサイクルに着目し、その意義と課題についての検討をつうじて、持続可能な経済発展のための「資源循環・環境保全」のありかたについて考えたい。

第1回

ガイダンス

第2～3回

日本における資源・環境問題について

第4回

資源調達のグローバル化と資源・環境問題に

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** なし (プリント配布)

**成績評価方法と基準** レポート又は期末テスト100%

**オフィスアワー** オフィスアワーについては講義内にて提示する (場所: 人文学部専門校舎5F518研究室)

ついて

第5-13回

廃棄物リサイクルシステムへの経済学的接近

廃棄物由来原料と既存原料の差異

価格形成メカニズム

流通システム

資源リサイクルのグローバル化と国内におけるリサイクル問題

リサイクル事業者における損益と原料・需要

確保問題

第14回

持続可能な経済発展とは何か

第15回

講義の整理

第16回

試験

法律経済学科専用 **会計学**  
法律経済学科専用 **特殊講義 会計学**

Accounting  
Accounting

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 赤塚尚之 (非常勤講師)

**授業の概要** 簿記の知識をふまえ、初歩的な財務諸表分析について学習する。

**学習の目的** 財務諸表の読み方について学習を行う。

**学習の到達目標** 初歩的な財務指標の算定、および解釈スキルを身に付け、証券投資のほか、就職活動における企業選定(業界研究)に資する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力

**受講要件** 簿記の単位を取得していることまたはそれと同等の知識水準にあること。

**予め履修が望ましい科目** 簿記

**教科書** プリントを配布する(予定)。

**成績評価方法と基準**

課題と定期試験によって行う。  
課題20%、定期試験80%。

**オフィスアワー**

授業前(13時30分頃から14時30分まで)  
世話役教員: 青木雅生

**その他**

毎回、電卓を持参すること。  
2012年度以前入学生については「特殊講義[会計学]」として開講します。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

CHAPTER 01 日本の会社入門  
CHAPTER 02 会社の素顔を見るなら財務諸表  
CHAPTER 03 財務諸表の仕組みを理解する  
CHAPTER 04 財務諸表の利用者は何を知らた

がっているか

CHAPTER 05 利益を稼ぎ出す力はどうか  
CHAPTER 06 トヨタとホンダの収益性  
CHAPTER 07 支払能力はどうか  
CHAPTER 08 伊勢丹と三越の安全性

**授業の概要** 複式簿記の原理を理解し、技術を習得することを目的とする。

**学習の目的** 会計スキルを身に付ける第一歩として、初歩的な簿記の技術を身に付ける。

**学習の到達目標** 授業においては基礎的なインプット・アウトプットを行い、授業後の検定試験において日商簿記検定3級に合格する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

**受講要件** 必ず自身で復習(問題集を繰り返し解く)ができること。

**発展科目** 会計学

**教科書**

①みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級

商業簿記 TAC出版

②みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記

※2冊とも、初回授業時までに入手し、初回講義時に持参すること。

**成績評価方法と基準**

課題と定期試験によって行う。

課題10%、定期試験90%。

**オフィスアワー**

授業前(13時30分頃から14時30分まで)

世話役教員: 青木雅生

**その他**

毎回、電卓を持参すること。

2012年度以前入学生については「特殊講義 [簿記]」として開講します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

CHAPTER 01 簿記の基礎

CHAPTER 02 商品売買

CHAPTER 03 現金預金

CHAPTER 04 手形

CHAPTER 05 有価証券と固定資産

CHAPTER 06 その他の取引

CHAPTER 07 帳簿

CHAPTER 08 試算表

CHAPTER 09 伝票会計

CHAPTER 10 決算手続 I

CHAPTER 11 決算手続 II

CHAPTER 12 決算手続 III

CHAPTER 13 参考

**授業の概要** 金融機関職員により、身近な中小企業におけるコーポレートファイナンスを中心とした講義を行う。

**学習の目的** 中小企業の特徴や資金調達および経営分析、創業（ビジネスプランなど）の基礎的な知識や考え方を学ぶ。

**学習の到達目標** 中小企業の実態、経営分析や創業についての基礎知識の習得。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識・技術

**受講要件** 特に指定しない。

**予め履修が望ましい科目** 簿記の知識があれば望ましい。

**発展科目** 中小企業論、会計学

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 小テスト（無予告）、出席等で総合的に評価。

**オフィスアワー** 講義時間内

**その他**

- ・講義は日本政策金融公庫の複数の職員で担当する。
- ・講義は隔週水曜日の5-8時限（3・4コマ目）である。
- ・本講義は、現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。
- ・2012年度以前入学生については「特殊講義 [コーポレートファイナンス] 」として開講します。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- ①企業の資金調達方法（総論）
- ②中小企業の特徴と担い手
- ③中小企業金融における融資
- ④企業の財務分析①決算書
- ⑤企業の財務分析②経営分析Ⅰ
- ⑥企業の財務分析③経営分析Ⅱ
- ⑦企業の財務分析④経営分析Ⅲ

- ⑧企業の財務分析⑤キャッシュフロー分析
- ⑨成長過程の企業と財務（中堅企業融資）
- ⑩中小企業金融における信用保証
- ⑪日本の農業の概要
- ⑫農業ビジネスの動向
- ⑬創業の現状とビジネスプラン①
- ⑭創業の現状とビジネスプラン②
- ⑮ビジネスプラン作成

# 特殊講義【生産管理論】

Production Management

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岩坂 和幸 (非常勤講師)

**授業の概要** 20世紀の大量生産を主導したフォード・システムから1970年代の石油危機以降世界で注目を集めた日本のフレキシブル生産システム(その代表としてのジャストインタイム生産)、そして1990年代以降あらゆる情報をデジタル化し、ネットワーク化するITC技術の進展とともに広がってきたモジュール生産を取り上げる。また、近年ものづくり論の中で大きな位置を占めるアーキテクチャ論、及びアーキテクチャと組織能力の関係なども説明する。

**学習の目的** まず、市場の変化というものに生産方式がどのように対応してきたのかという点を自動車におけるものづくりの中で理解してもらおう。また、擦り合せ型の典型といわれてきた自動車のものづくりにおいても、PC生産などで進んでいたモジュラー化が進展し、自動車生産における共通化と多様化という一見すると矛盾するような方向を統合する技術の進展にも関心を持ってもらおう。

**学習の到達目標** 大量生産のあり方と流れ、大量の情報存在に対して人間の情報処理が追いつかない、つまり人間の認知能力の限界という問題に直面して、知をカプセル化(=モジュール化)して、その知を結合することによって複雑なものを単純化するモジュラー化

などの修得。

**本学教育目標との関連** 感性, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力

**受講要件** 経営学の基礎的理解を必要とするため経営学総論は出来るだけ受講して下さい。

**予め履修が望ましい科目** 経営学総論

**発展科目** 特になし

**教科書** 特に指定しないが、藤本隆宏編『ものづくり経営学』(光文社新書 2007年)の購入をすすめる。

**成績評価方法と基準** レポート30%、定期試験70%

**オフィスアワー**

本務校ではないため、講義終了後か、またはメールで問い合わせ下さい。  
メールアドレス: iwasaka@gifu-keizai.ac.jp  
メールには、要件の欄に氏名と(三重大学)の大学名を必ず記載して下さい。  
世話役教員: 青木雅生

**その他** 本講義は現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1. 講義の紹介: 市場の変化と生産の対応
2. 画一的大量消費市場とフォード・システム
3. Coffee break! [テイラー・システム~標準作業量(課業)の設定と計画に基づく統制~]
4. 市場の多様化とフレキシブル生産方式~多品種・多仕様・大量生産と生・販統合システムの成立~
5. ジャスト・イン・タイム生産①
6. ジャスト・イン・タイム生産②
7. 生・販統合システム~オーダー・エントリー・システム(トヨタ)①

8. 生・販統合システム~オーダー・エントリー・システム(トヨタ)②
9. カスタム化市場〔顧客対応型市場〕と変種変量生産~セル生産方式~
10. カスタム化市場〔顧客対応型市場〕とモジュラー化戦略: プラットフォームの共通化と多様化~VW社のMQB(Modulen Quer Baukasten)戦略を事例に~
11. モジュラー化戦略とは
12. アーキテクチャとものづくり① (擦り合わせ型製品アーキテクチャとモジュラー型製品アーキテクチャ)

13. アーキテクチャとものづくり② (擦り  
合わせ型製品アーキテクチャとモジュラー  
型製品アーキテクチャ)

14. アーキテクチャとものづくり③ (アー

キテクチャの変化と統合化・モジュラー化  
の関係)

15. ものづくりにおける競争力と組織能力

# 特殊講義 [社会経済論]

Social Economy

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 講義  
担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

**授業の概要** ☆講義は毎回VTRを用いて、経済問題全般に関する諸テーマについて検討する。講義の進め方は、VTRの解説を行うとともに受講生とのディスカッション(参加型授業)を重視する。また、毎回出席カードに意見・感想を書いてもらうことで、そのテーマについての理解が深められる工夫を行う。

**学習の目的** 現代社会において生起している経済的事象について、問題意識を持って接し、その現状と課題を考えられるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 複雑な現代経済の様々なテーマを扱った映像を活用しながら、経済・金融に関するイメージを豊かにするとともに、現実に生起している日本の経済・金融問題に対する広い視野からの理解を深めることを目的とする。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

☆取り上げるテーマは講義開始時までに放映された映像もいくつか加える予定にしているが、現段階で取り上げるテーマは以下の通りである。なお、放映順については変更あり。また受講生の要望で新たにテーマを付け加えることも考えている。

2016年度に予定しているテーマ

- ・アベノミクスに関する問題(金融緩和と政策、財政問題、成長戦略)
- ・地域金融再編
- ・マネー資本主義に関する問題
- ・欧米経済に関する問題
- ・新興国経済に関する問題
- ・雇用問題
- ・社会保障に関する問題
- ・エネルギーと環境問題
- ・消費者被害に関する問題
- ・インフラに関する

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

### 発展科目

金融論、証券経済論、日本経済論、経済原論、産業経済論総論

\*なおこれらの科目は、特殊講義[社会経済論]と同時に履修でも可。

**教科書** なし

**成績評価方法と基準** レポート60%、意見カード・講義への参加状況等40%

**オフィスアワー** 火曜日および金曜日の昼休み(※ただし研究室に在室時はいつでもOK)

### その他

受講に際しては、講義への参加の意志を強く持っていたきたい。

今年度は特に金融論との同時履修(または既修得)が望ましい。

本講義は現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

る問題 etc.

2015年度 社会経済論の講義内容

第1回 講義ガイダンス

第2回 世界経済は今、どうなっているのか〜グローバル経済の現状とマネーの動向〜

第3回 震災復興は本当に進んでいるのか〜日本再興戦略下の被災地復興の現状

第4回 地方創生は本当に成り得るのか〜コンパクトシティをめぐる現状〜

第5回 地域経済再生と金融機関の役割とは何か?〜地域のインフラとしての金融の課題〜

第6回 日本社会は本当に豊かになったと言えるのか?〜格差拡大の帰結としての子ども・高齢者の貧困〜

第7回 資本主義の下で格差は拡大するのか〜現代資本主義経済における経済学の役割〜

第8回 アベノミクスによって景気は回復するのか～円安・株高と景気の現状～

第9回 中国経済は今、どうなっているのか？～シャドーバンキング問題に揺れる中国金融～

第10回 原油市場は今後どうなっていくのか？～原油安・シェール革命・環境問題の現状～

第11回 W杯開催と置き去りにされる市民生活～ブラジル経済の現状と課題～

第12回 ギリシャ危機と混迷するEU経済～EU統合は正しかったと言えるのか～

第13回 アメリカの利上げと世界経済～世界通貨安の現状とその影響～

第14回 女性の働き方はいかにあるべきか？～日本における女性労働の実態と今後の課題～

第15回 講義のまとめ



# 特殊講義[協同組合論]

Co-operatives

学期 後期 開講時間 木9,10 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 青木 雅生 (人文学部)

石田 正昭 (非常勤講師)

**授業の概要** 協同組合とは何か、どのような役割があり実践があるのか、そして協同組合の今後について、学び考える。

**学習の目的** 現代の資本主義社会において活動する組織として、企業や行政などのほかに市民セクターがあり、そのひとつに協同組合がある。市民などの自発性に基づいて組織される協同組合の本来の役割や意義を歴史的な経緯も含め理解をするとともに、現在の活動内容や状況を、実際に携わっている方たちから直接きくことを通じて、現代社会の諸問題について考え、未来への課題を共有し、検討していくことを目的とする。協同組合と未来を担う学生との関係、地域との関係などについて、そのもちうる可能性についても検討する。

## 学習の到達目標

協同組合の基本的な意義や役割を理解する。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 ガイダンス～企業・行政と市民セクター
- 第2回 協同組合と地域
- 第3回 協同組合の歴史と実践
- 第4回 生協の現在と未来
- 第5回 消費者と協同組合
- 第6回 医療・福祉と協同組合
- 第7回 大学と協同組合

様々な協同組合の活動などを具体的に知ることを通じて、現代社会の諸問題を知るとともに、解決に向けた課題を考える。

協同組合のもつ未来への可能性を考えるとともに、自らの社会で果たす役割を考える。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 社会人としての態度

**受講要件** とくになし。

**予め履修が望ましい科目** とくになし (できれば経営学総論を受講しておいて欲しい)

**教科書** 毎回の講義で適宜資料を配付する。

**成績評価方法と基準** レポートおよび平常点

**オフィスアワー** 木曜日13:00-14:30

**その他** 本講義は現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

- 第8回 農からみた協同組合
- 第9回 水産物と協同組合
- 第10回 中小企業と協同組合
- 第11回 働く人の協同
- 第12回 金融と協同組合
- 第13回 協同組合と市民
- 第14回 世界の協同組合
- 第15回 協同組合の未来

# 近代経済学

## Introduction to Economic Theory

学期 後期 開講時間 火 1, 2; 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle  
担当教員 嶋 恵一 (人文学部法律経済学科)、落合 隆(人文学部法律経済学科)

**授業の概要** ミクロ経済学(落合隆担当)とマクロ経済学(嶋恵一担当)とに関する入門レベルの講義を行います。

**学習の目的** 経済学的な考え方が理解できる

**学習の到達目標** 現実の経済の見方を習得し、経済メカニズムの基本原則が理解できる

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** ミクロ経済学、マクロ経済学、国

際経済論、経済政策、財政学

### 教科書

[テキスト] ミクロ経済学: 『ミクロ経済学第2版』伊藤元重著(日本評論社)2003  
マクロ経済学: 使用しません

**成績評価方法と基準** ミクロ経済学50点、マクロ経済学50点の配分でそれぞれ定期試験および小テストの点数で評価します。

**オフィスアワー** 授業の最初に指示します。

**その他** テキストは各自必ず購入してください。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

詳しい内容は以下のとおりです。  
ミクロ経済学(落合隆: 木曜日)

1 ミクロ経済学とは  
2 需要と供給

3~4 需要曲線と消費者行動

5~6 費用の構造と供給行動

7~8 市場取引と資源配分

9~10 ゲームの理論入門

11 競争と独占の理論

12 市場の失敗

13~15 消費者の理論

マクロ経済学(嶋恵一: 火曜日)

1 講義の概要と内容の説明(マクロ経済学のミクロ基礎付け、マクロ経済分析)

マクロ経済学のミクロ基礎付け(7回):

2 消費: 二財選択モデル、予算制約に基づく最

適化問題

3-4 異時点間の最適化問題、割引・時間選好、利子

5-6 投資、割引現在価値、収益率、トービンのq理論

7-8 貯蓄、消費のライフサイクル仮説

マクロ経済分析(7回):

9 マクロ経済均衡(マクロ経済規模の決定に関する経済理論)

10 生産関数、消費関数、投資関数、貨幣需要関数(ポアモル・トービンモデル)

11 労働市場、貨幣市場均衡

12-13 生産市場と金融市場の同時均衡: IS-LMモデル

14 マクロ経済成長: ソロー均衡成長モデル

15 全要素生産性モデル、成長分解

# マクロ経済学

Macroeconomics

学期 前期集中 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 橋本浩幸

**授業の概要** マクロ経済の動きや問題を捉えて理解するための「マクロ経済理論」を講義します。具体的には、マクロ経済の状態を捉える代表的なデータであるGDPを理解するところから始めて、経済成長と景気循環のメカニズム、金融政策と財政政策の方法と経済への影響、金融の仕組みなどを解説する。

## 学習の目的

経済成長のメカニズムを理解すること。  
経済成長を促進する政策と景気対策としての政策の違いを理解すること。  
マクロ経済を身近なものとして捉えられるようになること。

**学習の到達目標** 講義で学んだマクロ経済理論を用いて、経済成長に必要な政策、景気対策の効果、財政再建の行方を学生自ら論じることができるようになること。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1講 ガイダンス+プロローグ
- 第2講 マクロ経済学の課題と視点
- 第3講 所得を測る
- 第4講 何が生産性を決めるのか?
- 第4講 物価を測る
- 第5講 経済成長の様子
- 第6講 経済成長のメカニズム
- 第7講 経済成長の理論モデル
- 第8講 資本蓄積と生産性
- 第9講 社会インフラと生産性
- 第10講 金融とは
- 第11講 金融システムの機能
- 第12講 金融システムの課題
- 第13講 貨幣とは
- 第14講 金融政策

探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力

**受講要件** 毎回、数学を使うわけではないし、極力計算をしないで済むテキストを指定しているが、高校文系数学程度の知識を持っていることが望ましい。

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学を履修していることが望ましい。

**教科書** 『いまこそ学ぼうマクロ経済学』 初版 (日本評論社、2008)

**成績評価方法と基準** 授業時間内に実施するテストにより評価する。ただし、出席点を評価に加えることもある。尚、テストの実施は事前に授業時に通知する。第一回目の講義時間にて、評価方法の詳細をお知らせします。

**オフィスアワー** 質問がある場合はe-mailにてhiro@biz.u-hyogo.ac.jpまで問い合わせてください。連絡窓口は川地先生です。

- 第15講 国際収支表
- 第16講 貿易と資本移動のマクロ経済学
- 第17講 消費理論
- 第18講 投資理論
- 第19講 景気循環とは
- 第20講 景気循環の考え方
- 第21講 失業の種類
- 第22講 物価と失業について
- 第23講 物価変動と経済厚生
- 第24講 生産変動と経済厚生
- 第25講 財政の仕組み
- 第26講 財政赤字の様子
- 第27講 課税分析
- 第28講 課税の効率性
- 第29講 累積債務とプライマリーバランス
- 第30講 財政の維持可能性

# ミクロ経済学

Microeconomics

学期 後期 開講時間 火 7, 8; 金 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 森俊一 (非常勤講師)

**授業の概要** ミクロ経済学の基本的な理論について講義する。ミクロ経済学では数学による手法を用いて議論を展開することが一般的であるが、講義では、数学的手法を用いることを最小限にとどめ、かつそれについても解説することにする。

**学習の目的** 経済問題を理論的に考えることができるようになり、他の経済系諸科目を学ぶための基礎が理解できるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** ミクロ経済学の分析手法と理論構造を理解できるようになることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学、経済数学

**発展科目** マクロ経済学、財政学、地方財政論

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 期末テストの成績で評価する。

**オフィスアワー** 授業の後、教室にて対応する。連絡の窓口は豊福先生。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ミクロ経済学とは何か

第2回～第5回 市場の働き；純粹交換経済

・市場メカニズムとパレート最適な配分

第6回～第10回 消費者行動

・効用関数、効用最大化と最適消費計画、スルツキー分解、

第11回～第15回 企業の行動

・生産関数、費用関数、利潤最大化、結合生産

第16回～第18回 市場均衡

・完全競争、生産を含む経済での一般均衡、生産要素市場の均衡

第19回～第21回 不完全競争

・独占、クールノー＝ナッシュ均衡、独占的競争

第22回～第26回 厚生経済学

・厚生経済学の基本定理、外部性、公共財、課税

第27回～第30回 不確実性、その他

# 国際経済論

International Economics

学期 後期 開講時間 火 5, 6; 木 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle  
担当教員 落合隆(人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 国際貿易と貿易政策がある国の経済に与える影響を理解すること。

**学習の目的** 国際貿易の現状と制度についてわかり、基本的な貿易が生じる理由が理解できる。

**学習の到達目標** 現実の複雑な国際経済現象を抽象化し、問題点を抽出してモデル化し、分析する能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学、ミクロ経済学

**教科書** 『国際経済学』阿部顕三、遠藤正寛 著 有斐閣アルマ

**成績評価方法と基準** 中間・期末テスト70%、授業中の問題あるいは宿題のレポート30%、計100%

**オフィスアワー** 火曜日7~8限 場所: 人文学部棟5階落合研究室

**その他** 受講生の理解度により、進め方を変えていく。必ずしもテキスト通りには進めるとは限らない。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1~2 国際貿易の概観: 自由化への歩みと現状  
3~5 国際貿易の基本分析: 基本的枠組み  
6~7 生産技術と貿易パターン: リカード・モデル  
8~11 生産要素の供給と貿易パターン: ヘクシャー=オリーン・モデル  
12~15 産业内貿易と新貿易理論

16 中間試験  
17~18 関税政策の基礎分析  
19~21 関税政策の応用分析  
22~23 数量制限と補助金政策  
24~26 国際要素移動  
27~30 国際貿易システム  
31 授業のまとめ

# 国際経済論演習

学期 通年 開講時間 木 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 落合隆(人文学部法律経済学科)

## 授業の概要

経済学を利用して経済社会における諸問題を考察する。

前期においては、問題の背景や既存の理論においてどのような見解がとられて

きたかを知るためにテキストを輪読する。取り上げる問題としては環境経済学、資源経済学、国際経済学、国際金融論、企業と組織の経済学、法と経済学など

から受講者の興味により選択する予定である。

後期においては、受講者の希望するテーマについてのレポートを報告してもらう。

**学習の目的** 国際経済における諸問題を理解する

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

経済学を利用して経済社会における諸問題を考察する。

前期においては、問題の背景や既存の理論においてどのような見解がとられて

きたかを知るためにテキストを輪読する。取り上げる問題としては環境経済学、

## 学習の到達目標

経済社会における諸問題について理解するとともにその解決法について考察する能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 履修希望者と相談の上決定する。

**成績評価方法と基準** 出席とゼミにおける積極的な姿勢を重視する。特に無断欠席は認めない。

**オフィスアワー** 前期木曜日14:30~16:10、後期火曜日12:00~13:00 人文学部棟5階落合研究室

資源経済学、国際経済学、国際金融論、企業と組織の経済学、法と経済学など

から受講者の興味により選択する予定である。

後期においては、受講者の希望するテーマについてのレポートを報告してもらう。

# 財政学

Public finance

学期 前期 開講時間 火 1, 2; 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 川地 啓介

**授業の概要** 財政学の基礎的な理論について講義する。政府が行う経済活動について、理論的な側面から考察する。

**学習の目的** 財政学の諸理論について理解し、実際の財政に関わる問題を経済学的な視点から考えられるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 財政学について学び、その理論の構造を理解できるようになることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学

**発展科目** ミクロ経済学、マクロ経済学、地方財政論

**成績評価方法と基準** 中間試験、期末試験またはレポート、提出課題等により総合的に判断する。

**オフィスアワー**

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

**その他** 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. ガイダンス
2. 財政学のための準備
- 3-4. 消費者の行動
- 5-6. 課税と消費者の選択
- 7-8. 企業の行動
- 9-10. 課税と企業の選択
- 11-12. 市場の理論
- 13-14. 租税の帰着

- 15-17. 外部効果
18. 中間試験
- 19-21. 公共財
- 22-23. 社会的決定
- 24-25. 独占と規制
- 26-27. 所得再分配
- 28-29. 社会保険
30. まとめ

# 財政学演習

Seminar on Public Finance

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 川地 啓介

**授業の概要** 中央及び地方政府の役割や問題点について考察する。受講者には、報告を行い、ディスカッションに参加することが求められる。

**学習の目的** 中央政府や地方政府の抱える諸課題について、経済学の観点から議論することができるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 財政理論や政府の役割について理解できるようになることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

ション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学

**発展科目** 財政学、地方財政論、ミクロ経済学

**教科書** 必要に応じて演習時に提示する。

**成績評価方法と基準** 報告、レポート（論文）、討論、授業への参加姿勢等により総合的に評価する。

**オフィスアワー**

毎週火曜日12:00～13:00

場所 人文学部5階川地研究室

**その他** 受講者の状況や進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

本演習では、経済学の理論的な視点から、中央政府や地方政府を取り巻く経済問題について考察していきたい。具体的な演習の運営内容としては、以下を予定している。

1-10.財政学・公共経済学に関するいくつかの

テーマについて、理論的な側面から考察

11-20.学生論集の執筆

21-30.各自の希望テーマについての報告



# 地方財政論

## Public Finance of Local Government

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 川地 啓介

**授業の概要** 地方の財政構造を経済学的な観点から捉えることで、中央及び地方政府の役割や問題点について理解することを目的とする。

**学習の目的** 中央政府と地方政府の役割・現状・問題点を理解し、望ましい地方分権のあり方について理論的に考察できるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 地方財政について学び、財政理論やわが国の財政構造について理解できるようになることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術

識・技術

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学、ミクロ経済学

**発展科目** 財政学

**成績評価方法と基準** 期末試験またはレポート、提出課題等により総合的に判断する。

**オフィスアワー**

毎週火曜日12:00~13:00  
場所 人文学部5階川地研究室

**その他** 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

1. ガイダンス
2. 市場経済と政府
- 3-4. 国と地方の財政状況
- 5-6. 地方政府の役割

- 7-8. 地方公共支出
- 9-10. 地方税
- 11-12. 政府間関係
- 13-14. 地方政府を取り巻く経済環境
15. まとめ

法律経済学科専用

# 地域経済論

法律経済学科専用

## 特殊講義 地域経済論A・B

Regional Economics

Regional Economics

学期 前期 開講時間 火5,6;木5,6 単位 4 対象 2010年度以降の入学生用 年次 学部(学士課程):

2年次,3年次,4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

### 授業の概要

地域における経済現象とその主要な経済理論・モデルについて学ぶ。

経済のグローバル化のもとで、先進工業国の産業は付加価値の高い技術革新のための競争を行っている。その中で地域の産業政策、地域政策は大変重要である。また地方分権の進展で、地域の自立可能な方策や地域間連携によって地域の役割が重視されてきている。地域内、地域間という空間の中でヒト、モノ、カネ、情報の移動、大都市と農村など様々な地域特性を踏まえた形態により地域を把握する必要がある。地域経済に関わる諸活動や地域の構造を理論的な観点から学び、地域の事例も加えながら、地域の経済構造や経済成長、地域経済問題の考え方を学ぶ講義である。

### 学習の目的

経済学の基礎理論・モデルに基づいた地域経済の実態と地域政策について理解する。地域経済の問題に対する多面的な見方を培い、それに対処するための考えを検討できる能力を養う。さらに、日常での生活でも地域経済に関する疑問を経済学視点で捉える。

### 学習の到達目標

経済学の基礎理論・モデルに基づいた地域経済の実態と地域政策について理解したことを、説明することができる。そして、地域経済の問題に対する多面的な見

方をすることができることによって、地域の経済問題について、分析するモチベーションを得ることができる。また、地域経済におけるテーマ設定や問題点の指摘をする能力を得る。

### 本学教育目標との関連

モチベーション、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 予め履修が望ましい科目

統合科目：社会、経済学、専門科目：経済政策、マクロ経済学、ミクロ経済学

### 発展科目

地域経済分析

### 教科書

第1回講義中に指示する。

### 成績評価方法と基準

レポート(20%)、期末試験(50%)、講義中の小テスト(30%)  
出席は一定回数に達しないもの、および期末試験を受けない場合は単位を認定しないので注意すること。

### オフィスアワー

火曜日講義終了後14:40～

16:00、木曜日12:00～13:00、研究室

### その他

地域経済論AとB、「地域経済論」は同一時限・同一内容の開講である、また、地域経済論AとBをセット履修のこと

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 イントロダクション 地域とは何か

第2回～3回 都市と都市化の概念、都市集積の理論

第4回 都市規模と都市システム

第5回～6回 住宅の立地、都市の空間構造

第7回～9回 産業の立地、地価と土地政策

第10回 住宅市場の理論と政策

第11回 地域経済の基本構造

第12回～13回 地域経済の成長理論、地域の経済成長と社会資本

第14回 地域間格差と人口移動

第15回 地域間交易と空間経済学

第16回 都市と地域の交通

第17回 社会資本の整備

第18回 公共部門と都市・地域政策

第19回 地方財政と地方分権

第20回 市町村合併と地方分権

第21回 都市集中のメカニズム

第22回 都市集積の経済性

第23回 経済立地の理論第15回 地域の産業構造

第24回 地域経済循環と産業連関

第25回 産業連関表の考え方

第26回 産業間のつながり

第27回 地域と観光

第28回 地域の持続的発展と環境問題

第29回 四日市公害と地域政策

第30回 まとめ総括

# 地域経済論演習

## Seminar on Regional Economics

**学期** 通年 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 4 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 3年次

**授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

**担当教員** 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地域経済に関する現状と地域経済政策の基礎となる理論を理解し、経済や環境や観光に対する数量分析を行える能力を養うための講義とする。各地で行われているイベントの経済波及効果の分析や観光および経済における環境問題についても逐次取り扱う。また、学生の皆さんが興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行う他、学生の皆さんが地域経済研究するために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定である。

**学習の目的** 経済発展や観光や環境の地域経済に関する知識を増やすことによって、現在直面する多様な問題を解決のために必要な考え方・そのための能力を養うことである。

**学習の到達目標** 地域経済に関する現状と地域経済政策の基礎となる理論を理解し、数量分析を行える。分析とそれにあわせたレポート作成を行う知識を得る。

**本学教育目標との関連** 共感, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

講義項目とそれぞれの講義方法は以下通りである。

講義項目は4つに分けられる。

3年生ゼミは全員が関心あるテーマに対するレポート報告を行う。

研究目的に合わせた文献の輪読や実習の講義を状況にあわせて行う。

1. 学生が関心のあるテーマに対するレポート報告  
学生はレポートを作成し、講義中に発表する。

**予め履修が望ましい科目** 計量経済学、統計学、地域経済論、経済政策、マクロ経済学、ミクロ経済学、環境経済学

**教科書** 主要テキストは講義中に指示する。

**成績評価方法と基準** 出席の状況、講義への積極的な参加、研究報告の内容やレポート内容等について総合的に評価する。

**オフィスアワー** 第1水曜日と第4木曜日12:00～13:00

#### その他

経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。特に関連授業科目の履修はゼミで学ぶ内容をより充実することにつながるため、ぜひ履修をお願いしたいと思います。また、ゼミは毎週授業に参加することによって学べる内容も多いため必ず出席をして下さい。

地域経済論のゼミは、学生の皆さんが主役です。学生同士の協力、学ぶことで刺激し合える仲間、ともに学ぶことを共有できることの楽しさを味わえる、そんなゼミに参加したい方を歓迎します! この時、そして同じ場を共有できる出会いを大切に、経済を学ぶ楽しさを学生の皆さんに提供できるように、教員として出来る限りのサポートをする予定です。

教員はレポート作成に必要な文献、コンピューター操作に対するアドバイスをするとともに、

パワーポイントを利用したプレゼンテーション方法も講義中に提供する。

2. 地域経済に関する文献の輪読

地域経済理論や観光および環境経済の文献を読み、その内容についてディスカッションを行う。

3. 計量経済手法を学ぶための実習授業

エクセルや計量経済分析用アプリケーションを用いた計量経済分析および産業連関分析を

学ぶ

ために、実習する（各自ノートパソコンを持参）。

自らがデータ分析を経験し、分析結果としてとりまとめる。

4. 地域経済を学ぶことのできる機関への訪問研修

教員と学生が地域への訪問を行うことを相談した上で、最終的に本研修の有無を決める

が、

可能であれば集客に成功している観光地域や学生が興味を持っている地域への訪問研修を行う予定である。

ただし、3年生は後期に就職活動が始まることもあり、夏休みまでに研修が実施可能であれば

行うこととする。

# 地域経済分析

## Regional Economic Analysis

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

### 授業の概要

この講義では、地域経済データを用いて、計量経済学的方法で分析する方法を解説し、地域経済の現状把握が可能になる分析事例や地域経済データや地域環境関連データを統計学的に処理することをまなぶものである。

地域経済データや地域産業データ、地域の環境関連データについては、テレビや新聞など数多くのメディアに取り上げられているデータを用いる他、地域産業連関表を用いた分析も行う。

**学習の目的** 受講生が独自に地域の経済および環境、産業分析を行え、地域経済について、自ら研究を行えることになることを第1の目的とする。

### 学習の到達目標

地域経済データを自ら用意し、統計学、計量経済学的手法を活用することによって分析することを理解する。様々な地域問題について、データから考える。地域経済の現状を理解し、議論するための分

析手法の習得を目指す。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

**受講要件** EXCEL操作やインターネットの利用、PC上でデータおよび文章入力などができる学生を対象とする。

**予め履修が望ましい科目** 計量経済学

**教科書** テキストは使用せず、課題のファイルを提供する。

### 成績評価方法と基準

2回の課題のレポート、出席状況により総合評価する。

出席しない学生や講義中に課す課題を行わない学生は評価の対象としない。

**オフィスアワー** 毎週木曜日12:00~13:00

**その他** 実習形式の講義のため、欠席をすると講義内容が理解できなくなります。必ず出席してください。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 地域経済データの特性と種類
- 第2回 地域特性の分析
- 第3回 地域比較 記述統計 (1)
- 第4回 地域比較 記述統計 (2)
- 第5回 地域の所得格差の分析
- 第6回 地域における生産関数
- 第7回 地域における人口の予測

第8回 地域調査の概要

第9回 調査結果単純集計とクロス集計

第10回 地域工業統計利用、特化係数

第11回 地域産業連関分析の概要

第12回 地域産業連関表の利用方法(1)

第13回 地域産業連関表の利用方法(2)

第14回 産業間の関係性を見出す

第15回 その他 地域経済の波及効果分析

# 産業経済論総論

学期 前期 開講時間 月7,8; 金1,2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 日本の産業構造及び日本を代表する産業について、その歴史と現状を理解するのが本科目の目的である。講義では、日本の代表的産業をいくつか取り上げ、その産業特性と、歴史的な展開過程、及び現状と課題について考察する。

**学習の目的** 日本の産業構造が形作られてきた歴史的な発展過程に関する知識に基づき、今日の日本の産業構造の特性を理解するとともに、日本の産業構造全体及び各産業の抱える課題を分析することができる。

**学習の到達目標** 日本の産業構造が形作られてきた歴史的な発展過程に関する知識に基づき、今日の日本の産業構造の特性を理解することができるようになる。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

講義は、①日本産業の発展過程を概観するとともに、産業構造分析を行ううえでのキーワードを理解する総論、②代表的産業の発展過程と現状について考察する各論、③それらを受けて今日の産業構造についての分析を行う総論、の3部構成で進めていく。各回の予定は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2～8回 総論 (戦前～バブル崩壊・現況まで)

**本学教育目標との関連** 感性,モチベーション,幅広い教養,専門知識・技術,論理的思考力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** とくにない。

**発展科目** 産業経済論各論

**教科書** 特に用いない。

### 成績評価方法と基準

定期試験および講義中に行う小テストの成績によって評価する。

(小テスト30%、期末試験70%、計100%)

**オフィスアワー** 毎週金曜日3～4限、場所：豊福研究室

第9・10回 各論：鉄鋼業

第11・12回 化学工業

第13・14回 農業

第15～18回 エレクトロニクス産業

第19～21回 自動車産業

第22・23回 小売業

第24・25回 サービス業

第26・27回 総論：日本の中小企業

第28・29回 総論：日本経済のグローバル化

第30・31回 総論：現代日本の産業構造

第32回 定期試験

# 産業経済論総論演習

学期 通年 開講時間 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 現代の産業と生活・居住の諸問題を、具体的な地域を対象として考究するのが本演習の目的である。そのため、演習では、三重県内の特定の市町をフィールドに設定し、アンケート調査やヒアリング調査等のフィールドワークを行うとともに、調査結果を報告書やプレゼンテーションにまとめる。

**学習の目的** 地域の現実の中から調査・研究テーマを設定し、その考究に必要なヒアリング調査、アンケート調査等のフィールドワークを自ら設計できるとともに、調査結果をわかりやすくプレゼンテーションできるようにする。

**学習の到達目標** 地域の分析に必要な文献、資料の収集方法や、ヒアリング調査、アンケート調査等のフィールドワークの手法を習得するとともに、統計データやアンケート調

査結果を分析し、その結果をプレゼンテーションできるようにする。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 産業経済論総論、産業経済論各論

**教科書** 演習内で適宜指定する。

**成績評価方法と基準** 演習への出席と報告や討論への取り組みによって総合的に評価する。

**オフィスアワー** 毎週金曜日10:30～12:00 場所: 豊福研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

演習の年間スケジュールの概要は以下の通りである。

まず前期中は、産業経済に関する入門的なテキストを読み、基本的な分析視角や方法について学んだ上で、次に三重県内の特定の市町村を対象として、当該地域の産業や生活・居住の諸問題について、資料・文献等を用いてサーベイし、具体的な調査テーマを確定す

る。その後、夏期休業等を利用しながら現地でのヒアリング調査等を実施し、年内にその成果を共同論文にまとめる。年明け以降は、ゼミ生各自の卒論テーマを決め、その研究報告の場としてゼミを活用したい。

なお、通常のゼミとは別に、ゼミ主催の調査合宿、4年生との合同合宿等を行う予定である。



# 産業経済論各論

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

## 授業の概要

住宅産業という1つの産業に焦点をあて、詳しく考察することで、住宅という商品の供給に関わる諸問題（住宅問題）を経済学及び産業論的視点から捉えることの意義を理解する。なお、本科目は産業経済論総論の発展科目である。

**学習の目的** 日本における住宅問題の背景を、住宅の商品特性と住宅産業の産業特性およびその日本の特徴といった経済学及び産業論的視点から理解し、同様の視点から住宅問題の解決策と政策的諸課題を導出することができるようになる。

**学習の到達目標** 住宅の商品特性と住宅産業の産業特性およびその日本の特徴を理解するとともに、それらが住宅に関する諸問題と住

宅政策のあり方に関わっているかを理解することができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 産業経済論総論

**教科書** 特に用いない。

## 成績評価方法と基準

小テスト及び定期試験の結果によって総合的に評価する。

(小テスト30%、期末試験70%、計100%)

**オフィスアワー** 毎週金曜日3～4時限、場所：豊福研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

各回の予定は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2～4回 日本の住宅の歩み

第5～8回 住宅産業（戸建住宅業界）

第9～11回 住宅産業（マンション業界）

第12・13回 住宅金融（サブプライムローン問題）

第14回 住宅市場の国際比較

第15回 住宅の公共性と住宅政策の課題

第16回 定期試験

# 計量経済学

Econometrics

学期 前期 開講時間 火7,8; 金3,4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 嶋恵一

**授業の概要** 計量経済学は経済統計に基づく分析や、経済理論が与える仮説の正しさを吟味する学問です。計量経済学は現実のデータを用いて経済の仕組みを分析するため、それは数理統計学の概念に基礎を置きます。講義では経済理論と統計学とのバランスを重んじながら計量経済学が果たすべき役割に光を当て、計量経済学への入門を図ります。

**学習の目的** 統計データを用いた経済分析の理論を学び、初級の分析ができるようになるためです。

**学習の到達目標** 経済モデルに含まれる未知の係数をどのように推定するか、またその推定結果をどのように解釈すればよいかについて理解できるようになることを目標とします。特に、回帰分析の習熟を目指します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1. 講義概説：2から9は確率統計、10以降は計量経済学
2. 確率の概念、確率分布[付録A]
3. 期待値計算
4. 二変数確率分布
5. 連続確率分布
6. 正規分布及び派生分布[以上、付録A]
7. 統計推論、母集団、標本、母数[付録B]
8. 標本平均の分布
9. 不偏性、一致性、最小分散[以上、付録B]
10. 基礎：回帰分析、OLS[#2]
11. 正規方程式の解法
12. 単回帰、OLSの仮定[#3]
13. 母数推定と確率分布
14. BLUE
15. 母数の仮説検定：t検定

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術、論理的思考力

**受講要件** ありません。

### 予め履修が望ましい科目

共通教育：統計学入門  
専門教育：近代経済学

**発展科目** 専門教育：ミクロ経済学、マクロ経済学

**教科書** 山本拓『計量経済学』新世社、1995

**成績評価方法と基準** 現時点では未定です。宿題、課題等の提出による成績評価か、あるいは期末試験のみによる評価かのいずれかになります。

**オフィスアワー** 火曜日、金曜日の講義後、教室で質問を受けます。

16. 予測と誤差
  17. 多重回帰[#4]
  18. 多重共線性問題
  19. 決定係数の修正
  20. 変数不足の問題
  21. 定数項を含むか否かの問題
  22. 応用：関数型問題[#5]
  23. ダミー変数
  24. トレンド変数
  25. 不均一分散問題[#8]
  26. その対処法
  27. 操作変数法[#10]
  28. 二段階OLS
  29. 課題1
  30. 課題2
- []内は教科書の章番を表わす

# 計量経済学演習

Econometrics Seminar

学期 通年 開講時間 月7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 嶋恵一

**授業の概要** 計量経済学の教科書を精読し、数学で書かれた計量経済学の理論を研究する。

**学習の目的** 計量経済学の基本的な知識と方法を習得し、日本のマクロ経済動態、企業や個人のミクロ的行動がどのような特徴を持つのかを知る。

**学習の到達目標** 数学による経済理論、数理統計学に基づき経済データを客観的に分析する手法を習得し、日本経済の現状や市場行動の特性を解明できるようになることを目指す。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

計量経済学の教科書を一年かけて読み、正確な理解に達することを目指す。その間、具体的な経済データを選んで計量経済分析を行い、教科書から学んだ手法を随時試す。

的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力

**受講要件** 定めない。

### 教科書

以下より抜粋して精読する：

山本拓、計量経済学、新世社、1995

Introductory Econometrics: A Modern Approach, 5th, Jeffrey M.Wooldridge, Cengage Learning, 2012.

**成績評価方法と基準** 演習での報告40%と提出資料30%、課題分析30%を合算評価する。

**オフィスアワー** Walk-in に関しては研究室で随時行う。電子メールによる予約も可能。

TSPなどの計量経済分析ソフトウェアを使い、日本のマクロ経済成長や、消費者、企業のミクロ的行動を実際の経済統計データを用いて研究する。

# 経済統計

## Economic Statistics

**学期** 前期集中 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 渡邊 隆俊(愛知学院大学経済学部教授)

**授業の概要** 計量経済分析をはじめ, 経済分析を行うためには, 経済データの基礎知識の修得が必要不可欠である. 本講義では, 日本経済の主要な経済データについて概説する.

**学習の目的** 経済分析を行う基礎となる経済データの基礎知識を修得する.

**学習の到達目標** 日本経済の主要な経済データについて理解し, それらを経済分析に活用できる能力を身につける.

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし. ただし, 「統計学」や「日本経済」に関心がある方が好ましい.

**予め履修が望ましい科目** 「統計学」

**発展科目** 「計量経済学」

**教科書** 教科書は指定しない. パワーポイント資料を配布して講義を進める.

**成績評価方法と基準** レポート(100%). 複数回の提出を予定.

**オフィスアワー** 講義終了後, 教室にて対応.

**その他** 担当者へ連絡は, 渡邊のメールアドレス(twata@dpc.agu.ac.jp)まで.

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1. 授業全体の概観
2. 経済統計を理解するための統計学の基礎
3. 国民経済計算の基礎
4. 国民経済計算のデータ
5. 産業連関表(分析)の基礎
6. 産業連関表のデータ
7. 景気に関する統計(景気動向指数, 短観等)
8. 労働に関する統計(失業率, 賃金等)
9. 消費に関する統計(家計調査等)
10. 物価に関する統計(CPI, CGPI等)
11. 貿易に関する統計(国際収支統計等)
12. 金融に関する統計(金利, 株価, 為替レート等)
13. 財政に関する統計(予算, 決算, 財政赤字等)
14. 国際統計(各国比較統計等)
15. 商業・ビジネスに関する統計(各種販売統計等)

# 福祉経済論

学期 後期 開講時間 月 1, 2; 水 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 石塚 哲朗

**授業の概要** 少子高齢化や経済のグローバル化の進展の中で、我が国の社会保障制度は大きな曲がり角に来ているが、本講義では、これら社会保障制度の背後にある思想及び仕組み、並びにそれぞれの制度の概要や抱える課題について解説し、今後の社会保障制度のあり方について考察を深める。

**学習の目的** これから数年の間に行われる社会保障制度改革の議論の中で、政党や国民各層から提示されてくる様々な改革案について、自らそれぞれの課題を発見し、考察を深め、自身の立場を決定し、政治的な意思表示(投票等)を行うことができる能力を身につける。

**学習の到達目標** 各社会保障制度の背景にある基本的な思想と制度の基本的な枠組みを理解するとともに、それらを基にして、与えられた関連する情報データ等を活用しながら、

現在、制度が抱えている課題と今後の制度のあり方についての自身の考えを論じられる能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** 特になし

**成績評価方法と基準** 初回の講義で詳しく説明します。

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00～14:30、場所 人文学部5階研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会保障を取り巻く社会状況
- 第3回 社会保障の概念、範囲、機能
- 第4回 社会保障の必要性
- 第5回 社会保障の歴史
- 第6回 社会保障の費用と財源
- 第7回 社会保険と社会扶助、公的保険と民間保険
- 第8回～第12回 年金制度

- 第13回～第17回 医療制度
- 第18回～第20回 介護保険制度
- 第21回 雇用保険制度
- 第22回 労災保険制度
- 第23回～第24回 障害者福祉・雇用制度
- 第25回～第28回 子ども・子育て支援制度
- 第29回 生活保護制度
- 第30回 まとめ
- 第31回 定期試験

# 福祉経済論演習

学期 通年 開講時間 月9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 石塚 哲朗

**授業の概要** 社会保障制度が適切に機能するためには、医療、介護、年金等の給付に必要な財源を国民の合意を得ながらどのように確保するかという視点も重要であるが、そこで確保した財源を用いて、どのように実際の現場で国民生活に役立てていくのかという視点も重要である。本ゼミにおいては、医療、介護をはじめとして社会保障に関する実際の現場を訪問し、実際に自身の目で実態を確かめ、生の声を聞くことにより、制度のあり方等について考察を深める。

**学習の目的** 我が国の社会保障制度が抱えている課題を、第一線の現場で働いている方とのコミュニケーションの中からくみ取り、なぜ、このような問題が起こっているのかを理解するとともに、それらを解決するためにはどのようにすればよいかについて、文献等の調査結果も踏まえながら、自分自身で考え抜き、他の学生や指導教官とのディスカッションを通じて、自身の考えを整理できる能力を身につけることを目指す。

## 学習の到達目標

社会保障の現場が抱える問題点を、肌で感じ

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- ・福祉、医療、介護等の現場を10か所程度視察し、その結果を踏まえたディスカッション
- ・最新の社会保障政策の動向についての紹

られる感性を身につけること

それらの問題点について、さらに自分で文献等に当たって主体的に調査をする好奇心を身につけること

それを踏まえ、自分の頭で解決策を考え、それを他人とのディスカッションの中で、磨きあげながら、最終的に納得できる解決策に落とし込んでいく論理的思考力を身につけること

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**教科書** 講義の都度、当方で用意するか、あらかじめ指示する。

**成績評価方法と基準** 出席及び積極的な関与50%、資料・レポートの作成50%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00~14:30、人文学部5階石塚研究室

介、ディスカッション

などにより進めていく予定。具体的な視察箇所は、履修学生の関心に応じて決めていく。

# 社会保障論

学期 前期 開講時間 月1,2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 石塚 哲朗

**授業の概要** 年金、医療、介護、福祉問題をはじめとして、社会保障の分野の動向からは目が離せない状況になっている。本講義では、この数年の間に問題になった社会保障関係の個別分野（問題）に焦点を当て、その現状や具体的に生じている課題について掘り下げて解説するとともに、それら課題の解決方法について講義を通じて考察することで、当該問題について理解を深める。

## 学習の目的

学生が、講義で取り上げられた問題の現状や具体的に生じている課題等について理解した上で、社会的にもっとも望ましいと思われる解決策について考察し、自分自身の意見として論じることができる能力を身につけることを目的とする。

さらに、当該問題に関連する分野の他の問題についても関心を広げ、同様の意思表示ができるようになることを目指す。

**学習の到達目標** 学生が、講義で取り上げられた問題の現状等についての資料を参考にし

ながら、社会的にも最も望ましいと思われる解決策について、自身の考えを根拠とともに論じられる能力を身につけることを到達目標とする。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 特になし。毎回レジュメを用意する予定。関連書籍については、適宜紹介する。

**成績評価方法と基準** コミュニケーションペーパーの提出状況50%、出席状況50%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00～14:30、場所人文学部5階和田研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 イントロダクション

第2回～第15回 毎回一話完結方式で、年金、医

療、介護、雇用等についての個別問題を取り上げる。

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 対象 2013年度以降入学生用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選/必 選/必 授業の方法 講義  
担当教員 渡辺茂

**授業の概要** 伝統的経済政策と公共選択的経済政策について、さらにはポリシー・ミックス、裁量的経済政策などについても説明する。また、重要と思われる政策的諸課題（環境、医療、教育、労働、地下経済）などについても言及する。

**学習の目的** 政策的インプリケーションを意識しながら思考する能力を養うことを目的とする。その際、法と経済学の視点からも考察できる能力を養うことも目的とする。

**学習の到達目標** 重要と思われる政策的諸課題について、学問的に自ら考えを持ち、クリエイティブに行動できる能力を養うことを目的とする。また、何が重要な政策課題であるのかを自らが見つけ出すのに必要な感性を養

うことも目的とする。

**本学教育目標との関連** 感性、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** 特になし 授業で講義資料を配布する

**成績評価方法と基準** 期末テスト70%、平常点30%で評価する。

**その他** 特になし

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1 はじめに
- 2 伝統的経済政策について
- 3 公共選択的経済政策について
- 4 ポリシー・ミックスについて
- 5 裁量的経済政策とビルトイン・スタビライザーについて
- 6 効率と公正をめぐる政策について
- 7 法と経済（地下経済）をめぐる政策について

- 8 環境をめぐる政策について
- 9 医療をめぐる政策について
- 10 教育をめぐる政策について
- 11 国および地方の労働をめぐる政策について
- 12 観光をめぐる政策について
- 13 エネルギーをめぐる政策について
- 14 文化とNPOをめぐる政策について
- 15 まとめ



# 外書講読A

## Reading English Journal A

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 森久綱 (人文学部)

**授業の概要** 2年生を対象に、経済関連の英語文献を読む

**学習の目的** 経済英語の基礎を学ぶことを目的にする。

**学習の到達目標** 経済学ならびに経済的事象について英文で記述された論文・記事の理解および討論するための基礎的知識の習得

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

**発展科目** 経済学の諸科目

### 教科書

受講生と相談の上で決定する。

英語メディアの経済記事等を用いる予定である。

**成績評価方法と基準** 出席および講義内での報告にて評価する。

**オフィスアワー** 第1講にてアナウンスする

**その他** 英語の得手不得手は問いません。受講生の英語力に対応しますが、予習が不可欠です。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

英国や合衆国の新聞記事を教材として、経済用語について学習します。

基本的に演習形式となりますので、報告・討論となります。

第1講 ガイダンス

第2講～第14講義 講義履修者による報告および討論

第15講 講義まとめ

# 外書講読B

## Reading B (Law and Politics)

**学期** 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次  
**授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle  
**担当教員** 高橋秀治 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 社会科学についての、欧米の基本的な書籍を講読する。具体的には、現在の資本主義や経済学の基礎を築いたアダム・スミス (1723-1790)の著書を取り上げる。彼の著書としては『国富論』が有名であるが、授業では、もう一つの主著『道徳感情論』を取り上げ、同書の2010年版への序文として、ノーベル経済学賞 (1998年)を受賞したアマールティア・センが書いた文章を中心に、講読する。

**学習の目的** 英語文献の読解力を身につけ、英語の専門用語に慣れ親しむ。

**学習の到達目標** 英文を正確に理解する力を養い、社会科学的な英語についての知識を得る。

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーショ

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

第1回 ガイダンス  
第2回～第14回 文献の講読

ン, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

#### 教科書

さし当たり、Adam Smith, "The Theory of Moral Sentiments" (Penguin Classics, 2010)を取り上げる予定です。詳細は、第1回授業で受講者と相談の上決定し、コピーを配付します。辞書については特に指定はありません。

**成績評価方法と基準** 予習50%、授業への参加50%

**オフィスアワー** 毎週月曜日 10:30～12:00、高橋研究室

#### 第15回 まとめ

(ただし、内容は暫定的なものであり、変更することがあり得る。)

# 外書購読B

Reading English Journal B

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 川地 啓介

**授業の概要** 経済に関する諸問題について英語で書かれた文献を講読する。

**学習の目的** 経済に関して英語で記述された資料や文献を理解できるようになることを目指す。また、英語の読解能力を高めることで、日本語以外の情報源から必要な情報を入手できるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 英語で書かれた経済文献を読み、英語の読解能力を向上させることを目指す。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学

**教科書** 随時配布する予定。

**成績評価方法と基準** 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

## オフィスアワー

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

## その他

受講者の状況や進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

課題に基づいて報告や討論を行う場合には、積極的な参加が期待される。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

経済に関連した欧米の新聞記事、雑誌、専門図書等を題材として使用する予定である。

英語の習得を目的としているわけではなく、外書の購読を目的としているため、英語が得

意である必要はなく、英語に関心があれば受講を歓迎する。

1. ガイダンス
- 2-14. 演習を予定
15. まとめ

法律経済学科専用 **日本語と日本社会A**

Japanese Language and Society A

法律経済学科専用 **日本語と日本社会A**

Japanese Language and Society A

**学期** 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 早野香代(人文学部文化学科)

**授業の概要** 日本の社会や文化、また日本人の思考や行動様式を理解するための教材を読み、討論し、考えを書き、発表する活動を行う。

技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 留学生在が学習・研究活動に必要な日本語の4技能(読む・聞く・書く・話す)を駆使して、総合的に日本語運用能力を高める。また、その過程で、日本の社会や文化、日本人の行動様式に対する理解を深める。

### 受講要件

留学生を対象とする。

「日本語コミュニケーションA」との同時受講はできない。

**学習の到達目標** 留学生在が大学生活や日本社会で日本語での自己表現を実現し、また、日本社会や文化に対する造詣を深め、さらには、日本人との意見交換や相互理解を深めることができる。

### 教科書

[テキスト] なし

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・

**成績評価方法と基準** 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）で評価。

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

日本の言語、社会、文化、習慣などに関する記事、解説、レポートなどを読み、討論、作

文、発表などを行う。また、必要に応じて、情報収集やアンケート調査なども行う。

全15回

法律経済学科専用

# 日本語と日本社会B

Japanese Language and Society B

法律経済学科専用

## 日本語と日本社会B

Japanese Language and Society B

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 早野香代(人文学部文化学科)

**授業の概要** 日本の社会や文化、また日本人の思考や行動様式を理解するための教材を読み、討論し、考えを書き、発表する活動を行う。

技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 留学生在が学習・研究活動に必要な日本語の4技能(読む・聞く・書く・話す)を駆使して、総合的に日本語運用能力を高める。また、その過程で、日本の社会や文化、日本人の行動様式に対する理解を深める。

### 受講要件

留学生を対象とする。

「日本語コミュニケーションB」との同時受講はできない。

**学習の到達目標** 留学生在が大学生活や日本社会で日本語での自己表現を実現し、また、日本社会や文化に対する造詣を深め、さらには、日本人との意見交換や相互理解を深めることができる。

### 教科書

[テキスト] なし

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・

**成績評価方法と基準** 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）で評価。

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

日本の言語、社会、文化、習慣などに関する記事、解説、レポートなどを読み、討論、作

文、発表などを行う。また、必要に応じて、情報収集やアンケート調査なども行う。  
全15回

# 法律経済学科専用 **日本語コミュニケーションA**

Japanese Communication A

## 法律経済学科専用 **日本語コミュニケーションA**

Japanese Communication A

**学期** 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 早野香代 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 毎回異なるテーマに沿って、日本語を総体的に捉え、インタラクティブに留学生と日本人学生が協働で学ぶ。授業では、ペア・ワークやグループワーク、ディスカッション、プロジェクトワークなど多様な活動を行う。

**学習の目的** 日本語表現とその背景にある文化を留学生と日本人学生の協働で学び、日本語運用能力を高めるとともに、日本の社会・文化における知識を広げ、異文化間の相互理解を深める。

**学習の到達目標** 学習・研究活動を行うための日本語能力や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化間での気づきや問題を発見し、理解または解決することができる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

テキスト、新聞、雑誌などを教材にして、日本語表現とその背景にある文化を学ぶ。また、目的に応じた文章を書き分けることができる文章表現力を磨く。

全15回

<日本語表現と文化>

- ・日本人の表現の特色
- ・言語表現における心構え

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

#### 受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会A」との同時受講はできない。

**教科書** [テキスト] なし

#### 成績評価方法と基準

授業態度30%、課題70%、計100% (合計60%以上で合格) で評価。

なお、課題にはレポートを含む。

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問等は自由。

- ・言語行動と非言語行動
- ・待遇表現
- <文章表現>
- ・日本語の表記
- ・手紙・メールを書く
- ・説明文を書く
- ・報告文を書く
- ・意見文を書く
- ・レポートを書く

# 法律経済学科専用 **日本語コミュニケーションB**

Japanese Communication B

## 法律経済学科専用 **日本語コミュニケーションB**

Japanese Communication B

**学期** 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 早野香代 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 毎回異なるテーマに沿って、日本語を総体的に捉え、インタラクティブに留学生と日本人学生が協働で学ぶ。授業では、ペア・ワークやグループワーク、ディスカッション、プロジェクトワークなど多様な活動を行う。

**学習の目的** 日本語表現とその背景にある文化を留学生と日本人学生の協働で学び、日本語運用能力を高めるとともに、日本の社会・文化における知識を広げ、異文化間の相互理解を深める。

**学習の到達目標** 学習・研究活動を行うための日本語能力や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化間での気づきや問題を発見し、理解または解決することができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

日本の様々な場面での具体的なコミュニケーションを取り上げ、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を通じて、表現力の向上を目指す。

全15回

シオン, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

#### 受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会B」との同時受講はできない。

#### 教科書

[テキスト] なし

#### 成績評価方法と基準

授業態度30%、課題70%、計100% (合計60%以上で合格) で評価。

なお、課題にはレポートを含む。

**オフィスアワー** 基本的に授業時間以外、訪問等は自由。

- ・敬語表現
- ・依頼の表現
- ・勧めの表現
- ・断りの表現
- ・感謝の表現
- ・謝罪の表現

# 特殊講義 [就職支援講座]

Course for Employment Support

学期 後期 開講時間 水 5, 6, 7, 8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 代表 豊福裕二 (人文学部)

**授業の概要** 就職活動に直接必要な情報に加えて、自らのライフプランを考えていくために必要となる知識の習得を目指す。

**学習の目的** 就職活動を始める前に役立つ情報に接し、就職後に必要な知識を得る。

**学習の到達目標** 現代の産業構造や企業・会社の位置関係を理解し、あわせて必要最低限の法律や経済、および社会的知識を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性、モチベーション、幅広い教養、専門知識・技術、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** なし

**予め履修が望ましい科目** なし

**発展科目** 特に指定しない(法律経済学科の関連科目)

**教科書** 講義中に指示

**成績評価方法と基準** 出席(40%)、レポート(20%×3回)

**オフィスアワー** 講義担当教員の専門科目のオフィスアワーの時間帯

**その他** 時間割・時限は水曜日5~8限であるが、変則開講(第2、第5水曜日には講義なし)であり、講義内・掲示等で開講スケジュールを案内するので、開講日・時限に注意すること。本講義はすべてのコース、すべてのプログラムに属します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

学習内容

講義は隔週開講2コマ連続を予定している。

開講スケジュールについては第1回講義日に提示する。また第1回開講日については掲示にて案内する。

民間企業だけでなく公務員志望者も履修することが望ましい。

第1回 科目のねらいと就職活動の状況&キャリア形成について

第2回 現代社会総論・現代日本の企業社会および地域社会の概況

第3回 現代社会と私たちの進路・卒業生からみた現代社会

第4回 企業社会の現状と人事政策

第5回 企業とは何か・労働とは何か・卒業生からみた現代社会

第6回 企業研究その1

第7回 企業研究その2

第8回 企業研究その3

第9回 企業研究その4

第10回 現代企業社会と法

第11回 会社の犯罪と企業内の犯罪

第12回 企業社会の現状と福利厚生制度

第13回 男女共同参画社会・働く女性の現状(結婚子育て)

第14回 2017年春の就職戦線と経済動向分析・現4年生からのメッセージ

第15回 本講義のまとめ・現4年生からのメッセージ



# 特殊講義「地域から考える」 consideration from a local viewpoint

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○豊福裕二 (人文学部) , ほかに法律経済学科・文化学科教員

**授業の概要** 三重県および東海圏を中心に、地域の抱える社会的諸課題や地域固有の文化について知るとともに、それらを理解する上で不可欠な学問的視点について学ぶ。

**学習の目的** 実際に地域で活躍しておられる社会人の方々の、地域をフィールドに研究している教員の話聞き、地域の抱える社会的諸課題や地域固有の文化について知るとともに、それらを理解する上で学問的視点の大切さを理解する。また、社会人による講義を通じて、将来の進路に関する問題意識を持つ。

**学習の到達目標** 地域の抱える社会的諸課題や地域固有の文化についての知識を得ると

ともに、専門科目を学ぶ上で問題意識を持つことができるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、情報発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 特に用いない。

**成績評価方法と基準** 出席 40%、レポート 60%、計100%。

**オフィスアワー** 毎週金曜日10:30~12:00、場所：豊福研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

本講義は、三重県および東海圏で活躍されている社会人の方々の講義（講演）と、地域をフィールドに研究している教員の講義によって構成される。担当者が毎回変わるリレー講義形式となる。

予定している各回のテーマは以下のとおりである。ただし、社会人の都合により、講義の順番および内容は入れ替わる可能性がある。

第1回：イントロダクション

第2回：地域資源を活かしたまちづくり

第3回：地域政策の立案と取組み

第4回：地域と共に生きる企業

第5回：地域分析から政策を考える

第6回：農村地域の活性化を考える

第7回：地方議会の役割を考える

第8回：三重県のこども・若者支援を考える

第9回：地域の防災体制を考える

第10回：伊勢志摩サミットについて考える

第11回：消費者問題について考える

第12回：東紀州の歴史を学ぶ

第13回：伊賀の忍者と忍者研究について

第14回：三重県の人と文学について

第15回：多文化共生について考える

2012年度以降入学生用 **書道 A**  
2011年度以前入学生用 **書道 A**

学期 通年 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 実技

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 木本 芳登

**授業の概要** 仮名の基本と応用

**学習の目的** 仮名の表現技法の習得と古典作品の鑑賞力を養う。

**本学教育目標との関連** 感性, 専門知識・技術, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 個人が準備するもの……書道用

具一式【半紙、筆〈大・小〉、硯、文鎮、下敷、墨〈墨液も可〉】

**教科書** 毎時、私製の教材資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 提出作品、レポート、出席状況、授業態度等で総合的に評価する。

**オフィスアワー** 授業開始前・後に質問を受ける時間を設ける。

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

【前期】

- ・オリエンテーション
- ・仮名の歴史について
- ・用具を知ろう
- ・基本線を学ぼう
- ・リズムよく書こう
- ・「いろは歌」を書こう
- ・字形を学ぼう①
- ・字形を学ぼう②
- ・続け書き（連綿）に挑戦しよう①
- ・続け書き（連綿）に挑戦しよう②
- ・俳句を書こう①
- ・俳句を書こう②
- ・短歌を書こう①
- ・短歌を書こう②
- ・落款印を作ろう

【後期】

- ・散らし書きに挑戦しよう①
- ・散らし書きに挑戦しよう②
- ・散らし書きに挑戦しよう③
- ・たのしい作品を書こう
- ・墨の配分を工夫しよう
- ・変形の紙に書こう①
- ・変形の紙に書こう②
- ・漢字をまじえよう①
- ・漢字をまじえよう②
- ・余白を生かそう
- ・名筆を学ぼう①
- ・名筆を学ぼう②
- ・名筆を学ぼう③
- ・作品を書こう①
- ・作品を書こう②

○中学校書写の教科書に準じた実技（楷書・行書）学習と指導方法・評価のあり方など

2012年度以降入学生用  
2011年度以前入学生用

# 英米事情A

UK and USA Today A  
UK and USA Today A

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course introduces key concepts in anthropology and intercultural communication.

**学習の目的** Students will explore the link between language and culture, focusing on English language and U.K.& U.S.cultures. Students will also learn about the issues that arise in intercultural communication.

**学習の到達目標** Students will learn how to think critically about language and culture as well as communicating between different cultures.

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** Topics to be covered include defining culture, mediation and localization, models of culture, behavior and values, cultural

**本学教育目標との関連** 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** Students will be evaluated based on in-class participation, class preparation, and a final presentation

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All reading and classroom instruction in English.

frames, levels of culture, culture-bound behavior, and miscommunication between cultures.

2012年度以降入学生用  
2011年度以前入学生用

# 英米事情B

UK and USA Today B  
UK and USA Today B

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義  
担当教員 カバラ・トーマス

**授業の概要** This course introduces key concepts in anthropology and intercultural communication.

**学習の目的** Students will explore the link between language and culture, focusing on English and U.K. & U.S. cultures. Students will also learn about the issues that arise in intercultural communication from the perspective of translation and interpretation.

**学習の到達目標** Students will learn about the skills necessary to negotiate between cultures as a cultural mediator, especially from the perspective of translation and interpretation.

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** Topics to be covered include translation and culture, intercultural competence,

**本学教育目標との関連** 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** Students will be evaluated based on in-class participation, class preparation, and a final presentation.

**オフィスアワー** Mondays 13:00-14:00

**その他** All reading and classroom instruction in English.

non-verbal communication, indirectness, action orientation.

2012年度以降入学生用 **図書館サービス概論** Introduction to Library Services  
2011年度以前入学生用 **図書館サービス概論 (図書館サービス論)**  
Introduction to Library Services

学期 前期 開講時間 火 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 長澤 多代 (附属図書館・研究開発室)

**授業の概要** 知識基盤社会, 生涯学習社会の到来により, 人々が情報を主体的に活用しながら, それぞれの立場での生活の充実を図ることがますます重視されるようになった。図書館では, 利用者が, 図書館が提供する多様な資料を効果的に利用できるように支援するために, 図書館サービスを提供している。この授業科目では, 基本的な図書館サービスについて学習することにより, 図書館員として, 多様な利用者の特徴を把握し, これをもとに効果的な図書館サービスを設計し運用するための基礎的な知識と考え方を習得する。

**学習の目的** 図書館サービスの考え方と構造の理解を図り, 資料提供, 情報提供, 連携・協力, 課題解決支援, 障害者・高齢者・多文化サービス, 著作権, 接遇・コミュニケーション等の基本についての理解を深める。

### 学習の到達目標

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

1. 図書館サービスの意義: 説明: 授業科目の概要説明 (各回の学習内容, 成績評価の方法など)  
講義: 図書館の機能とサービス, 図書館サービスの役割, 図書館サービスの種類, 図書館サービスとネットワーク
2. 来館者へのサービス: 講義: サービス計画の立案  
講義: 貸出サービス, 閲覧サービス, フロアワーク
3. 利用空間の整備: 講義: フロア構成, 書架の配置, 図書館家具の選択, 排架の原理と工夫, サインシステム
4. 貸出サービス: 講義: 貸出サービス, 利用登録の意義, 貸出手続, 貸出方式の種類, 返却と督促, プライバシーへの配慮
5. 資料提供の展開 I: 講義: リクエスト・サー

- ・ 図書館が提供する図書館サービスの全体像を簡潔に説明することができる。
- ・ 図書館サービスに関する基本的な用語を説明することができる。
- ・ 基本的な図書館サービスについて, 意義, 経緯と現状, 具体例について説明することができる。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術

**教科書** 未定

**成績評価方法と基準** 各回の学習の振り返り, 調査課題, 読書課題による。

**オフィスアワー** 火曜12:00~13:30 (学期中)

#### その他

各回の学習内容 (課題を含む), 成績評価の基準については, 第1回の授業で説明する。  
担当教員のHP: [http://www.lib.mie-u.ac.jp/r\\_and\\_d/info/nagasawa.html](http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/info/nagasawa.html)

- ビス, 図書館相互貸借, 複写サービス, 著作権
6. 資料提供の展開 II: 講義: 読書案内, 団体貸出
7. 利用対象に応じたサービス I: ゲスト・スピーカー
8. 利用対象に応じたサービス II: 講義: 児童サービス
9. 利用対象に応じたサービス III: 講義: 乳幼児サービス, ヤングアダルト・サービス
10. 利用対象に応じたサービス IV: 講義: 障がい者サービス, 高齢者サービス, 多文化サービス
11. 多様な利用者サービス I: 講義: 集会文化・活動, 図書館サービスのデリバリー
12. 多様な利用者サービス II: 講義: 問題解決学習, 学校教育活動の支援
13. 多様な利用者サービス III: 講義: 利用目的

に応じた支援，課題解決型サービス  
14.利用者との交流: 講義：利用者とモラル，  
コミュニケーション，利用案内資料，図書館

ツアー  
15.新しい図書館サービス: 講義：ビブリオバ  
トル，共読

2011年度以前入学生用 **情報資源組織論** Organization of Information Resources  
2011年度以前入学生用 **情報資源組織論 (資料組織法A・B)**  
**Organization of Information Resources (Organization of Library Resources A・B)**

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 櫻木 貴子 (非常勤講師)

### 授業の概要

図書館における情報資源組織化の概念と理論, および技術について, 書誌コントロール, 記述法, 主題分析, メタデータ, 書誌データの活用法等を理解し, 実践に備える基礎知識を身につける。

本講義では, 電子資料やネットワーク資料を含む様々な情報資源を念頭に置き, その組織化業務の標準化と統一化の動向を把握し, 目録や分類について学ぶ。

**学習の目的** 情報資源の組織化に関する概念と専門用語を理解し, 図書館における情報資源組織化の概要と流れを把握することを目標とする。

### 学習の到達目標

- 1) 情報資源組織化の概念を理解する
- 2) 件名, シソーラスに関する基礎知識を身につける

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 第1回 「情報資源の組織化」とは
- 第2回 図書館における目録(1): 目的・機能
- 第3回 図書館における目録(2): 作成過程・種類
- 第4回 図書館における目録(2): 歴史
- 第5回 書誌コントロール(1): 概要
- 第6回 書誌コントロール(2): 歴史とツール
- 第7回 書誌ユーティリティ: 目的・機能・種類
- 第8回 記述目録法(1): 目的・機能・枠組み・国際標準書誌記述

- 3) 分類に関する基礎知識を身につける

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 日本図書館協会編『図書館資料の目録と分類』増訂第5版. 日本図書館研究会, 2015.

**成績評価方法と基準** 小テスト (複数回) 60% レポート (複数回) 40% 合計100% (60%以上で合格)

**その他** 履修希望者は第1回授業に必ず出席し, 本授業の内容や進め方について説明を受けること。

- 第9回 記述目録法(2): 記述内容・情報源
- 第10回 主題目録法(1): 意義・種類・過程
- 第11回 主題目録法(2): 索引法・検索における評価法
- 第12回 主題目録法(3): 件名標目表・『基本件名標目表』
- 第13回 主題目録法(4): 分類の目的・知識の分類と図書分類法
- 第14回 主題目録法(5): 分類表・『日本十進分類法』
- 第15回 これからの目録

# 2012年度以降入学生用 **情報資源組織演習A**

Practice for organization of Information Resources A

## 2011年度以前入学生用 **情報資源組織演習A (資料組織演習A)**

Practice for organization of Information Resources A (Practice for organization of library mater

**学期** 後期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** Moodle **他学部の学生の受講可** **他学科の学生の受講可**

**担当教員** 櫻木 貴子 (非常勤講師)

**授業の概要** 情報資源を効果的に検索するためには情報資源に関する適切なメタデータの作成が不可欠である。本科目では、記述目録法による情報資源の組織化について、目録規則を用いた演習を行い、理解と技術の定着を図る。

**学習の目的** 書誌データを含んだ多様な情報資源に関するメタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

### 学習の到達目標

- 1) 資料組織化の概念を理解する
- 2) 目録に関する基礎的技術、およびその方法を身につける
- 3) 多様な情報源の組織化に関する基礎的技

術、およびその方法を身につける

**本学教育目標との関連** 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力

**教科書** 日本図書館協会編『図書館資料の目録と分類』増訂第5版。日本図書館研究会、2015。

**成績評価方法と基準** 授業中に行う小テストおよび課題の達成状況などにより総合的に評価する。

**その他** 履修希望者は第1回授業に必ず出席し、本授業の内容や進め方について説明を受けること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 記述目録法と主題目録法 - 『情報資源組織論』の復習
- 第2回 『日本目録規則 (NCR) 』を用いた和図書の目録作成(1) 目録規則
- 第3回 NCRを用いた和図書の目録作成(2) タイトルと責任表示a
- 第4回 NCRを用いた和図書の目録作成(3) タイトルと責任表示b
- 第5回 NCRを用いた和図書の目録作成(4) 版表示
- 第6回 NCRを用いた和図書の目録作成(5) 出版・頒布等
- 第7回 NCRを用いた和図書の目録作成(6) 形態に関する事項
- 第8回 NCRを用いた和図書の目録作成(7) シ

リーズに関する事項

- 第9回 NCRを用いた和図書の目録作成(8) 注記／標準番号, (9) 標準番号, 入手条件に関する記述
- 第10回 NCRを用いた目録作成作業「実践演習」(1)
- 第11回 NCRを用いた図書以外の目録作成(1) 電子資料a
- 第12回 NCRを用いた図書以外の目録作成(2) 電子資料b
- 第13回 NCRを用いた図書以外の目録作成(3) 継続資料a
- 第14回 NCRを用いた図書以外の目録作成(4) 継続資料b
- 第15回 NCRを用いた目録作成作業「実践演習」(2)



## 2012年度以降入学生用 **図書・図書館史**

History of Information Media and Libraries

## 2011年度以前入学生用 **図書及び図書館史**

History of Information Media and Libraries

学期 後期 開講時間 火 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 長澤 多代

**授業の概要** 情報の伝達手段としての記録メディア, 人類が蓄積してきた知識を収集・保管・提供する機関としての図書館の機能と社会的背景について学習することにより, 時代ごとに記録メディアや図書館が果たしてきた役割を理解する。これによって, 現在の図書館の役割, そして将来的な図書館の役割を検討するための視点と基本的な知識を習得する。

**学習の目的** 図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態, 生産(印刷等含む), 普及, 流通等の歴史, 並びに図書館の歴史的発展について理解する。

### 学習の到達目標

- ・記録メディアの変遷について, 社会背景とともに説明することができる。
- ・図書館が収蔵する古典籍について, 適切な保管およびサービス利用の方法が説明できる。
- ・西洋で, 図書館が各時代に果たしてきた役割について, 社会背景とともに説明することができる。
- ・日本で, 図書館が各時代に果たしてきた役割について, 社会背景とともに説明することができる。
- ・記録メディアもしくは図書館史に関する事項について, 社会背景とともに説明できる。

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

1.記録メディアの歴史Ⅰ: 説明: 授業科目の概要(授業計画, 授業の内容, 課題, 成績評価の方法)

講義: 歴史研究とは

講義: 紙以前のメディア

**教科書** 指定しないが, 各回で読書課題を設定している。

### 成績評価方法と基準

合格の条件は, 合計が60点以上になることです(100点満点)。

学習の振り返り = 各4点×15 = 計60点

個人課題A: 関連用語の確認リスト = 5点

個人課題B: 和本の補修 = 5点

個人課題C: 書誌・解題 = 15点

個人課題D: 特定のテーマの調査と発表 = 10点

展示の振り返り = 5点

課題の完成度によって, 減点になることもあります。

いずれの課題についても, 提出期限後に提出した場合には, 減点になります。

減点のルールは次のとおりです。

学習の振り返り (4点→2点)

個人課題A: 関連用語の確認リスト (5点→3点)

個人課題B: 和本の補修 (5点→3点)

個人課題C: 書誌・解題 (15点→5点)

個人課題D: 特定のテーマの調査と発表 (10点→6点)

展示の振り返り (5点→3点)

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00~13:30(学期中)

**その他** 詳しい授業計画, 成績評価の方法については, 第1回の授業時に説明する。

2.記録メディアの歴史Ⅱ: 講義: 紙, 図書の形態

3.記録メディアの歴史Ⅲ: 講義: 印刷術, 活版印刷, 雑誌, 新聞

4.記録メディアの歴史Ⅳ: 講義: 視聴覚メディア, 通信系メディア, 電子メディア

- 5.西洋の図書館史Ⅰ：講義：古代の図書館
- 6.西洋の図書館史Ⅱ：講義：中世の図書館
- 7.西洋の図書館史Ⅲ：講義：近世の図書館
- 8.西洋の図書館史Ⅳ：講義：近代の図書館
- 9.テーマ史Ⅰ：ゲスト・スピーカー：Hermina Anghelucscu (School of Library and Information Science, Wayne State University, USA)  
「ルーマニア革命と図書館（仮題）」
- 10.西洋の図書館史Ⅴ：講義：20世紀の図書館
- 11.日本の図書館史Ⅰ：講義：古代・中世の図書館
- 12.日本の図書館史Ⅱ：講義：近世の図書館
- 13.日本の図書館史Ⅲ：講義：近代の図書館
- 14.日本の図書館史Ⅳ：講義：現代の図書館
- 15.テーマ史Ⅱ：演習：テーマ史の発表・評価

2012年度以降入学生用

# 博物館経営論

2011年度以前入学生用

## 博物館経営論（博物館学各論B）

Museum Management

Museum Management

**学期** 後期 **開講時間** 水 9, 10 **単位** 2 **対象** 改正博物館法に基づく学芸員資格取得対象者 改正前博物館法に基づく学芸員資格取得者は「博物館学各論B」として受講 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **他学部**の学生の受講可 **他学科**の学生の受講可

**担当教員** 清水 みぎ(非常勤講師)

**授業の概要** まず学芸員が博物館経営を学ぶ必要性について理解し、次に博物館経営の手法と運用、関連法規や現代の博物館を取り巻く社会状況について基本的な知識を得る。

**学習の目的** 博物館の使命、歴史的役割と管理運営について総合的に理解する。

**学習の到達目標** 学芸員資格の取得

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 博物館実習を受講予定で、学芸員

資格を取得する意志のある者。

**予め履修が望ましい科目** 博物館資料保存論

**発展科目** 博物館展示論、博物館実習

**教科書**

『博物館経営・情報論』放送大学教材。

その他の授業に必要な資料はプリントして配布する。

**成績評価方法と基準** 授業への参加度20%、小レポート提出物20%、期末テスト60%

**オフィスアワー** 申し出があれば別途時間を指示する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 博物館になぜ経営が必要か

第3～4回 博物館の持つヒト・モノ・カネ

第5～6回 博物館経営の手法—マーケティング

第7～8回 博物館経営の手法—事業評価

第9～10回 社会とともにある博物館をめざして

第11～12回 新たな事業展開

第13回 博物館と法—指定管理者制度

第14回 新しい博物館の創造

第15回 まとめ

第16回 試験

# 2012年度以降入学生用 **博物館資料保存論**

2011年度以前入学生用 **博物館資料保存論**

Museum Materials

Museum Materials

**学期** 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**他学部**の学生の受講可 **他学科**の学生の受講可

**担当教員** 清水 みき(非常勤講師)

**授業の概要** 博物館の保存・展示環境に関する基礎的事柄を科学的に把握し、博物館資料の保存について学ぶ。

**学習の目的** 博物館のもつ資料(モノ)の保存について、基本的な知識を学びまた技術の一端にも触れ、博物館の世に伝えるべき歴史的役割を理解する。

**学習の到達目標** 学芸員資格の取得

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術

**受講要件** 博物館実習を受講予定で、学芸員資格を取得する意志のある者

**予め履修が望ましい科目** 考古学・文化財学  
概論A・B

**発展科目** 博物館展示論、博物館実習(学内実習)

**教科書** 本田光子・森田稔編『博物館資料保存論』放送大学教材(2012年)

**成績評価方法と基準** 授業への参加度・課題に取り組む姿勢20%、提出物20%、期末試験60%

**オフィスアワー** 申し出があれば別途時間を指定する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 資料保存の基礎

第3回 明治以降の文化財の危機(廃仏毀釈、海外流失、戦争)と博物館

第4回 文化財保護法の成立に至る過程

第5回 地震・津波一大災害に学ぶ教訓と対策

第6回 博物館資料の収蔵と保管

第7回 正倉院宝物の保存システム

第8回 曝涼と装潢

第9回 保存修理と技術・材料の開発

第10回 文化財の生物被害-カビ、害虫

第11回 収蔵庫、展示施設の温湿度管理

第12回 劣化と褪色-空調、照明、

第13回 IPM:総合的有害生物管理

第14回 博物館の危機管理

第15回 まとめ

第16回 試験

# 博物館展示論

2012年度以降入学生用

2011年度以前入学生用

## 博物館展示論

**学期** 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **対象** 3年次編入生やかつて大学で学芸員に関する単位の一部を取得した学生は単位の取得に複雑な事情があるため、必ず事務と相談すること。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

**他学部の学生の受講可** **他学科の学生の受講可**

**担当教員** 清水 みき(非常勤講師)

**授業の概要** 博物館に関する法律、各種博物館の資産(資料、コレクション)の取り扱いとその展示方法、展示に関して必要な演示具・照明・映像などについて学ぶ。企画展示案をグループで協力して作成する。

**学習の目的** 各種博物館の成り立ちと歴史的役割を総合的に理解し、博物館展示の目的と手法を考える。

**学習の到達目標** 学芸員資格の取得

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 指導力・協調性

**受講要件** 博物館実習を受講予定で、学芸員

資格を取得する意志のある者。

**予め履修が望ましい科目** 博物館資料保存論、考古学文化財学概論A・B

**発展科目** 博物館実習(学内実習)

**教科書** 授業に必要な資料はプリントして配布する。

**成績評価方法と基準** 授業への参加度20%、提出物・実践的課題に取り組む姿勢40%、期末試験40%

**オフィスアワー** 申し出があれば別途時間を指定する。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 日本の博物館

第3回 世界の博物館

第4回 博物館の種類と展示方法

第5回 博物館の映像展示と視聴覚メディア

第6～9回 MY企画展作り

第10～13回 企画展示案の発表と討論

第14回 新しい博物館の創造

第15回 まとめ

第16回 試験

## 博物館教育論

2012年度以降入学生用

2011年度以前入学生用 博物館教育論 (教育学)

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

他学部の学生の受講可 他学科の学生の受講可

担当教員 清水 みき(非常勤講師)

### 授業の概要

日本の高度成長期の最終的段階には、新しい博物館施設が続々と各地に誕生した。これらの後発博物館は博物館存在の根本的意義である実物資料の豊富な所蔵が叶わないことが多く、一面でレプリカ模型や映像による展示法が普及した。

こうした現実的対応の中で、博物館機能としての資料収集と永続的保管、調査研究、公開展示とそれらを活かした様々な学習機会の提供、教育機関との連携や広報活動を含む運営において、新しい博物館活動の在り方が模索されつつ、工夫努力が続けられてきたところである。

授業では、博物館利用の基本的意義と今日的な課題を学び、これからの博物館利用者にとっての学習・教育面での在り方を考える。

### 学習の目的

今日の博物館は社会的役割として、教育的な活動が重視されている。博物館利用・活用の教育的意義と今日的な課題を学ぶ。

### 授業計画・学習の内容

#### 学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 博物館教育の基礎理論と理念
- 第3回 博物館教育の歴史と今後の方向性
- 第4回 展示の教育的意義
- 第5回 情報の伝達メディアとしての展示の特性
- 第6回 展示評価と学習評価
- 第7回 人文科学系博物館のプログラム
- 第8回 自然科学系博物館のプログラム
- 第9回 学校との連携

**学習の到達目標** これからの博物館利用者にとっての学習・教育面での在るべき姿についての考え方を深める。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力

**受講要件** 博物館実習を受講予定で、学芸員資格を取得する意志のある者

**予め履修が望ましい科目** 考古学・文化財学概論A・B

#### 教科書

- ・佐々木亨他編『博物館経営・情報論』（放送大学教材、2008年）
- ・他に授業に必要な資料はプリントして配布する。

**成績評価方法と基準** 授業への参加度・課題に取り組む姿勢20%、提出物20%、期末試験60%

**オフィスアワー** 申し出があれば別途時間を指定する。

第10回 地域との連携—社会教育施設としての博物館

第11回 ボランティア

第12回 博物館資源の蓄積と公開

第13回 データベースの構築と情報公開の体制整備

第14回 博物館教育における学芸員の役割

第15回 まとめと課題

第16回 試験

# 2012年度以降入学生用 博物館情報・メディア論

## 2011年度以前入学生用 博物館情報・メディア論

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 須曾野 仁志

**授業の概要** 博物館における情報とはどのようなものがあるか、情報化社会での博物館の役割、博物館活動を進める上でのメディア活用について、講義だけでなく、学習者が実際にプレゼンテーションを行ったり、デジタルストーリーテリングの手法で作品制作することにより、体験的に学んでいく。

**学習の目的** 博物館における情報活用や博物館におけるメディア活用の方法と技術について知り、メディア社会に積極的に参画できる実践的な知を身につける。

### 学習の到達目標

・博物館における情報とはどのようなものが

あるかを知る。

・情報化社会での博物館の役割、博物館活動を進める上でのメディア活用についてわかるようになる。

・博物館教育におけるプレゼンテーションやデジタルストーリーテリングの技法を具体的に習得する。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性

**教科書** 特に使用しない。

**オフィスアワー** 毎週月曜日 16:20-17:50、教育学部附属教職支援センター須曾野研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 講義 博物館における情報

博物館における情報提供は、近代的な博物館設立当初からの主要な役割であり、情報化社会の中ではますます重要となっている。「博物館における情報とは」という問いを考えてみる。

第2回 講義・実習 「1枚の写真の提示方法と情報提示機器の活用」

「小さな1枚の写真をどのように大勢の人に見せるか」についてアイデアを出し合い、情報をどのように提示するかについての方法と技法について学ぶ。

第3回 講義・演習 博物館におけるプレゼンテーションの方法と技術

博物館において、どのように展示物を見せるかや、情報を提示するかについて、プレゼンテーションの方法や技術を知り、実際にグループでミニプレゼンテーションを行う。

第4回 講義 博物館活動の情報化とメディアの活用

博物館活動における情報化の進展とメディアの活用について講義する。

第5回 講義 メディア論の系譜

19世紀、20世紀と、メディアがどのように発展し、活用されてきたかを振り返り、21世紀におけるメディア社会において、新しい時代に対応したメディア論について講義する。

第6回 講義 静止画と動画の活用

博物館教育において、静止画と動画をどのように活用するかについて考え、グループでそれらのメリットとデメリットについて話し合う。また、それらを博物館活動でどのように活かすかを検討する。

第7回 講義 博物館と情報通信技術

博物館において、どのような情報通信技術が活用されているか、実例を知る。

第8回 講義・演習 博物館における情報発信

博物館において、どのように情報発信されているかや、来館者による発信型学習をできるかを考え、情報発信のあり方や内容を知る。

第9回 講義・演習 デジタルストーリーテリングとは何か

コンピュータ上で静止画(写真や絵など)を自分自身のナレーションでつないでいくデジタルストーリーテリングの手法について紹介

し、制作方法について学ぶ。

第10回 演習 デジタルストーリーテリングの制作(1)

博物館に関すること（例「私の博物館の思い出」「おすすめの博物館」等）で、約2分間のデジタルストーリー作品を作る

第11回 演習 デジタルストーリーテリングの制作(2)

第10回の続き、特に、デジタルストーリーテリングにとり組む上での著作物や著作権について留意する。

第12回 演習 デジタルストーリーの発表

制作したデジタルストーリー作品の発表会を開き、授業参加者同士で作品から学び合う。

第13回 講義・演習 博物館とメディアリテラシー

博物館学芸員が必要とするメディアリテラシーについて考える。博物館における著作権問題や情報モラルについても取り上げる。

第14回 講義・演習 博物館教育とメディア  
博物館における教育活動を進める上で、メディアが果たす役割と利用について考える。

第15回 講義 21世紀メディア社会における学習  
授業全体をふり返り、メディア論の構図を整理した上で、博物館における「学習」を振り返る。21世紀メディア社会で、いかに学ぶかについて、考え、学習してきたことをまとめる。



## 2012年度以降入学生用 **博物館実習（学内実習）**

Museum Practice (Preliminary and follow-up guidance)

## 2011年度以前入学生用 **博物館実習（学内実習）（博物館実習（事前・事後指導））**

Museum Practice (Preliminary and follow-up guidance)

**学期** 前期 **開講時間** 水 5, 6, 7, 8 **単位** 3 **対象** 原則として人文学部の学生に限る。3年次以降に受講可能であるので、2年次の資格単位取得希望者は来年度以降当該科目を受講すること。単位数（3単位）は学内実習と館園実習を合わせたもの。 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次

**授業の方法** 講義, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 清水 みき(非常勤講師)

**授業の概要** 博物館学芸員として必要な心構えと知識を、博物館見学や技術実習を通して学ぶ。

**学習の目的** 学芸員として身につけておくべき基礎的な知識・技術を習得する。

**学習の到達目標** 学芸員資格の取得

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 指導力・協調性

**受講要件** 学芸員資格を取得する意志のある者。

**予め履修が望ましい科目** 考古学・文化財学概論A・B、博物館資料保存論、博物館経営論を受講済みであることが望ましい。

**発展科目** 各博物館における実習

**教科書** 授業に必要な資料はプリントして配布する。

**成績評価方法と基準** 授業・実習への参加度、課題に取り組む姿勢、レポートの総合評価。

**オフィスアワー** 申し出があれば別途時間を指定する。

### その他

学外実習を土・日曜に行うことがある。  
人文科学系と自然科学系に分かれて授業を行うことがある。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 学芸員に求められるもの

第3回 三翠会館の見学と資料の取り扱い実習（その1）

第4～14回 博物館施設の見学と事前・事後学習  
・各博物館施設の見学後にテーマに沿ったレポートを提出すること

第15回 資料の取り扱い実習（その2）

第16回 試験

# 2012年度以降入学生用 **学習指導と学校図書館**

Guidance to Learning and School Library

# 2011年度以前入学生用 **学習指導と学校図書館**

Guidance to Learning and School Library

**学期** 前期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

**担当教員** 木幡 智子 (非常勤講師)

## 授業の概要

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 自己教育力とメディア活用能力の育成
- 3 メディア活用能力の育成の計画と方法
- 4 学校図書館における情報サービス
- 5 教員に対する支援と働きかけ

## 学習の目的

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならぬかを、メディアの構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

**学習の到達目標** 司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、学校図書館ユーザーとメディアとを結び付け、多様なメディアを活用した主体的で豊かな学びを支えていく司書教諭の仕事への理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 指定なし

**成績評価方法と基準** 演習作業およびレポート40%、筆記試験60% (合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 三根慎二

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 教育課程の展開と学校図書館
- 第2回 学校教育カリキュラムと学校図書館
- 第3回 学習活動と学校図書館
- 第4回 学校図書館メディア活用能力の育成
- 第5回 情報リテラシー教育
- 第6回 学校図書館における情報リテラシーの育成(1): 図書館利用教育
- 第7回 学校図書館における情報リテラシーの育成(2): 探求学習
- 第8回 学習情報センターとしての学校図書館

- 第9回 教科教育における学校図書館の活用
- 第10回 横断的・総合的学習と学校図書館の活用
- 第11回 学校図書館における情報サービス(1): 総論
- 第12回 学校図書館における情報サービス(2): 演習
- 第13回 教育課程の展開にかかわる司書教諭の役割
- 第14回 学習拠点としての学校図書館活動
- 第15回 課題と展望

# 2012年度以降入学生用 **読書と豊かな人間性**

**Reading and Human Development**  
**Reading and Human Development**

2011年度以前入学生用 **読書と豊かな人間性**

**学期** 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** Moodle **他学部**の学生の受講可

**担当教員** 木幡 智子 (非常勤講師)

**授業の概要** メディアの多様化する現代において、「読む」ということはどういうことなのかを再確認し、生涯にわたる学習の基盤としての「読書」について理解する。その上で、発達段階に応じた読書指導、読書活動、読書習慣の形成について実践的に学ぶ。

**学習の目的** 読書活動が人に与える影響について学び、学校図書館が読書活動・読書教育を支援するための具体的な方策について理解する。

**学習の到達目標** PISAや21世紀型スキルに見られるような今後必要になってくる能力を「読書」という観点から理解する。考える力

の源となる「読書活動」を形成するためのさまざまな方法を知り、実践する。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 指定しない

**成績評価方法と基準** 実習およびレポート40%、期末試験60%、計100% (合計60%以上で合格)

**オフィスアワー** 連絡窓口：三根慎二先生

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1. 読書とは：読書活動の意義と目的
2. 読書の現状と課題
3. 発達段階と読書
4. メディアの特色と活用
5. 読書指導と計画
6. 読書環境と読書習慣の形成
7. 読書指導の方法 (1)：読書指導の原理
8. 読書指導の方法 (2)：読書指導の実際
9. 読み聞かせ、ストーリーテリング (理論)

10. ストーリーテリング (実践)、ブックトーク (理論)
11. ブックトーク (実践)、アニメーション (理論)
12. アニメーション (実践)、ビブリオバトル (理論)
13. ビブリオバトル (実践)、実践の評価と考察
14. 読書活動における司書教諭の役割
15. 今後の読書指導

# 英語科教育法Ⅰ

## Methodology of Teaching English as a Foreign Language I

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 2011年度以前入学生用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業  
担当教員 横田 秀樹

### 授業の概要

- (1) 教育実習の内容や学習指導案の書き方などの基本的事項を学ぶ。
- (2) 中学校、高等学校の現状をふまえ、授業を組み立て、それを実践し議論する。
- (3) その実践に対して、第二言語習得研究、外国語教育研究の視点か改善点を検討する。

**学習の目的** 英語の指導方法、授業構成、教材作成、評価などを知識と実践の両面から学ぶ。さらに、学んだ事項を基盤とし、英語授業の指導案を作り、授業実践行う。

**学習の到達目標** 学習した知識および活動を通し、英語教員として必要な資質をできる限り実践的な形で身につけることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門

知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 講義+演習の授業形態であり、積極的姿勢を望みます。

**発展科目** 英語科教育法Ⅱ

**教科書** 村野井仁・渡部良典・尾関直子・富田祐一『統合的英語科教育法』成美堂

**成績評価方法と基準** 指導案、模擬授業 30%、毎授業における質問・提案など積極的な態度 30%、学期末試験 40%

**オフィスアワー** メールによる質問は随時受け付けます。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

##### 授業計画

- 第1回：英語の学習と英語の指導
- 第2回：英語教育の目的
- 第3回：英語教育の指導目標
- 第4回：英語の指導方法Ⅰ
- 第5回：英語の指導方法Ⅱ
- 第6回：英語学習教材
- 第7回：指導内容と教材

第8回：教育実習

第9回：授業展開と言語要素の指導

第10回：英語学習指導案の作成

第11回：授業観察と評価のポイント

第12回：模擬授業Ⅰ

第13回：模擬授業Ⅱ

第14回：模擬授業Ⅲ

第15回：まとめ

試験

# 英語科教育法Ⅱ

## Methodology of Teaching English as a Foreign Language II

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 2011年度以前入学生用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 横田 秀樹

### 授業の概要

(1) 第一言語習得と第二言語習得に関連する研究および英語教育の様々な側面、具体的教授法を学ぶ。

(2) 理論と実践をどう結び付けるのか議論する。

(3) 学んだ知識を基に実践を行いながら、あらゆる学校現場の状況を想定し、授業を作る力を身につける。

**学習の目的** 本授業では、外国語教育の理論をはじめ様々な方法論を学ぶとともに、理論と実践をどう結び付けるのか、また日本の英語教育現場に何が必要なのかを考え、その解決策を探究する。

**学習の到達目標** 様々な教室環境および学習者に対し、英語の授業を工夫してするための知識と実践力を身につけることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 講義+演習の授業形態であり、積極的姿勢を望みます。

**予め履修が望ましい科目** 英語科教育法Ⅰ

**教科書** 村野井仁・渡部良典・尾関直子・富田祐一『統合的英語科教育法』成美堂

**成績評価方法と基準** 指導案、模擬授業 30%、毎授業における質問・提案など積極的な態度 30%、学期末試験 40%

**オフィスアワー** メールによる質問は随時受け付けます。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

##### 授業計画

第1回：言語と人間（言語と言語習得）

第2回：第一言語習得（L1&L2、the human brain）

第3回：第二言語習得（L1L2Acquisition、

第4回：第二言語習得と外国語教授法

第5回：自律学習論

第6回：英語学習と心理要因

第7回：英語教師論

第8回：早期外国語教育

第9回：英語教育と異文化間教育

第10回：英語評価と言語テスト1

第11回：英語評価と言語テスト2

第12回：模擬授業Ⅰ

第13回：模擬授業Ⅱ

第14回：模擬授業Ⅲ

第15回：まとめ

試験

# 日本中世史料論特講

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

**授業の概要** 忍術書の輪読を行います。

**学習の目的** どのようなことが問題なのか自ら問題を発見し、厳密な史料解読により問題を解決していく能力を養います。

**学習の到達目標** 修士論文を書くにあたっての、史料読解力、論理的思考力を養います。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的

思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 授業での発表

**オフィスアワー** 木曜日13:30~14:30、場所山田研究室

**その他** 夜間の授業は隔週で行います。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 忍術書とは何か

第2回~15回 忍術書の輪読

# 日本中世史料論演習

学期 後期 開講時間 火 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

**授業の概要** 忍術書の輪読を行います。

**学習の目的** どのようなことが問題なのか自ら問題を発見し、厳密な史料解読により問題を解決していく能力を養います。

**学習の到達目標** 修士論文を書くにあたっての、史料読解力、構成能力、論理的思考力を養います。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 授業での発表

**オフィスアワー** 木曜日13:30~14:30、場所山田研究室

**その他** 夜間の授業は隔週で行います。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 忍術書の検討

第2回~15回 忍術書の輪読

# ヨーロッパ史料論演習

Seminar on European Historical Materials

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

**授業の概要** メタヒストリーや歴史思想について検討する。

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 歴史学の研究における実証、理論、歴史観の関係について認識する。

**受講要件** 欧州の歴史に関する基本的知識を有していること。

**学習の到達目標** 研究の到達状況や論点を把握する。

**教科書** 別途指示する。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力,

**成績評価方法と基準** 授業への貢献度（研究発表の内容、発言の水準等）を総合的に判断する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 受講者との打ち合わせ

第2回～第15回 指名した研究発表担当者によるプレゼンテーションを中心に、参加者全員で

議論する。

研究対象としての歴史というものへの向き合い方について、欧州や日本などにおける思索を通じて共に考える。



# ヨーロッパ史料論特講

European Historical Materials

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

**授業の概要** ドイツ語文献を手がかりに、第二帝政期以降のドイツ行政史について検討する。

**学習の目的** ドイツ官吏制度の仕組みと発展を理解する。

## 学習の到達目標

ドイツ語で書かれた史学文献の読解に習熟する。

近現代ドイツ行政史の基本構造を把握する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

## 受講要件

ドイツ近現代史の基礎知識を有していること。

専門文献を読むことができるドイツ語能力を有していること。

**教科書** Hans Hattenhauer, Geschichte des Beamtentums, 1980 など。

**成績評価方法と基準** 研究発表の内容、発言の水準・頻度などを総合的に判断する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 参加者との打ち合わせ

第2回～第15回 文献の輪読

# ヨーロッパ史特講

European History

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

**授業の概要** メタヒストリーや歴史思想について検討する。

**学習の目的** 歴史学の研究における実証、理論、歴史観の関係について認識する。

**学習の到達目標** 研究の到達状況や論点を把握する。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 受講者との打ち合わせ

第2回～第15回 指名した研究発表担当者によるプレゼンテーションを中心に、参加者全員で

力を総合した力

### 受講要件

欧州の歴史に関する基本的知識を有していること。

原則として、本年度前期開講の「ヨーロッパ史料論演習」を履修済であること。

**教科書** 別途指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への貢献度（研究発表の内容、発言の水準等）を総合的に判断する。

議論する。

歴史というものに向き合うということに関して、どのような思索が行われてきたかを、欧州や日本における業績を通じて共に学ぶ。

# ヨーロッパ史演習

Seminar on European History

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

**授業の概要** ドイツ行政史について、ドイツ語の史料集を題材に共に考える。

**学習の目的** 近代ドイツ行政史について専門的知識を得る。

**学習の到達目標** ドイツ語史料へのアクセス力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

## 受講要件

ドイツ近現代史に関する基礎知識。  
専門文献を読むことができるレベルのドイツ語力。

**教科書** Grundriss zur deutschen Verwaltungsgeschichte 1815-1945, 22 Bde.等。

**成績評価方法と基準** レジュメの内容、発言の水準・頻度など授業への貢献度を総合的に評価する。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 参加者との打ち合わせ

第2回～第15回 史料の輪読

# 美術論特講Ⅱ

Art History

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

## 授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

## 学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

## 学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

『中国山水画の誕生(原題: The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、1995年、5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えてい

**発展科目** 美術論演習Ⅱ

**教科書** 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、青土社、1995年）

**成績評価方法と基準** 発表と積極性70%、レポート30%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

### その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

く形式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2～3回 中国絵画史入門

第4～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

# 美術論演習Ⅱ

Art History

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

## 授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

## 学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

## 学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 美術論特講Ⅱ

**教科書** 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、青土社、1995年）

**成績評価方法と基準** 発表と積極性70%、レポート30%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

## その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き、『中国山水画の誕生(原題：The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、1995年、5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えていく形

式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2回 中国絵画史の諸相

第3～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

# 日本思想文化論特講 II

Japanese Philosophy II

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

**授業の概要** 伊藤仁斎『孟子古義』を読解し、朱子学との対比などからその思索の特質を理解する。

**学習の目的** 伊藤仁斎『孟子古義』の読解を通じて、宋学との対比などからその思想的特質を理解することができるようになる。

**学習の到達目標** 伊藤仁斎の『孟子』解釈の概要について、理解することができるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 中国思想文化論特講、中国思想文化論演習

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 毎時間課すレポートで評価する。

**オフィスアワー** 金曜日7-8限

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

伊藤仁斎『孟子古義』の問題点について解説を加えていく。  
なお受講にあたっては漢文の基本的な読解力

を求める。

第1回：ガイダンス

第2～15回：『孟子古義』梁恵王篇の特質と問題点

# 日本思想文化論演習 II

Seminar in Japanese Philosophy II

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

**授業の概要** 伊藤仁斎『孟子古義』を読解し、朱子学との対比などから、その思索の特質を理解する。

**学習の目的** 伊藤仁斎『孟子古義』の読解を通じて、宋学との対比などからその思想的特質を理解することができるようになる。

**学習の到達目標** 伊藤仁斎の『孟子』解釈の概要について、理解することができるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 中国思想文化論特講、中国思想文化論演習

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 毎週課すレポートによって評価する。

**オフィスアワー** 金曜日7-8限

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

毎時間、テキストの予め指定された範囲について、発表形式で授業を行う。  
なお受講者には漢文についての基本的な読解

力を求めるので、受講の際は注意すること。

第1回：ガイダンス

第2～15回：『孟子古義』梁惠王篇各章の読解

# 中国思想文化論特講Ⅱ

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義  
担当教員 片倉 望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 先秦諸子の集大成者として登場した荀子の思想を体系的に把握し、先秦諸子研究のための新しい座標軸を模索する。その際、彼の思想の論理構造、とりわけ、西洋論理とは異なる呪術の論理の分析を方法論として用いることとしたい。

**学習の目的** 漢文が読めるようになる。

**学習の到達目標** 東洋思想の構造を理解する。

**教科書** テキスト：南宋台州刊本『荀子』 参考文献：王先謙『荀子集解』

**成績評価方法と基準** 授業態度等40%、レポート60%

**オフィスアワー** 授業の後

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 『荀子』の書誌学的研究  
第2回 『荀子』の思想Ⅰ 世界観（天と人間）  
天論篇を資料として  
第3回 『荀子』の思想Ⅱ 世界観（天と人間）  
不苟篇を資料として  
第4回 『荀子』の思想 世界観（性善と性悪）  
『墨子』との比較  
第5回 『荀子』の思想 世界観（性善と性悪）  
『荘子』との比較  
第6回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪） 勸学篇を資料として  
第7回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪） 性悪篇を資料として  
第8回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪） 解

蔽篇を資料として

第9回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪）  
『孟子』及び『性情論』との比較

第10回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）  
礼論篇を資料として

第11回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）  
議兵篇を資料として

第12回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）  
墨家との比較（欲望の把握を巡って）

第13回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）  
法家との比較（欲望の把握を巡って）

第14回 『荀子』の思想 国家観（王道と霸道）  
王制篇を資料として

第15回 『荀子』の思想 国家観（王道と霸道）  
『韓非子』の国家観との比較



# 中国思想文化論演習Ⅱ

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 片倉 望 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 皮錫瑞の『経学歴史』を精読し、中国学研究に必要な知識を広め、同時に、公羊学の思想的位置についても考察を加えていく。なお、本演習は本格的な漢文読解能力をつけることを目的とするため、一回の演習で10ページ程度の漢文を読むことがある。

**学習の目的** 本格的に漢文が読めるようになる。

る。

**学習の到達目標** 中国思想史が理解できるようになる。

**教科書** 参考文献：皮錫瑞『経学通論』

**成績評価方法と基準** 受講態度等40%、レポート60%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 『経学通論』の意義、及び演習の進め方について

第2回 『経学通論』序 購読

第3回 『経学通論』第一冊 易論 講読Ⅰ

第4回 『経学通論』第一冊 易論 講読Ⅱ

第5回 『経学通論』第一冊 書論 講読Ⅰ

第6回 『経学通論』第一冊 書論 講読Ⅱ

第7回 『経学通論』第二冊 詩論 講読Ⅰ

第8回 『経学通論』第二冊 詩論 講読Ⅱ

第9回 『経学通論』第二冊 詩論 講読Ⅲ

第10回 『経学通論』第三冊 三礼論 講読

第11回 『経学通論』第三冊 三礼論 講読

第12回 『経学通論』第三冊 三礼論 講読

第13回 『経学通論』第四冊 春秋論 講読Ⅰ

第14回 『経学通論』第四冊 春秋論 講読Ⅱ

第15回 『経学通論』第四冊 春秋論 講読Ⅲ

# インド思想文化論特講II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義  
担当教員 久間泰賢

**授業の概要** 専門文献の読解を通じてインド  
仏教思想に対する理解を深める

**学習の目的** インド唯識思想史を概観する

**学習の到達目標** インド唯識思想史について  
の基本的な知識の習得

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

インド唯識思想の基本的典籍である『唯識二十論』を講読しながら、唯識思想の基本的概念について考察する。使用テキスト・参考文献については開講時に指示する（使用テキストについては、受講者の希望に沿って適宜変

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 授業開始時に指示する

**成績評価方法と基準** 平常点100%

更することがある)。

第1回：イントロダクション（授業の進め方や使用するテキストについての説明）

第2回～第5回：唯識思想史概説

第6回～第14回：『唯識二十論』講読

第15回：総括

# インド思想文化論演習Ⅱ

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 久間泰賢

**授業の概要** 専門文献の読解を通じてインド  
仏教思想に対する理解を深める

**学習の目的** インド唯識思想史の個別的問題  
の検討

**学習の到達目標** インド唯識思想史について  
の発展的知識の習得

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受  
発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、  
コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** インド思想文化論  
特講Ⅱ (前期開講)

**教科書** 授業開始時に指示する

**成績評価方法と基準** 平常点100%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

弥勒著とされている唯識論書『中辺分別論』  
を講読し、インド仏教における「中道」の概  
念と唯識思想との関係について検討する。使  
用テキスト・参考文献については開講時に指  
示する (使用テキストについては、受講者の

希望に沿って適宜変更することがある)。

第1回：イントロダクション (授業の進め方や  
使用するテキストについての説明)

第2回～第14回：『中辺分別論』講読

第15回：総括

# 比較文化概論特講 II

## General Lecture on Comparative Culture II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 グットマンティエリー

**授業の概要** 『An Introduction to Japanese Society (Fourth edition)』 (Yoshio Sugimoto) という英語で書かれた古典著書の原文を精読し、授業での発表・討論を通じてその凶書を批評する。

**学習の目的** 本書においては様々な角度から現代日本文化・社会が分析されている。本書を題材にして日本文化・社会の一様性及び多様性について徹底して考え直す。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、コミュニケーション力を総

合した力

**受講要件** 一定程度の英文読解力

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** "An Introduction to Japanese Society (Fourth edition)", Yoshio Sugimoto, Cambridge University Press, 2014.

**成績評価方法と基準** 平常点 50%、発表 50%、計100%

**オフィスアワー** ほとんど毎日研究室に来て  
います (人文学部校舎3階)

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回：日本社会・文化の一様性及び多様性に関する意見交換。各受講者が教材のいずれの箇所を担当するか選択した上で発表の順番を決める。

第2回～第14回：選択した箇所に関する日本語での発表や討論

第15回：14回までの授業の総合まとめを、教員や各受講生の個別発表を通じて行う

# フィールドワーク論演習

Seminar on the theory of fieldwork

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

**授業の概要** グローバリズム、近代（資本主義システム）について、文献を読み進めていくことで理解する。

**学習の目的** グローバリズムや近代資本主義システムについての人類学的な知見を深められる。

**学習の到達目標** 世界各地のグローバリズムや近代の浸透状況、現地側の受け入れの姿勢などを民族誌的な見地から理解し、その多様性を理解する。また、世間でいわれている一般的なグローバリズム論などに対して批判的な視点から議論ができるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

毎回指定されたテキストの1章ずつ進めていく。

英文テキスト使用の場合は、授業1週間前に全

を総合した力

### 教科書

Eric Wolf, Europe and the People without Historyを使用する予定だが、場合によっては以下の文献を使う可能性もある。

『日常人類学宣言!』松田素二

『開発の人類学』前川啓治

**成績評価方法と基準** 英語テキストを使用した場合には、履修者には分担箇所の全訳を課す。日本語テキストの場合は分担箇所のレジュメ作成を課す。その内容によって評価をおこなう。

**オフィスアワー** 火曜と木曜の午後が中心で、その他電気がついている時間。

訳を教員と他の履修者に提出すること。

テキストを読み進めた上で、関連事項についての議論をおこなう。

# 文化人類学演習

## Seminar on cultural anthropology

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 立川 陽仁 (人文学部)

**授業の概要** カナダ北西海岸の先住民文化について、英文テキストを読みながら理解をする。テキストはFranz Boas, Indian Myths and Legendsの予定。

**学習の目的** カナダの北西海岸先住民の伝統的な文化、神話について理解が深まる。

**学習の到達目標** カナダの北西海岸先住民の伝統文化を理解できるだけでなく、著者ボアズの人類的な政治的背景、北米先住民全体の文化などについても理解を深めることができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対

話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 文化人類学の学説史を理解しておくことが望ましい

**予め履修が望ましい科目** 文化人類学関連の講義や演習、英語読解に役立つ講義や演習など

**教科書** F.Boas, Indian Myths and Legends

**成績評価方法と基準** テキストが英語の著作なので、毎回の授業では事前に訳したものを発表してもらう。その訳と議論で評価。

**オフィスアワー** 木曜の7限目以後

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

毎回の授業では、1章ごとに進めていく。

担当者が全訳を提示してプレゼンをおこな

い、他の履修者はその訳の成否をチェックする。これらの作業が終わったら内容についてのディスカッションをおこなう。

# ミクロ社会論特講

Social Interaction

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部)

**授業の概要** ミクロな社会的相互作用の中核には、言語的なコミュニケーションがある。

この言語的なコミュニケーションは、一般的には、言語という道具を使用した〈意味〉の交換であると考えられている。しかし、クワインは、単語やそれによって構成される文には、一定の〈意味〉があり、その〈意味〉によって言語はコミュニケーションを可能にしているのだという考え方を否定し、言語的なコミュニケーションに関する新たな見方を提示した。本講義は、このクワインの理論、及びクワインと同じ立場に立っているデイヴィッドソンの言語的コミュニケーションについての理論を検討しようとするものである。

**学習の目的** 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それをふまえて、社会的相互作用に関する自分の理論を展開できるようにする。

**学習の到達目標** 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得できるようにする。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対

話力

## 受講要件

社会的相互作用や言語的コミュニケーションに関する専門的な知識を前提とした講義なので、登録する前に必ず担当教員に相談すること。

クワイン、デイヴィッドソンの理論に関する基本的な知識、理論的な英語の文章を読みこなす読解力も必要とされる。

**発展科目** ミクロ社会論演習

## 教科書

Quine, Word and Object, MIT Press.

Quine, From a Logical Point of View, Cambridge.

Davidson, Inquiries into Truth and Interpretation, Clarendon Press.

Davidson, Subjective, Intersubjective, Objective, Clarendon Press.

**成績評価方法と基準** 報告50%、期末レポート50%

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00～13:00

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回：講義の概要説明

第2回～第7回：院生によるQuine, Word and Objectに関する報告

第8回～第13回：院生によるDavidson, In-

quiries into Truth and Interpretationに関する報告

第14回～第15回：クワイン、デイヴィッドソンの理論と社会的相互作用の理論

# 現代社会論演習

Seminar on Modern Society

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

## 授業の概要

「時間の社会学」の理論書を英語で購読する。

現代社会における時間の概念と文化について、他の時代との比較および相対化により考察する。

**学習の目的** 原典講読を通じて、社会学理論の枠組みを理解する。

**学習の到達目標** 西欧における時間概念の理論化を通じ、抽象的対象の分析方法を学ぶ。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 1回～15回 原典読解の報告と検討

**受講要件** 社会学理論にかかわる知識を要する。

**予め履修が望ましい科目** 社会学の専門科目

## 教科書

Eviatar Zerubavel. Hidden Rhythms: Schedules and Calendars in Social Life. University of California Press, 1981.

その他、社会学理論の英語文献。

**成績評価方法と基準** 授業での報告40%、授業での討論30%、期末レポート30%、計100%

**オフィスアワー** 木曜日7～8限、江成研究室



# グローバル社会論特講

Special Lecture on Global Sociology

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

**授業の概要** グローバル化する現代社会の諸問題について、人の移動と地域社会の再編に関わる分野を中心に概観し、理解を深める。

## 学習の目的

国際社会学の視点を手がかりに、修士論文の準備を進める。

修士論文に必要な研究手法を学ぶ。

## 学習の到達目標

国際社会学の課題を探究する能力を身につけることができる。

修士論文の具体的な方向性を授業およびレポートで報告することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対

話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 社会学および関連分野の基礎知識を備えた者が望ましい。

**発展科目** グローバル社会論演習

## 教科書

講読テキスト:

玉野和志・三本松正之編『地域社会の政策とガバナンス』東信堂、2006年。

**成績評価方法と基準** 授業での報告40%、授業での討論30%、期末レポート30%、計100%。

**オフィスアワー** 木曜日7～8限、江成研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第2回 授業の進め方と文献紹介

第3回～第10回 学生の報告にもとづくテキスト

講読

第11回～第12回 レポート作成の方法

第13回～第15回 修論テーマに関する学生の報告

# 地域構造論特講

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏

**授業の概要** 人文地理学的な視点より、地域調査（フィールドワーク）をもとにして研究をまとめるための方法論を学ぶ。調査研究の発想、企画、実行、集約、執筆という一連の流れ（プロセス）を、参考文献や学術論文を基に検討する。

**学習の目的** 人文地理学的な地域調査、フィールドワークの手法を身につける。そして、自分の研究テーマにあわせて具体的な調査を企画できるようになる。

**学習の到達目標** 人文地理学的な地域調査・研究に必要な基礎的な能力、心構えを身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 地域調査に関する文献・論文の検討

第2回～第8回 参考文献の輪読・・・担当を決めて受講生が内容を紹介する。質疑応答含む。

思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 梶田真・仁平尊明・加藤政洋編 (2007) : 「地域調査ことはじめーあるく・みる・かくー」ナカニシヤ出版。必要部分をコピーして読む。また、とりあげる論文については、学生と相談の上で決める。

**成績評価方法と基準** 発表内容、参加態度、レポートの総合評価

**オフィスアワー** 質問は随時受け付ける。

第9回～第14回 学術論文の批判的検討・・・担当を決めて受講生が内容を紹介する。質疑応答含む。

第15回 レポートの発表

# 文化空間論演習

Seminar in culture and space

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 森 正人

**授業の概要** 修士論文執筆のための理論構築をめざすために、英語で執筆された理論的文献を講読する

**学習の目的** 近現代社会の自明化された世界を批判的に読み解くために、英語の理論文献を読んで理解できるようになる。

**学習の到達目標** 一定水準以上の修士論文を書く、あるいはそのための方法論と理論を理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

**教科書** 英語で執筆された専門の著書、論文を読む。

**成績評価方法と基準** 発表内容を考慮する

**オフィスアワー** とくに設けないが、事前にアポイントメントを取ることが求められる。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1 授業の概要

2 修論のはじめに作成

3 修論のはじめに作成

4 修論のはじめにのための文献リスト作成

5 研究の方法論の発表と討議

6 研究の方法論の発表と討議

7 研究の方法論の発表と討議

8 調査計画書作成

9 調査計画書作成

10 調査計画書作成

11 調査

12 調査

13 調査成果の発表

14 論文執筆の計画書作成

15 論文執筆の計画書作成

# 文化地理学演習

Seminar of Cultural Geography

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 中川 正

**授業の概要** 文化地理学の専門研究を行ううえで必要となる手法を学び、各自の研究テーマに適用する方法を実践的に検討する。

**学習の目的** 文化地理学の基礎的な方法論を学び、自分の研究テーマに適用することができる。

**学習の到達目標** 感じる力：20%、考える力：30%、生きる力：30%、コミュニケーション力：20%

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 課題

探求力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 文化地理学特講

**教科書** 授業で指定する

**成績評価方法と基準** 授業における課題40%、報告40%、ディスカッションへの参加度20%

**オフィスアワー** 毎週木16:30～17:30 場所 教養教育2号館307研究室

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 受講生は、各自文化地理学的研究テーマを設定し、実際に研究を行ううえで必要になってくる文献収集、観察、聞き取り、

データ分析、レポート作成、口頭発表に関する技能をその研究テーマ追求の過程で身につける訓練をする。

# 社会構造論特講

Social Structure

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 永谷 健

**授業の概要** 「格差社会」の進展やそれにかかわる現代日本の諸問題を考察するには、日本の産業社会の成り立ちやその特質を理解することが重要である。この授業では、とくに経済エリート（富裕な企業経営者や資産家など）に関わるいくつかの社会的なトピックを検討することを通じて、産業社会および「格差社会」の多角的な理解を目指す。講義・解説に受講者の報告も交えた授業形式を予定している。

**学習の目的** 産業化や工業化を推進してきたこれまでの企業家やトップマネジメントと呼ばれる人たちは、そもそもどのような野心や関心を内面に抱いた人々なのか。また、近現代の社会のなかで、彼らはどのようなポジションを占め、どのような影響力を持ちえるのか。事業経営以外の分野（たとえば文化）と彼らのかかわりは、どのようなものか。彼

らはどのような文化を築き上げようとするのか。様々な社会・経済的事実を参照しながら、これらの点について考察する。

**学習の到達目標** 産業社会・格差社会に関するいくつかの基本的なトピックについて理解を深める。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 社会構造論演習

**教科書** 授業の中で指示する。

**成績評価方法と基準** レポート 50%、発表 50%、計100%。

**オフィスアワー** 水曜日12:00~13:00

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 近代社会における実業家・経営者の輩出  
(心理学的説明)

第3回 近代社会における実業家・経営者の輩出  
(社会学的説明)

第4回 冒険的実業家の時代から専門経営者の時代へ1

第5回 冒険的実業家の時代から専門経営者の時

代へ2

第6回 中間まとめ

第7回 経営者支配の理論

第8回 新しい経済エリート論1

第9回 新しい経済エリート論2

第10回~第12回 研究報告

第13回~第14回 研究報告

第15回 総括

# 社会構造論演習

Seminar on Social Structure

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 永谷 健

**授業の概要** 現代日本の諸問題を考察するには、日本の階層社会の特徴や歴史的な成立経緯を理解することが重要である。この授業では、とくに近代以降の日本の社会階層（富裕層や中間層、サラリーマン階層など）に関わるいくつかの社会的なトピックを検討することを通じて、日本の階層社会に関する多角的な理解を目指す。受講者による先行研究（専門性の高いもの）の報告、および、受講者による独自の研究報告を中心的に行なう。

**学習の目的** 近現代日本の社会階層にかかわる重要な論点を知り、その論点をどのように学術的な研究へと発展させていくかについて考察を深める。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 日本の社会階層

第3回～第7回 専門文献の報告

**学習の到達目標** 近現代日本の階層社会について研究するために必要な知識を習得し、また、研究の方法について具体的に理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 地域社会論特講

**教科書** 授業の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 発表（文献報告あるいは調査報告）50%、レポート50%。

**オフィスアワー** 水曜日12:00～13:00

第8回 中間まとめ

第9回～第14回 研究報告

第15回 総括

# 中国古典文学特講

## Special Lecture in Chinese Classical Literature

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 四部叢刊所収の『宛陵先生集』により、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。白文のテキストを用いて現代中国語音での音読、ならびに訓読、日本語訳を求める。必ず予習をした上で出席すること。漢和辞典必携。前期は昼間、後期は有職者向けの夜間開講。

**学習の目的** 中国の古典詩文についての理解を深める。

**学習の到達目標** 漢文を読解する能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 中国古典文学作品論演習

**教科書** 授業中に資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 日常の授業での担当による。

**オフィスアワー** 金曜日12:00~13:00 場所: 教養教育4号館4階 湯浅研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 四部叢刊所収の『宛陵先生集』によ

り、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。

⑮ まとめ

# 中国古典文学作品論特講

## Special Lecture in the Theory of Works of Chinese Classical Literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

六朝期を代表し、後世の文学にも大きな影響を与えた詞華集『文選』を、胡克家刻本の李善注テキストに基づいて読む。

前期は有職者向け夜間開講。後期は昼間開講。

**学習の目的** 中国の古典文学に対する理解を深める。

**学習の到達目標** 古典籍を読むための基本的な技法を習得する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- ① ガイダンス
- ②～⑭ 『文選』を、胡克家刻本の李善注テク

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力

**発展科目** 中国古典文学演習

**教科書** 授業中に資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 日常の授業での担当による。

**オフィスアワー** 金曜日12:00～13:00 場所: 教養教育4号館4階 湯浅研究室

ストに基づいて読む。

- ⑮ まとめ



# 現代中国語演習 I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

---

**授業の概要** 中国語中級以上のレベルを持つ学生を対象とする。履修者は中国語の音声、文法、語彙等、与えられたテーマについて、中国語教育の場でどのように解釈し、教えるのかという観点から発表を行う。

**学習の目的** 中国語の音声、文法、語彙に対する深い理解を得る。中国語教授法の知識獲得。

**学習の到達目標** 中国語教授法を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的

思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語初級レベルの学生は受講できない。中国語を初歩から学びたい学生は、共通教育の授業を聴講すること。

**教科書** 授業中に指示。

**成績評価方法と基準** 発表回数・発表内容及びレポート。

**オフィスアワー** 月から金の授業、会議時間以外。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

以下の計画に沿って15回の授業を進める。

第1回～第5回：現代中国語の発音教育

第6回～第10回：現代中国語の文法教育

第11回～第15回：現代中国語と日本語の比較を通じた教授法

# 現代中国語特講 I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 中国少数民族言語である彝語を学ぶ。彝語はシナ・チベット語族チベット・ビルマ語派口語支に属する言語で、音声は頭子音43、母音10、声調4からなり、子音にはある有気・無気・有聲の対立、無声・有聲の対立があり、母音には緊喉、非緊喉の対立がある、比較的複雑な音韻体系を持つ言語である。また、中国の一少数民族言語である彝語は、これまで文法の面で体系的な規範文法が確立されていない。さらに、独特な固有の文字を持つことでも知られている。この言語を学ぶことによって、彝語の習得は無論、言語学、文字学の体系的な知識を身につける。

**学習の目的** 彝語の習得、言語学、文字学の知識習得。

**学習の到達目標** 彝語の習得、言語学、文字

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回～第7回：涼山彝語の文字と音声

学の知識習得。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力、論理的思考力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語検定4～3級取得者が望ましい。

**教科書** 授業中に指示

**成績評価方法と基準** 出席回数、授業での発表内容などから成績を出す。

**オフィスアワー** 月～金の授業、会議を覗く時間。

**その他** 中国語で書かれたテキストを使用しますので、現代中国語のある程度の読解力が必要です。

第8回～第15回：涼山彝語の語彙

# 現代中国語特講 II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

---

**授業の概要** 引き続き、現代中国語学特講 I と同様のテーマを学ぶ。

**学習の目的** 現代中国語学特講 I に同じ。

**学習の到達目標** 現代中国語学特講 I に同じ。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語初級者は受講できない。中国語中級以上の学生に限る。

**教科書** 授業中に指示。

**成績評価方法と基準** 発表, 出席で評価。

**オフィスアワー** 月～金の授業・会議時間以外。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

現代中国語学特講 I に引き続き、15回の授業を行う。

第1回～第10回：涼山彝語の文法

第11回～第15回：中国の少数民族に対する言語政策から見る彝語

# 英米言語構造論演習III Seminar on the Structure of English Sentences III

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

**授業の概要** 生成文法理論に基づいた言語獲得研究のこれまでの主な成果を概観し、今後の研究課題について考えます。瞬時的モデルという理想化の上に建てられた言語獲得理論と、実際の時間軸に沿った言語獲得過程とを結びつける要因に関して中心的に議論します。

## 学習の目的

[1] 生成文法理論に基づいた言語獲得研究の主要文献のいくつかについて、理解できるようになる。

[2] これまでの研究において、どのような課題が残されているかを理解できるようになる。

## 学習の到達目標

[1] 英語で文献を読み、内容を整理できるようになる。

[2] 言語獲得研究における新たな研究トピック

を1つ、立てることができるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 人文学部文化学科において開設されている「言語科学概論A・B」「英語学演習」を履修済みであること。

**予め履修が望ましい科目** 「英米言語構造論特講III」を履修済みであることが望ましい。

**教科書** 授業において読むべき文献を指定します。

**成績評価方法と基準** 授業における発表100%

**オフィスアワー** 毎週月曜日・火曜日 12:10～12:50 杉崎研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第01回 生成文法理論の言語獲得観

第02回 普遍文法と瞬時的言語獲得モデル

第03回～第05回 言語獲得における「原理」の早期発現

第06回～第10回 発達要因 (1) : 媒介変数の

設定

第11回～第12回 発達要因 (2) : 言語知識における「成熟」

第13回～第15回 発達要因 (3) : 談話知識の獲得の遅れ

# 英米言語構造論演習 II

Seminar on English Linguistics II

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 綾野 誠紀 (人文社会科学研究科地域文化論専攻)

**授業の概要** 本講義では、言語獲得という観点から、人間言語の普遍的な特性について考察する。講義では、抽象的な議論に終始することなく、理想的な言語演算システムとは一体どのようなものであるか、ということについて、主に前置詞を中心とした言語事実に基づき検討する。

**学習の目的** 理論言語学の統語論における議論の仕方を身につけることができる。

**学習の到達目標** 理論言語学の統語論における議論の仕方を身につけることができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** 授業において配布する資料

**成績評価方法と基準** レポート100%

**オフィスアワー** 初回の授業の際に配布する詳細なシラバスを参照のこと

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～3回 前置詞というカテゴリーについて (先行研究概観)

第4回～7回 英語の前置詞の統語的特徴について (前置詞句の統語構造も含む)

第8回～11回 英語の前置詞句の文内での文法的振る舞いについて

第12回～15回 比較統語論の視点からのさらなる考察

# 英米言語構造論特講III

## Special Lecture on the Structure of English Sentences III

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

**授業の概要** 英語で書かれた文献を読みながら、ヒトの「こころ」の研究としての現代言語研究（「生成文法理論」）の目的と方法について学びます。ヒトの持つ言語知識の研究がなぜヒトの「こころ」の仕組みの解明につながるのか、ヒトの持つ言語知識をどのように研究するのかについて理解し、自ら言語研究を行う際の基礎を身につけます。

### 学習の目的

- [1] 現代言語研究の目的と方法に関する知識を得る。
- [2] 現代言語研究と「こころ」の研究との関係に関する知識を得る。

### 学習の到達目標

- [1] 英語で文献を読み、内容を整理できるようになる。
- [2] 現代言語研究の目的が説明できるようになる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第01回 生成文法理論の基本的な考え方
- 第02回 Chapter 1: Mind Matters: Chomsky's Dangerous Idea
- 第03回 Chapter 2: The Mechanization of the Mind Picture
- 第04回 Chapter 3: How the Mind Glows: From Meno to Noam
- 第05回 Chapter 4: Mental Chemistry
- 第06回 Chapter 5: The Variety of Linguistic Experience: The Towers of Babel and Pisa
- 第07回 Chapter 6: All Roads Lead to Universal

[3] 現代言語研究と「こころ」の研究との関係が説明できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 人文学部文化学科において開講されている「言語科学概論A・B」「英語学演習」を履修済みであること。

**発展科目** 英米言語構造論演習III

**教科書** Boeckx, Cedric. 2009. Language in Cognition: Uncovering Mental Structures and the Rules Behind Them. Wiley-Blackwell.

**成績評価方法と基準** 授業における発表 100%

**オフィスアワー** 毎週月曜日・火曜日 12:10 ~ 12:50 杉崎研究室

Grammar

- 第08回 Chapter 7: Making Sense of Meaning: An Instruction Manual
- 第09回 Chapter 8: Wonderful Mental Life: Unthinkable without Language
- 第10回 Chapter 9: Grammar Caught in the Act
- 第11回 Chapter 10: The (Mis)Measure of Mind
- 第12回 Chapter 11: Homo Combinans
- 第13回 Chapter 12: Computational Organology
- 第14回 まとめ：生成文法の思考法(1)
- 第15回 まとめ：生成文法の思考法(2)

# 現代英語特講 I

## Present-day English I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 野田 明

**授業の概要** 現代英語で書かれた論説文、エッセイなどを精読し、それぞれの専門分野での研究を進めるのに必要な読解力の向上を目指します。

**学習の目的** 論説文やエッセイなどを、正確かつ迅速に読み取るとともに、必要に応じて要約、また、重要箇所を適切な日本語に訳すことができる。

**学習の到達目標** 辞書を用いて原文を正確に理解できる。辞書が手元にない場合でも、お

よその内容が分かる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

**教科書** ハンドアウトを使用する予定。

**成績評価方法と基準** 授業中の発表50%、期末試験50%。

**オフィスアワー** 月曜15:00~16:00、人文学部3階野田研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第5回：論説文 I

第6回～第9回：論説文 II

第10回～第12回：エッセイ

第13回～第15回：総合演習

第16回：総括

# 英米言語文化論演習Ⅰ

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

**授業の概要** 英語音声学について専門的知識を深める。

**学習の目的** 英語音声学に関する文献(英文)を講読し、調音音声学、音響音声学についての理解を深める。

**学習の到達目標** 英語音声学に関する先行研究について十分な知識を得て、今後の課題を検討し、自ら研究テーマを設定できるようになることを目指す。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 英語音声研究について英文で書か

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 実践外国語力

**教科書** 授業において指示します。

**成績評価方法と基準** 授業中の発表と議論、80%、レポート20%。合計が60%以上で合格。

**オフィスアワー** 水曜日10:30-11:30 服部研究室

れた文献を講読する。



# 理論言語学演習

Seminar on Theoretical Linguistics

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 綾野 誠紀 (人文社会科学研究科地域文化論専攻)

**授業の概要** 理論言語学、特に生成文法理論の立場からの統語論に関する論文を読むことにより、当該分野における問題の所在及び研究の手法について学ぶ。

**学習の目的** 生成文法理論の基礎的な知識を身につけると同時に、研究方法に関する基本的な手法が分かるようになる。

**学習の到達目標** 言語の分析手法を身に付けることができるようになるのと同時に、論理的な議論の仕方も修得できる。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～3回 生成文法理論概論

第4回～7回 文の構造について

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 授業の各回において配布する資料

**成績評価方法と基準** レポート100%

**オフィスアワー** 初回の授業で配布する詳細なシラバスを参照のこと

第8回～11回 移動と局所性について

第12回～15回 名詞句の内部構造について

# ドイツ語学特講

German Linguistics

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** Humboldt, Buehler, Wittgenstein, Morrisなどのテキストを読みながら、記号とは何か、言語とは何かについて考える。

**学習の目的** さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解できるようになる。

## 学習の到達目標

言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理

的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

## 受講要件

言語学の基礎的知識があること。  
ドイツ語の基本的な読解力があること。

**発展科目** ドイツ語学演習

**教科書** Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft. Ein Reader. 2., verbesserte Auflage.

**成績評価方法と基準** 授業中の翻訳50% レポート50% 計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎 教養教育機構長室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 言語学の基礎概念

第2回～第3回 Sprachtheorien. Einleitung.

第4回～第5回 Humboldt: Einleitung in das gesamte Sprachstudium.

第6回～第10回 Buehler: Sprachtheorie.

第11回～第13回 Wittgenstein: Philosophische Untersuchungen.

第14回～第15回 Morris: Grundlagen der Zeichentheorie: Semiotik.

# ドイツ語学演習

Seminar in German Linguistics

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** Trier, Bierwisch, Wunderlich, Fregeなどのテキストを読みながら、意味とは何かについて考える。

**学習の目的** さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解し、それについて批判的意見を述べるができるようになる。

## 学習の到達目標

学習の到達目標 言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

言語学者の理論について意見を述べるができるようになる。

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

## 受講要件

ドイツ語の読解力

言語学の基礎知識

**予め履修が望ましい科目** ドイツ語学特講

**教科書** Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft.Ein Reader.2., verbesserte Auflage.

**成績評価方法と基準** 授業中の翻訳50% レポート50% 計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎 教養教育機構長室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 意味論の基礎概念

第2回～第3回 Bedeutung, Einleitung.

第4回～第6回 Trier: Sprachliche Felder.

第7回～第10回 Bierwisch: Strukturelle Seman-

tik.

第11回～第13回 Wunderlich: Grundlagen der Linguistik.Zur Explikation von Sinnrelationen.

第14回～第15回 Frege: Einleitung in die Logik.

# 言語情報論特講

Language Information

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** 言語学の基礎的知識を基にコーパスを用いた言語分析の基礎を学ぶ。

**学習の目的** コーパスを分析して、言語現象のメカニズムを読み取ることができるようになる。

## 学習の到達目標

コーパスについての基礎的知識を得る。  
これまでのコーパスを用いた研究結果を理解する。  
自らのテーマに沿ってコーパスを分析する。

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第3回 言語学の基礎知識  
第4回～第6回 コーパス言語学の基礎  
第7回～第9回 コーパス言語学の現状

**受講要件** 言語学の基礎的知識を持っていること。

**予め履修が望ましい科目** ドイツ語学特講または言語学関係科目

**発展科目** 言語情報論演習

**教科書** Power Pointによる講義を行う。資料はプリントで配布する。

**成績評価方法と基準** レポート50% 期末試験50%

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所：教養教育校舎 教養教育機構長室

第10回～第15回 コーパスによる言語分析の実際

第16回 期末試験

# 現代ドイツ語特講Ⅰ

Present-day German I

**学期** 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** Fritz Lang を中心として、ドイツの無声映画について考察する。

識・技術, 実践外国語力

## 学習の目的

ドイツの無声映画に関する知見を得る。  
中級程度のドイツ語テキストを正確に読む。

**受講要件** 中級程度のドイツ語テキストが読めること

**発展科目** 現代ドイツ語演習Ⅰ

## 学習の到達目標

ドイツの無声映画に関して、自分の意見を述べることができる。  
中級程度のドイツ語テキストが正確に読める。

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点50%、レポート50%、計100%

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 専門知

**オフィスアワー** 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** ドイツの無声映画に関する論文を読みながら、無声映画の表現技法やテーマ、

受容などについて考察します。

# 現代ドイツ語演習Ⅰ

Present-day German I

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

## 授業の概要

ドイツの無声映画に関する論文を読み、研究史の大枠を理解します。

併せて、中級程度のテキストを読む力を養成します。

## 学習の目的

ドイツの無声映画について、知見を獲得する。

中級程度のドイツ語テキストが正確に読める。

## 学習の到達目標

フリッツ・ラングを中心としたドイツの無声映画について、自分の意見を述べることで

きる。

中級程度のドイツ語テキストを正確に読める。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 実践外国語力

**受講要件** 中級程度のドイツ語テキストが読めること

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点50%、筆記試験50%、計100%

**オフィスアワー** 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** ドイツの無声映画に関する論文を

精読し、研究史について知見を得る。

# 日本考古学史料論演習

## Seminar in Historical Documents for Japanese Archaeology

**学期** 後期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 小澤 毅(人文社会科学研究科)

**授業の概要** 日本最古の基本史料である『古事記』『日本書紀』を通読し、それぞれの特徴や歴史的事象との関係について考える。

**学習の目的** 『古事記』『日本書紀』の記事の比較や考古学など関連資料の分析をつうじて、歴史とのかかわりを考察する。

**学習の到達目標** 文献史料と考古資料の特徴や相違点を理解し、歴史的事象との関係を判断する材料を得る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力

**受講要件** 日本考古学史料論特講を履修済みであること。

**成績評価方法及び基準** 研究発表60%、受講態度40%

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 担当部分の決定

第2回～第5回 発表の準備と質疑応答

第6回～第14回 研究発表

第15回 まとめ

# 現代英語特講 I

---

**学期** 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

**授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 小田 敦子(教養教育機構)

**授業の概要** 人文社会科学系大学院生にとって基本的な文献を講読する。

**学習の目的** 長文の英語を読み、理解し、批評する力をつける。

**学習の到達目標** 大学院での研究に必要な英語力を身につけるとともに、人文学研究の基礎的な考え方を知る。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

**教科書** 授業で相談して決定する。

**成績評価方法と基準** レポート50%、授業への取組み50%

**オフィスアワー** 月曜日12:15-12:45」

**授業計画・学習の内容** \_\_\_\_\_



# 現代英語特講III

## Present-day English Special Lecture III

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

**授業の概要** 現代英語のテキスト、主に評論や新聞コラム、雑誌記事、論考などを素材として、基本的な英語読解力と内容を把握する力を養う。

**学習の目的** 現代英語のテキストの読解を通して、英語の語彙や文法の知識を深め、構文理解、英文構成と展開について、正確に理解し、解説することができる。

**学習の到達目標** 英文テキストの内容について、語彙及び文法を正確に理解し、主張されていることとその解釈について解説することができる。

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 受講生と相談の上決める。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 受講生を相談の上、決定する

**成績評価方法と基準** 授業での課題提出 50%、レポート50%、計100%

**オフィスアワー** 火曜日3・4限

# フィールドワーク論特講

Special lecture on the theory of fieldwork

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

**授業の概要** グローバリズム、近代化などに関する人類学的な文献を読み、上記テーマについての理解を深める。

**学習の目的** グローバリズムや近代資本主義システムの世界的な浸透について、各事例にもとづいた理解を得ることができる。

**学習の到達目標** グローバリズムや近代資本主義システムについて、世間でいわれているような一枚岩的な評価だけでなく、実態の多様性を批判的に理解する。とくに各地域が近代やグローバリズムを受け入れる際の、主体的な動きや戦略を理解する。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

テキストを読み進め、それにもとづいた討論

を総合した力

### 教科書

E.Wolf, Europe and the People without History  
を考えているが、場合によっては以下の日本語文献を利用する可能性もある。

『日常人類学宣言!』松田素二

『開発の人類学』前川啓治

### 成績評価方法と基準

英語テキストを使用した場合には、履修者には分担箇所についての全訳を課す。

日本語テキストを使用した場合には、分担箇所のレジュメを作成する。

この作業で評価する。

**オフィスアワー** 木曜の7~8時限。

をおこなっていく。

毎回、1章ごと進めていく予定。

# グローバル社会論演習

Seminar on Global Sociology

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

**授業の概要** グローバル化にともない、日本の地域社会が直面する社会学的課題について検討する。

## 学習の目的

国際社会学の視点から、修士論文の準備を進める。

修士論文に必要な研究手法を学ぶ。

## 学習の到達目標

国際社会学の課題を探究する能力を身につける。

修士論文の具体的な方向性を授業およびレポートで報告することができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回～第2回 授業の進め方と文献紹介

第3回～第10回 学生の報告にもとづくテキスト講読

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 社会学および関連分野の基礎知識を備えた者が望ましい。

**予め履修が望ましい科目** グローバル社会論特講

**発展科目** 国際社会学特講、国際社会学演習

**成績評価方法と基準** 授業での報告40%、授業での討論30%、期末レポート30%、計100%。

**オフィスアワー** 木曜日7～8限、江成研究室

第11回～第12回 レポート作成の方法

第13回～第15回 修論テーマに関する学生の報告

# 日本語史特講

## the intensive study of Japanese Linguistics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

**授業の概要** 中世口語資料(キリシタン資料、狂言台本など)を題材に、日本語の諸問題について考察する。

**学習の目的** 用意されたテキストを基に、そこにどのような問題点があり、どう解決すべきか、気づき考察し論理的に説明する力を身につけることを目標とする。

### 学習の到達目標

扱うテキストについて、適切な資料を用いて適切な解釈を行うことができる。

日本語学に関する専門的な知識を基に、論理的思考に基づき適切に説明や論述をすることができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 初回に受講生と相談の上、決定する。

**成績評価方法と基準** 発表内容とレポート(70%), 授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

**オフィスアワー** 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取る)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス、テキストについて

第2回 中世口語資料について

第3~14回

・テキストの読解

・問題発見

・考察, 発表

第15回 まとめ

# 日本語史資料論特講

## the intensive study of Materials for Japanese Linguistics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義  
担当教員 川口 敦子 (人文学部)

**授業の概要** 中世口語資料(キリシタン資料、狂言台本など)を題材に、日本語の諸問題について考察する。

**学習の目的** 用意されたテキストについて、その資料性を探り、また、そこに見いだせる諸問題を解決するために、適切な資料を収集し、論理的に説明して解決する力を身につけることを目標とする。

### 学習の到達目標

扱うテキストについて、適切な資料を用いて適切な解釈を行うことができる。

日本語学に関する専門的な知識を基に、論理的思考に基づき適切に説明や論述をすること

ができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 初回に受講生と相談の上、決定する。

**成績評価方法と基準** 発表内容とレポート(70%), 授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

**オフィスアワー** 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス、テキストについて  
第2回 中世口語資料について  
第3～14回

・テキストの読解  
・問題発見  
・考察, 発表  
第15回 まとめ

# アメリカ史料論特講

American Historical Documents

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

他専攻の学生の受講可

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

**授業の概要** アメリカ史研究における研究方法と課題への理解

**教科書** 授業中に指示する。

**学習の到達目標** アメリカ史研究の方法論

**成績評価方法と基準** 平常点

**発展科目** アメリカ史料論演習

**オフィスアワー** 火曜日12:00~12:30

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** アメリカ史上の諸問題について、近年の研究動向および研究例に触れながら考察していく。

# アメリカ史料論演習

Seminar for American Historical Documents

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業 他専攻の学生の受講可

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

**授業の概要** アメリカに関する史資料および文献を通して、アメリカ史の現状および課題について学ぶ。

**教科書** 授業中に指示する。

**成績評価方法と基準** 平常点による。

**学習の到達目標** 英語文献の読解とアメリカ史研究の方法

**オフィスアワー** 火12:00~12:30

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** アメリカ史に関する史資料および文献を講読し、近年のアメリカ史研究の動向と課題を検討する。その際、個別的な研究

事例を取り上げ、具体的な課題を見出していく。

# 現代英語演習 II

## Seminar in Present-day English II

**学期** 前期 **開講時間** 水 1, 2 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 井上 稔浩 (人文学部)

**授業の概要** 研究に必須となる、様々なタイプの英文を読解する。 思考力

**予め履修が望ましい科目** 。

**学習の目的** 英文読解を主体的に行うことができる。

**教科書** 講義時に紹介します。

**学習の到達目標** 英文読解の基礎力を養成する。

**成績評価方法と基準** 講義への参加度、レポート等により評価します。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的

**オフィスアワー** 毎週月曜12:10~12:50 井上研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

適宜プリントを配布し、以下のタイプの英文をそれぞれ5回ずつ講義します。

- 1・新聞の英語
- 2・論説の英語
- 3・小説の英語



# 中世近世日本文学論特講

## Special Lecture in Japanese Middle age and Early Modern Literature

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

**授業の概要** 三重県にまつわる歴史的文学作品をとりあげ、その解説および読解を協力して行う。この授業内で附属図書館展示「伊勢志摩の歴史と文学」に関する解題作成や展示準備を行ってもらう。題目は「特講」だが演習的要素の多い授業だと思って欲しい。

**学習の目的** 三重県の文学作品に関する基礎知識を身につける。また原資料を対象として、その内容を読み取る能力を身につける。

**学習の到達目標** 新出の資料を三重県の文学史のなかで位置づけられるだけの能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力

**受講要件** 日本古典文法および漢文法の基礎知識を有すること。

**予め履修が望ましい科目** くずし字や書誌学を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

**成績評価方法と基準** 展示の解題・作業などの評価が3割。授業内小レポートで3割。期末レポート4割。

### オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 一回 導入、三重県の風土と旧国制・旧藩制
- 二～五回 伊勢志摩展の説明と準備など
- 六回 古代 万葉集に詠まれた伊勢
- 七回 中古 齋宮と『伊勢物語』
- 八回 中世 西行と参宮・参詣記
- 九回 近世 俳諧史1 芭蕉

- 十回 近世 俳諧史2 伊賀俳壇と伊勢俳壇
- 十一回 近世 和歌と国学1 本居宣長
- 十二回 近世 和歌と国学2 橘守部と黒澤翁満
- 十三回 近世 和歌と国学3 谷川士清
- 十四回 近世 漢詩・漢文 津坂東陽・斎藤拙堂 有造館門
- 十五回 近世 地芝居 伊勢古市・答志島・安乗

# 言語情報論演習

Seminar for Language Information

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
授業の特徴 Moodle  
担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** 言語学の基礎的知識を元にコーパスを用いた言語分析の実際を学ぶ。

**学習の目的** 自分のテーマに従い、コーパスを分析して、言語現象のメカニズムを読み取ることができるようになる。

**学習の到達目標** 自らのテーマに沿ってコーパスを分析し、発表する。

**本学教育目標との関連** 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

**受講要件** 言語学の基礎的知識を持っている

こと。

**予め履修が望ましい科目** 言語学特講およびドイツ語学特講または言語学関係科目

**教科書** Power Pointによる講義を行う。資料は配布する。

**成績評価方法と基準** レポート50% プレゼン50%

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所：教養教育校舎 教養教育機構長室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回～第3回 コーパス分析の基礎知識

第4回～第6回 コーパス分析例の検討

第7回～第9回 自らの問題点の発見

第10回～第14回 コーパス分析結果の検討

第15回 発表

# 英米言語構造論特講IV

## Special Lecture on the Structure of English Sentences IV

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

**授業の概要** この授業では、英語と日本語におけるモダリティ表現の形式・意味を詳細に検討しながら、理論言語学の基本的な考え方、分析方法を学びます。具体的には、証拠性(evidentiality)、可能性(possibility)、感嘆性(exclamativity)等が関わったモダリティ表現に焦点を当て、(i)モダリティの構造的・意味的特性とは何か、(ii)モダリティの程度性に関わる意味はどのように理論的に説明することができるのか、(iii)モダリティは言語使用においてどのような役割を演じているのかという点について考察する。

**学習の目的** 英語、日本語におけるモダリティ表現の構造的、意味的特性を詳細に検討し、言語の構造的特性や意味解釈の背後にある法則性・体系性を理解する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

Week 1: Introduction

Week 2-Week 4: Evidentiality

Week 5-Week 7: Epistemic modality

Week 8-Week 10: Modal particles

**学習の到達目標** 具体的な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 参考書は使用しません。プリントを用意します。

**成績評価方法と基準** 出席・発表60%、課題40%

**オフィスアワー** オフィスアワーの時間帯に関しては初回の授業で決めます。

Week 11-Week 12: Exclamativity

Week 13-Week 14: Modality and information update

Week 15: Presentations

# 英米言語構造論特講 II

## Special Lecture on the Structure of English Sentences II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

**授業の概要** 本演習では、ことばの意味を談話構造の観点から考察する。具体的には、モーダル副詞や談話標識 (discourse particles) の意味に焦点を当て、(i) 我々は会話を進めていく中で、どのように聞き手と情報を共有しているのか、(ii) モダリティ、談話標識は情報のアップデートに関してどのような役割を果たしているのか、(iii) 非命題的意味 (前提、慣習的推意) と命題的意味の間には情報のアップデートに関してどのような違いがあるのか、といった問題を、形式意味論、語用論および言語哲学の観点から考察する。

**学習の目的** 英語、日本語におけるモダリティ・談話表現の意味を詳細に分析し、ことばの意味解釈の背後にある原理や法則性・体系性を理解する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

Week 1: Introduction (common ground, update semantics, dynamic semantics)  
Week 2-3: Assertion  
Week 4-6: Modality

**学習の到達目標** 具体的な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 言語学についての科目を履修済みであることが望ましいです。

**教科書** 教科書は使用しません。

**成績評価方法と基準** 授業参加・発表・課題: 60%、レポート: 40%

**オフィスアワー** オフィスアワーの時間帯等については最初の授業で決めます。

Week 7-9: Discourse particles

Week 10-12: Performativity

Week 13-15: Rhetorical relations

Week 16: Presentations

# 米文学演習I

## Seminar in American Literature

**学期** 前期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 小田 敦子 (教養教育機構)

**授業の概要** アメリカ文学の主要作家の作品を受講生の関心のあるテーマに基づいて読んでいく。

論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 実践外国語力

**学習の目的** 文学研究に必要な読解力を得る。

**教科書** The Norton Anthology of American Literature

**学習の到達目標** 批評の視点を知る。

**成績評価方法と基準** レポート50%、授業への取組み50%

**本学教育目標との関連** 感性, 専門知識・技術,

**オフィスアワー** 月曜日12:15~12:45

**授業計画・学習の内容** \_\_\_\_\_

# ドイツ文学演習II

## Seminar on German Literature II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵 (人文学部)

**授業の概要** トーマス・マンThomas Mann の長編小説『ファウスト博士』(Doktor Faustus, 1947)をドイツ語で読む。

**学習の目的** ドイツ語の読解力を高める。

**学習の到達目標** 辞書を用いて、複雑なドイツ語の文章を訳すことができる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

**受講要件** 中級以上のドイツ語力を有していること。

**教科書** プリント配布。

**成績評価方法と基準** 授業への積極的な取り組みを評価する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

トーマス・マンの長編小説『ファウスト博士』をドイツ語で読む授業です。

概要

1～3 作者と時代背景

4～14 テキスト読解

15 まとめ

# ミクロ社会論演習

Seminar on Social Interaction

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部)

**授業の概要** ミクロな社会的相互作用の中核には、言語的なコミュニケーションがある。この言語的なコミュニケーションは、一般的には、言語という道具を使用した〈意味〉の交換であると考えられている。しかし、クワインは、単語やそれによって構成される文には、一定の〈意味〉があり、その〈意味〉によって言語はコミュニケーションを可能にしているのだという考え方を否定し、言語的なコミュニケーションに関する新たな見方を提示した。本演習は、「ミクロ社会論特講」でも取り上げるこのクワインの理論、及びクワインと同じ立場に立っているデイヴィッドソンの言語的コミュニケーションについての理論を検討しようとするものである。

**学習の目的** 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それをふまえて、社会的相互作用に関する論文を執筆できるようにする。

**学習の到達目標** 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それに関する自分の見解を展開できるようにする。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回：演習の概要説明

第2回～第7回：院生によるQuine, Word and Objectに関する報告

第8回～第13回：院生によるDavidson, Subjec-

tive, Intersubjective, Objectiveに関する報告

### 受講要件

社会的相互作用や言語的コミュニケーションに関する専門的な知識を前提とした演習なので、登録する前に必ず担当教員に相談すること。

クワイン、デイヴィッドソンの理論に関する基本的な知識、理論的な英語の文章を読みこなす読解力も必要とされる。

**予め履修が望ましい科目** ミクロ社会論特講

### 教科書

Quine, Word and Object, MIT Press.

Quine, From a Logical Point of View, Cambridge.

Davidson, Inquiries into Truth and Interpretation, Clarendon Press.

Davidson, Subjective, Intersubjective, Objective, Clarendon Press.

**成績評価方法と基準** 報告50%、期末レポート50%

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00～13:00

ive, Intersubjective, Objectiveに関する報告

第14回～第15回：クワイン、デイヴィッドソンの理論から新しい社会的相互作用の理論を構想する

# ミクロ社会論演習

Seminar on Social Interaction

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部)

**授業の概要** ミクロな社会的相互作用の中核には、言語的なコミュニケーションがある。この言語的なコミュニケーションは、一般的には、言語という道具を使用した〈意味〉の交換であると考えられている。しかし、クワインは、単語やそれによって構成される文には、一定の〈意味〉があり、その〈意味〉によって言語はコミュニケーションを可能にしているのだという考え方を否定し、言語的なコミュニケーションに関する新たな見方を提示した。本演習は、「ミクロ社会論特講」でも取り上げるこのクワインの理論、及びクワインと同じ立場に立っているデイヴィッドソンの言語的コミュニケーションについての理論を検討しようとするものである。

**学習の目的** 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それをふまえて、社会的相互作用に関する論文を執筆できるようにする。

**学習の到達目標** 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それに関する自分の見解を展開できるようにする。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回：演習の概要説明

第2回～第7回：院生によるQuine, Word and Objectに関する報告

第8回～第13回：院生によるDavidson, Subjec-

tive, Intersubjective, Objectiveに関する報告

### 受講要件

社会的相互作用や言語的コミュニケーションに関する専門的な知識を前提とした演習なので、登録する前に必ず担当教員に相談すること。

クワイン、デイヴィッドソンの理論に関する基本的な知識、理論的な英語の文章を読みこなす読解力も必要とされる。

**予め履修が望ましい科目** ミクロ社会論特講

### 教科書

Quine, Word and Object, MIT Press.

Quine, From a Logical Point of View, Cambridge.

Davidson, Inquiries into Truth and Interpretation, Clarendon Press.

Davidson, Subjective, Intersubjective, Objective, Clarendon Press.

**成績評価方法と基準** 報告50%、期末レポート50%

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00～13:00

ive, Intersubjective, Objectiveに関する報告

第14回～第15回：クワイン、デイヴィッドソンの理論から新しい社会的相互作用の理論を構想する



# 情報環境利用論特講

## Information environment and use of information

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

**授業の概要** インターネットに代表される情報通信技術によって支えられている今日の情報社会において、情報の利用に関する様々な問題について、海外の文献を読みながら検討し、理解を深める。

**学習の目的** 今日の情報環境における特徴的な情報利用の種類、パターンなどの実態について知り、理解できるようになることを目的とする

### 学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) 今日の情報環境下における情報利用について、その現状と課題を理解する。
- 2) 本テーマに関する検討を通じて、調査・研究の方法を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話

力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 教科書

Fuchs, Christian. Social Media: A Critical Introduction. Sage, .2013, 293p.

Case, Donald, O. Looking for Information: A Survey of Research on Information Seeking, Needs and Behavior. Emerald Group Publishing. 2012. 440p.

**成績評価方法と基準** 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

**オフィスアワー** 特に指定しないが、必要な場合は教員に事前連絡をとること、場所：研究室

**その他** 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

# 情報システム論特講

Information system

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

## 授業の概要

インターネット上には、検索エンジンをはじめ、さまざまなデータベースが存在する。こうした検索システムを支える基本的な技術が、RDBMSやインデクシングなどである。本授業では、情報検索に係る情報の組織化について、文献を読みながら検討し、理解を深める。

**学習の目的** 現在、図書館やWWWで利用されている代表的な情報検索システムおよび情報の組織化の動向および特徴について知り、理解できるようになることを目的とする

## 学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) 情報の組織化に係る理論と実際を理解する。
- 2) 本テーマに関する検討を通じて、図書館情報

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

報学研究の方法を身につける

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 授業で指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

**その他** 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

# 現代情報環境論特講

Information environment in the modern age

**学期** 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習  
**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle  
**担当教員** 三根 慎二(人文学部)

**授業の概要** 大学、大学図書館、学術情報流通等のしくみ、それが抱える課題、問題点等について、基本文献（海外文献）の輪読、検討を通じて、理解する。

**学習の目的** 学術情報流通に関する最近の英語文献に基づいて、批判的な読みを通して関連知識について知り、理解できるようになることを目的とする

## 学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) 学術情報流通に関連する情報環境について、現在の状況と課題を理解する。
- 2) 本テーマに関する検討を通じて、図書館・情報学研究の基本的な方法・アプローチを把握する

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話

力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 後期科目：現代情報環境論演習と併せて受講すること。

## 教科書

Borgman, Christine L. Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World. The MIT Press. 2015. 400p.

Cope, Bill.; Phillips, Angus. The Future of the Academic Journal. 2014, Chandos Publishing, 478p.

**成績評価方法と基準** 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

**その他** 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

# 現代情報環境論演習

## Information environment in the modern age: seminar

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

**授業の概要** 前期科目「現代情報環境論特講」で取り上げた話題について、調査・分析を通じて、内容を深める。

**学習の目的** 学術情報流通に関する基本的および最新の知識を修得するとともに、これらの領域をテーマとして課題設定から調査、分析、レポート作成までをできるようにする。

### 学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

1) 学術情報に係る情報環境について、現在の状況と課題を理解する。

2) 本テーマに関する検討を通じて、図書館情報学研究の方法を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門

知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 後期科目: 現代情報環境論演習と併せて受講すること。

**教科書** 授業で指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

**その他** 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

# 日本考古学史料論特講

## Lecture on Historical Documents for Japanese Archaeology

**学期** 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

**授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

**担当教員** 小澤 毅(人文社会科学研究科)

**授業の概要** 日本最古の基本史料である『古事記』『日本書紀』を通読し、それぞれの特徴や歴史的事象との関係について考える。

**学習の目的** 『古事記』『日本書紀』の記事の比較や考古学など関連資料の分析をつうじて、歴史とのかかわりを考察する。

**学習の到達目標** 文献史料と考古資料の特徴や相違点を理解し、歴史的事象との関係を判

断する材料を得る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力

**成績評価方法と基準** 研究発表60%、受講態度40%

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 担当部分の決定

- 第3回～第5回 研究発表の準備と質疑応答
- 第6回～第14回 研究発表
- 第15回 まとめ

# 現代英語演習IV

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 赤岩隆

**授業の概要** 翻訳

**受講要件** 特になし

**学習の目的** 単なる置き換え以上の日本語訳について考える

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**学習の到達目標** 単なる置き換え以上の日本語訳ができる

**発展科目** 特になし

**教科書** 特になし

**本学教育目標との関連** 感性, 批判的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 平常点40%、レポート60%

**オフィスアワー** 金曜日12:00~13:00

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回導入  
第2回翻訳  
第3回翻訳  
第4回翻訳  
第5回翻訳  
第6回翻訳  
第7回翻訳

第8回翻訳  
第9回翻訳  
第10回翻訳  
第11回翻訳  
第12回翻訳  
第13回翻訳  
第14回翻訳  
第15回まとめ

# 三重の文化と社会 I

## Culture and Society in Mie Prefecture I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 塚本明 (人文社会科学研究科)

森久綱 (人文社会科学研究科)

**授業の概要** 三重の文学・歴史・思想・社会・地理・環境・地方制度・地域産業と経済などを総合的に考究し、三重県地域の文化と社会の特色を明らかにする。受講生は、三重県(特定の市町村に限定されない)に関わる研究対象について、主に文献・資料を中心に研究を進める文献指向型か、県内の特定の市町村(年度ごとに指定する)を対象に、現地でのフィールドワークを中心に研究を進めるフィールドワーク型のいずれかを選び、各自の専門分野に即して研究を進めることになる。講義は受講生の研究発表と複数の教員を交えた討論を基本とし、集中講義方式(土・日曜、夏季休暇などを利用して年間4~5回の予定)で行う。文献指向型についてはこれに別途講義が数回行われる。また、フィールドワーク型では適宜、現地視察や実地調査などを行う。なお、研究成果は報告書等にまとめ

るとともに、学内や現地で発表会を行うものとする。

### 学習の目的

履修者が設定した研究課題について、文献・フィールドワークを通じて解明を試みる。これにより、課題に関する知識及び論理の習得を図る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 情報受信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 三重の文化と社会IIとセットで履修することが望ましい

**教科書** とくに用いない。

**成績評価方法と基準** 平常点(出席、受講態度、発表等) 100%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

三重の文化と社会IIと合わせた年間計画は以下の通り。

4月 研究テーマの検討

5月 講義(調査研究の心構えについて)

6月 研究テーマ報告

7月 ジェネラルサーベイ(現地の概要調査)

9月 現地合宿(現地調査および研究成果中間報告)

10~12月 進捗状況報告(フィールド型: 月1回, 文献指向型: 別途提示予定)

1月 学内報告会/報告書・TRIO原稿作成

2月 現地報告会

# 三重の文化と社会 II

## Culture and Society in Mie Prefecture II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 塚本明 (人文社会科学研究科)

森久綱 (人文社会科学研究科)

**授業の概要** 三重の文学・歴史・思想・社会・地理・環境・地方制度・地域産業と経済などを総合的に考究し、三重県地域の文化と社会の特色を明らかにする。受講生は、三重県(特定の市町村に限定されない)に関わる研究対象について、主に文献・資料を中心に研究を進める文献指向型か、県内の特定の市町村(年度ごとに指定する)を対象に、現地でのフィールドワークを中心に研究を進めるフィールドワーク型のいずれかを選び、各自の専門分野に即して研究を進めることになる。講義は受講生の研究発表と複数の教員を交えた討論を基本とし、集中講義方式(土・日曜、夏季休暇などを利用して年間4~5回の予定)で行う。文献指向型についてはこれに別途講義が数回行われる。また、フィールドワーク型では適宜、現地視察や実地調査などを行う。なお、研究成果は報告書等にまとめ

るとともに、学内や現地で発表会を行うものとする。

### 学習の目的

履修者が設定した研究課題について、文献・フィールドワークを通じて解明を試みる。これにより、課題に関する知識及び論理の習得を図る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 情報受信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 三重の文化と社会 I とセットで履修することが望ましい

**教科書** とくに用いない。

**成績評価方法と基準** 平常点(出席、受講態度、発表等) 100%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

三重の文化と社会 I と合わせた年間計画は以下の通り。

4月 研究テーマの検討

5月 講義(調査研究の心構えについて)

6月 研究テーマ報告

7月 ジェネラルサーベイ(現地の概要調査)

9月 現地合宿(現地調査および研究成果中間報告)

10~12月 進捗状況報告(フィールド型: 月1回, 文献指向型: 別途提示予定)

1月 学内報告会/報告書・TRIO原稿作成

2月 現地報告会



# フランス文学演習 II

Seminar in French Literature II

学期 前期 開講時間 火 9, 10, 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 山本覚

**授業の概要** 受講生の研究テーマによって決定する

**学習の目的** 文献講読と発表を通して、自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

**学習の到達目標** 自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力

**受講要件** フランス語で書かれた専門書を読むのに必要な語学能力を備えていること

**教科書** 教室で指示する

**成績評価方法と基準** 平常点60%、レポート40%、計100%

**オフィスアワー** 授業期間中の月火木の昼休み、山本覚研究室、メール (kaku-san@human.mie-u.ac.jp) でアポイントメントを取ってください。メールによる相談は随時。

授業計画・学習の内容

---

# 現代フランス語特講 II

Lectures on Present-Day French II

学期 後期 開講時間 火 9, 10, 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 山本覚

**授業の概要** 受講生の研究テーマによって決定する

**学習の目的** 文献講読と発表を通して、自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

**学習の到達目標** 自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力

**受講要件** フランス語で書かれた専門書を読むのに必要な語学能力を備えていること

**教科書** 教室で指示する

**成績評価方法と基準** 平常点60%、レポート40%、計100%

**オフィスアワー** 授業期間中の月火木の昼休み、山本覚研究室、メール (kaku-san@human.mie-u.ac.jp) でアポイントメントを取ってください。メールによる相談は随時。

授業計画・学習の内容

---

# ヨーロッパ思想文化論演習 II

Seminar in European philosophy II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

**授業の概要** アリストテレスの『政治学』に関する英語文献を精読することを通じて、古代ギリシアの政治思想についての理解を深める。

**学習の目的** 古代ギリシアの政治思想を学ぶ。

## 学習の到達目標

- ・古代ギリシアの政治思想についての基礎知識を身につける。
- ・英語文献の精読の仕方を身につける。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 主体的学習力,

幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 平常点70%、レポート30%。

**オフィスアワー** 毎週金曜日16時～17時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

<学習内容>

英語文献の精読を通じてアリストテレスの政治思想を学ぶ。

<授業方法>

各回の担当者の作成した翻訳をチェックした後に、参加者全員でディスカッションを行う。

# 英文学特講I

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 赤岩 隆

**授業の概要** シェイクスピアの研究

**学習の目的** 長いイギリス文学の歴史のなか、シェイクスピア研究がどのように発展・展開してきたか、明確な位置づけを行う。

**学習の到達目標** できるだけ枚数の高む論考に耐えるような枠組みを得る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 授業時に指導

**成績評価方法と基準** 平常点40%、レポート60%

**オフィスアワー** 金曜日12:00~12:50

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 毎回個別指導

# 現代社会論特講

## Special Lecture on Modern Society

学期 前期 開講時間 月 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 永谷 健

**授業の概要** 現代日本の階層社会の特徴や歴史的な成立経緯を理解するには、諸外国の事情との比較が欠かせない。この授業では、明治以降の日本の近代化に関する海外の歴史社会学的研究を原典で精読することを通じて、日本の階層社会に関する比較社会論的な理解を目指す。

**学習の目的** 専門書の精読を通じて近現代日本の社会階層にかかわる比較社会論上の重要な論点、および、研究の方法論について考察を深める。

**学習の到達目標** 近現代日本の階層社会について研究するために必要な知識を習得し、また、研究の方法について具体的に理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力

ン力を総合した力

**受講要件** 授業では歴史学・社会学の専門知識が要求される外国語文献の講読を行なうので、受講を希望する場合は、担当教員まで必ず事前に相談すること。

**予め履修が望ましい科目** 社会構造論特講

### 教科書

使用するテキスト：

Ikegami, E., The taming of the samurai : honorific individualism and the making of modern Japan, Harvard University Press.

Skocpol, T., Social revolutions in the modern world, Cambridge University Press.など

**成績評価方法と基準** 報告50%、報告の要約・期末レポートの提出50%。

**オフィスアワー** 月曜日16：30～17：30

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第9回 文献講読と講義

第10回 中間まとめ

第11回～第15回 研究報告

# ヨーロッパ思想文化論特講 II

European philosophy II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

**授業の概要** アリストテレスの『政治学』に関するいくつかの英語文献を用いて、古代ギリシアの政治思想を概説する。

**学習の目的** 古代ギリシアの政治思想について学ぶ。

**学習の到達目標** 古代ギリシアの政治思想についての基礎知識を得るとともに、英語文献の読解力を向上させる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, 幅広い教養,

論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** プリントを配布する。

**成績評価方法と基準** 平常点50%、レポート50%。

**オフィスアワー** 毎週木曜日16時～17時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** アリストテレスの『政治学』に関する英語文献を題材にして、古代ギリシアの政治思想の内実と意義を概説する。予習とし

てテキストの要約を課すので、受講者には一定の英文読解力が要求される。

# 米文学演習 II

## Seminar in American Literature II

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程)・博士前期課程: 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井上 稔浩 (人文学部)

**授業の概要** John Steinbeckの短編小説を研究する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力

**学習の目的** Steinbeckの短編小説の特長を知る。

**教科書** 講義時に紹介します。

**学習の到達目標** Steinbeckの作品に関する批評論文等を参考にしながら彼の短編小説を読み解き、作品内容と作品が書かれたアメリカの30年代の特質との関連を理解することを目標とする。

**成績評価方法と基準** 講義への参加度、レポート等により評価します。

**オフィスアワー** 毎週月曜12:00～13:00 井上研究室

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 毎回John Steinbeckの短編小説を取り上げ、その特質をアメリカ30年代の時代

背景から考察する。

# 日本考古学特講

## Lecture on Japanese Archaeology

**学期** 前期 **開講時間** 火 1, 2, 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次  
**授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業  
**担当教員** 小澤 毅(人文社会科学研究科)

**授業の概要** 『発掘調査のてびき』を通読し、日本の集落遺跡の特性と調査法について理解する。

**学習の目的** 『発掘調査のてびき』を題材に、日本の集落遺跡の特性とそれを構成する遺構・遺物の調査法を学習する。

**学習の到達目標** 日本の集落遺跡の特性を把握し、それを構成するさまざまな遺構や遺物の調査法についての知識を得る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 問題解決力, 情報受発信力

**予め履修が望ましい科目** 日本考古学実技演習A・B

**教科書** 『発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編一』同成社、2010年

**成績評価方法と基準** 研究発表60%、受講態度40%

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 題材と発表内容の説明

第2回 担当部分の決定

第3回～第5回 研究発表の準備と質疑応答

第6回～第14回 研究発表

第15回 まとめ



# 日本考古学演習

## Seminar in Japanese Archaeology

**学期** 後期 **開講時間** 火 1, 2, 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次  
**授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業  
**担当教員** 小澤 毅(人文社会科学研究科)

**授業の概要** 『発掘調査のてびき』を通読し、記録や遺物の整理から報告書の作成にいたる方法について理解する。

**学習の目的** 『発掘調査のてびき』を題材に、記録や遺物の整理から報告書の作成にいたる考え方や具体的方法を学習する。

**学習の到達目標** 発掘後の記録や遺物の整理に対する考え方と具体的な方法を理解し、報告書作成に必要な知識を得る。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力

**受講要件** 日本考古学特講を履修済みであること。

**予め履修が望ましい科目** 日本考古学実技演習A・B

**教科書** 『発掘調査のてびき—整理・報告書編—』同成社、2010年

**成績評価方法と基準** 研究発表60%、受講態度40%

**オフィスアワー** 申し出があれば日時を指示する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 題材と発表内容の説明  
第2回 担当部分の決定

第3回～第5回 研究発表の準備と質疑応答  
第6回～第14回 研究発表  
第15回 まとめ

# ドイツ文学特講II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵

**授業の概要** 政治的主題を扱ったトーマス・マンの講演や評論を読解し、第二次世界大戦前夜のドイツにおける市民知識層の政治的自意識について考察する。

**学習の到達目標** トーマス・マンによる言説を中心に、第二次世界大戦前夜のドイツ語圏における市民知識層の政治的意識の諸相について知見を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 主体的

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

講義であつかうテーマは以下の通りである。

- ・十九世紀におけるドイツ・ナショナリズム

学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

**受講要件** ドイツ語中級以上の知識があること。

**教科書** プリント配布

**成績評価方法と基準** 平常点とレポート。

**オフィスアワー** 金曜日11時～12時

の展開について

- ・20世紀初頭の知識人による近代批判
- ・トーマス・マンの政治的言説とその読解

# 欧米思想文化論特講II

Western Philosophy II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

**授業の概要** 私たちは善悪をどうやって知るのだろうか。道徳に関する知識は他の種類の知識とは違うものなのだろうか。本講義では、こういった道徳的知識をめぐる問いを扱う「道徳認識論」と呼ばれる分野について学びます。

**学習の目的** 道徳認識論の基本トピックについての知識を獲得する。

**学習の到達目標** 原文のテキストを読むことで、学術論文を読みこなせるだけの哲学の基礎知識を養う。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第5回：道徳認識論とはなにか

第6回～第8回：道徳上の不一致

**受講要件** 英語文献を多数読むことになりま  
すので、それについていけるだけの読解能力  
を持っていることが望ましいです。

**発展科目** 欧米思想文化論演習II

### 教科書

以下のテキストを参照しつつ、レジュメを配  
布します。

Zimmerman, A.(2010).Moral Epistemology.  
Routledge.

**成績評価方法と基準** 期末レポート100%

**オフィスアワー** 講義終了後、1時間程度。

第9回～第11回：道徳に関する懐疑主義

第12回～第14回：道徳における推論

第15回：まとめ

# 欧米思想文化論演習II

Seminar in Western Philosophy II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

**授業の概要** 道徳認識論の主要論文を精読します。

**学習の目的** 道徳認識論の基本トピックを理解し、それらについてどのような見解が提示されてきたかを学ぶ。

**学習の到達目標** 原文のテキストを読むことで、学術論文を読みこなせるだけの哲学の基礎知識を養う。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力

**受講要件** 英語文献を多数読むことになりま  
すので、それについていけるだけの読解能力  
を持っていることが望ましいです。

**予め履修が望ましい科目** 欧米思想文化論特  
講II

**教科書** 演習で扱う英語論文を事前に配布し  
ます。

**成績評価方法と基準** 授業の貢献度50%+期末  
のレポート50%

**オフィスアワー** 演習終了後、1時間程度。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第14回：道徳認識論における諸問題

第15回：まとめ

# 日本近世史演習

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 塚本明 (人文学部文化学科)

---

**授業の概要** 近世社会の特質を、村で作成された古文書の作成過程、機能、伝来などの理解を通して検討する。

**学習の目的** 古文書を解読し、内容を理解する。近世の社会構造の理解を深める。

**学習の到達目標** 古文書を解読し、内容を理解する能力を得る。近世の社会構造の理解を深められる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 崩し字の基礎的な解読能力を有すること。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 1～15 近世社会の構造、古文書の作成過程、機能、伝来に関する分析。

# 中国古典文学特講

## Special Lecture in Chinese Classical Literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 四部叢刊所収の『宛陵先生集』により、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。白文のテキストを用いて現代中国語音での音読、ならびに訓読、日本語訳を求める。必ず予習をした上で出席すること。漢和辞典必携。前期は昼間、後期は有職者向けの夜間開講。

**学習の目的** 中国の古典詩文についての理解を深める。

**学習の到達目標** 漢文を読解する能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**発展科目** 中国古典文学作品論演習

**教科書** 授業中に資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 日常の授業での担当による。

**オフィスアワー** 金曜日12:00~13:00 場所: 教養教育4号館4階 湯浅研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 四部叢刊所収の『宛陵先生集』によ

り、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。

⑮ まとめ

# 中国古典文学作品論特講

## Special Lecture in the Theory of Works of Chinese Classical Literature

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

### 授業の概要

六朝期を代表し、後世の文学にも大きな影響を与えた詞華集『文選』を、胡克家刻本の李善注テキストに基づいて読む。

前期は有職者向け夜間開講。後期は昼間開講。

**学習の目的** 中国の古典文学に対する理解を深める。

**学習の到達目標** 古典籍を読むための基本的な技法を習得する。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

- ① ガイダンス
- ②～⑭ 『文選』を、胡克家刻本の李善注テク

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力

**発展科目** 中国古典文学演習

**教科書** 授業中に資料を配布する。

**成績評価方法と基準** 日常の授業での担当による。

**オフィスアワー** 金曜日12:00～13:00 場所: 教養教育4号館4階 湯浅研究室

ストに基づいて読む。

- ⑮ まとめ

# 現代中国語演習 II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 中国語中級以上のレベルを持つ学生を対象とする。履修者は中国語の音声、文法、語彙等、与えられたテーマについて、中国語教育の場でどのように解釈し、教えるのかという観点から発表を行う。

**学習の目的** 中国語の音声、文法、語彙に対する深い理解を得る。中国語教授法の知識獲得。

**学習の到達目標** 中国語教授法を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的

思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 中国語初級レベルの学生は受講できない。中国語を初歩から学びたい学生は、共通教育の授業を聴講すること。

**教科書** 授業中に指示。

**成績評価方法と基準** 発表回数・発表内容及びレポート。

**オフィスアワー** 月から金の授業、会議時間以外。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

以下の計画に沿って15回の授業を進める。

第1回～第5回：現代中国語の発音教育

第6回～第10回：現代中国語の文法教育

第11回～第15回：現代中国語と日本語の比較を通じた教授法



# 中世近世日本文学作品論特講

## Special Lecture in Japanese Middle age and Early Modern Novels

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

**授業の概要** 近世の実録小説を読む。津藩で寛政におきた大規模一揆を扱った『伊賀越物語』を読む予定。

**学習の目的** 実録小説を通読することで、その特徴を理解する。

**学習の到達目標** 実録小説が歴史的事実とどのように違うかを検討することで、実録小説における虚構の意味を考える。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

一回 『伊賀越物語』とは。  
『伊賀越物語』は20巻よりなる。

#### 受講要件

日本古典文法および漢文法の基礎知識を有すること。  
くずし字の基礎的な読解力。

**成績評価方法と基準** 授業内での輪読の成果六割、期末レポート四割。

#### オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。  
ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

二回目以降、毎回1~2巻ずつ通読し、その特徴を話し合う。  
十五回 まとめ。

# 美術論特講Ⅱ

Art History

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

## 授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

## 学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

## 学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

『中国山水画の誕生(原題: The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、1995年、5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えてい

**発展科目** 美術論演習Ⅱ

**教科書** 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、青土社、1995年）

**成績評価方法と基準** 発表と積極性70%、レポート30%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

### その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

く形式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2～3回 中国絵画史入門

第4～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

# 美術論演習Ⅱ

Art History

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

## 授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

## 学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

## 学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 美術論特講Ⅱ

**教科書** 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、青土社、1995年）

**成績評価方法と基準** 発表と積極性70%、レポート30%。

**オフィスアワー** 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

## その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き、『中国山水画の誕生(原題：The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、1995年、5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えていく形

式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2回 中国絵画史の諸相

第3～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

# 米文学特講 II

## Seminar on American Literature II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 野田 明

**授業の概要** アメリカの短篇小説、特に19世紀中葉のアメリカン・ルネサンスと呼ばれる時代の作品を講読・研究する。

**学習の目的** 英文による批評・先行研究を踏まえつつ、作品に対して、自分なりの評価ができるようになる。

**学習の到達目標** 原文を正確に読むことができる。短篇小説のテーマと構成が理解できる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第5回：ポーの短篇

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

**教科書** 原書コピーを使用する。

**成績評価方法と基準** 授業での発表50%、期末試験50%。

**オフィスアワー** 月曜15:00～16:00、人文学部3階野田研究室

第6回～第10回：ホーソーンの短篇

第11回～第15回：メルヴィルの短篇

第16回：総括

# 西洋思想文化論特講 II

European Philosophy II

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

**授業の概要** 近代西洋哲学史の流れを、「観念」、「啓蒙」、「言語」、「認識論」から再考する。

**学習の目的** 西洋哲学における基本的な文献にあたることで、西洋哲学の基礎力を養うことができる。

**学習の到達目標** 西洋哲学における必須文献を原文で読解する。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

基礎的な文献を読解し、解説することで、西洋哲学における基本タームの理解を深める。それぞれの哲学的概念の成立の背景、歴史的

**受講要件** 哲学の基本知識を有すること

**予め履修が望ましい科目** 哲学、倫理学の科目

### 教科書

神野慧一郎『イデアの哲学史』（ミネルヴァ書房）

その他、開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** レポート、平常点から総合的に評価する。

### オフィスアワー

毎週水曜日12:00~13:00

あらかじめ、メールでアポイントをとること。

変遷も精査しながら、近代の西洋思想文化についての洞察力を養う。

# 西洋思想文化論演習 II

Seminar in European Philosophy II

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

**授業の概要** 18世紀の西洋哲学のオリジナルのテキストを講読することで、西洋近代哲学についての理解をさらに深める。

**学習の目的** 哲学のテキストを正確に読解・理解し、それを的確に発表する表現力を養う。

## 学習の到達目標

テキストに書かれた一文、一文の理解を掘り下げる。

読む量ではなく、読むく深さ>に重点を置き、テキストを理解する。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課

題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 哲学の基礎知識を有すること。

**予め履修が望ましい科目** 哲学、倫理学の科目

**教科書** テキストは開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 演習発表、レポートから総合的に評価する。

## オフィスアワー

毎週水曜日12:00~13:00

事前にアポイントをとること。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 西洋近代哲学のオリジナルのテキストを精読していく。担当者を決め、発表形

式で授業を進める。随時、参考文献にも目を通し、テキストの理解を深める。

# 英米言語文化論特講I UK and USA Language and Culture Special Lecture I

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

**授業の概要** 言語学のテキスト、論文、論考などを素材として、基本的な言語学の知識と論理的思考、英米の言語文化にかかわる内容を把握する力を養う。

**学習の目的** 論文読解を通して、言語学の考え方を学び、英語の語彙や文法の知識を深め、構文理解、英文構成と展開について、正確に理解し、解説することができる。

**学習の到達目標** 英文テキストの内容について、語彙及び文法を正確に理解し、主張されていることとその解釈について解説することができる。さらに英米の言語文化を理解することができる。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 受講生と相談の上決める。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 言語学の基本的な知識をもち、専攻していること。

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**教科書** 受講生を相談の上、決定する

**成績評価方法と基準** 授業での課題提出50%、レポート50%、計100%

**オフィスアワー** 火曜日3・4限

# 現代英語特講 II

学期 後期 開講時間 木 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉野 由起

## 授業の概要

イギリス・ロマン派詩研究 (William Wordsworth, Samuel Taylor Coleridge, Robert Burns)

ロマン派期第一世代とされる上記三詩人の作品研究を行う。

**学習の目的** 一次資料・二次資料の読解を通して作品の理解を深め作品分析の練習を重ねるとともに、先行研究の潮流を把握し、受講生各自の研究方法论を洗練する。上記を通してイギリス・ロマン派期文芸の特質を考察する。

**学習の到達目標** 原典の読解・分析を通して、受講生各自の論点に基づいた議論ができるようになる。作品および各自の関心に基づいて文献を収集・読解・要約し、作品・詩人・時代背景・先行研究に関する理解を深め、どのようなアプローチの研究が可能かを検証できるようになる。上記を通してイギリス・ロマン派詩のジャンルとしての理解を多

角的に深化する。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 「イギリス文学」もしくは地域を問わず「文学」、「英語」、「イギリス」に関連する諸科目

**発展科目** 「イギリス文学」もしくは地域を問わず「文学」、「英語」、「イギリス」に関連する諸科目

**教科書** 授業時に指示します

**成績評価方法と基準** 授業時のプレゼンテーション等50% レポート50%

**オフィスアワー** 月曜5, 6限 吉野研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回：イントロダクション

第2-4回：British Romanticism and Poetry: Terminology and Previous Studies

第5-9回：Wordsworth and Coleridge

第10-14回：Burns

第15回：まとめ



# 現代英語演習I

## Seminar on Contemporary English I

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

### 授業の概要

Early Modern Drama and the English Renaissance:

Christopher Marlow, Doctor Faustus及び関連の批評を読み、作品研究を行う。

### 学習の目的

一次資料・二次資料の読解を通して作品の理解を深め作品分析の練習を重ねるとともに、先行研究の潮流を把握し、受講生各自の研究方法を洗練する。イングリッシュ・ルネサンスの特質を考察する。

### 学習の到達目標

原典の読解を通して作品の理解を深めた上で、受講生各自の論点に基づいた議論ができるようになる。作品および各自の関心に基づいて文献を収集・読解・要約し、どのようなアプローチの研究が可能かを検証できるようになる。上記を通してイングリッシュ・ルネサンス及び同時代の演劇のジャンルとしての理解を多角的に深化する。

### 本学教育目標との関連

感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門

知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 予め履修が望ましい科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは  
地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

### 発展科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは  
地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

**教科書** 授業時に説明を行う。

### 成績評価方法と基準

授業時のプレゼンテーション等50% レポート50%

### オフィスアワー

月曜昼休み～5, 6限 吉野研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回：Introduction

第2回：Doctor Faustus: Act I

第3回：Criticism (1): Marlowe

第4回：Doctor Faustus: Act II

第5回：Doctor Faustus: Act III

第6回：Criticism (2): Doctor Faustus

第7回：Criticism (3): Doctor Faustus

第8回：Doctor Faustus: Act IV

第9回：Doctor Faustus: Act V

第10回：Criticism (4): Doctor Faustus

第11回：Criticism (5): English Renaissance

第12回：Criticism (6): English Renaissance

第13回：Criticism (7): Marlowe and Shakespeare

第15回：Review

# 英文学演習I

## Seminar on English Literature I

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

**授業の概要** Shakespeare's Plays and Criticism: シェイクスピアの劇作品 A Midsummer Nights Dream および Tempest を読解し作品研究を行う。

**学習の目的** 一次資料・二次資料の読解を通して作品の理解を深め作品分析の練習を重ねるとともに、先行研究の潮流を把握し、受講生各自の研究方法論を洗練する。上記を通して Shakespeare 作品および イングリッシュ・ルネサンスの特質を考察する。

**学習の到達目標** 原典の読解を通して作品の理解を深めた上で、受講生各自の論点に基づいた議論ができるようになる。作品および各自の関心に基づいて文献を収集・読解・要約し、どのようなアプローチの研究が可能かを検証できるようになる。上記を通して イギリス・ルネサンス期演劇のジャンルとしての理解を多角的に深化する。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 予め履修が望ましい科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは  
地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

### 発展科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは  
地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

**教科書** 授業時に説明を行う。

**成績評価方法と基準** 授業時のプレゼンテーション等50% レポート50%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回: Introduction

第2回: A Midsummer Nights Dream: Act I

第3回: Criticism (1)

第4回: A Midsummer Nights Dream: Act II

第5回: A Midsummer Nights Dream: Act III

第6回: A Midsummer Nights Dream: Act IV

第7回: A Midsummer Nights Dream: Act V

第8回: Criticism(2)

第9回: Tempest: Act I

第10回: Criticism (3)

第11回: Tempest: Act II

第12回: Tempest: Act III

第13回: Tempest: Act IV

第14回: Tempest: Act V

第15回: Criticism (4), Review

# 日本近世史料論演習

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 塚本明 (人文学部文化学科)

**授業の概要** 近世古文書学の観点から、史料の作成過程・機能・伝来について検討する。

**学習の目的** 古文書を解読し、内容を理解する。江戸時代の史料の特質を検討する。

## 学習の到達目標

古文書を解読し、その内容及び江戸時代の史料の特質を理解できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 崩し字の基礎的な解読能力を有すること。

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 1～15 近世の古文書の作成過程・機能・伝来についての検討。

# 文化地理学特講

## Special Lecture of Cultural Geography

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 中川 正

**授業の概要** 文化地理学の専門研究を行ううえで必要となる文献を読み、各自の研究テーマに適用する方法を実践的に検討する。

**学習の目的** 文化地理学の基礎的な方法論を文献を通して学び、自分の研究テーマに適用することができる。

**学習の到達目標** 感じる力: 20%、考える力: 30%、生きる力: 30%、コミュニケーション力: 20%

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 課題

探求力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 文化地理学特講

**教科書** 授業で指定する

**成績評価方法と基準** 授業における課題40%、報告40%、ディスカッションへの参加度20%

**オフィスアワー** 毎週木16:30~17:30 場所 教養教育2号館307研究室

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 受講生は、文化地理学の基礎文献を読み、ディスカッションを通して、実際に

研究を行ううえで必要になってくる専門的技術を身につける訓練をする。

# 文化空間論特講

Culture and Space

学期 後期 単位 2 年次 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森 正人

**授業の概要** 修士論文を書くために必要な文化理論、批判理論を講義する

**学習の目的** 英語圏における文化理論、批判理論の概要を理解する

**学習の到達目標** 英語圏における文化理論、批判理論を理解し、それを修士論文執筆に活かす

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力

**発展科目** 文化空間論演習

**教科書** 適宜指示する

**成績評価方法と基準** レポート100パーセント

**オフィスアワー** 火曜日12:00-13:00

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 1 はじめに
- 2 記号論
- 3 権力論
- 4 表象論
- 5 言説論
- 7 メディア論
- 8 観光表象論

- 9 イメージ表象論
- 10 物質論
- 11 視覚文化論
- 12 映像文化論
- 13 人種論
- 14 国民国家論
- 15 まとめ

# 中世近世日本文学論特講

## Special Lecture in Japanese Middle age and Early Modern Literature

学期 前期 開講時間 木 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

**授業の概要** 三重県にまつわる歴史的文学作品をとりあげ、その解説および読解を協力して行う。この授業内で附属図書館展示「伊勢志摩の歴史と文学」に関する解題作成や展示準備を行ってもらおう。題目は「特講」だが演習的要素の多い授業だと思って欲しい。

**学習の目的** 三重県の文学作品に関する基礎知識を身につける。また原資料を対象として、その内容を読み取る能力を身につける。

**学習の到達目標** 新出の資料を三重県の文学史のなかで位置づけられるだけの能力を身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力

**受講要件** 日本古典文法および漢文法の基礎知識を有すること。

**予め履修が望ましい科目** くずし字や書誌学を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

**成績評価方法と基準** 展示の解題・作業などの評価が3割。授業内小レポートで3割。期末レポート4割。

### オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 一回 導入、三重県の風土と旧国制・旧藩制
- 二～五回 伊勢志摩展の説明と準備など
- 六回 古代 万葉集に詠まれた伊勢
- 七回 中古 齋宮と『伊勢物語』
- 八回 中世 西行と参宮・参詣記
- 九回 近世 俳諧史1 芭蕉

- 十回 近世 俳諧史2 伊賀俳壇と伊勢俳壇
- 十一回 近世 和歌と国学1 本居宣長
- 十二回 近世 和歌と国学2 橘守部と黒澤翁満
- 十三回 近世 和歌と国学3 谷川士清
- 十四回 近世 漢詩・漢文 津坂東陽・斎藤拙堂 有造館門
- 十五回 近世 地芝居 伊勢古市・答志島・安乗

# 中世近世日本文学作品論特講

## Special Lecture in Japanese Middle age and Early Modern Novels

学期 後期 開講時間 木 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

**授業の概要** 近世の実録小説を読む。津藩で寛政におきた大規模一揆を扱った『伊賀越物語』を読む予定。

**学習の目的** 実録小説を通読することで、その特徴を理解する。

**学習の到達目標** 実録小説が歴史的事実とどのように違うかを検討することで、実録小説における虚構の意味を考える。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

一回 『伊賀越物語』とは。  
『伊賀越物語』は20巻よりなる。

#### 受講要件

日本古典文法および漢文法の基礎知識を有すること。  
くずし字の基礎的な読解力。

**成績評価方法と基準** 授業内での輪読の成果六割、期末レポート四割。

#### オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。  
ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

二回目以降、毎回1~2巻ずつ通読し、その特徴を話し合う。  
十五回 まとめ。

# 中国現代当代文学論特講

## Leadings of theory of contemporary and modern Chinese literature

**学期** 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義

**授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

**担当教員** 花尻奈緒子

**授業の概要** 中国語で書かれた論文の精読を通じて、中国現代・当代文学と伝統文化およびナショナリズムの関わりについて考察する。

**学習の目的** 中国文学における伝統文化・文学伝統を知り、自身の研究テーマに照らして問題性を汲み上げ、論じられるようになる。

**学習の到達目標** テクストの訳読と関連資料の補足などの作業を通じて、資料調査・プレゼンテーションの基本を習得する。

**本学教育目標との関連** 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討

論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 現代中国語で書かれた学術論文を、辞書を用いて訳読する能力があること。

**予め履修が望ましい科目** 中国現代当代作品論特講、中国現代当代作品論演習

**発展科目** 中国現代当代文学論演習

**教科書** 授業時に指示する。

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み 50%、レポート50%

**オフィスアワー** 在室時は可

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 中国語能力の確認、資料配付、進行の説明

第2～6回 中国現当代文学史と五四新文学伝統

第7～10回 左翼文学伝統と民間文芸

第11～14回 80～90年代における文学史叙述の  
変革

第15回 総括



# 中国現代当代文学論演習

Seminar of theory of contemporary and modern Chinese literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子

**授業の概要** 中国現当代文学・文学史に関わる中国語で書かれた論文の精読し、受講者が発表を行う。読む資料は受講者が自身の研究テーマにてらして選択する。

**学習の目的** 中国文学における伝統文化・文学伝統を知り、自身の研究テーマに照らして問題性を汲み上げ、論じられるようになる。

**学習の到達目標** テクストの訳読と関連資料の補足などの作業を通じて、資料調査・プレゼンテーションの基本を習得する。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総

合した力

**受講要件** 現代中国語で書かれた学術論文を、辞書を用いて訳読する能力があること。

**予め履修が望ましい科目** 中国現代当代文学論特講、中国現代当代作品論特講、中国現代当代作品論演習

**発展科目** 中国現代当代作品論特講、中国現代当代作品論演習

**教科書** 授業時に指示する。

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み 50%、発表50%

**オフィスアワー** 在室時は可

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 中国語能力の確認、進行の説明および参考資料の提示

第2～14回 担当者の発表と討論

第15回 総括

# 中国現代当代文学作品論演習

## Seminar of theory of works in contemporary and modern Chinese literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子

**授業の概要** 中国語で書かれた文学作品と関連資料を精読し、受講者が発表を行う。作品は受講者が自身の研究テーマにてらして選択する。

**学習の目的** 文化・社会・歴史的背景を参照して、作家による作品の意図を読み取ることができるようになる。現当代中国文学（史）の枠組について、自身のイメージを形成する。

**学習の到達目標** 中国文化および文学への理解を深め、中国語による表現を中国語のまま理解できるようになる。作品への自身の見解を、自身の研究テーマに即して論じられるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受

発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 現代中国語で書かれた作品・学術論文を、辞書を用いて訳読する能力があること。

**予め履修が望ましい科目** 中国現代当代文学論特講、中国現代当代文学論演習、中国現代当代作品論特講

**発展科目** 中国現代当代文学論特講、中国現代当代文学論演習

**教科書** 授業時に指示する。

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み 50%、発表50%

**オフィスアワー** 在室時は可

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 中国語能力の確認、進行の説明および参考資料の提示

第2～14回 担当者の発表と討論

第15回 総括

# 中国現代当代文学作品論特講

## Leadings of theory of works in contemporary and modern Chinese literature

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子

**授業の概要** 中国語で書かれた現当代文学作品と関連資料を精読し、作品の背景についての検討を通じて、中国文学（史）の枠組を考察する。作品の選択は教員によるが、受講者が持ち込むことも可。

**学習の目的** 文化・社会・歴史的背景を参照して、作家による作品の意図を読み取ることができるようになる。現当代中国文学（史）の枠組について、自身のイメージを形成する。

**学習の到達目標** 中国文化および文学への理解を深め、中国語による表現を中国語のまま理解できるようになる。作品への自身の見解を、自身の研究テーマに即して論じられるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力,

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 中国語能力の確認、進行の説明および参考資料の提示

幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 現代中国語で書かれた作品・学術論文を、辞書を用いて訳読する能力があること。

**予め履修が望ましい科目** 中国現代当代文学論特講、中国現代当代文学論演習、中国現代当代作品論演習

**発展科目** 中国現代当代文学論特講、中国現代当代文学論演習、中国現代当代作品論演習

**教科書** 授業時に指示する。

**成績評価方法と基準** 受講時の取り組み50%、レポート50%

**オフィスアワー** 在室時は可

第2～14回 作品と関連資料の精読および討論  
第15回 総括

# 現代英語演習 III

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

**授業の概要** 現代英語の音声特徴や音声言語と音楽との関係について英語で書かれた文献を読み、英語の特質について考察する。

**学習の目的** 英語音声学および音声言語と音楽に関する文献(英文)の読解力を高める。

**学習の到達目標** 現代英語の音声体系および音声学の隣接分野について理解を深める。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力,

専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

**予め履修が望ましい科目** 言語学について基本的な概念をすでに学んでいること。

**教科書** プリントを使用します。

**成績評価方法と基準** 授業中の発表と議論 80%、レポート20%。合計60%以上で合格。

**オフィスアワー** 水曜10:30~11:30 研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

[この授業で取り上げる項目]

調音音声学的記述および音響音声学的分析。

# 社会地理学特講

Seminar in society and space

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 北川 真也 (人文学部)

**授業の概要** 修士論文の執筆へ向けて、問題意識を深め、理論的視座を獲得するために、文献を講読する。

**学習の目的** グローバル化時代の社会空間は均質化され統合されるどころか、むしろ様々な異質性によって分断されているように見える。昨今の人文地理学の様々な議論、またポストコロナル研究や移動研究という研究潮流を参照することで、こうした状況が出現している要因や過程について検討・理解する。

**学習の到達目標** 一定水準の修士論文を作成するために、批判的な問題意識・理論・方法論を身につけること。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 毎回テキストを読み進め、そこから討議を行う。各回の担当者はレジュメを作

識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

## 教科書

デヴィッド・ハーヴェイ著、大屋定晴・森田成也・中村好孝・岩崎明子訳、『コスモポリタニズム——自由と変革の地理学』作品社、2013。

サンドロ・メッザードラ著、北川真也訳、『逃走の権利——移民、シティズンシップ、グローバル化』人文書院、2015。  
他に英語の論文も読む。

**成績評価方法と基準** 授業での報告50% レポート50%

**オフィスアワー** 木曜日 12時から13時 研究室

成してくること。

# 社会地理学演習

Seminar in society and space

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 北川 真也 (人文学部)

**授業の概要** 修士論文の執筆へ向けて、問題意識を深め、理論的視座を獲得するために、文献を講読する。

**学習の目的** グローバル化時代の社会空間は均質化され統合されるどころか、むしろ様々な異質性によって分断されているように見える。昨今の人文地理学の様々な議論、また都市研究の様々な研究潮流を参照することで、こうした状況が出現している要因や過程について検討・理解する。

**学習の到達目標** 一定水準の修士論文を作成するために、批判的な問題意識・理論・方法論を身につけること。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 毎回テキストを読み進め、そこから討議を行う。各回の担当者はレジュメを作

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

## 教科書

ニール・スミス著、原口剛訳、『ジェントリフィケーションと報復都市——新たなる都市のフロンティア』ミネルヴァ書房、2014。

酒井隆史『通天閣——日本資本主義発達史』青土社、2011。

他に英語の論文も読む。

**成績評価方法と基準** 授業での報告 50% レポート 50%

**オフィスアワー** 木曜日 12時から13時 研究室

成してくること。

# ドイツ語学特講

German Linguistics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** Humboldt, Buehler, Wittgenstein, Morrisなどのテキストを読みながら、記号とは何か、言語とは何かについて考える。

**学習の目的** さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解できるようになる。

## 学習の到達目標

言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理

的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

## 受講要件

言語学の基礎的知識があること。  
ドイツ語の基本的な読解力があること。

**発展科目** ドイツ語学演習

**教科書** Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft.Ein Reader.2., verbesserte Auflage.

**成績評価方法と基準** 授業中の翻訳50% レポート50%計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎 教養教育機構長室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 言語学の基礎概念

第2回～第3回 Sprachtheorien.Einleitung.

第4回～第5回 Humboldt: Einleitung in das gesamte Sprachstudium.

第6回～第10回 Buehler: Sprachtheorie.

第11回～第13回 Wittgenstein: Philosophische Untersuchungen.

第14回～第15回 Morris: Grundlagen der Zeichentheorie: Semiotik.

# ドイツ語学演習

Seminar in German Linguistics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

**授業の概要** Trier, Bierwisch, Wunderlich, Fregeなどのテキストを読みながら、意味とは何かについて考える。

**学習の目的** さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解し、それについて批判的意見を述べるができるようになる。

## 学習の到達目標

学習の到達目標 言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

言語学者の理論について意見を述べるができるようになる。

**本学教育目標との関連** 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

## 受講要件

ドイツ語の読解力

言語学の基礎知識

**予め履修が望ましい科目** ドイツ語学特講

**教科書** Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft.Ein Reader.2., verbesserte Auflage.

**成績評価方法と基準** 授業中の翻訳50% レポート50% 計100%。(合計が60%以上で合格)

**オフィスアワー** 毎週火曜日7・8限 場所: 教養教育校舎 教養教育機構長室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 意味論の基礎概念

第2回～第3回 Bedeutung, Einleitung.

第4回～第6回 Trier: Sprachliche Felder.

第7回～第10回 Bierwisch: Strukturelle Seman-

tik.

第11回～第13回 Wunderlich: Grundlagen der Linguistik. Zur Explikation von Sinnrelationen.

第14回～第15回 Frege: Einleitung in die Logik.



# 地域構造論演習

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏

**授業の概要** 人文地理学的な視点より、農山村地域を対象として研究をまとめるための方法論を学ぶ。学術論文を読み、批判的に検討することにより、調査研究の発想、企画、実行、集約、執筆という一連の流れ（プロセス）を学ぶ。

**学習の目的** 人文地理学的な農山村地地域調査、フィールドワークの手法を身につける。そして、自分の研究テーマにあわせて、具体的な調査を企画できるようになる。

**学習の到達目標** 人文地理学的な農山村地域

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 農山村地域の研究に関する文献・論文の検討

第2回～第14回 学術論文の批判的検討・・・担

調査・研究に必要な基礎的な能力、心構えを身につける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**成績評価方法と基準** 発表内容、参加態度、レポートの総合評価

**オフィスアワー** 質問は随時受け付ける。

当を決めて受講生が内容を紹介する。質疑応答を含む。

第15回 レポートの発表

# 社会人類学特講

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎

**授業の概要** Bruno Latour (2005) Reassembling the Social.を購読し、Actor Network Theory (ANT)について学ぶ。

**学習の目的** B・ラトゥール、M・カロンらによって提唱されたANTは、近年の文化人類学において極めてよく用いられる記述、分析の方法である。このANTの基本的な考え方を学ぶ。

**学習の到達目標** ANTの理論を理解し、ANTを用いて自分が関心を持っている事例、現象を説明、記述できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 毎回、指定の文献を一章ずつ読み進めます。受講者が交替で抄訳を作成し、内

**受講要件** 構造主義の基本的な考え方を押えておくとう理解がすすみやすいだろう。

### 教科書

Bruno Latour (2005) "Reassembling the Social: An Introduction to Actor-Network-Theory."

受講者は各自で入手しておくこと

**成績評価方法と基準** 授業内での発表、発言 (50%)、期末レポート (50%)

### オフィスアワー

- ・火・水・木の昼休みから午後は研究室にいる確率が高いです。
- ・その他、研究室に在室しているときはいつでも訪ねてきてもらって結構です。
- ・確実につかまえたいときは事前にメールでアポイントをとってください。

容を発表してから、その内容について議論します。

# 社会人類学演習

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎

**授業の概要** Chris Hann and Keith Hart(2011) "Economic Anthropology."を購読する。

**学習の目的** 経済人類学の教科書は数多く出されているが、2011年に出版されたHannとHartの手による同書は近年のもっとも優れたものである。「経済」と「社会」という領域がいかにか創出され、分離され、再び複雑に組み合わされていくのかについて、アリストテレスの時代から現代のグローバル化したネット社会まで見渡して議論されている。同書を購読し、経済人類学の基本的な考え方を学ぶ。

**学習の到達目標** 経済人類学の基本的な考え方を理解し、その理論、概念枠組みを用いて、自分の研究対象を分析、記述できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、コミュニケーション力を総合した

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 毎回、指定の文献を一章ずつ読み進めます。受講者が交替で訳を作成し、内容

力

### 受講要件

カール・ポランニーの経済人類学の基本的な考え方を押えておくことと理解がすみやすいだろう。

「人間の経済Ⅰ、Ⅱ」など

### 教科書

Chris Hann and Keith Hart(2011) "Economic Anthropology."

受講者は各自で入手しておくこと

**成績評価方法と基準** 授業内での発表、発言(50%)、期末レポート(50%)

### オフィスアワー

・火・水・木の昼休みから午後は研究室にいる確率が高いです。

・その他、研究室に在室しているときはいつでも訪ねてきてもらって結構です。

・確実につかまえたいときは事前にメールでアポイントをとってください。

を発表してから、その内容について議論します。

# 民族学演習

Ethnology Seminar

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎

**授業の概要** 人間は周囲の環境とどのように関わるのか?さまざまな考え方があろうが、たとえば手で周囲にあるモノに触れるということも、世界との接触の一つの経路であると言えるだろう。この演習では、このモノを手に触れ、それを認識する際に発生する「数える」という出来事について考えていきたい。

**学習の目的** 周囲の環境やモノに手を触れ、それを数えるということを主題化した二つの文献を精読する。一つはアフリカの緒社会における数え方について論じた ethno-mathematics の論考、もう一つがパプアニューギニア高地における数量認識についての民族誌である。

**学習の到達目標** 人間がモノに手で触れ、その数を数えるということによってどのように周囲の環境を、自らの世界認識の中に整序し、その中で生きていくのかということについて理解出来る。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 毎週1-2章ずつ、文献を精読していく。発表担当者は、担当部分について演習の二日前までに翻訳を作成し、受講者にメール

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

### 教科書

Zaslavsky, C.(1999) "Africa Counts: Number and Pattern in African Cultures."

Mimica, J.(1988) "Intimations of Infinity: The Cultural Meanings of the Iqwaye Counting and Number Systems."

以上の二冊を受講者は入手しておくこと。

**成績評価方法と基準** 授業内での報告50%、  
期末レポート50%

**オフィスアワー** 相談などがある際はメールでアポイントをとってください

**その他** 受け身の姿勢ではなく、この授業で何を学びたいのかを考えて主体的に授業運営に関わってください

等で配付すること。講義当日は担当者に内容の解説してもらい、それをもとに討論を行なう。

# 環境地理学演習

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 朴 恵淑

**授業の概要** 人間と自然との関係を追求する地理学において、近年の地球温暖化に代表される地球規模の環境問題からゴミ問題など地域や身近な環境問題への対策の有効なツールとして、環境地理学が注目されている。大量生産・消費・廃棄といった20世紀型価値観から、適正生産・最小消費・ゴミゼロといった21世紀型価値観を転換するには、何が必要なのか、私たちの役割は何かを探る。

## 学習の到達目標

- ・環境地理学の本質と役割を理解する。
- ・環境配慮型ライフスタイルの確立。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発

信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** [教科書] 朴 恵淑・野中健一著「環境地理学の視座」、2003年、昭和

**成績評価方法と基準** 中間レポート(40%)、最終レポート(50%)を主な評価の方法とし、出席率や授業態度(10%)も考慮する。

## オフィスアワー

質問や相談は常に受け付ける。  
研究室は、教養教育2号館403号室。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1～5回 環境地理学の役割について調査し、発表する。  
第6～10回 身近な環境問題について調査し、発

表する。  
第11～15回 実践的環境教育のあり方について調査し、発表する。

# 環境地理学特講

## Lecture of Environmental Geography

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 朴 恵淑

**授業の概要** 人間と自然との関係性を追求する地理学において、近年の地球温暖化に代表される地球規模の環境問題からゴミ問題など地域や身近な環境問題への対策の有効なツールとして、環境地理学が注目されている。大量生産・消費・廃棄といった20世紀型価値観から、適正生産・最小消費・ゴミゼロといった21世紀型価値観を転換するには、何が必要なのか、私たちの役割は何かを探る。

### 学習の到達目標

- ・環境地理学の本質と役割を理解する。
- ・環境配慮型ライフスタイルの確立。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調

性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** [教科書] 朴 恵淑・野中健一著「環境地理学の視座」、2003年、昭和

**成績評価方法と基準** 中間レポート(40%)、最終レポート(50%)を主な評価の方法とし、出席率や授業態度(10%)も考慮する。

### オフィスアワー

質問や相談は常に受け付ける。  
研究室は、教養教育2号館403号室。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

[授業計画]

- 第1回 環境地理学とは何か
- 第2回 地球温暖化問題の科学的知見・影響
- 第3回 地球温暖化問題の対策・国際環境協力
- 第4回 京都議定書の意義
- 第5回 生物多様性、砂漠化のメカニズム・影響・対策
- 第6回 アジアの大気汚染・酸性雨・黄砂のメカニズム・影響
- 第7回 アジアの国際環境協力

第8回 日本の4大公害（四日市公害と四日市学）

第9回 エネルギーと環境問題

第10回 ゴミゼロエミッション

第11回 循環型社会の形成

第12回 認識共同体としての環境ネットワーク

第13回 国連持続可能な開発のための教育(ESD)

第14回 環境資格支援教育プログラムの開発・実践

第15回 総括

# 近代現代日本文学論特講

the intensive study of the modern Japanese literature

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 坂堅太

**授業の概要** 1950年代の安部公房の作品を購入しながら戦後日本における文学と政治の問題を考える。

**学習の目的** 日本の近代文学を研究する基本的な手法と視点を身につける。

**学習の到達目標** 日本の近代文学を研究する基本的な手法と視点を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 別途指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する。

**オフィスアワー** 毎週火曜日12～13時、場所：研究室

**その他** 夜間は、後期月11～12限に開講。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 イントロダクション（問題関心の紹介、発表分担の決定など）

第2回～14回 受講者による研究発表  
第15回 まとめ

# 近代現代日本文学作品論特講

the intensive study of the works of the modern Japanese literature

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 坂堅太

**授業の概要** 1950年代の安部公房の作品を講読しながら戦後日本における文学と政治の問題を考える。

**学習の目的** 日本近代文学を研究する基本的な手法と知識を身につける。

**学習の到達目標** 日本近代文学を研究する基本的な手法と知識を身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 専門知識・技術, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件**

**授業計画・学習の内容**

---

**学習内容**

第1回 イントロダクション (問題関心の紹介、発表分担の決定など)

特になし。

**予め履修が望ましい科目**

特になし。

**発展科目**

特になし。

**教科書** 別途指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する。

**オフィスアワー** 毎週火曜日12～13時、場所：研究室

第2回～14回 受講者による研究発表

第15回 まとめ



# 上代中古日本文学論特講 Special Lecture in Ancient Japanese literature

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 村口 進介 (人文学部)

**授業の概要** 修士論文作成に資するような資料、先行論文の講読。

**学習の目的** 自ら問題を発見・設定し、厳密な本文読解及び諸資料の援用により問題を解決する能力を養う。

**学習の到達目標** 修士論文作成にあたり必要な読解力、論理的思考力、問題解決力を研く。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 イントロダクション、発表分担の決定など

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

**教科書** 初回に学生と相談のうえ決定。

**成績評価方法と基準** 演習での発表で60%。  
期末レポートで40%。

**オフィスアワー** 毎週火曜日の昼休み。

**その他** 夜間は後期水曜11-12限に開講。

第2回～14回 受講者による研究発表  
第15回 まとめ

# 上代中古日本文学作品論特講

## Special Lecture in Ancient Japanese literature works

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 村口 進介 (人文学部)

**授業の概要** 中古文学を読む。

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力

**学習の目的** 自ら問題を発見・設定し、厳密な本文読解及び諸資料の援用により問題を解決する能力を養う。

**教科書** 初回到学生と相談のうえ決定。

**学習の到達目標** 読解力及び自ら問題点を発見し解決する力を研く。

**成績評価方法と基準** 演習での発表で60%。  
期末レポートで40%。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

**オフィスアワー** 毎週火曜日の昼休み。

**その他** 夜間は前期水曜11-12限に開講。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 インTRODクッション、発表分担の決定など

第2回～14回 受講者による研究発表  
第15回 まとめ

# 犯罪総論特講

Criminal Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 田中亜紀子

**授業の概要** 刑事法における主要論点を確認し、その問題点を検討する。具体的な内容は、受講者と相談の上、決定する。過去の実施例としては、履修者（2名）が自らの修士論文と関連した刑事法上の先行研究に関する報告を交互に行い、その報告に基づいて質疑応答を行った。

## 学習の目的

刑事法について、大学院生として学部生よりもさらに詳しい知識を身につけること。刑事法に関する論文を読み解き、それに基づいて報告を行う能力を身に付けること。また、最近の刑事法の問題点を理解し、当該問題につき自らの意見を形成すること。

**学習の到達目標** 刑事法において、選択したテーマについて、自ら主体的に文献などを調査・検討し、基本的な知識を身につけること、そして得た知識を他者に伝えることができること。

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 学習内容ならびに課題に関する詳細は、最初の講義時に受講者と相談の上、決

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

**受講要件** 刑法総論、刑法各論を履修済であること

**予め履修が望ましい科目** 刑法を中心とする刑事諸法

**発展科目** 犯罪総論演習、地域社会と犯罪特講、刑事手続と人権特講、犯罪報道と人権特講等

## 教科書

最近の刑事法関係論文をとりあげるを予定  
\*但し、最初の講義時に受講者と相談の上、決定する

**成績評価方法と基準** 報告ならびに議論への参加状況により評価する

**オフィスアワー** 火曜日 14:40-16:10。その他の詳細は第1回目の授業時に説明する

定する

# 刑事手続と人権特講

Criminal Procedure

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤 睦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 刑事訴訟法及び憲法上の基本的理念に照らし合わせながら、犯罪及び刑事司法を取り巻く現代的課題につき個別具体的に検討する。検討の対象は、刑事訴訟法の他、少年法、刑事政策等の各分野に関係する問題を含む。

**学習の目的** 刑事法を取り巻く現状につき、資料等の科学的分析に基づいて正しく理解するとともに、現代的課題について、今本当に論じるべきことは何か、目指すべき正義とは何かを突き止める力を付ける

## 学習の到達目標

刑事訴訟法、少年法、刑事政策等の各分野における近時の課題について、専門的知識を得る。  
現代社会についての刑事法的な考え方と、法

的な意見表明の方法を学ぶ。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** 適宜指示する。

**成績評価方法と基準** 報告内容50%、講義時の受講態度と授業への貢献度50%

## オフィスアワー

前期のみ

毎週金曜日5~6時限 人文学部4階伊藤研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

刑事訴訟法及び少年法、刑事政策などの分野にかかわる最近の重要書籍及び参考書を取り上げ、検討する。各回とも、受講生に報告を担当してもらう。

1回目 ガイドンス及び報告者順序等の決定

2~7回目 被害者の手続参加、裁判員制度、公判前整理手続などにまつわる刑事訴訟法の重大課題についての検討

8~12回目 改正少年法の問題点など、少年法にまつわる重大課題についての検討

13~15回目 麻薬犯罪者の処遇、触法精神障害者の処遇等、刑事政策にまつわる重大課題の検討

なお、検討の順序や検討内容については、開講後に受講生との協議の上変更する可能性がある

# 刑事手続と人権演習

Seminar on Criminal Procedure

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤睦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 刑事手続を取り巻く現代的課題につき、受講生による報告と討論を通じて具体的に検討していく。

**学習の目的** 刑事手続法を取り巻く現状につき正しく理解し、現代的課題に潜む議論の歪みや問題性を把握することができるようになる。また、自分の関心に沿って、議論をまとめ、刑事訴訟法の基本理念や憲法上の理念を用いながら、自分なりの見解を表明する力が身につく。

## 学習の到達目標

刑事手続に関する近時の最新の議論について、専門的知識を得る。  
犯罪報道等に惑わされることのない、刑事法の思考力が身に付く。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイダンス及び報告者の決定  
第2～5回 刑事手続と裁判員制度等についての

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** 各回のテーマに合わせて授業の中で指示する。

**成績評価方法と基準** 報告内容50%、討論内容及び受講態度50%

### オフィスアワー

前期のみ  
毎週金曜日5～6時限 人文学部伊藤研究室

基本書の輪読

第6～15回 刑事手続に関する文献をもとに、任意のテーマで受講者各自に報告してもらう。

# 法哲学特講

Legal Philosophy

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

**授業の概要** 法哲学の文献や関連する文献の講読を通じて、法についてのいろいろな考え方に触れ、現代的課題を発見するとともに、それらの背景や前提となる諸理論を学ぶ。講読する文献は、受講者として相談して決めるが、たとえば、H・L・A・ハート『法の概念〔第3版〕』（ちくま学芸文庫、2014年）などを取り上げたい。

**学習の目的** 法についての伝統的な考え方や最近の傾向、法哲学などに関する現代的な諸問題について理解を深めることができる。

**学習の到達目標** 法の捉え方を切り口にして、現代の諸問題について、それらの背景や解決にむけての理論的糸口などが理解できるようになる。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回～第4回 法についての伝統的な考え方

第5回～第7回 法理論の最近の傾向

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** さしあたり、H・L・A・ハート『法の概念〔第3版〕』（ちくま学芸文庫、2014年）。

**成績評価方法と基準** 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

### オフィスアワー

毎週金曜日 19:40～21:10 高橋研究室

（事前に、htaka アットマーク human.mie-u.ac.jpまでメールして下さい。）

第8回～第15回 現代の法理論上の諸問題

ただし、参加者の意向や問題関心に依じて内容等を変更することがある。

# 法哲学演習

Seminar in Legal Philosophy

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

**授業の概要** 法哲学の論文を執筆するために必要な基礎知識を習得し、またその前提となる法哲学のさまざまな文献を講読し、最終的に論文執筆を目指す。

**学習の目的** 法学などについての知識や理解を駆使しながら、法哲学の論文を執筆することができる。

**学習の到達目標** 法哲学の論文を執筆するために必要な基礎知識が習得できる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題

解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 法哲学特講

**教科書** 適宜指示する。

**成績評価方法と基準** 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

**オフィスアワー**

毎週月曜日 10:30~12:00、高橋研究室  
(事前に、htaka アットマーク human.mie-u.ac.jpまでメールして下さい。)

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回~第3回 法哲学論文の書き方について

第4回~第10回 モデルとしての法哲学論文を読

む

第11回~第15回 法哲学論文を書く

ただし、参加者の意向や問題関心に依じて内容等を変更することがある。

# 地域社会と法倫理特講

Topics in Community and Legal Ethics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

**授業の概要** 地域社会における諸問題について参加者が課題を持ち寄り、それに対して法哲学的な検討を加えるための手掛かりとなるような関連する法哲学の文献を講読し、課題の解決を模索する。今年度は特に、共同体ということを中心に据えて、テキストを講読し、関連する諸問題を取り上げたい。

**学習の目的** 地域社会と法倫理に関する諸問題について、法哲学的な文献に親しみながら、原理的・哲学的な角度からの理解を深め、その解決の手がかりを得ることができる。

**学習の到達目標** 地域社会に関連する諸問題を取り上げて基本的な文献について理解を深めることができる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モ

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回～第3回 地域社会と法倫理に関する課題の設定

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 法哲学特講

**教科書** さしあたり、谷口功一『ショッピングモールの法哲学——市場、共同体、そして徳』（白水社、2015年）。

**成績評価方法と基準** 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

### オフィスアワー

毎週月曜日10:30～12:00、高橋研究室

(事前に、htaka アットマーク human.mie-u.ac.jpまでメールして下さい。)

第4回～第15回 関連する文献の講読

ただし、参加者の意向や問題関心に応じて内容等を変更することがある。



# 政治思想史特講

History of Political Thought

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野 雅子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 本授業では、受講生の関心に従って、ヨーロッパ政治思想史が取りあげてきたテーマ（民主主義、正義、権力、平等など）から一つを選び、そのテーマに関して政治思想史の中ではどのように扱われ、どう議論されてきたのかを学習します。

**学習の目的** 受講生の関心に添って設定したテーマに関して基本的な理解を得ることが学習の目的です。

**学習の到達目標** 受講生の関心に添って設定したテーマについての理解を深めることにより、現代において政治思想が取り組むべき課題を発見していく能力を養うことが学習の到達目標です。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 受講生の関心に応じて、いくつかの文献を選び、講読していきます。具体的な授業計画については、受講生の数によって変

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特にありません。

**予め履修が望ましい科目** 特にありません。

**発展科目** 特にありません。

**教科書** 政治思想史の文献のなかから、受講生の問題意識にあったものを選択します。第1回目の授業時に、講読する文献を決定します。

**成績評価方法と基準** 報告の内容や質疑応答などの受講態度によって評価します。(100%)

**オフィスアワー** 火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟3階麻野研究室です。その他必要な場合はメール等で連絡を下されば、迅速に対応します。

わってくるので、第1回の授業時に説明します。

# 政治思想史演習

History of Political Thought

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野 雅子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 本授業は、政治思想史についての基本的な知識を持つ受講生が、より深く政治思想を学ぶためのものです。

**学習の目的** 政治思想史に対する十分な知識と理解を得ることが目的です。

**学習の到達目標** 政治思想史に対する十分な知識と理解を得ることで、現代において政治思想が取り組むべき課題を発見する能力を養うとともに、それらの課題に対する自分自身の見解を確立することが到達目標です。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 受講生の関心に応じて、いくつかの文献を選び、講読していきます。具体的な授

**受講要件** 政治思想史を専攻する院生であることが受講要件です。

**予め履修が望ましい科目** 特にありません。

**発展科目** 特にありません。

**教科書** 受講生との相談の上、第1回授業時に決定します。

**成績評価方法と基準** 報告の内容や質疑応答などの受講態度によって評価します。(100%)

**オフィスアワー** 火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟3階麻野研究室です。その他必要な場合はメール等で連絡を下されば、迅速に対応します。

業計画については、受講生と相談の上、第1回の授業時に決定し説明します。

# 公共政策の政治哲学特講

Political Philosophy of Public Policy

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野 雅子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 本授業は、公共哲学の重要なテーマである正義や公共性、平等や自由などに関する文献を講読し、今必要とされる公共哲学とは何かについて考えるものです。

**学習の目的** 公共哲学（あるいは公共性論）の基本的な考え方を習得するのが学習の目的です。

**学習の到達目標** 公共哲学（あるいは正義論）の考え方の学習を通じて、現在の日本社会における望ましい「公」あるいは「公共」のあり方を構想する能力を身につけることが学習の到達目標です。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 具体的な授業計画については、受講生の数によって変わってくるので、第一回の授業時に説明します。あらかじめ教科書の範囲を指定しておいて、その範囲について、

**受講要件** 特にありません。

**予め履修が望ましい科目** 特にありません。

**発展科目** 特にありません。

**教科書** 桂木隆夫『公共哲学とはなんだろうー民主主義と市場の新しい見方』（勁草書房）、斉藤純一『政治と複数性ー民主的な公共性にむけて』（岩波書店）、山岡龍一・斉藤純一『公共哲学』（日本放送出版協会）など、公共哲学や公共性に関する文献の中から、受講生の問題関心に応じて選択します。

**成績評価方法と基準** 報告の内容や質疑応答などの受講態度によって評価します。（100%）

**オフィスアワー** 毎週火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟3階麻野研究室です。その他必要な場合はメール等で連絡を下されば、迅速に対応します。

報告者が要点の分かるレジュメを作成し、要点について説明したのち、受講生全員で内容について意見を述べ合い、検討していきます。

# 地方自治論特講

Local Government

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地方自治の基礎理論について、公法学の見地から検討を行う。

**学習の目的** 地方自治の基礎理論についての理解をより確かなものにするにより、地方自治・地方分権をめぐる今後の動向を冷静にみつめる視点を確立することをめざす。

## 学習の到達目標

- ・地方自治の基礎理論に関して、批判的に検証できるようになる。
- ・地方自治の基礎理論についての理解を基に、近年の地方自治・地方分権をめぐる動向を評価できるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 地方自治の基礎理論にかかわる公法学の諸論稿を素材として、報告・議論を行

思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 適時紹介する。

**成績評価方法と基準** 講義にのぞむ姿勢を評価する。

## オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

う。具体的なことは、受講者の希望を尊重しつつ決定したい。

# 地方自治論演習

Seminar in Local Government

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地方自治の今日的なテーマをとりあげて、主として公法学の観点から、報告および議論を行う。

**学習の目的** 地方自治の主要論点についての理解を深めるとともに、研究上の視点を確立することをめざす。

## 学習の到達目標

- ・地方自治のあるべき姿を主体的に考え、自らの見解を論理的・体系的に述べられるようになる。
- ・論文作成の技法を学び取り、それを自らの論文執筆において実践する。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的

思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 適時紹介する。

**成績評価方法と基準** 演習にのぞむ姿勢を評価する。

## オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

おおむね次の項目を取り扱う予定であるが、具体的なことは、受講者の希望を尊重しつつ決定したい。

1. 修士論文をはじめとする論文ないしはレポート等の執筆指導
2. 地方自治の主要論点に関する研究

たとえば、

- ・地方自治の本旨
  - ・大都市制度
  - ・住民参加
  - ・条例制定権
  - ・自治体の法政策
- など

# 地方分権論特講

Decentralization

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 今後のあるべき自治体の政策活動について、政策法務論の視点から検討する。

**学習の目的** 地方分権改革（および地域主権改革）の成果をふまえ、自治体独自の政策活動を支える法理論および法制度について考察する。

## 学習の到達目標

- ・地方分権改革（および地域主権改革）の到達点について、具体的事例に則して検証できるようにする。
- ・自治体の政策活動に関する今後の展望を、現状と課題をふまえながら、法的視点から論理的に述べられるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** これまでの地方分権改革（および地域主権改革）の成果を基に、地域特性に適合した自治体独自の政策活動の展開が期待されている。そこで、本講義では、その活動を

論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 適時紹介する。

**成績評価方法と基準** 講義にのぞむ姿勢を評価する。

## オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

サポートするものとしての自治体政策法務について、重要論点をとりあげて検討することにした。

# 行政学特講

Public Administration (Lecture)

学期 前期 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 樹神 成 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 道州制についての議論を検討する

をつける

**学習の目的** 社会科学（法律、政治、経済、経営）の諸問題に関して、幅広い視野にもとづく確かな専門知識と深い学識を備えている。

**予め履修が望ましい科目** 政治学、憲法、行政法および地方自治法

**教科書** 検討する文献を予め指示する

**成績評価方法と基準** 出席と発表

**学習の到達目標** 道州制論について分析能力

**オフィスアワー** 連絡により随時

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1.戦前の道州制論
- 2.戦後の地方自治改革と道州制
- 3.戦後地方自治の定着と広域行政論
- 4.自治省と府県重視

- 5.四全総と圏域論
- 6.地方分権と広域行政
- 7.道州制の具体案
- 8.道州制の課題

# 行政学演習

Public Administration (Seminar)

学期 後期 単位 2 授業の方法 演習

担当教員 樹神 成 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 統治機構について基本的な知識を身につける

**学習の到達目標** 統治機構について基本的知識を身につける

**学習の目的** 社会科学（法律、政治、経済、経営）の諸問題に関して、幅広い視野にもとづく確かな専門知識と深い学識を備えている。

**予め履修が望ましい科目** 政治学、憲法、行政法、地方自治法

**教科書** 山口二郎『内閣制度』他

**成績評価方法と基準** 出席と発表

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 議院内閣制についての政治学、行政学および憲法の基本文献・最新成果を読む



# 地方分権と自治体行政特講

decentralization and local government

学期 後期 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 樹神 成 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 戦後日本の行政史を検討する

**学習の到達目標** 戦後日本の行政史について  
分析能力を身につける

**学習の目的** 社会科学（法律、政治、経済、  
経営）の諸問題に関して、幅広い視野にもと  
づく確かな専門知識と深い学識を備えてい  
る。

**教科書** 予め文献を指示する

**成績評価方法と基準** 出席と発表

**オフィスアワー** 連絡により随時

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 金融行政と国土計画行政を取り上  
げ、そこにおける、政官財の構造を行政史と

いう視点から分析する

# 行政法特講

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 2004年の行政訴訟制度改革のあと、約10年が経過した。その間、日本の行政法は判例を通じてどのように変容を遂げてきているのか。その後、行政上の救済法理はいかように発展しているのか。行政法判例の動向を通じて、行政裁判の変容およびその先にある行政法というものの変容について検討する。

**学習の目的** 判例の検討を通じて、行政活動における公共性の実現とその方法について分析・検討する力を身につける。

**学習の到達目標** 行政の役割とそのもとの救済制度の意義について、法的に理解することができるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベー

ション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** その他 (随時指定する)

**成績評価方法と基準** 報告の内容および発言状況などを見て総合的に評価する。

**オフィスアワー** 第1回目の授業時に、情報提供します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1 ゼミ運営方針・検討内容、分担の決定
- 2 行政争訟制度について
- 3 行政不服審査制度について
- 4 行政事件訴訟法制度について
- 5 論点についての検討 不服申立 (1)
- 6 論点についての検討 不服申立 (2)
- 7 論点についての検討 処分性

- 8 論点についての検討 原告適格 (1)
- 9 論点についての検討 原告適格 (2)
- 10 論点についての検討 義務づけ訴訟 (1)
- 11 論点についての検討 差止訴訟 (2)
- 12 論点についての検討 仮義務付け
- 13 論点についての検討 仮差し止め
- 14 論点についての検討 確認訴訟
- 15 まとめ

# 行政法演習

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 行政に対して授権し、および統制する行政法とは、いかにしてその法理を發展させているのであろうか。そのことを学説・判例の展開を通じて追体験するのが本演習の課題である。

**学習の目的** 統治機構における行政権の位置づけ、そこでの民主主義的統制と権利保護との関係などについて理解を深めながら、教育、労働、社会保障、環境、警察など個別分野における行政活動を学説・判例などを通じて検討するなかで、人間社会と統治機構、統治機構における行政の位置づけなどについての理解を得る。

## 学習の到達目標

憲法上、行政は、国民の基本的人権を実現するために存在する。同時に、行政は、かかる憲法に基づいて制定された法律に基づいて権限を授権され、それを適切に行使することが要請されている。しかしながら行政は、同時に現場でさまざまな行政課題に対応することを余儀なくされる。そして、その場合に発生した権利侵害が、裁判を通じて争われ、そして判例とされていくことになる。本演習は、かかる行政の運用のダイナミック

な展開過程を追体験することを通じて、個別的に行政の法的役割を明らかにすることを目的とする。とくに、重要な歴史的判例が変更されていく昨今において、その変更方法などを分析することで、法理論の歴史的発展過程を体験することを目標とする。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

**教科書** 随時指示する。

**成績評価方法と基準** 報告の内容および発言状況などを見て総合的に評価する。

**オフィスアワー** 第1回目の授業時に、情報提供します。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

下記のそれぞれの行政領域ごとにその特徴を分析・検討するなかで、行政の公共性がいかなる意味を有しているのかを概括的に把握し、現代的な法治主義の課題を発見する。

(例として)

1 ゼミ運営方針・検討内容、分担の決定

2 警察行政

3 防衛・安全保障行政

4 防災行政

5 環境・リスク行政

6 労働行政

7 教育行政

8 社会保障行政

# 自治体における法政策特講

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

## 授業の概要

- ①災害時において地方自治体に何ができるのか、立憲主義を踏まえた法治主義の観点から考える。
- ②行政の民営化・民間化といわれる現象について、法治主義をはじめとする行政法の諸原則の観点から再検討する。
- ③その他、何ができるか気軽に訪ねてきてほしい。行政を中心とした国家と法に関するものであれば、一緒に考える機会をつくりたい。そのことが今後の行政法理論の発展にも寄与するものと考ええる。

**学習の目的** 行政に関連して、法学的観点から創造的に分析・検討する力を身につける。

**学習の到達目標** 災害時において、または行政の民間化に関連して、問題を発見しそれを文書にまとめ、報告することができるようになる。そのことを通じて、現代における行政活動の意義とその法的統制についてみずから考えられるようになる。

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, モチベー

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 1 ゼミ運営方針・検討内容の決定
- 2 文献一覧の作成
- 3 行政の民間化における法的関係①
- 4 行政の民間化における法的関係②
- 5 行政の民間化における法的関係③
- 6 災害リスク・アセスメントと地域防災計画

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**発展科目** 特になし

### 教科書

[テキスト・参考書の例]  
三橋良士明・榊原秀訓編著『行政民間化の公共性分析』日本評論社・2006年  
市橋克哉他編著『アクチュアル行政法』法律文化社・2010年

**成績評価方法と基準** 報告の内容および発言状況などを見て総合的に評価する。

**オフィスアワー** 第1回目の授業時に、情報提供します。

- 7 災害救助法制度
- 8 災害からの復興のあり方
- 9 住民団体と行政との協力関係の変容
- 10 修士論文構想報告
- 11~14 民間化・広域化と公務労働
- 15 まとめ

# 国際組織法特講

## Law of International Organizations

**学期** 前期 **開講時間** 火 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業  
**担当教員** 洪 恵子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 本講義は、国際組織法に関する最近の主要論点を検討することを目的とする。

**学習の目的** 国際組織法に関する専門的知識を身につける。

**学習の到達目標** 国際組織法の基礎理論と最近の潮流に関する知識を得られる。

**本学教育目標との関連** 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力,

コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 国際法、国際組織法をすでに大学で学んでいることが望ましい。ただし本人の熱意があれば、初学者でも受講可能である。

**発展科目** 国際組織法演習

**教科書** 授業で、適宜紹介する。

**成績評価方法と基準** 出席と授業態度、報告内容を総合的に判断する。

**オフィスアワー** 火曜日 (後期) 16:20-17:00

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回～第5回：国際組織法の基礎理論

第6回～第10回：国際連合の法的課題

第11回～第15回：国際裁判の法的課題

# 民法総則・物権法特講

Civil Law (General Provisions, property law and real security)

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 上井長十

## 授業の概要

民法総則および物権法に関する法的問題点を考察する。受講者との相談の上、以下の内容のうち、いずれか一方をおこなう。

①日本および西欧における、合意の瑕疵を中心とした契約の成立過程における法的諸問題の考察を行う。

②公務員試験、法科大学院への進学を目指している院生がいる場合は、試験対策的なことも考えている。

**学習の目的** 民法総則、物権法領域に関する理解をより深める。

**学習の到達目標** 民法総則、物権法領域に関する諸論点について、自分で資料収集し、整

理し、分析する能力を養う。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 民法全般

**発展科目** 特になし

**教科書** 特になし

**成績評価方法と基準** 普通の演習の取り組みにより評価する。

**オフィスアワー** 特になし

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 判例分析、和文資料、洋書の読解 を予定している。

# 民法総則・物権法演習

Civil Law (General Provisions, property law and real security)

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 上井長十

**授業の概要** 民法、特に財産法分野における判例分析を行う。

総合した力

**学習の目的** 資料に基づく考察、分析を行う。

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**学習の到達目標** 法的考察方法の習得。

**発展科目** 特になし

**教科書** 特になし

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を

**成績評価方法と基準** 普通の演習における報告の取り組みによる。

**オフィスアワー** 特になし

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 資料収集、分析およびその整理、

報告。修士論文作成の準備的作業。

# 不動産法特講

land law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 上井長十

**授業の概要** 不動産の売買あるいは、賃貸借といった契約関係および、不動産に関わる物的支配関係をめぐる法的問題の考察、検討。

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力、コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 不動産取引、不動産の支配関係に関する裁判例分析を行い、それらに関する紛争実態を考察する。

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**学習の到達目標** 不動産取引、不動産の支配関係に関する裁判例分析をとおして、裁判例、諸文献、諸論文の収集、整理、分析能力を養う。

**発展科目** 民法、商法分野。

**教科書** 演習開始時に指摘する。

**成績評価方法と基準** 講義時における報告。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

**オフィスアワー** 特になし。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 不動産取引、不動産に関する支配

関係をめぐる裁判例分析。



# 労働法特講

## Advanced Studies on Labor Contract and Labor Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 藤本真理

**授業の概要** 文献講読、報告発表等を通じ、労働契約の領域における理論的課題の同定と解決策の検討を行なう。

**学習の到達目標** 契約論的な解釈と、労働法の観点の交錯と相克を理解したうえで、自分の力で事例を分析することができるようになる

**本学教育目標との関連** 幅広い教養, 論理的思考力

**受講要件** 特にありませんが、労働法または労使関係論の基礎知識を有していることを前提として講義を進めます。

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 労働時間規制のありかた、解雇法理、労働条件変更法理などの中からテーマを選び、報告担当者を決定します。テーマご

### 予め履修が望ましい科目

人文学部3, 4年次の「労使関係と法」  
それを受講していない場合は、憲法、民法についての基礎的な講義

**教科書** 受講者の関心のあるテーマを聴取した上で決定

**成績評価方法と基準** 出席・文献講読の予習30%、報告40%、議論への参加度30%で評価します。

**オフィスアワー** 事前にアポイントをとって来室してください。

とに、現在の労働法理論の基本的な枠組について講義を行なった後、担当者による報告、ディスカッションを行います。

# 労働法演習

## Research on Labor Contract and Labor Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 藤本真理

**授業の概要** 最新の判例の分析及び書評を通じて、分析力を高め、専門知識を深めること、最終的には具体的問題を解決する力を養うことを目的とする。

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力

**受講要件** 特にありませんが、労働法または労使関係論の基礎知識を有していることを前提として講義を進めます。

**予め履修が望ましい科目** 労働法に関する科目、それを受講していない場合は、憲法、民法についての基礎的な講義

**成績評価方法と基準** 評価方法：出席と報告準備70%、議論への参加度30%で評価します。

**オフィスアワー** 第1回の講義日に連絡します。

### 授業計画・学習の内容

**学習内容** 第1日に判例、文献等のリストを配布します。毎回1つの判決（または書評1冊

分）を報告者が行い、それに基づいてディスカッションを行います。

# 労働組合法特講

## Advanced Studies on Labor Law and Union

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 藤本真理

**授業の概要** これまでの日本の集团的労使関係および法制度の展開を踏まえ、外国の法制度との比較も行いつつ、現在の集团的労使関係システムの問題点を検討し、その解決について議論を行なう。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力

**受講要件** 特にありません。

**予め履修が望ましい科目** 特にありません。

**教科書** 受講者の関心のあるテーマを聴取した上で決定

**成績評価方法と基準** 出席・文献講読の予習30%、報告40%、議論への参加度30%で評価します

**オフィスアワー** 第1回の講義日に連絡します。

### 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 参考書・教科書に指定した図書からテーマを選び、それに関する受講者の報

告、教員による補足説明、ディスカッションという流れで講義を進めます。

# 産業経済論特講

Economics of Industry

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** わが国の代表的な産業をいくつか取り上げ、その構造と動態について、金融市場、国際経済関係、産業政策等の変化との関係に注目しながら考察する。

**学習の目的** 日本の産業経済の歴史と現状について幅広い知識を得るとともに、先行研究の到達点と論争点をふまえて自ら研究課題を析出できるようになる。

**学習の到達目標** 日本の産業経済の歴史と現

状について幅広い知識を得るとともに、先行研究の到達点と論争点を理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 受講生と相談の上で決定する

**成績評価方法と基準** 平常点 (出席、受講態度、発表) 100%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

基本的にテキストの輪読で授業を進める。  
あらかじめレジュメ作成の分担を決め、報告者の発表をもとに討論を行う。  
なお、テキストは複数のものを取り上げる場合もある。  
第1回 イントロダクション

第2～8回 日本の産業発展に関する基本文献の検討

\*適当な文献がなければ、参考文献の『現代日本経済(新版)』を用いる。

第9～15回 日本の産業経済に関する最新の文献の検討

# 産業経済論演習

Economics of Industry

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 日本の産業経済に関する研究課題について、その研究手法を習得するのが本演習の目的である。講義は受講生による研究発表が基本となる。

**学習の目的** 日本の産業経済に関する先行研究の到達点や論争点をふまえて、自ら研究課題を析出するとともに、必要な文献、資料、及び統計データを自ら収集し、分析できるようになる。

**学習の到達目標** 日本の産業経済に関する研究課題について、先行研究のサーベイや文

献、資料等の収集方法、及び統計データ等の分析手法を習得する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 特に用いない。

**成績評価方法と基準** 平常点（出席、受講態度、発表）100%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

以下のような内容で進める。ただし、受講生の人数や到達点に応じて、講義の進め方を変更することがありうる。

第1回 イントロダクション

第2～8回 産業経済に関する先行研究の検討

\*先行研究の検討を通じて、文献・資料の収集方法、統計データの読み方、分析方法等について学習する。

第9～15回 受講生による研究発表

\*必要に応じてテキストを輪読することもある。

# 国際経済論特講

International Economics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義  
担当教員 落合 隆 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 完全競争と収穫一定のもとでの標準的な貿易の純粋理論の説明からスタートし、不完全競争と収穫が変のもとでの純粋理論の解明、国際貿易の厚生経済学の基本定理、不完全競争下の貿易利益、などを考察する。

**学習の目的** 自由貿易の利益が理解できること

**学習の到達目標** 国際貿易の要因と貿易政策の厚生に与える影響を理解すること

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コ

ミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 理論経済学特講

**発展科目** 国際企業経済学特講

## 教科書

教科書：現代国際貿易論 I カーユウ・ウオン著 多賀出版

参考書：授業において適宜指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への積極的な関与 50%、レポート50%、計100%

**オフィスアワー** 木曜日16:00~17:00 場所人文学部棟5階落合研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 1 講義の計画と概観
- 2~4 収穫一定と完全競争のもとでの一般均衡
- 3~6 比較優位と貿易の要素含有量

7~9 財の国際貿易と国際貿易理論

10~12 外部的な規模の経済

13~14 独占的競争と差別化財の産業内貿易

15 まとめ

# 国際経済論演習

International Economics Seminar

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 落合 隆 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 不完全競争下における貿易政策を体系的に理解する

**学習の目的** 不完全競争下における貿易政策を理解する

**学習の到達目標** 複雑な現実の経済社会の事象をいかにモデル化し、それに基づいて政策的提言を行なう能力を身に着ける。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 国際経済論特講

**発展科目** 国際企業経済学特講

**教科書** 教科書: 現代の貿易政策 ヘルプマンクルッグマン著 東洋経済新報社

**成績評価方法と基準** 授業への積極的な参加 50% レポート50%

**オフィスアワー** 前期 木曜日 12:00~13:00  
場所: 人文学部棟5階落合研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 はじめに

第2回 完全競争下の貿易政策 (1)

第3回 完全競争下の貿易政策 (2)

第4回 保護と国内市場支配力 (1)

第5回 保護と国内市場支配力 (2)

第6回 外国企業による市場支配 (1)

第7回 外国企業による市場支配 (2)

第8回 戦略的輸出政策 (1)

第9回 戦略的輸出政策 (2)

第10回 戦略的輸入政策 (1)

第11回 戦略的輸入政策 (2)

第12回 産業内貿易 (1)

第13回 産業内貿易 (2)

第14回 数量化 (1)

第15回 数量化 (2)

# 国際企業経済学特講

## International Managerial Economics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 落合 隆 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 経営の全般的なトピックスについて体系的に解説

みであること。ゲーム理論の基礎を理解していること。

**学習の目的** 経営行動の理論を理解できる

**予め履修が望ましい科目** 理論経済学特講

**学習の到達目標** 経営行動の背後にある主体のインセンティブを理解できる

### 教科書

教科書：経営の経済学 丸山雅洋著 有斐閣

参考書：適宜指示する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** レポート100%

**受講要件** 中級程度のミクロ経済学を学習済

**オフィスアワー** 前期 木曜日 12:00~13:00 人文学部棟5階落合研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 授業計画および授業の概観

第8回・第9回 市場支配力

第2回・第3回 市場構造の分析枠組み

第10回・第11回 ゲーム理論

第4回・第5回 需要の特性

第12回・第13回 寡占と競争

第6回・第7回 費用の規定要因

第14回・第15回 競争戦略の分類



# 産業構造論特講

Studies on Industrial Structure

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 日本の産業構造や産業発展について論じた代表的な文献を検討し、現代日本の産業構造とその動態について考察する。

**学習の目的** 日本の産業構造や産業発展に関する過去の論争点と先行研究の到達点をふまえて、自ら研究課題を析出できるようになる。

**学習の到達目標** 日本の産業構造や産業発展に関する過去の論争点と先行研究の到達点を

理解する。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 受講生と相談の上で決定する。

**成績評価方法と基準** 平常点 (出席、受講態度、発表) 100%

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

基本的にテキストの輪読で授業を進める。

あらかじめレジュメ作成の分担を決め、報告者の発表をもとに討論を行う。

なお、テキストは複数のもを取り上げる場合もある。

第1回 イントロダクション

第2～8回 産業論・産業構造論に関する基本文献の検討

\*日本の代表的な産業を取り上げ、先行研究をもとに各産業の歩みや産業特性、産業構造等について学習する。とりあげる産業としては、鉄鋼業、化学工業、自動車工業、電気機械工業などを予定している。適当な文献がなければ、参考文献に挙げたテキストを用いる。

第9～15回 産業論に関する最新の文献の検討

# 少年非行と少年法特講

Juvenile Justice

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤 睦 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 少年法の理念と法の目的に照らし合わせながら、少年法をとりまく現代的課題につき個別具体的に検討する。

**学習の目的** 少年法を取り巻く現状につき、資料等の科学的分析に基づいて正しく理解するとともに、現代的課題について、今本当に論じるべきことは何か、目指すべき正義とは何かを突き止める力を付ける

## 学習の到達目標

少年法の理念と法制度のしくみを正しく理解する。

また少年法を取り巻く近時の議論につき、議論の本質を正しくとらえ、自分なりに評価す

る力が身につく。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**教科書** 教科書・参考書は開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 報告内容50%、受講態度と授業への貢献度50%

**オフィスアワー** 毎週金曜日5～6時限（前期のみ）人文学部棟4階伊藤研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

少年法にかかわる近時の重要書籍及び参考書を取り上げ、検討する。

また、少年法をとりまく近時の情勢を比較法的に検討する。

1回目 ガイダンス

報告者・報告順序等の決定

2～8回目 少年法を取り巻く国際法的な動向・

諸外国の情勢などを取り上げ、検討する

（場合によっては英文文書等を取り上げる）

9～15回目 少年法に関する近時の論文を取り上げ、報告者の報告に基づいて議論する

なお、検討の順序や内容については、開講後に受講生との協議の上変更する可能性がある。

# 財政学特講

Public Finance

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 川地 啓介

**授業の概要** 財政学に関するいくつかのテーマを取り上げ、政府の果たすべき役割を理論的な側面から考察する。

**学習の目的** 財政に関して理論的に理解し、現実の財政問題を経済学的な視点から考えられるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 財政理論を学び、その理論の構造について理解できるようになることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学 (学部

開設科目)、理論経済学特講

**発展科目** 現代地方財政特講

**成績評価方法と基準** 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

**オフィスアワー**

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

**その他** 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。また、参加者の状況により、輪読などを行う演習形式となる場合がある。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1.Introduction

2.Tools of positive analysis

3.Tools of normative analysis

4.Public goods

5.Externalities

6.Political economy

7.Cost benefit analysis

8.Taxation and income distribution

9.Taxation and efficiency

10.Efficiency and equitable taxation

11.Income redistribution

12.Personal income tax

13.Personal taxation and behavior

14.Corporation tax

15.Federal system

# 現代地方財政特講

Public Finance of Local Government

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 川地 啓介

**授業の概要** 地方財政に関するいくつかのテーマについて、理論的な側面から学修する。

**学習の目的** 政府や地方政府の抱える諸課題について、経済学の見地から理解できるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** 地方財政理論を学び、その理論の構造について理解できるようになることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学 (学部

開設科目)、理論経済学特講

**発展科目** 財政学特講

**成績評価方法と基準** 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

**オフィスアワー**

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

**その他** 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。また、参加者の状況により、輪読などを行う演習形式となる場合がある。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

- 1.Introduction
- 2.Assignment of government functions and mobility
- 3.Benefits and problems of fiscal decentralization
- 4.Efficient locational pattern
- 5.Efficiency –supporting tax systems
- 6.Fiscal decentralization with complete tax
- 7.Fiscal decentralization with incomplete tax
- 8.Underprovision of local public goods
- 9.Tax competition and regional size and the ad-

- vantage of small regions
- 10.Restricting the leviathan by interregional tax competition
- 11.Property tax incidence and land taxation
- 12.Tiebout, the theory of clubs, and the Henry George theorem
- 13.Overlapping market areas of local public goods
- 14.Tax export and spillover effects with household mobility
- 15.Tax competition and household mobility

# 理論経済学特講

Economic Theory

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 川地 啓介

**授業の概要** ミクロ経済学に関する諸理論を考察する。

**学習の目的** 現実の諸課題に対して、ミクロ経済学の見地から理論的に理解できるようになることを目的とする。

**学習の到達目標** ミクロ経済学を学び、その理論の構造を理解できるようになることを目標とする。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

**予め履修が望ましい科目** 近代経済学 (学部開設科目)

**発展科目** 財政学特講、現代地方財政特講

**成績評価方法と基準** 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

**オフィスアワー**

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

**その他** 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。また、参加者の状況により、輪読などを行う演習形式となる場合がある。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1.Introduction

2.Basic theory

3.Consumer behavior

4.Individual and market demand

5.Production

6.Cost minimization

7.Profit maximization

8.Competitive market

9.General equilibrium

10-11.Monopoly

12.Oligopoly

13.Externalities and public goods

14.Game theory

15.Asymmetric information

# 国際関係論特講

## International Relations Lecture

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 古瀬啓之 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 20世紀における国際政治の史的展開を考察

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**学習の目的** 文献の講読を通して、史実ならびに諸学説の見解を知る。それにより国際政治の史的展開を複眼的に見ることができる。

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 特になし

**学習の到達目標** 現代国際関係の形成過程を考察し、現在の国際情勢に対する客観的な視点を身につける。

**発展科目** 国際関係論演習、地域統合論特講

**教科書** 受講生との相談の上で決める

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力,

**成績評価方法と基準** 口頭報告、出席で100%

**オフィスアワー** 木曜13時~14時

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回使用文献の選定

残り：口頭報告とそれに基づく質疑応答

# 地域統合論特講

regional integration studies

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 古瀬 啓之

**授業の概要** 東アジアにおける国際政治史の展開を理解する。

**学習の目的** 東アジア国際政治史に関する文献の講読を通して、客観的な史実と各国における認識枠組みの違いを知ることができる。

**学習の到達目標** 東アジア国際政治史の考察により、現代東アジア国際関係に対する客観的視点を持てるようにする。

**本学教育目標との関連** 感性, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 国際関係論特講

**発展科目** 特になし

**教科書** 受講生との話し合いの上で決める。

**成績評価方法と基準** 口頭報告、議論、出席で100%

**オフィスアワー** 木曜日13時～14時

**その他** 特になし

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第一回 文献選定

後は、口頭発表

# 国際関係論演習

International Relations Seminar

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習  
担当教員 古瀬 啓之 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 国際政治史研究に関する文献を精読し、高度な内容の理解をめざす。

**学習の目的** 当該分野の高度な研究書を読み解くことにより、研究史上の論点を整理できるようにする。

**学習の到達目標** 文献の講読を軸に、議論を行い、受講者が自らの見解を提示できるようにする。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし

**予め履修が望ましい科目** 国際関係論特講、地域統合論特講

**発展科目** 特になし

**教科書** 受講生の研究テーマに合わせて決める

**成績評価方法と基準** 報告内容、議論、出席で計100パーセント

**オフィスアワー** 木曜日13時～14時

**その他** 特になし

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

初回到文献選定

後は口頭発表および議論



# 政治学特講

Modern Politics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習  
担当教員 岩本 美砂子 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 日本政治を中心に、ジェンダーと政治に関する文献を読む

**学習の到達目標** 政治過程におけるジェンダーを分析する能力を付ける

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批

判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**成績評価方法と基準** 授業での報告と討論への参加

**オフィスアワー** 月曜13:00~14:00 研究室

**授業計画・学習の内容**

---

# 地域経済論特講

Regional Economics

**学期** 前期 **単位** 2 **対象** 他専攻・他研究科受講可能 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義  
**担当教員** 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地域経済に関する基礎的理論の理解

**学習の目的** 地域経済の実態を適切に理解し、地域における経済問題に対する解決策を検討するには、まず地域経済の構造を正確に捉える必要がある。そこで、地域経済学、地域財政論、公共経済学、計量経済学を用いて地域経済の構造を理解することが目的である。基本的文献の輪読と議論によって授業を進める。取り上げるテーマは受講生と相談して決める。

**学習の到達目標** 地域経済の基本的理論を用いて、地域問題を説明し、それに対する対応策を見いだす能力を養う。

**本学教育目標との関連** 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力,

問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 計量経済学や経済政策、理論経済学関連の科目をできるかぎり受講すること

**予め履修が望ましい科目** 計量経済学特講、財政学特講、現代地方財政特講、地域経済政策特講

**発展科目** 産業構造論特講、応用計量経済学特講

**教科書** 受講生と相談して決める。

**成績評価方法と基準** 報告と質疑の内容を考慮する。

**オフィスアワー** 第2週、18:00～19:00、本講義終了後 場所朝日研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

テキストおよび関係の外国文献の輪読を行う。報告担当者は、担当箇所について要約したレジュメを用意し、それに基づいて報告を行う。他の受講生も当該箇所を事前に読んできた上で、当日議論を行う。

第1回 イントロダクション

第2回 ～3回 都市と都市化、都市集積の理論

第4回 都市規模と都市システム

第5回 ～6回 地域間交易と空間経済学

都市と地域の交通

社会資本の整備

第7回 ～9回 公共部門と都市・地域政策

第10回 ～第11回 地域経済の基本構造

第12回～13回 地域経済の成長理論、地域の経済成長と社会資本

第14回 地域間格差と人口移動

第15回 地域間交易と空間経済学, まとめ総括

# 地域経済論演習

## Seminar on Regional Economics

**学期** 後期 **単位** 2 **対象** 他研究科等の受講 受講不可 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 演習

**担当教員** 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地域経済の現状を学んだうえで、近代経済学の理論をベースに、地域経済へのアプローチ方法を理解する。

**学習の目的** 地域経済に対して地域経済学や地方財政学、地域経済政策などを含めた研究方法を習得する。修士論文がこの講義を受講することによって執筆できるように指導する。

**学習の到達目標** 地域経済に対する研究方法を習得する。修士論文作成のために活用できる内容を理解し、それを実践的に用いることを可能にすること。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**予め履修が望ましい科目** 地域経済論特講, 地域分析論特講

**発展科目** 三重の文化と社会など

**教科書** 受講生と相談して決める。

**成績評価方法と基準** 報告と質疑の内容に基づいて評価する。

**オフィスアワー** 毎週木曜日12:00~13:00

**その他** 文献調査を含め、主体的に取り組んでください。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

1. 研究テーマにあわせた地域経済学の活用
2. 文献調査、データと分析手法分析結果と解釈
3. 専門書および論文の輪読
4. 報告レジュメの作成法
5. 報告の仕方
6. 参加者による報告
- 1回 イントロダクション
- 2回 文献調査 国内論文および著書関連
- 3回 文献調査 国内論文および著書関連
- 4回 文献調査 国内論文および著書関連

- 5回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 6回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 7回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 8回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 9回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 10回 論文テーマとの関連を検討し、報告
- 11回 論文テーマとの関連を検討し、報告
- 12回 論文テーマとの関連を検討し、報告
- 13回 分析方法の検討
- 14回 分析方法の検討、分析結果の報告
- 15回 分析結果の報告 まとめ

# 地域分析論特講

Regional Analysis

**学期** 前期 **単位** 2 **対象** 他専攻・他研究科受講可能 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 実習  
**担当教員** 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

**授業の概要** 地域経済の分析のための基本的方法を学ぶ。そのため、受講生と相談して特定のテーマ（例えば地域経済の実態把握、他地域との比較、産業構造の変化など）を定め、統計データなどを用いて現状を把握し課題を明らかにするための諸手法を、具体的に学ぶ。コンピュータは（IT講義室の）ノートPCを使用し、表計算ソフトMicrosoft Excelや計量経済分析支援ソフトTSPを操作しながら手法を学ぶ予定である。

**学習の目的** 地域データを適切に処理し、地域経済の現状分析が実際に行う能力を養う。

**学習の到達目標** 地域データを適切に処理し、地域経済の現状分析ができるようになる。

**本学教育目標との関連** モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

取り上げるテーマによって内容は変わるが、一般的な内容は以下のようである。

1. テーマの選定
- 2-3. 地域経済データの収集

**受講要件** ExcelやTSPの使用経験は問わないが、コンピュータの基本的な操作方法（文字入力やインターネットの利用、Excelの関数の利用）程度はできた方がよい。

**予め履修が望ましい科目** 地域経済論特講, 地域経済論演習, 計量経済学特講, 財政学特講, 現代地方財政特講, 地域経済政策特講, 産業構造論特講, 応用計量経済学特講

**発展科目** 三重の文化と社会など

**教科書** 講義中に指示する。

**成績評価方法と基準** 課題の達成度, 授業への参加度等に基づいて評価する。

**オフィスアワー** 毎週木曜日12:00~13:00、場所朝日研究室

**その他** 実習を含めた講義のため、欠席すると講義内容を理解することができなくなります。かならず出席してください。

4-6. 地域経済の分析（消費、所得、生産、労働）

7-9. 地域構造の分析

10-12. 地域間関係の分析

13-15. 時系列分析

# 地域社会と犯罪特講

Criminal Law and Community

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 田中亜紀子

**授業の概要** 国際社会あるいは地域社会における犯罪に関する諸問題を検討する。但し、具体的にどのテーマを選択するかについては、受講者と相談の上、決定する。

**学習の目的** 国際社会あるいは地域社会における犯罪に関する諸問題から、特に受講者の研究と関連して興味をもったテーマについて、基本文献を調査し、知識を深めることができること。

**学習の到達目標** 国際社会あるいは地域社会における犯罪に関する諸問題から、特に受講者の研究と関連して興味をもったテーマについて、基本的な知識を獲得し、それを他者に説明することができるようになること。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対

## 授業計画・学習の内容

**学習内容** 学習内容ならびに課題に関する詳細は、最初の講義時に受講者と相談の上、決

話

**受講要件** 刑法総論、刑法各論を履修済であること

**予め履修が望ましい科目** 刑法を中心とする刑事諸法

**発展科目** 犯罪総論特講、刑事手続と人権特講、犯罪報道と人権特講等

## 教科書

最近の刑事法関係論文をとりあげるを予定  
\*但し、最初の講義時に受講者と相談の上、決定する

**成績評価方法と基準** 報告ならびに議論への参加状況により評価する

**オフィスアワー** 火曜日 14:40-16:10。

定する

# 犯罪総論演習

Criminal Law Study

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 田中亜紀子 (人文学部)

**授業の概要** 刑事法領域における現代的な課題を取り上げ、関連文献を輪読する、あるいは受講者それぞれが関心を有するテーマについて調査・報告を行う。

**学習の目的** 刑事法領域において受講者が特に関心を有するテーマについて、①基本的な知識を身につけることができる、②基本文献などを調査することができる、③プレゼンおよび質疑応答を通じてさらに知識を深めることができる、④該当テーマに関して得た知識を他のテーマの分析などに応用することができる

**学習の到達目標** 上記目的①から④の中で、①基本的な知識を身につけることができる、②基本文献などを調査することができる、③プレゼンおよび質疑応答を通じてさらに知識を深めることができる、ができるようになること。

## 授業計画・学習の内容

---

**学習内容** 学習内容ならびに具体的な課題は

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 社会人としての態度

**受講要件** 演習科目であることから、刑法総論、刑法各論を履修済みであり、場合によっては英文テキストに取り組む意欲があることが必要である。

**予め履修が望ましい科目** 刑法を中心とする刑事諸法

**発展科目** 犯罪総論特講、地域社会と犯罪特講、刑事手続と人権特講、犯罪報道と人権特講等

**教科書** 受講者と相談の上決定する

**成績評価方法と基準** 報告ならびに議論への参加状況により評価する

**オフィスアワー** 火曜日 14:40-16:10。その他の詳細は第1回目の授業時に説明する

最初の講義時に受講者と相談の上、決定する

# 家族法と政策特講

Special Lecture on Family Law and Policy

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

**授業の概要** この授業では、2000（平成12）年にスタートした成年後見制度を取り上げる。制度導入後15年が経過し、浮き彫りとなった様々な問題もある。これらの問題を学んだ後、各自テーマを選び、報告・議論を行う。外国語を読みこなす能力も求められる。

**学習の目的** 法定後見、任意後見に対する理解を深め、本人の意思の尊重と保護のバランスを考える。必要に応じて外国の法政策も参照し、高齢化社会の中で重要性を増すが国の成年後見の今後のあり方について議論する。

**学習の到達目標** 法定後見、任意後見のそれぞれの制度について、基礎事項および重要な問題を説明することができる。そして、それ

に関する自らの考えを述べ、より良い制度とするにはどのような対策が講じられるべきか提示することができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 平常点（報告・議論）100%

**オフィスアワー** 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

第1回 ガイドダンス、報告テーマの決定

第2～4回 成年後見をめぐる諸問題の概説・検

討

第5～14回 報告・議論

第15回 総括

# 比較家族法演習

## Special Studies on Comparative Family Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 2年次 授業の方法 演習 授業の特徴

能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

**授業の概要** 家族法において各自が関心のあるテーマを取り上げ、報告・議論を行う。報告を重ね、最終的にはその結果をレポート（1万字程度）にまとめる。外国語を読みこなす能力も求められる。

**学習の目的** 家族法の諸論点・課題について、国内外の先行研究を踏まえ、各自問題意識を持って考察する。他者の意見を受け、さらに掘り下げて検討する。

**学習の到達目標** 家族法の諸論点に関する様々な立場・考え方を説明することができる。そして、その問題解決のためには何が必要とされるかについて、意見を述べるこ

とができる。

**本学教育目標との関連** 倫理観,モチベーション,主体的学習力,専門知識・技術,論理的思考力,課題探求力,問題解決力,批判的思考力,情報受発信力,討論・対話力,実践外国語力,感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**教科書** 特に指定しない。

**成績評価方法と基準** 平常点（報告・議論）およびレポートによる。

**オフィスアワー** 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 ガイダンス、報告テーマの決定

第2～14回 報告・議論

第15回 総括



# 比較家族法特講

## Special Lecture on Comparative Family Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

### 授業の概要

比較法的な検討も交えて親族法の今後の課題について論じた大村敦志・河上正二・窪田充見・水野紀子編著『比較家族法研究—離婚・親子・親権を中心に』（商事法務、2012）で取り上げられているテーマから、受講者の関心に応じて報告をしてもらい、議論する。

### 学習の目的

親族法の現行制度と立法に向けた動きを捉え、諸論点を理解し、さらに自らの調査・研究に基づき考察を加える。

### 学習の到達目標

親族法とその課題を検討することにより、親族法を体系的に理解し、親族法における様々な問題について立法政策を含め、自らの見解を述べるができる。

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

第1回 ガイダンス、報告テーマの決定

第2～7回 報告・議論

（離婚、実子、養子、親権における諸課題）

### 本学教育目標との関連

倫理観,モチベーション,主体的学習力,専門知識・技術,論理的思考力,課題探求力,問題解決力,批判的思考力,情報受発信力,討論・対話力,実践外国語力,感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

### 教科書

大村敦志・河上正二・窪田充見・水野紀子編著『比較家族法研究—離婚・親子・親権を中心に』（商事法務、2012）

### 成績評価方法と基準

平常点（報告・議論）100%

オフィスアワー 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

第8～14回 報告・議論

（比較法調査・研究）

第15回 総括

# 計量経済学特講

Econometrics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 嶋恵一

## 授業の概要

経済分析の目的は、景気の判断、経済制度をめぐる問題の指摘、経済政策の有効性の吟味に集約できると思います。いずれも、多くのデータに基づく客観的証拠を求めます。計量経済学は経済データを統計学の手法を用いて分析する研究分野です。この特講では初級の計量経済分析を学びます。

## 学習の目的

初級の計量経済学を学び、統計データを用いた経済分析手法を習得します。

## 学習の到達目標

回帰分析の応用により、マクロ経済統計を用いた景気判断や経済政策の吟味などができるようになることを目標とします。

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

1-2.イントロダクション、講義内容に関する打ち合わせ

**本学教育目標との関連** 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

### 予め履修が望ましい科目

統計学、計量経済学、経済学に関する分野の科目（ミクロ経済学、マクロ経済学など）、また応用分野の科目である金融、財政、労働、国際経済学などの履修経験があれば、経済分析に役立ちます。

### 発展科目

計量経済学演習、応用計量経済学特講

### 教科書

用いません。

### 成績評価方法と基準

レポート提出と出席回数に基づき評価します。

3-5.経済分析の基礎：経済モデルと実証分析

6-10.回帰分析：単回帰、重回帰

11-15.回帰分析による経済実証分析

# 計量経済学演習

Econometrics Seminar

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 嶋恵一

## 授業の概要

計量経済学の手法による経済分析を演習形式で学びます。分析対象となる課題を選び、必要なデータを準備して、実証分析を行います。以上の一連の作業について、担当教員と相談しながら進めてゆき、計量経済分析の基礎を習得します。

**学習の目的** 実証分析と呼ばれる計量経済分析の行い方を、担当教員の補助の下で習得し、今後独力で分析が行えるようになることを目的とします。

## 学習の到達目標

独力で実証分析の課題を設定して、統計データを収集して分析するまでの作業を習得することが到達目標です。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1-2.イントロダクション、受講者との打ち合わせ  
3-5.経済分析：経済モデルと実証分析の関係に

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

### 受講要件

計量経済学特講の履修経験、あるいは同等の知識があることを受講要件とします。

### 予め履修が望ましい科目

特に定めていません。

### 教科書

用いません。

### 成績評価方法と基準

課題提出、課題発表の二つを総合して評価します。

関する整理

6-8.経済分析課題の設定

7-12.分析準備、中間報告、改善

13-15.最終課題報告、課題提出

# 応用計量経済学特講

Applied Econometrics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 嶋恵一

**授業の概要** 計量経済学を応用し、特定の経済モデルや経済課題に関連した実証分析を行います。分析課題を受講者が特定し、担当教員と一緒に分析手法を考え計量経済分析を行います。講義と演習を織り交ぜます。

## 学習の目的

計量経済学の応用による経済分析を行います。経済データを用いて科学的な分析結果を示し、現実の経済が抱える問題を客観的に特定する手法の習得が目的です。

## 学習の到達目標

具体的な課題を定めて実証による経済分析を行い、それを修士論文などで研究報告できるようにすることを到達目標とします。

## 授業計画・学習の内容

---

### 学習内容

1-2.イントロダクション：講義内容の絞り込み、経済分析課題に関する打ち合わせ  
3-7.計量経済分析の基礎と応用

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

## 受講要件

計量経済学特講の履修経験、あるいは同等の知識があることを受講要件とします。

## 予め履修が望ましい科目

## 教科書

用いません。

## 成績評価方法と基準

課題提出、中間・最終報告を総合して成績評価します。

6-10.分析課題の特定と準備：データの収集と経済モデルの選択  
11-15.実証分析：中間報告、最終報告

# 中小会社法制特講

## Special Lecture on Small Company Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 名島利喜

**授業の概要** 小規模閉鎖型の中小企業に対する法的規制のあり方、立法政策的課題について検討していく。

**学習の目的** 株式会社法の理念と現実との乖離という問題意識を身につける。

**学習の到達目標** 解決すべき現実的問題を具体的な例に即しながら明確につかむことができるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 課題探

求力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 会社法

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 平常点100%。

**オフィスアワー** 毎週 火曜日 13:00～14:30、場所 名島研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

講義:

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 会社の設立・定款・公告

第5回～第7回 株式・資本制度

第8回～第10回 会社の機関と運営

第11回～第13回 資金調達・投下資本の回収

第14回～第16回 企業形態の選択肢

# 会社法特講

## Special Lecture on Corporation Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 名島利喜

**授業の概要** 株式会社法の問題点を総合的・体系的に検討する。

**学習の目的** 当たり前とされていることを疑い、執拗に考え抜くことができるようになる。

**学習の到達目標** 株式会社法上の個々の問題のもつ意味を分析し、どこに本当の問題があるかを理解できるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 会社法

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 平常点100%。

**オフィスアワー** 毎週 金曜日 16:20～17:20、場所 名島研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

講義:

第1回 ガイダンス

第2回～第10回 教科書を正確にかつ深く読み込む

第11回～第16回 各トピックについて討議する

# 会社法演習

## Special Studies on Corporation Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 名島利喜

**授業の概要** 会社法の豊富な論点の中から、受講生が選び出した論点について報告してもらい、質疑応答を行なう。

**学習の目的** 正しいとされていることを疑い、自分が納得できるまで考え続けることができるようになる。

**学習の到達目標** 会社法の解釈論上の重要論点について、自分の考えを論理的に展開することができるようになる。

**本学教育目標との関連** 主体的学習力, 論理的

思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 会社法

**教科書** 開講時に指示する。

**成績評価方法と基準** 平常点100%。

**オフィスアワー** 毎週金曜日 16:20～17:50、場所 名島研究室

### 授業計画・学習の内容

---

#### 学習内容

講義:

第1回 ガイダンス

第2回～第5回 会社法の基本的な骨格と機能を

概観する

第6回～第16回 担当者の報告と質疑応答を行なう

# 福祉経済論特講

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 石塚 哲朗

**授業の概要** 少子高齢化や経済のグローバル化の進展の中で、我が国の社会保障制度は大きな曲がり角に来ているが、本講義では、これら社会保障制度の背後にある思想及び仕組み、並びにそれぞれの制度が抱える問題点について解説し、今後の社会保障制度のあり方について考察を深める。

**学習の目的** 社会保障制度の議論の中で、政党や国民各層から提示されてくる様々な改革案等について、自らそれぞれの課題を発見し、考察を深め、自身の立場を決定し、政治的な意思表示（投票等）を行うことができる能力を、高レベルで身につける。

**学習の到達目標** 各社会保障制度の背景にある基本的な思想と制度の基本的な枠組みを理解するとともに、それらを基にして、与えられた関連する情報データ等を活用しながら、現在、制度が抱えている課題と今後の制度の

あり方についての自身の考えを論じられる能力を、高レベルで身につける。

**本学教育目標との関連** 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**教科書** 特になし。毎回レジュメを配布する予定。

**成績評価方法と基準** 授業への出席及び積極的な関与50%、レポート50%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00～14:30、場所人文学部5階石塚研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

- 第1回 ガイダンス、社会保障を取り巻く社会状況
- 第2回 社会保障の概念、範囲、歴史、機能
- 第3回 社会保障の財源と費用
- 第4回 社会保険と社会扶助、公的保険と民間保険
- 第5回～第6回 年金制度
- 第7回～第8回 医療制度

- 第9回 介護保険制度
- 第10回 雇用保険制度
- 第11回 労働者災害補償保険制度
- 第12回 生活保護制度
- 第13回 障害者福祉・雇用制度
- 第14回 児童家庭福祉制度
- 第15回 履修生からのレポート発表  
(変更などあります。)



# 福祉経済論演習

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 石塚 哲朗

**授業の概要** 我が国の社会保障制度が抱える課題及び今後のあり方について、担当教員による解説、受講生による研究発表とディスカッション、現場視察とその結果を踏まえたディスカッションを通じて、考察を深める。

**学習の目的** 我が国の社会保障制度が抱える課題を理解するとともに、課題を解決するにはどのようにすればよいかについて、文献調査及び現場視察の結果を踏まえながら、自分自身で考え抜き、他の学生や指導教官とのディスカッションを通じて、自身の考えを整理できる能力を、高レベルで身につける。

## 学習の到達目標

我が国の社会保障制度が抱える課題を的確に理解すること

社会保障制度が抱える課題について、自分で文献等に当たって主体的に調査する好奇心を身につけること

社会保障の現場が抱える問題点を、肌で感じられる感性を身につけること

文献調査及び現場視察の結果を踏まえ、自分の頭で解決策を考え、それを他の学生や指導

教官とのディスカッションの中で磨きあげながら、最終的に納得できる解決策に落とし込んでいく論理的思考力を、高レベルで身につけること

**本学教育目標との関連** 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 講義の都度、当方で用意するか、あらかじめ指示する。

**成績評価方法と基準** 授業への出席及び積極的な関与50%、資料・レポートの作成50%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00~14:30、場所人文学部5階石塚研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回~第15回 担当職員による社会保障政策の動向に関する解説、受講生による研究発表と

ディスカッション、社会保障の現場視察とその結果を踏まえたディスカッションを予定。

具体的内容については、履修生と相談の上、決定する。

# 社会保障論特講

学期 後期 開講時間 月 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 石塚 哲朗

**授業の概要** 年金、医療、介護、雇用問題をはじめとして、社会保障の分野の動向からは目が離せない状況になっている。本講義では、ここ数年の間に問題になった社会保障関係の個別分野（問題）に焦点を当てて、その現状や具体的に生じている問題について掘り下げて解説するとともに、それら課題の解決方法について講義を通じて考察することで、当該問題について理解を深める。

## 学習の目的

学生が、講義で取り上げられた問題の現状や具体的に生じている課題等について理解した上で、社会的にもっとも望ましいと思われる課題策について考察し、自分自身の意見として論じることができる能力を身につけることを目的とする。

さらに、当該問題に関連する分野の他の問題についても関心を広げ、同様の意思表示ができるようになることを目指す。

**学習の到達目標** 学生が、講義で取り上げられた問題の現状等についての資料を参考にし

ながら、社会的にもっとも望ましいと思われる解決策について、自身の考えを根拠とともに論じられる能力を身につけることを到達目標とする。

**本学教育目標との関連** 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

**受講要件** 特になし。

**予め履修が望ましい科目** 特になし。

**発展科目** 特になし。

**教科書** 特になし、毎回レジュメを用意する予定。関連書籍については、適宜紹介する。

**成績評価方法と基準** 授業への出席及び積極的な関与50%、レポート50%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00～14:30、場所 人文学部5階石塚研究室

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 講義とディスカッション（毎回

一話完結方式で年金、医療、介護、雇用等についての個別問題を取り上げる）

# 比較憲法論特講

Comparative Constitutional Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 内野 広大

## 授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本特講では、憲法上の権利論の領域において、このように創造されていく日本国の憲法の現在の姿を、他国 (イギリス) の憲法との対話を通じて見定めていく。具体的には、まず、日本語で書かれたイギリス憲法に関する体系書を読み、日本法とイギリス法の対応関係・差異について簡単に確認し、基本的知識を習得したのち、次に、受講者が興味関心を抱いたトピックについて英語で書かれた体系書を翻訳していくことにより、日本法とイギリス法の差異がどうして生じているのかを探求していく。

なお、受講者の希望により、日本法の文献を精読していくことも考えている。

**学習の目的** 学術的な英文を読解する初歩的

な能力を身につけるとともに、日本国の憲法という自己の姿を、他国との比較を通じてより深く見定める。

## 学習の到達目標

- ① イギリス憲法の権利論につき概要を知ることができる。
- ② 比較法の初歩的な方法論を身につけることができる。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

**受講要件** 自己の研究課題に真摯に取り組むこと。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育科目 (日本国憲法) ・人文学部専門科目 (憲法・憲法制度論)

**成績評価方法と基準** 報告100%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00~14:30

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

#### 第1回 ガイダンス

報告の仕方・形式を簡単に説明し、報告担当者を決める。また、どの程度英語の読解能力を身につけたいのか等、受講者の希望について聞き取りを行う。

第2回~第5回 イギリス憲法に関する日本語の体系書のうち権利論の部分を読解する。

第6回~第15回 イギリス憲法に関する英語の体系書のうち権利論の部分を読解する。

# 比較憲法論演習

Comparative Constitutional Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 内野 広大

## 授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本演習では、統治機構論の領域において、このように創造されていく日本国の憲法の現在の姿を、他国 (イギリス) の憲法との対話を通じて見定めていく。具体的には、まず、日本語で書かれたイギリス憲法に関する体系書を読み、日本法とイギリス法の対応関係・差異について簡単に確認し、基本的知識を習得したのち、次に、受講者が興味関心を抱いたトピックについて英語で書かれた体系書を翻訳していくことにより、日本法とイギリス法の差異がどうして生じているのかを探究していく。

なお、受講者の希望により、日本法の文献を精読していくことも考えている。

**学習の目的** 学術的な英文を読解する初歩的

な能力を身につけるとともに、日本国の憲法という自己の姿を、他国との比較を通じてより深く見定める。

## 学習の到達目標

- ① イギリス憲法の統治機構論につき概要を知ることができる。
- ② 比較法の初歩的な方法論を身につけることができる。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

**受講要件** 自己の研究課題に真摯に向き合うこと。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育科目 (日本国憲法) ・人文学部専門科目 (憲法・憲法制度論)

**成績評価方法と基準** 報告100%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00~14:30

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

憲法学に関する修士論文を執筆したい等、最終的には受講者の希望に応じて学習内容を定めることになるが、さしあたり学習内容を例示しておけば以下のとおりである。

第1回 ガイダンス

報告の仕方・形式を簡単に説明し、報告担当

者を決める。また、どの程度英語の読解能力を身につけたいのか等、受講者の希望について聞き取りを行う。

第2回~第5回 イギリス憲法に関する日本語の体系書のうち統治機構論の部分を読解する。

第6回~第15回 イギリス憲法に関する英語の体系書のうち統治機構論の部分を読解する。

# 基本的人権論特講

Constitution (human rights)

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 内野 広大

## 授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本特講では、憲法上の権利論の領域において、このように創造されていく憲法の姿を見ていくことにしたい。具体的には、まず、最高裁判所が形成してきた基本的な憲法判例の特徴を、地裁・高裁段階の判断あるいは先行する司法的先例と比較することで浮き彫りにし、次に、憲法判例と学説上の議論とを比較対照することで、憲法判例の背後にある「判例理論」を際立たせていく。

**学習の目的** 判例理論を析出し、それに対して評価を加え、自らの見解を論理的に組み立てる姿勢を涵養する。

## 学習の到達目標

## 授業計画・学習の内容

### 学習内容

#### 第1回 ガイダンス

報告の仕方・形式を簡単に説明し、報告者が興味関心を抱いた憲法判例について聞き取りを行う。また、報告の順番を決める。なお、受講者数によってはグループによる報告の形態となりうるかもしれませんので、ご了承ください。

#### 第2回～第15回 受講者による報告

① 判決文がどのような構成をしているのかを知ることができる。

② 憲法が実践の場で他の法分野とどのようにかわり、どのようなかたちで訴訟上取り扱われているのかを体得することができる。

③ 基本的な憲法判例の背後にある思考の仕方を習得することができる。

**本学教育目標との関連** 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

**受講要件** 自己の研究課題に真摯に向き合うこと。

**予め履修が望ましい科目** 共通教育科目 (日本国憲法) ・人文学部専門科目 (憲法・憲法制度論)

**成績評価方法と基準** 報告100%

**オフィスアワー** 毎週月曜日13:00～14:30

主に次のような内容にかかわる憲法判例を検討する。

幸福追求権 法の下での平等 思想・良心・学問の自由 信教の自由と政教分離原則

表現の自由 経済的自由 生存権 教育を受ける権利 勤労者の基本的人権

適正手続を受ける権利と行政手続 人権の享有 主体性 人権の妥当範囲